

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6391642号
(P6391642)

(45) 発行日 平成30年9月19日(2018.9.19)

(24) 登録日 平成30年8月31日(2018.8.31)

(51) Int.Cl. F 1
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

請求項の数 1 (全 348 頁)

(21) 出願番号	特願2016-179723 (P2016-179723)	(73) 特許権者	000148922
(22) 出願日	平成28年9月14日(2016.9.14)		株式会社大一商会
(62) 分割の表示	特願2015-156467 (P2015-156467) の分割		愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地
原出願日	平成23年3月31日(2011.3.31)	(74) 代理人	100174182
(65) 公開番号	特開2016-203021 (P2016-203021A)		弁理士 古田 広人
(43) 公開日	平成28年12月8日(2016.12.8)	(74) 代理人	100084227
審査請求日	平成28年9月27日(2016.9.27)		弁理士 今崎 一司
		(72) 発明者	市原 高明
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
			会社大一商会内
		(72) 発明者	小野 太輔
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
			会社大一商会内
		審査官	中村 祐一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、
該抽選手段による前記抽選の結果に応じて遊技の進行を制御する遊技制御手段と、
前記遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤と、
該遊技領域を遊技者側から視認可能にする遊技窓部を備えた枠体と、を備える遊技機であって、

前記枠体は、

前記遊技窓部の下方に配置され遊技球を貯留する遊技球貯留皿を備えた皿ユニットと、
前記遊技窓部の外縁に略沿って当該遊技窓部の外側に配置され、前記遊技の進行に伴って実行される遊技演出に関連して発光可能な周発光手段と、

前記遊技窓部から離れる方向に所定の幅を有して前記周発光手段の前側を被覆すると共に透光性を有する周装飾部と、

前記周発光手段を複数の周発光部に分割するように当該複数の周発光部の周方向の間に配置され、前記遊技演出に関連して発光可能な分割発光手段と、

前記遊技窓部から離れる方向に所定の幅を有して前記分割発光手段の前側を被覆すると共に少なくとも一部に透光性を有する分割装飾部と、を具備し、

前記周発光手段と前記分割発光手段とは、前記遊技演出に関連して互いに異なる発光色に制御可能とされ、

前記周発光手段の複数の周発光部は、それぞれ別の系統に分けられており、前記周発光

10

20

部ごとに発光制御可能とされ、

前記遊技盤には、盤側発光手段を備え、前記周発光手段は、前記盤側発光手段と協調して発光制御され得、

前記周発光手段は、前記分割発光手段とは異なる発光態様で発光可能な特定発光部によって複数の発光群に分けられており、

前記皿ユニットの前縁付近には前記皿ユニットを発光装飾する皿ユニット発光手段を設け、

さらに前記遊技球貯留皿と前記皿ユニットの前縁の間に内部に発光体を設けた操作部を備え、

前記周装飾部の前記遊技者側への突出量が場所によって異なり、前記遊技窓部の側方の前記周装飾部よりも前記遊技窓部の上方の前記周装飾部の突出量の方が多い

10

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ぱちんこ遊技機（一般的に「パチンコ機」とも称する）等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、パチンコ機等の遊技機は、遊技領域が形成された遊技盤を有している。そして、遊技媒体としての例えば遊技球が、遊技盤に形成された遊技領域に向けて打ち込まれる。遊技領域に打ち込まれた遊技球は、遊技盤に沿って流下する。遊技領域には、多数の障害釘が所定のゲージ配列をなして設けられている他、遊技領域の適宜位置には風車が設けられている。また、遊技領域には、遊技領域に向けて打ち込まれた遊技球が入賞可能な始動口が設けられている。

20

【0003】

この種の遊技機では、遊技領域の前面を閉鎖し開閉可能に支持された扉枠を備えて、扉枠に形成された遊技窓を介して遊技者側から遊技領域が視認できるようになっていると共に、遊技窓の前面外周にLED等の発光手段によって発光装飾可能な装飾体が備えられている（例えば、特許文献1参照）。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2006-247107号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記遊技機であっても、遊技興趣の低下が懸念される。

【0006】

この発明は、こうした実情に鑑みてなされたものであり、遊技興趣の低下を抑制することのできる遊技機を提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0007】

こうした目的を達成するため、請求項1に記載の発明では、所定条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、

該抽選手段による前記抽選の結果に応じて遊技の進行を制御する遊技制御手段と、

前記遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤と、

該遊技領域を遊技者側から視認可能にする遊技窓部を備えた枠体と、を備える遊技機であって、

前記枠体は、

50

前記遊技窓部の下方に配置され遊技球を貯留する遊技球貯留皿を備えた皿ユニットと、
前記遊技窓部の外縁に略沿って当該遊技窓部の外側に配置され、前記遊技の進行に伴って実行される遊技演出に関連して発光可能な周発光手段と、

前記遊技窓部から離れる方向に所定の幅を有して前記周発光手段の前側を被覆すると共に透光性を有する周装飾部と、

前記周発光手段を複数の周発光部に分割するように当該複数の周発光部の周方向の間に配置され、前記遊技演出に関連して発光可能な分割発光手段と、

前記遊技窓部から離れる方向に所定の幅を有して前記分割発光手段の前側を被覆すると共に少なくとも一部に透光性を有する分割装飾部と、を具備し、

前記周発光手段と前記分割発光手段とは、前記遊技演出に関連して互いに異なる発光色に制御可能とされ、

前記周発光手段の複数の周発光部は、それぞれ別の系統に分けられており、前記周発光部ごとに発光制御可能とされ、

前記遊技盤には、盤側発光手段を備え、前記周発光手段は、前記盤側発光手段と協調して発光制御され得、

前記周発光手段は、前記分割発光手段とは異なる発光態様で発光可能な特定発光部によって複数の発光群に分けられており、

前記皿ユニットの前縁付近には前記皿ユニットを発光装飾する皿ユニット発光手段を設け、

さらに前記遊技球貯留皿と前記皿ユニットの前縁の間に内部に発光体を設けた操作部を備え、

前記周装飾部の前記遊技者側への突出量が場所によって異なり、前記遊技窓部の側方の前記周装飾部よりも前記遊技窓部の上方の前記周装飾部の突出量の方が多いことを要旨とする。

【0008】

【発明の効果】

【0009】

この発明によれば、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】実施形態に係るパチンコ機の外枠に対して本体枠を開放し、本体枠に対して扉枠を開放した状態を示す斜視図である。

【図2】パチンコ機の正面図である。

【図3】パチンコ機の右側面図である。

【図4】パチンコ機の平面図である。

【図5】パチンコ機の背面図である。

【図6】パチンコ機を構成する外枠、本体枠、遊技盤、扉枠の後方から見た分解斜視図である。

【図7】パチンコ機を構成する外枠、本体枠、遊技盤、扉枠の前方から見た分解斜視図である。

【図8】外枠の正面斜視図である。

【図9】外枠の正面から見た分解斜視図である。

【図10】外枠の正面図である。

【図11】外枠の背面斜視図である。

【図12】外枠の右側面図である。

【図13】本体枠の上軸支金具と外枠の上支持金具との脱着構造を説明するための斜視図である。

【図14】(A)は外枠の上支持金具の裏面に設けられるロック部材の取付状態を示す分解斜視図であり、(B)は(A)の図を下方から見た斜視図である。

【図15】軸支ピンとロック部材との関係を説明するための上支持金具部分の裏面図であ

10

20

30

40

50

る。

【図 1 6】ロック部材の作用を説明するための上支持金具部分の裏面図である。

【図 1 7】扉枠の正面図である。

【図 1 8】扉枠の背面図である。

【図 1 9】扉枠を右前方から見た斜視図である。

【図 2 0】扉枠を左前方から見た斜視図である。

【図 2 1】扉枠の右後方から見た斜視図である。

【図 2 2】扉枠を正面から見た分解斜視図である。

【図 2 3】扉枠を背面から見た分解斜視図である。

【図 2 4】扉枠からサイドスピーカ及びサイドスピーカカバーを分解して前から見た分解斜視図である。 10

【図 2 5】扉枠からサイドスピーカ及びサイドスピーカカバーを分解して後から見た分解斜視図である。

【図 2 6】(A)は扉枠における扉枠ベースユニットの正面斜視図であり、(B)は扉枠における扉枠ベースユニットの背面斜視図である。

【図 2 7】扉枠ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 2 8】扉枠ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 2 9】扉枠ベースユニットにおける扉枠ベース基板カバーと配線保持部材とを後から見た斜視図である。

【図 3 0】扉枠と本体枠とを電氣的に接続する配線の様子を拡大して示す斜視図である。 20

【図 3 1】(A)は扉枠における右サイド装飾ユニットの正面斜視図であり、(B)は扉枠における右サイド装飾ユニットの背面斜視図である。

【図 3 2】右サイド装飾ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 3 3】右サイド装飾ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【図 3 4】(A)は扉枠における左サイド装飾ユニットの正面斜視図であり、(B)は扉枠における左サイド装飾ユニットの背面斜視図である。

【図 3 5】左サイド装飾ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 3 6】左サイド装飾ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【図 3 7】扉枠における上部装飾ユニットの正面斜視図である。

【図 3 8】扉枠における上部装飾ユニットの背面斜視図である。 30

【図 3 9】上部装飾ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 4 0】上部装飾ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【図 4 1】扉枠における皿ユニットの正面斜視図である。

【図 4 2】扉枠における皿ユニットの背面斜視図である。

【図 4 3】皿ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 4 4】皿ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【図 4 5】扉枠における操作ユニットの正面斜視図である。

【図 4 6】扉枠における操作ユニットの背面斜視図である。

【図 4 7】操作ユニットを分解して右前上方から見た分解斜視図である。

【図 4 8】操作ユニットを分解して右前下方から見た分解斜視図である。 40

【図 4 9】操作ユニットの断面図である。

【図 5 0】操作ユニットにおける押圧操作部押した状態で示す断面図である。

【図 5 1】扉枠におけるハンドル装置を分解して後から見た分解斜視図である。

【図 5 2】扉枠におけるファールカバーユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

。

【図 5 3】扉枠におけるファールカバーユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

。

【図 5 4】ファールカバーユニットの前カバーを外した状態で示す正面図である。

【図 5 5】扉枠における球送りユニットの正面斜視図である。

【図 5 6】扉枠における球送りユニットの背面斜視図である。 50

- 【図 5 7】球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 5 8】球送りユニットの後ケースを外して後から見た分解斜視図である。
- 【図 5 9】扉枠における発光装飾用の L E D の配置を示す正面図である。
- 【図 6 0】扉枠における発光装飾用の L E D の系統を示す正面図である。
- 【図 6 1】本体枠の正面図である。
- 【図 6 2】本体枠の背面図である。
- 【図 6 3】本体枠の正面斜視図である。
- 【図 6 4】本体枠の背面斜視図である。
- 【図 6 5】本体枠の左側面図である。
- 【図 6 6】本体枠を分解して前から見た分解斜視図である。 10
- 【図 6 7】本体枠を分解して後から見た斜視図である。
- 【図 6 8】本体枠における本体枠ベースの正面斜視図である。
- 【図 6 9】本体枠における本体枠ベースの背面斜視図である。
- 【図 7 0】本体枠における打球発射装置の正面斜視図である。
- 【図 7 1】本体枠における打球発射装置の背面斜視図である。
- 【図 7 2】本体枠における賞球ユニットの正面斜視図である。
- 【図 7 3】本体枠における賞球ユニットの背面斜視図である。
- 【図 7 4】賞球ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 7 5】賞球ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図 7 6】賞球ユニットにおける賞球タンクとタンクレールユニットとの関係を分解して 20
後方から示す分解斜視図である。
- 【図 7 7】賞球ユニットにおける賞球装置を分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図 7 8】賞球装置における払出通路と払出モータと払出回転体との関係を示す背面図である。
- 【図 7 9】賞球ユニットにおける球の流通通路を示す断面図である。
- 【図 8 0】本体枠における球出口開閉ユニットの正面斜視図である。
- 【図 8 1】本体枠における球出口開閉ユニットの背面斜視図である。
- 【図 8 2】本体枠における球出口開閉ユニットと扉枠におけるファールカバーユニットとの関係を示す説明図である。
- 【図 8 3】本体枠における基板ユニットの正面斜視図である。 30
- 【図 8 4】本体枠における基板ユニットの背面斜視図である。
- 【図 8 5】基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 8 6】基板ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図 8 7】基板ユニットにおける電源基板ボックスの立壁部の作用を説明する斜視図である。
- 【図 8 8】（A）は基板ユニットにおける端子基板ボックスの断面図であり、（B）は基板ユニットにおける端子基板ボックスを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 8 9】（A）は発射電源基板ボックスの正面図であり、（B）は（A）に示す A - A 線の断面図である。
- 【図 9 0】（A）は本体枠における裏カバーの正面斜視図であり、（B）は本体枠における裏カバーの背面斜視図である。 40
- 【図 9 1】裏カバーにおける締結機構の部位を拡大して示す断面図である。
- 【図 9 2】裏カバーにおける締結機構を分解して後側から見た分解斜視図である。
- 【図 9 3】（A）は本体枠における錠装置の左側面図であり、（B）は本体枠における錠装置を前から見た斜視図である。
- 【図 9 4】（A）は錠装置の背面斜視図であり、（B）は錠装置のコ字状基体の内部に摺動自在に設けられるガラス扉用摺動杆と本体枠用摺動杆を示す背面斜視図であり、（C）は（B）の正面斜視図である。
- 【図 9 5】錠装置を分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図 9 6】錠装置におけるガラス扉用摺動杆と本体枠用摺動杆の動作を示す説明図である 50

。

【図 97】錠装置における不正防止部材の動作を示す説明図である。

【図 98】パチンコ機の扉枠を外した状態で本体枠に取付けられた遊技盤を示す正面図である。

【図 99】遊技盤の正面図である。

【図 100】遊技盤を分解して前から見た分解斜視図である。

【図 101】遊技盤を分解して後から見た分解斜視図である。

【図 102】(A) はパチンコ機に取付けた状態で遊技盤における機能表示ユニットを拡大して示す正面図であり、(B) は機能表示ユニットの他の形態を示す正面図である。

【図 103】図 100 等の例とは異なる実施形態の遊技パネルを用いた遊技盤を分解して前から見た分解斜視図である。 10

【図 104】図 103 を後から見た遊技盤の分解斜視図である。

【図 105】図 103 の遊技盤における遊技パネルを縦方向に切断した断面図である。

【図 106】パチンコ機の軸支側における防犯構造を示す部分断面図である。

【図 107】本体枠内に遊技盤を収容した状態で後側から見た斜視図である。

【図 108】遊技パネルを通して見える部分を省略して示す遊技盤の正面図である。

【図 109】遊技盤の正面図である。

【図 110】遊技盤を斜め右前から見た斜視図である。

【図 111】遊技盤を斜め左前から見た斜視図である。

【図 112】遊技盤を斜め後から見た斜視図である。 20

【図 113】図 108 における A-A 断面図である。

【図 114】遊技盤を構成する主な部材毎に分解して斜め前から見た斜視図である。

【図 115】遊技盤を構成する主な部材毎に分解して斜め後から見た斜視図である。

【図 116】遊技盤における表ユニットを前から見た斜視図である。

【図 117】遊技盤における表ユニットを後から見た斜視図である。

【図 118】アタッカユニットを前から見た斜視図である。

【図 119】アタッカユニットを後から見た斜視図である。

【図 120】アタッカユニットを後下から見た斜視図である。

【図 121】センター役物を前から見た斜視図である。

【図 122】センター役物を後から見た斜視図である。 30

【図 123】遊技盤における裏ユニットを前から見た斜視図である。

【図 124】遊技盤における裏ユニットを後から見た斜視図である。

【図 125】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図 126】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。

【図 127】遊技盤の裏ユニットにおける裏飾りユニットを前から見た斜視図である。

【図 128】遊技盤の裏ユニットにおける裏飾りユニットを後から見た斜視図である。

【図 129】(a) は遊技盤の裏ユニットにおける球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は球誘導ユニットを後から見た斜視図である。

【図 130】(a) は遊技盤の裏ユニットにおける上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は上可動演出ユニットを後から見た斜視図である。 40

【図 131】上可動演出ユニットを上可動ユニットと昇降ユニットとに分解して前から見た分解斜視図である。

【図 132】上可動演出ユニットを上可動ユニットと昇降ユニットとに分解して後から見た分解斜視図である。

【図 133】上可動演出ユニットの上可動ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 134】上可動ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【図 135】(a) は上可動演出ユニットにおける上可動ユニットの平面図であり、(b) は上可動ユニットの正面図であり、(c) はフィギュアを回転させた状態で示す上可動ユニットの正面図である。 50

- 【図136】上可動演出ユニットの昇降ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図137】昇降ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図138】上可動演出ユニットにおける昇降機構の要部を後から示す斜視図である。
- 【図139】上可動演出ユニットにおける上可動ユニットの昇降を説明するための正面図である。
- 【図140】上可動ユニットの昇降を説明するための背面図である。
- 【図141】遊技盤の裏ユニットにおける左右可動演出ユニットを前から見た斜視図である。
- 【図142】左右可動演出ユニットを後から見た斜視図である。 10
- 【図143】左右可動演出ユニットを回転体ユニットとスライドユニットに分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図144】左右可動演出ユニットを回転体ユニットとスライドユニットに分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図145】左右可動演出ユニットにおける一つの回転体ユニットを示す斜視図である。
- 【図146】左右可動演出ユニットの回転体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図147】左右可動演出ユニットの回転体ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図148】左右可動演出ユニットの回転体ユニットにおける回転装飾体の動きを示す説明図である。 20
- 【図149】図148に続く回転装飾体の動きを示す説明図である。
- 【図150】図149に続く回転装飾体の動きを示す説明図である。
- 【図151】左右可動演出ユニットにおける右ユニットのスライドユニットを示す斜視図である。
- 【図152】右ユニットのスライドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図153】右ユニットのスライドユニットを分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図154】左右可動演出ユニットにおける左ユニットのスライドユニットを示す斜視図である。
- 【図155】左ユニットのスライドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。 30
- 【図156】左ユニットのスライドユニットを分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図157】左右可動演出ユニットにおける右ユニットの動きを示す説明図である。
- 【図158】左右可動演出ユニットにおける左ユニットの動きを示す説明図である。
- 【図159】遊技盤の裏ユニットにおける下可動演出ユニットを前から見た斜視図である。
- 【図160】下可動演出ユニットを後から見た斜視図である。
- 【図161】下可動演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図162】下可動演出ユニットを主な部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。
- 【図163】下可動演出ユニットにおける昇降ユニットの動きを示す説明図である。
- 【図164】下可動演出ユニットにおける昇降装飾体の動きを示す正面図である。 40
- 【図165】遊技盤における裏ユニットの上可動演出ユニットの動きを示す説明図である。
- 【図166】遊技盤における裏ユニットの左右可動演出ユニットの動きを示す説明図である。
- 【図167】遊技盤における裏ユニットの下可動演出ユニットの動きを示す説明図である。
- 【図168】パチンコ機の制御構成を概略的に示すブロック図である。
- 【図169】パチンコ遊技機の電源システムを示すブロック図である。
- 【図170】図169のつづきを示すブロック図である。
- 【図171】発射ソレノイドの駆動回路を示すブロック図である。 50

【図172】シャントレギュレータ回路、増幅回路、及びオペアンプ回路群を示す回路図である。

【図173】DC／DCコンバータの特性を示す図である。

【図174】図171の発射ソレノイドの駆動回路における所定点のタイミングチャートである。

【図175】主制御基板におけるメイン処理の一例を示すフローチャートであり、

【図176】電源断発生時処理の一例を示すフローチャートである。

【図177】タイマ割込処理の一例を示すフローチャートである。

【図178】特別制御処理の一例を示すフローチャートである。

【図179】始動口入賞処理を示すフローチャートである。

10

【図180】変動開始処理を示すフローチャートである。

【図181】変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図182】変動中処理の一例を示すフローチャートである。

【図183】大当り遊技開始処理の一例を示すフローチャートである。

【図184】小当り遊技開始処理の一例を示すフローチャートである。

【図185】大当り遊技処理の一例を示すフローチャートである。

【図186】小当り遊技処理の一例を示すフローチャートである。

【図187】特別図柄用乱数記憶手段におけるテーブル構成を示す説明図である。

【図188】大当りの種別毎にそれぞれの特性を示す表である。

【図189】通常外部不利遊技状態にて選択されうる変動パターンテーブルの一例を示す図である。

20

【図190】周辺制御基板の機能のうちの特にリアルタイムクロック機能を示すブロック図である。

【図191】サブメイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図192】16ms定常処理の一例を示すフローチャートである。

【図193】コマンド解析処理の一例を示すフローチャートである。

【図194】演出制御処理の一例を示すフローチャートである。

【図195】装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）の一例を示すフローチャートである。

【図196】第1演出モードでの停止図柄の決定処理（ステップS1225a）の一例を示すフローチャートである。

30

【図197】第2演出モードでの停止図柄の決定処理（ステップS1225b）の一例を示すフローチャートである。

【図198】（a）、（b）は、通常（非延長時）の表示演出パターンと比較しつつ、延長演出パターンを説明するための図であり、（c）は、チャレンジボーナス演出パターンを説明するための図である。

【図199】主制御MPU4100a側から演出コマンド「01H」～「04H」のいずれかを受信したときに液晶表示装置1900にて現れる表示演出の一例を示すタイムチャートである。

【図200】主制御MPU4100a側から演出コマンド「09H」～「11H」のいずれかを受信したときに液晶表示装置1900にて現れる表示演出の一例を示すタイムチャートである。

40

【図201】（a）は、第1の演出モードにあるときの大当り期待度などを各演出内容シリーズの別にそれぞれ示す表であり、（b）は、第2の演出モードにあるときのチャレンジボーナス突入期待度などを各演出内容シリーズの別にそれぞれ示す表である。

【図202】第1の演出モードにあるときの演出コマンド「01H」に対応付けされる表示演出パターンについての別例を示すタイムチャートである。

【図203】第1の演出モードにあるときの演出コマンド「02H」に対応付けされる表示演出パターンについての別例を示すタイムチャートである。

【図204】回転操作ユニットにおけるダイヤル操作部の時計方向の回転に伴う従動ギア

50

の回転検知片と二つの回転検知センサの位置関係を示す説明図である。

【図205】回転操作ユニットにおけるダイヤル操作部の反時計方向の回転に伴う従動ギアの回転検知片と二つの回転検知センサとの位置関係を示す説明図である。

【図206】(A)は回転操作ユニットにおけるダイヤル操作部の時計方向の回転に伴う二つの回転検知センサのON/OFFを示す一覧表図であり、(B)はダイヤル操作部の反時計方向の回転に伴う二つの回転検知センサのON/OFFを示す一覧表図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

[1. パチンコ機の全体構造]

以下、図面を参照して本発明の好適な実施形態について、図面を参照して説明する。ま

10

ず、図1乃至図7を参照して実施形態に係るパチンコ機の全体について説明する。
図1は、実施形態に係るパチンコ機の外枠に対して本体枠を開放し、本体枠に対して扉枠を開放した状態を示す斜視図である。図2は、パチンコ機の正面図であり、図3は、パチンコ機の右側面図である。また、図4は、パチンコ機の平面図であり、図5は、パチンコ機の背面図である。更に、図6は、パチンコ機を構成する外枠、本体枠、遊技盤、扉枠の後方から見た分解斜視図であり、図7は、パチンコ機を構成する外枠、本体枠、遊技盤、扉枠の前方から見た分解斜視図である。

【0012】

図1乃至図7において、本実施形態に係るパチンコ機1は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される外枠2と、外枠2に開閉自在に軸支され前側が開放された箱枠状の本体枠3と、本体枠3に前側から装着固定され遊技媒体としての遊技球が打ち込まれる遊技領域1100を有した遊技盤4と、本体枠3及び遊技盤4の前面を遊技者側から閉鎖するように本体枠3に対して開閉自在に軸支された扉枠5とを備えている。このパチンコ機1の扉枠5には、遊技盤4の遊技領域1100が遊技者側から視認可能となるように形成された遊技窓101と、遊技窓101の下方に配置され遊技球を貯留する皿状の上皿301及び下皿302と、上皿301に貯留された遊技球を遊技盤5の遊技領域1100内へ打ち込むために遊技者が操作するハンドル装置500と、を備えている。

20

【0013】

本例のパチンコ機1は、図示するように、正面視において、外枠2、本体枠3、及び扉枠5が夫々上下方向へ延びた縦長の矩形状に形成されており、夫々の左右方向の横幅が略同じ寸法とされていると共に、上下方向の縦幅の寸法が、外枠2に対して本体枠3及び扉枠5の寸法が若干短く形成されている。そして、本体枠3及び扉枠5よりも下側の位置において、外枠2の前面に装飾カバー23が取付けられており、扉枠5及び装飾カバー23によって外枠2の前面が完全に閉鎖されるようになっている。また、外枠2、本体枠3、及び扉枠5は、上端が略揃うように夫々が配置されると共に、外枠2の左端前側の位置で本体枠3及び扉枠5が回転可能に軸支されており、外枠2に対して本体枠3及び扉枠5の右端が前側へ移動することで開状態となるようになっている。

30

【0014】

このパチンコ機1は、正面視において、略円形状の遊技窓101を介して遊技球が打ち込まれる遊技領域1100が望むようになっており、その遊技窓101の下側に前方へ突出するように二つの上皿301及び下皿302が上下に配置されている。また、扉枠5の前面右下隅部には、遊技者が操作するためのハンドル装置500が配置されており、上皿301内に遊技球が貯留されている状態で遊技者がハンドル装置500を回転操作すると、その回転角度に応じた打球強さで上皿301内の遊技球が遊技盤4の遊技領域1100内へ打ち込まれて、遊技をすることができるようになっている。

40

【0015】

なお、詳細は後述するが、扉枠5の遊技窓101は、透明なガラスユニット590によって閉鎖されており、遊技者から遊技領域1100内を視認することができるものの、遊技者が遊技領域1100内へ手等を挿入して遊技領域1100内の遊技球や障害釘、各種入賞口や役物等に触ることができないようになっている。また、本体枠3の後側には、各

50

種の制御基板が備えられていると共に、遊技盤 4 の後方を覆うように閉鎖するカバー体 1250 備えられている。

【0016】

[1-1. 外枠]

外枠 2 について、主として図 8 乃至図 16 を参照して説明する。図 8 は外枠の正面斜視図であり、図 9 は外枠の正面から見た分解斜視図であり、図 10 は外枠の正面図である。また、図 11 は外枠の背面斜視図であり、図 12 は外枠の右側面図である。更に、図 13 は、本体枠の上軸支金具と外枠の上支持金具との脱着構造を説明するための斜視図である。また、図 14 (A) は外枠の上支持金具の裏面に設けられるロック部材の取付状態を示す分解斜視図であり、(B) は (A) の図を下方から見た斜視図である。図 15 は、軸支ピンとロック部材との関係を説明するための上支持金具部分の裏面図である。更に、図 16 は、ロック部材の作用を説明するための上支持金具部分の裏面図である。

10

【0017】

図 8 及び図 9 に示すように、本実施形態のパチンコ機 1 における外枠 2 は、横方向へ延びる上下の上枠板 10 及び下枠板 11 と、縦（上下）方向へ延びる左右の側枠板 12, 13 と、夫々の枠板 10, 11, 12, 13 の端部を連結する四つの連結部材 14 と、を備えており、連結部材 14 で各枠板 10, 11, 12, 13 同士を連結することで縦長の矩形状（方形状）に組立てられている。本例の外枠 2 における上枠板 10 及び下枠板 11 は、所定厚さの無垢材（例えば、木材、合板、等）により形成されており、左右両端の前後方向の略中央に、上下に貫通し左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部 15 が備えられている。なお、上枠板 10 における左側端部の上面及び前面には、その他の一般面よりも窪んだ取付段部 10a が形成されており、この取付段部 10a に後述する上支持金具 20 が取付けられるようになっている。

20

【0018】

一方、側枠板 12, 13 は、一定断面形状の軽量金属型材（例えば、アルミ合金）とされており、外側側面は略平坦面とされていると共に、内側側面は後端部に内側へ突出し上下方向（押出方向）に貫通する空洞を有した突出部 16 を備えており、強度剛性が高められている（図 9 及び図 10 を参照）。なお、側枠板 12, 13 の外側側面及び内側側面には、上下方向へ延びた複数の溝が形成されており、パチンコ機 1 を遊技ホールの島設備に設置する際等に、作業者の指掛りとなってパチンコ機 1 を保持し易くすることができるようにしていると共に、外観の意匠性を高められるようになっている。なお、便宜上、側枠板 12, 13 の側面に形成された複数の溝を省略して示した図面もある。

30

【0019】

本例の外枠 2 における連結部材 14 は、所定厚さの金属板をプレス成型等によって屈曲塑性変形させることで形成されたものであり、上枠板 10 又は下枠板 11 に固定され左右方向へ延びた板状の水平片 17 と、水平片 17 の外側端部から上下方向の一方側へ延び側枠板 12, 13 に固定される板状の垂直片 18 と、垂直片 18 とは反対方向へ延び上枠板 10 又は下枠板 11 の係合切欠部 15 内に挿入係合可能な板状の係合片 19 と、を有している。なお、本例では、上枠板 10 と左側の側枠板 12 とを連結する連結部材 14 と、上枠板 10 と右側の側枠板 13 とを連結する連結部材 14 とは、夫々左右非対称の形状に形成されていると共に、垂直片 18 が前後に分かれて形成されている。一方、下枠板 11 と左側の側枠板 12 とを連結する連結部材 14 と、下枠板 11 と右側の側枠板 13 とを連結する連結部材 14 とは、夫々左右対称の形状に形成されている。

40

【0020】

この連結部材 14 は、水平片 17 の上面及び下面が上枠板 10 及び下枠板 11 の下面及び上面と当接すると共に、係合片 19 が上枠板 10 及び下枠板 11 の係合切欠部 15 内に挿入係合された状態で、水平片 17 及び係合片 19 を貫通して所定のビスが上枠板 10 及び下枠板 11 にねじ込まれることで、上枠板 10 及び下枠板 11 に固定されるようになっている。また、上枠板 10 に固定された連結部材 14 は、その垂直片 18 が側枠体 12, 13 の上端内側側面に当接した状態で、側枠体 12, 13 を貫通して所定のビスが垂直片

50

18へねじ込まれることで、上枠板10と側枠板12, 13とを連結することができるようになっている。なお、上枠板10に固定された連結部材14における後側の垂直片18は、側枠板12, 13の突出部16内に挿入された状態で、側枠板12, 13へ固定されるようになっている。更に、下枠板11に固定された連結部材14は、その垂直片18が側枠板12, 13の下端内側側面に当接した状態で、側枠板12, 13を貫通して所定のビスが垂直片18へねじ込まれることで、下枠板11と側枠板12, 13とを連結することができるようになっており、四つの連結部材14により、上枠板10、下枠板11、及び側枠板12, 13を枠状に組立てることができるようになっている。

【0021】

本例の外枠2は、上枠板10の左端上面に固定される上支持金具20と、上支持金具20と対向するように配置され左側の側枠板12における下部内側の所定位置に固定される下支持金具21と、下支持金具21の下面を支持するように配置され左右の側枠板12, 13を連結するように固定される補強金具22と、補強金具22の前面に固定される裝飾カバー23と、を備えている。この上支持金具20及び下支持金具21は、本体枠3及び扉枠5を開閉可能に軸支するためのものである。

【0022】

まず、上支持金具20は、上枠板10に固定される板状の固定片20aと、固定片20aの前端から上枠板10の前端よりも前方へ突出する支持突出片20bと、支持突出片20bにおける前端付近の右側端から先端中央部へ向かって屈曲するように切欠かれて形成された支持鉤穴20cと、固定片20及び支持突出片20bの左端から下方へ垂下し左側の側枠板12における外側側面と当接する板状の垂下固定片20d（図14（A）を参照）と、垂下固定片20dと連続し支持突出片20bの外側縁に沿って垂下する垂下壁20e（図14を参照）と、垂下壁20eと連続し支持鉤穴20cの入口端部で内側へ向って傾斜した停止垂下部20f（図15を参照）と、を備えている。この上支持金具20における支持鉤穴20cには、後述する本体枠3における上軸支金具630の軸支ピン633（図63を参照）が着脱自在に係合されるようになっている。また、上支持金具20は、固定片20aと垂下固定片20dとによって、上枠板10と左側の側枠板12とを連結することができるようになっている。

【0023】

この上支持金具20は、支持突出片20bの外側縁から垂下する垂下壁20eによって、支持突出片20bの強度が高められていると共に、詳細は後述するが、正面から見た時に支持突出片20bの裏面に配置されるロック部材27が遊技者側から視認できないように隠蔽することができ、外観の見栄えを良くすることができるようになっている。また、支持突出片20bに形成された支持鉤穴20cは、垂下壁20eが形成されない反対側（右側）の側方から先端中央部に向かって傾斜状となるようにく字状に屈曲した形状とされていると共に、支持鉤穴20cの傾斜状穴部の幅寸法は、軸支ピン633の直径よりもやや大きな寸法とされている。

【0024】

一方、下支持金具21は、補強金具22上に載置固定される水平固定片21aと、水平固定片21aの左端から上方へ立上がり左側の側枠板12の内側側面に固定される垂直固定片21bと、水平固定片21aの前端から上枠板10及び下枠板11よりも前方へ突出する板状の支持突出片21cと、支持突出片21cの前端付近から上向きに突設されたピン状の支持突起21dと、を備えている。この下支持金具21における支持突起21dには、後述する本体枠3の本体枠軸支金具644（図66等を参照）に形成された本体枠軸支が挿入されるようになっており、下支持金具21の支持突起21dを、本体枠3における本体枠軸支金具644の支持穴に挿入した後に、本体枠3の上軸支金具630の軸支ピン633を支持鉤穴20cに係止することにより簡単に本体枠3を開閉自在に軸支することができるようになっている。

【0025】

また、本例の外枠2は、図示するように、右側の側枠板13の内側に、上下方向に所定

10

20

30

40

50

距離離反して配置される二つの閉鎖板 2 4, 2 5 が取付固定されている。これら閉鎖板 2 4, 2 5 は、平面視で略 L 字状に形成されており、下側に配置される閉鎖板 2 5 には、前後方向に貫通する矩形状の開口 2 5 a を有している（図 9 を参照）。この閉鎖板 2 4, 2 5 は、外枠 2 に対して本体枠 3 を閉じる際に、本体枠 3 の開放側辺に沿って取付けられる錠装置 1 0 0 0 のフック部 1 0 5 4, 1 0 6 5（図 9 3 を参照）と係合するものであり、詳細は後述するが、錠装置 1 0 0 0 のシリンダ錠 1 0 1 0 に鍵を差し込んで一方に回転することにより、フック部 1 0 5 4, 1 0 6 5 と閉鎖板 2 4, 2 5 との係合が外れて本体枠 3 を外枠 2 に対して開放することができるものである。

【0026】

更に、本例の外枠 2 は、補強金具 2 2 の右端上面に固定される案内板 2 6 を更に備えている。この案内板 2 6 は、外枠 2 に対して本体枠 3 を閉止する際に、本体枠 3 をスムーズに案内するためのものであり、交換可能に装着固定されている。

【0027】

また、本例の外枠 2 は、図 1 4 等 に示すように、上支持金具 2 0 における支持突出片 2 0 b の裏面に支持されたロック部材 2 7 を更に備えており、リベット 2 8 によって支持突出片 2 0 b に対して回転可能に軸支されている。このロック部材 2 7 は、合成樹脂により形成されており、リベット 2 8 により軸支される位置から前方へ突出するストッパ部 2 7 a と、リベット 2 8 により軸支される位置から右方向へストッパ部 2 7 a よりも短く突出する操作部 2 7 b と、操作部 2 7 b に対してリベット 2 8 により軸支される位置とは反対側から突出する弾性片 2 7 c と、ストッパ部 2 7 a の先端に前方側へ膨出するように形成された円弧状の先端面 2 7 d と、を備えている。このロック部材 2 7 は、図示するように、ストッパ部 2 7 a と操作部 2 7 b とで、略 L 字状に形成されている。また、ロック部材 2 7 の弾性部 2 7 c は、ストッパ部 2 7 a や操作部 2 7 b よりも狭い幅に形成されていると共に、ストッパ部 2 7 a から左方へ遠ざかるに従って前方へ延びだすように形成されている。

【0028】

このロック部材 2 7 は、図 1 4（B）や図 1 5 に示すように、上支持金具 2 0 の支持突出片 2 0 b に支持した状態（通常の状態）では、弾性片 2 7 c の先端当接部が垂下壁 2 0 e の内側面と当接しており、ストッパ部 2 7 a が支持鉤穴 2 0 c の傾斜状穴部を閉塞するようになっていると共に、ストッパ部 2 7 a の先端部分が、支持鉤穴 2 0 c の傾斜状穴部の先端空間部分を閉塞した状態とはならず、支持鉤穴 2 0 c の先端空間部分に本体枠 3 の上軸支金具 6 3 0 の軸支ピン 6 3 3 を挿入可能な空間が形成された状態となっている。

【0029】

本例の上支持金具 2 0 とロック部材 2 7 とを用いた軸支ピン 6 3 3 の支持機構は、軸支ピン 6 3 3 が支持鉤穴 2 0 c の傾斜状穴部の先端空間部分に挿入されてストッパ部 2 7 a の先端側方が入口端部の停止垂下部 2 0 f に対向している状態（この状態ではストッパ部 2 7 a の先端側方と停止垂下部 2 0 f との間に僅かな隙間があり当接した状態となっていない）である通常の軸支状態においては、屈曲して形成される支持鉤穴 2 0 c の傾斜状穴部の先端空間部分に位置する軸支ピン 6 3 3 とストッパ部 2 7 a の先端面 2 7 d との夫々の中心が斜め方向にずれて対向した状態となっている。そして、この通常の軸支状態においては、重量のある本体枠 3 を軸支している軸支ピン 6 3 3 が支持鉤穴 2 0 c の先端部分に当接した状態となっているので、軸支ピン 6 3 3 からストッパ部 2 7 a の先端面 2 7 d への負荷がほとんどかかっていないため、ロック部材 2 7 の弾性片 2 7 c に対し負荷がかかっていない状態となっている。なお、ストッパ部 2 7 a の先端に円弧状の先端面 2 7 d を備えているので、ロック部材 2 7 を回転させるために操作部 2 7 b を回転操作した時に、ロック部材 2 7 がスムーズに回転するようになっている。また、図示では、先端面 2 7 d の円弧中心が、リベット 2 8 の中心（ロック部材 2 7 の回転中心）とされている。

【0030】

従って、軸支ピン 6 3 3 が支持鉤穴 2 0 c の傾斜状穴部の傾斜に沿って抜ける方向に作用力 F が加かって円弧状の先端面 2 7 d に当接したとき、その作用力 F を、軸支ピン 6 3

10

20

30

40

50

3と円弧状の先端面27dとの当接部分に作用する分力F1（先端面27dの円弧の法線方向）と、軸支ピン633と支持鉤穴20cの傾斜状穴部の一側内面との当接部分に作用する分力F2と、に分けたときに、分力F1の方向がリベット28の中心（ロック部材27の回転中心）を向くため、ロック部材27のストッパ部27aの先端部が支持突出片20bから外れる方向（図示の時計方向）に回転させるモーメントが働かず、軸支ピン633がロック部材27のストッパ部27aの先端部と支持鉤穴20cの傾斜状穴部の一側内面との間に挟持された状態を保持する。このため、通常の軸支状態でもあるいは軸支ピン633の作用力がロック部材27にかかった状態でも、ロック部材27の弾性片27cに常時負荷がかからず、合成樹脂で一体形成される弾性片27cのクリープによる塑性変形を防止し、長期間に亘って軸支ピン633の支持鉤穴20cからの脱落を防止することができる。なお、仮に無理な力がかかってロック部材27のストッパ部27aの先端部が支持突出片20bから外れる方向（図示の時計方向）に回転させられても、ストッパ部27aの先端部の一側方が停止垂下部20fに当接してそれ以上外れる方向に回転しないので、ロック部材27が支持突出片20bの外側にはみ出ないようになっている。

10

【0031】

なお、ストッパ部27aの先端面27dの形状は円弧状でなくても、上記した分力F1の作用により回転モーメントが生じない位置又はロック部材27をその先端部が支持突出片20bの外側に向って回転させる回転モーメントが生ずる位置にロック部材27の回転中心（リベット28により固定される軸）を位置させることにより、常時ロック部材27の弾性片27cに対しても負荷がかかることはないし、ロック部材27が回転してもストッパ部27aの先端一側方が停止垂下部20fに当接するだけであるため、ロック部材27が支持突出片20bの外側にはみ出ることもないという点を本出願人は確認している。

20

【0032】

本例のロック部材27の作用について図16を参照して具体的に説明する。外枠2に本体枠3を開閉自在に軸支する前提として、本体枠3の本体枠軸支金具644（図63を参照）に形成される本体枠軸支穴（図示しない）に下支持金具21の支持突起21dが挿通されていることが必要である。そのような前提において、図16（A）に示すように、本体枠3の上軸支金具630の軸支ピン633をロック部材27のストッパ部27aの側面に当接させて押し込むことにより、図16（B）に示すように、ロック部材27が弾性片27cを変形させながら反時計方向に回動させるので、軸支ピン633を支持鉤穴20cに挿入することができる。そして、軸支ピン633が支持鉤穴20cの傾斜状穴部の先端空間部分に到達すると、図16（C）に示すように、軸支ピン633とストッパ部27aの先端側面とが当接しなくなるためロック部材27が弾性片27cの弾性力に付勢されて時計方向に回動し、ロック部材27のストッパ部27aが再度通常の状態に戻って支持鉤穴20cの入口部分を閉塞すると同時に、ストッパ部27aの先端部分が軸支ピン633と対向して軸支ピン633が支持鉤穴20cから抜け落ちないようにしている。

30

【0033】

そして、この状態は、図16（D）に示すように、本体枠3が完全に閉じられた状態でもあるいは本体枠3の通常の開閉動作中も保持される。次いで、軸支ピン633を支持鉤穴20cから取外すためには、図16（E）に示すように、指を支持突出片20bの裏面に差し入れてロック部材27の操作部27bを反時計方向に回動することにより、ロック部材27が弾性片27cの弾性力に抗して回動し、ストッパ部27aの先端部分が支持鉤穴20cから退避した状態となるため、軸支ピン633を支持鉤穴20cから取り出すことができる。その後、本体枠3を持ち上げて、本体枠軸支金具644に形成される本体枠軸支穴と下支持金具21の支持突起21dとの係合を解除することにより、本体枠3を外枠2から取外すことができるようになっている。

40

【0034】

上述したように、本例の外枠2は、外枠2の外郭を構成する上枠板10と下枠板11とを従来と同じく木製とすると共に、側枠板12、13を軽量金属（例えば、アルミ合金）の押出型材としているので、パチンコ機1を遊技場に列設される島設備に設置する場合に

50

、島の垂直面に対し所定の角度をつけて固定する作業を行う必要があるが、そのような作業は上枠板10及び下枠板11と島とに釘を打ち付けて行われるため、釘を打ち易くすることができ、既存の島設備に本パチンコ機1を問題なく設置することができるようになっている。また、側枠板12、13を軽量金属（例えば、アルミ合金）の押出型材としているので、従来の木製の外枠と比較して強度を維持しつつ肉厚を薄く形成することが可能となり、側枠板12、13の内側に隣接する本体枠3の周壁部605（図63等を参照）の正面から見たときの左右幅を広くすることができ、左右方向の寸法の大きな遊技盤4を本体枠3に装着することができると同時に、遊技盤4の遊技領域1100を大きく形成することができるようになっている。

【0035】

また、外枠2の外郭を構成する上枠板10、下枠板11、及び側枠板12、13を連結部材14で連結するようにしており、連結部材14が側枠板12、13の内面に密着して止着されると共に連結部材14と上枠板10及び下枠板11が係合した状態で止着されるので、外枠2の組付け強度を高くすることができ、頑丈な方形状の枠組みとすることができるようになっている。また、連結部材14によって上枠板10、下枠板11、及び側枠板12、13を連結した後、上支持金具20を所定の位置に取付けたときに、図10に示すように、各枠板10、11、12、13の外側面（外周面）から外側に突出する部材が存在しないので、パチンコ機1を図示しない遊技ホールの島設備に設置する際に、隣接する装置（例えば、隣接する玉貸機）と密着して取付けることができるようになっている。

【0036】

[1-2. 扉枠の全体構成]

次に、上記した本体枠3の前面側に開閉自在に設けられる扉枠5について、図17乃至図25を参照して説明する。図17は扉枠の正面図であり、図18は扉枠の背面図であり、図19は扉枠を右前方から見た斜視図である。また、図20は扉枠を左前方から見た斜視図であり、図21は扉枠の右後方から見た斜視図である。更に、図22は扉枠を正面から見た分解斜視図であり、図23は扉枠を背面から見た分解斜視図である。また、図24は、扉枠からサイドスピーカ及びサイドスピーカカバーを分解して前から見た分解斜視図であり、図25は、扉枠からサイドスピーカ及びサイドスピーカカバーを分解して後から見た分解斜視図である。

【0037】

本実施形態のパチンコ機1における扉枠5は、図示するように、外形が縦長の矩形状に形成され内周形状がやや縦長の円形状（楕円形状）とされた遊技窓101を有する扉枠ベースユニット100と、扉枠ベースユニット100の前面で遊技窓101の右外周に取付けられる右サイド装飾ユニット200と、右サイド装飾ユニット200と対向し扉枠ベースユニット100の前面で遊技窓101の左外周に取付けられる左サイド装飾ユニット240と、扉枠ベースユニット100の前面で遊技窓101の上部外周に取付けられる上部装飾ユニット280と、右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240の下端下側に配置され扉枠ベースユニット100の前面に取付けられる一対のサイドスピーカカバー290と、を備えている。

【0038】

また、扉枠5は、扉枠ベースユニット100の前面で遊技窓101の下部に取付けられる皿ユニット300と、皿ユニット300の上部中央に取付けられる操作ユニット400と、皿ユニット300を貫通して扉枠ベースユニット100の右下隅部に取付けられ遊技球の打込操作をするためのハンドル装置500と、扉枠ベースユニット100を挟んで皿ユニット300の後側に配置され扉枠ベースユニット100の後面に取付けられるファールカバーユニット540と、ファールカバーユニット540の右側で扉枠ベースユニット100の後面に取付けられる球送りユニット580と、扉枠ベースユニット100の後側に遊技窓101を閉鎖するように取付けられるガラスユニット590と、を備えている。

【0039】

[1-2 A. 扉枠ベースユニット]

続いて、扉枠5における扉枠ベースユニット100について、主に図26乃至図30を参照して説明する。図26(A)は扉枠における扉枠ベースユニットの正面斜視図であり、(B)は扉枠における扉枠ベースユニットの背面斜視図である。また、図27は扉枠ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図28は扉枠ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図29は扉枠ベースユニットにおける扉枠ベース基板カバーと配線保持部材とを後ろから見た斜視図であり、図30は扉枠と本体枠とを電氣的に接続するの配線の様子を拡大して示す斜視図である。

【0040】

本例の扉枠ベースユニット100は、図示するように、外形が縦長の矩形状に形成されると共に、前後方向に貫通し内周が縦長の略楕円形状に形成された遊技窓101を有する扉枠ベース本体110と、扉枠ベース本体110の前面で遊技窓101の上部中央に取付けられ上部装飾ユニットを固定するための上部ブラケット120と、扉枠ベース本体110の前面で遊技窓101の下端左右両外側に配置される一対のサイドスピーカ130と、サイドスピーカ130を扉枠ベース本体110へ固定するためのスピーカブラケット132と、扉枠ベース本体110の前面で正面視右下隅部に取付けられハンドル装置500を支持するためのハンドルブラケット140と、を備えている。

【0041】

なお、扉枠ベースユニット100は、正面視で右側のサイドスピーカ130の外側には、サイドスピーカ130の側面と、右サイド装飾ユニット200等へ接続される配線136(図24を参照)の前側とを覆い扉枠ベース本体110の前面に取付けられるカバー部材134を更に備えている(図22及び図24等を参照)。このカバー部材134は、配線136をスピーカ取付部111の外周に沿って案内させることができると共に、サイドスピーカ130を取付ける際や取外す際に、配線136が邪魔にならないように配線136を保持することができるようになっている。

【0042】

また、扉枠ベースユニット100は、扉枠ベース本体110の後側に固定される金属製で枠状の補強ユニット150と、扉枠ベース本体110の後面で遊技窓101の下部を被覆するように取付けられる防犯カバー180と、扉枠ベース本体110の後面で遊技窓101の外周の所定位置に回動可能に取付けられるガラスユニット係止部材190と、背面視で左右方向の中央より左側(開放側)に配置され遊技窓101の下端に沿って扉枠ベース本体110の後面に取付けられる発射カバー191と、発射カバー191の下側で扉枠ベース本体110の後面に取付けられハンドル装置500の回転位置検知センサ512と主制御基板4100との接続を中継するハンドル装置中継基板192と、ハンドル装置中継基板192の後側を被覆するハンドル装置中継基板カバー193と、左右方向の中央を挟んで発射カバー191やハンドル装置中継基板192等とは反対側(背面視で左右方向中央よりも右側(軸支側))に配置され扉枠ベース本体の後面に取付けられる扉枠ベース基板194と、扉枠ベース基板194の後側を被覆する扉枠ベース基板カバー195と、扉枠ベース基板カバー195の後面に回動可能に軸支され扉枠5側と本体枠3側とを接続する配線コード196の一部を保持する配線保持部材197と、を備えている。

【0043】

本例の扉枠ベースユニット100は、合成樹脂からなる矩形状の扉枠ベース本体110の後側に、金属板金をリベット等で組立てた補強ユニット150が固定されることで、全体の剛性が高められていると共に、各装飾ユニット200、240、280や皿ユニット300等を十分に支持することができる強度を有している。

【0044】

この扉枠ベースユニット100における扉枠ベース基板194は、サイドスピーカ130や左右のサイド装飾ユニット200、240の上部スピーカ222、262と接続されると共に、後述する遊技盤4に備えられた周辺制御部4140と接続されており、周辺制御部4140から送られた音響信号を増幅して各スピーカ130へ出力する増幅回路を備えている。なお、本例では、各装飾ユニット200、240、280及び皿ユニット30

0や操作ユニット400に備えられた各装飾基板430、432、操作ユニット400に備えられたダイヤル駆動モータ414やセンサ432a、432b、432c、ハンドル装置中継基板192、皿ユニット300の貸球ユニット360等と、払出制御基板4110や周辺制御部4140等とを接続する配線コード196が、扉枠ベース基板194の背面視で右側（軸支側）の位置に集約して束ねられた上で、詳細は後述するが、配線保持部材197に保持されて後方へ延出し、本体枠3の主側中継端子板880や周辺側中継端子板882に接続されるようになっている（図1及び図30を参照）。

【0045】

本例の扉枠ベースユニット100における扉枠ベース本体110は、図27及び図28等に示すように、合成樹脂によって縦長の額縁状に形成されており、前後方向に貫通し内形が縦長で略楕円形状の遊技窓101が全体的に上方へオフセットするような形態で形成されている。この遊技窓101は、図示するように、左右側及び上側の内周縁が連続した滑らかな曲線状に形成されているのに対して、下側の内周縁は左右へ延びた直線状に形成されている。また、扉枠ベース本体110における遊技窓101の下側の内周縁には、軸支側（正面視で左側）にファールカバーユニット540の第一球出口544aを挿通可能な方形状101aの切欠部が形成されている。この扉枠ベース本体110は、遊技窓101によって形成される上辺、及び左右の側辺の幅が、後述する補強ユニット150の上側補強板金151、軸支側補強板金152、及び開放側補強板金153の幅と略同じ幅とされており、正面視における扉枠ベース本体の大きさに対して、遊技窓101が可及的に大きく形成されている。従って、扉枠5の後側に配置される遊技盤4のより広い範囲を遊技者側から視認できるようになっており、従来のパチンコ機よりも広い遊技領域1100を容易に形成することができるようになっている。

【0046】

この扉枠ベース本体110は、遊技窓101の他に、遊技窓101の下辺の左右両外側に配置されサイドスピーカ130を取付固定するためのスピーカ取付部111と、球送りユニット580を取付固定するための球送りユニット取付凹部112（図28を参照）と、球送りユニット取付凹部112の所定位置で前後方向に貫通し皿ユニット300の上皿301に貯留された遊技球を球送りユニット580へ供給するための球送り開口113と、正面視で右下隅部に配置され前方へ膨出した前面の右側（開放側）端が後退するように斜めに傾斜しハンドルブラケット140を取付けるためのハンドル取付部114と、ハンドル取付部114の所定位置で前後方向へ貫通しハンドル装置500からの配線が通過可能な配線通過口115と、ハンドル取付部114の上側で前方へ向かって短く延びた筒状に形成され後述するシリンダ錠1010が挿通可能な錠穴116と、を備えている。

【0047】

また、扉枠ベース本体110は、図28に示すように、球送りユニット取付凹部112に下側にハンドル装置中継基板192を取付けるための中継基板取付部117と、背面視で扉枠ベース本体の下部右側（軸支側）に配置され扉枠ベース基板194を取付けるための基板取付部118と、遊技窓101の下端の背面視左側（開放側）でスピーカ取付部111よりも中央寄りの配置から後方へ突出し防犯カバー180の装着弾性片185を装着するための防犯カバー装着部119と、扉枠ベース本体110は、その後側に、遊技窓101の内周に略沿って前側へ凹みガラスユニット590の前面外周縁が当接可能なガラスユニット支持部材110aと、遊技窓101の外周の所定位置から後方へ突出しガラスユニット係止部材190を回動可能に支持するための四つの係止部材取付部110bと、を更に備えている。

【0048】

更に、扉枠ベース本体110の後側には、その下辺から後方へ所定量突出する扉枠突片110cを備えており、この扉枠突片110cは、後述する本体枠3の係合溝603内に挿入されるようになっている。これにより、扉枠5が本体枠3に対して位置決め係止することができると共に、扉枠5と本体枠3との下辺の隙間からピアノ線等の不正な工具をパチンコ機1内に挿入しようとしても、係合溝603と係合した扉枠突片110cによって

工具の侵入を阻止することができ、パチンコ機1の防犯機能が高められている。また、扉枠ベース本体110の後側には、背面視で錠穴116よりもやや右下の位置から後方へ突出し本体枠3の嵌合溝612と嵌合する位置決め突起110dを、備えており、この位置決め突起110dが嵌合溝612と嵌合することで、扉枠5と本体枠3とが正しい位置に位置決めされるようになっている。

【0049】

また、扉枠ベース本体110は、図27に示すように、その前面に、装飾ユニット200、240、280や皿ユニット300等を固定するための前方へ突出した複数の取付ボス110eが備えられていると共に、上部ブラケット120、ハンドルブラケット140等を取付けるための取付穴が適宜位置に多数形成されている。また、扉枠ベース本体110は、サイドスピーカ130を取付けるスピーカブラケット132を取付けるための取付部110g（図24を参照）や、サイドスピーカカバー290を取付けるための取付孔110h（図18、図24及び図25等を参照）が、適宜位置に夫々形成されている。

【0050】

なお、サイドスピーカカバー290では、図25に示すように、左右夫々一つずつ、ガラスユニット590が後側から嵌め込まれるガラスユニット支持段部110aを貫通するように配置されており、扉枠ベース本体110（扉枠5）からガラスユニット590を取外した状態で、取付孔110hを介して所定のビスにより脱着することができるようになっている。更に、サイドスピーカカバー290を取付けるための取付孔110hは、図18に示すように、扉枠ベース本体110に防犯カバー180を固定することで後側が被覆されるようになっている。従って、サイドスピーカカバー290を取外すには、まず始めに防犯カバー180とガラスユニット590とを、扉枠ベース本体110から取外さなければならぬようになっている。これにより、サイドスピーカカバー290の取外しに若干時間がかかるようにすることで不正行為等を行おうとする者に対して取外作業を手間取らせることができると共に、比較的大きなガラスユニット590を取外すことで取外し作業を目立たせることができ、サイドスピーカ130に対する盗難行為や、遊技領域1100内等に対する不正行為等を躊躇させて、不正行為等に対する抑止力（安全性）を高めることができるようになっている。

【0051】

また、扉枠ベース本体110には、球送りユニット取付凹部112と基板取付部118との間で、後述する皿ユニット300の皿ユニットベース310における下皿球供給口310g及びファールカバーユニット540の第二球出口544bと対応する位置に、前後方向に貫通する矩形状の球通過口110fを備えている。

【0052】

次に、扉枠ベースユニット100における上部ブラケット120は、扉枠ベース本体110の前面上部中央に固定されるものであり、詳細な図示は省略するが、扉枠ベースユニット100に取付けられた左右のサイド装飾ユニット200、240の間に形成される上部の隙間を隠蔽すると共に、左右両端が夫々サイド装飾ユニット200、240によって支持されるようになっている。また、上部ブラケット120は、その先端の一部が上部装飾ユニット280内へ挿入されるようになっており、扉枠5が組立てられた状態では、上部装飾ユニット280を上側から支持することができるようになっている。

【0053】

また、扉枠ベースユニット100における一対のサイドスピーカ130は、詳細な図示は省略するが、その中心軸の交点が正面視で遊技領域1100の中央から前方へ所定距離（例えば、0.2m～1.5m）の位置となるように斜めに固定されており、パチンコ機1の前に着座した遊技者に対して最も効率良く音が届くようになっている。また、このサイドスピーカ130は、主に中高音域の音を出力するようになっており、パチンコ機1に対して、可及的に左右方向へ離反した位置に配置されており、左右のサイドスピーカ130から関連した異なる音を出力させることで、ステレオ感の高い音を出力することができるようになっている。

【0054】

これらサイドスピーカ130は、その外周が、前側に配置された略円環状のスピーカブラケット132と、後側に配置された扉枠ベース本体110のスピーカ取付部111とによって挟持されることで、扉枠ベース本体110に取付けられるようになっている。なお、スピーカブラケット132は、所定のビスによって、前側から扉枠ベース本体110の取付部110gに取付けられるようになっている。

【0055】

また、扉枠ベースユニット100における扉枠ベース基板カバー195は、図27乃至図29等に示すように、前側が開放された薄い箱状に形成されていると共に、後側の後面に、上下方向の中央よりもやや下寄りの位置で前方へ窪んだ段部195aを備えている。この扉枠ベース基板カバー195の段部195aに、配線保持部材197が回動可能に取付けられている。

10

【0056】

一方、扉枠ベースユニット100における配線保持部材197は、図29及び図30等に示すように、横方向へ長く延びた板状に形成されていると共に、断面がI字状に形成されており、比較的、硬質の合成樹脂によって形成されている。また、配線保持部材197は、図示するように、上下両端に長手方向へ沿って所定間隔で複数（本例では、上下に夫々三つずつ）の保持孔197aを備えている。この配線保持部材197は、扉枠5を組立てた状態で扉枠5が本体枠3に軸支される側の端部が、扉枠ベース基板カバー195における後面の段部195aに、上下方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支されており、詳細な図示は省略するが、配線保持部材197の自由端側が扉枠ベース基板カバー195側へ回動することで、配線保持部材197が扉枠ベース基板カバー195の段部195a内へ収容することができるようになっている。

20

【0057】

この配線保持部材197は、その後面側に扉枠5と本体枠3とを電氣的に接続するための配線コード196を沿わせた状態で、上下で対になった保持孔197aに所定の結束バンド198を挿通させて、その結束バンド198により配線保持部材197ごと配線コード196を締付けることで、配線コード196を保持することができるようになっている（図1及び図30を参照）。

【0058】

本例の配線保持部材197は、本体枠3に対して扉枠5を閉じる方向へ回動させると、配線保持部材197の自由端側が、配線コード196における自由端側から本体枠3へ延びた部分により前方へ押されて扉枠ベース基板カバー195側へ近付く方向へ回動することとなる。これにより、扉枠5が閉まるに従って、配線保持部材197の自由端側が扉枠ベース基板カバー195へ接近すると共に、配線保持部材197の自由端から本体枠3側へ延びだした配線コード196が自由端付近で折れ曲りが大きく（鋭く）なる。そして、本体枠3に対して扉枠5が閉じられた状態となると、配線コード196が配線保持部材197の自由端側で横方向へ二つに折り畳まれたような状態となる。

30

【0059】

一方、本体枠3に対して閉じられた扉枠5を開ける場合では、本体枠3と扉枠5とが相対的に遠ざかることとなるので、本体枠3側に接続された配線コード196によって配線保持部材197の自由端側が後方へ引っ張られることとなり、自由端側が扉枠ベース基板カバー195から遠ざかる方向（本体枠3の方向）へ移動するように配線保持部材197がスムーズに回動する。これにより、配線保持部材197の自由端側で折り畳まれた配線コード196が真直ぐに延びるように展開し、配線コード196によって阻害されることなく扉枠5を開くことができるようになっている。

40

【0060】

このように、本例によると、配線保持部材197における扉枠5が軸支された側と同じ側の端部を、自由端側が本体枠3側へ移動するように扉枠ベース基板カバー195の後面に回動可能に軸支させると共に、扉枠5と本体枠3とを電氣的に接続する配線コード19

50

6の一部が上下方向へ移動しないように保持するようにしているので、本体枠3に対して扉枠5を開閉させる際に、配線保持部材197の自由端側で配線コード196を横方向へ折り畳んだり、展開したりすることができ、扉枠5の開閉時に配線コード196が引っ掛かったり挟まれたりして不具合（配線コード196の断線、接続コネクタの外れ、等）が発生するのを防止することができるようになっている。

【0061】

また、本例によると、配線保持部材197を比較的硬質で剛性の高い合成樹脂によって形成するようにしているので、扉枠5の開閉時に、配線コード196を介して力が作用しても、上下方向へブレ難くすることができ、配線コード196を確実に横方向へ折り畳んで不具合の発生を防止することができるようになっている。

10

【0062】

更に、上述したように、本体枠3に対して扉枠5を開閉させると、配線保持部材197によって本体枠3と扉枠5との間に橋が掛けられたような状態となり、配線196の一部が配線保持部材197によって架橋された状態となるので、扉枠5を開閉させても配線196が垂れ下がるのを防止することが可能となり、配線196が垂れ下がることで他の部材に引っ掛かって断線したり扉枠5を閉じることができなくなったりする不具合が発生するのを防止することができ、本体側電気機器としての主制御基板4100、周辺制御部4140、払出制御基板4110等、と扉側電気機器としての各装飾基板214、216、254、256、286、320、430、432、スピーカ130、222、262、貸球ユニット360、ハンドル装置500等、とを接続する配線196に不具合が発生するのを可及的に低減させることが可能なパチンコ機1を提供することができる。

20

【0063】

また、配線196の一部を回動可能な配線保持部材197で保持するようにしており、扉枠5を開ける時に、配線196が無理に引っ張られても、配線保持部材197が回動することでその力を逃がすことができるので、配線196が引っ張られるのを防止することができ、配線196が引っ張られて断線したり接続コネクタが外れたりするような不具合が発生するのを防止することができる。また、配線保持部材197によって配線196の一部を保持しており、配線196は配線保持部材197の回動に伴って単に部分的に曲がるだけなので、従来のもの（例えば、特開2009-213675）のように配線196が摺動することは無く、配線196が擦れて漏電や断線等の不具合が発生するのを防止することができる。

30

【0064】

更に、配線保持部材197では、長手方向へ所定間隔で複数配置された貫通する保持孔197aに結束バンド198を挿通し、その結束バンド198によって配線196を保持するようにしているので、配線196を保持した結束バンド198が保持孔197aによって配線保持部材197の長手方向へ移動（スライド）するのを防止することができ、配線保持部材197から結束バンド198ごと配線196が脱落するのを確実に防止することができる。

【0065】

また、本体枠3や扉枠5から配線196が延び出す位置を、扉枠5を軸支した側辺から離れた位置に配置しても、上述したように、配線保持部材197によって配線196をガイド（案内）して扉枠5を開閉する際に配線196が垂れ下がるのを良好に防止することができるので、扉枠5における軸支された側辺側の強度・剛性を高めた本体枠3や扉枠5とすることができ、不正行為に対する防犯性の高いパチンコ機1とすることができる。

40

【0066】

更に、配線保持部材197に、長手方向に対して直角方向両端から少なくとも配線196が沿う側へ突出した突条を備えるようにしているので、一对の突条と配線保持部材197の板面によって配線196の三方を囲むことができ、配線保持部材197に沿って配線196を保持し易くすることができる。また、配線保持部材197に突条を備えているので、板状の配線保持部材197の曲げ剛性を高めることができ、扉枠5を開閉する際に配

50

線保持部材 197 が撓むのを防止して、良好な状態で扉枠 5 を開閉させることができる。

【0067】

また、配線保持部材 197 の基端から先端までの長さを、扉枠 5 の軸心から基端の軸心までの距離と略同じ長さとすると共に、配線 196 における本体枠 3 の延出した所定位置を、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態で、配線保持部材 197 の先端よりも扉枠 5 の軸心側の位置としており、扉枠 5 の軸心と、配線保持部材 197 の軸心と、配線保持部材 197 の先端と、本体枠 3 における配線 196 が延出した位置とで、パンタグラフ状のリンクが形成されることとなるので、扉枠 5 を開閉する時の配線保持部材 197 や配線 196 等の動きをスムーズにすることができ、開閉作業を行い易くすることができると共に、配線 196 等に無理な力が作用するのを低減させて断線等の不具合が発生するのを防止することができる。また、パンタグラフ状のリンクを形成するようにしており、扉枠 5 を閉じる時に、配線 196 における配線保持部材 197 の先端から延出した部位が、配線保持部材 197 と沿うように先端側で折返されるので、扉枠 5 を閉じた状態では配線 196 を折り畳んでコンパクトに纏めることができ、配線保持部材 197 や配線 196 に係るスペースを小さくすることができる。

10

【0068】

また、配線保持部材 197 を軸支した扉枠 5 の扉枠ベース基板カバー 195 に、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態で、本体枠 3 側へ向かって開口するように凹み、配線保持部材 197 を収納可能な段部 195a を備えるようにしており、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態とすると、配線保持部材 197 が扉枠ベース基板カバー 195 に備えられた段部 195a 内へ収納されるので、扉枠 5 側から本体枠 3 側への配線保持部材 197 の突出を殆ど無くすることができ、扉枠 5 を閉じ易くすることができると共に、配線保持部材 197 や配線 196 をコンパクトに纏めることができ、配線 196 が他の部材に引っ掛かるのを抑制して不具合が発生するのを防止することができる。

20

【0069】

更に、配線 196 を、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態で、配線保持部材 197 における本体枠 3 側を向いた面に沿って保持させるようにしており、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態とした時に、配線保持部材 197 を扉枠 5 側（扉枠ベース基板カバー 195 側）へ可及的に近づけることができるので、これによっても、扉枠 5 からの配線保持部材 197 の突出を少なくすることができ、扉枠 5 を閉じ易くすることができると共に、配線保持部材 197 や配線 196 に係るスペースを可及的に小さくすることができる。

30

【0070】

また、配線保持部材 197 を移動（開閉）する扉枠 5 側に備えているので、扉枠 5 を開閉させる慣性力や衝撃力等によって配線保持部材 197 を回動させ易くすることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。また、配線保持部材 197 を扉枠 5 に備えており、本体枠 3 に配線保持部材 197 を備えるためのスペースを確保する必要が無いので、相対的に本体枠 3 における遊技盤 4 を保持するスペースを大きくしてより大きな遊技領域 1100 を有した遊技盤 4 を保持させることができ、大型の遊技盤 4 を有して遊技者の関心を強く引付けることが可能なパチンコ機 1 とすることができる。

【0071】

40

更に、扉枠ベースユニット 100 におけるハンドルブラケット 140 は、図 27 及び図 28 等に示すように、前後方向へ延びた円筒状の筒部 141 と、筒部 141 の後端から筒部 141 の軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部 142 と、筒部 141 内に突出し筒部 141 の周方向に対して不等間隔に配置された複数（本例では三つ）の突条 143 と、筒部 141 の外周面とフランジ部 142 の前面とを繋ぎ筒部 141 の周方向に対して複数配置された補強リブ 144 と、を備えている。このハンドルブラケット 140 は、フランジ部 142 の後面を、扉枠ベース本体 110 におけるハンドル取付部 114 の前面に当接させた状態で、所定のビスによってハンドル取付部 114 に取付けられるようになっており、図示は省略するが、ハンドル取付部 114 に取付けた状態で、筒部 141 の軸が配線通過口 115 と略一致するようになっている。

50

【0072】

このハンドルブラケット140は、筒部141内の上側に一つ、下側に二つの突条143が備えられており、これら突条143はハンドル装置500におけるハンドルベース502の円筒部の外周に形成された三つの溝部502aと対応する位置に配置形成されている。そして、ハンドルブラケット140の三つの突条143と、ハンドル装置500の三つの溝部502aとが一致した状態でのみ、筒部141内にハンドル装置500の円筒部を挿入させることができるようになっている。従って、ハンドルブラケット140に挿入支持されたハンドル装置500のハンドルベース502は、ハンドルブラケット140に対して相対回転不能の状態に支持されるようになっている。

【0073】

なお、このハンドルブラケット140は、斜めに傾斜したハンドル取付部114に取付けることで、筒部141の軸が正面視で前方へ向かうに従って右側（開放側）へ向かうように延びるように取付けられ、この状態でハンドルブラケット140に支持されたハンドル装置500の軸も、同様に斜めに傾いた状態となるようになっている。

【0074】

続いて、扉枠ベースユニット100における補強ユニット150は、主に図27及び図28に示すように、扉枠ベース本体110の上辺部裏面に沿って取付けられる上側補強板金151と、扉枠ベース本体110の軸支側辺部裏面に沿って取付けられる軸支側補強板金152と、扉枠ベース本体110の開放側辺部裏面に沿って取付けられる開放側補強板金153と、扉枠ベース本体110の遊技窓101の下辺裏面に沿って取付けられる下側補強板金154と、を備えており、それらが相互にビスやリベット等で締着されて方形状に形成されている。

【0075】

この補強ユニット150は、図27に示すように、軸支側補強板金152の上下端部に、その上面に上下方向に摺動自在に設けられる軸ピン155を有する上軸支部156と、その下面に軸ピン157（図18を参照）を有する下軸支部158と、を一体的に備えている。そして、上下の軸ピン155、157が本体枠3の軸支側上下に形成される上軸支金具630及び下軸支金具640に軸支されることにより、扉枠5が本体枠3に対して開閉自在に軸支されるようになっている。

【0076】

また、補強ユニット150の下側補強板金154は、所定幅を有して扉枠ベース本体110の横幅寸法と略同じ長さに形成され、その長辺の両端縁のうち下方長辺端縁に前方へ向って折曲した下折曲突片159と（図27を参照）、上方長辺端縁の正面視右側（開放側）部に前方へ向って折曲した上折曲突片160と、上方長辺端縁の中央部分に後方へ折曲した上で垂直方向に延設された垂直折曲突片161と、を備えている。この下側補強板金154は、下折曲突片159や上折曲突片160等によって強度が高められている。また、この下側補強板金154の垂直折曲突片161は、後述するガラスユニット590のユニット枠592の下端に形成された係止片592bと係合係止するように形成されており、ガラスユニット590を扉枠5の裏面側に固定した時に、垂直折曲突片161がガラスユニット590におけるユニット枠592の係止片592bが係止されることで、ガラスユニット590の下端が左右方向及び後方へ移動するのを規制することができるようになっている。なお、下側補強板金154には、扉枠ベース本体110の切欠部101aと略対応した切欠部162が形成されている。

【0077】

また、補強ユニット150の開放側補強板金153は、上側補強板金151と下側補強板金154との間の長辺の両側に、後方へ向かって屈曲された開放側外折曲突片163と、開放側内折曲突片164とを備えており、図示するように、開放側外折曲突片163よりも開放側内折曲突片164の方が後方へ長く伸び出したように形成されている。また、開放側補強板金153の後側下部には、後述する錠装置1000の扉枠用フック部1041と当接するフックカバー165が備えられている。更に、軸支側補強板金152には、

その長辺の外側端に後方へ延び出すと共に軸支側の外側に開口したコ字状の軸支側コ字状突片166を備えている(図106を参照)。また、上側補強板金151は、その長辺の両側に後方へ向かって屈曲された屈曲突片167を夫々備えている。

【0078】

この補強ユニット150の軸支側補強板金152は、本体枠3に対して上軸支部156と下軸支部158の上下の二点でのみ取付支持されるようになっているので、軸支側の扉枠5と本体枠3との間にドライバーやバール等の不正な工具が差込まれると、軸支側補強板金152が変形して扉枠5と本体枠3との隙間が大きくなって不正行為を行い易くなる虞があるが、本例の軸支側補強板金152では、軸支側コ字状突片166を備えているので、軸支側補強板金152の強度がより高められており、軸支側補強板金152が曲がり難くなっている。また、軸支側補強板金152の軸支側コ字状突片166は、そのコ字内に後述する本体枠3における側面防犯板950における前端片952bが挿入されるようになっている(図106を参照)、工具の挿入を阻止することができると共に、軸支側補強板金152のみが曲がるのを防止することができ、パチンコ機1の防犯機能を高めることができるようになっている。

10

【0079】

次に、扉枠5における扉枠ベースユニット100の防犯カバー180について、主に図27及び図28を参照して説明する。この防犯カバー180は、上記したガラスユニット590の下部裏面を被覆して遊技盤4への不正具の侵入を防ぐ防犯機能が付与されたものであり、図示するように、透明な合成樹脂によって左右の補強板金152、153の間に配されるガラスユニット590の下方部を覆うような平板状に形成され、その上辺部に遊技盤4の内レール1112の下方円弧面に略沿って円弧状に形成された当接凹部181と、当接凹部181の上端に沿って後方に向って突出する防犯後突片182と、を備えている。また、防犯カバー180の左右両端には、その端部形状に沿って後方へ突出する防犯後端部突片183が夫々備えられている。なお、背面視で右側(軸支側)の防犯後端部突片183は、反対側(開放側)の防犯後端部突片183よりも後方へ長く延びだした形態となっている。一方、防犯カバー180の前面には、防犯カバー180を取付けた状態でガラスユニット590におけるユニット枠592の下方形状に沿って突設する防犯前突片184と、防犯前突片184の外側で左右の下部端に前方へ突出するU字状の装着弾性片185と、を備えている。

20

30

【0080】

この防犯カバー180は、正面視で右側(開放側)の装着弾性片185を扉枠ベースユニット100の防犯カバー装着部119に装着すると共に、反対側(軸支側)の装着弾性片185を皿ユニット300の防犯カバー装着部364に装着することで、扉枠5の裏面側に着脱自在に取付けられるようになっている。この防犯カバー180を、扉枠5に取付けた状態では、詳細な図示は省略するが、防犯前突片184がガラスユニット590のユニット枠592の下部外周と嵌合するようになっていると共に、ユニット枠592の下端部後面が垂直折曲突片161と当接するようになっている。また、後方へ突出した防犯後突片182は、扉枠5を閉じた時に、軸支側の半分が遊技盤4に固定された内レール1112の下側面に挿入され、開放側の半分が前構成部材1110における内レール1112のレール防犯溝1118に挿入された状態となるようになっている。これにより、遊技盤4の遊技領域1100に不正な工具を侵入させようとしても、内レール1112の下側に挿入された防犯後突片182によりその侵入を阻止することができるようになっている。

40

【0081】

なお、防犯カバー180は、その裏面によって、扉枠5を閉じた状態で外レール1111と内レール1112とで形成される打球の誘導通路の前面下方部分を覆うことができるようになっているので、誘導通路部分を飛送若しくは逆送する打球のガラス板594への衝突を防止することができるようになっている。

【0082】

これにより、本例では、防犯カバー180で扉枠5におけるガラスユニット590(遊

50

技窓１０１）の後側下部外周を覆うようにしているので、扉枠５の前側から遊技窓１０１とガラスユニット５９０との間に可撓性の高い工具を挿入してパチンコ機１内（遊技領域１１００内）に対して不正行為を行おうとしても、防犯カバー１８０によって工具の侵入を阻止することができ、不正行為等に対してより安全性の高いパチンコ機１とすることができるようにしている。

【００８３】

続いて、扉枠ベースユニット１００における四つのガラスユニット係止部材１９０は、扉枠ベース本体１１０から後方へ突出する係止部材取付部１１０ｂに対して回動可能に嵌合する嵌合部１９０ａと、嵌合部１９０ａの軸方向に対して直角方向へ延出しガラスユニット５９０の係止突片４５１ｆに係止する係止片１９０ｂと、を備えている。このガラス

10

【００８４】

このガラスユニット係止部材１９０の係止片１９０ｂは、詳細な図示は省略するが、後側に後方へ突出した突条を有しており、この突条がガラスユニット５９０の着脱時において、回転操作する際の指掛けとなっている。なお、四つのガラスユニット係止部材１９０のうち、背面視で右下に取付けられるガラスユニット係止部材１９０の係止片１９０ｂには、突条が形成されておらず、後面が平坦面となっている。

【００８５】

20

また、扉枠ベースユニット１００における発射カバー１９１は、補強ユニット１５０における下側補強板金１５４の後側に固定されるようになっている。また、ハンドル装置中継基板カバー１９３及び扉枠ベース基板カバー１９５は、夫々扉枠ベース１１０の後側の所定位置に固定されるようになっている。なお、扉枠ユニットベース１００に対して発射カバー１９１、ハンドル装置中継基板カバー１９３、及び球送りユニット５８０を取付けた状態では、それらの後面が略同一面状となるようになっており、それらによって本体枠３に取付けられる打球発射装置６５０の前面を被覆することができるようになっている。

【００８６】

[１－２Ｂ．右サイド装飾ユニット]

続いて、扉枠５における右サイド装飾ユニット２００について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。図３１（Ａ）は扉枠における右サイド装飾ユニットの正面斜視図であり、（Ｂ）は扉枠における右サイド装飾ユニットの背面斜視図である。また、図３２は、右サイド装飾ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。更に、図３３は、右サイド装飾ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

30

【００８７】

本実施形態における扉枠５の右サイド装飾ユニット２００は、図示するように、遊技窓１０１の前側外周のうち、正面視で下部を除く右側半分を装飾するものであり、内側が遊技窓１０１に沿って円弧状に形成されていると共に、外側が扉枠ベースユニット１００の外周に沿って直線状に形成されている。この右サイド装飾ユニット２００は、右サイド装飾ユニット２００の骨格を形成するサイド装飾フレーム２０２と、サイド装飾フレーム２

40

【００８８】

また、右サイド装飾ユニット２００は、サイドインナーレンズ２１２の後側で上下方向の略中央から上側に配置され表面に複数のＬＥＤ２１４ａ（フルカラーＬＥＤ）、２１４

50

b（白色LED）が実装された右サイド上装飾基板214と、下側でサイドインナーレンズ212の上下方向の略中央から下側に配置され表面に複数のLED216a（フルカラーLED）、216b（白色LED）が実装された右サイド下装飾基板216と、右サイド上装飾基板214の後側を覆い右サイド上装飾基板214を挟むようにサイドインナーレンズ212に取付けられる右サイド上装飾基板カバー218と、右サイド下装飾基板216の後側を覆い右サイド下装飾基板216を挟むようにサイドレンズ210及びサイド装飾フレーム202に取付けられる右サイド下装飾基板カバー220と、を備えている。

【0089】

更に、右サイド装飾ユニット200は、サイド装飾フレーム202の正面視で左上部に配置される右上部スピーカ222と、右上部スピーカ222を支持しサイド装飾フレーム202の後側上部に嵌合される上部スピーカブラケット224と、上部スピーカブラケット224とサイド装飾フレーム202との間に挟持される上部スピーカカバー226と、サイド上部カバー208における側面の所定位置に内側から取付けられるサイドサブレンズ228と、を備えている。サイドサブレンズ228の後側には、右サイド上装飾基板214のLED214cが配置されており、LED214cによって発光装飾されるようになっている。

【0090】

この右サイド装飾ユニット200は、サイド装飾フレーム202、サイド上部装飾部材204、右サイド上装飾基板カバー218、及び右サイド下装飾基板カバー220が不透光性の部材によって形成されており、サイド装飾フレーム202及びサイド上部装飾部材204の表面には所定色のメッキ層が形成されている。また、右サイド装飾ユニット200のサイド上部装飾レンズ206、サイド上部カバー208、サイドレンズ210、サイドインナーレンズ212、上部スピーカカバー226、上部スピーカブラケット224、及びサイドサブレンズ228は、透光性の部材によって形成されており、サイド上部カバー208の略全体が乳白色に、サイド上部装飾レンズ206、サイドレンズ210、サイドインナーレンズ212、上部スピーカブラケット224、上部スピーカカバー226、及びサイドサブレンズ228が略透明とされている。

【0091】

なお、詳細な図示は省略するが、略透明に形成されたサイドレンズ210及び上部スピーカカバー226の裏面側と、サイドインナーレンズ212及び上部スピーカブラケット224の表面側は、多面体状に形成されており、光を乱屈折させることができるようになっている。そのため、サイドレンズ210及びサイドインナーレンズ212の後側に配置された右サイド上装飾基板214や右サイド下装飾基板216の表面（前面）に実装されたLED214a、214b、216a、216b等が、遊技者側から明確に視認することができないようになっている。また、右サイド上装飾基板214や右サイド下装飾基板216の前面は、白色とされており、実装されたLED214a、214b、216a、216b等の光によって右サイド装飾ユニット200を効率良く発光装飾させることができるようになっており、LED214a、214b、216a、216bが非点灯時に各装飾基板214、216が目立たないようにしている。なお、右サイド上装飾基板214及び右サイド下装飾基板216は、夫々周辺制御部4140と接続されており、周辺制御部4140からの駆動信号（発光駆動信号）により各LED214a、214b、214c、216a、216bを適宜発光させて、右サイド装飾ユニット200を発光装飾させることができるようになっている。

【0092】

本例の右サイド装飾ユニット200におけるサイド装飾フレーム202は、図示するように、全体が遊技窓101に略沿った円弧状に形成されており、具体的には、遊技窓101の外周に沿った円弧状の内側枠202aと、内側枠202aに対して外側へ離反した位置に配置され下端から上部にかけて扉枠5（扉枠ベースユニット100）の側面外周に沿った直線状とされると共に続く上部が内側枠202aの上端縁へ向かって湾曲するように円弧状に形成された外側枠202bと、外側枠202bと内側枠202aの上端縁同士を

10

20

30

40

50

連結する上端枠202cと、外側枠202bと内側枠202aの下端縁同士を連結する下端枠202dと、内側枠202a及び外側枠202bの周方向に沿って複数箇所（本例では四箇所）に配置され内側枠202aと外側枠202bとを連結すると共に所定幅のスリット202eを有した隔壁枠202fと、を備えている。

【0093】

このサイド装飾フレーム202の内側枠202aは、前後方向に対して略同じ位置で遊技窓101の周方向へ略同じ幅で延びている。一方、外側枠202bは、扉枠5の側面に沿って延びる直線状の部位における後端が内側枠202aの後端と略同じ位置で直線状に形成されているのに対して、前端は上下の両端が前方へ突出するような円弧状に形成されている。また、外側枠202bの直線状に上下に延びた部位よりも上側の湾曲した円弧状の部位は、上端縁側が前方へ突出するように前後方向にも湾曲した円弧状に形成されている。また、サイド装飾フレーム202の隔壁枠202fは、内側枠202aと外側枠202bとの間の部位が最も前方へ突出するように前後方向に湾曲した形状とされている。この隔壁枠202fは、扉枠5を組立てた状態で遊技窓101の中央下部付近から放射状に延びた放射線上に配置されている（図17等を参照）。

10

【0094】

このサイド装飾フレーム202は、図示するように、複数の隔壁枠202fによって内側枠202aと外側枠202bの間が周方向（長手方向）へ複数に分割された形態となっており、分割された夫々の開口が発光装飾開口202gとされ、後述するサイドレンズ210の周レンズ部210aが後側から嵌め込まれるようになっている。また、隔壁枠202fのスリット202eには、後側からサイドレンズ210の放射レンズ部210bが嵌め込まれるようになっている。更に、隔壁枠202fによりスリット202eと発光装飾開口202gとを仕切ることができ、夫々の発光態様を異ならせることができるようになっている。

20

【0095】

右サイド装飾ユニット200のサイド上部装飾部材204は、図示するように、サイド装飾フレーム202における外側枠202bの円弧状に延びた上部に略沿って一定高さで左右方向へ延びていると共に、後面が窪んだ状態に形成されており、前面には前後方向に貫通する複数の開口部204aが形成されている。このサイド上部装飾部材204は、列設された開口部204aに沿った上側に縄文状のレリーフが施されている。

30

【0096】

一方、サイド上部装飾レンズ206は、サイド上部装飾部材204の窪んだ後面内に嵌合可能な形状とされていると共に、サイド上部装飾部材204の後側から開口部204aを通してその前端付近まで突出することが可能な複数の導光部206aを備えている。この導光部206aは、先端が多面体状に形成されており、サイド上部装飾部材204の開口部204aに挿入嵌合させることで、開口部204aに恰も宝石が嵌め込まれているように見せることができるようになっている。また、サイド上部装飾レンズ204の導光部206aによって後側に配置された右サイド上装飾基板214からの光をサイド上部装飾部材204の開口部204aから前方（遊技者側）へ放射させることができると共に、導光部206aの先端を宝石として輝かせることができるようになっている。

40

【0097】

右サイド装飾ユニット200のサイド上部カバー208は、その上面及び右側面（正面視で）が扉枠5（扉枠ユニットベース100）の外周と略沿った形状とされていると共に、下面（下端）がサイド上部装飾部材204と略沿った形状とされている。このサイド上部カバー208は、前面下部に、サイド上部装飾部材204を収容可能となるように、下方が開放されると共に後方へ窪んだ取付段部208aが形成されており、取付段部208aの後端面にサイド上部装飾部材204等を取付けるための取付ボスや取付穴等が形成されている。また、サイド上部カバー208の右側面には、上下に配置された二つの切欠部208bが形成されており、この切欠部208bを介して内部に取付けられるサイドサブレンズ228が表面側へ望むようになっている。サイド上部カバー208の切欠部208

50

bにサイドサブレンズ228が嵌め込まれることで、この部位のみ異なる態様で発光させることができるようになっている。

【0098】

右サイド装飾ユニット200のサイドレンズ210は、サイド装飾フレーム202と略沿った形状とされると共に、後面が窪んだ形状とされており、サイド装飾フレーム202の発光装飾開口202gに後から挿入される周レンズ部210aと、サイド装飾フレーム202のスリット202eに後から挿入される放射レンズ部210bと、を備えている。なお、図示するように、このサイドレンズ210は、サイド装飾フレーム202の上端枠202cに接する発光装飾開口202gと対応する周レンズ部210aを備えておらず、該当する部位は、前方及び下方に開放された収容段部210cとされている。この収容段部210c内には、後述する右上部スピーカ222や上部スピーカブラケット224等が収容されるようになっている。また、サイドレンズ210は、収容段部210cの上面を形成しサイド上部カバー208における取付段部208aの後側に固定される取付部210dを備えている。

10

【0099】

このサイドレンズ210は、周レンズ部210a及び放射レンズ部210bの前面が、サイド装飾フレーム202の隔壁枠202fの前端と略沿うように、前側へ膨出した湾曲面形状とされている。また、詳細な図示は省略するが、周レンズ部210aの裏面（内面）側は、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、周レンズ部210aの板厚が不均一となることで、周レンズ部210aを透過する光が乱屈折するようになっている。また、この多面体状に形成された内面により、周レンズ部210aがキラキラした特徴的な外観を呈することができるようになっている。

20

【0100】

サイドインナーレンズ212は、サイドレンズ210の内部に後側から挿入嵌合されるものであり、図示するように、サイドレンズ210における周レンズ部210a及び放射レンズ部210bが形成された部位と対応するように形成されており、後面が窪んだ本体部212aと、本体部212aの後端から連続し本体部212aよりも前方へ突出すると共に放射レンズ部210b（サイド装飾フレーム202のスリット202e）と対応した位置に配置される板状の導光部212bと、を備えている。このサイドインナーレンズ212の本体部212aは、その前面がサイドレンズ210の内面に対して所定距離控えた状態に形成されている。また、詳細な図示は省略するが、サイドインナーレンズ212における本体部212aの一方の面には、サイドレンズ210の周レンズ部210aと同様に、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、本体部212aの板厚が不均一となることで、本体部212aを透過する光が乱屈折するようになっている。

30

【0101】

このサイドインナーレンズ212は、サイドレンズ210と組み合わせることで、周レンズ部210a及び本体部212aを透過する光を二重に乱屈折させることができ、反対側に配置された物の形状等をほとんど認識することができないようになっている。また、乱屈折と共に多面体状による乱反射により、サイドレンズ210（周レンズ部210a）の外観をキラキラさせると共に遠近感が不明瞭な不思議な感じに見せることができるようになっている。

40

【0102】

右サイド装飾ユニット200の右サイド上装飾基板214及び右サイド下装飾基板216は、表面に高輝度のカラーLEDが複数実装されており、サイド装飾フレーム202の発光装飾開口202g（サイドレンズ210の周レンズ部210a）と対応する位置に配置されたLED214a、216aは比較的照射角度の広いもの（例えば、60°～180°）が用いられており、サイド装飾フレーム202のスリット202e（サイドレンズ210の放射レンズ部210b）と対応する位置に配置されたLED214b、216bは比較的照射角度の狭いもの（例えば、15°～60°）が用いられている。なお、サイ

50

ドサブレンズ２２８を発光装飾させる右サイド上装飾基板２１４のＬＥＤ２１４ｃは、本例では、赤色のＬＥＤとされている。

【０１０３】

右サイド装飾ユニット２００の右上部スピーカ２２２は、サイドスピーカ１３０と同様に、中高音域の音を出力するものであり、上部スピーカブラケット２２４により所定位置に所定方向へ向けて取付けられるようになっている。この右上部スピーカ２２２を支持する上部スピーカブラケット２２４は、正面視でパチンコ機１の左右中央で斜め前下方に向かって突出する円筒状のホーン部２２４ａを備えている。そして、上部スピーカブラケット２２４におけるホーン部２２４ａの上端裏側に、右上部スピーカ２２２が固定されるようになり、正面視では、ホーン部２２４ａによって右上部スピーカ２２２が遊技者側から見えないようになっている。

10

【０１０４】

本例の右上部スピーカ２２２は、上部スピーカブラケット２２４のホーン部２２４ａによって、パチンコ機１の上部から下方の遊技者へ向かって発せられるようになり、他のパチンコ機に対して騒音に為り難いようになっている。なお、詳細な図示は省略するが、この上部スピーカブラケット２２４もまた、その前面が、サイドレンズ２１０の周レンズ部２１０ａやサイドインナーレンズ２１２の本体部２１２ａと同様に、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、その板厚が不均一となることで、上部スピーカブラケット２２４を透過する光が乱屈折するようになっている。

20

【０１０５】

また、上部スピーカブラケット２２４の前面側を覆う上部スピーカカバー２２６は、サイド装飾フレーム２０２における上端枠２０２ｃに接する発光装飾開口２０２ｇを閉鎖するようにサイド装飾フレーム２０２の後側から嵌合されると共に、その表面が、サイドレンズ２１０の表面と連続するような湾曲面形状に形成されている。また、上部スピーカカバー２２６の表面には貫通孔２２６ａが複数形成されており、右上部スピーカ２２２からの音を遊技者側へ十分に透過させることができるようになっている。

【０１０６】

なお、詳細な図示は省略するが、この上部スピーカカバー２２６もまた、その内面側が、サイドレンズ２１０の周レンズ部２１０ａやサイドインナーレンズ２１２の本体部２１２ａと同様に、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、その板厚が不均一となることで、上部スピーカカバー２２６を透過する光が乱屈折するようになっている。従って、上部スピーカカバー２２６及び上部スピーカブラケット２２４において、光が乱屈折することで、遊技者側から右上部スピーカ２２２や上部スピーカカバー２２６に形成された貫通孔２２６ａを視認し難くすることができると共に、サイドレンズ２１０の周レンズ部２１０ａと同様の見栄えの外観とすることができるようになっている。

30

【０１０７】

[１－２Ｃ．左サイド装飾ユニット]

続いて、扉枠５における左サイド装飾ユニット２４０について、主に図３４乃至図３６を参照して説明する。図３４（Ａ）は扉枠における左サイド装飾ユニットの正面斜視図であり、（Ｂ）は扉枠における左サイド装飾ユニットの背面斜視図である。また、図３５は、左サイド装飾ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。更に、図３６は、左サイド装飾ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

40

【０１０８】

本実施形態における扉枠５の左サイド装飾ユニット２４０は、図示するように、遊技窓１０１の前側外周のうち、正面視で下部を除く左側半分を装飾するものであり、内側が遊技窓１０１に沿って円弧状に形成されていると共に、外側が扉枠ベースユニット１００の外周に沿って直線状に形成されており、右サイド装飾ユニット２００と略対称に形成されている。この左サイド装飾ユニット２４０は、左サイド装飾ユニット２４０の骨格を形成するサイド装飾フレーム２４２と、サイド装飾フレーム２４２の上辺に沿って配置される

50

サイド上部装飾部材 244 と、サイド上部装飾部材 244 に対して後側から嵌合するサイド上部装飾レンズ 246 と、サイド装飾フレーム 242 及びサイド上部装飾部材 244 の上側を被覆すると共に、サイド上部装飾レンズ 246 を挟むようにサイド上部装飾部材 244 が前側に取付けられるサイド上部カバー 248 と、サイド上部カバー 248 の下部を支持すると共にサイドフレーム 242 に対して後側から嵌合固定されるサイドレンズ 250 と、サイドレンズ 250 の裏側に嵌合されるサイドインナーレンズ 252 と、を備えている。

【0109】

また、左サイド装飾ユニット 240 は、サイドインナーレンズ 252 の後側で上下方向の略中央から上側に配置され表面に複数の LED 254a (フルカラー LED)、254b (白色 LED) が実装された左サイド上装飾基板 254 と、下側でサイドインナーレンズ 252 の上下方向の略中央から下側に配置され表面に複数の LED 256a (フルカラー LED)、256b (白色 LED) が実装された左サイド下装飾基板 256 と、左サイド上装飾基板 254 の後側を覆い左サイド上装飾基板 254 を挟むようにサイドインナーレンズ 252 に取付けられる左サイド上装飾基板カバー 258 と、左サイド下装飾基板 256 の後側を覆い左サイド下装飾基板 256 を挟むようにサイドレンズ 250 及びサイド装飾フレーム 242 に取付けられる左サイド下装飾基板カバー 260 と、を備えている。

10

【0110】

更に、左サイド装飾ユニット 240 は、サイド装飾フレーム 242 の正面視で右上部に配置される左上部スピーカ 262 と、左上部スピーカ 262 を支持しサイド装飾フレーム 242 の後側上部に嵌合される上部スピーカブラケット 264 と、上部スピーカブラケット 264 とサイド装飾フレーム 242 との間に挟持される上部スピーカカバー 266 と、を備えている。

20

【0111】

この左サイド装飾ユニット 240 は、サイド装飾フレーム 242、サイド上部装飾部材 244、左サイド上装飾基板カバー 258、及び左サイド下装飾基板カバー 260 が不透光性の部材によって形成されており、サイド装飾フレーム 242 及びサイド上部装飾部材 244 の表面には所定色のメッキ層が形成されている。また、左サイド装飾ユニット 240 のサイド上部装飾レンズ 246、サイド上部カバー 248、サイドレンズ 250、サイドインナーレンズ 252、上部スピーカカバー 266、及び上部スピーカブラケット 264 は、透光性の部材によって形成されており、サイド上部カバー 248 の略全体が乳白色に、サイド上部装飾レンズ 246、サイドレンズ 250、サイドインナーレンズ 252、上部スピーカブラケット 264、及び上部スピーカカバー 266 が略透明とされている。

30

【0112】

なお、詳細な図示は省略するが、略透明に形成されたサイドレンズ 250 及び上部スピーカカバー 266 の裏面側と、サイドインナーレンズ 252 及び上部スピーカブラケット 264 の表面側は、多面体状に形成されており、光を乱屈折させることができるようになっている。そのため、サイドレンズ 250 及びサイドインナーレンズ 252 の後側に配置された左サイド上装飾基板 254 や左サイド下装飾基板 256 の表面 (前面) に実装された LED 254a、254b、256a、256b 等が、遊技者側から明確に視認することができないようになっている。また、左サイド上装飾基板 254 や左サイド下装飾基板 256 の前面は、白色とされており、実装された LED 254a、254b、256a、256b 等の光によって左サイド装飾ユニット 240 を効率良く発光装飾させることができるようになっていると共に、LED 254a、254b、256a、256b が非点灯時に各装飾基板 254、256 が目立たないようになっている。なお、左サイド上装飾基板 254 及び左サイド下装飾基板 256 は、夫々周辺制御部 4140 と接続されており、周辺制御部 4140 からの駆動信号 (発光駆動信号) により各 LED 254a、254b、256a、256b を適宜発光させて、左サイド装飾ユニット 240 を発光装飾させることができるようになっている。

40

【0113】

50

本例の左サイド装飾ユニット240におけるサイド装飾フレーム242は、図示するように、全体が遊技窓101に略沿った円弧状に形成されており、具体的には、遊技窓101の外周に沿った円弧状の内側枠242aと、内側枠242aに対して外側へ離反した位置に配置され下端から上部にかけて扉枠5（扉枠ベースユニット100）の側面外周に沿った直線状とされると共に続く上部が内側枠242aの上端縁へ向かって湾曲するように円弧状に形成された外側枠242bと、外側枠242bと内側枠242aの上端縁同士を連結する上端枠242cと、外側枠242bと内側枠242aの下端縁同士を連結する下端枠242dと、内側枠242a及び外側枠242bの周方向に沿って複数箇所（本例では四箇所）に配置され内側枠242aと外側枠242bとを連結すると共に所定幅のスリット242eを有した隔壁枠242fと、を備えている。

10

【0114】

このサイド装飾フレーム242の内側枠242aは、前後方向に対して略同じ位置で遊技窓101の周方向へ略同じ幅で延びている。一方、外側枠242bは、扉枠5の側面に沿って延びる直線状の部位における後端が内側枠242aの後端と略同じ位置で直線状に形成されているのに対して、前端は上下の両端が前方へ突出するような円弧状に形成されている。また、外側枠242bの直線状に上下へ延びた部位よりも上側の湾曲した円弧状の部位は、上端縁側が前方へ突出するように前後方向にも湾曲した円弧状に形成されている。また、サイド装飾フレーム242の隔壁枠242fは、内側枠242aと外側枠242bとの間の部位が最も前方へ突出するように前後方向に湾曲した形状とされている。この隔壁枠242fは、扉枠5を組立てた状態で遊技窓101の中央下部付近から放射状に延びた放射線上に配置されている（図17等を参照）。

20

【0115】

このサイド装飾フレーム242は、図示するように、複数の隔壁枠242fによって内側枠242aと外側枠242bの間が周方向（長手方向）へ複数に分割された形態となっており、分割された夫々の開口が発光装飾開口242gとされ、後述するサイドレンズ250の周レンズ部250aが後側から嵌め込まれるようになっている。また、隔壁枠242fのスリット242eには、後側からサイドレンズ250の放射レンズ部250bが嵌め込まれるようになっている。更に、隔壁枠242fによりスリット242eと発光装飾開口242gとを仕切ることができ、夫々の発光態様を異ならせることができるようになっている。

30

【0116】

左サイド装飾ユニット240のサイド上部装飾部材244は、図示するように、サイド装飾フレーム242における外側枠242bの円弧状に延びた上部に略沿って一定高さで左右方向へ延びていると共に、後面が窪んだ状態に形成されており、前面には前後方向に貫通する複数の開口部244aが形成されている。このサイド上部装飾部材244は、列設された開口部244aに沿った上側に縄文状のレリーフが施されている。

【0117】

一方、サイド上部装飾レンズ246は、サイド上部装飾部材244の窪んだ後面内に嵌合可能な形状とされていると共に、サイド上部装飾部材244の後側から開口部244aを通してその前端付近まで突出することが可能な複数の導光部246aを備えている。この導光部246aは、先端が多面体状に形成されており、サイド上部装飾部材244の開口部244aに挿入嵌合させることで、開口部244aに恰も宝石が嵌め込まれているように見せることができるようになっている。また、サイド上部装飾レンズ244の導光部246aによって後側に配置された左サイド上装飾基板254からの光をサイド上部装飾部材244の開口部244aから前方（遊技者側）へ放射させることができると共に、導光部246aの先端を宝石として輝かせることができるようになっている。

40

【0118】

左サイド装飾ユニット240のサイド上部カバー248は、その上面及び左側面（正面視で）が扉枠5（扉枠ユニットベース100）の外周と略沿った形状とされていると共に、下面（下端）がサイド上部装飾部材244と略沿った形状とされている。このサイド上

50

部カバー 248 は、前面下部に、サイド上部装飾部材 244 を收容可能となるように、下方が開放されると共に後方へ窪んだ取付段部 248 a が形成されており、取付段部 248 a の後端面にサイド上部装飾部材 244 等を取付けるための取付ボスや取付穴等が形成されている。また、サイド上部カバー 248 は、その外側側面（正面視で左側側面）に、扉枠ベースユニット 100 における補強ユニット 150 の上軸支部 156 を前側から被覆する被覆部 248 b を備えている。

【0119】

左サイド装飾ユニット 240 のサイドレンズ 250 は、サイド装飾フレーム 242 と略沿った形状とされると共に、後面が窪んだ形状とされており、サイド装飾フレーム 242 の発光装飾開口 242 g に後から挿入される周レンズ部 250 a と、サイド装飾フレーム 242 のスリット 242 e に後から挿入される放射レンズ部 250 b と、を備えている。なお、図示するように、このサイドレンズ 250 は、サイド装飾フレーム 242 の上端枠 242 c に接する発光装飾開口 242 g と対応する周レンズ部 250 a を備えておらず、該当する部位は、前方及び下方に開放された收容段部 250 c とされている。この收容段部 250 c 内には、後述する左上部スピーカ 262 や上部スピーカブラケット 264 等が收容されるようになっている。また、サイドレンズ 250 は、收容段部 250 c の上面を形成しサイド上部カバー 248 における取付段部 248 a の後側に固定される取付部 250 d を備えている。

【0120】

このサイドレンズ 250 は、周レンズ部 250 a 及び放射レンズ部 250 b の前面が、サイド装飾フレーム 242 の隔壁枠 242 f の前端と略沿うように、前側へ膨出した湾曲面形状とされている。また、詳細な図示は省略するが、周レンズ部 250 a の裏面（内面）側は、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、周レンズ部 250 a の板厚が不均一となることで、周レンズ部 250 a を透過する光が乱屈折するようになっている。また、この多面体状に形成された内面により、周レンズ部 250 a がキラキラした特徴的な外観を呈することができるようになっている。

【0121】

サイドインナーレンズ 252 は、サイドレンズ 250 の内部に後側から挿入嵌合されるものであり、図示するように、サイドレンズ 250 における周レンズ部 250 a 及び放射レンズ部 250 b が形成された部位と対応するように形成されており、後面が窪んだ本体部 252 a と、本体部 252 a の後端から連続し本体部 252 a よりも前方へ突出すると共に放射レンズ部 250 b（サイド装飾フレーム 242 のスリット 242 e）と対応した位置に配置される板状の導光部 252 b と、を備えている。このサイドインナーレンズ 252 の本体部 252 a は、その前面がサイドレンズ 250 の内面に対して所定距離控えた状態に形成されている。また、詳細な図示は省略するが、サイドインナーレンズ 252 における本体部 252 a の一方の面には、サイドレンズ 250 の周レンズ部 250 a と同様に、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、本体部 252 a の板厚が不均一となることで、本体部 252 a を透過する光が乱屈折するようになっている。

【0122】

このサイドインナーレンズ 252 は、サイドレンズ 250 と組み合わせることで、周レンズ部 250 a 及び本体部 252 a を透過する光を二重に乱屈折させることができ、反対側に配置された物の形状等をほとんど認識することができないようになっている。また、乱屈折と共に多面体状による乱反射により、サイドレンズ 250（周レンズ部 250 a）の外観をキラキラさせると共に遠近感が不明瞭な不思議な感じに見せることができるようになっている。

【0123】

左サイド装飾ユニット 240 の左サイド上装飾基板 254 及び左サイド下装飾基板 256 は、表面に高輝度のカラー LED が複数実装されており、サイド装飾フレーム 242 の発光装飾開口 242 g（サイドレンズ 250 の周レンズ部 250 a）と対応する位置に配

10

20

30

40

50

置されたLED254a, 256aは比較的照射角度の広いもの（例えば、60°～180°）が用いられており、サイド装飾フレーム242のスリット242e（サイドレンズ250の放射レンズ部250b）と対応する位置に配置されたLED254b, 256bは比較的照射角度の狭いもの（例えば、15°～60°）が用いられている。

【0124】

左サイド装飾ユニット240の左上部スピーカ262は、サイドスピーカ130と同様に、中高音域の音を出力するものであり、上部スピーカブラケット264により所定位置に所定方向へ向けて取付けられるようになっている。この左上部スピーカ262を支持する上部スピーカブラケット264は、正面視でパチンコ機1の左右中央で斜め前下方に向かって突出する円筒状のホーン部264aを備えている。そして、上部スピーカブラケット264におけるホーン部264aの上端裏側に、左上部スピーカ262が固定されるようになっている。正面視では、ホーン部264aによって左上部スピーカ262が遊技者側から見えないようになっている。

10

【0125】

本例の左上部スピーカ262は、上部スピーカブラケット264のホーン部264aによって、パチンコ機1の上部から下方の遊技者へ向かって発せられるようになっている。なお、詳細な図示は省略するが、この上部スピーカブラケット264もまた、その前面が、サイドレンズ250の周レンズ部250aやサイドインナーレンズ252の本体部252aと同様に、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、その板厚が不均一となることで、上部スピーカブラケット264を透過する光が乱屈折するようになっている。

20

【0126】

また、上部スピーカブラケット264の前面側を覆う上部スピーカカバー266は、サイド装飾フレーム242における上端枠242cに接する発光装飾開口242gを閉鎖するようにサイド装飾フレーム242の後側から嵌合されると共に、その表面が、サイドレンズ250の表面と連続するような湾曲面形状に形成されている。また、上部スピーカカバー266の表面には貫通孔266aが複数形成されており、左上部スピーカ262からの音を遊技者側へ充分に透過させることができるようになっている。

【0127】

なお、詳細な図示は省略するが、この上部スピーカカバー266もまた、その内面側が、サイドレンズ250の周レンズ部250aやサイドインナーレンズ252の本体部252aと同様に、互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されており、その板厚が不均一となることで、上部スピーカカバー266を透過する光が乱屈折するようになっている。従って、上部スピーカカバー266及び上部スピーカブラケット264において、光が乱屈折することで、遊技者側から左上部スピーカ262や上部スピーカカバー266に形成された貫通孔266aを視認し難くすることができると共に、サイドレンズ250の周レンズ部250aと同様の見栄えの外観とすることができるようになっている。

30

【0128】

[1-2D. 上部装飾ユニット]

続いて、扉枠5における上部装飾ユニット280について、主に図37乃至図40を参照して説明する。図37は、扉枠5における上部装飾ユニットの正面斜視図であり、図38は、扉枠5における上部装飾ユニットの背面斜視図である。また、図39は上部装飾ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図40は上部装飾ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

40

【0129】

本実施形態の扉枠5における上部装飾ユニット280は、図17等に応示するように、扉枠5の前面中央上部で、右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240における中央側の上端縁同士の間に取り付けられ、それらの間を装飾するものである。この上部装飾ユニット280は、図示するように、正面視で全体の外形形状が略逆二等辺三角形状

50

とされ、中央に大きく貫通する中央開口部 281a、及び中央開口部 281a の左右両側に貫通する一対の側開口部 281b を有し中央開口部 281a の上側に扉枠ベースユニット 100 における上部ブラケット 120 の先端が挿入される前面装飾部材 281 と、前面装飾部材 281 の中央開口部 281a 内に後側から嵌め込まれる中央レンズ 282 と、中央レンズ 282 の後端に配置されるインナーレンズ 283 と、前面装飾部材 281 の側開口部 281b に後側から嵌め込まれる一対の側レンズ 284 と、正面視の外形が前面装飾部材 281 と類似した形状とされ中央レンズ 282、インナーレンズ 283、及び一対の側レンズ 284 を前面装飾部材 281 とで挟持するように前面装飾部材 281 の後側に取付けられる本体部材 285 と、本体部材 285 の後側に配置され前面に複数のカラー LED 286a、286b が実装された上部装飾基板 286 と、正面視の外形が本体部と略同じ形状とされ上部装飾基板 286 を後側から覆うように本体部材 285 の後面に取付けられる基板カバー 287 と、を備えている。

10

【0130】

また、上部装飾ユニット 280 は、前面装飾部材 281 の下端から連続するように屈曲しながら後方へ延出し前端上部が前面装飾部材 281 に支持されると共に後端が扉枠ベースユニット 100 に取付けられ下方へ向かって貫通する一対の下開口部 288a を有した下面装飾部材 288 と、下面装飾部材 288 の下開口部 288a に上側から嵌め込まれ下面装飾部材 288 及び基板カバー 287 に固定される下レンズ 289 と、を備えている。なお、本例では、前面装飾部材 281 及び下面装飾部材 288 の表面に金属的な光沢を有したメッキ層が形成されている。なお、上部装飾基板 286 の LED 286a は、中央レンズ 282 と対応した位置に配置されていると共に、LED 286b は、側レンズ 284 及び下レンズ 289 と対応した位置に配置されており、中央レンズ 282 と、側レンズ 284 及び下レンズ 289 とを夫々別々に発光装飾させることができるようになっている。また、本例では、LED 286a がフルカラー LED とされていると共に、LED 286b が高輝度の白色 LED とされている。

20

【0131】

本例の上部装飾ユニット 280 における前面装飾部材 281 は、その中央開口部 281a の内周形状が、正面視で中央上端が左右へ延びた辺とされ中央下端が頂点とされ各辺が緩い円弧状に延びた変五角形状に形成されており、上辺両側の上側辺の略中央と下端頂点から中央開口部 281a 内へ延びだした三つの突出部を有している。また、前面装飾部材 281 は、中央開口部 281a の上側辺の外側に、斜め外側上方へ向かって延びる複数の筋彫りが形成されており、この筋彫りによって前面装飾部材 281 は中央開口部 281a から羽根が延びだしたような形状に形成されていると共に、筋彫りに沿うように側開口部 281b が形成されている。

30

【0132】

この前面装飾部材 281 の中央開口部 281a 内に嵌め込まれる中央レンズ 282 は、その外形が、中央開口部 281a と略同じ形状とされており、前方へ膨出した形状とされていると共に、その前面が互いに異なる方向を向いた複数の面によって多面体状に形成されている。本例の中央レンズ 282 は、透明（無色透明、有色透明）な樹脂によって形成されている。この中央レンズ 282 を前面装飾部材 281 の中央開口部 281a に嵌め込むことで、中央レンズ 282 がトリリアントカットされたような宝石に見えると共に、前面装飾部材 281 が宝石の台座に見えるようになっている。

40

【0133】

また、中央レンズ 282 の後側に配置されるインナーレンズ 283 は、中央レンズ 282 の後側の開口を閉鎖するように透明な樹脂で形成されていると共に、表面に微細なレンズ（又はプリズム）が複数形成されており、上部装飾基板 286 からの光を中央レンズ 282 側へ広く拡散させることができるようになっている。一方、前面装飾部材 281 の側開口部 281b 内に嵌め込まれる側レンズ 284 は、側開口部 281b へ嵌め込んだ状態で、その前面が前面装飾部材 281 の前面と略連続するよう透明な樹脂によって形成されている。なお、側レンズ 284 の裏面側には、インナーレンズ 282 と同様に、微細なレ

50

ンズ（又はプリズム）が複数形成されており、上部装飾基板 286 からの照射される光によって側レンズ 284 全体が略均一に発光することができるようになっている。

【0134】

なお、インナーレンズ 283 及び側レンズ 284 は、表面に形成された複数の微細なレンズ等によって、白濁したような感じとなっており、インナーレンズ 283 及び側レンズ 284 を通して後側が明確に見えないようになっている。

【0135】

上部装飾ユニット 280 の本体部材 285 は、前面装飾部材 281 の中央開口部 281a の形状に略沿った外形で前後方向へ筒状に延び前端開口が斜め下方へ向かって傾斜すると共に閉鎖された後端が斜め上方へ向かって傾斜する中央部 285a と、中央部 285a の両側に配置され閉鎖された後端が中央部 285a の後端と略同じ位置とされると共に前端が中央部 285a よりも短く延びた凹陷状の側部 285b と、中央部 285a 及び側部 285b の後端面を貫通し上部装飾基板 286 に実装された LED 286a, 286b と対応する位置に形成された複数の開口部 285c と、を備えている。この本体部材 285 は、後側に上部装飾基板 286 を配置すると、上部装飾基板 286 の LED 286a が開口部 285c 内に挿入配置されるようになっていると、LED 286a からの光が後側へ漏れないようになっている。また、本体部材 285 の中央部 285a 及び側部 285b は前側から後側へ窪んだ形状となっており、夫々に対応した LED 285a, 286b からの光が側方へ影響しないようになっている。

【0136】

また、上部装飾ユニット 280 の下面装飾部材 288 は、後方へ向かうに従って細くなるように形成されており、その左右の側面形状が、右サイド装飾ユニット 200 及び左サイド装飾ユニット 240 における上部スピーカカバー 226, 266 の上端枠 202c, 242c 寄り側の端部形状と略一致した形状とされていると共に、上部スピーカカバー 226, 266 の上端枠 202c, 242c 寄り側の端部が載置固定されるようになっている。なお、下レンズ 289 は、下面装飾部材 288 と上部スピーカカバー 226, 266 との間に挟持されるようになっている。また、下レンズ 289 へは、右サイド装飾ユニット 200 及び左サイド装飾ユニット 240 の上部スピーカブラケット 224, 264 を介して、右サイド上装飾基板 214 及び左サイド上装飾基板 254 からの光が供給されて発光するようになっている。

【0137】

[1-2E. サイドスピーカカバー]

次に、扉枠 5 における一対のサイドスピーカカバー 290 について、主に図 22 乃至図 25 を参照して説明する。このサイドスピーカカバー 290 は、扉枠ベースユニット 100 に取付けられたサイドスピーカ 130 の前面を被覆して装飾するものであり、右サイド装飾ユニット 200 及び左サイド装飾ユニット 240 の下端と、皿ユニット 300 との間に配置されるものである。

【0138】

このサイドスピーカカバー 290 は、扉枠ベースユニット 100 に取付けられたサイドスピーカ 130 の前面を覆うように湾曲した円盤状で複数の孔を有したカバー体 291 と、カバー体 291 の外周を前側から支持する円環状の開口部を有し右サイド装飾ユニット 200 及び左サイド装飾ユニット 240 の下端と連続するように形成された本体部材 292 と、本体部材 292 の下側に配置され皿ユニット 300 の下皿カバー 328 における左右後端と連続するように形成された下部部材 293 と、を備えている。なお、本例では、カバー体 291 が、所定のパンチングメタルによって形成されているので、表側から押されたり、叩かれたりしても、変形し難いようになっていると、サイドスピーカ 130 を可能な限り保護することができるようになっている。

【0139】

このサイドスピーカカバー 290 は、本体部材 292 の表面に金属的な光沢を有したメッキ層が形成されている。また、下部部材 293 は、後述する皿ユニット 300 における

下皿カバー 328 と同様の乳白色をした透光性の部材により形成されている。

【0140】

本例のサイドスピーカカバー 290 は、右サイド装飾ユニット 200 及び左サイド装飾ユニット 240 や、皿ユニット 300 とは独立して扉枠ベースユニット 100 の前面に取付けられるようになっており、扉枠ベース本体 110 の所定位置に形成された取付孔 110h (図 18 を参照) を通して、扉枠ベース本体 110 の後側から挿通された所定のビスにより扉枠ベース本体 100 へ固定されるようになっていている。

【0141】

これにより、扉枠 5 における防犯カバー 180 を外した上で、扉枠 5 の後側からサイドスピーカカバー 290 を取付けているビスを外すことで、サイドスピーカカバー 290 を前側へ取外することができ、更に、扉枠 5 の前側からスピーカブラケット 132 を取外すことで、サイドスピーカ 130 を取外することができるようになっている。従って、何らかの理由によりサイドスピーカ 130 を交換する必要性が生じた場合でも、扉枠 5 から右サイド装飾ユニット 200 及び左サイド装飾ユニット 240 や、皿ユニット 300 等を取外さなくてもサイドスピーカ 130 の前面を覆うサイドスピーカカバー 290 のみを簡単に取外すことができ、サイドスピーカ 130 を容易に交換することができるようになっている。

【0142】

このように、本例では、扉枠 5 における扉枠ベース本体 110 の前面で右サイド装飾ユニット 200、左サイド装飾ユニット 240 と皿ユニット 300 との間に取付けられたサイドスピーカ 130 を交換するには、まず、サイドスピーカカバー 290 におけるスピーカの前面に配置された本体部材 292 が扉枠ベース本体 110 に対して後側から脱着可能に取付けられているので、本体枠 3 の前面を閉鎖している扉枠 5 を前側へ開き、扉枠 5 の後側から扉枠ベース本体 110 に対する本体部材 292 の取付けを外した上で、本体部材 292 及びカバー体 291 を扉枠ベース本体 110 (扉枠 5) の前側へ移動させて扉枠 5 から取外すと、扉枠 5 の前側からサイドスピーカ 130 が臨むようになる。このサイドスピーカ 130 は、扉枠ベース本体 110 に対して前側から取付けられたスピーカブラケット 132 によって挟持されているので、本体部材 292 を取外した後に、扉枠 5 の前側から扉枠ベース本体 110 に対するスピーカブラケット 132 の取付けを外してサイドスピーカ 130 の挟持を解除し、更にサイドスピーカ 130 を前側へ移動させることで、左右のサイド装飾ユニット 200、240 や皿ユニット 300 を扉枠 5 (扉枠ベース本体 110) から取外さなくても扉枠 5 からサイドスピーカ 130 を取外することができると共に、扉枠 5 に取付けられたサイドスピーカ 130 を簡単に交換することが可能なパチンコ機 1 とすることができる。

【0143】

また、遊技中に遊技者等が扉枠 5 (サイドスピーカカバー 290) を叩いたりしてサイドスピーカ 130 が破損した場合でも、上述したように、扉枠 5 に取付けられたサイドスピーカ 130 を簡単に交換することができるので、サイドスピーカ 130 の交換による遊技の中断時間を可及的に短くすることができ、中断が長引くことで遊技者が苛付いたり関心が薄れたりして興趣を低下させてしまうのを抑制することができる。

【0144】

また、サイドスピーカ 130 を、スピーカブラケット 132 と扉枠ベース本体 110 とで挟持するようにしており、サイドスピーカ 130 に取付けるための取付片や取付孔等が無くてもサイドスピーカ 130 を扉枠 5 (扉枠ベース本体 110) へ取付けることができるので、サイドスピーカ 130 に取付片や取付孔等を備える必要が無く、サイドスピーカ 130 にかかるコストを低減させることができ、パチンコ機 1 にかかるコストが増加するのを抑制することができる。

【0145】

更に、サイドスピーカ 130 の前面を被覆するカバー体 291 を複数の貫通孔を有した金属板 (パンチングメタル) で形成しているので、遊技者等がカバー体 291 を叩いても、カバー体 291 が変形したり破損したりするのを可及的に低減させることができ、サイ

10

20

30

40

50

ドスピーカ130を十分に保護して不具合の発生を抑制することができると共に、パチンコ機1の耐久性を高めることができる。

【0146】

また、左右のサイド装飾ユニット200、240と皿ユニット300との間にサイドスピーカ130を覆うサイドスピーカカバー290を備えるようにしているので、サイドスピーカ130が比較的遊技者から近い位置に位置することとなり、遊技者等によって叩かれたりして破損する頻度が高くなる虞があるが、上述したように、サイドスピーカ130を簡単に交換することができ、遊技の中断時間を可及的に短くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。また、サイドスピーカ130を遊技者に対して可及的に近い位置に配置しているので、サイドスピーカ130から出力されるサウンドをより効率良く遊技者に聴かせることができ、迫力あるサウンドを提供することができると共に、サウンド演出を楽しませて遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

10

【0147】

また、サイドスピーカ130を左右のサイド装飾ユニット200、240と皿ユニット300との間に配置しているので、サイド装飾ユニット200、240による装飾の連続性を維持することができると共に、サイド装飾ユニット200、240と皿ユニット300との間を違和感無く繋ぐことができ、サイドスピーカカバー290によって見栄えが悪くなるのを防止して遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができる。また、サイドスピーカカバー290における本体部材292の表面形状を、サイド装飾ユニット200、240や皿ユニット300の表面形状と連続するように形成しているので、サイドスピーカカバー290をサイド装飾ユニット200、240や皿ユニット300と一体的な感じに見せることが可能となり、サイド装飾ユニット200、240等とは別にサイドスピーカ130を前面側に備えても遊技者に対して違和感を与え難くすることができ、扉枠5（パチンコ機1）の前面の意匠性を良好なものとするすることができる。

20

【0148】

更に、扉枠5からサイドスピーカカバー290の本体部材292を取外す際には、始めに扉枠5の後側に取付けられた防犯カバー180とガラスユニット590とを取外す必要があるので、本体部材292の取外しに若干時間がかかるようになり不正行為等を行おうとする者に対して取外作業を手間取らせることができると共に、比較的大きなガラスユニット590を取外すことで取外し作業を目立たせることができ、盗難行為や不正行為等を躊躇させて不正行為等に対する抑止力（安全性）の高いパチンコ機1とすることができるようにしている。

30

【0149】

[1-2F. 皿ユニット]

続いて、扉枠5における皿ユニット300について、主に図41乃至図44を参照して説明する。図41は、扉枠5における皿ユニットの正面斜視図であり、図42は、扉枠5における皿ユニットの背面斜視図である。また、図43は、皿ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図44は、皿ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【0150】

本実施形態の扉枠5における皿ユニット300は、後述する賞球装置740から払出された遊技球を貯留するための上皿301及び下皿302を備えていると共に、上皿301に貯留した遊技球を球送りユニット580を介して後述する打球発射装置650へ供給することができるものである。本例の皿ユニット300は、図43及び図44等に応示するように、扉枠ベースユニット100の下部前面に固定される左右方向延びた略板状の皿ユニットベース310と、皿ユニットベース310の前面略中央に固定され上方及び後方が開放され正面視左側（軸支側）が大きく前方へ膨出した皿状の上皿本体312と、上皿本体312の上部外周を覆うと共に前端が正面視で左右方向中央が前方へ突出するように湾曲状に形成された上皿上部パネル314と、上皿上部パネル314の上側前端縁に取付けられ上下方向に貫通した複数の開口部316aを有する上皿前部装飾部材316と、上皿前部装飾部材316と上皿上部パネル314との間に配置され上皿前部装飾部材316の開口部

40

50

316a内に嵌め込まれる複数の導光部318aを有した左右一対の上皿上部レンズ318と、上皿上部レンズ318とは上皿上部パネル314を挟んで反対側に配置されると共に上皿上部パネル314の下面に取付けられ上面に複数のカラーLED320a、322aが実装された上皿右装飾基板320及び上皿左装飾基板322と、上皿上部レンズ318と上皿上部パネル314との間に配置され上皿右装飾基板320及び上皿左装飾基板322からの光を上皿上部レンズ318側へ拡散させる複数の微細プリズムを有した上皿上部インナーレンズ319と、を備えている。

【0151】

また、皿ユニット300には、上皿本体312の下側で皿ユニットベース310の前面に固定され上方及び後方が開放されると共に正面視で左右方向中央が前方へ膨出し前端が左右方向中央へ向かうに従って低くなるように形成された皿状の下皿本体324と、下皿本体324の上部に固定され正面視で左右方向中央が下皿本体324と略同様に前方へ膨出し前端が左右方向中央へ向かうに従って高くなるように湾曲した板状の下皿天板326と、下皿天板326及び下皿本体324の前端に沿った開口部328aを有すると共に開口部328aの外周を覆う下皿カバー328と、下皿カバー328の左右両側に配置され前後方向に貫通した開口部330aを有する皿サイド中カバー330と、皿サイド中カバー330の開口部330aに後側から嵌め込まれる皿サイド中カバーレンズ332と、皿サイド中カバー330の左右両外側に配置され扉枠ベースユニット100の左右両端と対応する位置まで左右方向へ延びた皿サイド外カバー334と、を備えている。なお、正面視で右側に配置される皿サイド中カバー330には、その右端部に後述する錠装置100のシリンダ錠1010が臨む錠孔330bが形成されている。また、正面視で右側の皿サイド外カバー334には、前方からハンドル装置500が挿入されるハンドル挿通孔334aが形成されている。

【0152】

更に、皿ユニット300には、皿ユニットベース310及び上皿本体312に取付けられ上皿301に貯留された遊技球を下皿302へ抜くための上皿球抜き機構340と、下皿本体324の下面に取付けられ下皿302に貯留された遊技球を下方へ抜くための下皿球抜き機構350と、皿ユニットベース310の正面視で左側上部に取付けられパチンコ機1に隣接して設置された球貸し機（CRユニット6とも称す、図171を参照）を作動させる貸球ユニット360と、を備えている。

【0153】

本例の皿ユニット300は、皿ユニットベース310の一部、上皿本体312、及び上皿上部パネル314等によって遊技球を貯留可能な上皿301を構成している。また、皿ユニット300は、皿ユニットベース310の一部、下皿本体324、下皿天板326、及び下皿カバー328等によって遊技球を貯留可能な下皿302を構成している。

【0154】

この皿ユニット300における皿ユニットベース310は、図43に示すように、左右方向へ延びた略板状に形成されており、左右へ延びた上端縁には所定形状の形成された装飾部310aが備えられている。この装飾部310aの左端に前後方向へ貫通し貸球ユニット360を取付けるための貸球ユニット取付部310bが形成されている。この皿ユニットベース310は、貸球ユニット取付部310bの下側（正面視で左上隅部近傍）に配置され横長の矩形状で前後方向に貫通する上皿球供給口310cと、上皿球供給口310cよりも下側（皿ユニットベース310の高さ方向の略中間）で装飾部310aの右端近傍の下側に前後方向へ貫通し上下方向へ延びた上皿球排出口310dと、上皿球排出口310d及び上皿球供給口310cの直下に配置され前方へ突出すると共に上面が同じ高さとなされた一対の下皿支持部310eと、を備えている。なお、上皿球排出口310dは、直下に配置された下皿支持部310eの上面の前後方向中間位置まで連続して形成されている。

【0155】

また、皿ユニット300は、一対の下皿支持部310eの間に配置され下皿本体324

及び下皿天板 3 2 6 の後端と嵌合し正面視で横長の矩形環状に形成された下皿支持溝 3 1 0 f と、下皿支持溝 3 1 0 f によって囲まれた部位の中央右寄りの下部に配置され前後方向に貫通する矩形状の下皿球供給口 3 1 0 g と、を備えている。更に、皿ユニットベース 3 1 0 は、図 4 4 に示すように、下皿球供給口 3 1 0 g と連続するように後方へ筒状に延びた下皿球供給樋 3 1 0 h と、下皿球供給樋 3 1 0 h の開放側側面に形成され遊技球が通過可能な大きさの切欠部 3 1 0 i と、を備えている。

【0156】

この皿ユニットベース 3 1 0 の上皿球供給口 3 1 0 c は、扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース本体 1 1 0 及び補強ユニット 1 5 0 の切欠部 1 0 1 a、1 6 2 を介して扉枠ベースユニットの後側に取付けられるファールカバーユニット 5 4 0 の第一球出口 5 4 4 a と連通するようになっている。この上皿球供給口 3 1 0 c の前端には、正面視右方向へ長く延び後方へ窪んだ誘導凹部 3 1 0 j を備えている。この誘導凹部 3 1 0 j は、左右方向に対しては正面視右端側が若干低くなるように傾斜していると共に、前後方向に対しては前端側が低くなるように傾斜している。これにより、誘導凹部 3 1 0 j の前端と上皿本体 3 1 2 の底面との高低差は、誘導凹部 3 1 0 j 右端へ向かうほど高くなるようになっており、誘導凹部 3 1 0 j の右端では、上皿本体 3 1 2 の底面との高低差が遊技球の外径よりも若干高くなるようになっている。

【0157】

従って、本例では、上皿 3 0 1 内に貯留された遊技球によって上皿球供給口 3 1 0 c の前側が閉鎖された場合、ファールカバーユニット 5 4 0 を介して賞球装置 7 4 0 から払出された遊技球が、上皿球供給口 3 1 0 c から直線的に前方の上皿 3 0 1 内に出ることができなくなるので、払出された遊技球は上皿球供給口 3 1 0 c の前側を閉鎖した遊技球に当接してその転動方向が変化し、誘導凹部 3 1 0 j 内を正面視右方向へと転動するように誘導され、誘導凹部 3 1 0 j の右端付近から上皿 3 0 1 内に貯留された遊技球の上側へと放出されることとなる。これにより、上皿 3 0 1 内において遊技球を自動的に上下二段に貯留させることができるので、上皿球供給口 3 1 0 c の前を遊技球が塞いだ時に遊技者が手で遊技球を寄せなくても払出された遊技球を上皿 3 0 1 内に供給（放出）し続けることが可能となり、上皿 3 0 1 への遊技球の貯留に対して遊技者が煩わしく感じてしまうのを抑制することができ、遊技者を遊技球の打込操作や打ち込まれた遊技球による遊技に専念させて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができると共に、上皿 3 0 1 における遊技球の貯留量を多くすることができるようになっている。

【0158】

皿ユニットベース 3 1 0 の上皿球排出口 3 1 0 d は、上皿球抜き機構 3 4 0 における上皿球抜きベース 3 4 4 の開口部 3 4 4 a、及び扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース本体 1 1 0 の球送り開口 1 1 3、を介して扉枠ベースユニット 1 0 0 の後側に取付けられる球送りユニット 5 8 0 の進入口 5 8 1 a と連通するようになっている。更に、下皿球供給口 3 1 0 g は、その後側から後方へ延びた下皿球供給樋 3 1 0 h が、扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース本体 1 1 0 の球通過口 1 1 0 f を貫通して後方へ延出した上で、扉枠ベースユニット 1 0 0 の後側に取付けられるファールカバーユニット 5 4 0 の第二球出口 5 4 4 b に接続されていると共に、下皿球供給樋 3 1 0 h の切欠部 3 1 0 i が、上皿球抜き機構 3 4 0 における上皿球抜きベース 3 4 4 の球抜き流路 3 4 4 c と接続されている。

【0159】

なお、本例では、図示するように、下皿球供給口 3 1 0 g の前端には、正面視で左方向へ広がった拡口部 3 1 0 k を備えており、この拡口部 3 1 0 k によって下皿球供給口 3 1 0 g の前端が左右方向へ広がった状態となっている。これにより、下皿球供給口 3 1 0 g の前側に溜まった下皿 3 0 1 内の遊技球により下皿球供給口 3 1 0 g において早期に球詰りが発生してしまうのを抑制することができ、より多くの遊技球を下皿 3 0 1 内へ供給することができるようになっている。

【0160】

10

20

30

40

50

皿ユニット３００の上皿本体３１２は、正面視で中央よりも左側（軸支側）が前方へ膨出し、底面が全体的に左端側（開放側）及び後端側が低くなるように形成されている。この上皿本体３１２の底面は、軸支側の後端が皿ユニットベース３１０における上皿球供給口３１０ｃの底辺付近に、開放側の後端が皿ユニットベース３１０における上皿球排出口３１０ｄの上下方向中間位置付近に、夫々位置するように形成されており、上皿球供給口３１０ｃから上皿本体３１２（上皿３０１）に供給された遊技球が、上皿球排出口３１０ｄへ誘導されるようになっている。

【０１６１】

なお、上皿本体３１２は、底面の後端で左右方向中央から開放側に遊技球と接触可能な金属製の皿上皿レール３１２ａが取付けられている。この皿上皿レール３１２ａは、図示は省略するが、電気的に接地（アース）されており、遊技球に帯電した静電気を除去することができるようになっている。

10

【０１６２】

皿ユニット３００の上皿上部パネル３１４は、上皿本体３１２の上端から扉枠５の左右方向中央が前方へ突出するように湾曲状に延びだしており、上皿本体３１２の開放側よりも外側に上下方向へ貫通し後述する上皿球抜き機構３４０の上皿球抜きボタン３４１が取付けられる取付孔３１４ａが形成されている。この上皿上部パネル３１４は、前端に上皿本体３１２の上部前端よりも一段下がった段状に形成され上皿前部装飾部材３１６を取付けるための装飾取付部３１４ｂと、左右方向の中央で上皿本体３１２よりも前側の位置で装飾取付部３１４ｂよりも更に下がった段状に形成され後述する操作ユニット４００を取付けるための操作ユニット取付部３１４ｃと、を備えている。

20

【０１６３】

なお、詳細な説明省略するが、上皿上部パネル３１４の装飾取付部３１４ｂには、下面に取付けられる上皿右装飾基板３２０及び上皿左装飾基板３２２のＬＥＤ３２０ａ、３２２ａと対応した位置に上下方向に貫通する開口部や切欠部が形成されていると共に、操作ユニット取付部３１４ｃには、操作ユニット４００と周辺制御部４１４０とを接続する配線コードが通過可能な開口部等が形成されている。

【０１６４】

上部前部装飾部材３１６は、上皿上部パネル３１４の前端に沿って左右方向へ湾曲状に延びた形状とされ、その複数の開口部３１６ａに下側から上皿上部レンズ３１８の導光部３１８ａが嵌め込まれるようになっていると共に、上皿上部パネル３１４の装飾取付部３１４ｂに取付けることで上皿上部レンズ３１８を上皿上部パネル３１４とで挟持することができるようになっている。また、上皿上部レンズ３１８の下側には、表面に微細なレンズ（プリズム）を複数有した上皿上部インナーレンズ３１９が配置されており、上皿右装飾基板３２０や上皿左装飾基板３２２からの光を十分に拡散させて、上皿上部レンズ３１８全体を略均一に発光装飾させることができるようになっている。なお、図示するように、上皿前部装飾部材３１６における開口部３１６ａの内周形状が洋梨状に形成されており、開口部３１６ａに嵌め込まれる上皿上部レンズ３１８の導光部３１８ａも同様の形状とされ、この導光部３１８ａを嵌め込むことで、上皿前部装飾部材３１６の開口部３１６ａに、ペアシェイプカットされたような宝石が嵌め込まれたような外観を呈するようになっている。

30

40

【０１６５】

皿ユニット３００の下皿本体３２４は、平面視で前方へ扇状に広がり後端が左右方向へ直線状に形成され上面の略中央が最も低くなるように形成された底板３２４ａと、底板３２４ａの中央に上下方向へ貫通するように形成された下皿球抜き孔３２４ｂと、底板３２４ａの後端を除く前端及び側端から上方へ立上がる側板３２４ｃと、を備えている。この下皿本体３２４の側板３２４ｃは、底板３２４ａの側端から上方へ立上がった上端が、前側が最も低く後側へ向かうに従って高くなるように曲線状に形成されていると共に、底板３２４ａの側端から上方へ立上がった上端が直線状に形成されており、上端の直線状の部分に下皿天板３２６の左右両端が載置接続されるようになっている。

50

【0166】

この下皿本体324は、底板324a及び側板324cの後端が、皿ユニットベース310の前面に形成された下皿支持溝310f内に挿入支持されるようになっている。また、下皿本体324の下皿球抜き孔324bは、底板324aの裏面側に配置される下皿球抜き機構350の開閉シャッター352によって閉鎖されるようになっている。

【0167】

下皿カバー328は、正面視の外形が下側へ膨出し各辺が円弧の逆三角形形状に形成されており、中央に前後方向へ貫通する開口部328aを備えている。この開口部328aの内形は、下皿本体324及び下皿天板326の前端により形成される形状と一致した形状とされており、下皿302の開口を形成するものである。また、下皿カバー328は、透光性を有した乳白色の樹脂によって形成されていると共に、図示は省略するが、裏側にカラーLEDが所定間隔で配置されており、下皿カバー328全体を発光装飾させることができるようになっている。

10

【0168】

皿サイド中カバー330は、正面視で下皿カバー328の左右両外側に配置され、正面視で左右方向の略中央から扉枠5の側面まで下皿カバー328の下側側辺に沿って所定幅で延びており、扉枠5の側面まで延びた上部後端が扉枠ベースユニット100における扉枠ベース本体110の前面に取付けられるようになっている。この皿サイド中カバー330は、前後方向に貫通する開口部330aを備えており、開口部330a内に後側から皿サイド中カバーレンズ332が嵌め込まれるようになっている。更に、正面視で右側（開放側）の皿サイド中カバー330には、その外側端部（右側端部）付近で錠装置1000のシリンダ錠1010と対応した位置に前後方向に貫通する錠孔330bが形成されており、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態とすると、この錠孔330bからシリンダ錠1010の錠穴が臨むようになっている。

20

【0169】

この皿サイド中カバー330は、その前端下部から後方へ延出する底板部330cを更に備えており、この底板部330cの後端が扉枠ベースユニット100における扉枠ベース本体110の前面に取付けられるようになっている。また、皿サイド中カバー330の底板部330cによって下皿本体324の下側の一部が被覆されるようになっている。

【0170】

皿サイド外カバー334は、正面視で皿サイド中カバー330の左右両外側に配置され、正面視が扉枠5の側辺及び底辺に沿った略三角形形状とされており、後方及び上方に開放された箱状に形成されている。本例では、右側（開放側）の皿サイド外カバー334に、扉枠ベースユニット100におけるハンドルブラケット140のと対応した位置に前後方向へ貫通するハンドル挿通孔334aが形成されている。この皿サイド外カバー334は、扉枠ベースユニット100における扉枠ベース本体110の前面に取付けられるようになっていると共に、一部が皿ユニットベース310に取付けられるようになっている。また、皿サイド外カバー334及び皿サイド中カバー330によって下皿本体324の中央部を除く下側が被覆されるようになっている。

30

【0171】

皿ユニット300における上皿球抜き機構340は、上皿上部パネル314の取付孔314aに対して上下方向へ進退可能に取付けられる上皿球抜きボタン341と、上皿球抜きボタン341の操作に対して上皿球抜きボタン341の上下動よりも大きく上下動し皿ユニットベース310の前面側に支持される作動片342と、作動片342の上下動によって上下方向へスライドし後述する球送りユニット580における球抜き部材583の作動棒583cと当接する当接片343aを備え皿ユニットベース310の後側に配置される上皿球抜きスライダ343と、上皿球抜きスライダ343を上下方向へスライド可能に支持し皿ユニットベース310の後側に取付けられる上皿球抜きベース344と、を備えている。

40

【0172】

50

この上皿球抜き機構 340 は、詳細な図示は省略するが、上皿球抜きボタン 341 が上側の移動端に位置するように、上皿球抜きボタン 341 と伴に上下動する作動片 342 がコイルバネによって上方側へ付勢されている。また、上皿球抜きスライダ 343 は、上皿球抜きベース 344 との間に備えられたコイルバネによって上方側へ付勢された状態となっている。

【0173】

上皿球抜き機構 340 の上皿球抜きベース 344 は、皿ユニットベース 310 の上皿球排出口 310d を閉鎖すると同時に上皿球排出口 310d と連絡し前方へ向かって開口する開口部 344a (図 43 を参照) と、上皿球抜きベース 344 の裏面側で開口部 344a と連通し開口部 344a を通過した遊技球を下方へ誘導した後に後方へ誘導する球誘導流路 344b (図 42 及び図 44 を参照) と、球誘導流路 344b の下側から下方へ延出した後に上皿球抜きベース 344 の下辺に略沿って背面視で右側 (軸支側) の端部へ向かって延出し遊技球が流通可能とされた球抜き流路 344c と、を備えている。

10

【0174】

上皿球抜きベース 344 は、開口部 344a が上皿球排出口 310d と連通すると共に、開口部 344a と連通する球誘導流路 344b の下端が扉枠ベースユニット 100 における扉枠ベース本体 110 の球送り開口 113 を介して扉枠ベース本体 110 の後側に取付けられる球送りユニット 580 の進入口 581a と連通するようになっており、上皿 301 内に貯留された遊技球を、球送りユニット 580 へ供給することができるようになっている。

20

【0175】

また、上皿球抜きベース 344 の球抜き流路 344c は、球誘導流路 344b と隣接した上端が扉枠ベース本体 110 の球送り開口 113 を介して球送りユニット 580 の球抜口 581b と連通していると共に、軸支側へ延びた下端が皿ユニットベース 310 における下皿球供給樋 310h の切欠部 310i と連通しており、球送りユニット 580 の球抜口 581b から排出された遊技球を下皿 302 へ誘導することができるようになっている。なお、球抜き流路 344c の後端下部は上皿球抜き流路カバー 345 によって閉鎖されている。

【0176】

この上皿球抜き機構 340 は、コイルバネの付勢力に抗して上皿球抜きボタン 341 を下方へ押圧すると、上皿球抜きスライダ 343 が下方へスライドすると共に後方へ突出した当接片 343a も下方へ移動する。そして、当接片 343a の上面と当接する球送りユニット 580 における球抜き部材 583 の作動棒 583c は、当接片 343a が下方へ移動することで球抜き部材 583 の仕切部 583a が所定方向へ回動し、仕切部 583a によって仕切られた進入口 581a と球抜口 581b との仕切りが解除されて進入口 581a と球抜口 581b とが連通した状態となる。これにより、上皿 301 に貯留された遊技球は、上皿球排出口 310d から上皿球抜きベース 344 の開口部 344a 及び球誘導流路 344b を介して、球送りユニット 580 の進入口 581a へ進入した上で球抜口 581b から上皿球抜きベース 344 の球抜き流路 344c へと排出され、皿ユニットベース 310 の下皿球供給樋 310h を介して下皿球供給口 310g から下皿 302 へ排出することができるようになっている。

30

40

【0177】

なお、球送りユニット 580 の球抜き部材 583 は、その作動棒 583c がコイルバネによって上方へ付勢された上皿球抜きスライダ 343 における当接片 343a の上面と当接しているので、球抜き部材 583 の仕切部 581a 上に遊技球が勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棒 583c を介して上皿球抜きスライダ 343 を付勢するコイルバネによって吸収させることができ、球抜き部材 583 等が破損するのを防止することができる。また、遊技球が仕切部 583a で跳ね返るのを防止することができるようになっている。

【0178】

50

皿ユニット３００における下皿球抜き機構３５０は、下皿本体３２４の下側で正面視左右に配置された皿サイド中カバー３３０の底板部３３０同士の間配置される下皿球抜きベース３５１と、下皿球抜きベース３５１の上面に回転可能に軸支され下皿本体３２４の下皿球抜き孔３２４ｂを開閉可能な板状の開閉シャッター３５２と、開閉シャッター３５２を回転させると共に下皿球抜きベース３５１の上面に前後方向へスライド可能に支持された下皿球抜きスライダ３５３と、下皿球抜きスライダ３５３の前端に取付けられる下皿球抜きボタン３５４と、を備えている。

【０１７９】

この下皿球抜きベース３５１は、下皿本体３２４の下皿球抜き孔３２４ｂと対向する位置に上下方向に貫通したベース球抜き孔３５１ａを備えている。また、開閉シャッター３５２は、下皿球抜き孔３２４ｂを閉鎖可能な閉鎖部３５２ａと、閉鎖部３５２ａの前側に配置され下皿球抜き孔３２４ｂと略一致可能な上下方向に貫通したシャッター球抜き孔３５２ｂと、を備えており、下皿球抜きベース３５１との間でコイルバネによって閉鎖部３５２ａが下皿球抜き孔３２４ｂ及びベース球抜き孔３５１ａを閉鎖する位置となるように付勢されている。

10

【０１８０】

なお、詳細な図示は省略するが、開閉シャッター３５２は、下皿球抜きスライダ３５３と当接可能な当接ピンを備えており、この当接ピンが下皿球抜きスライダ３５３と当接することで、下皿球抜きスライダ３５３によって閉鎖部３５２ａ及びシャッター球抜き孔３５２ｂが後方へ移動するように回転させられたり、コイルバネの付勢力により下皿球抜きスライダ３５３を前方側へスライドさせたりすることができるようになっている。

20

【０１８１】

また、下皿球抜きボタン３５４は、図示するように、皿ユニット３００における下皿カバー３２８の左右方向中央下側で、左右の皿サイド中カバー３３０に挟まれた位置に配置されるようになっており、その表面形状が下皿カバー３２８や皿サイド中カバー３３０の表面形状に対して滑らかに連続するような形状とされている。

【０１８２】

また、下皿球抜き機構３５０は、開閉シャッター３５２のシャッター球抜き孔３５２ｂが、下皿本体３２４の下皿球抜き孔３２４ｂ及び下皿球抜きベース３５１のベース球抜き孔３５１ａと略一致した回転位置に保持するために、下皿球抜きスライダ３５３を所定位置に保持する保持機構３５５を、更に備えている。

30

【０１８３】

この下皿球抜き機構３５０は、下皿球抜きボタン３５４の表面形状が下皿カバー３２８等の表面形状と連続したような状態では、下皿球抜きボタン３５４が前方端へ移動した閉状態であり、開閉シャッター３５２の閉鎖部３５２ａによって下皿本体３２４の下皿球抜き孔３２４ｂが閉鎖された状態となっている。この状態で、下皿本体３２４（下皿３０２）内に遊技球を貯留することができるようになっている。閉状態の下皿球抜きボタン３５４を、後方へ押圧すると、下皿球抜きボタン３５４と下皿球抜きスライダ３５３とが後方へスライドすると共に、下皿球抜きスライダ３５３の後方へのスライドによって開閉シャッター３５２がコイルバネの付勢力に抗してその閉鎖部３５２ａ及びシャッター球抜き孔３５２ｂが後方へ移動するように回転することとなる。

40

【０１８４】

そして、開閉シャッター３５２が後方へ回転することでシャッター球抜き孔３５２ｂが下皿球抜き孔３２４ｂ及びベース球抜き孔３５１ａと重なるようになり、やがて、シャッター球抜き孔３５２ｂと下皿球抜き孔３２４ｂとが一致し、下皿３０２に貯留された遊技球を下皿球抜き孔３２４ｂを介して皿ユニット３００の下方へ排出することができる。なお、シャッター球抜き孔３５２ｂと下皿球抜き孔３２４ｂとが略一致する位置へ下皿球抜きスライダ３５３が後方へ移動すると、下皿球抜きスライダ３５３が保持機構３５５によってスライドが保持されるようになっており、下皿球抜きスライダ３５３のスライドがロック（保持）されることで下皿球抜きボタン３５４が後方へ後退した開状態のままとなる

50

と共に、シャッター球抜き孔 3 5 2 b が下皿球抜き孔 3 3 2 4 b と一致した状態で保持され、下皿球抜きボタン 3 5 4 を押し続けていなくても、下皿 3 0 2 に貯留された遊技球を下方へ排出することができるようになっている。

【0185】

一方、下皿球抜き孔 3 2 4 b を閉鎖する場合、後退した開状態の下皿球抜きボタン 3 5 4 を更に後方へ押圧すると、保持機構 3 5 5 による下皿球抜きスライド 3 5 3 の保持が解除されて、下皿球抜きスライド 3 5 3 がスライドすることができるようになり、コイルバネによって閉鎖部 3 5 2 a が下皿球抜き孔 3 2 4 b を閉鎖する方向へ付勢された開閉シャッター 3 5 2 が、その付勢力によって閉鎖部 3 5 2 a が下皿球抜き孔 3 2 4 b の方向（前方）へ移動する方向へ回転することとなる。そして、開閉シャッター 3 5 2 の前方への回転に伴って下皿球抜きスライド 3 5 3 が前方へスライドし、閉鎖部 3 5 2 a によって下皿球抜き孔 3 2 4 b が閉鎖されると共に、下皿球抜きボタン 3 5 4 が下皿カバー 3 2 8 等の前面と略一致した閉状態の位置に復帰し、下皿 3 0 2 内に遊技球を貯留することができるようになる。

【0186】

なお、下皿球抜き機構 3 5 0 の保持機構 3 5 5 は、上記の機能を有した公知の技術を用いており、その詳細な機構については、説明を省略する。

【0187】

皿ユニット 3 0 0 における貸球ユニット 3 6 0 は、後方へ押圧可能な貸球ボタン 3 6 1 及び返却ボタン 3 6 2 を備えていると共に、貸球ボタン 3 6 1 と返却ボタン 3 6 2 の間に貸出残表示部 3 6 3 を備えている。この貸球ユニット 3 6 0 は、パチンコ機 1 に隣接して設けられた球貸し機に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、貸球ボタン 3 6 1 を押すと、所定数の遊技球を皿ユニット 3 0 0 の上皿 3 0 1 内へ貸出す（払出す）ことができると共に、返却ボタン 3 6 2 を押すと貸出された分の残りを引いた上で投入した現金の残金やプリペイドカードが返却されるようになっている。また、貸出残表示部 3 6 3 には、球貸し機に投入した現金やプリペイドカードの残数が表示されるようになっている。

【0188】

この貸球ユニット 3 6 0 は、皿ユニットベース 3 1 0 における上端の装飾部 3 1 0 a に形成された球貸ユニット取付部 3 1 0 b に対して、後側から取付けられるようになっている。また、球貸ユニット 3 6 0 には、後面から後方へ突出し防犯カバー 1 8 0 における軸支側（正面視で左側）の装着弾性片 1 8 5 を装着係止する防犯カバー装着部 3 6 4 を備えている。

【0189】

本例の皿ユニット 3 0 0 は、上皿 3 0 1 と下皿 3 0 2 とを備えており、貯留皿を二つ備えた従前のパチンコ機と同様な感じのパチンコ機 1 とすることができるので、昔ながらのパチンコ機を髣髴とさせることができ、新しいパチンコ機 1（新機種のパチンコ機）でも遊技者に与える不安感等を低減させて遊技するパチンコ機として選択し易いパチンコ機 1 とすることができるようになっている。

【0190】

[1-2 G. 操作ユニット]

次に、扉枠 5 における操作ユニット 4 0 0 について、主に図 4 5 乃至図 5 0 を参照して説明する。図 4 5 は、扉枠における操作ユニットの正面斜視図であり、図 4 6 は、扉枠における操作ユニットの背面斜視図である。また、図 4 7 は、操作ユニットを分解して右前上方から見た分解斜視図であり、図 4 8 は、操作ユニットを分解して右前下方から見た分解斜視図である。更に、図 4 9 は、操作ユニットの断面図であり、図 5 0 は、操作ユニットにおける押圧操作部押した状態で示す断面図である。

【0191】

本実施形態の扉枠 5 における操作ユニット 4 0 0 は、正面視左右方向の略中央で上皿 3 0 1 の前面に配置され、遊技者が回転操作可能なダイヤル操作部 4 0 1 と、遊技者が押圧可能な押圧操作部 4 0 5 と、を備えており、遊技状態に応じて遊技者の操作を受けたり

10

20

30

40

50

、ダイヤル操作部４０１が可動したりすることができ、遊技者に対して遊技球の打込操作だけでなく、遊技中の演出にも参加することができるようにするものである。

【０１９２】

この操作ユニット４００は、円環状のダイヤル操作部４０１と、ダイヤル操作部４０１の円環内に挿入される円柱状の押圧操作部４０５と、ダイヤル操作部４０５の下端と連結される円環状の従動ギア４１０と、従動ギア４１０と噛合する円盤状の駆動ギア４１２と、駆動ギア４１２が回転軸に固定されるダイヤル駆動モータ４１４と、従動ギア４１０を回転可能に支持する円環状のギアレール４１６ａ、及び押圧操作部４０５を上下方向へ摺動可能に支持する円筒状のボタン支持筒４１６ｂを有した操作部保持部材４１６と、操作部保持部材４１６のボタン支持筒４１６ｂ内に配置され押圧操作部４０５を上方へ付勢するバネ４１８と、操作部保持部材４１６のギアレール４１６ａ及びボタン支持筒４１６ｂが通過可能な開口４２０ａを有し操作部保持部材４１６とダイヤル駆動モータ４１４とが下面に固定されるベース部材４２０と、ベース部材４２０の上面を覆いダイヤル操作部４０１の内筒部４０１ａが通過可能な開口４２２ａを有した上カバー４２２と、上カバー４２２の下側にベース部材４２０を挟むように取付けられベース部材４２０及びダイヤル駆動モータ４１４の下面を覆う下カバー４２４と、を主に備えている。

10

【０１９３】

また、操作ユニット４００は、上カバー４２２の上側を覆うようにベース部材４２０に固定されダイヤル操作部４０１の内筒部４０１ａが通過可能な開口４２６ａ、及び開口４２６ａの左右両側から外方へ延出し皿ユニット３００における操作ユニット取付部３１４ｃへ固定するための固定部４２６ｂを有したカバー本体４２６と、カバー本体４２６の上面を覆う表面カバー４２８と、ベース部材４２０の上面に取付けられ操作部保持部材４１６のボタン支持筒４１６ｂ及びダイヤル操作部４０１の内筒部４０１ａが通過可能な開口４３０ａを有し上面におけるダイヤル操作部４０１の円環と対応した位置に複数のカラーＬＥＤ４３０ｂが実装されたダイヤル装飾基板４３０と、ベース部材４２０の下側に固定され、ダイヤル操作部４０１の回転を検知する一対の回転検知センサ４３２ａ、４３２ｂ、押圧操作部４０５の操作を検知する押圧検知センサ４３２ｃ、及び押圧操作部４０５の直下の上面に実装されたカラーＬＥＤ４３２ｄを有したボタン装飾基板４３２と、を備えている。

20

【０１９４】

本例の操作ユニット４００におけるダイヤル操作部４０１は、透光性を有した素材により形成されており、上下方向へ延びた筒状の内筒部４０１ａと、内筒部４０１ａの上端から外方へ延出し表面に所定の装飾が施された円環状の天板部４０１ｂと、天板部４０１ｂの外周端から下方へ筒状に延出し内筒部４０１ａよりも短い外筒部４０１ｃと、外筒部４０１ｃの下端から外側へ環状に延出する鍔部４０１ｄと、を主に備えている。このダイヤル操作部４０１における鍔部４０１ｄの外径は、上カバー４２２における開口４２２ａの内径よりも大径とされている。また、ダイヤル操作部４０１は、内筒部４０１ａの下端に連結係止部（図４８を参照）を備えており、従動ギア４１０の連結係止爪４１０ｂが係止されることで、ダイヤル操作部４０１と従動ギア４１０とを連結することができるようになっている。

30

40

【０１９５】

更に、ダイヤル操作部４０１は、上端から所定距離下がった位置に内筒部４０１ａの内壁から中心方向へ突出した突出部４０１ｆを更に備えている。ダイヤル操作部４０１の突出部４０１ｆは、内筒部４０１ａの内周に沿って環状に形成されている。この突出部４０１ｆは、詳細は後述するが、押圧操作部４０５におけるボタンキャップ４０７の段部４０７ａと当接することができるようになっており、ボタンキャップ４０７の段部４０７ａがダイヤル操作部４０１の突出部４０１ｆと当接することで、ボタンキャップ４０７（押圧操作部４０５）がこれ以上内筒部４０１ｅ内へ没入するのを防止することができるようになっている（図５０を参照）。

【０１９６】

50

なお、図示するように、ダイヤル操作部401の突出部401fと、押圧操作部405におけるボタンキャップ407の段部407aは、互いの当接面が、ダイヤル操作部401の中心へ向かうに従って低くなるような傾斜面とされており、互いが当接した時の接触面積が大きくなるようになっている。これにより、押圧操作部405からの荷重をダイヤル操作部401側へより多く分散させる（逃がす）ことができると共に、ダイヤル操作部401からの振動を押圧操作部405側へ伝え易くすることができるようになっている。

【0197】

また、操作ユニット400における押圧操作部405は、上端が閉鎖された円筒状に形成されており、有底筒状のボタン本体406と、ボタン本体406の上端を閉鎖するボタンキャップ407と、ボタンキャップ407の内側に配置されボタン本体406の上端とボタンキャップ407の間に挟持されるキャップインナ408と、を備えている。この押圧操作部405のボタン本体406は、底部下面が下方へ向かうに従って窄まる円錐台形状とされており、この円錐台形状の下面にコイル状のバネ418の上端が挿入されるようになっていると共に、円錐台形状の下端面中央に上下方向に貫通する貫通孔406aを備えており、この貫通孔406aを通してボタン装飾基板432のLED432dからの光がボタンキャップ407及びボタンインナ408へ照射されるようになっている。

【0198】

また、ボタン本体406は、外周下部から下方へ向かって延出し下端が軸直角方向外方へ突出した一対の係止爪406bを有しており、この係止爪406bが操作部保持部材416のボタン支持筒416b内に形成された係止凸部416f（図49及び図50を参照）と係止することで、ボタン本体406がボタン支持部416bから抜けないように、上方への移動端を規制することができるようになっている。また、詳細な図示は省略するが、操作部保持部材416におけるボタン支持筒416b内には、ボタン本体406の係止爪406bが周方向へ移動するのを阻止する当接部を備えており、ボタン本体406（押圧操作部405）が、ボタン支持筒416b内で回転しないようになっている。なお、ボタン本体406の係止爪406bと、ボタン支持筒416b内の当接部との間には、周方向へ所定量の隙間が形成されており、その隙間によって、ボタン本体406が所定角度範囲内で回転することができるようになっている。

【0199】

また、ボタン本体406は、係止爪406bとは外周下部の異なる位置から下方へ延出しボタン装飾基板432の押圧検知センサ432cによって検知可能な押圧検知片406cを備えている。この押圧検知片406cは、バネ418の付勢力に抗してボタン本体406（押圧操作部405）が下方へ移動すると、押圧検知センサ432cによって検知されるようになっている。

【0200】

更に、押圧操作部405のボタンキャップ407は、図示するように、上下方向の略中央よりも下側の外径が上側よりも小径とされており、上側と下側との間に段部407aが形成されている。このボタンキャップ407（押圧操作部405）は、段部407aよりも下側が、ダイヤル操作部401における突出部401fの内径よりも小径とされていると共に、段部407aよりも上側が、ダイヤル操作部401の内筒部401aの内径よりも小径で突出部401fの内径よりも大径とされている。これにより、ボタンキャップ407（押圧操作部405）を、ダイヤル操作部401の上側から内筒部401a内へ挿入すると、ボタンキャップ407の段部407aがダイヤル操作部401の突出部401fに当接して、ボタンキャップ407（押圧操作部405）がこれ以上内筒部401e内へ没入することができないようになっている（図50を参照）。

【0201】

更に、押圧操作部405のボタンキャップ407及びキャップインナ408は、透光性環有した素材によって形成されている。キャップインナ408の上面には「Push」の文字が表示されており、その文字がボタンキャップ407を通して外側から視認することができるようになっている。

10

20

30

40

50

【0202】

操作ユニット400における従動ギア410は、円環状の外周に駆動ギア412と噛合する複数のギア歯を備えている。この従動ギア410は、その内径が操作部保持部材416におけるボタン支持筒416bの外径よりも若干大径とされていると共に、下面に操作部保持部材416のギアレール416aと当接する円環状の摺動面410aを備えている。この摺動ギア410をボタン支持筒416bへ挿入すると共に、摺動面410aをギアレール416a上に当接させることで、摺動ギア410がボタン支持筒416bと略同心状に摺動回転することができるようになっている。

【0203】

また、従動ギア410は、上端の対向する位置から上方へ延出した上で内側へ向かって突出する一対の連結係止爪410bを備えており、この連結係止爪410bがダイヤル操作部401における内筒部401aの連結係止部401eと係止することで、従動ギア410とダイヤル操作部401とが一体回転可能に連結されるようになっている。

10

【0204】

また、従動ギア410は、下端から下方へ突出し周方向に一定間隔で列設された複数の回転検知片410cを備えている。これら回転検知片410cは、ボタン装飾基板432に取付けられた一対の回転検知センサ432a、432bによって検知されるようになっており、詳細は後述するが、回転検知片410cと回転検知片410c同士の間形成されたスリット410dとにより、回転検知片410cに対する各回転検知センサ432a、432bの検知パターンによって従動ギア410すなわちダイヤル操作部401の回転方向を検知することができるようになっている。なお、本例では、回転検知片410cとスリット410dにおける周方向の長さが、略同じ長さとしてされている。

20

【0205】

また、操作ユニット400における駆動ギア412は、図示するように、従動ギア410と噛合する平歯車とされており、ダイヤル駆動モータ414の回転軸と一体回転可能に固定されている。また、ダイヤル駆動モータ414は、回転方向、回転速度、及び回転角度を任意に制御可能な公知のステッピングモータとされており、ダイヤル駆動モータ414によって回転軸を介して駆動ギア412を回転駆動させることで、従動ギア410を介してダイヤル操作部401を回転させることができるようになっている。また、ダイヤル駆動モータ414によって駆動ギア412（回転軸）を小刻みに正転・逆転を繰返させることで、ダイヤル操作部401を振動させるようにすることができる。また、回転検知センサ432a、432bからの検知信号等に基づいて所定回転角度毎にダイヤル駆動モータ414の回転を短時間停止させるようにすることで、ダイヤル操作部401の回転操作に対して、クリック感を付与することができるようになっている。

30

【0206】

更に、操作ユニット400における操作部保持部材416は、従動ギア410を回転可能に支持する円環状のギアレール416aと、ギアレール416aの内側から上方へ筒状に突出し内部に押圧操作部405のボタン本体406を上下方向へ摺動可能に支持するボタン支持筒416bと、ボタン支持筒416b内の底部近傍の内周面に形成されボタン本体406に係止爪406bと係止可能な係止凸部416f（図49及び図50を参照）と、ボタン支持筒416b内の底部中央を貫通しボタン装飾基板432に実装されたLED432dからの光をボタン支持筒416b内（押圧操作部405）へ送る貫通孔416cと、ボタン支持筒416bよりも外側の底部を上下方向に貫通しボタン装飾基板432に取付けられた回転検知センサ432a、432bが通過可能な開口部416dと、ボタン支持筒416b内の底部を上下方向に貫通しボタン装飾基板432に取付けられた押圧検知センサ432cが上側から望む開口部416eと、下面から下方へ延出しボタン装飾基板432に係止保持するための一対の基板保持爪416fと、を備えている。

40

【0207】

また、操作部保持部材416は、詳細な図示は省略するが、ボタン支持筒416b内に配置され、ボタン本体406に係止爪406bに対して周方向へ所定量の隙間を形成する

50

と共に係止爪 406b と当接可能とされた複数の当接部を更に備えている。この当接部によって、ボタン本体 406（押圧操作部 405）が、所定角度範囲内で回転することができると共に、ボタン支持筒 416b 内でグルグルと回転しないようになっている。更に、操作部保持部材 416 は、詳細な説明は省略するが、ベース部材 420 へ固定するためのビス孔や、ベース部材 420 やボタン装飾基板 432 との位置決めをするための位置決めボス等が適宜位置に備えられている。

【0208】

この操作部保持部材 416 は、ボタン支持筒 416b の外周に従動ギア 410 を挿通させてギアレール 416a 上に載置することで、従動ギア 410（ダイヤル操作部 401）を所定の回転軸を中心として摺動回転可能に支持することができるようになっている。また、ボタン支持筒 416b 内に押圧操作部 405 のボタン本体 406 を挿入することで、ボタン本体 406 を介して押圧操作部 405 を上下方向へ摺動可能に支持することができるようになっている。なお、ボタン支持筒 416b 内の底部とボタン本体 406 の円錐台状の下面と間に、コイル状のバネ 418 が配置されるようになっており、このバネ 418 によって、ボタン本体 406（押圧操作部 405）が上方へ向かって付勢された状態となっている。

【0209】

操作ユニット 400 におけるベース部材 420 は、アルミ合金等の金属により形成されており、ダイヤル操作部 401 や押圧操作部 405 を強く叩いても操作ユニット 400 が破損し難いようになっている。このベース部材 420 は、操作部保持部材 416 の外周が嵌合可能とされ上方へ向かって窪んだ下部凹部 420b と、下部凹部 420b の底部（天井部）を上下方向に貫通し操作部保持部材 416 のギアレール 416a が通過可能な内形とされた開口 420a と、開口 420a を挟んで下部凹部 420b とは反対側に配置され少なくとも従動ギア 410 を収容可能な下方へ向かって窪んだ上部凹部 420c と、を備えている。また、ベース部材 420 は、図 48 に示すように、下部凹部 420b の外側に下方へ向かって開放されダイヤル駆動モータ 414 を取付けるためのモータ取付部 420d と、下部凹部 420b の外側から下方へ向かって所定量突出する複数（本例では四つ）の脚部 420e と、各脚部 420e の下端に下方へ向かって開口する位置決め孔 420f と、を備えている。

【0210】

また、ベース部材 420 は、上部凹部 420c の外側に上方に配置されるカバー本体 426 を固定するための複数のカバー固定部 420g と、カバー固定部 420g とは上部凹部 420c の外側の異なる位置から上方へ突出しダイヤル装飾基板 430 を取付けるための複数の基板取付ボス 420h と、を備えている。更に、ベース部材 420 は、詳細な説明は省略するが、その上面及び下面の適宜位置に、各部材の位置決めをするための位置決めボスや、取付孔等が形成されている。

【0211】

このベース部材 420 は、中央の開口 420a に対して、下側からボタン支持筒 416b 及びギアレール 416a が通過するように下部凹部 420b 内に操作部保持部材 416 を嵌合挿入した上で、所定のビスを上側から下部凹部 420b の天井部を通して操作部保持部材 416 にねじ込むことで、操作部保持部材 416 を支持することができるようになっている。ベース部材 420 は、詳細な図示は省略するが、操作部保持部材 416 を支持した状態では、ギアレール 416a の上端が下部凹部 420b の天井部の上面、つまり、上部凹部 420c の底面よりも僅かに上方へ突出した状態となるようになっており、ギアレール 416a 上に載置される従動ギア 410 が、上部凹部 420c 内で問題なく摺動回転することができるようになっている。

【0212】

また、ベース部材 420 の脚部 420e は、その下端に形成された位置決め孔 420f が、後述する下カバー 424 における底部の上面に形成された位置決め突起 424a と嵌合するようになっており、ベース部材 420 と下カバー 424 とが互いに決められた位置

10

20

30

40

50

に位置決めすることができるようになっている。また、ベース部材 420 の基板取付ボス 420h は、上部凹部 420c 内に收容配置された従動ギア 410 よりも上方の位置まで突出しており、基板取付ボス 420h 上に取付けられたダイヤル装飾基板 430 が、従動ギア 410 と接触しないようになっている。

【0213】

更に、ベース部材 420 は、モータ取付部 420d にダイヤル駆動モータ 414 を取付けることで、ダイヤル駆動モータ 414 の上面と面で接触するようになっており、ダイヤル駆動モータ 414 からの熱をベース部材 420 側へ充分に伝達させることができ、ダイヤル駆動モータ 414 の熱を、ベース部材 420 によって放熱させることができるようになっている。これにより、ダイヤル駆動モータ 414 の過熱を抑制させることができ、過熱によりダイヤル駆動モータ 414 等に不具合が発生するのを防止することができるようになっている。

10

【0214】

操作ユニット 400 の上カバー 422 は、下方が開放された箱状で、その天板にダイヤル操作部 401 の外筒部 401c が通過可能で鏝部 401d が通過不能とされた内径の開口 422a を備えている。この上カバー 422 は、平面視で、押圧操作部 405（従動ギア 410）の軸心と、ダイヤル駆動モータ 414（駆動ギア 412）の軸心とを結ぶ方向（パチンコ機 1 における左右方向）が長く伸びたように形成されており、その長軸方向両端に下方へ突出した係合爪 422b を備えており、この係合爪 422b を下カバー 424 の係合部 424b に係合させることで、上カバー 422 と下カバー 424 とを組立てることができるようになっている。

20

【0215】

また、上カバー 422 は、短軸方向（パチンコ機 1 における前後方向）の一方（パチンコ 1 における前側）の外周から下方へ延出した上で下端が外側へ突出した爪状の係止片 422c を備えている。この係止片 422c は、皿ユニット 300 における上皿前部装飾部材 316 と係止することができるようになっており、係止片 422c を上皿前部装飾部材 316 に係止させることで、操作ユニット 400 が操作ユニット取付部 314c から上方へ抜けるのを阻止することができるようになっている。

【0216】

この上カバー 422 は、ベース部材 420 に、操作部保持部材 416、従動ギア 410、ダイヤル装飾基板 430、及びダイヤル部材 401 等を取付けた状態で、開口 422a に対して下側からダイヤル操作部 401 が通るようにベース部材 420 の上方を覆うことで、開口 422a によってダイヤル操作部 401 が上方へ抜けるのを防止することができるようになっている。

30

【0217】

一方、操作ユニット 400 の下カバー 424 は、上方が開放された箱状で、外周形状が上カバー 422 の外周と略一致した形状とされており、底部上面の所定位置にベース部材 420 における脚部 420d 下端の位置決め孔 420f と嵌合可能な位置決め突起 424a を備えている。この下カバー 424 は、長軸方向（パチンコ機 1 における左右方向）両端の上部に、上カバー 422 の係合爪 422b と係合可能な係合部 424b を備えており、この係合部 424b に係合爪 422b を係合させることで、下カバー 424 に上カバー 422 を取付けることができるようになっている。

40

【0218】

操作ユニット 400 におけるカバー本体 426 は、図示するように、中央に上下方向に貫通しダイヤル操作部 401（鏝部 401d を除く）が通過可能な開口 426a と、開口 426a の左右両側から外方へ延出し皿ユニット 300 の操作ユニット取付部 314c に固定される固定部 426b と、開口 426a の外周下面から下方へ延出しベース部材 420 のカバー固定部 420g に固定される固定ボス 426c と、を備えている。

【0219】

本例の操作ユニット 400 は、カバー本体 426 の固定部 426b を介して皿ユニット

50

300に取付けられるようになっており、詳細な図示は省略するが、皿ユニット300の操作ユニット取付部314cに取付けた状態では、操作ユニット400（下カバー424）の下面が操作ユニット取付部314cの上面よりも若干浮いた状態（例えば、0.5mm～2.0mm）で取付けられるようになっており、操作ユニット400を押圧操作した場合や叩いた場合に、カバー本体426が弾性変形して衝撃を緩和させることができるようになっている。

【0220】

なお、この操作ユニット400は、表面カバー428を外した状態で、皿ユニット300の操作ユニット取付部314cに対して、カバー本体426の固定部426bを所定のビスで取付け、その後、カバー本体426の上面に表面カバー428を取付けるような構造となっている。

10

【0221】

本実施形態の操作ユニット400は、ダイヤル操作部401と共に回転する従動ギア410の回転検知片410cが、隣接する回転検知片410c同士の間のスリットにおける周方向の長さと、回転検知片410cの周方向の長さが同じ長さとされている。また、ボタン装飾基板432に取付けられた一对の回転検知センサ432a、432bは、ダイヤル操作部401に対応した周方向の間隔が、回転検知片410の周方向における長さの2.5倍の間隔とされている。これにより、詳細は後述するが、遊技者がダイヤル操作部401を回転操作することで、一对の回転検知センサ432a、432bによる回転検知片410cの検知・非検知にタイムラグが発生し、各回転検知センサ432a、432bによる回転検知片410cの検知パターンから、ダイヤル操作部401が何れの方向に回転しているのかを検知することができるようになっている。

20

【0222】

また、本例の操作ユニット400は、詳細は後述するが、ダイヤル駆動モータ414の駆動力によって、ダイヤル操作部401を時計回りや、反時計周りの方向へ回転させることができるようになっている。また、操作ユニット400は、ステッピングモータを用いたダイヤル駆動モータ414の駆動力によって、ダイヤル操作部401を、カクカクと段階的に回転させたり、遊技者がダイヤル操作部401を回転操作した時に、その回転を補助したり、わざと回らないようにしたり、回転にクリック感を付与したりすることができるようになっている。更に、操作ユニット400は、ダイヤル駆動モータ414を小刻みに正転・逆転を繰返させることで、ダイヤル操作部401を振動させるようにすることができるようになっている。

30

【0223】

また、本例の操作ユニット400は、図50に示すように、押圧操作部405を下方へ押圧すると、ボタンキャップ407の段部407aがダイヤル操作部401の突出部401fへ当接して、ボタンキャップ407（押圧操作部405）がこれ以上内筒部401e内へ没入することができないようになっているので、押圧操作部405へ加えられた荷重を、段部407a及び突出部401fを介してダイヤル操作部401側へ分散させることができ、押圧操作部405（操作ユニット400）が壊れ難いようになっている。

【0224】

40

更に、本例の操作ユニット400は、押圧操作部405を押圧してボタンキャップ407の段部407aとダイヤル操作部401の突出部401fとが当接した状態で、ダイヤル駆動モータ414を小刻みに正転・逆転を繰返させることで、ダイヤル操作部401と共に押圧操作部405も振動させるようにすることができ、押圧操作部405の振動によって遊技者を驚かせて遊技や演出を楽しませることができるようになっている。

【0225】

本例の操作ユニット400によると、遊技者が回転操作可能なダイヤル操作部401と押圧操作可能な押圧操作部405とを、金属製のベース部材420によって支持するようにしており、操作ユニット400の強度を高めることができるので、遊技者等が操作部401、405を強く叩いても、操作ユニット400が破損するのを防止することができ、

50

遊技者に対して操作部４０１，４０５を自由に操作させることができると共に、操作部４０１，４０５の操作性を向上させることができ、操作部４０１，４０５を用いた演出を楽しませて遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【０２２６】

また、円環状のダイヤル操作部４０１の中心に押圧操作部４０５を配置するようにしており、押圧操作部４０５を強く叩こうとすると、蓋然的に、ダイヤル操作部４０１も叩くこととなり、操作部４０１，４０５を叩く力をダイヤル操作部４０１と押圧操作部４０５とに分散させることができ、叩いた衝撃が集中するのを抑制して、操作ユニット４００や皿ユニット３００が破損するのを防止することができるので、操作ユニット４００の操作部４０１，４０５を強打に耐え得るものとするのが可能となり、遊技者に対して操作部４０１，４０５を自由に操作させることができ、操作部４０１，４０５の操作性を向上させることができると共に、操作部４０１，４０５を用いた演出を楽しませて、遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

10

【０２２７】

また、操作ユニット４００のベース部材４２０等を皿ユニット３００の凹んだ操作ユニット取付部内３１４ｃに收容すると共にベース部材４２０の下端と操作ユニット取付部３１４ｃの底面との間で所定量の隙間が形成されるように、ベース部材４２０に取付けられたカバー本体４２６を皿ユニット３００の上面に固定しており、操作ユニット４００の操作部４０１，４０５を叩いて衝撃をかけたり、荷重をかけたりした場合、操作ユニット４００の下端が操作ユニット取付部３１４ｃの底面と当接するまでは、カバー本体４２６の弾性変形によって衝撃や荷重を吸収することができ、操作ユニット４００の下端が操作ユニット取付部３１４ｃの底面と当接した後は、操作ユニット取付部３１４ｃの底部（皿ユニット３００）によって衝撃や荷重を受けることができるので、操作部４０１，４０５からの衝撃等を分散させて衝撃等が集中するのを回避させることができ、操作ユニット４００及び皿ユニット３００による耐衝撃性や耐荷重性を高めることができる。

20

【０２２８】

更に、操作部４０１，４０５を支持する位置から離れた位置に下方へ突出した複数の脚部４２０ｅをベース部材４２０に備えるようにしており、ベース部材４２０の脚部４２０ｅが皿ユニット３００における操作ユニット取付部３１４ｃの底面と当接して、操作部４０１，４０５からの衝撃がベース部材４２０にかかっても、衝撃の直下に脚部４２０ｅが配置されていないので、ベース部材４２０における操作部４０１，４０５を支持した部位が衝撃によって撓むこととなり、ベース部材４２０が撓む（弾性変形する）ことで操作部４０１，４０５からの衝撃をある程度吸収することができ、ベース部材４２０から皿ユニット３００へかかる衝撃を減少させて皿ユニット３００が破損するのを防止することができる。

30

【０２２９】

また、ベース部材４２０に下側から取付けられる操作部保持部材４１６によって、ダイヤル操作部４０１の一部が平面視でベース部材４２０と重なるようにダイヤル操作部４０１を保持するようにしているので、ダイヤル操作部４０１を上側から強打した時に、ダイヤル操作部４０１を保持する操作部保持部材４１６がベース部材４２０から外れて下方へ移動しても、ベース部材４２０の上面にダイヤル操作部４０１が当接してベース部材４２０によりダイヤル操作部４０１の下方への移動を規制することができ、ダイヤル操作部４０１が落ち込んでしまうのを良好に防止することができる。

40

【０２３０】

更に、中心に押圧操作部４０５を配置したダイヤル操作部４０１を、遊技状態に応じてダイヤル駆動モータ４１４により回転させるようにしているので、勝手に回転（振動も含む回転駆動）するダイヤル操作部４０１によって、遊技者を驚かせて操作部４０１，４０５による演出に注目させることができ、遊技者を楽しませることができると共に、ダイヤル操作部４０１をダイヤル駆動モータ４１４によって適宜駆動させることで、ダイヤル操作部４０１（押圧操作部４０５）を用いた演出をより多様なものとして飽き難くすること

50

ができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【0231】

また、ダイヤル操作部401を従動ギア410及び駆動ギア412を介してダイヤル駆動モータ414によって回転させるようにしており、蓋然的に、ダイヤル駆動モータ414の回転軸の位置をダイヤル操作部401（従動ギア410）の回転軸の位置に対して偏芯した位置とすることができるので、ダイヤル操作部401や押圧操作部405が強く叩かれても、その衝撃がダイヤル操作部401の回転軸を介して直接ダイヤル駆動モータ414にかかるのを回避させることができ、ダイヤル駆動モータ414（操作ユニット400）が破損するのを防止することができる。

【0232】

更に、ベース部材420の開口420aをダイヤル操作部401よりも小径とした上で、その開口420aを通して操作部保持部材416のギアレール416aによりダイヤル操作部401を支持するようにしているので、ダイヤル操作部401からの衝撃や荷重によってギアレール416a（操作部保持部材416）が下方へ移動しても、ダイヤル操作部401がベース部材420の開口420a上面に当接することができ、ダイヤル操作部401がベース部材420よりも落ち込んでしまうのを確実に防止することができる。また、ダイヤル操作部401を円環状のギアレール416aによって支持するようにしているので、ダイヤル操作部401と操作部保持部材416（ギアレール416a）との接触面積を増加させることができ、ダイヤル操作部401からの衝撃や荷重を分散させて操作部保持部材416が破損するのを防止することができる。

【0233】

また、ダイヤル操作部401を回転駆動させるダイヤル駆動モータ414を金属製のベース部材420に取付けるようにしているので、ダイヤル駆動モータ414によりダイヤル操作部401を頻繁に回転駆動させたり、ダイヤル駆動モータ414により回転駆動させられているにも関わらず遊技者によってダイヤル操作部401の回転が強制的に停止させられていたりすることで、ダイヤル駆動モータ414に対する過度の負荷により発熱量が多くなっても、ダイヤル駆動モータ414から発生する熱を、ベース部材420を介して良好に発散・放熱させることができ、過熱によってダイヤル駆動手段414に不具合が発生するの防止することができると共に、ダイヤル駆動手段414を高い負荷に耐えられるようにすることが可能となり、上述したようなダイヤル駆動手段414を用いたダイヤル操作部401の演出を十分に具現化することができ、遊技者を楽しませられるパチンコ機1とすることができる。

【0234】

更に、ダイヤル操作部401の回転を検知する回転検知センサ432a、432bと、押圧操作部405の押圧を検知する押圧検知センサ432cと、を備えるようにしており、ダイヤル操作部401や押圧操作部405の回転操作や押圧操作を検知することができるので、その検知信号に基いて遊技者の操作に応じた演出を行うことが可能となり、操作部401、405を操作する遊技者に対してより一体感の有る演出を提供することができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、操作部401、405を発光装飾させるためのダイヤル装飾基板430やボタン装飾基板432を備えるようにしており、操作部401、405を発光装飾させることができるので、操作部401、405を発光させることで、遊技者の関心を操作部401、405に引付けることができ、遊技者に対して操作部401、405を操作させ易くすることができる。

【0235】

また、操作ユニット400における押圧操作部405を押圧した時に、押圧操作部405の段部407aとダイヤル操作部401の突出部401fとが互いに接触するようにしているので、遊技者が押圧操作部405を押圧した時に、ダイヤル駆動モータ414によりダイヤル操作部401を所定角度範囲内で正転・逆転を繰返させて振動させることで、ダイヤル操作部401の突出部401fと接触した段部407aを介して押圧操作部40

10

20

30

40

50

5も振動させることができる。従って、押圧操作部405を振動させるためのバイブレータ等を別途備えなくても、遊技者に対して押圧操作405に対する操作感を付与することができるので、操作ユニット400を用いた演出を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、押圧操作部405を押圧操作した時に押圧操作部405が振動するので、勝手には動かないと思っていた押圧操作部405が動くことで遊技者を大きく驚かせることができ、何か良いことがあるのではないかと思わせることが可能となり、遊技に対する期待感を高めて興味が低下するのを抑制することができる。従って、従来の操作部と違ってダイヤル操作部401や押圧操作部405が勝手に動くことで遊技者の関心を操作ユニット400へ強く引付けることができ、操作ユニット400を用いた演出へ参加させ易くすることができると共に、遊技者に対して操作ユニット400を積極的に操作させることができ、操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405の操作を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

10

【0236】

更に、押圧操作部405を押圧操作した時に、押圧操作部405とダイヤル操作部401とが互いに接触するようにしているので、押圧操作部405からの力をダイヤル操作部401側へ伝達させることが可能となり、押圧操作部405を強打された場合でも、押圧操作部405にかかった荷重や衝撃をダイヤル操作部401側にも分散させることができ、押圧操作部405に対する耐荷重性や耐衝撃性を高めることができる。従って、押圧操作部405を強打しても、押圧操作部405が破損するのを防止することができるので、押圧操作部405（操作ユニット400）の破損によって遊技が中断してしまうのを回避させることができ、遊技の中断によって遊技者の遊技に対する興味が低下するのを防止することができる。

20

【0237】

また、押圧操作部405を、上下方向へ延びた軸心周りに対して所定角度範囲内のみ回転可能に支持するようにしており、遊技者が押圧操作部405を押圧操作した時に、ダイヤル駆動モータ414によってダイヤル操作部401を回転駆動させても、押圧操作部405がダイヤル操作部401と一緒に回転しようとするのを防止することができるので、遊技者に対して操作ユニット400におけるダイヤル操作部401と押圧操作部405の夫々の役割を確実に認識させることができ、遊技者に対して操作ユニット400を用いた演出を楽しませ易くすることができると共に、押圧操作部405の上面に案内された「PUSH」の文字が回ったり大きく傾いたりすることがなく遊技者側から読み易くすることができ、遊技者に対して押圧操作部405が押圧操作するものであることを確実に認識させることができる。

30

【0238】

また、ダイヤル操作部401における内筒部401aの内周から軸心側へ突出した突出部401fを備えると共に、押圧操作部405の外周面に上下方向の所定位置よりも下側を小径とすることで形成する段部407aを備えるようにしているので、操作ユニット400の上端ではダイヤル操作部401の内筒部401aの内周面と押圧操作部405の外周面とを可及的に近付けることができ、ダイヤル操作部401と押圧操作部405との隙間を可及的に小さくして見栄えを良くすることができると共に、ダイヤル操作部401と押圧操作部405との隙間を介して操作ユニット400内へゴミや埃等の異物の侵入をし難くすることができ、異物の侵入によってダイヤル操作部401が回転し難くなったり、押圧操作部405を押圧し難くなったりする不具合の発生を防止することができる。

40

【0239】

更に、操作ユニット400における押圧操作部405とダイヤル操作部401との接触部位を円環状に形成しており、押圧操作部405を押圧操作した際に、ダイヤル操作部401に対して周方向のどの位置でも接触することができるので、押圧操作部405が傾くような感じで押圧（押圧操作部405の中心よりも外周へ偏った位置を押圧）されても、確実にダイヤル操作部401と接触させることができ、ダイヤル操作部401を介してダイヤル駆動モータ414からの回転駆動を押圧操作部405へ確実に伝達させることがで

50

きる。また、ダイヤル操作部401と押圧操作部405とが円環状に接触するので、押圧操作部405からの荷重を広くダイヤル操作部401側へ分散させることができ、押圧操作部405に対する耐荷重性や耐衝撃性をより高めることができる。

【0240】

また、操作ユニット400における押圧操作部405とダイヤル操作部401との接触部位を、ダイヤル操作部401の回転軸心の方へ向かって低くなるように傾斜させているので、傾斜していない場合と比較して相対的に接触面積を増やすことができ、ダイヤル操作部401を介してダイヤル駆動モータ414からの駆動力を押圧操作部405側へ伝達させ易くすることができる。また、押圧操作部405からの荷重を、回転軸心の延びた方向に対して直角方向の外側方向へ放射状に分散させることができ、荷重が集中するのを防止して、操作ユニット400における耐荷重性や耐衝撃性を確実に高めることができると共に、操作ユニット400の耐久性を高めることができ、遊技中に不具合が発生するのを可及的に低減させて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

10

【0241】

更に、操作ユニット400のダイヤル駆動モータ414を、正転・逆転可能なステッピングモータとしているので、ダイヤル操作部401を単に回転させるだけでなく、簡単に所定位置で停止させたり、正転、逆転の繰返しにより簡単に振動させたりすることができ、上記の作用効果を奏する操作ユニット400（パチンコ機1）を確実に具現化することができる。

【0242】

20

また、遊技球を貯留する上皿301を備えた皿ユニット300に操作ユニット400を支持させるようにしているので、蓋然的に、多数の遊技球を貯留するために皿ユニット300の強度剛性が高くなっており、操作ユニット400（押圧操作部405）への強打に対しても充分に対応することができ、操作ユニット400を用いた演出を楽しませ易くすることができる。

【0243】

[1-2H. ハンドル装置]

次に、扉枠5におけるハンドル装置500について、主に図51を参照して説明する。図51は、扉枠5におけるハンドル装置を分解した後から見た分解斜視図である。本実施形態のハンドル装置500は、図示するように、皿ユニット300における皿サイド外カバー334のハンドル挿通孔334aを通して扉枠ベースユニット100における扉枠ベース本体110の前面に取付けられたハンドルブラケット140に固定され円筒状で前端が軸直角方向へ丸く膨出したハンドルベース502と、ハンドルベース502に対して相対回転可能にハンドルベース502の前側に配置される環状の回転ハンドル本体後504と、回転ハンドル本体後504の前面に固定され回転ハンドル本体後504と一体回転可能とされた回転ハンドル本体前506と、回転ハンドル本体前506の前面に配置されると共にハンドルベース502に固定され、ハンドルベース502と協働して回転ハンドル本体前506及び回転ハンドル本体後504を回転可能に支持する前端カバー508と、を備えている。

30

【0244】

40

また、ハンドル装置500は、回転ハンドル本体前の回転中心に前側から後側へ突出するように取付固定され後端に非円形の軸受部510aを有した軸部材510と、軸部材510の軸受部510aと嵌合し回転可能とされた検知軸部512aを有しハンドルベース502の前面に回転不能に嵌合される回転位置検知センサ512と、回転位置検知センサ512をハンドルベース502とで挟むようにハンドルベース502の前面に固定され回転位置検知センサ512の検知軸512aが通過可能な貫通孔514aを有したセンサ支持部材514と、センサ支持部材514の後面に取付けられるタッチセンサ516と、タッチセンサ516とはセンサ支持部材514の後面の異なる位置に取付けられる発射停止スイッチ518と、センサ支持部材514に対して回転可能に軸支され発射停止スイッチ518を作動させる単発ボタン520と、軸部材510の外周を覆うように配置され回転

50

ハンドル本体前506及び回転ハンドル本体後504を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰するように付勢するハンドル復帰バネ522と、を備えている。

【0245】

本例のハンドル装置500のハンドルベース502は、図示するように、前端側は前側へ広がった半球状に丸く膨出した形状とされていると共に、後端側は後端が開放された円筒状に形成されており、後端側の円筒状の外周に、軸方向へ延びた三つの溝部502aが形成されている。ハンドルベース502の三つの溝部502aは、ハンドルブラケット140における筒部141内の三つの突条143と対応するように、上側に一つ、下側に二つ、周方向に対して不等間隔に配置されている。このハンドルベース502は、溝部502aが突条143と嵌合するように、ハンドルブラケット140の筒部141内に挿入することで、回転不能な状態で支持されるようになっている。

10

【0246】

ハンドル装置500は、回転ハンドル本体前506に、その回転軸と同心円状に配置された円弧状のスリット506aが形成されていると共に、前端カバー508に、後方へ突出する三つの取付ボス508aが形成されており、これら取付ボス508aが回転ハンドル本体前506のスリット506aを通してハンドルベース502の前面に固定されるようになっている。これにより、回転ハンドル本体前506におけるスリット506aの周方向端部が、前端カバー508の取付ボス508aに当接することで、回転ハンドル本体504、506の回転範囲が規制されるようになっている。

20

【0247】

また、ハンドル装置500は、回転ハンドル本体前506に、後方へ突出する係止突部506bが形成されており、この係止突部506bにコイル状のハンドル復帰バネ522の一端側（前端側）が係止されるようになっていると共に、ハンドル復帰バネ522の他端側（後端側）がセンサ支持部材514に係止されるようになっており、ハンドル復帰バネ522によって回転ハンドル本体504、506が正面視で反時計周りの方向へ回動するように付勢されている。

【0248】

本例のハンドル装置500は、扉枠ベース本体110のハンドル取付部114に対して、ハンドルブラケット140を介して取付けられるようになっている。この扉枠ベース本体110のハンドル取付部114は、上方から見た平面視において、その取付面が、外側（開放側）を向くように傾斜しているため、ハンドルブラケット140を介して取付けられるハンドル装置500も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機1の前面垂直面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機1の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠5に取付固定されるようになっている。これにより、遊技者がハンドル装置500を握り易く、回動動作に違和感がなく回動操作が行い易いようになっている。

30

【0249】

また、ハンドル装置500は、回転位置検知センサ512が可変抵抗器とされており、回転ハンドル本体504、506（ハンドル装置500）を回転させると、軸部材510を介して回転位置検知センサ512の検知軸部512aが回転することとなる。そして、検知軸部512aの回転角度に応じて回転位置検知センサ512の内部抵抗が変化し、回位置検知センサ512の内部抵抗に応じて後述する打球発射装置650における発射ソレノイド654の駆動力が変化して、ハンドル装置500の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技領域1100内へ打ち込まれるようになっている。

40

【0250】

なお、回転ハンドル本体504、506や前端カバー508の外周表面は、導電性のメッキが施されており、遊技者が回転ハンドル本体504、506等に接触することでタッチセンサ516が接触を検出するようになっている。そして、タッチセンサ516が遊技者の接触を検出している時に、回転ハンドル本体504、506が回動すると、その回動に応じた強さで発射ソレノイド654の回転駆動が制御されて、遊技球を打ち込むことが

50

できるようになっている。つまり、遊技者がハンドル装置500を触らずに、何らかの方法でハンドル装置500を回転させて遊技球の打ち込みを行おうとしても、発射ソレノイド654は駆動されず、遊技球を打ち込むことができず、遊技者が本来とは異なる遊技をすることを防止してパチンコ機1を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができるようになっている。

【0251】

また、遊技者がハンドル装置500を回転操作中に、単発ボタン520を押圧すると、発射停止スイッチ518が単発ボタン520の操作を検知し、発射制御部4120によって発射ソレノイド654の回転駆動が停止させられるようになっている。これにより、ハンドル装置500の回転操作を戻さなくても、遊技球の発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン520の押圧操作を解除することで、単発ボタン520を操作する前の打込強さで遊技球を発射することができるようになっている。

10

【0252】

本例のハンドル装置500は、回転ハンドル本体504、506の回転操作を回転位置検知センサ512によって電氣的に検知した上で、その回転位置検知センサ512からの回転位置の検知に基いて、発射制御部4120で発射ソレノイド654の回転駆動強さを制御するようにしているので、従来のパチンコ機のように、扉枠5に備えられるハンドル装置500と、本体枠3に備えられる打球発射装置650とを、扉枠5の閉鎖時には互いに連係し、扉枠5の開放時には連係が解除されるように機械的（例えば、ジョイントユニット）な機構を備える必要が無く、パチンコ機1に係る構成を簡略化することができると共に、ジョイントユニットでの不具合の発生をなくすことができ、遊技球の打込不具合によって遊技者の興味が低下するのを抑制することができるようになっている。

20

【0253】

[1-2I. ファールカバーユニット]

次に、扉枠5におけるファールカバーユニット540について、主に図52乃至図54を参照して説明する。図52は、扉枠5におけるファールカバーユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図53は、扉枠5におけるファールカバーユニットを分解して後から見た分解斜視図である。また、図54は、ファールカバーユニットの前カバーを外した状態で示す正面図である。

【0254】

扉枠5におけるファールカバーユニット540は、扉枠ベースユニット100における遊技窓101よりも下側の後面に取付けられ、後述する賞球ユニット700から払出された遊技球や、打球発射装置650により発射されにも関わらず遊技領域1100内へ到達しなかった遊技球（ファール球）を、皿ユニット300の上皿301や下皿302へ誘導するものである。本例のファールカバーユニット540は、前側が開放され複数の遊技球の流路を内部に有したカバーベース542と、カバーベース542の前端を閉鎖する前カバー544と、を備えている。

30

【0255】

このファールカバーユニット540のカバーベース542は、図53に示すように、背面視で右上隅に配置され前後方向に貫通する第一球入口542aと、第一球入口と連通しカバーベース542の前端に向かうに従って正面視右側へ広がる第一球通路542bと、第一球入口542aの外側（背面視で右側）に配置され第一球入口542aよりも大口の第二球入口542cと、第二球通路542dと連通しカバーベース542の内部で、下方へ延びた上で正面視右下隅へ向かって低くなるように傾斜した第二球入口542cと、を備えている。この第一球入口542a及び第二球入口542cは、扉枠5を本体枠3に対して閉じた状態で、賞球ユニット700における満タン分岐ユニット770の通常球出口774及び満タン球出口776と夫々対向する位置に形成されている。なお、カバーベース542における第二球通路542dは、図示するように、下端に沿って左右方向へ延びた部分の高さが、遊技球の外径に対して約3倍の高さとされており、所定量の遊技球を収容可能な収容空間546が形成されている。

40

50

【0256】

また、カバーベース542は、左右方向の略中央上部に配置され上方に開口したファール球入口542eと、ファール球入口542eと連通し第二球通路542dの下流付近の上部へ遊技球を誘導可能なファール球通路542fと、を備えている。また、カバーベース542は、第二球入口542cの下側の後面に球出口開閉ユニット790の開閉シャッター792を作動させるための開閉作動片542gを、備えている。この開閉作動片542gは、扉枠5を本体枠3に対して閉じた時に、球出口開閉ユニット790における開閉クランク793の球状の当接部793dと当接することで、開閉クランク793を回転させて開閉シャッター792を開状態とすることができるものである。

【0257】

ファールカバーユニット540の前カバー544は、カバーベース540の前面を閉鎖する略板状に形成されており、正面視左上隅に配置されカバーベース540の第一球通路542bと連通し前後方向に貫通した第一球出口544aと、正面視右下隅に配置されカバーベース540の第二球通路の下流端と連通し前後方向に貫通した第二球出口544bと、を備えている。前カバー544の第一球出口544aは、扉枠ベースユニット100の切欠部101aを通して皿ユニット300の上皿球供給口310cと接続されるようになっている。また、第二球出口544bは、扉枠ベース本体110の球通過口110fを通して皿ユニット300における下皿球供給樋310hの後端が接続されるようになっている。

【0258】

本例のファールカバーユニット540は、賞球ユニット700における満タン分岐ユニット770の通常球出口774から第一球入口542aへ供給された遊技球を、第一球通路542bを通して第一球出口544aから皿ユニット300の上皿球供給口310cを介して上皿101へ供給することができるようになっている。また、ファールカバーユニット540は、賞球ユニット700における満タン分岐ユニット770の満タン球出口776から第二球入口542cへ供給された遊技球を、第二球通路542dを通して第二球出口544bから皿ユニット300の下皿球供給樋310h及び下皿球供給口310gを介して下皿302へ供給することができるようになっている。

【0259】

更に、ファールカバーユニット540は、詳細は後述するが、扉枠5を本体枠3に対して閉じた状態とすると、ファール球入口542eが本体枠3のファール空間626の下部に位置するようになり、打球発射装置650により発射された遊技球が遊技領域1100内へ到達せずにファール球となってファール空間626を落下すると、ファール球入口542eによって受けられるようになっている。そして、ファールカバーユニット540は、ファール球入口542eに受けられた遊技球を、ファール球通路542f及び第二球通路542dを通して第二球出口544bから皿ユニット300の下皿302へ排出（供給）することができるようになっている。

【0260】

また、本例のファールカバーユニット540は、第二球通路542dにおける収容空間546の上流側（正面視左側）側面を形成し収容空間546内に貯留された遊技球によって揺動可能にカバーベース542に軸支された揺動部材548と、揺動部材548の揺動を検知する満タン検知センサ550と、揺動部材548が満タン検知センサ550によって非検知状態となる方向へ付勢するバネ552と、を備えている。この揺動部材548は、図54に示すように、カバーベース542に対して下端が回動可能に軸支されていると共に、上端が正面視左側へ回動するようになり、略垂直な状態で収容空間546の左側側壁を形成するようになっている。また、揺動部材548は、バネ552によって略垂直状態となる位置へ付勢されている。また、動揺部材548は、収容空間546側とは反対側の側面に外側へ突出する検知片548aが形成されており、この検知片548aが満タン検知センサ550によって検知されるようになっている。

【0261】

更に、ファールカバーユニット 5 4 0 は、第二球通路 5 4 2 d における収容空間 5 4 6 の底部に配置されるアースレール 5 5 4 と、カバーベース 5 4 2 の背面視で右端と、左端を夫々被覆する板状のアース金具 5 5 6 と、を備えており、遊技球の流通による転動抵抗によって発生する静電気を除去することができるようになっている。

【0 2 6 2】

本例では、賞球ユニット 7 0 0 から払出された遊技球が満タン分岐ユニット 7 7 0 の通常球出口 7 7 4 からファールカバーユニット 5 4 0 を介して皿ユニット 3 0 0 の上皿 3 0 1 へ供給されるようになっており、上皿 3 0 1 内が満杯となっても更に遊技球が賞球ユニット 7 0 0 から払出されると、ファールカバーユニット 5 4 0 の第一球通路 5 4 2 b 内で滞り、更に満タン分岐ユニット 7 7 0 における通常球出口 7 7 4 の上流の通常通路 7 7 3 内も一杯になると、満タン分岐ユニット 7 7 0 の分岐空間 7 7 2 を介して満タン通路 7 7 5 側へ遊技球が流通するようになり（図 7 9 を参照）、満タン分岐ユニット 7 7 0 の満タン球出口 7 7 6 からファールカバーユニット 5 4 0 の第二球入口 5 4 2 c、第二球通路 5 4 2 d、及び第二球出口 5 4 4 b を介して皿ユニット 3 0 0 の下皿 3 0 2 へ供給されるようになる。

10

【0 2 6 3】

そして、皿ユニット 3 0 0 の下皿 3 0 2 内が遊技球で一杯になると、ファールカバーユニット 5 4 0 の第二球出口 5 4 4 b から遊技球が出られなくなり、第二球通路 5 4 2 d 内の収容空間 5 4 6 内に滞った遊技球が貯留されることとなる。更に、賞球ユニット 7 0 0 から遊技球が払出されて収容空間 5 4 6 内に遊技球が多く貯留されるにつれて、遊技球の貯留圧が揺動部材 5 4 8 に作用し、バネ 5 5 2 の付勢力に抗して揺動部材 5 4 8 の上端が左方へと移動することとなる。そして、揺動部材 5 4 8 の検知片 5 4 8 a が、満タン検知センサ 5 5 0 によって検知されると、払出制御基板 4 1 1 0 において賞球ユニット 7 0 0 から遊技球の払出しが停止されると共に、遊技者に対して皿ユニット 3 0 0 内の遊技球を外部へ排出するのを促す通知を行うようになっている。

20

【0 2 6 4】

なお、収容空間 5 4 6（下皿 3 0 2）内の遊技球が排出されて、揺動部材 5 4 8 がバネ 5 5 2 の付勢力によって略垂直な状態に復帰すると、満タン検知センサ 5 5 0 による検知片 5 4 8 a の検知が非検知となり、賞球ユニット 7 0 0 からの遊技球の払出しが再開されるようになっている。

30

【0 2 6 5】

[1-2 J. 球送りユニット]

続いて、扉枠 5 における球送りユニット 5 8 0 について、主に図 5 5 及び図 5 7 を参照して説明する。図 5 5 は、扉枠 5 における球送りユニットの正面斜視図である。図 5 6 は、扉枠 5 における球送りユニットの背面斜視図である。また、図 5 7 は、球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図である。図 5 8 は、球送りユニットの後ケースを外して後から見た分解斜視図である。扉枠 5 における球送りユニット 5 8 0 は、皿ユニット 3 0 0 における上皿 3 0 1 から供給される遊技球を一つずつ打球発射装置 6 5 0 へ供給することができると共に、上皿 3 0 1 内に貯留された遊技球を、上皿球抜き機構 3 4 0 の上皿球抜きボタン 3 4 1 の操作によって下皿 3 0 2 へ抜くことができるものである。

40

【0 2 6 6】

この球送りユニット 5 8 0 は、皿ユニット 3 0 0 の上皿 3 0 1 に貯留された遊技球が、皿ユニットベース 3 1 0 の上皿球排出口 3 1 0 d、扉枠ベース本体 1 1 0 の球送り開口 1 1 3 を通して供給され前後方向に貫通した進入口 5 8 1 a、及び進入口 5 8 1 a の下側に開口する球抜口 5 8 1 b を有し後方が開放された箱状の前カバー 5 8 1 と、前カバー 5 8 1 の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通し前カバー 5 8 1 の進入口 5 8 1 a から進入した遊技球を打球発射装置 6 5 0 へ供給するための打球供給口 5 8 2 a を有した後カバー 5 8 2 と、後カバー 5 8 2 及び前カバー 5 8 1 の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー 5 8 1 の後側で進入口 5 8 1 a と球抜口 5 8 1 b との間を仕切る仕切部 5 8 3 a を有した球抜き部材 5 8 3 と、球抜き部材 5 8 3 の仕

50

切部 5 8 3 a 上の遊技球を一つずつ後カバーの打球供給口 5 8 2 a へ送り前カバー 5 8 1 と後カバー 5 8 2 との間で上下方向へ延びた軸周りに回転可能に支持された球送り部材 5 8 4 と、球送り部材 5 8 4 を回転させる球送ソレノイド 5 8 5 と、を備えている。本例では、図示するように、正面視で、球送り部材 5 8 4 が進入口 5 8 1 a の右側に配置されており、この球送り部材 5 8 4 の左側に球抜き部材 5 8 3 が右側に球送ソレノイド 5 8 5 が夫々配置されている。

【0267】

この球送りユニット 5 8 0 の前カバー 5 8 1 は、正面視で球抜口 5 8 1 b の左側に、球抜き部材 5 8 3 の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット 5 8 1 c を備えており、このスリット 5 8 1 c から後述する球抜き部材 5 8 3 の作動棒 5 8 3 c が前方へ延びだすようになっている。また、前カバー 5 8 1 は、進入口 5 8 1 a の上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠ベースユニット 1 0 0 へ組立てた際に、上皿球抜きベース 3 4 4 における球誘導流路 3 4 4 b の後端開口を閉鎖するように形成されている。

10

【0268】

また、球抜き部材 5 8 3 は、進入口 5 8 1 a よりも下側で進入口 5 8 1 a と球抜口 5 8 1 b と間を仕切り上面が球送り部材 5 8 4 の方向へ向かって低くなる仕切部 5 8 3 a と、仕切部 5 8 3 a の球送り部材 5 8 4 とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中間付近から球抜口 5 8 1 b の下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持される回転棒部 5 8 3 b と、回転棒部 5 8 3 b の上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棒 5 8 3 c と、作動棒 5 8 3 c よりも下側で回転棒部 5 8 3 b の側面から仕切部 5 8 3 a とは反対側へ突出した錘部 5 8 3 d と、を備えている。この球抜き部材 5 8 3 の作動棒 5 8 3 c は、前カバー 5 8 1 に形成された円弧状のスリット 5 8 1 c を通して前方へ突出するように形成されており（図 5 5 を参照）、扉枠ベース本体 1 1 0 の球送り開口 1 1 3 を介して皿ユニット 3 0 0 の上皿球抜き機構 3 4 0 における上皿球抜きスライダ 3 4 3 の当接片 3 4 3 a の上端と当接するようになっている。

20

【0269】

更に、球送り部材 5 8 4 は、進入口 5 8 1 a 及び球抜き部材 5 8 3 の仕切部 5 8 3 a の方向を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部 5 8 4 a と、遮断部 5 8 4 a の後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部 5 8 4 b と、球保持部 5 8 4 b の後端から下方へ延出する棒状の棒部 5 8 4 c と、を備えている。この球送り部材 5 8 4 における遮断部 5 8 4 a と球保持部 5 8 4 b は、夫々回転軸芯を中心とした約 90° の角度範囲内に夫々形成されている。また、球送り部材 5 8 4 の球保持部 5 8 4 b は、一つの遊技球を保持可能な大きさとされている。この球送り部材 5 8 4 は、球送ソレノイド 5 8 5 の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棒部 5 8 4 c が左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回転するようになっている。

30

【0270】

球送り部材 5 8 4 は、遮断部 5 8 4 a が仕切部 5 8 3 a の方向を向くと同時に球保持部 5 8 4 b が打球供給口 5 8 2 a と連通した方向を供給位置と、球保持部 5 8 4 b が仕切部 5 8 3 a の方向へ向いた保持位置との間で回転するようになっている。この球送り部材 5 8 4 が供給位置の時には、球保持部 5 8 4 b に保持された遊技球が、打球供給口 5 8 2 a から打球発射装置 6 5 0 へ供給されると共に、進入口 5 8 1 a から仕切部 5 8 3 a 上に進入した遊技球が、遮断部 5 8 4 a によって球保持部 5 8 4 b （打球供給口 5 8 2 a ）側への移動が遮断されて仕切部 5 8 3 a 上に留まった状態となる。一方、球送り部材 5 8 4 が保持位置へ回転すると、球保持部 5 8 4 b が仕切部 5 8 3 a の方向を向くと共に、球保持部 5 8 4 b の棒部 5 8 4 c 側の端部が打球供給口 5 8 2 a を閉鎖した状態となり、仕切部 5 8 3 a 上の遊技球が一つだけ球保持部 5 8 4 b 内に保持されるようになっている。

40

【0271】

また、球送りユニット 5 8 0 は、球送ソレノイド 5 8 5 の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送り作動桿 5 8 6 と、球送り作動桿 5 8 6 における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回転すると共に、球送り部材 5 8 4 を

50

上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送りクランク５８７と、を備えている。この球送りクランク５８７は、球送り作動桿５８６の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部５８７ａと、係合部５８７ａの球送り作動桿５８６と係合する側とは反対側に配置され前カバー５８１と後カバー５８２との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部５８７ｂと、軸部５８７ｂから上方へ延出し球送り部材５８４における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部５８４ｃ（図５７を参照）と係合する伝達部５８７ｃと、を備えている。なお、本例では、球送ソレノイド５８５と球送り作動桿５８６とが一体的に形成されたフラッパーソレノイドを用いている。

【０２７２】

本例の球送りユニット５８０は、球送り作動桿５８６及び球送りクランク５８７によって、上下方向へ進退する球送ソレノイド５８５の駆動により揺動する球送り作動桿５８６の動きを伝達させて球送り部材５８４を回動させることができるようになっている。なお、球送ソレノイド５８５の非駆動時（通常時）では、球送り作動桿５８６が球送ソレノイド５８５の下端から離れて揺動する先端が下方へ位置した状態となるようになっている、この状態では球送り部材５８４が供給位置に位置した状態となる。また、球送ソレノイド５８５の駆動時では、球送り作動桿５８６が球送ソレノイド５８５の下端に吸引され揺動する先端が上方へ位置した状態となり、球送り部材５８４が保持位置へ回動するようになっている。つまり、球送ソレノイド５８５が駆動される（ＯＮの状態）と球送り部材５８４が遊技球を一つ受入れ、球送ソレノイド５８５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と球送り部材５８４が受入れた遊技球を打球発射装置６５０側へ送る（供給する）ようになっている。この球送りユニット５８０における球送ソレノイド５８５の駆動は、発射制御部４１２０により発射ソレノイド６５４の駆動制御と同期して制御されるようになっている。

【０２７３】

また、本例の球送りユニット５８０における回動可能に軸支された球抜き部材５８３は、錘部５８３ｃによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっているが、前方へ突出した作動棹５８３ｃが皿ユニット３００の上皿球抜き機構３４０における上皿球抜きスライダ３４３の当接片３４３ａの上端と当接することで、その回動が規制されるようになっており、通常時では、球抜き部材５８３の仕切部５８３ａが進入口５８１ａと球抜口５８１ｂとの間を仕切って、球抜口５８１ｂ側へ遊技球が侵入しないようになっている。そして、遊技者が、皿ユニット３００における上皿球抜き機構３４０の上皿球抜きボタン３４１を下方へ押圧操作すると、上皿球抜きスライダ３４３が当接片３４３ａと共に下方へスライドして、当接片３４３ａの下方への移動に伴って作動棹５８３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。

【０２７４】

このように、上皿球抜き機構３４０の当接片３４３ａと共に作動棹５８３ｃが下方へ移動することで、球抜き部材５８３が正面視反時計周りの方向へ回動して仕切部５８３ａによる進入口３８１ａと球抜口３８１ｂとの間の仕切りが解除され、進入口３８１ａから進入した遊技球が、球抜口３８１ｂから皿ユニット３００の上皿球抜きベース３４４の球抜き流路３４４ｃへと排出され、下皿３０２へ排出（供給）されるようになっている。

【０２７５】

なお、球抜き部材５８３の作動棹５８３ｃが当接する上皿球抜きスライダ３４３の当接片３４３ａは、コイルバネによって上方へ付勢されているので、仕切部５８１ａ上に遊技球が勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹５８３ｃを介して上皿球抜きスライダ３４３を付勢するコイルバネによって吸収させることができ、球抜き部材５８３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球が仕切部５８３ａで跳ね返るのを防止することができるようになっている。

【０２７６】

上述したように、本例によると、上皿３０１内に遊技球を貯留させて球送りユニット５８０へ遊技球を供給した上で、扉枠５の前面に備えられたハンドル装置５００を遊技者が

10

20

30

40

50

操作すると、球送りユニット５８０の球送ソレノイド５８５の駆動によって遊技球が打球発射装置６５０へ送られ、打球発射装置６５０によって遊技球が遊技領域１１００へ打ち込まれることで、扉枠５の遊技窓１０１を介して視認可能とされた遊技領域１１００内で遊技が行われることとなり、遊技者を楽しませることができると共に、扉枠ベースユニット１００の後面に送り機構（球送り部材５８４や球送ソレノイド５８５等）と排出機構（球抜き部材５８３）とを備えた球送りユニット５８０を配置しているので、球送り部材５８４と球抜き部材５８３だけでなく球送り部材５８４と打球発射装置６５０も可及的に接近した状態となり、上皿球抜きボタン３４１の操作によって上皿３０１内の遊技球を排出させた時に、球送り部材５８４側に残存する遊技球の数を可及的に低減させることができ、遊技者が損した気分となるのを回避させて興味が低下するのを抑制することができる。

10

【０２７７】

また、球抜き部材５８３を備えた球送りユニット５８０を扉枠ベースユニット１００の後面に配置しているので、皿ユニット３００における上皿３０１の容量を大きくすることが可能となり、遊技球の打込操作によって上皿３０１内の遊技球が早期になくなったり、上皿３０１内が遊技球で早期に満タンとなってしまったりするのを抑制することができ、上皿３０１内の遊技球に対して遊技者が煩わしく感じるのを低減させて興味が低下するのを抑制することができると共に、上皿３０１の容量を維持した状態で皿ユニット３００を小型化することができるので、相対的に遊技領域１１００を大きく（広く）して遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機１とすることができる。

20

【０２７８】

また、球送りユニット５８０に球抜き部材５８３を備えるようにしているので、球送り部材５８４と球抜き部材５８３とを別々にしたものと比較して、球送りユニット５８０を取付けるだけで球送り部材５８４と球抜き部材５８３を取付けることができ、組立てに係る手間を簡略化することができると共に、送りユニット５８０を容易に交換することができ、球送り部材５８４や球抜き部材５８３に不具合が発生しても、球送りユニット５８０を交換することで簡単に不具合を解消させることができる。

【０２７９】

更に、扉枠５における扉枠ベースユニット１００の後面に球送りユニット５８０を配置するようにしているので、球送りユニット５８０を本体枠３側に備えるようにしたものと比較して、上皿球抜きボタン３４１の操作を球送りユニット５８０の球抜き部材５８４へ伝達させる伝達機構（上皿球抜き機構３４０）を開閉可能な扉枠５と本体枠３とに跨るように構成する必要がなく、伝達機構にかかる構成を簡略化することができる。また、球送りユニット５８０を扉枠５側に備えるようにしているので、球送りユニット５８０を本体枠３側に備えるようにした場合と比較して、扉枠５を開放する度に伝達機構（上皿球抜き機構３４０）が遮断されることで伝達機構が早期に消耗して誤作動したり破損したりする虞を回避させることができ、伝達機構や球送りユニット５８０等の作動に対する信頼性や耐久性を高めることができる。

30

【０２８０】

また、上皿球抜きボタン３４１を下方へ押圧操作するものとしているので、上皿球抜きボタン３４１を下方へ押圧するだけで上皿３０１から遊技球を下皿３０２へ排出させたり、上皿３０１からの遊技球の排出を停止させたりすることができ、遊技者に対して上皿球抜きボタン３４１による上皿３０１内の球抜き操作を楽に操作させることができる。

40

【０２８１】

また、上皿球抜きボタン３４１の操作に応じて上下方向へスライドする上皿球抜きスライダ３４３の動きによって、球抜き部材５８３の仕切部５８３aを可動させるようにしており、上皿球抜きスライダ３４３と共に仕切部５８３aも上下方向へ可動するので、上皿球抜きスライダ３４３や仕切部５８３aに係る水平方向の移動範囲を可及的に小さくすることが可能となり、上皿球抜き機構３４０や球送りユニット５８０を小型化することができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能なパチンコ機１とすることができる。

【０２８２】

50

更に、上皿球抜きスライダ 3 4 3 を上方へ付勢すると共に、上皿球抜きスライダ 3 4 3 が上昇位置の時に球抜き部材 5 8 3 の仕切部 5 8 3 a が進入口 5 8 1 a と打球供給口 5 8 2 a とを連通させるようにしているので、上皿 3 0 1 から遊技球が勢い良く仕切部 5 8 3 a に当接しても、その衝撃を上皿球抜きスライダ 3 4 3 に作用する付勢力によって緩和させることができ、仕切部 5 8 3 a (球抜き部材 5 8 3) の耐久性を高めることができる。また、上皿球抜きスライダ 3 4 3 に作用する付勢力によって仕切部 5 8 3 a に係る衝撃を緩和させることができるので、遊技球が仕切部 5 8 3 a に衝突しても撥ね難くすることができ、遊技球の撥ねにより球送りユニット 5 8 0 等が破損して不具合が発生するのを抑制することができる。

【0283】

10

また、仕切部 5 8 3 a を回動させるようにしているので、仕切部 5 8 3 a をスライドさせるようにした場合と比較して、仕切部 5 8 3 a に遊技球の荷重がかかった時の仕切部 5 8 3 a の移動に係るフリクションロスを低減させることができ、上皿球抜きボタン 3 4 1 の操作を軽くして操作性を向上させることができると共に、平面投影において仕切部 5 8 3 a の移動範囲を小さくすることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【0284】

また、仕切部 5 8 3 a を、自重によって進入口 5 8 1 a と球抜口 5 8 1 b を連通する方向へ回動させるようにしているので、仕切部 5 8 3 a や上皿球抜き機構 3 4 0 に不具合が発生した場合、仕切部が自重によって回動することで進入口と排出口とを連通させた状態となり、排出操作部を操作していないのにも関わらず貯留皿内の遊技媒体が送り機構（投入装置）側へ送られずに遊技者側へ排出されることとなるため、遊技者に対してパチンコ機 1 に不具合が発生していることを認識させることができ、不具合の無いパチンコ機 1 へ移動させて興味が低下するのを抑制することができる。

20

【0285】

更に、球抜き部材 5 8 3 において仕切部 5 8 3 a を屈曲した回動棹部 5 8 3 b を介して回動させるようにしているので、遊技球が仕切部 5 8 3 a に衝突した場合、その衝撃を屈曲した回動棹部 5 8 3 b によって分散させたり、回動棹部 5 8 3 b の撓りによって吸収させたりすることで、回動軸へ直線的に衝撃が伝達されるのを防止することができ、球抜き部材 5 8 3 の耐久性を高めることができる。

【0286】

30

また、上皿 3 0 1 側と連通する進入口 5 8 1 a の直下に球抜口 5 8 1 b を配置しているので、上皿 3 0 1 内の遊技球を排出させる際に、球送りユニット 5 8 0 内での遊技球の左右方向の動きを最小限とすることができ、球送りユニット 5 8 0 内での遊技球の通りを良くして遊技球を良好に排出させることができる。また、進入口 5 8 1 a の直下に球抜口 5 8 1 b を配置しているので、球送りユニット 5 8 0 内における遊技球の排出経路を可及的に短くすることができ、球送りユニット 5 8 0 に排出機構としての球抜き部材 5 8 3 を備えても、球送りユニット 5 8 0 が不必要に大型化するのを抑制することができる。

【0287】

[1-2K. ガラスユニット]

次に、扉枠 5 におけるガラスユニット 5 9 0 について、主に図 2 2 及び図 2 3 を参照して説明する。このガラスユニット 5 9 0 は、遊技窓 1 0 1 と略同じ大きさの開口を有し合成樹脂で成型した環状で縦長八角形状のユニット枠 5 9 2 と、ユニット枠 5 9 2 の開口の前後端を夫々閉鎖する二枚の透明なガラス板 5 9 4 (図 1 0 6 を参照) と、を備えている。このガラスユニット 5 9 0 のユニット枠 5 9 2 は、左右両端に上下方向へ離反して配置され外方へ板状に延出した四つの片 5 9 2 a と、下端に沿って左右方向へ延び下方へ延出した板状の係止片 5 9 2 b と、を備えている。

40

【0288】

このガラスユニット 5 9 0 は、下端の係止片 5 9 2 b を、扉枠ベースユニット 1 0 0 の補強ユニット 1 5 0 における下側補強板金 1 5 4 の垂直折曲突片 1 6 1 に対して後上方から係合するように係止させた上で、ユニット枠 5 9 2 の外周縁を扉枠ベース本体 1 1 0 の

50

ガラスユニット支持段部110a内に嵌め込み、ガラスユニット係止部材190によってユニット枠592の止め片592aを係止させることで、扉枠ベースユニット100に対して脱着可能に取付けられるようになっている(図23、図28等を参照)。

【0289】

このように、本実施形態のパチンコ機1における扉枠5は、縦長楕円形状の遊技窓101の下側に、遊技球を貯留するための上皿301と下皿302とが上下に並ぶと共に、下皿302の正面視右側に、上皿301に貯留された遊技球を、遊技窓101を閉鎖する透明なガラスユニット590の後側に配置された遊技盤4の遊技領域1100内へ打ち込むためのハンドル装置500が配置されている。また、扉枠5は、遊技窓101の左右及び上側を囲むように右サイド装飾ユニット200、左サイド装飾ユニット2200、及び上部装飾ユニット280が配置されていると共に、遊技窓101の下側を囲むように皿ユニット300がサイドスピーカカバー290を挟んで右サイド装飾ユニット200と左サイド装飾ユニット220の下端と連続するように配置されており、各ユニット200、220、280、300の外観が丸みを帯びた連続した一体化の有る外観となっている。

10

【0290】

また、扉枠5は、各ユニット200、220、280、300に備えられた装飾基板214、216、254、256、286、320、322等を実装されたLEDを発光させることで、遊技窓101及び下皿カバー328の開口部328aを囲むように任意の発光色で発光装飾させることができるようになっている。また、右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット220に備えられた装飾基板214、216、254、256に実装されたLEDのうち、サイドレンズ210、250の放射レンズ部210b、250bの後側に配置されたLED214b、216b、254b、256を点灯したり消灯したりすることで、遊技窓101を囲んだ発光装飾の態様を変化させることができるようになっている。

20

【0291】

具体的には、サイドレンズ210、250における周レンズ部210a、250aと対応したLED214a、216a、254a、256aの発光態様と、放射レンズ部210b、250bと対応したLED214b、216b、254b、256bの発光態様とを、同一の発光態様(発光色と発光パターンとが同じ)とすると全体が略均一の発光装飾とすることができ、周レンズ部210a、250aを強調するようにそれらの発光態様を異なせると周方向に途切れができたような発光装飾とすることができ、放射レンズ部210b、250bを強調するようにそれらの発光態様を異なせると遊技窓101の中央を中心とした放射状に輝く発光装飾とすることができ、遊技者の関心を強く引付けることができるようになっている。

30

【0292】

また、扉枠5は、操作ユニット400におけるダイヤル操作部401や押圧操作部405を支持するベース部材420を、ダイキャストによるアルミ合金製としていると共に、カバー本体426によってベース部材420を皿ユニット300の操作ユニット取付部314cに対して吊持させるようにしているので、ダイヤル操作部401や押圧操作部405を叩いた場合、カバー本体426が撓るように弾性変形した上で、ベース部材420が下カバー424を介して操作ユニット取付部314cの上面に当接することとなり、ダイヤル操作部401や押圧操作部405等にかかる衝撃を緩和させることができ、操作ユニット400が破損するのを防止することができるようになっている。

40

【0293】

更に、扉枠5における操作ユニット400は、押圧操作部405を円環状のダイヤル操作部401に挿入した状態としており、遊技者等が押圧操作部405を強く叩こうとしてもダイヤル操作部401も一緒に叩いてしまうこととなるので、ダイヤル操作部401によって叩いた衝撃を分散させることができ、衝撃が集中するのを防止して破損し難くすることができるようになっている。また、ダイヤル操作部401を回転可能に支持する操作部保持部材416のギアレール416aを、金属製のベース部材420における開口42

50

0 aに対して下方から上面より僅かに突出するように取付けており、ダイヤル操作部401を叩いた衝撃が従動ギア410を介して操作部保持部材416（ギアレール416a）へ伝わって、操作部保持部材416が下方へ撓むと、従動ギア410の下面が金属製の開口420aの外周上面と当接し、その衝撃をベース部材420に受けさせることができるので、操作部保持部材416に係る負荷を軽減させることができると共に、ギアレール416aが衝撃によって潰れてしまうのを防止することができ、操作ユニット400の耐久性を高めることができるようになっている。

【0294】

また、扉枠5における操作ユニット400は、皿ユニット300に対して上側から取付けられるようにしているので、万が一、操作ユニット400が破損しても、操作ユニット400を簡単に取替えることができ、操作ユニット400の取替えによりパチンコ機1の稼働率が低下するのを抑制することができるようになっている。

【0295】

[1-2L. 扉枠における発光装飾]

続いて、扉枠5における発光装飾について、主に図59及び図60を参照して説明する。図59は、扉枠における発光装飾用のLEDの配置を示す正面図である。また、図60は、扉枠における発光装飾用のLEDの系統を示す正面図である。本実施形態の扉枠5は、右サイド装飾ユニット200、左サイド装飾ユニット240、上部装飾ユニット280、及び皿ユニット300によって遊技盤4の遊技領域1100と略対応した遊技窓101の外周を略環状に囲うように形成されている。これら各ユニット200, 240, 280, 300には、LEDが実装された装飾基板214, 216, 254, 256, 286, 320, 322を備えており、各LEDを適宜発光させることで、遊技窓101の外周を発光装飾させることができるようになっている。

【0296】

扉枠5の右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240は、上述したように、遊技窓101の下辺を除く外周の殆どを囲うように形成されており、サイドレンズ210, 250における複数の周レンズ部210a, 250aが遊技窓101の外周に沿うように配置されていると共に、放射レンズ部210b, 250bが遊技窓101の左右方向中央の下部付近を中心とした放射状の軸線に沿って延びるように隣接した周レンズ部210a, 250a同士の間配置されている。これらサイドレンズ210, 250の周レンズ部210a, 250aと放射レンズ部210b, 250bは、不透光性（本例では、表面にメッキ層を有している）のサイド装飾フレーム202, 242によって外周が囲まれた状態となっている。

【0297】

これらサイドレンズ210, 250の後側には、サイドインナーレンズ212, 252が配置されており、サイドインナーレンズ212, 252は、その本体部212a, 252aが周レンズ部210a, 250aの後面に対して所定距離離間した位置となるように形成されていると共に、板状の導光部212b, 252bが放射レンズ部210b, 250bの後面に対して可及的に接近した位置まで延出するように形成されている。このサイドインナーレンズ212, 252の本体部212a, 252aには、詳細な図示は省略するが、その表面に微細なプリズムが複数形成されており、後側に配置された装飾基板214, 216, 254, 256からの光を拡散させることができるようになっている。

【0298】

サイドインナーレンズ212, 252の後側に配置される右サイド上装飾基板214、右サイド下装飾基板216、左サイド上装飾基板254、左サイド下装飾基板256には、周レンズ部210a, 250aと対応する位置に配置されたLED214a, 216a, 254a, 256aと、放射レンズ部210b, 250bと対応する位置に配置されたLED214b, 216b, 254b, 256bとを備えている。本例では、周レンズ部210a, 250aと対応したLED214a, 216a, 254a, 256aがフルカラーLEDとされており、放射レンズ部210b, 250bと対応したLED214b,

216b, 254b, 256bが白色LED（上部装飾ユニット280における上部装飾基板286のLED286bよりも低い通常の輝度）とされている。また、右サイド上装飾基板214におけるサイドサブレンズ228と対応し上下に配置された二つのLED214cは、赤色LEDとされている。

【0299】

なお、本例では、右サイド上装飾基板214、右サイド下装飾基板216、左サイド上装飾基板254、及び左サイド下装飾基板256の表面が、白色のフォトレジスト、白色印刷（例えば、シルク印刷）、白色塗装、等によって白色とされている。これにより、装飾基板214, 216, 254, 256での反射率を高めることができるので、各LED210a, 210b等が非点灯時に遊技者側からの光を装飾基板214, 216, 254, 256によって反射させることで、サイドレンズ210, 250が暗くなりすぎて見栄えが悪くなるのを防止することができると共に、発光する各LED210a, 210b等からの光を基板によって遊技者側へ反射させることで、サイドレンズ210, 250をより明るく発光装飾させることができるようになっている。

10

【0300】

次に、扉枠5の上部装飾ユニット280は、上述したように、右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240の上部における扉枠5の左右方向中央側を向いた端部同士の間を接続するように形成されており、遊技窓101の上部中央を装飾するものである。この上部装飾ユニット280は、中央に宝石状に形成された大型の中央レンズ282と、中央レンズ282の斜め上左右両側に羽根状に形成された側レンズ284と、中央レンズ282の下左右両側に配置された下レンズ289とを備えている。上部装飾ユニット280の中央レンズ282は、青味を帯びた透明な部材により形成されており、側レンズ284及び下レンズ289は、透光性を有した白色（乳白色）の部材により形成されている。これにより、中央レンズ282の後側に配置されたインナーレンズ283が、遊技者側から視認することができるようになっている。

20

【0301】

この上部装飾ユニット280のインナーレンズ283は、表面に複数の微細なレンズ（プリズムを含む）が形成されており、光を乱反射させたり乱屈折させたりすることができるので、透明な中央レンズ282を通してインナーレンズ283を見ると、中央レンズ282に深味があるように見えると共に、あたかも中央レンズ282自体がキラキラ輝いているように見えるようになっている。また、遊技者側からは、インナーレンズ283の後側に配置された上部装飾基板286が見えないようになっている。

30

【0302】

上部装飾ユニット280における上部装飾基板286には、中央レンズ282と対応しインナーレンズ283の後側に配置された複数（本例では、六つ）のLED286aと、側レンズ284及び下レンズ289の後側に配置された複数（本例では、側レンズ284用に二つ、下レンズ289用の一つずつ、左右夫々に配置されている）のLED286bとを備えている。なお、本例では、中央レンズ282と対応したLED286aは、フルカラーLEDとされており、側レンズ284及び下レンズ289と対応したLED286bは、高輝度の白色LEDとされている。また、上部装飾基板286の前面もまた、白色とされており、上記と同様の作用効果を奏することができるようになっている。

40

【0303】

続いて、皿ユニット300では、左右のサイド装飾ユニット200, 240の下端同士を結ぶように、上皿301の前端に沿って上皿上部レンズ318における宝石状の複数の導光部318aが上皿前部装飾部材316の開口部316aを通して露出した状態で列設されており、正面から見ると、図示するように、上皿前部装飾部材316及び上皿上部レンズ318によって遊技窓101の下辺外側（下側）が装飾させるようになっている。この上皿上部レンズ318の下側には、各導光部318aと対応する突出部を有した上皿上部インナーレンズ319が配置されている。皿ユニット300の上皿上部レンズ318は、青味を帯びた透明な部材で形成されており、上皿上部インナーレンズ319は、透明な

50

部材で形成されている。

【0304】

皿ユニット300の上皿上部インナーレンズ319は、上皿上部レンズ318の導光部318aと対応する表面(上面)に、複数の微細なプリズムが形成されており、光を乱反射させたり乱屈折させたりすることができるようになっているので、上部装飾ユニット280の中央レンズ282と同様に、上皿上部レンズ318の導光部318aに、深味を付与すると共にキラキラした輝きを付与して、導光部318aがあたかも宝石のように見えるようになっている。また、上皿上部インナーレンズ319によって遊技者側から導光部318aを通して、下側に配置された上皿右装飾基板320や上皿左装飾基板322が見えないようになっている。

10

【0305】

この皿ユニット300における上皿右装飾基板320及び上皿左装飾基板322の上面には、上皿上部レンズ318の導光部318aと対応するように、複数(本例では、夫々六つ)のLED320a, 322aが備えられている。本例では、上皿右装飾基板320及び上皿左装飾基板322のLED320a, 322aは、フルカラーLEDとされている。また、上皿右装飾基板320及び上皿左装飾基板322の表面(上面)も、白色とされており、上記と同様の作用効果を奏することができるようになっている。

【0306】

次に、皿ユニット300に取付けられる操作ユニット400は、透光性を有した環状のダイヤル操作部401と、ダイヤル操作部401の内側に配置された透光性を有した円柱状の押圧操作部405とを備えており、ダイヤル操作部401及び押圧操作部405の下側にはダイヤル装飾基板430及びボタン装飾基板432が夫々配置されている。ダイヤル装飾基板430には、ダイヤル操作部401と対応するように周方向へ複数(本例では、四つ)配置されたLED430bが備えられている。また、ボタン装飾基板432には、押圧操作部405と対応するように一つのLED432dが備えられている。本例では、ダイヤル装飾基板430のLED430bが高輝度の白色LEDとされており、ボタン装飾基板432のLED432dがフルカラーLEDとされている。また、ダイヤル装飾基板430及びボタン装飾基板432の表面(上面)もまた、白色とされており、上記と同様の作用効果を奏することができるようになっている。

20

【0307】

ところで、本例の扉枠5では、遊技窓101の下辺よりも上側の外周を覆う右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240におけるサイドレンズ210, 250の各周レンズ部210a, 250aと対応したLED214a, 216a, 254a, 256aが、遊技窓101に近い第一環状グループ102(図59及び図60においてハッチの範囲内)と、第一環状グループ102よりも外側に配置された第二環状グループ103(図59及び図60においてクロスハッチの範囲内)とに分けられており、第一環状グループ102と第二環状グループ103のLEDを適宜発光させることで、遊技窓101を囲むように略同心円状に複数(本例では二つ)発光装飾させることができるようになっている。つまり、第一環状グループ102のLED214a, 216a, 254a, 256aを全て発光させると、遊技窓101に近いハッチの範囲が環状に発光装飾され、第二環状グループ103のLED214a, 216a, 254a, 256aを全て発光させると、遊技窓101から遠ざかったクロスハッチの範囲が環状に発光装飾されるようになっている。

30

40

【0308】

また、扉枠5では、右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240におけるサイドレンズ210, 250の放射レンズ部210b, 250bと対応したLED214b, 216b, 254b, 256bが、第一環状グループ102及び第二環状グループ103を周方向へ分割するように遊技窓101(遊技領域1100)の左右方向中央下部を中心として放射状に延びた放射状グループ104(図59及び図60において網掛けの範囲内)とされている。この放射状グループ104のLED214b, 216b, 25

50

4 b, 2 5 6 bを適宜発光させることで、遊技窓1 0 1の外側を放射状に発光装飾させることができる他に、第一環状グループ1 0 2や第二環状グループ1 0 3による環状の発光装飾を周方向へ分割するように発光装飾させることができるようになっている。また、右サイド装飾ユニット2 0 0における上部右側面のサイドサブレンズ2 2 8と対応したLED 2 1 4 cは、上部右サイドグループ1 0 5とされており、このLED 2 1 4 cを適宜発光させることで、扉枠5の上部右側面の一部（サイドサブレンズ2 2 8）を発光装飾させることができるようになっている。

【0 3 0 9】

また、扉枠5では、遊技窓1 0 1の上側中央を装飾する上部装飾ユニット2 8 0における中央レンズ2 8 2と対応したLED 2 8 6 aが、第一環状グループ1 0 2及び第二環状グループ1 0 3の上部中央を発光装飾する上部中央グループ1 0 6とされている。この上部中央グループ1 0 6のLED 2 8 6 aを適宜発光させることで、遊技窓1 0 1の上部中央を発光装飾させることができる他に、第一環状グループ1 0 2や第二環状グループ1 0 3による環状の発光装飾の基準点となるような発光装飾をさせることができるようになっている。また、上部装飾ユニット2 8 0における側レンズ2 8 4及び下レンズ2 8 9と対応したLED 2 8 6 bは、上部中央グループ1 0 6の左右両側を発光装飾させる上部中央サイドグループ1 0 7とされている。この上部中央サイドグループ1 0 7のLED 2 8 6 bを適宜発光させることで、第一環状グループ1 0 2及び第二環状グループ1 0 3と上部中央グループ1 0 6との境界を発光装飾させたり、遊技窓1 0 1の上側（上部も含む）でV字状に発光装飾させたりすることができるようになっている。

【0 3 1 0】

更に、扉枠5では、遊技窓1 0 1の下辺を装飾する皿ユニット3 0 0における上皿前部装飾部材3 1 6の複数の開口部3 1 6 aに嵌め込まれた上皿上部レンズ3 1 8の導光部3 1 8 aと対応したLED 3 2 0 a, 3 2 2 aが、第一環状グループ1 0 2及び第二環状グループ1 0 3の左右の下端同士を連結するように遊技窓1 0 1の下辺外周を発光装飾する下部グループ1 0 8とされている。この下部グループ1 0 8のLED 3 2 0 a, 3 2 2 aを適宜発光させることで、遊技窓1 0 1の下辺や上皿3 0 1の前縁を発光装飾させることができる他に、第一環状グループ1 0 2や第二環状グループ1 0 3のLED 2 1 4 a, 2 1 6 a, 2 5 4 a, 2 5 6 aと連動させることで、遊技窓1 0 1の外周全体を環状に発光装飾させることができるようになっている。

【0 3 1 1】

また、扉枠5では、遊技窓1 0 1の下側中央で皿ユニット3 0 0の上部中央に配置された操作ユニット4 0 0のダイヤル操作部4 0 1及び押圧操作部4 0 5と対応したLED 4 3 0 b, 4 3 2 dが、操作ユニット4 0 0を発光装飾させる操作部グループ1 0 9とされている。この操作部グループ1 0 9のLED 4 3 0 b, 4 3 2 dを適宜発光させることで、ダイヤル操作部4 0 1や押圧操作部4 0 5を発光装飾させることができ、ダイヤル操作部4 0 1や押圧操作部4 0 5の操作タイミングや操作方向等を遊技者に知らせることができるようになっている。

【0 3 1 2】

本実施形態における扉枠5における発光装飾について、更に、詳述すると、本例では、扉枠5に備えられた各LED 2 1 4 a, 2 1 4 b, 2 1 4 c, 2 1 6 a, 2 1 6 b, 2 5 4 a, 2 5 4 b, 2 5 6 a, 2 5 6 b, 2 8 6 a, 2 8 6 b, 3 2 0 a, 3 2 2 a, 4 3 0 b, 4 3 2 dが、夫々が属するグループ1 0 2, 1 0 3, 1 0 4, 1 0 6, 1 0 7, 1 0 8, 1 0 9内で制御系統に対応して更に細分化されている。具体的には、図6 0に示すように、第一環状グループ1 0 2に属する2 0個のLED 2 1 4 a, 2 1 6 a, 2 5 4 a, 2 5 6 aは、サイドレンズ2 1 0, 2 5 0の各周レンズ部2 1 0 a, 2 5 0 a毎に1 0 2 a~1 0 2 jの1 0系統に分けられており、第二環状グループ1 0 3に属する2 6個のLED 2 1 4 a, 2 1 6 a, 2 5 4 a, 2 5 6 aは、サイドレンズ2 1 0, 2 5 0の各周レンズ部2 1 0 a, 2 5 0 a毎に1 0 3 a~1 0 3 jの1 0系統に分けられている。

【0 3 1 3】

また、放射状グループ104に属する20個のLED214b, 216b, 254b, 256bは、サイドレンズ210, 250の放射レンズ部210b, 250b毎に104a~104hの8系統に分けられている。また、上部右サイドグループ105に属する2個のLED214cは、上側105aと下側105bの2系統に分けられている。更に、上部中央グループ106に属する6個のLED286aは、下部106a、右上部106b、左上部106cの3系統に分けられている。また、上部中央サイドグループ107に属する6個のLED286bは、右側107aと左側107bの2系統に分けられている。

【0314】

更に、下部グループ108に属する12個のLED320a, 322aは、正面視右側から三つずつに108a~108dの4系統に分けられている。また、操作グループ109に属する5個のLED430b, 432dは、ダイヤル操作部401と対応した4個のLED430bが押圧操作部405を挟んで対角線状に配置されたLED430bを一組として左右109aと前後109bの2系統、押圧操作部405と対応した1個のLED432cが1系統、の3系統に分けられている。このように、本例の扉枠5では、各LED214a, 214b, 214c, 216a, 216b, 254a, 254b, 256a, 256b, 286a, 286b, 320a, 322a, 430b, 432dが、42の系統に分けられている。

【0315】

ところで、扉枠5では、上述したように、LED214a, 216a, 254a, 256a, 286a, 320a, 322a, 432dがフルカラーLEDとされており、それらLED214a, 216a, 254a, 256a, 286a, 320a, 322a, 432dの属する28の系統102a~102j, 103a~103j, 106a~106c, 108a~108d, 109cでは、フルカラーで発光させるためにRGBの独立した3つの系統を更に備えており、実際の発光制御では3倍の84系統となっている。また、LED286b, 430bは高輝度の白色LEDとされており、それらLED286b, 430bが属する4つの系統107a, 107b, 109a, 109bでは、高輝度で発光させるために多くの電流を必要とするので、夫々2つの系統が接続されており、実際の発光制御では2倍の8系統となっている。

【0316】

なお、LED214b, 216b, 254b, 256bは通常の輝度の白色LEDとされており、8つの系統104a~108hに属している。また、LED214cは赤色LEDとされており、2つの系統105a, 105bに属している。これらLED214b, 216b, 254b, 256b, 214cによる10の系統104a~108h, 105a, 105bは、各系統で十分に制御することができるので、実際の発光制御でも同数の10系統となっている。

【0317】

従って、扉枠5における発光制御での実際の系統数は、102系統となっており、各LED214a, 214b, 214c, 216a, 216b, 254a, 254b, 256a, 256b, 286a, 286b, 320a, 322a, 430b, 432dが属した系統毎に、点灯・点滅等がダイナミック点灯により制御されていると共に、階調（色や明るさ）がPWM制御（パルス幅変調制御）により制御されるようになっている。これにより、表情豊かな発光演出をすることができるようになっている。

【0318】

扉枠5における発光演出としては、例えば、第一環状グループ102から第二環状グループ103へ順に発光（同色、或いは、類似色で順次発光）させることで遊技窓101を中心として外側へ広がるような発光演出や、逆に、第二環状グループ103から第一環状グループ102へ順に発光（同色、或いは、類似色で順次発光）させることで遊技窓101へ向かって外側から収束するような発光演出、或いは、第一環状グループ102と第二環状グループ103とを同時に発光させることで遊技窓101の外周全体を広く発光させ

10

20

30

40

50

るような発光演出等を行うことができるようになっている。

【0319】

また、遊技盤4の前面や表ユニット2000等に備えられたLED（詳細な図示は省略する）と協調することで、遊技盤4のLEDと、遊技窓101に近い第一環状グループ102のLEDと、第一環状グループ102よりも外側に配置された第二環状グループ103のLEDとによって、更に表情豊かな発光演出を行うことが可能となり、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、遊技者を楽しませて興味が低下するのを抑制することができる。

【0320】

また、第一環状グループ102、第二環状グループ103や、下部グループ108において、各系統102a～102j，103a～103j，108a～108dを適宜発光させることで、遊技窓101の外周を光が周回するような発光演出をしたり、遊技窓101の外周に沿って上部装飾ユニット280の中央レンズ282へ向かって光が移動するような、或いは、中央レンズ282から光が遊技窓101の外周に沿って移動するような発光演出をしたりすることができる。なお、本例では、第一環状グループ102や第二環状グループ103を周方向へ10系統102a～102j，103a～103jに分割（10分割）したものを示したが、これに限定するものではなく、8系統程に分割（8分割程）されていれば遊技窓101の外周を光が周回するような発光演出を良好に行うことができる。

【0321】

更に、放射状グループ104のみを発光させることで遊技窓101を中心に放射状に発光する発光演出をしたり、放射状グループ104と同時に第一環状グループ102、第二環状グループ103、及び下部グループ108を発光させることで遊技窓101の外周全体を略均一に発光させる発光演出をしたり、第一環状グループ102や第二環状グループ103の発光中に放射状グループ104を発光（点灯・点滅）させることで環状の発光装飾に対してアクセントを付与する発光演出をしたりすることができる。また、放射状グループ104の各系統104a～104hを夫々個々に発光させることで、放射レンズ部210b，250bが周回するような発光演出もすることができる。

【0322】

また、上部中央グループ106の各系統106a～106cを同時に発光させることで中央レンズ282全体が発光する発光演出や、各系統106a～106cを順次発光させることで中央レンズ282内において光が回転するような発光演出を行うことができる。また、上部中央サイドグループ105を発光させることで、側レンズ284や下レンズ289を高輝度に発光装飾させて遊技者に対してチャンスの到来や特定の遊技状態（例えば、大当たり遊技状態、確変遊技状態、時短遊技状態、等）を示唆する発光演出を行うことができる。なお、下レンズ289は、遊技者の頭上から遊技者へ向かって光を照射するように配置されており、高輝度なLED286bの発光を遊技者に気付かせ易くすることができるようになっている。

【0323】

更に、下部グループ108の各系統108a～108dを適宜発光させることで、上皿301の前縁を発光装飾させる発光演出をしたり、操作グループ109と関連させて発光させることで、ダイヤル操作部401や押圧操作部405の操作を促す発光演出をしたりすることができる。また、操作グループ109におけるダイヤル操作部401と対応した系統109a，109bを適宜発光させることで、ダイヤル操作部401の操作を促したり、ダイヤル操作部401の回転操作方向を案内したりする発光演出をすることができる。更に、操作グループ109における押圧操作部405と対応した系統109cを発光させることで、押圧操作部405の操作を促す発光演出をすることができる。

【0324】

なお、第一環状グループ102、第二環状グループ103、上部中央グループ106、下部グループ108、及び操作グループ109の系統109cは、フルカラーLEDとさ

10

20

30

40

50

れているので、各グループ102, 103, 106, 108, 109毎や、各系統102a~102j, 103a~103j, 106a~106c, 108a~108d, 109c毎に、発光色や明るさ等の階調を異ならせた発光演出を行うことができ、多彩で表情豊かな発光演出を行うことができる。

【0325】

このように、本例の扉枠5では、右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240では、周レンズ部210a, 250aと対応したLED214a, 216a, 254a, 256aを、遊技窓101に近い第一環状グループ102と、第一環状グループ102の外側で遊技窓101から遠い第二環状グループ103とに分けて発光させることができるようにしているので、遊技窓101（遊技領域1100）の外側を複数の略同心円状に発光装飾させることができ、遊技窓101の外周を光が囲うことでこれまでのパチンコ機には無い発光演出を行うことができ、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができるようになっている。

10

【0326】

また、一つの周レンズ部210a, 250aにおいて、略同心円状配置された二系統のLEDを備えるようにしており、外観状は一つに見えても、二系統の各LEDを夫々発光させることで、略同心円状に発光装飾させることができるので、発光装飾の態様を外観からは想像し難くすることが可能となり、発光装飾による周レンズ部210a, 250a（右サイド装飾ユニット200及び左サイド装飾ユニット240）の変化を大きくすることができ、発光装飾によるインパクトを高くして遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができるようになっている。

20

【0327】

更に、遊技領域1100の前面を閉鎖する透明な遊技窓101の外側に、扉枠5における左右の装飾ユニット200, 240の装飾基板214, 216, 254, 256に、放射状に配置したLED214b, 216b, 254b, 256bと、LED214b, 216b, 254b, 256bにより周方向に分割され略同心円状に配置された第一環状グループ102及び第二環状グループ103のLED214a, 216a, 254a, 256aと、を備えるようにしているので、遊技状態に応じて第一環状グループ102及び第二環状グループ103のLED214a, 216a, 254a, 256aを発光させることで、遊技窓101の外周を複数の環状に発光装飾させることが可能となり、これまでのパチンコ機では見たことも無いような発光装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができる。

30

【0328】

また、扉枠5における各装飾基板214, 216, 254, 256のLED214a, 216a, 254a, 256aから構成された環状の第一環状グループ102及び第二環状グループ103を略同心円状に配置（図60を参照）しているので、外側から内側へ向かって第二環状グループ103、第一環状グループ102の順に発光させることで、遊技窓101つまり遊技領域1100へ向かって光が収束するような発光演出を行うことができ、遊技者の関心を遊技領域1100へ向けさせることができると共に、遊技領域1100内で何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めて興味が低下するのを抑制することができる。更に、内側から外側へ向かって第一環状グループ102、第二環状グループ103の順に発光させることで、遊技窓101つまり遊技領域1100から外側へ向かって広がるような発光演出を行うことができ、外側へ広がる発光演出により遊技者に対して何か良いことがあるような期待感を抱かせることが可能となり、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

40

【0329】

更に、遊技窓101（遊技領域1100）よりも外側で上述したような発光演出を行うことができるようにしているので、本パチンコ機1で遊技する遊技者だけでなく、パチンコ機1を設置した遊技ホール内の遊技者に対しても、上述のような発光演出を見せることができ、他の遊技者の関心を強く引付けて、遊技するパチンコ機として本パチンコ機1を

50

選択させ易くすることができる。

【0330】

また、環状に延びた第一環状グループ102及び第二環状グループ103のLED214a, 216a, 254a, 256aを周方向へ分割するように放射状に配置された放射状グループ104のLED214b, 216b, 254b, 256bを備えており、これら放射状グループ104を発光させることで第一環状グループ102及び第二環状グループ103による環状の発光装飾を周方向へ区切ることができるので、発光装飾にアクセントを付与することができ、発光装飾の変化によって遊技者の関心を強く引付けることができる。また、放射状に配置された放射状グループ104によって第一環状グループ102及び第二環状グループ103のLED214a, 216a, 254a, 256aをサイド
10
レンズ210, 250の周レンズ部210a, 250aと対応するように周方向へ系統102a~102j, 103a~103jに分割しているので、各周レンズ部210a, 250aと対応したLED214a, 216a, 254a, 256aを夫々系統102a~102j, 103a~103j毎に独立して発光させることで光が周方向へ移動するような発光演出も行うことができ、より多彩な発光演出を提供することで飽き難いパチンコ機1とすることができる。

【0331】

更に、サイドレンズ210, 250に、LED214a, 216a, 254a, 256aと対応した周レンズ部210a, 250aと、LED214b, 216b, 254b, 256bと対応した放射レンズ部210b, 250bとを備えるようにしており、放射
20
レンズ部210b, 250bを周レンズ部210a, 250aに含ませて一体的なものとした場合と比較して、蓋然的にサイドレンズ210, 250の外観に変化を付与することができるので、発光装飾していない時でも、サイドレンズ210, 250の外観の意匠性を高めることができ、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができる。なお、サイドレンズ210, 250を周レンズ部210a, 250aと放射レンズ部210b, 250bとに分けるようにしても、環状に配置されたLED214a, 216a, 254a, 256aと放射状に配置されたLED214b, 216b, 254b, 256bとを同じ発光態様で発光させることで、周レンズ部210a, 250aと放射レンズ部210b, 250bとが一体となったように錯覚させることが可能となり、遊技窓101
30
の外周を一体的に環状に発光装飾させることができ、上述した作用効果も十分に奏することができる。

【0332】

また、サイドレンズ210, 250における一つの周レンズ部210a, 250aに、放射状に配置されたLED214b, 216b, 254b, 256bによって周方向へ仕切られた第一環状グループ102及び第二環状グループ103のLED214a, 216a, 254a, 256aを、対応させるようにしており、外観状は一つに見えても、第一環状グループ102及び第二環状グループ103に対応したLED214a, 216a, 254a, 256aを夫々発光させることで、略同心円状に発光装飾させることができるので、発光装飾の態様を外観からは想像し難くすることが可能となり、発光装飾による
40
サイドレンズ210, 250の変化を大きくすることができ、発光装飾によるインパクトを高くして遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができる。

【0333】

更に、サイドレンズ210, 250と装飾基板214, 216, 254, 256との間に装飾基板214, 216, 254, 256からの光を拡散させてサイドレンズ210, 250に照射するサイドインナーレンズ212, 252を備えているので、サイドレンズ210, 250の発光装飾にムラが発生するのを抑制することができ、発光装飾の見栄えを良くすることができる他に、点状に発光するLED214a, 216a, 254a, 256aを用いてもサイドレンズ210, 250を面状に発光装飾させることができるので、線状に発光する発光体（例えば、冷陰極管（蛍光管）、ネオン管、有機EL、等）を用いた場合と比較して、各LED214a, 216a, 254a, 256aを個々に発光さ
50

せることで第一環状グループ102や第二環状グループ103での発光を周方向にも変化させることが可能となり、より多様な発光演出を提示することができ、飽き難くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができると共に、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができる。

【0334】

また、サイドインナーレンズ212、252によって光を拡散させることができるので、サイドレンズ210、250の透明度を高くしても、サイドインナーレンズ212、252における乱屈折によりサイドインナーレンズ212、252の後側に配置された装飾基板214、216、254、256を見辛くすることができ、遊技者側から装飾基板214、216、254、256等が直に見えて、見栄えが悪くなるのを防止することができる。

10

【0335】

更に、サイドインナーレンズ212、252の導光部212b、252bによりLED214b、216b、254b、256bからの光を導いてサイドレンズ210、250の放射レンズ部210b、250bに照射するようにしているので、LED214b、216b、254b、256bからの光を確実に放射レンズ部210b、250bへ導いて発光装飾させることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機1を確実に具現化することができる。また、サイドインナーレンズ212、252の導光部212b、252bによってサイドレンズ210、250とLED214b、216b、254b、256bとの距離が遠くてもサイドレンズ210、250の放射レンズ部210b、250bを確実に発光装飾させることができるので、第一環状グループ102や第二環状グループ103によってサイドレンズ210、250の周レンズ部210a、250aを広く照射するためにサイドレンズ210、250との間に十分なスペースを確保したLED214a、216a、254a、256aと同じ基板に、放射状に配置されたLED214b、216b、254b、256bを実装することができ、パチンコ機1に係る構成を簡略化することができる。

20

【0336】

また、サイド装飾フレーム202、242によってサイドレンズ210、250の周レンズ部210a、250aと放射レンズ部210b、250bの外周を囲うようにしているので、周レンズ部210a、250aからの光が放射レンズ部210b、250bへ、或いは、放射レンズ部210b、250bからの光が周レンズ部210a、250aへ影響するのを可及的に低減させることができ、夫々の発光装飾が互いに干渉し合うのを防止して見栄えの良い発光演出を行うことができる。

30

【0337】

[1-3. 本体枠の全体構成]

次に、パチンコ機1における本体枠3について、図61乃至図67を参照して説明する。図61は、本体枠の正面図であり、図62は、本体枠の背面図である。また、図63は、本体枠の正面斜視図であり、図64は、本体枠の背面斜視図である。更に、図66は、本体枠を分解して前から見た分解斜視図であり、図65は、本体枠の左側面図であり、図67は、本体枠を分解して後から見た斜視図である。本実施形態の本体枠3は、外枠2に対して正面視左辺が軸支されており、扉枠5の後側で外枠2の前面を開閉するように扉状に支持されていると共に、前側が扉枠5によって開閉させられるようになっている。また、本体枠3は、扉枠5の遊技窓101と対応した位置に前側から遊技盤4を着脱自在に保持することができるようになっている。

40

【0338】

本例の本体枠3は、本体枠3の骨格を形成すると共に前後方向に貫通し遊技盤4を保持するための矩形の遊技盤保持口601を有した本体枠ベース600と、本体枠ベース600の正面視左側端部の上端及び下端に夫々取付けられ外枠2に軸支されると共に扉枠5を軸支するための上軸支金具630及び下軸支金具640と、本体枠ベース600の下部前面に取付けられ遊技盤4の遊技領域1100内へ遊技球を打ち込むための打球発射装置

50

650と、本体枠ベース600の後側に取付けられ皿ユニット300の上皿301へ遊技球を払出するための賞球ユニット700と、本体枠ベース600の前面に取付けられ本体枠3に対して扉枠5が開いた時に賞球ユニット700から扉枠5の皿ユニット300への遊技球の流れを遮断する球出口開閉ユニット790と、を備えている。

【0339】

また、本体枠3は、本体枠ベース600の下部後面に取付けられ遊技盤4を除く扉枠5や本体枠3に備えられた電氣的部品を制御するための各種の制御基板や電源基板851等を一纏めにしてユニット化した基板ユニット800と、本体枠ベース600における遊技盤保持口601の後側開口を覆う裏カバー900と、本体枠ベース600の正面視左側端部を被覆する側面防犯板950と、本体枠ベースの正面視右側端部に取付けられ外枠2に対する本体枠3の開閉施錠、及び本体枠3に対する扉枠5の開閉施錠をする錠装置1000と、を主に備えている。

10

【0340】

[1-3A. 本体枠ベース]

次に、本体枠3における本体枠ベース600について、主に図68及び図69を参照して説明する。図68は、本体枠における本体枠ベースの正面斜視図である。また、図69は、本体枠における本体枠ベースの背面斜視図である。本実施形態の本体枠3における本体枠ベース600は、合成樹脂によって一体成形されており、正面視の外形が扉枠5の外形に沿った縦長の矩形状とされていると共に、前後方向へ略一定の奥行きDを有するように形成されている（図65を参照）。これにより、本体枠ベース600に対して、その後側に賞球ユニット700、基板ユニット800、裏カバー900、及び錠装置1000等の取付作業時において、本体枠ベース600を伏せた状態で作業する際に、本体枠ベース600の後面が本体枠ベース600における奥行きDの高さで略平らな状態となり、賞球ユニット700等を容易に載置することができ、本体枠3の組立てに係る作業性を良くすることができるようになっている。

20

【0341】

本体枠ベース600は、図示するように、上部から下部へ向かって全体の約3/4の範囲内が前後方向へ矩形状に貫通し遊技盤4の外周を嵌合保持可能な遊技盤保持口601と、本体枠ベース600の正面視左辺を除く前端外周を形成するコ字状の前端枠部602と、前端枠部602の前面から後方へ向かって窪み、扉枠5における扉枠ベース本体110の下端から後方へ突出した扉枠突片110c、扉枠5の補強ユニット150における上側補強板金151の後方へ突出した上側の屈曲突片167及び開放側補強板金153の後方へ突出した開放側外折曲突片163が挿入係合される係合溝603と、を備えている。

30

【0342】

また、本体枠ベース600は、遊技盤保持口601の下側から本体枠ベース600下端まで延出し前端枠部602の前端から所定量後側へ窪み左右方向へ板状に広がった下部後壁部604と、前端枠部601よりも内側で後方へ突出し遊技盤保持口601の内周壁を形成する周壁部605と、を備えている。この周壁部605によって、コ字状の前端枠部602の自由端部（正面視で上下の左側端部）同士が連結されるようになっており、本体枠ベース600の外形が枠状となるようになっている。

40

【0343】

また、本体枠ベース600は、下部後壁部604の上端に遊技盤保持口601の下辺を形成すると共に遊技盤4が載置される遊技盤載置部606と、遊技盤載置部606の左右方向略中央から上方へ突出し遊技盤4における遊技パネル1150のアウト球排出溝1156と係合する位置決め突起607と、周壁部605における正面視右側内壁の所定位置に形成され遊技盤4の遊技盤止め具1120が止め付けられる遊技盤係止部608（図61を参照）と、周壁部605の上側内壁から下方へ垂下し下端が遊技盤4の上端と当接可能な板状で左右方向に複数配置された上端規制リブ609と、を備えている。本体枠ベース600の位置決め突起607は、遊技盤4のアウト球排出溝1156と嵌合することで、遊技盤4の下端が左右方向及び後方向へ移動するのを規制することができるようになっ

50

ている。また、遊技盤係止部 608 は、遊技盤 4 の遊技盤止め具 1120 が係止されることで遊技盤 4 の正面視右辺が前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。なお、遊技盤 4 の正面視左辺は、詳細は後述するが、側面防犯板 950 の位置決め部材 956 によって前後方向への移動が規制されるようになっている。

【0344】

更に、本体枠ベース 600 は、コ字状の前端枠部 602 の自由端部（正面視で上下の左側端部）の後面に上軸支金具 630 及び下軸支金具 640 を取付けるための金具取付部 610 を備えている（図 69 を参照）。この金具取付部 610 は、図 68 等示すように、その前側が上下及び左右に延びた複数のリブによって補強されており、十分な強度で上軸支金具 630 及び下軸支金具 640 を取付けることができるようになっている。また、本体枠ベース 600 は、正面視で下部後壁部 604 の右端上部に前後方向に貫通した略円形のシリンダ錠貫通穴 611 と、シリンダ錠貫通穴 611 の正面視左下に形成され扉枠 5 における扉枠ベース本体 110 から後方へ突出する位置決め突起 110d と嵌合する U 字状の嵌合溝 612 と、嵌合溝 612 の正面視左下に形成され打球発射装置 650 の発射ソレノイド 654 を収容するソレノイド収容凹部 613 と、を備えている。

10

【0345】

本例の本体枠ベース 600 は、上述したように、下部後壁部 604 が前端枠部 602 の前面よりも後側へ一段窪んだ位置に形成されており、下部後壁部 604 の正面視右側前面に、打球発射装置 650 の発射ソレノイド 654 がソレノイド収容凹部 613 内に収容されるように前側から打球発射装置 650 が取付けられるようになっている。この下部後壁部 604 の前面に打球発射装置 650 を取付けた状態では、図 63 や図 98 等に示すように、打球発射装置 650 における発射レール 660 の上端よりも正面視左側に、左方向及び下方へ広がったファール空間 626 が形成されるようになっている。本例では、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態とすると、ファール空間 626 の下部にファールカバーユニット 540 におけるファール球入口 542e が位置するようになり、ファール空間 626 を下降した遊技球が、ファールカバーユニット 540 のファール球入口 542e に受けられて、皿ユニット 300 における下皿 302 へ排出されるようになっている。

20

【0346】

また、本体枠ベース 600 は、正面視で下部後壁部 604 の左右中央よりも左側に前後方向へ矩形状に貫通する開口部 614 と、開口部 614 の上側及び正面視左右両側に複数形成され前後方向に貫通した透孔 615 と、を備えている。この本体枠ベース 600 の開口部 614 は、前側から中継端子板カバー 692（図 66 等を参照）によって閉鎖されるようになり、中継端子板カバー 692 の開口 692a を通して、下部後壁部 604 の後面に取付けられた基板ユニット 800 の主側中継端子板 880 と周辺側中継端子板 882 とが前側へ臨むようになっている。また、複数の透孔 615 は、基板ユニット 800 のスピーカボックス 820 からの音を、本体枠ベース 600 の前側へ伝達させるためのものである。なお、開口部 614 の左右両側に配置された透孔 615 は、前側に衝壁を有したベンチレーション型の孔とされている。

30

【0347】

また、本体枠ベース 600 は、開口部 614 の上側で下部後壁部 604 の前面上端付近に遊技盤 4 を脱着可能に固定するための遊技盤固定具 690 を回転可能に支持する固定具支持部 616 と、固定具支持部 616 の正面視右下から前方へ突出し遊技盤固定具 690 の回転位置を規制するストッパ 617 と、を備えている。

40

【0348】

ここで、遊技盤固定具 690 は、図 61 等に示すように、本体枠ベース 600 の固定具支持部 616 に軸支される軸心を中心に扇状に広がる固定片 690a と、固定片 690a における周方向一端側（正面視で時計回りの方向へ回転させた時に後端となる側）から外方へ延出する操作片 690b と、を備えている。この遊技盤固定具 690 は、本体枠ベース 600 の固定具支持部 616 に軸支させた上で、操作片 690b を操作して遊技盤固定具 690 を正面視で時計回りの方向へ回動させると、固定片 690a が遊技盤載置部 60

50

6よりも上方へ突出し、遊技盤載置部606に載置された遊技盤4の固定凹部1121内に挿入されるようになっており、遊技盤4が前側へ移動するのを阻止することができるようになっている。また、遊技盤固定具690は、操作片690bがストッパ617と当接するようになっており、ストッパ617と当接することで、正面視反時計周りの方向への回動端が規制されるようになっている。

【0349】

更に、本体枠ベース600は、シリンダ錠貫通穴611の下側前面に、本体枠3に対する扉枠5の開放を検知するための扉枠開放スイッチ618が取付けられており、本体枠3に対して扉枠5が開かれる（開放される）と、その押圧が解除されて扉枠5の開放を検知することができるようになっている。また、本体枠ベース600は、扉枠開放スイッチ618が取付けられた位置よりも下側後面に、外枠2に対する本体枠3の開放を検知するための本体枠開放スイッチ619が取付けられており（図69を参照）、外枠2に対して本体枠3が開かれる（開放される）と、その押圧が解除されて本体枠3の開放を検知することができるようになっている。

10

【0350】

また、本体枠ベース600は、コ字状の前端枠部602における正面視で右側（開放側）辺の係合溝603よりも内側（軸支側）に、前後方向へ縦長に貫通する三つの扉用フック穴620と、下端の扉用フック穴620の下側に前後方向へ貫通し左右方向に二つ並んだ錠係止穴621と、を備えている。これら三つの扉用フック穴620は、上下方向の上下両端付近と、上下方向の略中央に夫々形成されている。この上側と中央の扉用フック穴620と錠係止穴621には、錠装置1000の上下両端に備えられた係止突起1004が係合係止されるようになっており、前端枠部602における正面視右辺の後側で周壁部605の外壁に沿って錠装置1000が本体枠ベース600に取付けられるようになっている。そして、本体枠ベース600に錠装置1000を取付けた状態では、錠装置1000の三つの扉枠用フック部1041が、三つの扉用フック穴620から前方へ突出すると共に、錠装置1000のシリンダ錠1010がシリンダ錠貫通穴611から前方へ突出した状態となるようになっている（図63を参照）。

20

【0351】

更に、本体枠ベース600は、下部後壁部604の後面に、背面視で、右側上端から左右方向略中央へ向かって緩く斜めに下降した上で、左右方向の略中央で下部後壁部604における上下方向の中間からやや上寄りの位置まで垂下し遊技球が流通可能とされた本体枠ベース球抜通路622を備えている。この本体枠ベース球抜通路622は、基板ユニット800における基板ユニットベース810によって後側が閉鎖されようになっており、詳細は後述するが、賞球装置740における球抜通路741dを流通した遊技球が流通するようになっている。

30

【0352】

また、本体枠ベース600は、周壁部605における背面視左辺の後端に、上下方向へ所定間隔で複数配置され裏カバー900の軸支ピン906を回動可能に軸支する裏カバー軸支部623と、下部後壁部604の前面で開口部614の正面視斜め左上に球出口開閉ユニット790を取付けるための取付部624と、周壁部605の正面視右側（開放側）側面に錠装置1000を取付固定するための錠取付部625と、を備えている。

40

【0353】

なお、詳細な説明は省略するが、本体枠ベース600には、上記の他に、打球発射装置650、賞球ユニット700、及び基板ユニット800等を取付けるための取付ボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。

【0354】

[1-3B. 上軸支金具及び下軸支金具]

次に、本体枠3における上軸支金具630及び下軸支金具640について、主に図66及び図67を参照して説明する。本体枠3における上軸支金具630及び下軸支金具640は、本体枠ベース600の正面視左端上下後面の金具取付部610に、所定のビスを用

50

いて夫々取付けることで、本体枠3に対して扉枠5を開閉可能に軸支することができると共に、外枠2に対して本体枠3を開閉可能に軸支させることができるものである。

【0355】

まず、上軸支金具630は、本体枠ベース600の上側の金具取付部610に取付けられ上下左右方向へ広がる板状の取付部631と、取付部631の上端から前方へ延出する板状の前方延出部632と、前方延出部632の前端付近から上方へ延びだすように突設された軸支ピン633と、軸支ピン633の正面視左側に配置され扉枠5の軸ピン155が挿入される上下方向に貫通した扉枠軸支穴634（図63等を参照）と、前方延出部632の正面視左側端部から下方へ垂下し扉枠5の開放側への回動端を規制するストッパ635（図65及び図107を参照）と、を備えている。この上軸支金具630は、取付部631、前方延出部632、及びストッパ635が、一枚の金属板を屈曲成形することで一体的に形成されている。

10

【0356】

一方、下軸支金具640は、扉枠5を軸支するための扉枠軸支金具642と、扉枠軸支金具642の下側に配置され外枠2に対して本体枠3を軸支するための本体枠軸支金具644と、を備えている。下軸支金具640における扉枠軸支金具642は、本体枠ベース600の下側の金具取付部610に取付けられ上下左右方向へ広がる板状の取付部642aと、取付部642aの下端から前方へ延出する板状の前方延出部642bと、前方延出部642bの前端付近に上下方向へ貫通し扉枠5の軸ピン157が挿入される扉枠軸支穴642cと、前方延出部642aの正面視左側端部から上方へ立設され扉枠5の開放側への回動端を規制するストッパ642dと、を備えている。この扉枠軸支金具642は、取付部642a、前方延出部642b、及びストッパ642dが、一枚の金属板を屈曲成形することで一体的に形成されている。

20

【0357】

また、下軸支金具640における本体枠軸支金具644は、本体枠ベース600の下側の金具取付部610に取付けられ上下左右方向へ広がる板状の取付部644aと、取付部644aの下端から前方へ延出する前方延出部644bと、前方延出部644bの前端付近に上下方向へ貫通した本体枠軸支穴（図示は省略する）と、を備えている。この本体枠軸支金具644もまた、取付部644a、及び前方延出部644bが、一枚の金属板を屈曲成形することで一体的に形成されている。

30

【0358】

本例の下軸支金具640は、扉枠軸支金具642の取付部642aと本体枠軸支金具644の取付部644aとが前後方向に重なった（接した）状態とされると共に、扉枠軸支金具642の前方延出部642bと本体枠軸支金具644の前方延出部644bとが上下方向に所定距離離間した状態で、本体枠ベース600における下側の金具取付部610に取付けられるようになっている。

【0359】

この上軸支金具630及び下軸支金具640は、本体枠ベース600に取付けた状態で、上軸支金具630の軸支ピン633と、下軸支金具640の図示しない本体枠軸支穴とが同軸上に位置するようになっており、下軸支金具640における本体枠軸支金具644の本体枠軸支穴が、外枠2における下支持金具21の支持突起21dに嵌合挿入されるように、本体枠軸支金具644の前方延出部644bを、下支持金具21の支持突出片21c上に載置した上で、上軸支金具630の軸支ピン633を、外枠2における上支持金具20の支持鉤穴20c内に挿入することで、本体枠3を外枠2に対して開閉可能に軸支させることができるようになっている。

40

【0360】

また、この上軸支金具630及び下軸支金具640は、本体枠ベース600に取付けた状態で、上軸支金具630の扉枠軸支穴634と、下軸支金具640の扉枠軸支金具642の扉枠軸支穴642cとが同軸上に位置するようになっており、下軸支金具640における扉枠軸支金具642の扉枠軸支穴642cに、扉枠5の軸ピン157が挿入されるように扉枠5の下軸支

50

部158を扉枠軸支金具642の前方延出部642b上に載置した上で、扉枠5の軸ピン155を、上軸支金具630の扉枠軸支穴634に挿入することで、本体枠3に対して扉枠5を開閉可能に軸支することができるようになっている。なお、本例では、扉枠5の上側の軸ピン155は、上下方向へ摺動可能とされており、上軸支金具630の扉枠軸支穴634へ挿入させる際に、軸ピン155を一旦、下方へスライドさせて、扉枠5の上軸支部156と上軸支金具630の前方延出部632とが上下に重なるようにした上で、軸ピン155を上方へスライドさせることで扉枠軸支穴634へ挿入することができるようになっている。

【0361】

[1-3C. 打球発射装置]

次に、本体枠3における打球発射装置650について、主に図70及び図71を参照して説明する。図70は、本体枠3における打球発射装置の正面斜視図である。また、図71は、本体枠3における打球発射装置の背面斜視図である。この打球発射装置650は、扉枠5の球送りユニット580から供給された遊技球を、ハンドル装置500の回転操作に応じた強さで遊技盤4の遊技領域1100内へ打ち込むことができるものである。

【0362】

本実施形態の打球発射装置650は、本体枠ベース600における下部後壁部604の前面所定位置に取付けられる金属板の発射ベース652と、発射ベース652の下部後面に前側へ回転駆動軸654aが突出するように取付けられる発射ソレノイド654と、発射ソレノイド654の駆動軸654aに一体回転可能に固定される打球槌656と、打球槌656の先端に固定される槌先658と、槌先658の移動軌跡上における所定位置を基端として正面視斜め左上へ延出し発射ベース652の前面に取付けられる発射レール660と、発射レール660の基端上部に発射レール660との間で打球槌656先端の槌先658が通過可能とされると同時に遊技球が通過不能な隙間を形成し発射レール660の基端に遊技球を保持する球止め片662と、球止め片662によって発射レール660の基端に保持された遊技球を打球可能な打球位置よりも打球槌656（槌先658）が発射レール660側へ回転するのを規制するストッパ664と、を備えている。

【0363】

この打球発射装置650における発射ソレノイド654は、詳細な図示は省略するが、駆動軸654aがハンドル装置500の回転操作角度に応じた強さ（速さ）で往復回転するようになっている。また、打球発射装置650の打球槌656は、発射ソレノイド654の駆動軸654aに固定される固定部656aと、固定部656aから緩やかな円弧状に延出し先端が駆動軸654aの軸心に対して法線方向を向き先端に槌先658が固定される棹部656bと、棹部656bに対して固定部656aを挟んで反対側へ延出しストッパ664と当接可能なストッパ部656cと、を備えている。打球槌656のストッパ部656cがストッパ664と当接することで、先端の槌先658が打球位置（正面視で反時計周りの方向の回転端）よりも発射レール660側へ回転するのが規制されるようになっている。

【0364】

また、打球発射装置650の発射レール660は、遊技盤4の外レール1111の下端延長線上と略沿うように下方が窪んだ緩い円弧状とされている（図98を参照）と共に、前後方向に対して中央がV字状に窪んだ形状とされており、打球槌656によって打球された遊技球を発射レール660に沿って滑らかに遊技盤4側へ誘導させることができるようになっている。この発射レール660は、金属板を屈曲成形することで形成されている。

【0365】

また、打球発射装置650は、打球槌656における打球位置側への回転端を規制可能なストッパ664の前面を被覆するストッパカバー666と、打球槌656における打球位置とは離れた位置の回転端（正面視で時計回りの方向の回転端）を規制するストッパ668と、を備えている。本例の打球発射装置650は、ストッパ664、668の表面が

10

20

30

40

50

ゴムで覆われており、打球槌 656 が当接した時の衝撃を吸収することができると共に、当接による騒音の発生を抑制することができるようになっている。

【0366】

本例の打球発射装置 650 は、図 63 や図 98 等に示すように、本体枠ベース 600 の下部後壁部 604 に取付けた状態とすると、発射レール 660 の上端が左右方向の略中央で下部後壁部 604 の上端、つまり、遊技盤載置部 606（遊技盤保持口 601 の下辺）よりも下方に位置するようになっており、遊技盤保持口 601 に保持された遊技盤 4 における外レール 1111 の下端との間で、左右方向に所定幅で下方へ広がったファール空間 626 が形成されるようになっている。そして、本例の打球発射装置 650 は、発射レール 660 よりも正面視左側のファール空間 626 を飛び越えるようにして遊技球を発射することで、遊技盤 4 の遊技領域 1100 内へ遊技球を打ち込むことができるようになっている。なお、上述したように、本体枠 3 に対して扉枠 5 を閉じた状態とすると、ファール空間 626 の下部にファールカバーユニット 540 のファール球入口 542e が位置するようになっており、遊技領域 1100 内へ打ち込まれずにファール球となった遊技球が、ファール空間 626 を落下してファール球入口 542e へ受入れられて、下皿 302 へ排出されるようになっている。

10

【0367】

また、打球発射装置 650 は、発射ソレノイド 654 が、発射制御部 4120 によりハンドル装置 500 の回転操作に応じた駆動強さで駆動させられるようになっており、球送りユニット 580 の球送ソレノイド 585 の駆動と同期するように駆動させられるようになっている。具体的には、打球発射装置 650 へ遊技球を供給する球送りユニット 580 では、球送ソレノイド 585 が駆動（ON）すると球送り部材 584 が遊技球を受入れ、その状態から球送ソレノイド 585 の駆動が解除（OFF）されると球送り部材 584 が受入れた遊技球を打球発射装置 650 側へ送るようになっているので、この球送りユニット 580 の球送ソレノイド 585 と略同時に発射ソレノイド 654 を駆動（ON）することで、球送りユニット 580 から発射レール 660 の後端へ遊技球を円滑に供給することができ、打球槌 656 の回転により遊技球を確実に発射することができるようになっている。

20

【0368】

[1-3D. 賞球ユニット]

次に、本体枠 3 における賞球ユニット 700 について、主に図 72 乃至図 79 を参照して説明する。図 72 は、本体枠 3 における賞球ユニットの正面斜視図であり、図 73 は、本体枠 3 における賞球ユニットの背面斜視図である。また、図 74 は、賞球ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 75 は、賞球ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。更に、図 76 は、賞球ユニットにおける賞球タンクとタンクレールユニットとの関係を分解して後方から示す分解斜視図である。図 77 は、賞球ユニットにおける賞球装置を分解して後から見た分解斜視図である。図 78 は、賞球装置における払出通路と払出モータと払出回転体との関係を示す背面図である。また、図 79 は、賞球ユニットにおける球の流通通路を示す断面図である。

30

【0369】

本実施形態の本体枠 3 における賞球ユニット 700 は、パチンコ機 1 を設置する遊技ホールにおける島設備において、島設備側からパチンコ機 1 へ供給された遊技球を貯留した上で、所定の払出指示に基いてパチンコ機 1 の上皿 301 へ払出すものである。この賞球ユニット 700 は、本体枠ベース 600 の後面に取付けられる賞球ベース 710 と、賞球ベース 710 の後面上部に取付けられ島設備側から供給される遊技球を受けると共に貯留する賞球タンク 720 と、賞球タンク 720 の下側に配置され賞球タンク 720 に貯留された遊技球を整理させて下流側へ送るタンクレールユニット 730 と、タンクレールユニット 730 によって整理された遊技球を所定の払出指示に基いて払出す払出装置 740 と、払出装置 740 によって払出された遊技球を皿ユニットの上皿 301 へ誘導することができると共に上皿 301 が遊技球で満タンになると払出された遊技球を下皿 302 側へ分

40

50

岐誘導することができる満タン分岐ユニット 770 と、を主に備えている。

【0370】

また、賞球ユニット 700 は、賞球ベース 710 に形成された賞球通路 715 の後側開口を閉鎖する賞球通路蓋 780 と、タンクレールユニット 730 や賞球装置 740 を接地するためのアース金具 782 と、賞球ベース 710 の後面に取付けられる外部端子板 784 と、外部端子板 784 の後側を覆う外部端子板カバー 786 と、を備えている。賞球ユニット 700 における賞球通路蓋 780 は、その後面に裏カバー 900 を固定するための裏カバー係合溝 780a と、裏カバー係合溝 780a の背面視左側に裏カバー 900 を締結固定するための裏カバー締結孔 780b とが形成されている（図 73 及び図 75 等を参照）。

10

【0371】

この賞球ユニット 700 は、賞球ベース 710 が、正面視で本体枠ベース 600 の上辺と左辺に沿うような逆 L 字状に形成されており、上辺に賞球タンク 720 及びタンクレールユニット 730 が配置されていると共に、左辺に縦長の賞球装置 740 が配置されており、賞球装置 740 の下側に満タン分岐ユニット 770 が配置されている。また、賞球装置 740 の直上でタンクレールユニット 730 よりも上側に賞球タンク 720 と隣接するように外部端子板 784 及び外部端子板カバー 786 が配置されている。

【0372】

次に、賞球ユニット 700 における賞球ベース 710 は、図示するように、本体枠ベース 600 の上辺と正面視で遊技盤保持口 601 の左辺と略対応するような正面視逆 L 字状に形成されており、透明な合成樹脂によって一体的に成形されている。この賞球ベース 710 は、逆 L 字状の外側外周に略沿って後方へ延出した周壁部 710a と、周壁部 710a の後端から内側へ所定幅で延出し略同一面状に配置された後壁部 710b と、を備えている。本例では、図 75 に示すように、周壁部 710a の上辺側が、賞球ベース 710 の上端よりも一段下がった位置から後方へ延出するように形成されている。この賞球ベース 710 は、後壁部 710b が前端よりも奥まった位置に位置しており、本体枠ベース 600 に取付けた時に、遊技盤 4 を収容可能な空間を形成することができるようになっている。

20

【0373】

また、賞球ベース 710 は、周壁部 710a の上边上側に賞球タンク 720 を取付けるタンク取付部 711 と、タンク取付部 711 の横（背面視で右側）に配置され外部端子板 784 及び外部端子板カバー 786 を取付けるための外部端子板取付部 712 と、後壁部 710b の上辺下端後側にタンクレールユニット 730 を取付けるための複数の取付係止部 713 と、後壁部 710b の垂直辺後側に賞球装置 740 を取付けるための賞球装置取付部 714 と、賞球装置取付部 714 に隣接して賞球装置 740 から払出された遊技球を下方へ誘導する賞球通路 715 と、後壁部 710b の下端に満タン分岐ユニット 770 を取付けるための取付係止部 716 と、を備えている。

30

【0374】

更に、賞球ベース 710 は、後壁部 710b の賞球装置取付部 714 の位置に前後方向へ貫通し賞球装置 740 から前方へ突出した払出モータ 744 等を逃がすための逃し穴 717 と、裏カバー 900 を固定するための裏カバー係合溝 718 と、を備えている。また、賞球ベース 710 には、詳細な説明は省略するが、賞球タンク 720 や賞球装置 740 等を取付けたり、本体枠ベース 600 に取付けたりするための取付孔や取付ボス等が適宜位置に形成されている。

40

【0375】

続いて、賞球ユニット 700 における賞球タンク 720 は、図 76 にも示すように、上方が開放された横長箱状に形成されており、平面視が横長の略矩形状とされた底壁部 721 と、底壁部 721 の外周から上方へ立上ると共に平面視で右側後部（開放側の後部）のみが矩形状に底壁部 710 よりも後方へ突出した外周壁部 722 と、外周壁部 722 における右側後部の底壁部 721 よりも後方へ突出した部位によって形成され下方へ開口した

50

排出口723と、排出口723の平面視左側（軸支側）から賞球タンク720の左端まで板状に延びた底部724と、底部724の平面視左端下側から後方へ延出する棒状の軸部725と、軸部725の基端付近及び外周壁722の前側両端に形成され賞球タンク720を賞球ベース710における賞球タンク取付部711へ取付けるための取付部726と、を備えている。

【0376】

この賞球タンク720は、底壁部721の外周が外周壁部722で囲まれており、底壁部721上に所定量の遊技球を貯留することができるようになっている。また、賞球タンク720は、底壁部721の上面が、排出口723へ向かって低くなるように傾斜しており、底壁部721上の遊技球が排出口723へ向かって転動するようになっている。

10

【0377】

また、賞球タンク720は、軸部725に回動自在に軸支される二つの球ならし部材727を備えている。この球ならし部材727は、図示するように、一端側が軸部725に軸支されるようになっていると共に内部に錘を保持しており、自重によって他端側が垂下するようになっている。この球ならし部材727は、後述するタンクレールユニット730内に垂下するようになり、タンクレールユニット730内を流通する遊技球をならして整列させることができるものである。また、賞球タンク720の底部724は、タンクレールユニット730の上側の略半分を覆うように形成されており、タンクレールユニット730内から遊技球が溢れるのを防止することができると共に、タンクレールユニット730内に埃等が侵入するのを防止することができるようになっている。

20

【0378】

なお、詳細な図示は省略するが、賞球タンク720の底壁部721の上面は、平面視で左側（排出口723から遠い側）が右側へ向かって低くなるように傾斜していると共に、平面視で右側（排出口723に近い側）が後側の排出口723へ向かって傾斜するように形成されている。これにより、遊技球の流れをスムーズにすることができ、賞球タンク720内で球詰まりが発生するのを抑制することができるようになっていると共に、排出口723からタンクレールユニット730側へ遊技球をスムーズに排出することができるようになっている。

【0379】

次に、賞球ユニット700におけるタンクレールユニット730は、図76にも示すように、賞球タンク720の下側に配置され左右方向へ長く延びたタンクレール731を備えている。このタンクレール731は、上方が開放された所定深さの樋状で前後方向に遊技球が二列で整列することが可能な幅（奥行）とされ、正面視左側（軸支側）端部が低くなるように底部が傾斜している。このタンクレール731は、左側（軸支側）端部に下方へ開口する排出口731a（図79を参照）と、前後方向の略中央で底部から上方へ延出した仕切壁731bと、前端下面より下方へ突出し賞球ベース710の取付係止部713に上側から係止される複数の係止突片731c（図74を参照）と、を備えている。

30

【0380】

このタンクレール731は、正面視右側（開放側）端部が賞球タンク720における排出口723の直下に位置するようになり、賞球タンク720の排出口723から排出された遊技球を受取った後に左方向へ転動させて排出口731aから賞球装置740側へ受け渡すことができるようになっている。また、タンクレール731の係止突片731cを賞球ベース710の取付係止部713に係止させることで、タンクレール731つまりタンクレールユニット730を賞球ベース710に取付けることができるようになっている。

40

【0381】

また、タンクレールユニット730は、タンクレール731の排出口731a上部に回転可能に支持される整列歯車732と、整列歯車732の上部を覆う歯車カバー733と、歯車カバー733の正面視右端と連続しタンクレール731の上部を閉鎖する球押え板734と、タンクレール731内に進退可能とされタンクレール731内の遊技球が排出

50

口731a側へ転動するのを停止させることが可能な球止片735と、タンクレール731内に配置されタンクレール731内の遊技球と接触可能とされたアース板736と、を備えている。整列歯車732は、図示するように、タンクレール731の仕切壁731bによって二列に仕切られた遊技球の二つの流路と対応するように、前後方向に並んで二つ備えられている。また、球押え板734は、上部に球止片735が取付けられる取付部734aと、上下方向に貫通し球止片735の突片735aが挿通可能な二つのスリット734bと、を備えている。

【0382】

このタンクレールユニット730内には、賞球タンク720に軸支された二つの球ならし部材727が上方から球押え板734の上流側（開放側）に挿入されるようになっており、この球ならし部材727によって賞球タンク720の排出口723からタンクレール731内に排出された遊技球が、一段となるようにならずと共に、仕切壁731bに沿って二列に整列させるようにすることができるようになっている。また、球押え板734は、球ならし部材727によって一段とならなかった遊技球を強制的に一段とするためのものであり、排出口731a側へ向かうに従ってタンクレール731の底部との隙間が狭くなるようにタンクレール731に取付けられている。

10

【0383】

タンクレールユニット730の整列歯車732は、図示するように、外周に複数の歯が形成されており、一对の整列歯車732における歯のピッチが半ピッチずつ、ずれるように軸支されている。これにより、タンクレール731を流下してきた遊技球の上部が整列歯車732の歯と噛み合いながら下流側の排出口732へ流下する時に、二列に整列された遊技球が交互に一つずつ賞球装置740へ送られるようになっている。

20

【0384】

なお、タンクレール731の底部には、上下に貫通する細溝が形成されており、タンクレール731内を遊技球と一緒に転動する埃等の異物がその細溝から下方に落下するようになっている。また、タンクレール731の内壁に配置されたアース板736は、詳細な図示は省略するが、アース金具782を介して電源基板851のアース用コネクタを経由して外部に接地されるようになっており、タンクレール731内で遊技球がアース板736と接触することで、帯電した静電気を除去することができるようになっている。

【0385】

30

また、タンクレールユニット730は、球押え板734の取付部734aに回動可能に取付けられた球止片735を回動させて、球止片735の突片735aをスリット734aを通してタンクレール730内へ挿入することで、突片735aによってタンクレール731内の二列の流路を閉止することができ、賞球装置740側へ遊技球が供給されるのを停止させることができるようになっている。

【0386】

更に、タンクレールユニット730は、タンクレール731が透明な合成樹脂によって形成されており、外部からタンクレール731内の遊技球等の状態を視認することができるようになっている。

【0387】

40

続いて、賞球ユニット700における賞球装置740は、タンクレールユニット730の排出口731aから排出供給された遊技球を、所定の払出指示に基いて皿ユニット300の上皿301へ払出すためのものである。この賞球装置740は、図77乃至図79等に示すように、賞球ベース710における賞球装置取付部714に取付けられる上下方向へ延びたユニットベース741を備えている。賞球装置740におけるユニットベース741は、図示するように、後面側に、上端に開口し遊技球の外形よりも若干広い幅で上下方向の中央よりもやや下側の位置まで延出する供給通路741aと、供給通路741aの下端と連通し所定広さの空間を有した振分空間741bと、振分空間741bの背面視左側（開放側）下端と連通し略く字状に曲がって背面視左側面に開口する賞球通路741cと、振分空間741bの背面視右側（軸支側）下端と連通し下方へ延出して下端に開口す

50

る球抜通路 741d と、を備えている。このユニットベース 741 の供給通路 741a、振分空間 741b、賞球通路 741c、及び球抜通路 741d は、後方へ開放された状態で形成されている。

【0388】

本例の賞球装置 740 は、ユニットベース 741 の後側に取付けられユニットベース 741 よりも上下方向の長さが短い裏蓋 742 と、裏蓋 742 の下側に配置される板状のモータ支持板 743 と、モータ支持板 743 の前側に配置され回転軸 744a がモータ支持板 743 よりも後方へ突出するようにユニットベース 741 に固定される払出モータ 744 と、払出モータ 744 の回転軸 744a に一体回転可能に固定されモータ支持板 743 の後側に配置される第一ギア 745 と、第一ギア 745 と噛合しユニットベース 741 に軸支される第二ギア 746 と、第二ギア 746 と噛合しユニットベース 741 に軸支される第三ギア 747 と、第三ギア 747 と共に一体回転しユニットベース 741 の振分空間 741c 内に配置される払出回転体 748 と、払出回転体 748 とは第三ギア 747 を挟んで反対側に一体回転可能に固定され周方向に等間隔で複数（本例では三つ）の検出スリット 749a を有した回転検出盤 749 と、を備えている。

10

【0389】

また、賞球装置 740 は、ユニットベース 741 に取付けられ供給通路 741a 内の遊技球の有無を検出する球切れスイッチ 750 と、ユニットベース 741 に取付けられ賞球通路 741c 内を流通する遊技球の数を計測するための計数センサ 751 と、払出回転体 748 と一体回転する回転検出盤 749 の検出スリット 749a を検出する回転角センサ 752 と、回転角センサ 752 を保持し裏蓋 742 の後面に取付けられるセンサ基板 753 と、払出モータ 744、球切れスイッチ 750、計数センサ 751、及び回転角センサ 752 と払出制御基板 4110 との接続を中継し裏蓋 742 の後面に取付けられる賞球中継基板 754 と、を備えている。

20

【0390】

更に、賞球装置 740 は、賞球中継基板 754 を後側から覆い裏蓋 742 の後面に取付けられる基板カバー 755 と、第一ギア 745、第二ギア 746、第三ギア 747（回転検出盤 749）、及びセンサ基板 753 を後側から覆い裏蓋 742 を挟んでユニットベース 741 の後面に取付けられるギアカバー 756 と、ユニットベース 741 の供給通路 741a 内を流通する遊技球と接触可能な供給通路アース金具 757 と、モータ支持板 743 を挟んで払出モータ 744 をユニットベース 741 へ固定すると共に払出モータ 744 をアース接続するためのビス 758 と、裏蓋 742 をユニットベース 741 に対して着脱可能に支持する着脱ボタン 759 と、を備えている。

30

【0391】

本例の賞球装置 740 は、ユニットベース 741 の後側に裏蓋 742 が取付けられることで、供給通路 741a、振分空間 741b、賞球通路 741c、及び球抜通路 741d の開放された後端が閉鎖されるようになっている。また、ユニットベース 741 は、供給通路 741a における上端よりも下の位置が、一旦、後方へ膨出した形状とされており、タンクレールユニット 730 から排出落下してきた遊技球の勢いを緩和させることができるようになっている。また、ユニットベース 741 は、供給通路 741a における後方へ膨出した位置よりも下側の一方（背面視左側）の側面が部分的に切欠かれていると共に供給通路 741a の切欠かれた位置の外側に球切れスイッチ 750 を取付けるためのスイッチ取付部 741e と、賞球通路 741c の途中に計数センサ 751 を取付けるためのセンサ取付部 741f と、賞球通路 741a よりも下側で前後方向へ貫通するように形成され払出モータ 744 を挿通可能なモータ挿通孔 741g と、を備えている。

40

【0392】

このユニットベース 741 のスイッチ取付部 741e に球切れスイッチ 750 を取付けることで、球切れスイッチ 741e の作動片が供給通路 741a の側壁の一部を形成するようになり、供給通路 741a 内に存在する遊技球によって作動片が押圧されることで球切れスイッチ 741e によって供給通路 741a 内の遊技球の有無を検知すること

50

ができるようになっている。この球切れスイッチ741eにより供給通路741a内の遊技球が検知されていない状態（球切れの状態）では、払出モータ744が回転しないようになっていると共に、球切れであることが遊技者やホール側に報知されるようになっている。

【0393】

また、ユニットベース741は、第二ギア746、及び第三ギア747（払出回転体748）を軸支するための軸受部741hと、供給通路741aにおけるスイッチ取付部741eと振分空間741bとの間に配置され供給通路アース金具757を取付けるためのアース金具取付部741iと、ユニットベース741の上部に配置され裏蓋742を着脱支持するための着脱ボタン759が支持されるボタン支持孔741jと、を備えている。このユニットベース741は、アース金具取付部741iに供給通路アース金具757を取付けることで、供給通路アース金具757の後面が供給通路741a内の遊技球と接触することができるようになっており、供給通路アース金具757の前面がコ字状のアース金具782の下端後面と接触するようになっており、供給通路アース金具757を介して供給通路741a内を流通する遊技球の静電気を除去することができるようになっている。

10

【0394】

賞球装置740の裏蓋742は、全体が縦長の板状とされ上端が後方へ膨出した形態とされている。裏蓋742の上部には、着脱ボタン759を挿通させるボタン挿通穴742aと、上下方向の略中央後面に賞球中継基板754及び基板カバー755を取付けるための中継基板取付部742bと、中継基板取付部742bの下側に配置されセンサ基板753を取付けるためのセンサ基板取付部742cと、払出回転体748が通過可能な貫通孔742dと、を備えている。裏蓋742の中継基板取付部742bは、ユニットベース741のアース金具取付部741iの後側に位置するように形成されている。

20

【0395】

また、賞球装置740のモータ支持板743は、本例では、アルミ板とされており、払出モータ744の金属製のモータハウジングと接触するようになっており、払出モータ744で発生する熱を放熱し易くすることができるようになっている。

【0396】

また、賞球装置740の払出回転体748は、図78に示すように、周方向に等間隔で夫々一つの遊技球を収容可能な大きさの三つの凹部748aを備えており、払出回転体748が回転することで、供給通路741aから供給された遊技球が一つずつ凹部748aに収容されて、賞球通路741c又は球抜通路741d側へ払出すことができるようになっている。また、払出回転体748と一体回転する回転検出盤749の三つの検出スリット749aは、払出回転体748の凹部748a間と対応する位置に夫々形成されており、検出スリット749aを回転角センサ752によって検出することで、払出回転体748の回転位置を検出することができるようになっている。

30

【0397】

本例の賞球装置740は、払出制御基板4110に、主制御基板4100からの払出コマンドやCRユニット6からの貸出コマンド等が入力されたり、球抜スイッチ860bが操作されたりすることで払出モータ744が回転して、所定数の遊技球を遊技者側（上皿301）へ払出したり、遊技ホール側（パチンコ機1の後側）へ排出したりすることができるようになっている。この払出モータ744の回転軸744aを回転駆動させると、回転軸744aに固定された第一ギア745を回転すると同時に、第一ギア745と噛合する第二ギア746が回転し、更に第二ギア746と噛合する第三ギア747が回転するようになっている。この第三ギア747には、前側に払出回転体748が、後側に回転検出盤749が、夫々一体回転可能に固定されており、第三ギア747と共に払出回転体748及び回転検出盤749が回転するようになっている。

40

【0398】

この賞球装置740は、図78に示すように、振分空間741bの略中央に払出回転体

50

748が回転可能に軸支されている。そして、払出モータ744によって払出回転体748が背面視反時計周りの方向へ回転させられると、供給通路741a内の遊技球が、賞球通路741c側へ払出されるようになっており、払出回転体748の回転によって賞球通路741c側へ払出された遊技球は、計数センサ751によって一つずつ数えられた上で賞球ベース710の賞球通路715へ受け渡されるようになっている。一方、払出モータ744によって払出回転体748が背面視時計回りの方向へ回転させられると、供給通路741a内の遊技球が球抜通路741d側へ払出されるようになっており、払出回転体748によって球抜通路741d側へ払出された遊技球は、球抜通路741dの下端から後述する満タン振分ユニット770の球抜通路778、本体枠ベース600の本体枠ベース球抜通路622、基板ユニット800における基板ユニットベース810の開口部812、及び電源基板ボックスホルダ840の排出通路842を介してパチンコ機1の後側外部へと排出することができるようになっている。

10

【0399】

なお、本例の賞球装置740におけるユニットベース741は、透明な合成樹脂によって形成されており、本体枠3に組立てられた状態でも、透明な賞球ベース710を通して本体枠3の前側から、賞球装置740の供給通路741a、振分空間741b、賞球通路741c、球抜通路741d等の内部を視認することができ、球詰り等の不具合を簡単に発見することができるようになっている。

【0400】

次に、賞球ユニット700における満タン分岐ユニット770について、主に図74、図75及び図79を参照して説明する。賞球ユニット700における満タン振分ユニット770は、賞球ベース710の下端に取付けられるものであり、賞球ユニット740の賞球通路741c側へ払出された遊技球を、皿ユニット300へ誘導することができると共に、皿ユニット300の上皿301において遊技球が満タンになると、皿ユニット300の下皿302に対して遊技球を払出すように振分けることができるものである。

20

【0401】

この満タン分岐ユニット770は、前後方向の略中央上部に賞球ベース710の取付係止部716に係止される係止部770aと、後端上部に賞球ベース710の下端裏面に固定される固定部770bと、を備えている。満タン分岐ユニット770は、係止部770aを賞球ベース710の取付係止部716に、後側から係止させることで取付係止部716に対して吊持ちされた状態となり、賞球ベース710に対して固定部770bを所定のビスで固定することで、満タン分岐ユニット770を賞球ベース710の下端に取付固定することができるようになっている。

30

【0402】

また、満タン分岐ユニット770は、図示するように、全体が後端から前端へ向かうに従って低くなるような箱状に形成されており、後端上部における左右方向の略中央に上方へ向かって開口し賞球ベース710の賞球通路715を流下してきた遊技球を受ける賞球受口771と、賞球受口771の下側に配置され左右方向へ広がった分岐空間772（図79を参照）と、分岐空間772における賞球受口771の直下から前側へ向かって遊技球を誘導する通常通路773（図79を参照）と、通常通路773を流通した遊技球を前方へ放出し前側の正面視右端に開口した通常球出口774と、分岐空間772における賞球受口771の直下よりも背面視右側へ離れた位置から前側へ向かって遊技球を誘導する満タン通路775（図79を参照）と、満タン通路775を流通した遊技球を前方へ放出し通常球出口774の正面視左側に開口した満タン球出口776と、を備えている。

40

【0403】

更に、満タン分岐ユニット770は、後端上部の正面視左側端部に上方へ向かって開口し賞球装置740の球抜通路741dを流下してきた遊技球を受ける球抜受口777と、球抜受口777に受けられた遊技球を前側へ誘導する球抜通路778（図79を参照）と、球抜通路778を流通した遊技球を前方へ放出し正面視左端で通常球出口774及び満タン球出口776よりも後方の位置で開口した球抜出口779と、を備えている。

50

【0404】

本例の満タン分岐ユニット770は、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態とすると、通常球出口774及び満タン球出口776が、夫々扉枠5におけるファールカバーユニット540の第一球入口542a及び第二球入口542cと対向して連通するようになっており、通常球出口774から放出された遊技球は、ファールカバーユニット540の第一球入口542aを通過して皿ユニット300の上皿301へ供給され、満タン球出口776から放出された遊技球は、ファールカバーユニット540の第二球入口542cを通過して皿ユニット300の下皿302へ供給されるようになっている。また、球拔出口779は、本体枠ベース600における本体枠ベース球拔通路622の背面視右側上端と連通するように形成されており、球拔出口779から放出された遊技球が本体枠ベース600の本体枠ベース球拔通路622へ受け渡されるようになっている。

10

【0405】

この満タン分岐ユニット770は、賞球装置740の賞球通路741c側へ払出された遊技球が、賞球ベース710の賞球通路715を介して賞球受口771で受取られるようになり、賞球受口771へ進入した遊技球は、通常の状態では、分岐空間772を垂下して賞球受口771の直下に配置された通常通路773内へと流下する。そして、通常通路773内へ流下した遊技球は、通常出口774からファールカバーユニット540の第一球入口542aに進入し、第一球通路542bを通過して第一球出口544aから皿ユニット300の上皿301へ供給されることとなる。

20

【0406】

ところで、皿ユニット300の上皿301が遊技球で満タンとなった状態で、更に賞球ユニット700（賞球装置740）から遊技球が払出されると、ファールカバーユニット540の第一球出口544aから上皿301側へ出られなくなった遊技球が、ファールカバーユニット540の第一球通路542b内で滞り、やがて、満タン分岐ユニット770における通常球出口774を通して上流の通常通路773内も一杯になる。この状態で、賞球受口771から分岐空間772内へ進入した遊技球は、通常通路773内へ進入することができず、分岐空間772内で横方向へ移動し始め、横方向へ移動した遊技球が満タン通路775内へ進入して、満タン球出口776からファールカバーユニット540の第二球入口542c、第二球通路542d、及び第二球出口544bを介して皿ユニット300の下皿302へ供給されるようになっている。

30

【0407】

なお、本例の満タン分岐ユニット770は、全体が透明な合成樹脂によって形成されており、外部から内部を視認することができるようになっている。これにより、満タン分岐ユニット770内に侵入した埃やゴミ等の異物や、球詰りの発生等を、満タン分岐ユニット770を分解しなくても簡単に発見することができるようになっている。

【0408】

このように、本例の満タン分岐ユニット770は、上皿301内で遊技球が満タンとなると、その満タンが解消されるまでは、賞球装置740から払出された遊技球を、自動的に下皿302へ供給させることができるので、従来のパチンコ機のように上皿が満タンとなって上皿の球拔ボタンを操作することで遊技球が打球発射装置に供給されなくなって遊技球の打込が中断してしまうのを回避させることができ、遊技中の煩わしさを解消させて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができるようになっている。

40

【0409】

また、本例の満タン分岐ユニット770は、上述したように、上皿301が満タンとなると、賞球装置740の直下、つまり、パチンコ機1の後部で払出される遊技球の通路を分岐させるようにしており、満タン分岐ユニット770の通常通路773内で滞留した遊技球は上皿301へ払出されるので、上皿301内の遊技球と通常通路773内の遊技球が打球発射装置650によって直接打ち込むことができる遊技球となり、上皿301における遊技球の貯留量は、実質的には、上皿301の容量と通常通路773の容量とを合わせた量となる。つまり、上皿301の容量を、従来のパチンコ機における上皿の容量より

50

も小さくしても、通常通路 773 の容量が加えられるので、従来と同等量の遊技球を上皿 301 で貯留することができる。従って、上皿 301 を小さくすることで相対的に扉枠 5 における遊技窓 101 を大きく（広く）することが可能となり、より広い遊技領域 1100 を備えたパチンコ機 1 とすることができ、遊技する遊技者に対して訴求力の高いパチンコ機 1 とすることができると共に、広い遊技領域 1100 により遊技者を楽しませることができるようになっている。

【0410】

更に、満タン分岐ユニット 770 の二つの通常球出口 774 と満タン球出口 776 とを左右に並べて配置しているので、扉枠 5 に貯留皿を一つのみ備えるようにして受入口（第一球入口 542a 及び第二球入口 542c）を一つのみとした場合でも、本体枠 3 側（満タン分岐ユニット 770）を変更することなく、扉枠 5 側へ遊技球を送ることができる。従って、本体枠 3 における遊技球の流路（満タン分岐ユニット 770）を変更しなくても、貯留皿の数が異なる扉枠 5 に対応させることが可能なパチンコ機 1 とすることができると共に、貯留皿の数が異なる扉枠 5 を備えたパチンコ機 1 のラインナップにかかるコストが増加するのを抑制することができる。

10

【0411】

また、上述したように、扉枠 5 に備えられた貯留皿の数を変更しても、本体枠 3 を変更することなく対応させることができるので、扉枠 5 の変更にかかるパチンコ機 1 全体のコストを低減させることができ、多様なパチンコ機 1 を低コストで提供することができるようになっている。

20

【0412】

更に、通常通路 773 を通って通常球出口 774 から扉枠 5 側へ送られる遊技球が、優先的に遊技領域 1100 内へ打ち込まれるようにしており、貯留皿を一つのみ備えた扉枠 5 に交換しても、賞球装置 740 から払出された遊技球を通常通路 773 及び通常球出口 774 を介して直ちに貯留皿へ送ることができるので、払出しから貯留までのタイムラグを少なくすることができ、打ち込むための遊技球が不足して遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。更に、貯留皿の数が異なる扉枠 5 に対して充分に対応することができるようになっている。

【0413】

また、上皿 301 が満タンでない限りは、賞球装置 740 から払出された遊技球が上皿 301 へ送られるので、下皿 302 に貯留された遊技球を上皿 301 へ移す頻度を低減させることが可能となり、遊技球の打込操作等に遊技者を専念させることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

30

【0414】

また、満タン分岐ユニット 770 の通常球出口 774 と満タン球出口 776 とを、左右に並んで配置しており、扉枠 5 に貯留皿を一つのみ備えるようにした場合でも、第一球入口 542a 等に相当する受入口の下端の位置を、貯留皿を二つ備えた扉枠 5 の上皿 301 と対応した第一球入口 542a 等と同じ高さとするので、貯留皿の深さが浅くなるのを回避させることが可能となり、貯留皿を深くして十分な遊技球の貯留量を確保することができる。遊技者に対して頻繁に貯留量を気にさせることなく遊技を行わせることができると共に、本体枠 3 側を変更することなく、異なる数の貯留皿を備えた扉枠 5 に対応させることができ、パチンコ機 1 の機種変更等にかかるコストが増加するのを抑制することができる。

40

【0415】

更に、満タン分岐ユニット 770 における満タン通路 775 が通常通路 773 から分岐する位置を、賞球装置 740 に可及的に近い位置で分岐させるようにしており、上皿 301 が遊技球で満タンとなり通常球出口 774 から遊技球が出られなくなっても、通常球出口 774 から満タン通路 775 の分岐位置までの間の通常通路 773 内に貯留される遊技球の量を可及的に多くすることができる。上皿 301 に貯留される実質的な遊技球の貯留量を可及的に多くすることができる。なお、扉枠 5 に一つのみ貯留皿を備えるようにした場

50

合では、貯留皿が遊技球で満タンとなって通常球出口 773 や満タン球出口 776 から遊技球が出られなくなっても、通常通路 773 から満タン通路 775 が分岐する位置を、賞球装置 740 に対して可及的に近い位置に配置しているので、通常通路 773 だけでなく満タン通路 775 にも多くの遊技球を貯留させることができ、貯留皿に貯留される実質的な遊技球の貯留量を可及的に多くすることができる。従って、扉枠 5 側に備えられた貯留皿の数が異なっているとしても、本体枠 3 側（満タン分岐ユニット 770）を変更することなく、夫々の扉枠 5 における遊技球の貯留量を最大限に多くすることができ、異なる扉枠 5 に対して充分に対応することが可能なパチンコ機 1 とすることができる。

【0416】

また、満タン分岐ユニット 770 における通常通路 773 及び満タン通路 775 を、複数列で遊技球を流通可能な広さとしており、満タン分岐ユニット 770 内での遊技球の停留量（貯留量）をより多くすることができるので、扉枠 5 に備えられた貯留皿の数が異なっているとしても、満タン分岐ユニット 770 内の遊技球を合わせた実質的な貯留量が少なくなるのを回避させることができ、本体枠 3 における遊技球の流路を変更することなく、貯留皿の数が異なる扉枠 5 に対応させることが可能なパチンコ機 1 とすることができる。

【0417】

また、満タン分岐ユニット 770 を透明樹脂で形成することで通常通路 773 及び満タン通路 775 の内部を、外部から視認可能としているので、満タン分岐ユニット 770 内で遊技球が詰まって不具合が発生した際に、満タン分岐ユニット 770 の外部から球詰りの箇所を容易に見出すことができ、不具合を早期に解消させてパチンコ機 1 の稼働率を高めることができる。

【0418】

[1-3E. 球出口開閉ユニット]

次に、本体枠 3 における球出口開閉ユニット 790 について、主に図 80 乃至図 82 を参照して説明する。図 80 は、本体枠における球出口開閉ユニットの正面斜視図である。また、図 81 は、本体枠における球出口開閉ユニットの背面斜視図である。更に、図 82 は、本体枠における球出口開閉ユニットと扉枠におけるファールカバーユニットとの関係を示す説明図である。本実施形態の本体枠 3 における球出口開閉ユニット 790 は、本体枠ベース 600 の下部後壁部 604 における正面視左上端付近に形成された取付部 624 に取付けられるものであり、本体枠 3 に対して扉枠 5 が開いた時に、賞球ユニット 700 における満タン分岐ユニット 770 前端的通常球出口 774 と満タン球出口 776 とを閉鎖して、賞球ユニット 700 から扉枠 5 の皿ユニット 300 への遊技球の流れを遮断することができるものである。

【0419】

この球出口開閉ユニット 790 は、本体枠ベース 600 の下部後壁部 604 における正面視左上端付近に形成された取付部 624 に下部後壁部 604 の上端よりも突出しないように取付けられるシャッターベース 791 と、シャッターベース 791 に上下方向へスライド可能に保持される板状の開閉シャッター 792 と、開閉シャッター 792 を上下方向へスライドさせる開閉クランク 793 と、開閉クランク 793 を介して開閉シャッター 792 が上昇するように付勢する開閉バネ 794 と、を備えている。

【0420】

球出口開閉ユニット 790 のシャッターベース 791 は、開閉シャッター 792 がシャッターベース 791 の上端よりも上方へ突出するように上下方向へスライド可能に保持するための上下方向へ延びた一对のスライド溝 791a と、一对のスライド溝 791a の間で前後方向に貫通した矩形状の開口部 791b と、正面視で左側端部前面に配置され開閉クランク 793 を前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持するクランク支持部 791c と、開閉バネ 794 の一端（上端）に係止するバネ係止部 791d と、を備えている。シャッターベース 791 のクランク支持部 791c は、開口部 791b の正面視左側に配置されていると共に、バネ係止部 791d は、正面視で左右方向中央から左寄りの上部付近に配置されている。

【0421】

また、球出口開閉ユニット790の開閉シャッター792は、平板状のシャッター本体792aと、シャッター本体792aの前面から突出しシャッターベース791のスライド溝791a内を摺動する一对の摺動突部（図示は省略）と、一对の摺動突部の間でシャッターベース791の開口部791bから臨む位置に配置され前後方向へ貫通した横長矩形状の駆動孔792bと、を備えている。

【0422】

更に、球出口開閉ユニット790の開閉クランク793は、シャッターベース791のクランク支持部791cにより前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される軸部793aと、軸部793aの正面視右側外周から右外方へ延出し先端が開口部791bの左右方向中央付近まで延出した駆動棹793bと、駆動棹793bの先端から後方へ突出し開閉シャッター792の駆動孔792b内に摺動可能に挿入される駆動ピン793cと、軸部793aの正面視下側外周から下方へ延出し先端が球形状とされた当接部793dと、駆動棹793bの途中上面に形成され開閉バネ794の他端（下端）を係止するバネ係止部793eと、を備えている。

10

【0423】

なお、本例の球出口開閉ユニット790は、シャッターベース791及び開閉シャッター792が、透明な合成樹脂によって形成されており、開閉シャッター792が上昇した状態でも、開閉シャッター792を通して後側に配置された満タン分岐ユニット770における通常球出口774や満タン球出口776等が視認できるようになっている。

20

【0424】

本例の球出口開閉ユニット790は、開閉クランク793が前後方向へ延びた軸回りに回動することで、開閉クランク793の駆動ピン793cが円弧状に上下方向へ回動すると同時に、駆動ピン793cが挿入された駆動孔792bを介して開閉シャッター792が上下方向へスライドするようになっている。この球出口開閉ユニット790は、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態では、開閉クランク793の当接部793dが扉枠5におけるファールカバーユニット540の開閉作動片542gと当接して、当接部793dが正面視で時計回りの方向へ開閉バネ794の付勢力に抗して回動させられるようになり、当接部793dと共に駆動ピン793cが正面視時計回りの方向へ回動することで、開閉シャッター792が下降して満タン分岐ユニット770前端的通常球出口774と満タン球出口776とを開放させることができるようになっている。

30

【0425】

この状態から本体枠3に対して扉枠5を開くと、開閉クランク793の当接部793cと、扉枠5におけるファールカバーユニット540の開閉作動片542gとの当接が解除され、開閉クランク793が開閉バネ794の付勢力によって正面視反時計周りの方向へ回動すると同時に、開閉シャッター792が上昇して、満タン分岐ユニット770前端的通常球出口774と満タン球出口776とを閉鎖することができるようになっている。

【0426】

このように、本体枠3に対する扉枠5の開閉に応じて、球出口開閉ユニット790により賞球ユニット700における満タン分岐ユニット770前端的通常球出口774と満タン球出口776とを自動的に開閉させることができるので、満タン分岐ユニット770内に遊技球が残っている状態で扉枠5を開いても、通常球出口774や満タン球出口776から遊技球がこぼれてしまうのを防止することができるようになっている。

40

【0427】

[1-3F. 基板ユニット]

次に、本体枠3における基板ユニット800について、主に図83乃至図89を参照して説明する。図83は、本体枠3における基板ユニットの正面斜視図であり、図84は、本体枠3における基板ユニットの背面斜視図である。また、図85は、基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。更に、図86は、基板ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。また、図87は、基板ユニットにおける電源基板ボックスの立壁部の作

50

用を説明する斜視図である。図 8 8 (A) は基板ユニットにおける端子基板ボックスの断面図であり、(B) は基板ユニットにおける端子基板ボックスを分解して前から見た分解斜視図である。また、図 8 9 (A) は発射電源基板ボックスの正面図であり、(B) は (A) に示す A-A 線の断面図である。

【0428】

本体枠 3 における基板ユニット 8 0 0 は、本体枠ベース 6 0 0 の下部後壁部 6 0 4 の後面に取付けられる基板ユニットベース 8 1 0 と、基板ユニットベース 8 1 0 の正面視左側後面に取付けられるスピーカボックス 8 2 0 と、基板ユニットベース 8 1 0 の正面視右側後面に取付けられる発射電源基板ボックス 8 3 0 と、発射電源基板ボックス 8 3 0 を後側から囲うように基板ユニットベース 8 1 0 の後面に取付けられる電源基板ボックスホルダ 8 4 0 と、電源基板ボックスホルダ 8 4 0 の後面に取付けられ後端がスピーカボックス 8 2 0 の後端と略同一面状となる大きさに形成された電源基板ボックス 8 5 0 と、電源基板ボックス 8 5 0 及びスピーカボックス 8 2 0 の後面に取付けられる払出制御基板ボックス 8 6 0 と、払出制御基板ボックス 8 6 0 の正面視左側端部を覆うようにスピーカボックス 8 2 0 の後面に取付けられる端子基板ボックス 8 4 0 と、基板ユニットベース 8 1 0 の前面に取付けられる主側中継端子板 8 8 0 及び周辺側中継端子板 8 8 2 と、を備えている。

10

【0429】

本例の基板ユニット 8 0 0 における基板ユニットベース 8 1 0 は、図示するように、左右方向へ長く延びた形態とされ、左右方向の略中央部が下方へ一段下がり左右両端へ向かうに従って緩やかに上側へ傾斜し前面から前方へ突出した壁状の遮蔽壁部 8 1 1 と、遮蔽壁部 8 1 1 における左右方向中央の一段下がった位置の上側に配置され前後方向へ貫通した開口部 8 1 2 と、遮蔽壁部 8 1 1 の下側で正面視左端近傍の前面に形成され主側中継端子板 8 8 0 及び周辺側中継端子板 8 8 2 を取付けるための基板取付部 8 1 3 と、基板取付部 8 1 3 の正面視左側で前後方向へ横長の矩形状に貫通した筒状のダクト部 8 1 4 と、後面に固定されるスピーカボックス 8 2 0 のスピーカ 8 2 1 と対応する位置で前後方向に貫通する縦長スリット状の複数の透孔 8 1 5 と、背面視左側（正面視右側）上部の後面に後方及び上方へ開放され発射電源基板ボックス 8 3 0 の前側を収容可能なボックス収容部 8 1 6 と、を備えている。

20

【0430】

この基板ユニットベース 8 1 0 は、遮蔽壁部 8 1 1 が、本体枠ベース 6 0 0 における下部後壁部 6 0 4 の後面に形成された本体枠ベース球抜通路 6 2 2 の下側に沿うように形成されており、本体枠ベース球抜通路 6 2 2 から遊技球が下方へ脱落するのを防止することができると共に、基板ユニットベース 8 1 0 の強度を高めることができるようになっている。また、基板ユニットベース 8 1 0 は、前後方向に貫通した開口部 8 1 2 を通して、本体枠ベース球抜通路 6 2 2 を流下してきた遊技球を基板ユニットベース 8 1 0 の後側に配置された電源基板ボックスホルダ 8 4 0 へ送ることができるようになっている。

30

【0431】

また、基板ユニットベース 8 1 0 は、主側中継端子板 8 8 0 及び周辺側中継端子板 8 8 2 を取付ける基板取付部 8 1 3 が、本体枠ベース 6 0 0 における矩形状に開口した開口部 6 1 4 と対応した位置に配置されており、基板取付部 8 1 3 に主側中継端子板 8 8 0 と周辺側中継端子板 8 8 2 を取付けた状態では、本体枠ベース 6 0 0 の開口部 6 1 4 から主側中継端子板 8 8 0 と周辺側中継端子板 8 8 2 が前側へ臨むようになっている。また、基板ユニットベース 8 1 0 は、ダクト部 8 1 4 及び複数の透孔 8 1 5 によってスピーカボックス 8 2 0 のスピーカ 8 2 1 からの音を前側へ良好に伝達させることができるようになっている。

40

【0432】

更に、基板ユニットベース 8 1 0 は、ボックス収容部 8 1 6 が後側に配置される電源基板ボックスホルダ 8 4 0 の前ボックス収容部 8 4 3 と対応した位置に形成されており、ボックス収容部 8 1 6 と前ボックス収容部 8 4 3 とで、発射電源基板ボックス 8 3 0 を収容する収容凹部を形成することができるようになっている。

50

【0433】

基板ユニット800におけるスピーカボックス820は、文字通り、前側を向いて取付けられたスピーカ821を備えている。このスピーカボックス820は、スピーカ821の後側を密閉状に覆うと同時に、正面視でスピーカ821の左側に横長矩形状の開放口822が形成されている。この開放口822は、詳細な図示は省略するが、所定の迷路状の通路を介してスピーカ821の後側の空間と連通することで、スピーカ821の後側の音の位相を反転させて前方へ放射するようにしており、スピーカ821の口径に対してより重低音を発することが可能なバスレフ型のスピーカボックスとされている。なお、基板ユニットベース810におけるダクト部814は、スピーカボックス820の開放口822と対応する位置に形成されており、開放口822から放射される音を前方へ良好に伝達させることができるようになっている。

10

【0434】

基板ユニット800における発射電源基板ボックス830は、後方が開放された箱状に形成されており、その後端開口を閉鎖するように取付けられた発射電源基板831を備えている。この発射電源基板ボックス830は、発射電源基板831に取付けられた各種電子部品が内部に収容されるようになっており、上面及び下面に形成されたスリット830aを介して、電子部品等からの熱を外部へ放出することができるようになっている。

【0435】

この発射電源基板ボックス830は、基板ユニットベース810のボックス収容部816と、後述する電源基板ボックスホルダ840の前ボックス収容部844とによって形成される上方へ開放された収容凹部内に、上方から脱着可能に収容されるようになっている。これにより、本体枠3を組立てた状態では、発射電源基板ボックス830に不具合が発生した場合、本体枠3の前側から発射電源基板ボックス830を簡単に脱着して交換したり修理したりすることができるようになっている（図63を参照）。

20

【0436】

更に、発射電源基板ボックス830を詳述すると、図89にも示すように、発射電源基板831には、DC/DCコンバータ831aと、DC/DCコンバータ831aからの電力を充電及び放電する電解コンデンサSC0と、を備えており、DC/DCコンバータ831aからの電流と電解コンデンサSC0からの放電による電流とを併合した併合電流を打球発射装置650の発射ソレノイド654に電流を流して駆動している。この発射電源基板ボックス830は、発射電源基板831に実装されるDC/DCコンバータ831a及び電解コンデンサSC0が発する熱を外部へ放出するために、その上面及び下面に放熱孔としてのスリット830aが形成されている。

30

【0437】

また、発射電源基板831の電解コンデンサSC0はDC/DCコンバータ831aと比べて熱によって破損しやすい電子部品であるため、電解コンデンサSC0が配置される発射電源基板ボックス830の側面には放熱孔としてのスリット830aが形成されている。また発射電源基板ボックス830には、その内部空間を、DC/DCコンバータ831aを収容するための空間と、電解コンデンサSC0を収容するための空間と、の2つの空間に仕切る仕切壁830bが上面内壁と下面内壁とを接続するように底面から端開口縁まで一体に形成されている。これにより、発射電源基板ボックス830の端開口に発射電源基板831を取付けて発射電源基板ボックス830の内部空間を閉鎖すると、発射電源基板ボックス830の内部空間が仕切壁830bによって、電解コンデンサSC0を収容するための収容空間830cと、DC/DCコンバータ831aを収容するための収容空間830dと、の2つ空間が形成されるため、仕切壁830bは、電解コンデンサSC0を収容するための収容空間830cと、DC/DCコンバータ831aを収容するための収容空間830dと、の熱の出入りを遮断する断熱壁として機能している。

40

【0438】

電解コンデンサSC0が収容された収容空間830c内の熱は、つまり、電解コンデンサSC0が発する熱は、収容空間830cと外気とを連通する上面、側面、及び下面にそ

50

れぞれ形成された放熱孔としてのスリット 830a を介して、外部へ放出されることにより、この放出される熱を DC/DC コンバータ 831a が収容される収容空間 830d へ入り込ませないようにすることができる。従って、電解コンデンサ SC0 が発する熱を DC/DC コンバータ 831a へ伝えないようにすることができる。また、DC/DC コンバータ 831a が収容された収容空間 830d 内の熱は、つまり、DC/DC コンバータ 831a が発する熱は、収容空間 830d と外気とを連通する上面及び下面にそれぞれ形成された放熱孔としてのスリット 830a を介して、外部へ放出されることにより、この放出される熱を電解コンデンサ SC0 が収容される収容空間 830c へ入り込ませないようにすることができる。従って、DC/DC コンバータ 831a が発する熱を電解コンデンサ SC0 へ伝えないようにすることができる。

10

【0439】

本実施形態では、打球発射装置 650 の発射ソレノイド 654 に流す併合電流を作成するための DC/DC コンバータ 831a 及び電解コンデンサ SC0 が電源基板 851 に設けられるのではなく、電源基板 851 と別体の発射電源基板 831 に設けられることにより発射電源基板 831 のサイズを電源基板 851 のサイズと比べて小さくすることができる。従って、発射電源基板 831 の小型化により取り扱え易くなって発射電源基板 831 の交換作業が容易となりその交換作業に費やす時間の短縮化に寄与することができる。この交換作業では、発射電源基板ボックス 830 の端開口に発射電源基板 831 が取付けたままの状態、つまり発射電源基板ボックス 830 ごと、交換することもできる。

【0440】

20

またパチンコ遊技機 1 が稼働されて電解コンデンサ SC0 がその寿命を迎え、発射ソレノイド 654 による駆動発射が突然発射不能となって遊技を中断せざるを得なくなっても、発射電源基板 831 の交換作業が容易に行えることにより遊技の中断を早い段階で解消することができる。したがって、電解コンデンサ SC0 の寿命による発射不能を極めて簡単に解消することができるとともに、その発射不能による遊技の中断を早い段階で解消して遊技を再開することができ、遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【0441】

なお、発射電源基板 831 の電解コンデンサ SC0 は、発射ソレノイド 654 による駆動発射が行われるごとに、例えば、1 分当たり 100 回という頻度において、充放電が繰り返し行われることにより劣化して寿命を迎えるのに対して、電源基板 851 は、遊技ホール等の島設備の交流電源から直流電源を作成するものの、発射電源基板 831 の電解コンデンサ SC0 と同様の頻度で充放電が繰り返し行わるものではないため、発射電源基板 831 と比べると、その寿命は極めて長い。換言すると、発射電源基板 831 は、電解コンデンサ SC0 の充放電にともなう劣化によって寿命を迎えるのに対して、電源基板 851 は、経年変化によって寿命を迎える。発射ソレノイド 654 に流す併合電流を作成するための DC/DC コンバータ 831a 及び電解コンデンサ SC0 が電源基板 851 に設けられるのではなく、電源基板 851 と別体の発射電源基板 831 に設けられることにより、寿命の長い経年変化にともなう電子部品を電源基板 851 に集中させることができる。これにより、寿命の長い経年変化にともなう電子部品が寿命の短い電解コンデンサ SC0 と一緒に交換されることを防止することができる。

30

40

【0442】

また、打球発射装置 650 を制御する電解コンデンサ SC0 を備えた発射電源基板 831 を、遊技盤 4 を保持する遊技盤保持口 601 を通して前側から脱着可能としているので、打込特性を変化させるために容量の異なる電解コンデンサ SC0 に変更する不正を行おうとしても、発射電源基板 831 を脱着させるには遊技盤保持口 601 に保持された遊技盤 4 を取外す必要があり、発射電源基板 831 を交換し辛くして不正を行い難くすることができ、発射電源基板 831 が不正改造されて最適化されている打込強さを故意に変化させる不正を抑止することができると共に、不正を行い難くすることで苛立ち等を覚えた遊技者が不正行為等の不正へ発展するのを抑止することが可能なパチンコ機 1 とすることができるようにしている。

50

【0443】

また、発射電源基板831を脱着可能として交換できるようにしているのも、仮に、発射電源基板831の電解コンデンサSC0等に対して不正が行われても、発射電源基板831を直ちに交換して不正を解消させることができ、遊技の中断期間を可及的に短くすることができると共に、遊技の中断によって苛立ちを感じたり残念な気分になってしまったりするのを早期に解消させることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができるようになっている。

【0444】

更に、打球発射装置650を制御する発射制御部4120における電解コンデンサSC0を備えた発射電源基板831が、遊技盤4を保持する本体枠3の遊技盤保持口601を通して前側から脱着可能とされており、機種変更等により遊技盤4を交換する際に、発射制御部4120の発射電源基板831（発射電源基板ボックス830）も簡単に交換することができるので、交換する新機種のコンセプト等にマッチした打込特性を実現できる電解コンデンサSC0やDC/DCコンバータ831aを備えた発射電源基板831に交換することで、本体枠3に以前から備えられている打球発射装置650の打込特性を、新しい遊技盤4にマッチしたものとすることができる。従って、遊技球の打込特性を遊技盤4のコンセプトに簡単に合わせることができるので、新機種の遊技盤4による遊技を充分に楽しませることができ、遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

10

【0445】

また、発射制御部4120の発射電源基板831を前側から脱着できるようにしているのも、発射電源基板831を交換する際に、遊技ホール等の島設備に対して本体枠3を開ける必要がなく、交換にかかる手間を簡略化することができると共に、短時間で交換することができる、遊技ホール側の負担が増加するのを抑制することができる。また、発射電源基板831（発射電源基板ボックス830）を脱着可能として交換できるようにしているのも、発射制御部4120（払出制御基板4110）全体を交換する場合と比較して、打込特性の変更にかかるコストを低減させることができ、ホール側等の負担を軽減させることができる。

20

【0446】

更に、機種等を変更する際に、遊技盤4のみを交換して扉枠5や本体枠3等は以前のものでそのまま使用できるようにしているのも、長期間の使用によって発射制御部4120の発射電源基板831の電解コンデンサSC0等が劣化した場合、上述したように、発射電源基板ボックス830を前側から簡単に交換することができるので、劣化によって不具合が発生して発射電源基板831を直ちに交換して不具合を解消させることができ、遊技の中断期間を可及的に短くすることができると共に、遊技の中断によって苛立ちを感じたり残念な気分になってしまったりするのを早期に解消させることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

30

【0447】

また、本体枠3の遊技盤保持口601を通して発射電源基板831（発射電源基板ボックス830）を支持させるようにしており、発射電源基板831を脱着させるには、遊技盤保持口601に保持された遊技盤4を取外す必要があるのも、扉枠5と本体枠3との隙間から不正行為を行うための工具を侵入させても、遊技盤4によって不正な工具が発射電源基板831に到達するのを阻止することができ、発射電源基板831に対して不正行為が行われるのを防止することができると共に、不正行為に対する防御力の高いパチンコ機1とすることができる。

40

【0448】

更に、遊技盤保持口601を通して発射電源基板ボックス830を支持させるようにしており、蓋然的に、発射電源基板ボックス830を支持する位置が本体枠3の前面よりも後側となるので、発射電源基板ボックス830を支持するためのスペースを確保し易くすることができる、発射電源基板ボックス830を支持して上記の作用効果を奏するパチンコ機1を確実に具現化することができる。

50

【0449】

また、電解コンデンサSC0を発射電源基板831に備えるようにしており、発射電源基板831を本体枠3の前側から簡単に脱着することができるので、電解コンデンサSC0から発射ソレノイド654へ電源を供給することで電解コンデンサSC0にかかる負荷が大きくなって電解コンデンサSC0が劣化し易くなっても、電解コンデンサSC0（発射電源基板831）を簡単に交換することができ、不具合を早期に解消させて遊技の中断時間を可及的に短くすることができると共に、上述した作用効果を確実に奏するパチンコ機1とすることができる。

【0450】

また、基板ユニット800における電源基板ボックスホルダ840は、正面視で左右中央よりも左側前面に、上方へ開放され遊技盤4のアウト球排出部1161から排出された下方へ排出された遊技球を受ける排出球受部841と、排出球受部841で受けられた遊技球を下方へ誘導して排出する排出通路842と、排出通路842及び排出球受部841の横（正面視で右側）の前面に前方及び上方へ開放され発射電源基板ボックス830の後側を収容可能な前ボックス収容部843と、電源基板ボックスホルダ840の後面全体が前側へ窪んだように形成され電源基板ボックス850の前端を収容可能な後ボックス収容部844と、を備えている。

10

【0451】

この電源基板ボックスホルダ840は、排出通路842の開放された前端側が基板ユニットベース810の後面によって閉鎖されるようになっており、基板ユニットベース810の開口部812が排出通路842へ望む位置に形成されており、本体枠ベース600における下部後壁部604の後面に形成された本体枠ベース球抜通路622を流通して基板ベースユニット810の開口部812を通して基板ユニットベース810の後側へ流下した遊技球と、詳細は後述するが遊技盤4のアウト球排出部1161から排出されて排出球受部841で受けられた遊技球とを、排出通路842を通してパチンコ機1の後側下方へ排出することができるようになっている。

20

【0452】

また、電源基板ボックスホルダ840は、基板ユニットベース810のボックス収容部816と対応した位置に形成されており、ボックス収容部816と前ボックス収容部843とで、発射電源基板ボックス830を収容する収容凹部を形成することができるようになっている。

30

【0453】

更に、基板ユニット800における電源基板ボックス850は、前方が開放された横長の箱状に形成されており、その前端開口を閉鎖するように取付けられた電源基板851を備えている。この電源基板ボックス850は、電源基板851に取付けられた各種電子部品が収容されるようになっており、上面及び下面に形成された複数のスリット850aを介して、電子部品等からの熱を外部へ放出することができるようになっている。なお、図86に示すように、電源基板ボックス850の後面には、電源基板851に取付けられた電源スイッチ852が臨むようになっている。

40

【0454】

また、電源基板ボックス850は、電源基板851における電源スイッチ852の下側に取付けられた電源端子853（図84及び図86を参照）が後側へ臨む開口の下辺に沿って後方へ突出した立壁部850bと、立壁部850bの後端の両側から後方へ突出した突起部850cと、立壁部850bよりも前側且つ下側に配置され電源基板ボックス850の外周との間で配線コード854を挿通可能な隙間を形成する配線ガイド部850dと、を備えている。なお、詳細な図示は省略するが、電源基板851に実装された電源端子853は、コネクタ端子855の係止爪と係止する係止片を有しており、それら係止爪と係止片とを係止させることで、電源端子853からコネクタ端子855が外れないようになっている。

【0455】

50

この電源基板ボックス８５０は、立壁部８５０ｂが、図８７に示すように、電源基板８５１の電源端子８５３に配線コード８５４のコネクタ端子８５５を接続した状態で、コネクタ端子８５５の後端よりも若干後方へ突出するように形成されている。本例の電源基板ボックス８５０では、配線コード８５４が電源基板ボックス８５０の前方下側から立壁部８５０ｂの後端に引っ掛かるように後側へ回り込んだ状態で、電源基板８５１の電源端子８５３にコネクタ端子８５５が接続されるようになっている。

【０４５６】

ところで、基板に取付けられた接続端子に対して、配線コードが延びだしたコネクタ端子を接続した上で、その配線コードを基板側へ引っ張った状態とすると、配線コードから係る張力によってコネクタ端子が接続端子側へ押し付けられるような状態となるので、接続端子からコネクタ端子を外し難くなる問題がある。しかしながら、本例の電源基板ボックス８５０によると、配線コード８５４の先端側（電源端子８５３と接続されたコネクタ端子８５５側とは反対側）が電源基板８５１側（本体枠３に対して前側）へ引っ張られても、コネクタ端子８５５よりも後方へ突出した立壁部８５０ｂによって、配線コード８５４がコネクタ端子８５５よりも後側へ回り込む（折返す）ように取り回されているので、配線コード８５４からコネクタ端子８５５が電源端子８５３側へ押し付けられるような力が作用するのを防止することができ、電源端子８５３に接続されたコネクタ端子８５５を簡単に外すことができるようになっている。

【０４５７】

また、電源基板ボックス８５０は、立壁部８５０ｂの後端両側に後方へ突出した突出部８５０ｃを備えているので、配線コード８５４が立壁部８５０ｂの後端に沿ってスライドしても、後端の両端に備えられた突起部８５０ｃによって、それ以上外側へ配線コード８５４がスライドするのを阻止することができ、配線コード８５４が立壁部８５０ｂから外れるのを防止することができるようになっている。

【０４５８】

また、電源基板ボックス８５０の配線ガイド部８５０ｄに配線コード８５４を挿入させることで、立壁部８５０ｂで折返された配線コード８５４を立壁部８５０ｂ側へ寄せることができるので、立壁部８５０ｂから配線コード８５４を外れ難くすることができると共に、立壁部８５０ｂで配線コード８５４を折返した上で、直ちに配線ガイド部８５０ｄで配線コード８５４を立壁部８５０ｂ側へ寄せることができるので、一連の作業を連続して行わせることができ、組立てに係る作業工程を簡略化することができるようになっている。

【０４５９】

なお、電源基板ボックス８５０及び電源基板ホルダ８４０は、互いに組付けた状態における前後方向の寸法が、スピーカボックス８２０の前後方向の寸法と略同じとなるように形成されており、基板ユニットベース８１０に取付けると、電源基板ボックス８５０の後面と、スピーカボックス８２０の後面とが略同一面状となるようになっている。

【０４６０】

また、本例では、電源基板８５１を覆う電源基板ボックス８５０の開口から臨む電源端子８５３にコネクタ端子８５５を接続した上で、コネクタ端子８５５の後端よりも後側へ突出した立壁部８５０ｂによってコネクタ端子８５５の後端から延出した配線コード８５４を折返させるようにしているので、配線コード８５４が引っ張られることでコネクタ端子８５５に作用する張力を、係止爪等により接続が固定された電源端子８５３との接続を解除するような方向へ作用させることが可能となり、配線コード８５４によってコネクタ端子８５５が外せなくなるのを回避させることができ、電源基板８５１の電源端子８５３に接続されたコネクタ端子８５５を外し易くして基板の交換等のメンテナンスを簡単に行うことができる。

【０４６１】

また、電源基板ボックス８５０の立壁部８５０ｂによって配線コード８５４を折返させるようにしており、立壁部８５０ｂが無い場合と比較して、配線コード８５４の折曲がり

具合を緩くさせることができるので、配線コード 8 5 4 自体に無理な力が作用するのを回避させることができ、無理な力により配線コード 8 5 4 が断線して不具合が発生するのを防止することができる。

【0462】

更に、電源端子 8 5 3 が臨む電源基板ボックス 8 5 0 の開口の近傍に立壁部 8 5 0 b を備えるようにしており、蓋然的に、立壁部 8 5 0 b が電源端子 8 5 3 と隣接した位置となるので、電源端子 8 5 3 に接続されたコネクタ端子 8 5 5 から延びた配線コード 8 5 4 を、コネクタ端子 8 5 5 に対して可及的に真直ぐ後側へ延びださせることが可能となり、コネクタ端子 8 5 5 と配線コード 8 5 4 との繋ぎ目が折れて無理な力が作用するのを防止することができる、断線等の不具合が発生するのを防止することができる。

10

【0463】

また、電源基板 8 5 1 を被覆する電源基板ボックス 8 5 0 に立壁部 8 5 0 b を備えるようにしているので、電源基板 8 5 1 に立壁部 8 5 0 b を備える必要が無く、電源基板 8 5 1 の組立作業を容易にすることができる。また、電源基板ボックス 8 5 0 で電源基板 8 5 1 を覆うようにしているので、電源基板 8 5 1 に不具合の発生原因となる埃やゴミ等が付着するのを防止することができると共に、電源基板 8 5 1 に実装された電子部品（例えば、抵抗器、コンデンサ、トランジスタ、I C、C P U、メモリー、等）に対して触れ難くしたり交換し難くしたりすることができ、不正行為に対する防御力を高めることができるようになっている。

【0464】

20

また、電源基板 8 5 1 における電源端子 8 5 3 にコネクタ端子 8 5 5 を接続する方向を、基板面に対して略直角方向（前後方向）としており、電源基板 8 5 1 に実装された電源端子 8 5 3 に対して、コネクタ端子 8 5 5 を接続したり取外したりする時にかかる力を電源基板 8 5 1 の面に作用させ易くすることができるので、電源端子 8 5 3 におけるリード部に剪断力が作用するのを防止することが可能となり、リード部が破断して通電不良が発生したり電源基板 8 5 1 から電源端子 8 5 3 が外れてしまったりするのを防止することができ、不具合が発生し難いパチンコ機 1 とすることができる。

【0465】

更に、コネクタ端子 8 5 5 と電源端子 8 5 3 との接続に係止爪と係止片とによる固定手段によって固定するようにしているので、配線コード 8 5 4 が立壁部 8 5 0 b によって折返されることで配線コード 8 5 4 を介してコネクタ端子 8 5 5 に電源端子 8 5 3 との接続を解除するような方向へ力が作用しても、コネクタ端子 8 5 5 と電源端子 8 5 3 との接続が解除されてしまうのを防止することができ、コネクタ端子 8 5 5 と電源端子 8 5 3 との接続を確実に維持して接触不良や通電不良等の不具合が発生するのを防止することができる。

30

【0466】

また、電源基板ボックス 8 5 0 の立壁部 8 5 0 b における配線コード 8 5 4 が折返される後端の両端に、後方へ突出する突起部 8 5 0 c を備えるようにしているので、配線コード 8 5 4 が立壁部 8 5 0 b における折返される辺に沿ってスライドしても、辺の両端に備えられた突起部 8 5 0 c によって、それ以上外側へ配線コード 8 5 4 がスライドするのを阻止することができ、配線コード 8 5 4 が立壁部 8 5 0 b から外れるのを防止して上述した作用効果を確実に奏するパチンコ機 1 を具現化することができる。

40

【0467】

また、電源基板ボックス 8 5 0 に備えられた配線ガイド部 8 5 0 d によって、立壁部 8 5 0 b で折返された配線コード 8 5 4 を立壁部 8 5 0 b 側へ寄せるようにしているので、立壁部 8 5 0 b から配線コード 8 5 4 を外れ難くすることができ、上述した作用効果を確実に奏するにすることができる。更に、立壁部 8 5 0 b で配線コード 8 5 4 を折返した上で、直ちに配線ガイド部 8 5 0 d で配線コード 8 5 4 を立壁部 8 5 0 b 側へ寄せることが可能となり、一連の作業を連続して行わせることができ、組立てに係る作業工程を簡略化してコストが増加するのを抑制することができる。

50

【0468】

また、基板ユニット800における払出制御基板ボックス860は、横長で後方が開放された薄箱状のボックスベース861と、ボックスベース861内へ後側から嵌合し前方が開放された薄箱状のカバー862と、ボックスベース861の後面に取付けられカバー862によって後面が覆われる払出制御基板4110（図168を参照）と、を備えている。また、払出制御基板ボックス860は、背面視左端から外方へ突出しボックスベース861及びカバー862の双方に形成された複数の分離切断部863を備えており、複数の分離切断部863の一箇所でボックスベース861とカバー862とがカシメ固定されている。これによってボックスベース861とカバー862とを分離するためには、分離切断部863を切断しないと分離できないようになっており、払出制御基板ボックス860を開くと、その痕跡が残るようになっており、払出制御基板ボックス860を不正に開閉させられたか否かが判るようになっており、払出制御基板ボックス860を一回だけ開閉することができるようになっており、

10

【0469】

この払出制御基板ボックス860は、払出制御基板4110に取付けられたエラー解除スイッチ860a、球抜スイッチ860b、検査用出力端子860c、等がカバー862を通して後方へ臨むようになっている（図62を参照）。また、払出制御基板ボックス860は、主制御基板4100等と接続するための各種接続用の端子が、カバー862を通して後方へ臨むようになっている。

【0470】

更に、基板ユニット800における端子基板ボックス870は、スピーカボックス820の後面に取付けられ、背面視左側上部後面に形成された基板取付部871a、及び背面視右端後面に形成された基板カバー取付部871bを有した基板ベース871と、基板ベース871の基板取付部871aに後側から取付けられ後面に周辺パネル中継端子872aが取付けられた周辺パネル中継端子板872と、基板ベース871の基板カバー取付部871bに後側から取付けられ後壁部873aに上下方向へ延びた開口部873bを有する接続端子板カバー873と、接続端子板カバー873の開口部873aから後方へ臨むCRユニット接続端子874aが後面に取付けられた接続端子板カバー873内に支持されるCRユニット接続端子板874と、接続端子板カバー873と共に基板ベース871の後側を覆う基板ボックスカバー875と、を備えている。

20

30

【0471】

この端子基板ボックス870における周辺パネル中継端子板872は、パチンコ機1を設置する島設備側に備えられたパチンコ機1の稼動状態等を表示するための度数表示器と本パチンコ機1とを接続するためのものであり、CRユニット接続端子板874は、パチンコ機1と隣接して設置される球貸し機（CRユニット6とも称す）と本パチンコ機1とを接続するためのものである。なお、端子基板ボックス870における基板ベース871、接続端子板カバー873、及び基板ボックスカバー875は、夫々透明な合成樹脂によって形成されており、外部から内部の周辺パネル中継端子板872やCRユニット接続端子板874等を視認することができるようになっており、また、基板ボックスカバー875の後面には、パチンコ機1において球詰り等の不具合が発生した場合に、島設備側に設置された度数表示器やCRユニット6等に表示されるエラーコードの内容が表示された状態表示シール876が貼り付けられている。

40

【0472】

この端子基板ボックス870における基板ベース871は、図88に示すように、基板取付部871aが、後端が開放された薄い箱状に形成されている。この基板ベース871は、基板取付部871aの内側上部に形成され周辺パネル中継端子板872の上端を固定する固定片（図示は省略する）と、基板取付部871aの内側下部に形成され周辺パネル中継端子板872の下端に係止する係止爪871cと、を備えており、固定片と係止爪871cとによって周辺パネル中継端子板872を後側から脱着可能に保持することができるようになっており、

50

【0473】

また、基板ベース871は、基板カバー取付部871bが、後側へ開放された薄い箱状に形成されており、その内周の大きさが接続端子板カバー873の外周が挿入可能な大きさとされていると共に、その内周壁が前後方向へ延びた外片部871cとされている。基板ベース871は、背面視右側の外片部871cを左右方向へ貫通する一对の固定孔871dと、基板カバー取付部871bの底壁から後方へ延出しCRユニット接続端子板874の前面と当接する上下方向へ延びた二つの突条871eと、基板カバー取付部871bの背面視左外側に配置され前後方向へ貫通する係止孔871fと、を備えている。この基板ベース871における突条871eは、後方への突出量が外片部871cよりもやや控えた状態となっていると共に、図示するように、CRユニット接続端子板874の両側端に可及的に近い位置となるように配置されている。

10

【0474】

更に、基板ベース871は、基板カバー取付部871bの背面視右側後面に上下方向へ離反して配置され基板ボックスカバー875を回動可能に軸支するための一对の軸受部871gと、背面視左端部付近の後面に配置され前後方向へ延びた角筒状の係止部871hと、を備えている。

【0475】

端子基板ボックス870における接続端子板カバー873は、CRユニット接続端子板872の外周を囲うと共に基板ベース871の外片部871cで囲まれた基板カバー取付部871b内へ挿入可能とされた外壁部873cと、外壁部873cの後端を閉鎖する後壁部873aと、後壁部873aを貫通し上下方向へ延びた矩形状の開口部873bと、開口部873bの内周に略沿って後壁部873aから前方（基板ベース871側）へ延出する内壁部873dと、内壁部873dの前端がCRユニット接続端子板874の前面と当接するようにCRユニット接続端子板874を保持し上下の外壁部873cに形成された鉤爪状の一对の基板保持部873eと、を備えている。

20

【0476】

また、接続端子板カバー873は、CRユニット接続端子板874に取付けられた複数の内部接続端子874bと対応する位置に配置され後壁部873aを貫通した複数の開口部873fと、上下方向の略中央に配置された開口部873fの後側を覆い背面視左側が開放された箱状の保護部873gと、外壁部873cにおける背面視右側端部から外方（右方向）へ延出し基板ベース871の固定孔871d内へ挿通可能とされた一对の固定片873hと、外壁部873cにおける背面視左側端部に形成され基板ベース871の係止孔871fへ係止可能とされた弾性爪状の係止爪片873iと、を備えている。なお、図示は省略するが、保護部873gを備えた中央の開口部873fにおける内周の上下にも前方へ延出した内壁部873dが形成されている。

30

【0477】

この接続端子板カバー873は、外壁部873cと後壁部873aとによって、前側が開放された薄い箱状となっている。また、接続端子板カバー873は、開口した前側からCRユニット接続端子板874を内部へ挿入することで、内壁部873dの前端によってCRユニット接続端子板874が後方へ移動するのを規制することができると共に、一对の基板保持部873eによってCRユニット接続端子板874が前方へ移動するのを規制することができ、而して、CRユニット接続端子板874を脱着可能に保持することができるようになっている。更に、接続端子板カバー873は、その固定片873hを基板ベース871の固定孔871d内へ挿入した上で、係止爪片873iを基板ベース871の係止孔871fへ係止させることで、基板ベース871の基板カバー取付部871bへ脱着可能に取付けることができるようになっている。

40

【0478】

端子基板ボックス870におけるCRユニット接続端子板874は、その表面側（後面側）に、パチンコ機1と遊技ホールの島設備側に設置されたCRユニット6とを接続するためのCRユニット接続端子874aの他に、払出制御基板4110や、貸球ユニット3

50

60等と接続するための複数の内部接続端子874bが備えられている。なお、本例のCRユニット接続端子板874では、図示するように、CRユニット接続端子874aが係止機能を有したD-subコネクタとされており、内部接続端子874bが角形ツーピースコネクタとされている。

【0479】

また、端子基板ボックス870における基板ボックスカバー875は、基板ベース871の後面全体を略覆う大きさで全体が前側へ開放された薄い箱状に形成され、背面視右側面に配置され基板ベース871の軸受部871gに回動可能に軸支される一对の軸部875aと、接続端子板カバー873における開口部873bと対応し前後方向へ貫通した貫通口875bと、貫通口875bの左右両側端から前方へ延出する衝壁875cと、基板ベース871の係止部871hに係止される係止片875dと、を備えている。

10

【0480】

この基板ボックスカバー875は、一对の軸部875aを基板ベース871の軸受部871gに軸支させることで、接続端子板カバー873と共に基板ベース871の後面を開閉可能に覆うことができるようになっている。また、基板ボックスカバー875は、軸部875aに近い側（軸支された側）の衝壁875cが基板ベース871の後面まで延出する長さとしており、軸部875aから遠い側の衝壁875cが接続端子板カバー873の後面まで延出する長さとしてされている。つまり、本例の端子基板ボックス870では、基板ボックスカバー875を閉じた状態とすると、夫々の衝壁875cの前端が、基板ベース871や接続端子板カバー873の後面に略当接した状態となるようになっている。

20

【0481】

本例の端子基板ボックス870は、CRユニット接続端子板874のCRユニット接続端子874aをD-subコネクタとしているので、図88に示すように、CRユニット接続端子板874の後面に対してCRユニット接続端子874aの本体が浮いた状態となっており、CRユニット接続端子874aから延びたリード部がCRユニット接続端子板874の後面側でも外部に露出した状態となっている。また、CRユニット接続端子板874の内部接続端子874bは、角形のツーピースコネクタとされており、図示するように、後方から嵌合接続できるように取付けられている。

【0482】

そして、本例の端子基板ボックス870は、図88に示すように、組立てた状態では、CRユニット接続端子板874の前面に沿った方向には接続端子板カバー873の外壁部873cと基板ベース871の突条871e及び外片部871cとが、また、CRユニット接続端子板874の後面に沿った方向には接続端子板カバー873の外壁部873cと内壁部873dと基板ボックスカバー875の軸部875a側の衝壁875cとが、夫々存在するので、幾重にもよる防壁が構築されることとなると共に、接続端子板カバー873と基板ベース871との境界の断面形状が蛇行したクランク形状となるようになっている。従って、喩え、接続端子板カバー873と基板ベース871との間（境界）に、可撓性に優れた不正な工具を侵入させようとしても、境界に沿って工具が曲がらず、CRユニット接続端子板874の面に沿った方向からの不正な工具の侵入を確実に阻止することができ、CRユニット接続端子板874に備えられたCRユニット接続端子874aに対する不正行為を確実に防ぐことができるようになっている。

30

40

【0483】

また、この端子基板ボックス870は、接続端子板カバー873における内壁部873dの前端がCRユニット接続端子板874の後面と当接するようになっているので、CRユニット接続端子874aとして取付けられたCRユニット接続端子板874との間に隙間が形成されるD-subコネクタを用いても、内壁部873dによって露出したリード部の外周を覆うことができ、不正行為が行われるのを防止することができるようになっている。

【0484】

また、端子基板ボックス870は、基板ベース871の後面に回動可能に軸支された基

50

板ボックスカバー 875 に、CR ユニット接続端子 874 a が臨む貫通口 875 b の軸部 875 a 側に、一対の軸部 875 a 間に跨る長さの衝壁 875 c を備えており、衝壁 875 c によって基板ボックスカバー 875 の強度・剛性を高めることができるので、基板ボックスカバー 875 と基板ベース 871 との間にドライバー等を差し込んで一対の軸部 875 a の間に隙間を形成させようとしても、基板ボックスカバー 875 が歪むのを阻止して隙間が形成されるのを防止することができ、不正行為を行い難くして抑止力の高いものとするようにできている。

【0485】

更に、本例の端子基板ボックス 870 は、CR ユニット接続端子板 874 の中央付近の内部接続端子 874 b の後側を接続端子板カバー 873 の保護部 873 g と基板ボックスカバー 875 とで覆うようにしているので、ツーピースコネクタとされた内部接続端子 874 b に配線コード側の接続端子が嵌合接続された状態で接続端子のコネクタ本体と配線コードとの隙間を通して針状の電極を挿入する不正行為を行おうとしても、保護部 873 g と基板ボックスカバー 875 とによって電極の挿入を阻止することができ、内部接続端子 874 b に対する不正行為も防止することができている。

【0486】

このように、本例によると、本体枠 3 の後面に CR ユニット接続端子板 874 を収容した端子基板ボックス 870 を取付けるようにしているので、パチンコ機 1 の表側から外枠 2 と本体枠 3 との間等を介して不正な工具を挿入して、パチンコ機 1 の裏面側へ不正な工具の先端を侵入させても、端子基板ボックス 870 によって、収容された CR ユニット接続端子板 874 を保護することができ、CR ユニット接続端子板 874 に対する不正行為を確実に防ぐことができる。

【0487】

また、端子基板ボックス 870 内に CR ユニット接続端子板 874 を収容した状態では、CR ユニット接続端子板 874 の前面（基板の裏面）に沿った方向には接続端子板カバー 873 の外壁部 873 c と基板ベース 871 の突条 871 e 及び外片部と 871 c が、また、CR ユニット接続端子板 874 の後面（基板の表面）に沿った方向には接続端子板カバー 873 の外壁部 873 c と内壁部 873 d と基板ボックスカバー 875 の衝壁 875 c とが、夫々存在するので、幾重にもよる防壁が構築されることとなると共に、接続端子板カバー 873 と基板ベース 871 との境界の断面形状が蛇行したクランク形状となり、例えば、接続端子板カバー 873 と基板ベース 871 との間（境界）に、可撓性に優れた不正な工具を侵入させようとしても、境界に沿って工具が曲がらず、CR ユニット接続端子板 874 の面に沿った方向からの不正な工具の侵入を確実に阻止することができ、CR ユニット接続端子板 874 に備えられた CR ユニット接続端子 874 a や内部接続端子 874 b に対する不正行為を確実に防ぐことが可能なパチンコ機 1 とすることができる。

【0488】

また、接続端子板カバー 873 における内壁部 873 d の前端が CR ユニット接続端子板 874 の後面と当接するようにしているので、CR ユニット接続端子 874 a として基板との間に各リード部が露出するような D-sub コネクタを用いても、内壁部 873 d によって露出したリード部の外周を覆うことができ、不正行為が行われるのを確実に防止することができる。

【0489】

更に、端子基板ボックス 870 に、基板ベース 871 の後面に一方の端部が回動可能に軸支されて接続端子板カバー 873 の後面を開閉可能に覆うと共に、接続端子板カバー 873 の開口部 873 b と対応した貫通口 875 b における軸支された側の側端から前方へ基板ベース 871 の後面まで延出する板状の衝壁 875 c を有した基板ボックスカバー 875 を更に備えるようにしているので、基板ボックスカバー 875 における基板ベース 871 に対して軸支された部位同士の間、ドライバー等を差し込んで隙間を形成して不正な工具を侵入させようとしても、衝壁 875 c によって不正な工具が接続端子板カバー 873（CR ユニット接続端子板 874）側へ到達するのを阻止することができ、不正行為

が行われるのを防止することができる。

【0490】

また、端子基板ボックス870内のCRユニット接続端子板874を取出すには、基板ボックスカバー875を開けた上で接続端子板カバー873を開けなければならず、CRユニット接続端子板874を取出し難くすることができ、不正行為に対する抑止力を高めることができる。また、衝壁875cによって基板ボックスカバー875の強度・剛性を高めることができるので、基板ボックスカバー875と基板ベース871との間にドライバー等を差し込んで隙間を形成させようとしても、基板ボックスカバー875が歪むのを阻止して隙間が形成されるのを防止することができ、不正行為を行い難くして抑止力の高いものとすることができる。

10

【0491】

更に、CRユニット接続端子板874のC内部接続端子874bに接続された配線コード側の端子における被コネクタ本体と配線コードとの隙間を通して、針状の電極を挿入する不正行為を行おうとしても、対応した開口部873fの後側、すなわち、被コネクタ本体の配線コードと沿った隙間の開口の後側を保護部873gと基板ボックスカバー875とで覆うようにしているので、端子基板ボックス870の外側（後側）から被コネクタ本体の隙間へ針状の電極を挿入することができず、接続された配線コードの端子に対して不正行為が行われるのを防止することができ、防犯能力の高いものとすることができる。

【0492】

また、接続端子板カバー873の外壁部873cに、CRユニット接続端子板874を保持する基板保持部873eを備えると共に、外壁部873cをCRユニット接続端子板874よりも前側へ延出させているので、不正行為を行うために接続端子板カバー873と基板ベース871との間にドライバー等を差し込んで隙間を形成させても、CRユニット接続端子板874が接続端子板カバー873と共に後側へ移動するため、接続端子板カバー873における外壁部873cの前端とCRユニット接続端子板874との位置関係は変化することが無く、CRユニット接続端子板874の外周が外壁部873c（接続端子板カバー873）で保護されたままとすることができ、CRユニット接続端子板874の後面のCRユニット接続端子874a等に対して不正行為を行うことができず、CRユニット接続端子板874やCRユニット接続端子874a等を狙った不正行為を防止することができる。

20

30

【0493】

更に、端子基板ボックス870を、透明樹脂によって形成しており、外側から端子基板ボックス870内を視認することができるので、端子基板ボックス870を分解しなくても、端子基板ボックス870の外側から、内部に収容されたCRユニット接続端子板874や周辺パネル中継端子板872等に対して不正な工具が挿入されていないか、CRユニット接続端子板874等自体が不正なものに交換されていないか、或いは、CRユニット接続端子板874等を実装された電子部品（例えば、ROM、IC、抵抗器、コンデンサ、等）が不正なものに交換されていないか、等を簡単に点検することができ、不正行為を発見し易くすることができると共に、不正行為が発見し易くなるので、不正行為を行うものに対して不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力を高めることができる。

40

【0494】

また、本体枠5の裏面側に、CRユニット接続端子板874等の表面が後側を向く方向となるように端子基板ボックス870を取付けているので、メンテナンス等の際に外枠2に対して本体枠5を前側へ回動させて本体枠5の後側が現れると、端子基板ボックス870に収容されたCRユニット接続端子板874等が作業側（遊技者側）を向いた状態となり、CRユニット接続端子板874等や端子基板ボックス870を点検し易くすることができる。

【0495】

基板ユニット800における主側中継端子板880及び周辺側中継端子板882は、本

50

本体枠3に取付けられる遊技盤4に備えられた周辺制御部4140や基板ユニット800の
払出制御基板4110等と、扉枠5に備えられたハンドル装置500、各装飾基板や操作
ユニット400等との接続を中継するためのものである。これら主側中継端子板880及
び周辺側中継端子板882は、本体枠3側や扉枠5側へ接続するための複数の接続端子を
備えており、基板ユニットベース810の前面に形成された基板取付部813に取付ける
ことで、それら接続端子が本体枠ベース600の前面から前側を向くようになっている。

【0496】

なお、主側中継端子板880及び周辺側中継端子板882は、図61及び図63等に示
すように、本体枠ベース600の前面に取付けられる中継端子板カバー692によってそ
の前側が覆われるようになっていると共に、中継端子板カバー692の開口692aを通
して、扉枠5側と接続するための接続端子のみが前側へ臨むようになっており、それらの
接続端子に配線コード196が接続されるようになっている（図1及び図30を参照）。

10

【0497】

また、主側中継端子板880は、扉枠5側に配置される皿ユニット300における貸球
ユニット360の貸球ボタン361、返却ボタン362、貸出残表示部363、ハンドル
装置500の回転位置検知センサ512、タッチセンサ516、発射停止スイッチ518
、及びファールカバーユニット540の満タン検知センサ550と、本体枠3側に配置さ
れる払出制御基板4110との接続を中継するためのものである。また、周辺側中継端子
板882は、扉枠5側に配置される各装飾ユニット200、240、280及び皿ユニッ
ト300や操作ユニット400に備えられた各装飾基板430、432、及び操作ユニッ
ト400に備えられたダイヤル駆動モータ414やセンサ432a、432b、432c
と、本体枠3側に配置される遊技盤4の周辺制御部4140との接続を中継するためのも
のである。

20

【0498】

[1-3G. 裏カバー]

続いて、本体枠3における裏カバー900について、図90乃至図92を参照して説明
する。図90（A）は本体枠3における裏カバーの正面斜視図であり、（B）は本体枠3にお
ける裏カバーの背面斜視図である。また、図91は、裏カバーにおける締結機構の部位を
拡大して示す断面図であり、図92は、裏カバーにおける締結機構を分解して後側から見
た分解斜視図である。本例の裏カバー900は、透明な合成樹脂によって形成されており
、パチンコ機1の後側から本体枠3内を視認することができるようになっている。

30

【0499】

本体枠3における裏カバー900は、本体枠3における遊技盤4を保持するための遊技
盤保持口601（本体枠3に取付けられた遊技盤4）の後側を開閉可能に被覆するもので
ある。この裏カバー900は、遊技盤保持口601の後側開口を閉鎖する板状の本体部9
02と、本体部902の正面視右辺から前方へ延出する側部904と、側部904の前端
に上下方向へ並んで複数配置され下方へ向かって突出し本体枠ベース600の裏カバー軸
支部623に軸支される軸支ピン906と、本体部902の正面視左辺上部と下部に夫々
形成され賞球ベース710の裏カバー係合溝718と賞球通路蓋780の裏カバー係合溝
780aとに夫々係合する係合片908と、下側の係合片908の近傍に裏カバー900
を本体枠3に対して開閉不能に締結するための締結機構920とを備えている。

40

【0500】

裏カバー900における締結機構920は、図91及び図92等に示すように、裏カバ
ー900の本体部902における下側の係止片908の背面視で左側に前後方向へ貫通し
た円形の挿通孔921と、挿通孔921の背面視で左側に所定距離はなれて配置され前後
方向へ貫通した縦長矩形状の係止口922と、係止口922に対して後側から弾性係止さ
れる係止片923aを一端側に有すると共に他端側に挿通孔921と対応した横長の長孔
923bを有する板状のガイド部材923と、ガイド部材923の長孔923bへ後側から
挿通され本体部902の挿通孔921を介して賞球通路蓋780の裏カバー締結孔78
0bへ螺合される雄ねじ部924aを有した締結部材924と、締結部材924の雄ねじ

50

部 9 2 4 a にガイド部材 9 2 3 を挟むように取付けられる保持部材 9 2 5 と、を備えている。なお、締結機構 9 2 0 におけるガイド部材 9 2 3 は、軟質の合成樹脂によって形成されており、曲がり易くなっている。

【0501】

また、締結機構 9 2 0 は、ガイド部材 9 2 3 の係止片 9 2 3 a が、本体部 9 0 2 の係止口 9 2 2 に対して遊嵌状態で係止されるようになっており、ガイド部材 9 2 3 が所定の範囲内で遊動することができるようになっている。また、締結機構 9 2 0 は、締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a に取付けられた円盤状の保持部材 9 2 5 によって、締結部材 9 2 4 が長孔 9 2 3 b を通してガイド部材 9 2 3 に支持された状態となり、長孔 9 2 3 b に沿って左右方向へスライドすることができると共に、長孔 9 2 3 b から脱落しないようになっている。この締結機構 9 2 0 は、本体部 9 0 2 の係止口 9 2 2 へ後側からガイド部材 9 2 3 の係止片 9 2 3 a を係止させると、ガイド部材 9 2 3 の長孔 9 2 3 b を介して前側へ突出した締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a が、本体部 9 0 2 の挿通孔 9 2 1 へ挿通された状態となるようになっている。

10

【0502】

本例の裏カバー 9 0 0 は、軸支ピン 9 0 6 を本体枠ベース 6 0 0 の裏カバー軸支部 6 2 3 に軸支させることで、本体枠 3 における遊技盤保持口 6 0 1 の後側開口を開閉することができ、係合片 9 0 8 を本体枠ベース 6 0 0 及び賞球通路蓋 7 8 0 の裏カバー係合溝 7 1 8、7 8 0 a に係合させることで、閉じた状態とすることができるようになっている。なお、裏カバー 9 0 0 を閉じた状態とすると、締結機構 9 2 0 における挿通孔 9 2 1 と賞球通路蓋 7 8 0 の裏カバー締結孔 7 8 0 b とが略一致した状態となるようになっている。

20

【0503】

この裏カバー 9 0 0 を閉じた状態では、挿通孔 9 2 1 へ後側から前側へ挿通された締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a が、裏カバー締結孔 7 8 0 b 内へ自然と螺合されることがないので、裏カバー 9 0 0 を閉じても雄ねじ部 9 2 4 a の先端が裏カバー締結孔 7 8 0 b の後端で止まった状態となり、締結部材 9 2 4 が裏カバー 9 0 0 の本体部 9 0 2 から後方へ突出することとなる。ところで、本例では、締結部材 9 2 4 が裏カバー 9 0 0 の本体部 9 0 2 の係止されたガイド部材 9 2 3 の長孔 9 2 3 b 内に支持されているので、締結部材 9 2 4 が裏カバー 9 0 0 から脱落することなく、本体部 9 0 0 2 の後側に位置した状態が維持されるようになっている。

30

【0504】

そして、この状態から締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a の先端を裏カバー締結孔 7 8 0 b へ挿入して締結部材 9 2 4 を回転させることで、雄ねじ部 9 2 4 a が裏カバー締結孔 7 8 0 b 内へとねじ込まれて（螺合されて）、裏カバー 9 0 0 を締結固定することができるようになっている。なお、本例の締結機構 9 2 0 は、締結部材 9 2 4 を裏カバー締結孔 7 8 0 b へねじ込む時に、締結部材 9 2 4 を支持するガイド部材 9 2 3 が本体部 9 0 2 に対して斜めになっていても、締結部材 9 2 4 を長孔 9 2 3 b で支持しているので、締結部材 9 2 4（雄ねじ部 9 2 4 a）を裏カバー締結孔 7 8 0 b の軸心に対して真直ぐに位置させることができ、締結部材 9 2 4 を裏カバー締結孔 7 8 0 b へ良好にねじ込むことができるようになっている。

40

【0505】

また、本例では、裏カバー 9 0 0 を、一箇所の締結機構 9 2 0 によって本体枠 3 側へ締結固定するようにしているので、一箇所の締結部材 9 2 4 を操作するだけで簡単に締結したり締結を解除したりすることができ、裏カバー 9 0 0 の開閉に係る手間を簡略化してメンテナンス性を向上させることができるようになっている。

【0506】

また、裏カバー 9 0 0 は、本体部 9 0 2 の正面視右側下端で上方へ矩形状に切欠かれた接続用切欠部 9 1 0 と、接続用切欠部 9 1 0 の正面視上側で矩形状に貫通した確認用開口部 9 1 2 と、本体部 9 0 2 の正面視左下隅部に矩形状に切欠かれた確認用切欠部 9 1 4 と、を備えている。

50

【0507】

この裏カバー900は、図5に示すように、本体枠3に対して閉じた状態で、接続用切欠部910を通して遊技盤4における主制御基板ボックス1170のRAMクリアスイッチ4100cや試験用端子4100f等が後側へ臨むようになっている。また、裏カバー900は、確認用開口部912を通して、主制御基板ボックス1170の後面に貼り付けられた基板管理シール1178（図101を参照）が後側へ臨むようになっていると共に、確認用切欠部914を通して主制御基板ボックス1170の封止部1176が臨むようになっている。これにより、裏カバー900を本体枠3に対して開かなくても、主制御基板ボックス1170及び主制御基板4100の作動確認や外観確認、管理状態確認等を行うことができるようになっている。

10

【0508】

また、裏カバー900は、本体部902及び側部904に細長く貫通した複数のスリット916が形成されており、これらスリット916を通して遊技盤4等で発生した熱を本体枠3（パチンコ機1）の後側外部へ排出することができるようになっている。なお、図示するように、中央から正面視でやや左寄りの位置に、幅広で上下方向へ長く延びた左右方向へ所定間隔で列設された複数の透孔918を備えている。これら透孔918は、裏カバー900を本体枠3に対して閉じた状態とすると共に、本体枠3内に遊技盤4を収容保持させた状態で、遊技盤4における液晶表示装置1900の後側に備えられた周辺制御部4140や液晶制御部4150を冷却するための冷却ファンの後側に位置するようになっている。因みに、透孔918の幅は、遊技球の外径よりも小さい幅とされており、透孔918を通してパチンコ機1内へ遊技球が侵入しないようになっている。

20

【0509】

これにより、本例では、本体枠3に保持された遊技盤4の後側を閉鎖する裏カバー900を本体枠3へ締結する締結部材924を、裏カバー900に取付けられたガイド部材923に対して遊動可能に保持させているので、本体枠3に遊技盤4を保持した状態で、本体枠3の後側から裏カバー900を開いて遊技盤4の後側をメンテナンス等を行う際に、本体枠3に対して裏カバー900を締結固定している締結部材924の締結を解除して本体枠3の裏カバー締結孔780bから締結部材924を分離させても、締結部材924がガイド部材923を介して裏カバー900に保持された状態となり、締結部材924を紛失してしまったり、パチンコ機1内に残してしまったりするのを防止することができ、裏カバー900から締結部材924が脱落するのを防止することが可能なパチンコ機1とすることができる。

30

【0510】

また、上述したように、開いた裏カバー900から締結部材924が脱落するのを防止することができるので、メンテナンス等の際に、締結を解除した締結部材924を所定位置に保管する必要が無く、ガイド部材923を介して裏カバー900の挿入孔921の近傍に保持することができ、メンテナンスを行い易くすることができる。

【0511】

また、ガイド部材923の長孔923bを、少なくとも係止口922側とは反対側へ延びるようにしているので、ガイド部材923が裏カバー900の面に対して傾いた状態となっても、締結部材923の雄ねじ部924aを裏カバー900の挿通孔921を通して本体枠3の裏カバー締結孔780bへ真直ぐに位置させることができ、裏カバー締結孔780bに対して雄ねじ部924aを正しい状態で確実に締結させることができる。従って、本体枠3に裏カバー900をきちんと締結させることができ、裏カバー900による防犯効果を確実に発揮させることができる。

40

【0512】

更に、締結部材924の頭部と協働して締結部材924をガイド部材923に対して遊動可能に保持させる保持部材925を締結部材924の雄ねじ部924aに取付けるようにしているので、締結部材924の頭部と保持部材925とでガイド部材923が挟まれ

50

た状態となり、締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a がガイド部材 9 2 3 の長孔 9 2 3 b から抜けるのを確実に防止することができると共に、保持部材 9 2 5 との隙間と長孔 9 2 3 b によってガイド部材 9 2 3 に対して締結部材 9 2 4 を遊動可能に保持させることができる。

【0513】

また、裏カバー 9 0 0 における挿通孔 9 2 1 の周囲に保持部材を収容可能な収容凹部を備えるようにしており、締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a を、裏カバー 9 0 0 の挿通孔 9 2 1 を通して本体枠 3 の裏カバー締結孔 7 8 0 b へ締結させる際に、締結部材 9 2 4 の頭部とでガイド部材 9 2 3 を挟んだ保持部材 9 2 5 を、収容凹部内へ収容することができるので、裏カバー 9 0 0 とガイド部材 9 2 3 とを密着させて裏カバー 9 0 0 からの突出を可及的に少なくすることができ、ガイド部材 9 2 3 や締結部材 9 2 4 の突出した部位に他の部材が当接する可能性を低くして不具合が発生するのを低減させることができると共に、見栄えを良くすることができる。

10

【0514】

また、本体枠 3 の裏カバー締結孔 7 8 0 b を雌ねじ部として、締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a とねじ結合するようにしているので、単なる係止爪による係合と比較して、引っ張っただけでは締結を解除することができず裏カバー 9 0 0 を取外し難くすることができ、裏カバー 9 0 0 による防犯効果をより高めることができると共に、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機 1 とすることができる。

【0515】

20

更に、可撓性を有したガイド部材 9 2 3 としており、ガイド部材 9 2 3 が撓むことができるので、裏カバー 9 0 0 (挿通孔 9 2 1) に対する締結部材 9 2 4 の動きの自由度を更に高めることが可能となり、締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a を本体枠 3 の裏カバー締結孔 7 8 0 b に対して真直ぐな位置に位置させたり、雄ねじ部 9 2 4 を裏カバー締結孔 7 7 0 b に対して真直ぐに移動させたりするのをし易くすることができ、裏カバー締結孔 7 8 0 b に対して雄ねじ部 9 2 4 a を確実に締結させることができる。

【0516】

また、ガイド部材 9 2 3 の係止片 9 2 3 a が、裏カバー 9 0 0 の係止口 9 2 2 における挿通孔 9 2 1 とを結んだ軸線に対して直角方向へ延びた内壁に沿って当接した状態で、係止口 9 2 2 へ弾性係止されるようにしているので、遊動可能に取付けられたガイド部材 9 2 3 の先端側(長孔 9 2 3 b 側)を、挿通孔 9 2 1 とを結んだ軸線に対して直角方向へ延びた軸心周りを回転するように動かすことができ、係止口 9 2 2 に対して係止片 9 2 3 a が軸支されたようにすることができる。従って、ガイド部材 9 2 3 の先端側の長孔 9 2 3 b に保持された締結部材 9 2 4 を、裏カバー 9 0 0 の挿通孔 9 2 1、すなわち、本体枠 3 の裏カバー締結孔 7 8 0 b を開閉するように回転させることができるので、挿通孔 9 2 1 や裏カバー締結孔 7 8 0 b に対して締結部材 9 2 4 の雄ねじ部 9 2 4 a を挿入し易くすることができ、締結部材 9 2 4 による締結作業を行い易くすることができる。

30

【0517】

更に、本体枠 3 における裏カバー締結孔 7 8 0 b とは異なる位置に複数の裏カバー係合溝 7 1 8、7 8 0 a を更に備えた上で、裏カバー 9 0 0 に裏カバー係合溝 7 1 8、7 8 0 a と夫々弾性係合する複数の係合片 9 0 8 を更に備えるようにしており、裏カバー 9 0 0 の係合片 9 0 8 を本体枠 3 の裏カバー係合溝 7 1 8、7 8 0 a に係合させることで、締結部材 9 2 4 による締結とは別に、裏カバー 9 0 0 を本体枠 3 へ固定することができるので、締結部材 9 2 4 を用いて締結する箇所を一箇所のみとして締結作業を可及的に少なくすることができ、組立てやメンテナンス等の作業性を高めることができる。また、上述したように、締結部材 9 2 4 とは別に係合片 9 0 8 と裏カバー係合溝 7 1 8、7 8 0 a との係合によって裏カバー 9 0 0 を本体枠 3 へ固定することができるので、閉鎖範囲の広い裏カバー 9 0 0 でも締結部材 9 2 4 による締結箇所を増やすことなく良好な状態で本体枠 3 における遊技盤保持口 6 0 1 の後側(遊技盤 4 の後側)を閉鎖させることができる。

40

【0518】

50

また、本体枠3（本体枠ベース600）の裏カバー軸支部623に裏カバー900の軸支ピン906を軸支させることで、本体枠3に対して裏カバー900を回動可能に軸支できるようにしているので、裏カバー900を閉じる方向へ回動させて本体枠3における遊技盤保持口601の後側を閉鎖するだけで、裏カバー900の挿通孔921と本体枠3の裏カバー締結孔780bとを簡単に一致させることができ、挿通孔921を通して裏カバー900に保持された締結部材924を簡単に裏カバー締結孔780bへ締結させることができる。また、本体枠3に対して裏カバー900を回動可能に軸支するようにしているので、メンテナンス等の際に、締結部材924による締結を解除して裏カバー900を開けた場合でも、裏カバー900を本体枠3に軸支させた状態のままとすることができ、裏カバー900を本体枠3から取外す必要が無く、裏カバー900の開閉にかかる手間を簡略化することができる。

10

【0519】

[1-3H. 側面防犯板]

次に、本体枠3における側面防犯板950について、主に図66及び図67を参照して説明する。本体枠3における側面防犯板950は、図示するように、正面視における本体枠3の左側面を形成するものであり、本体枠ベース600に取付けられるようになっている。この側面防犯板950は、平面視で浅いコ字状に押出し成形された金属製の本体952と、本体952の内側前端付近の上下に固定され本体枠ベース600の前面に取付けられる取付金具954と、本体952の内側に固定され遊技盤4の位置決め凹部1119と係合する位置決め部材956と、を備えている。

20

【0520】

この側面防犯板950の本体952は、本体枠ベース600の高さと略同じ長さで上下方向へ延びると共に前後方向が略一定奥行きとされた側板片952aと、側板片952aの前端から正面視右方向へ延出した前端片952bと、前端片952bの後側に所定量の隙間を形成するように配置され前端片952bよりも突出量の少ない中片952cと、側板片952aの後端から正面視右方向へ前端片952bよりも長く延出した後端片952dと、を備えている（図106を参照）。この本体952は、側板片952a、前端片952b、及び後端片952dによって浅いコ字状に形成されており、中片952cと後端片952dとの間に遊技盤4における前構成部材1110と遊技パネル1150との正面視左側側部が挿入されるようになっている（図106を参照）。

30

【0521】

本例の側面防犯板950は、取付金具954が本体枠ベース600の前面に取付けられると共に、本体952の後端片952dが本体枠ベース600の後面に取付けられるようになっている。この側面防犯板950は、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態とすると、本体952の前端片952bが、扉枠5の補強ユニット150における軸支側補強板金152の軸支側コ字状突片166のコ字内に挿入されるようになっており、正面視左側において本体枠3と扉枠5との間に不正行為を行うための工具が挿入されるのを防止することができるようになっている（図106を参照）。また、側面防犯板950の本体952は、金属（例えば、アルミ合金）の押出型材とされていると共に、側板片952aの面に対して直角方向へ配置された前端片952b、中片952c、及び後端片952dを備えているので、側面防犯板950の強度・剛性が高められており、本体枠3全体の強度を高めて遊技盤4や扉枠5等を良好に支持することができるようになっている。

40

【0522】

このように、本例によると、本体枠3の前面を扉枠5で閉鎖した状態とすると、防犯側面板950の前端内側に形成された前端片952bと中片952cとの間に扉枠5における補強ユニット150の略コ字状に形成された軸支側コ字状突片166の後側の片が挿入される（侵入する）ようになっており、前端片952bを軸支側コ字状突片166で挟持した状態となるので、本体枠3に対して扉枠5を無理やり開けようとしても、扉枠5の軸支側コ字状突片166が本体枠3の前端片952bに当接して扉枠5の軸支側コ字状突片166が本体枠3から離れる方向へ移動するのを阻止することが可能となり、閉鎖された

50

扉枠5が挟み開けられるのを防止することができ、本体枠3に対して扉枠5を挟み開けるような不正行為が行われるのを防止することが可能なパチンコ機1とすることができる。

【0523】

また、本体枠3における金属により形成された防犯側面板950と、扉枠5における金属により形成された補強ユニット150とを嵌合させるようにしているので、本体枠3と扉枠5との間の強度・剛性が高くなり、不正工具によって本体枠3や扉枠5を歪み難くすることができ、パチンコ機1における防犯性能を高めることができる。また、遊技盤4を支持する本体枠ベース600を合成樹脂により形成した上で、扉枠5を軸支する側（軸支側）の防犯側面板950を金属により形成するようにしているので、本体枠3全体を金属によって形成するようにした場合と比較して、パチンコ機1に係るコストを低減させることができる。

10

【0524】

更に、本体枠3に対して扉枠5を施錠する錠装置1000の扉枠用フック部1041を、上下両端と上下両端の間の一箇所で扉枠5における補強ユニット150のフックカバー165と係止させるようにして、錠装置1000側（開放側）における扉枠5と本体枠3との間を三つの扉枠用フック部1041によって係止するようにしているので、開放側がボール等の不正な工具によって挟まれても扉枠5と本体枠3との間が広がるのを良好に防止することができ、扉枠5が無理やり挟み開けられるのを防止することができる。

【0525】

また、防犯側面板950における側面片952aの後端を、遊技盤4の前面（遊技領域1100）よりも後方へ延出させるようにしており、側面片952aの前後方向の寸法が長くなることで前後方向へかかる荷重に対する曲げ剛性が強くなるので、防犯側面板950全体の強度・剛性をより高めることができ、防犯側面板950が無理やり曲げられて不正行為が行われるのを防止することができる。

20

【0526】

また、金属製の押出型材によって本体枠3の防犯側面板950を形成するようにしているので、前端片952bや中片952cを有した所定断面形状の防犯側面板950（本体952）を簡単に形成することができ、パチンコ機1の防犯性能を高めてもコストが増加するのを抑制することができると共に、金属板を屈曲させた場合と比較して、加工時に生ずる強度低下等の欠陥を可及的に少なくすることができ、耐久性や強度の高い防犯側面板950とすることができる。

30

【0527】

[1-3I. 錠装置]

続いて、本体枠3における錠装置1000について、主に図93乃至図97を参照して説明する。図93（A）は本体枠3における錠装置の左側面図であり、（B）は本体枠3における錠装置を前から見た斜視図である。また、図94（A）は錠装置の背面斜視図であり、（B）は錠装置のコ字状基体の内部に摺動自在に設けられるガラス扉用摺動杆と本体枠用摺動杆を示す背面斜視図であり、（C）は（B）の正面斜視図である。更に、図95は、錠装置を分解して後から見た分解斜視図であり、図96は、錠装置におけるガラス扉用摺動杆と本体枠用摺動杆の動作を示す説明図であり、図97は、錠装置における不正防止部材の動作を示す説明図である。

40

【0528】

本体枠3における錠装置1000は、本体枠3の本体枠ベース600における周壁部605の開放側の外側側面に沿って本体枠3の略上端から下端にかけて取付けられるものであり、図68に示すように、本体枠ベース600における前端枠部602の正面視右側（開放側）辺の上部に形成された扉用フック穴620及び下部に形成された錠係止穴621と、本体枠ベース600における周壁部605の正面視右側側面に複数形成された錠取付部625と、に取付けられるようになっている。

【0529】

図93乃至図95に示すように、錠装置1000は、断面コ字状に形成される錠基体と

50

してのコ字状基体1001と、コ字状基体1001内に摺動自在に設けられる扉枠用摺動杆1040と、コ字状基体1001内に摺動自在に設けられる本体枠用摺動杆1050と、本体枠用摺動杆1050の摺動を不正に行うことができないようにコ字状基体1001の下部に取付けられる不正防止部材1023、1032と、を備えている。

【0530】

錠装置1000におけるコ字状基体1001は、所定の金属板を断面コ字状となるように折曲成形したものであり、その内部に扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とが摺動可能に配置されるようになっている。なお、コ字状基体1001は、その横幅寸法が従来の断面L字状に成形された基体に集約された錠装置に比べて極めて薄いものとなっている。これにより、錠装置1000の左右方向の寸法を可及的に薄くすることが可能となり、相対的に本体枠3における遊技盤保持口601の左右方向の寸法を大きくすることができ、より遊技領域1100の広い遊技盤4を備えることができるようになっている。

10

【0531】

このコ字状基体1001は、断面コ字状の開放側が本体枠ベース600の裏面と対面した状態で取付けられるようになっており、錠装置1000を本体枠3に取付けた状態では、コ字状基体1001の開放側が本体枠ベース600に閉鎖されるようになっている。これにより、コ字状基体1001の内部に配置された扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とが、夫々のフック部1041、1054、1065を除いてコ字状基体1001に完全に被覆された状態となり、外部から錠装置1000に対して不正行為を行い難い不正防止構造となっている。

20

【0532】

また、錠装置1000におけるコ字状基体1001は、その開放側（後側）と反対の閉塞側（前側）上下に本体枠用摺動杆1050のフック部1054、1065が貫通可能な長形状のフック貫通開口1002と、前側における本体枠ベース600の周壁部605と接する側面1001b（図95を参照）の上部と中程に外方へ向かって突設されたビス止め部1003と、ビス止め部1003が突設された側面1001bとは反対側の側面1001a（図95を参照）の開放側（前側）の上端部と中間部、及び開放側の両側面1001a、1001bの下端部から前方へ突出した係止突起1004と、を備えている。

【0533】

コ字状基体1001のビス止め部1003と係止突起1004は、錠装置1000を本体枠ベース600の裏面に取付けるためのものであり、係止突起1004を本体枠ベース600の扉用フック穴620及び錠係止穴621に後側から挿入した上で、上方へ移動させると、ビス止め部1003と本体枠ベース600の錠取付部625とが一致するようになっている。ビス止め部1003を介して図示しないビスを錠取付部625へ螺着することで、錠装置1000を本体枠ベース600（本体枠3）に強固に固定することができるようになっている。

30

【0534】

なお、錠装置1000のビスによる取付けは、上部と中程のビス止め部1003だけではなく、後述する錠取付片1008に形成されたビス止め部1003と、シリンダ錠貫通穴611の上方近傍に形成された錠取付部625と、においても図示しないビスで本体枠ベース600に止着されるようになっており、錠装置1000の下方も取付けられるようになっている。

40

【0535】

また、錠装置1000の取付けに際し、コ字状基体1001の開放側（前側）の上中下の3箇所形成された係止突起1004を、上中の扉用フック穴620と錠係止穴621とに挿入して位置決め係止すると共に、コ字状基体1001のビス止め部1003を錠取付部625にビスで固定する構造としているので、極めて簡単な構造で錠装置1000を本体枠ベース600（本体枠3）に強固に固定することができるようになっている。

【0536】

50

換言すると、錠装置1000を極めて横幅寸法の薄いコ字状基体1001に集約して構成した場合でも、錠装置1000の前側及び後側の係止及び固定により、錠装置1000を本体枠3に強固に固定することができるものである。特に、本実施形態の場合には、前側の係止構造（固定構造でもよい）を構成する係止突起1004がコ字状基体1001の周壁部605と接しない側面1001aに突設した上で、後側の固定構造を構成するビス止め部1003がコ字状基体1001の周壁部605と密する側面1001bから周壁部605側へ突設した構造としているので、前側の係止構造が周壁部605と密する側面1001bに形成した場合と比較して、ガタ付きが生じないように錠装置1000を本体枠3に固定することができるようになっている。

【0537】

10

また、コ字状基体1001は、その両側面1001a, 1001bの上部、中程、下部に左右方向へ貫通した挿通穴1005を備えており、コ字状基体1001に扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050を収納した状態で挿通穴1005にリベット1006を差込んでかしめることで、コ字状基体1001の内部に扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050を上下方向へ摺動自在に取付けることができるようになっている。

【0538】

つまり、図94（C）に示すように、扉枠用摺動杆1040の上中下の3箇所に形成されたリベット用長穴1042の上端部にリベット1006が貫通していると共に、図94（B）に示すように、本体枠用摺動杆1050の上フック部材1051及び下フック部材1052に夫々一つずつ形成されたリベット用長穴1055, 1061の下端部にリベット1006が貫通しており、扉枠用摺動杆1040を上方に、本体枠用摺動杆1050を下方に移動させることができるようになっている。

20

【0539】

更に、コ字状基体1001は、その下部の閉塞側面に形成された不正防止切欠部1007と、開放側の本体枠ベース600における周壁部605と接する側面1001bの前端から側方へ向かって突設されシリンダ錠1010を取付けるための錠取付片1008と、周壁部605と接する側面1001bに挿入縦開口1020、バネ係止片1021、及び逃げ横穴1022と、が夫々形成されている。コ字状基体1001の不正防止切欠部1007は、詳細は後述するが、第一不正防止部材1023のストッパ片部1027が進退するようになっている。また、コ字状基体1001の錠取付片1008は、錠装置1000を本体枠ベース600の裏面に取付けた状態で、遊技盤保持口601の下端辺よりも下方の位置となるように側面1001bの前端部から側方に向かって突設されており、シリンダ錠1010が貫通する錠挿通穴1009と、シリンダ錠1010の錠取付基板1011に形成された取付穴1013をビス1012で取付けるため上下2箇所に穿設された取付穴1014と、錠装置1000の下部を本体枠3の裏面に取付けるために穿設されたビス止め部1003と、が形成されている。

30

【0540】

また、コ字状基体1001は、シリンダ錠1010に固定される係合カム1016の第一係合突片1017及び第二係合突片1018がシリンダ錠1010の回転時に侵入する挿入縦開口1020と、第二不正防止部材1032を上方へ付勢するバネ1035を係止するためのバネ係止片1021と、連結ピン1034の移動の邪魔をしないように逃げ穴を形成する逃げ横穴1022と、を備えている。

40

【0541】

錠装置1000におけるシリンダ錠1010は、コ字状基体1001における錠取付片1008に取付けられるものである。このシリンダ錠1010は、円筒状のシリンダ錠本体の後端に錠取付片1008へ取付けるための錠取付基板1011が固定されており、錠取付基板1011の後面からシリンダ錠本体の錠軸1015が延びだしていると共に、錠軸1015の後端にビス1019によって係合カム1016が固定されている。この係合カム1016は、ブーメラン形状に形成され、一端辺が回転時に本体枠用摺動杆1050の下降係合穴1062に係合する第一係合突片1017とされていると共に、他端辺が回

50

動時に扉枠用摺動杆 1040 の上昇係合穴 1045 に係合する第二係合突片 1018 とされている。

【0542】

このシリンダ錠 1010 は、円筒状のシリンダ錠本体部分を錠取付片 1008 に形成された錠挿通穴 1009 に後側から挿通した上で、錠取付基板 1011 の上下 2 箇所形成された取付穴 1013 を通して錠取付片 1008 の取付穴 1014 へビス 1012 を螺着することで、シリンダ錠 1010 をコ字状基体 1001 に固定することができるようになっている。

【0543】

錠装置 1000 のコ字状基体 1001 に取付けられる不正防止部材 1023, 1032 は、シリンダ錠 1010 を正式な鍵で回動させずに、例えばピアノ線や針金等で不正に本体枠用摺動杆 1050 を下降させることを防止するためのものである。この不正防止部材 1023, 1032 は、図 95 に示すように、第一不正防止部材 1023 と第二不正防止部材 1032 とを連結ピン 1034 で連結した構造となっている。第一不正防止部材 1023 は、縦長の板状で上端の揺動軸穴 1025 を中心にしてコ字状基体 1001 に揺動自在に支持されるようになっている。具体的には、この第一不正防止部材 1023 は、その揺動軸穴 1025 を通して、コ字状基体 1001 の内部に配置される扉枠用摺動杆 1040 及び本体枠用摺動杆 1050 と共に最下方の挿通穴 1005 及びリベット 1006 によって取付けられるようになっている。

10

【0544】

また、第一不正防止部材 1023 は、その板状面にコ字状基体 1001 の挿入縦開口 1020 と重複する位置で縦長に開口し係合カム 1016 の第二係合突片 1018 が挿入可能とされた突片挿入穴 1026 を備えている。この突片挿入穴 1026 と挿入縦開口 1020 とを、係合カム 1016 の第二係合突片 1018 が貫通することで、コ字状基体 1001 の内部に設けられた扉枠用摺動杆 1040 の上昇係合穴 1045 と第二係合突片 1018 とが係合するようになっている。また、第一不正防止部材 1023 は、突片挿入穴 1026 の前斜め上方の外辺に、係合カム 1016 の回動時に第一係合突片 1017 の後面側と当接可能な斜めに傾斜した傾斜部 1024 を備えており、この傾斜部 1024 が、係合カム 1016 の回動時に第一係合突片 1017 と当接することで、第一不正防止部材 1023 が揺動軸穴 1025 を中心として揺動（図 97（B）において時計回転方向）するようになっている。

20

30

【0545】

更に、第一不正防止部材 1023 は、突片挿入穴 1026 の斜め後下方の外辺からコ字状基体 1001 側へ向かって突出したストッパ片部 1027 と、ストッパ片部 1027 が突出した位置から更に下方へ突出した規制突片 1031 と、規制突片 1031 の前側に左右方向へ貫通し上下に配置されたピン穴 1029 及び連結穴 1030 と、を備えている。この第一不正防止部材 1023 のストッパ片部 1027 は、本体枠用摺動杆 1050 の施錠時に、不正防止切欠部 1007 及び本体枠用摺動杆 1050 の係合切欠部 1066 に侵入係合させることで、本体枠用摺動杆 1050 が不正に摺動しないようにすることができるようになっている。また、第一不正防止部材 1023 の規制突片 1031 は、バネ 1035 によって上方へ付勢された第二不正防止部材 1032 と当接することで、第二不正防止部材 1032 が上方（付勢方向）へ移動するのを規制することができるようになっている。

40

【0546】

また、第一不正防止部材 1023 のピン穴 1029 は、ガイドピン 1028 が第一不正防止部材 1023 の裏面側から挿入固定されるようになっており、ピン穴 1029 に固定されたガイドピン 1028 を、コ字状基体 1001 における挿入縦開口 1020 の最下端部に形成された横長状開口部に係合させることで、第一不正防止部材 1023 をコ字状基体 1001 の側面 1001b に沿って案内することができるようになっている。更に、第一不正防止部材 1023 の連結穴 1030 は、連結ピン 1034 によって、第一不正防止

50

部材 1023 と第二不正防止部材 1032 とを回動可能に連結するためのものである。

【0547】

一方、第一不正防止部材 1023 に連結される第二不正防止部材 1032 は、逆「て」字状の板材で形成され、その上部一端に連結穴 1033 と、上部他端にバネ係止穴 1036 とが夫々穿設されていると共に、下方端部に当接部 1037 が備えられている。第二不正防止部材 1032 は、連結穴 1033 を第一不正防止部材 1023 の連結穴 1030 と合わせた上で連結ピン 1034 を挿入することで第一不正防止部材 1023 と相対回転可能に連結することができるようになっている。また、第二不正防止部材 1032 は、バネ係止穴 1036 に、上端（一端）がコ字状基体 1001 のバネ係止片 1021 に係止されたバネ 1035 の下端（他端）を係止させることで、バネ 1035 によって上方へ付勢されるようになっている。更に、第二不正防止部材 1032 は、当接部 1037 が、本体枠 3 の閉鎖時に外枠 2 の内側下部に固定された閉鎖板 25 と当接するようになっている。

10

【0548】

次に、錠装置 1000 における扉枠用摺動杆 1040 は、コ字状基体 1001 の内部に摺動自在に支持され、縦長の金属製の板状部材によって形成されている。この扉枠用摺動杆 1040 は、その一側縦辺の上中下の 3 箇所に前方へ向かって突出する扉枠用フック部 1041 を備えている。扉枠用摺動杆 1040 の扉枠用フック部 1041 は、コ字状基体 1001 内に扉枠用摺動杆 1040 を収納した状態で、コ字状基体 1001 の開放側から前方に突出するようになっており、錠装置 1000 を本体枠ベース 600 の裏面に固定した時に、本体枠ベース 600 に形成された扉枠用フック穴 620（図 63 及び図 68 等を参照）から前方に突出して、扉枠 5 の裏面に形成されるフックカバー 165（図 18 を参照）に係止することができるようになっている。なお、扉枠用フック部 1041 は、図示するように、下向きの係合爪形状となっており、これにより、扉枠用摺動杆 1040 を上昇させることで扉枠用フック部 1041 とフックカバー 165 との係止状態を解除することができるようになっている。

20

【0549】

また、扉枠用摺動杆 1040 は、上中下の側面中央に穿設されリベット 1006 が挿通される縦長のリベット用長穴 1042 と、最上部のリベット用長穴 1042 の下方及び扉枠用摺動杆 1040 の最下端に扉枠用摺動杆 1040 の面に対して直角方向へ突出したガイド突起 1043 と、を備えている。この扉枠用摺動杆 1040 のリベット用長穴 1042 は、コ字状基体 1001 の挿通穴 1005 に挿通されるリベット 1006 が挿通されるようになっていると共に、リベット 1006 が扉枠用摺動杆 1040 の上昇動作を邪魔しないように縦長に形成されている。なお、通常状態では、リベット用長穴 1042 の上端部に貫通したリベット 1006 が当接した状態となっている。また、扉枠用摺動杆 1040 は、ガイド突起 1043 が、本体枠用摺動杆 1050 の上フック部材 1051 及び下フック部材 1052 に形成された突片移動穴 1056、1064 に挿通されるようになっており、扉枠用摺動杆 1040 と本体枠用摺動杆 1050 との相互の摺動動作を案内することができるようになっている。

30

【0550】

また、扉枠用摺動杆 1040 は、上端部にスプリング 1048 の一端に係止するスプリングフック部 1046 が形成されている。このスプリングフック部 1046 に係止されたスプリング 1048 の他端は、本体枠用摺動杆 1050 における上フック部材 1051 のスプリングフック部 1057 に係止されており、スプリング 1048 によって、扉枠用摺動杆 1040 が下方向に、本体枠用摺動杆 1050 が上方向に、夫々相互に付勢されるようになっている。また、扉枠用摺動杆 1040 は、上下方向の中程に凸状に形成された当接弾性片 1047 を備えており、扉枠用摺動杆 1040 の一側側面からプレス成形により打ち出して凸状に形成されている。この当接弾性片 1047 は、コ字状基体 1001 の内側面に当接するようになっており、コ字状基体 1001 の内部で扉枠用摺動杆 1040 がガタ付くのを抑制することができるようになっている。

40

【0551】

50

更に、扉枠用摺動杆1040は、下方部分の側面に縦長な遊び穴1044と、上昇係合穴1045と、を備えている。この遊び穴1044は、係合カム1016の第一係合突片1017が差し込まれて回転する時に、係合カム1016の回転動作の邪魔にならないように第一係合突片1017の先端部が移動可能な空間を構成するものである。また、上昇係合穴1045は、係合カム1016の第二係合突片1018が差し込まれて回転する時に、係合カム1016の回転動作によって扉枠用摺動杆1040が上昇するように係合するためのものである。なお、扉枠用摺動杆1040は、縦辺下部後方に、不正防止切欠部1007よりも上下方向に大きく切欠いた逃げ切欠部1049を備えている。この逃げ切欠部1049は、第一不正防止部材1023のストッパ片部1027が、確実に不正防止切欠部1007及び係合切欠部1066に係合するように、扉枠用摺動杆1040が邪魔にならないように該当部分を切欠いたものである。

10

【0552】

一方、本体枠用摺動杆1050は、金属板製の上フック部材1051と、金属板製の下フック部材1052と、上フック部材1051と下フック部材1052とを連結する連結線杆1052と、を備えている。つまり、本体枠用摺動杆1050は、従来のように1つの金属製の縦長板で構成されておらず、フック部1054、1065を有する上フック部材1051と下フック部材1052とを金属製の板材をプレスで形成し、その金属製の上フック部材1051と下フック部材1052とを細い金属製の連結線杆1053で連結したものである。これにより、狭いコ字状基体1001の空間に扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とを効率よく収納することができるようになっている。

20

【0553】

この本体枠用摺動杆1050の上フック部材1051は、上端部に後方に向かって形成されたフック部1054と、フック部1054に隣接した板面部に左右方向へ貫通したリベット用長穴1055と、リベット用長穴1055の下方に左右方向へ貫通した突片移動穴1056と、突片移動穴1056の前方の縦辺下端部に形成されたスプリングフック部1057と、スプリングフック部1057の下側に穿設された連結穴1058と、上フック部材1051の上辺及び下辺に形成された当接部1059と、を備えている。この上フック部材1051のフック部1054は、コ字状基体1001の上方のフック貫通開口1002を貫通して外枠2の開放側内側の上部に備えられた閉鎖板24に係合するようになっており、上向きに係止爪部が形成されている。

30

【0554】

また、上フック部材1051のこのリベット用長穴1055は、扉枠用摺動杆1040の上部に形成されたリベット用長穴1042に対応する位置に配置されており、このリベット用長穴1055にリベット1006が貫通した通常の状態では、リベット1006がリベット用長穴1055の最下端部を貫通した状態となり、上フック部材1051が下方へ向かって移動することができるようになっている。上フック部材1051の突片移動穴1056は、扉枠用摺動杆1040の上方のガイド突片1043が挿入されるようになっており、扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050との相互の移動を案内することができるようになっている。

【0555】

40

また、上フック部材1051のスプリングフック部1057は、スプリング1048の他端に係止されるようになっている。また、上フック部材1051の連結穴1058は、連結線杆1053の上端が折り曲げられて挿入されるようになっている。更に、上フック部材1051の当接部1059は、コ字状基体1001に収納された時に、コ字状基体1001の内部側壁に当接するようになっており、上フック部材1051の摺動動作においてガタ付きがなくスムーズに摺動することができるようになっている。

【0556】

一方、本体枠用摺動杆1050の下フック部材1052は、下端部から後方に向かって突設されたフック部1065と、下フック部材1052の板面部の上端付近で左右方向へ貫通したリベット用長穴1061と、リベット用長穴1061の下側に配置された下降係

50

合穴１０６２と、下降係合穴１０６２の下部後側から下方へ延出した遊び穴１０６３と、遊び穴１０６３の下方で下端付近に形成された突片移動穴１０６４と、下フック部材１０５２の縦辺上端部の前端側に穿設された連結穴１０６０と、下フック部材１０５２の後方の縦辺下部に形成された係合切欠部１０６６と、下フック部材１０５２の上辺及び下辺に形成された当接部１０６７と、を備えている。

【０５５７】

この下フック部材１０５２のフック部１０６５は、コ字状基体１００１の下方のフック貫通開口１００２を貫通して外枠２の開放側内側の下部に形成された閉鎖板２５と係合するようになっており、上向きに係止爪部が形成されている。また、下フック部材１０５２のリベット用長穴１０６１は、扉枠用摺動杆１０４０の下部に形成されたリベット用長穴１０４２と対応する位置に形成されており、このリベット用長穴１０６１にリベット１００６を貫通させた通常の状態では、リベット１００６がリベット用長穴１０６１の最下端部を貫通した状態となるようになっている。これにより、下フック部材１０５２が下方に向かって移動することができるようになっている。

10

【０５５８】

また、下フック部材１０５２の下降係合穴１０６２は、係合カム１０１６の第一係合突片１０１７が差し込まれて回転する時に、その回転動作によって本体枠用摺動杆１０５０が下降するように係合するためのものである。また、下フック部材１０５２の遊び穴１０６３は、係合カム１０１６の第二係合突片１０１８が差し込まれて回転する時に、その回転動作の邪魔にならないように第二係合突片１０１８の先端部が移動可能な空間を形成することができるようになっている。また、下フック部材１０５２の突片移動穴１０６４は、扉枠用摺動杆１０４０の下方のガイド突片１０４３が挿入されるようになっており、扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０との相互の移動を案内することができるようになっている。

20

【０５５９】

また、下フック部材１０５２の連結穴１０６０は、連結線杆１０５３の折り曲げられた下端が挿入されるようになっている。更に、下フック部材１０５２の当接部１０６７は、コ字状基体１００１に収納された時に、コ字状基体１００１の内部側壁に当接するようになっており、コ字状基体１００１に対して下フック部材１０５２が摺動動作する際に、ガタ付きがなくスムーズに摺動させることができるようになっている。

30

【０５６０】

次に、本実施形態の錠装置１０００の組立てについて説明する。この錠装置１０００を組付けるには、本体枠用摺動杆１０５０の上フック部材１０５１と下フック部材１０５２とを連結線杆１０５３で連結し、その状態で扉枠用摺動杆１０４０のガイド突片１０４３を、上フック部材１０５１と下フック部材１０５２の突片移動穴１０５６、１０６４に挿入すると共に、相互のリベット長穴１０４２とリベット用長穴１０５５、１０６１を位置合わせして重ね合わせ、その重ね合わせた状態で上フック部材１０５１のフック部１０５４と下フック部材１０５２のフック部１０６５とを、コ字状基体１００１のフック貫通開口１００２に貫通させながら扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０をコ字状基体１００１のコ字状の空間に挿入した後に、挿通穴１００５からリベット１００６を差し込む。

40

【０５６１】

このリベット１００６を挿入する際に、リベット１００６がリベット用長穴１０５５、１０６１、１０４２を貫通するように差し込む。なお、最下端のリベット１００６を差し込む時には、第一不正防止部材１０２３の揺動軸穴１０２５にもリベット１００６を差し込んで第一不正防止部材１０２３をコ字状基体１００１に同時に取付ける必要がある。また、第一不正防止部材１０２３をコ字状基体１００１に取付ける前に、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とを連結ピン１０３４で連結し、且つ、ガイドピン１０２８を、ピン穴１０２９に図示しないビスで止着してから、さらにガイドピン１０２８を挿入縦開口１０２０の最下端の開口部に挿入しておく必要がある。

50

【0562】

更に、リベット1006で扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050をコ字状基体1001内に収納固定した状態で、スプリング1048をスプリングフック部1046、1057相互間に掛け渡し、扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とを相互に反対方向に付勢し、さらに、バネ1035をバネ係止片1021とバネ係止穴1036とに掛け渡して第二不正防止部材1032が規制突片1031に当接した状態とする。その後、錠取付片1008の錠挿通穴1009に、シリンダ錠1010の円筒状本体部分を挿入してシリンダ錠1010をビス1012で取付穴1014に固定する。なお、この時、係合カム1016の第一係合突片1017の先端部が傾斜部1024の外側で且つ挿入縦開口1020に僅かに挿入されると共に、係合カム1016の第二係合突片1018の先端部が第一不正防止部材1023の突片挿入穴1026及び挿入縦開口1020に僅かに挿入された状態となるようにシリンダ錠1010を錠取付片1008に取付ける。

10

【0563】

このように、組立てた錠装置1000を本体枠ベース600の裏面に取付けるには、扉枠用摺動杆1040の扉枠用フック部1041を本体枠ベース600に形成された扉用フック穴620に差し込みながら、鉤型に突出する係止突起1004を本体枠ベース600の扉用フック穴620及び錠係止穴621に差し込んで上方に移動させ、その状態で水平方向に突出したビス止め部1003を錠取付部625に一致させ、その一致した穴に図示しないビスを螺着することにより、錠装置1000を本体枠ベース600の裏面に強固に固定することができる。特に、本実施形態の場合には、前方部の係止構造を構成する係止突起1004がコ字状基体1001の周壁部605と接しない側面1001aに突設形成される一方、後方部の固定構造を構成するビス止め部1003がコ字状基体1001の周壁部605と接する側面1001bから水平方向に突設形成される構造とされているので、前方部の係止構造が周壁部605と接する側面1001bに形成された場合と比較して、ガタ付きが生じないように錠装置1000を本体枠ベース600に固定することができるようになっている。

20

【0564】

次に、本実施形態の錠装置1000の作用について、図96及び図97を参照して説明する。図96に示すように、本体枠ベース600（本体枠3）が外枠2に対して閉じ且つ扉枠5が本体枠3に対して閉じている状態においては、図96（A）に示すように、外枠2の閉鎖板24、25と本体枠用摺動杆1050のフック部1054、1065とが係止し且つ扉枠用摺動杆1040の扉枠用フック部1041と扉枠5のフックカバー165とが係止した状態となっている。その状態でシリンダ錠1010に図示しない鍵を差し込んで係合カム1016の第一係合突片1017が挿入縦開口1020内に侵入する方向に回動すると、図96（B）に示すように、第一係合突片1017の先端が本体枠用摺動杆1050の下降係合穴1062に係合してスプリング1048の付勢力に抗して下フック部材1052を下方に押下げ、これと連結されている連結線杆1053と上フック部材1051も押下げられて下降する。これにより、外枠2の閉鎖板24、25と本体枠用摺動杆1050のフック部1054、1065との係止状態が解除され、本体枠3を前面側に引くことにより本体枠3を外枠2に対して開放することができる。

30

40

【0565】

なお、本体枠3を閉じる場合には、フック部1054、1065がスプリング1048の付勢力により上昇した状態（図96（A）に示す状態と同じ上昇した位置）となっているが、フック部1054、1065の上辺が外側に向かって下り傾斜しているため、強制的に本体枠3を外枠2に対して押圧することにより、フック部1054、1065の上辺傾斜部が閉鎖板24、25の下端部と当接するので、本体枠用摺動杆1050が下方に下降し、フック部1054、1065の上向き爪部と閉鎖板24、25とが再度係止した状態となって本体枠用摺動杆1050が上昇して係止状態に戻るようになっている。

【0566】

一方、シリンダ錠1010に図示しない鍵を差し込んで係合カム1016の第二係合突

50

片1018が挿入縦開口1020内に侵入する方向に回転すると、図96（C）に示すように、第二係合突片1018の先端が扉枠用摺動杆1040の上昇係合穴1045に係合してスプリング1048の付勢力に抗して扉枠用摺動杆1040を上方に押し上げ上昇する。このため、扉枠5のフックカバー165と扉枠用摺動杆1040の扉枠用フック部1041とが係止状態が解除されるので、扉枠5を前面側に引くことにより扉枠5を本体枠3に対して開放することができる。

【0567】

なお、扉枠5を閉じる場合には、扉枠用フック部1041がスプリング1048の付勢力により下降した状態（図96（A）に示す状態と同じ下降した位置）となっているが、扉枠用フック部1041の下辺が外側に向かって上り傾斜しているため、強制的に扉枠5を本体枠3に対して押圧することにより、扉枠用フック部1041の下辺傾斜部がフックカバー165の上端部と当接して扉枠用摺動杆1040が上方に上昇し、更に、扉枠用フック部1041の下向き爪部とフックカバー165とが再度係止した状態となって扉枠用摺動杆1040が下降して係止状態に戻る。なお、本実施形態における扉枠用摺動杆1040は、コ字状基体1001の全長と略同じ長さに形成されると共に、そのコ字状基体1001が本体枠3の縦方向の側面の略全長に亘って取付けられ、しかも、扉枠5との係止部である扉枠用フック部1041が扉枠用摺動杆1040の上端部、中央部、下端部の3箇所に形成されているので、扉枠5と本体枠3の縦方向の全長における施錠を確実に行うことができ、扉枠5と本体枠3との間を無理やりこじ開けてその間からピアノ線等の不正具を挿入する不正行為を行うことができないようになっている。

【0568】

このように、本実施形態の扉枠3の錠装置1000は、シリンダ錠1010に差し込んだ鍵を一方に回転することにより、外枠2に対する本体枠3の施錠を解除し、他方向に回転することにより、本体枠3に対する扉枠5の施錠を解除することができる。また、本例の錠装置1000は、シリンダ錠1010に鍵を差し込むことなく本体枠用摺動杆1050のフック部1054、1065にピアノ線等を引っ掛けてこれを下降させるような不正行為を行うことができないようになっている。このような不正行為を防止する構造の第一番目が第一不正防止部材1023と第二不正防止部材1032とから構成されるロック機構であり、第二番目の不正防止構造がコ字状基体1001の閉鎖空間に扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050が収納される構造である。

【0569】

まず、第一番目の不正防止構造であるロック機構の作用について図97を参照して説明する。まず、外枠2と本体枠3とが閉じている状態では、図97（A）に示すように、外枠2の閉鎖板25と第二不正防止部材1032の当接部1037とが当接した状態となっている。この状態においては、バネ1035の付勢力により第一不正防止部材1023が反時計方向に回転してストッパ片部1027が不正防止切欠部1007内に侵入し、ストッパ片部1027が不正防止切欠部1007に対応する位置にある本体枠用摺動杆1050の下フック部材1052に形成される係合切欠部1066と係合した状態となっている。これにより、本体枠用摺動杆1050にピアノ線等を引っ掛けて引き降ろそうとしても、ストッパ片部1027と係合切欠部1066とが係合しているため、本体枠用摺動杆1050を不正に下方に引き降ろすこと（解錠すること）が不能となり、本体枠3を開放するという不正行為を行うことができないようになっている。

【0570】

一方、シリンダ錠1010に鍵を差し込んで正しく本体枠3を開錠する場合には、図97（B）に示すように、鍵を回転させることにより係合カム1016の第一係合突片1017が挿入縦開口1020内に侵入するように回転される。この第一係合突片1017の回転時に、第一不正防止部材1023の傾斜部1024と第一係合突片1017の側面とが当接するため、第一不正防止部材1023が揺動軸穴1025を中心として図示の時計回転方向に回転を始め、ストッパ片部1027も不正防止切欠部1007から退避するように移動する。これにより、ストッパ片部1027と係合切欠部1066との係合が解除

された状態となる。この時、第二不正防止部材1032は、バネ1035を伸ばして当接部1037が後退した位置となっている。この状態でさらに係合カム1016を回転させて第一係合突片1017も回転させると、第一係合突片1017の先端が下フック部材1052の下降係合穴1062に係合して本体枠用摺動杆1050の全体を下降させるので、フック部1054、1065と外枠2の閉鎖板24、25との係止状態が解除されて本体枠3を外枠2に対して開放することができるようになっている。

【0571】

なお、本体枠3を外枠2に対して閉じる時には、第二不正防止部材1032は、規制突片1031に当接した状態となっているので、第一不正防止部材1023と第二不正防止部材1032との位置関係は、図97(A)に示す状態と略同じ位置関係になっている。この状態で本体枠3を閉めると、外枠2の閉鎖板25と第二不正防止部材1032の当接部1037とが正面から当接し、最終的に図97(A)に示す状態となる。これにより、第一不正防止部材1023と第二不正防止部材1032とが、本体枠3を閉じる時に邪魔にならないようになっている。また、本実施形態においては、第一不正防止部材1023と第二不正防止部材1032とが本体枠用摺動杆1050の下降動作だけが不正に行われないように防止しているのは、本体枠用摺動杆1050を不正に開放すれば、解放後に扉枠用摺動杆1040を手動で簡単に開けることができることと、ピアノ線等で摺動杆を上昇させる不正行為は事実上行い難いという理由により、本体枠用摺動杆1050に対する不正操作ができないように工夫されている。

【0572】

また、上記した第一番目の不正防止構造であるロック機構であっても、第一不正防止部材1023をピアノ線等で揺動させることにより、ロック機構の機能を無力化することも不可能ではない。そこで、万一ロック機構のロック機能が不正な行為により無力化される場合を想定すると、本実施形態においては、錠装置1000が本体枠3（本体枠ベース600）に取付けられた状態では、内部に設けられる扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とが、夫々のフック部1041、1054、1065を除いてコ字状基体1001の閉鎖空間に収納されて完全に被覆された状態となっているので、ピアノ線等を差し込んでコ字状基体1001の閉鎖空間の内部に設けられる本体枠用摺動杆1050を引き下げようとしても、コ字状基体1001の両側面1001a、1001bによって不正具の閉鎖空間への侵入が阻止されるため、不正行為を簡単に行うことができない構造となっている。

【0573】

このように、本実施形態の錠装置1000は、その横幅寸法が従来のL字状基体に集約される錠装置に比べて極めて薄いコ字状基体1001の内部に扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とを摺動可能に設け且つ錠装置1000を操作するためのシリンダ錠1010のコ字状基体1001への取付位置を遊技盤4の下端辺よりも下方となる位置としているので、遊技盤4の左右方向及び上下方向の大きさを極めて大きくすると共に、本体枠3の側面壁540～543で囲まれる空間を大きくしても、錠装置1000を本体枠3の裏側に強固に取付けることができる。

【0574】

また、コ字状基体1001の断面コ字状の開放側が本体枠3の裏面に対面するように取付けられるので、錠装置1000が本体枠3（本体枠ベース600）に取付けられた状態では、内部に配置された扉枠用摺動杆1040と本体枠用摺動杆1050とが、夫々のフック部1041、1054、1065を除いてコ字状基体1001に完全に被覆された状態となっており、ピアノ線等を差し込んで内部に設けられる本体枠用摺動杆1050を引き下げる等の不正行為を簡単に行うことができないようになっている。

【0575】

また、錠装置1000の取付けに際し、コ字状基体1001の開放側（前方部）の上中下の3箇所形成される係止突起1004を扉用フック穴620や錠係止穴621に差し込んで位置決め係止し、コ字状基体1001の閉塞側（後方部）の上中下の3箇所に形成

10

20

30

40

50

されたビス止め部1003を錠取付部625にビスで固定する構造としているので、極めて簡単な構造で錠装置1000を本体枠3（本体枠ベース600）に強固に固定することができるようにになっている。

【0576】

なお、本例の錠装置1000では、コ字状基体1001の下方部をビス止めする構造として錠取付片1008に形成されたビス止め部1003と本体枠3のシリンダ錠貫通穴611の上部近傍に形成した錠取付部625とを螺着する構造としたものを示しているが、これに代えて、シリンダ錠1010を錠取付片1008に取付けるビス1012を利用して、ビス1012の先端が錠取付片1008を貫通して螺着される錠取付穴をシリンダ錠貫通穴611の上下に形成する構造としても良い。また、コ字状基体1001の下方部をビス止めしなくても、錠装置1000の後方部のビス止め部1003と錠取付部625との固定だけでも、錠装置1000を本体枠3（本体枠ベース600）の裏面に、十分に強固に固定することができる。

10

【0577】

また、本例の錠装置1000では、扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050を左右の側面1001a、1001bを有するコ字状基体1001で完全に被覆するものを示したが、例えば、扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050を周壁部605に接しない反対側の側面1001aに摺動自在にリベット等で装着し、周壁部605に接する側面1001bを省略したL字状基体（錠基体）とし、そのL字状基体（錠基体）の側面1001aと第一側面壁540とによって形成される閉鎖空間に扉枠用摺動杆1040及び本体枠用摺動杆1050を収納する構造としても良く、上述した錠装置1000と同様の作用効果を奏することができる。

20

【0578】

上述したように、本例の本体枠3によると、本体枠ベース600の後側に後方（前後方向）へ延出した周壁部710aを有する透明な賞球ベース710と、賞球ベース710の上側に本パチンコ機1を設置する遊技ホールの島設備側から供給された遊技球を貯留する賞球タンク720と、賞球タンク720から排出された遊技球を整列させ賞球ベースの後壁部710bの後側に取付けられる透明なタンクレールユニット730と、タンクレールユニット730から放出された遊技球を所定の払出指示に基いて扉枠5の上皿301へ払出し賞球ベース710の後壁部710bの後側に取付けられる一部が透明の賞球装置740と、本体枠ベース600の後端へ延出した側部904を有し後面がタンクレールユニット730や賞球装置740の後面と略同一面状に配置された透明な裏カバー900とを備えているので、賞球ベース710や裏カバー900等を通して本体枠ベース600の遊技盤保持口601に保持された遊技盤4の後側と後側側面とを視認することができ、遊技盤4の後側を覆う裏カバー900を開けなくても簡単に遊技盤4の後側を点検（目視点検）することが可能なパチンコ機1とすることができる。

30

【0579】

また、透明な賞球ベース710や裏カバー900等を通して遊技盤4の後側（後面）だけでなく遊技盤4の後側側面も視認することができるので、本体枠ベース600の遊技盤保持口601へ前側から遊技盤4を脱着した際に、遊技盤4と裏カバー900との間にドライバやペンチ等の工具、洗浄用のウェス、埃やゴミ、等が残留した場合でも、それらを外側からは簡単に発見することができ、残留物によって何らかの不具合が発生するのを防止することができる。

40

【0580】

更に、上述したように、遊技盤4の後面や後側側面を外側から視認することができるので、遊技盤4の後側や側面等に不正行為を行うための不正な装置や工具等が取付けられていても、容易に発見することができ、不正行為が行われるのを防止することができると共に、遊技盤4に取付けられた不正な装置等を外側から簡単に発見することができるので、不正な装置等の取付けを躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機1とすることができる。

50

【0581】

また、遊技盤4の後側を賞球ベース710や裏カバー900で覆うようにしているので、遊技機4を設置した島設備内の他の部材が遊技盤4と接触したり、遊技盤4の後側にゴミや埃等の異物が付着したりするのを防止することができ、遊技盤4を良好な状態に維持して不具合が発生するのを抑制することができる。

【0582】

また、賞球タンク720の後面が本体枠ベース600の奥行きDに対して、本体枠ベース600の前端から約2倍の奥行きの位置となるようにしている、つまり、本体枠ベース600の奥行きDを、本体枠3の奥行きの約半分としているので、賞球ベース710や裏カバー900等を通して遊技盤4の後側や後側側面をより見易くすることができ、上記した作用効果を確実に奏することができる。また、本体枠ベース600の奥行きDを、本体枠3の奥行きの約半分としているので、本体枠ベース600を伏せた時の高さを可及的に低くして平坦な形状とすることができ、本体枠ベース600の後側へ賞球ベース710や裏カバー900、タンクレールユニット730、賞球装置740等を取付ける取付作業を行い易くすることができる。

10

【0583】

更に、透明な裏カバー900の後面（本体部902）を、賞球ベース710に取付けられた賞球タンク720、タンクレールユニット730、及び賞球装置740等の後面と、略同一面状となるようにしている、パチンコ機1の後面を略フラットな面とすることができ、後方への突起物を無くすことで設置される島設備内の他の部材に引っ掛かったり当接したりするのを防止して不具合が発生するのを防止することができる。また、パチンコ機1の後面が略フラットとなるので、パチンコ機1を搬送する際に、単純な形状の緩衝材を用いることができると共に、集積効率（収納効率）を高くすることができ、パチンコ機1に係るコストを低減させることができる。

20

【0584】

また、裏カバー900に、複数のスリット916や透孔918を備えるようにしており、スリット916等を介して遊技盤4の後側や後側側面等を直接視認することができるので、遊技盤4の後側等を更に見易くすることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。また、本体枠ベース600に保持された遊技盤4の後側を裏カバー900で覆っても、裏カバー900のスリット916等を介して遊技盤4からの熱を外部へ放出することができるので、遊技盤4からの熱が蓄積されるのを防止することができ、熱によって遊技に関する制御が不安定になったり、合成樹脂等の部材が変形したりして不具合が発生するのを抑制することができる。更に、裏カバー900のスリット916や透孔918を、遊技球が通過不能な大きさとしているので、例えば、島設備内でパチンコ機1の後側に遊技球がこぼれても、スリット916等を通して遊技球がパチンコ機1内へ侵入するのを阻止することができ、遊技球の侵入によって不具合が発生するのを防止することができる。

30

【0585】

[1-4. 遊技盤の基本構成]

次に、パチンコ機1における遊技盤4の基本構成について、図98乃至図105を参照して説明する。図98は、パチンコ機の扉枠を外した状態で本体枠に取付けられた遊技盤を示す正面図である。また、図99は、遊技盤の正面図であり、図100は、遊技盤を分解して前から見た分解斜視図であり、図101は、遊技盤を分解して後から見た分解斜視図である。更に、図102（A）はパチンコ機に取付けた状態で遊技盤における機能表示ユニットを拡大して示す正面図であり、（B）は機能表示ユニットの他の形態を示す正面図である。また、図103は、図100等の例とは異なる実施形態の遊技パネルを用いた遊技盤を分解して前から見た分解斜視図であり、図104は、図103を後から見た遊技盤の分解斜視図である。また、図105は、図103の遊技盤における遊技パネルを縦方向に切断した断面図である。

40

【0586】

50

本実施形態の遊技盤４は、図示するように、遊技者がハンドル装置５００を操作することで遊技球が打ち込まれる遊技領域１１００の外周を区画し外形が正面で略矩形状とされた前構成部材１１１０と、前構成部材１１１０の後側に配置され遊技領域１１００の後端を区画する板状の遊技パネル１１５０と、遊技パネル１１５０の後側下部に配置される基板ホルダ１１６０と、基板ホルダ１１６０の後面に取付けられ遊技球を遊技領域１１００内へ打ち込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板４１００を収容する主制御基板ボックス１１７０と、主制御基板４１００からの制御信号に基づいて所定の遊技状況を表示可能とされ前構成部材１１１０の所定位置に遊技者側へ視認可能に取付けられる機能表示ユニット１１８０と、を備えている。この遊技盤４は、図９８乃至図１０５での図示は省略し詳細は後述するが、遊技パネル１１５０の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１５０の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えている（図１０８乃至図１１５等を参照）。

10

【０５８７】

本実施形態の遊技盤４は、前構成部材１１１０、遊技パネル１１５０、基板ホルダ１１６０、主制御基板ボックス１１７０、及び機能表示ユニット１１８０によって、基本的な構成が形成されており、遊技パネル１１５０に取付けられる表ユニット２０００と裏ユニット３０００、及び主制御基板ボックス１１７０内に収容される主制御基板４１００によってパチンコ機１（遊技盤４）を特徴付ける詳細な構成が形成されている。ここでは、遊技盤４の基本構成を説明し、詳細構成については後述する。

【０５８８】

20

[１－４Ａ．前構成部材]

続いて、遊技盤４における前構成部材１１１０について説明する。本例の遊技盤４における前構成部材１１１０は、外形が本体枠３の遊技盤保持口６０１内へ挿入可能な略矩形状とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域１１００の外周が区画されるようになっている。この前構成部材１１１０は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１１１１と、外レール１１１１に略沿って外レール１１１１の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１１１２と、内レール１１１２の下端から滑らかに連続するように正面視反時計回りの周方向へ沿って外レール１１１１の終端（上端）よりも下側の位置まで円弧状に延びた内周レール１１１３と、内周レール１１１３の終端（上端）と外レール１１１１の終端（上端）とを結び外レール１１１１に沿って転動してきた遊技球が当接可能とされた衝止部１１１４と、内レール１１１２と内周レール１１１３との境界部で遊技領域１１００の最下端に配置され後方へ向かって低くなったアウト口誘導面１１１５と、内レール１１１２の上端に回動可能に軸支され、外レール１１１１との間を閉鎖するように内レール１１１２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１１１１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１１１６と、を備えている。

30

【０５８９】

40

この前構成部材１１１０は、遊技盤４を本体枠３に取付けた状態とすると、図９８等示すように、外レール１１１１と内レール１１１２との間の下端開口が、本体枠３の打球発射装置６５０における発射レール６６０の延長線上に位置するようになっている。この外レール１１１１の下端と、発射レール６６０の上端との間には、左右方向及び下方へ広がった空間が形成されており、打球発射装置６５０の発射レール６６０に沿って打ち出された遊技球が、その空間を飛び越えて、外レール１１１１と内レール１１１２との間の下端開口から外レール１１１１と内レール１１１２との間へ打ち込まれるようになっている。外レール１１１１と内レール１１１２との間に打ち込まれた遊技球は、その勢いに応じて外レール１１１１に沿って上方へ転動し、内レール１１１２の上端に軸支された逆流防止部材１１１６を、その付勢力に抗して開放位置側へ回動させることにより、遊技領域１

50

100内へ進入することができるようになっている。

【0590】

また、打球発射装置650において遊技球を強く打球した場合、遊技領域1100内で外レール1111に沿って転動した遊技球が、外レール1111の終端に備えられた衝止部1114に当接するようになっており、この衝止部1114に遊技球が当接することで遊技球の転動方向を強制的に変化させることができ、外レール1111から内周レール1113へ連続して遊技球が転動するのを防止することができるようになっている。なお、遊技領域1100内へ進入した（打ち込まれた）遊技球が、外レール1111と内レール1112との間へ戻ろうとしても、その前に逆流防止部材1116が付勢力によって閉鎖位置へ復帰することで、逆流防止部材1116によって遊技球の逆流が阻止されるようになっている。

10

【0591】

また、遊技領域1100内へ打ち込まれた遊技球は、後述する表ユニット2000の始動口2101、2102や入賞口2103、2104、2201等に受入れられなかった場合は、遊技領域1100の下端へと流下し、内レール1112と内周レール1113との境界のアウト口誘導面1115によって、遊技パネル1150のアウト口1151へ誘導され、アウト口1151から遊技盤4の後側下方へ排出されるようになっている。

【0592】

一方、打球発射装置650から発射された遊技球が、内レール1112先端の逆流防止部材1116を越えて遊技領域1100内へ進入することができなかった場合は、外レール1111と内レール1112との間を逆方向の下方へ向かって転動し、外レール1111と内レール1112との間の下端開口から、発射レール660の上端と外レール1111の下端との間に形成されたファール空間626を落下することとなり、ファール空間626の下部に位置する扉枠5におけるファールカバーユニット540のファール球入口542eに受入れられて、皿ユニット300における下皿302へ排出されるようになっている。

20

【0593】

なお、前構成部材1110における外レール1111は、その表面に金属板が取付けられており、遊技球の転動による耐摩耗性が高められていると共に、遊技球が滑らかに転動するようになっている。また、衝止部1114は、表面にゴムや合成樹脂等の弾性体が配置されており、遊技球が外レール1111に沿って勢い良く転動してきて衝突しても、その衝撃を緩和させることができるようになっており、遊技球を内側へ反発させることができるようになっている。

30

【0594】

また、前構成部材1110は、外レール1111の下部外側から前方へ向かって突出した壁状の防犯突起1117と、アウト口誘導面1115の下側から内周レール1113に沿って上下方向の略中央まで延出し前端から所定量窪んだ溝状のレール防犯溝1118と、を備えている。前構成部材1110における防犯突起1117は、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態とした時に、扉枠5における防犯カバー180の防犯後端部突片183と上下方向に重複するようになっており、これにより、軸支側（正面視左側）における本体枠3と扉枠5との間からピアノ線等の不正具を侵入させても、不正具を遊技領域1100内まで到達させることができないようになっている。

40

【0595】

また、本例の前構成部材1110は、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態とすると、レール防犯溝1118内に、扉枠5における防犯カバー180の防犯後突片182が挿入されるようになっており、防犯後突片182が内レール1112の外側（遊技領域1100とは反対側）面に略接するように内レール1112と外レール1111との間に挿入されるようになっており、内レール1112及びレール防犯溝1118と防犯後突片182とでも、本体枠3と扉枠5との間から侵入させたピアノ線等の不正具が遊技領域1100内へ到達するのを防止することができるようになっている。

50

【0596】

また、前構成部材1110は、正面視左端に上下方向へ離間して配置され前方から後方へ向かって窪むと共に左端に開放された一对の位置決め凹部1119と、正面視右端に上下方向へ離間して配置された一对の遊技盤止め具1120と、外レール1111の下端よりも正面視左側に配置され下方へ開放されると共に上側が円弧状に形成され前側から窪んだ固定凹部1121と、正面視下端の左側端部付近に下端から上方へ左右方向へ長く延びた矩形状に切欠かれた球通路用切欠部1122と、を備えている。前構成部材1110の位置決め凹部1119は、本体枠3における側面防犯版950の内側に取付けられた位置決め部材956と嵌合させることで、遊技盤保持口601に挿入された遊技盤4の正面視左端が、前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。また、遊技盤止め具1120は、本体枠3における本体枠ベース600の遊技盤係止部608に対して着脱可能に係止することができるようになっており、遊技盤止め具1120を遊技盤係止部608に係止させることで、本体枠3の遊技盤保持口601に挿入された遊技盤4の正面視右端が、前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

10

【0597】

また、前構成部材1110の固定凹部1121は、遊技盤4を本体枠3の遊技盤保持口601へ挿入した状態で、本体枠3の前面に軸支された遊技盤固定具690を正面視で時計回りの方向へ回動させると、遊技盤固定具690の固定片690aが挿入されるようになっており、遊技盤固定具690によって遊技盤4の下端が前方へ移動するのが規制されるようになっている。また、前構成部材1110の球通路用切欠部1122は、遊技パネル1150の同位置にも同様の球通路用切欠部1152が形成されており、遊技盤4を本体枠3の遊技盤保持口601へ挿入した状態では、球通路用切欠部1122、1152内に満タン分岐ユニット770の前端が挿通されるようになっている。

20

【0598】

更に、前構成部材1110は、下端部における正面視右端近傍に、前後方向へ貫通した横長の貫通穴1123と、貫通穴1123の下辺における左右方向の中央から正面視左寄りの位置に前後方向の厚さを薄く形成した締結部1124と、貫通穴1123の正面視左側に配置され証明確認用の証紙を貼付するための証紙貼付部1125と、を備えている。この前構成部材1110における締結部1124は、詳細な図示は省略するが、本遊技盤を従前の本体枠に取付ける場合に、従前の本体枠に形成された締結穴に対して所定の締結バンドを互いに巻き掛けて締結することで、遊技盤4を取外し難くすることができ、遊技盤4の不正な取外しを防止することができるものである。

30

【0599】

また、前構成部材1110は、内周レール1113に沿ったレール防犯溝1118の外側で正面視右下に、後述する機能表示ユニット1180の表示部1181が配置されている。また、前構成部材1110は、後面の下部の左右両端から後方へ突出した複数の取付ボス1126と、内レール1112の後面から後方へ突出した複数の位置決め突起1127と、を備えている。この取付ボス1126は、遊技パネル1150を貫通して基板ホルダ1160の固定ボス1162と係合するようになっており、基板ホルダ1160の後側から固定ボス1162を通して取付ボス1126へ所定のビスを螺着することで、前構成部材1110と基板ホルダ1160とで遊技パネル1150を挟持することができるようになっている。また、位置決め突起1127は、遊技パネル1150に形成された内レール固定孔1155へ嵌合させることで、内レール1112を遊技パネル1150の所定位置に固定することができるようになっている。

40

【0600】

[1-4B. 遊技パネル]

続いて、遊技盤4における遊技パネル1150について説明する。本例の遊技パネル1150は、所定厚さ（例えば、18mm～21mm）のベニア合板等の木質板材によって形成されており、外形が前構成部材1110の外形と略同形状とされている。この遊技パネル1150は、正面視左右方向略中央の下部で前構成部材1110におけるアウト口誘

50

導面 1 1 1 5 と対応した位置に前後方向へ貫通するアウト口 1 1 5 1 と、下端の正面視左側に前後方向へ横長に貫通すると共に下方へ開放され前構成部材 1 1 1 0 の球通路用切欠部 1 1 2 2 と同形状の球通路用切欠部 1 1 5 2 と、正面視右下隅部に前後方向へ貫通し機能表示ユニット 1 1 8 0 の後方突出部 1 1 8 2 が挿入される挿入穴 1 1 5 3 と、を備えている。

【0601】

また、遊技パネル 1 1 5 0 は、下部の左右両端付近で前構成部材 1 1 1 0 の取付ボス 1 1 2 6 と対応した位置に前後方向へ貫通した複数のボス挿通孔 1 1 5 4 と、前構成部材 1 1 1 0 の位置決め突起 1 1 2 7 が挿入固定される複数の内レール固定孔 1 1 5 5 と、アウト口 1 1 5 1 の後面側で後面から前方へ向かって所定量窪むと共に下端側が下方へ開放された溝状のアウト球排出溝 1 1 5 6（図 1 0 1 を参照）と、前構成部材 1 1 1 0 の遊技盤止め具 1 1 2 0 と対応した位置に形成され正面視右端から前後方向へ貫通するように切欠かれた切欠部 1 1 5 7 と、を備えている。また、遊技パネル 1 1 5 0 は、適宜位置に前構成部材 1 1 1 0 の後面に対して取付固定するための複数の取付孔を備えている。

【0602】

本例の遊技盤 4 における遊技パネル 1 1 5 0 は、前構成部材 1 1 1 0 によって外周が区画される遊技領域 1 1 0 0 の後端を区画することができるものであり、図示は省略するが、前面における遊技領域 1 1 0 0 と対応した範囲内に、複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されるようになっており、表ユニット 2 0 0 0 が取付けられるようになっている。また、遊技パネル 1 1 5 0 の後面には、裏ユニット 3 0 0 0 が取付けられるようになっている。また、遊技パネル 1 1 5 0 は、アウト口 1 1 5 1 が、遊技領域 1 1 0 0 の最下端に位置するように形成されており、遊技盤 4 に組立てた状態では、前構成部材 1 1 1 0 における遊技領域 1 1 0 0 の最下端に形成されたアウト口誘導面 1 1 1 5 によって後方へ誘導された遊技球がアウト口 1 1 5 1 へ進入して遊技盤 4 の後側へ排出されるようになっている。

【0603】

[1-4C. 基板ホルダ]

次に、遊技盤 4 における基板ホルダ 1 1 6 0 について説明する。基板ホルダ 1 1 6 0 は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されている。この基板ホルダ 1 1 6 0 は、正面視左右方向の略中央における底壁部の前端に上下方向へ貫通するように形成されたアウト球排出部 1 1 6 1 が形成されていると共に、底壁部の上面がアウト球排出部 1 1 6 1 へ向かって低くなるように形成されており、遊技パネル 1 1 5 0 のアウト口 1 1 5 1、表ユニットや裏ユニットから排出されて、基板ホルダ 1 1 6 0 の底部上面に供給（排出）された遊技球が、アウト球排出部 1 1 6 1 から下方へ排出されるようになっている。なお、アウト球排出部 1 1 6 1 は、遊技盤 4 を本体枠 3 に取付けた状態とすると、本体枠 3 における基板ユニット 8 0 0 の排出球受部 8 4 1 の直上に位置するようになっており、遊技盤 4 から排出された遊技球は、すべて基板ユニット 8 0 0 の排出通路 8 4 2 を通ってパチンコ機 1 の後側下方へ排出されるようになっている。

【0604】

また、基板ホルダ 1 1 6 0 は、側壁部における上下両端の前端から前方へ突出した複数の固定ボス 1 1 6 2 を備えている。複数の固定ボス 1 1 6 2 は、先端が遊技パネル 1 1 5 2 0 の後側からボス挿通孔 1 1 5 4 内へ挿入された上で、前構成部材 1 1 1 0 の取付ボス 1 1 2 6 の後端と嵌合するようになっており、取付ボス 1 1 2 6 と嵌合させた状態で、基板ホルダ 1 1 6 0 の後側から固定ボス 1 1 6 2 内を貫通して取付ボス 1 1 2 6 へ所定のビスを螺着することで、前構成部材 1 1 1 0 に対して基板ホルダ 1 1 6 0 を組付けることができるようになっており、前構成部材 1 1 1 0 と基板ホルダ 1 1 6 0 とで遊技パネル 1 1 5 0 を挟持することができるようになっている。

【0605】

また、基板ホルダ 1 1 6 0 は、図 1 0 1 に示すように、後壁部における後面の背面視左側端部に主制御基板ボックス 1 1 7 0 の固定片 1 1 7 4 が横側から嵌合可能な固定部 1 1

10

20

30

40

50

63と、固定部1163と対向するように配置され主制御基板ボックス1170の弾性固定片1175が後方から係止可能な係止部1164と、を備えている。この基板ホルダ1160の固定部1163及び係止部1164によって、基板ホルダ1160の後面に主制御基板ボックス1170を着脱可能に支持することができるようになっている。

【0606】

[1-4D. 主制御基板ボックス]

続いて、遊技盤4における主制御基板ボックス1170について説明する。この主制御基板ボックス1170は、後側が開放された薄い横長箱状の基板ベース1171と、基板ベース1171の後面を覆い前側が開放された薄い横長箱状で基板ベース1171の内部へ後側から嵌合する基板カバー1172と、基板カバー1171の前端に電子部品や端子等が後面側に実装された主制御基板4100と、を備えている。また、主制御基板ボックス1170は、基板ベース1171における背面視左側端部から外方へ延出し基板ホルダ1160の固定部1163と嵌合する固定片1174と、基板カバー1172における背面視右側端部から後方へ突出し基板ホルダ1160の係止部1164に弾性係止される弾性固定片と、を備えている。

【0607】

また、主制御基板ボックス1170は、図101等に示すように、弾性固定片1175を挟んで上下に二つずつ背面視右側端部に配置され基板ベース1171と基板カバー1172との開閉を封止可能な封止部1176と、基板ベース1171と基板カバー1172の下端で基板ベース1171と基板カバー1172とに跨って貼付けられる密封シール（図示は省略）と、密封シールの表面を被覆する透明なシール保護カバー1177と、基板カバー1172の後面に貼り付けられる基板管理シール1178と、を備えている。この主制御基板ボックス1170の封止部1176は、基板ユニット800における払出制御基板ボックス860の分離切断部863と同様の構成とされており、四つの封止部1176の何れか一つにおいてカシメ固定されている。この主制御基板ボックス1170は、基板ベース1171と基板カバー1172とを分離するには、カシメ固定された封止部1176を切断する必要がある。主制御基板ボックス1170の開閉の痕跡が残るようになっている。これにより、主制御基板ボックス1170が不正に開かれたか否かが外部から目視で明瞭に判別することができるようになっている。

【0608】

なお、主制御基板ボックス1170の封止部1176は、本例では四つ備えられているので、主制御基板ボックス1170を三回まで開閉することができるようになっている。また、本例の主制御基板ボックス1170は、基板ベース1171と基板カバー1172とに跨って密封シールが貼付られており、基板ベース1171と基板カバー1172とを分離させる際に、密封シールを切断したり剥したりする必要がある。この密封シールにおいても開閉の痕跡が残るようになっている。従って、主制御基板ボックス1170が不正に開閉されて、内部の主制御基板4100が不正に改造されたり、不正な主制御基板（或いは、遊技内容のプログラム等を記憶したROM）と交換されたりしても、外部から目視で確認することができ、それらの不正行為が行われるのを防止することができるようになっている。

【0609】

また、主制御基板ボックス1170は、基板カバー1172の前後方向へ貫通した開口が適宜位置に形成されており、その開口を通して主制御基板4100に取付けられた、RAMクリアスイッチ4100cや試験用端子4100f、周辺制御基板4010や払出制御基板4110等と接続するための各種接続端子等が後側へ臨むようになっている。なお、主制御基板ボックス1170の後面から臨む試験用端子4100fに、所定の計測機器を接続することで、主制御基板ボックス1170を開けることなく主制御基板4100を外側からチェックすることができると共に、上述の封止部1176や密封シールに対して巧みな細工がなされていても、主制御基板4100に対する不正な改造の有無を目視以外に確認することができ、防犯性能の高いパチンコ機1とすることができるようになっている。

る。

【0610】

[1-4E. 機能表示ユニット]

次に、遊技盤4における機能表示ユニット1180について説明する。この機能表示ユニット1180は、前構成部材1110の所定位置に取付配置されるものであり、前構成部材1110の前面で遊技者側から視認可能に配置される表示部1181と、前構成部材1110の後面よりも後方へ突出した後方突出部1182と、を備えている。

【0611】

本例の機能表示ユニット1180の表示部1181には、図102(A)に拡大して示すように、正面視左側端部に遊技領域1100内へ打ち込まれた遊技球によって変化する遊技状態を表示するための一つのLEDからなる遊技状態表示器1183と、遊技状態表示器1183の右側で上下方向へ並んだ二つのLEDからなり第一始動口2101への遊技球の受入れに関する保留数を表示するための第一特別図柄記憶表示器1184と、第一特別図柄記憶表示器1184の右側に配置され第一始動口2101への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果を第一特別図柄として表示するための一つの7セグメントLEDからなる第一特別図柄表示器1185と、第一特別図柄表示器1185の右斜め上に配置され第二始動口2102への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果を第二特別図柄として表示するための一つの7セグメントLEDからなる第二特別図柄表示器1186と、第二特別図柄表示器1186の右側で上下方向へ並んだ二つのLEDからなり第二始動口2102への遊技球の受入れに関する保留数を表示するための第二特別図柄記憶表示器1187と、を備えている。

【0612】

また、機能表示ユニット1180の表示部1181には、第二特別図柄表示器1186の直上から内周レール1113に略沿った円弧状に並んで配置され遊技球によるゲート部2401の通過に関する保留数を表示するための四つのLEDからなる普通図柄記憶表示器1188と、普通図柄記憶表示器の下側に配置され遊技球がゲート部2401を通過することで抽選された普通抽選結果を普通図柄として表示するための一つのLEDからなる普通図柄表示器1189と、を備えている。

【0613】

本例の機能表示ユニット1180における遊技状態表示器1183は、赤色・緑色・橙色と、その発光色を変化させることが可能なカラーLEDとされており、発光する発光色と、点灯・点滅との組合せにより、様々な遊技状態（例えば、確率変動状態、時短遊技状態、大当り遊技状態、小当り遊技状態、等）を表示することができるようになっている。

【0614】

また、機能表示ユニット1180における第一特別図柄記憶表示器1184は、第一特別図柄表示器1185において第一特別図柄を変動表示させることができない時に、第一始動口2101へ遊技球が受入れられた場合に、変動表示の開始が保留（記憶）された第一特別図柄の保留数（記憶数）を表示するものである。この第一特別図柄記憶表示器1184は、所定のLEDからなる第一特別図柄記憶ランプ1184aと、第一特別図柄記憶ランプ1184bとを有しており、第一特別図柄記憶ランプ1184a、1184bの点灯・点滅パターンによって、保留数を表示することができるようになっている。具体的には、例えば、保留数が一つの時には第一特別図柄記憶ランプ1184aが点灯して第一特別図柄記憶ランプ1184bが消灯し、保留数が二つの時には第一特別図柄記憶ランプ1184a、1184bが共に点灯し、保留数が三つの時には第一特別図柄記憶ランプ1184aが点滅して第一特別図柄記憶ランプ1184bが点灯し、保留数が四つの時には第一特別図柄記憶ランプ1184a、1184bが共に点滅するようになっている。なお、本例では、四つまで保留されるようになっている。

【0615】

また、機能表示ユニット1180における第二特別図柄記憶表示器1187は、第二特別図柄表示器1186において第二特別図柄を変動表示させることができない時に、第二

10

20

30

40

50

始動口 2 1 0 2 へ遊技球が受入れられた場合に、変動表示の開始が保留（記憶）された第二特別図柄の保留数（記憶数）を表示するものである。この第二特別図柄記憶表示器 1 1 8 7 は、所定の L E D からなる第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 a と、第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 b とを有しており、第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 a, 1 1 8 7 b の点灯・点滅パターンによって、保留数を表示することができるようになっている。具体的には、例えば、保留数が一つの時には第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 a が点灯して第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 b が消灯し、保留数が二つの時には第二特別図柄記憶表示ランプ 1 1 8 7 a, 1 1 8 7 b が共に点灯し、保留数が三つの時には第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 a が点滅して第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 b が点灯し、保留数が四つの時には第二特別図柄記憶ランプ 1 1 8 7 a, 1 1 8 7 b が共に点滅するようになっている。なお、本例では、四つまで保留されるようになっている。

10

【0616】

更に、機能表示ユニット 1 1 8 0 における第一特別図柄表示器 1 1 8 5 及び第二特別図柄表示器 1 1 8 6 は、第一始動口 2 1 0 1 や第二始動口 2 1 0 2 への遊技球の受入れにより、抽選された第一特別抽選結果や第二特別抽選結果を表示するものであり、7 セグメント L E D が特別抽選結果に応じた所定の時間、変動した後に停止し、停止した 7 セグメント L E D の発光パターン（特別図柄）によって、第一特別抽選結果や第二特別抽選結果を遊技者側に認識させることができるようになっている。

【0617】

また、機能表示ユニット 1 1 8 0 における普通図柄表示器 1 1 8 9 は、赤色・緑色・橙色と、その発光色を変化させることが可能なカラー L E D とされており、発光する発光色と、点灯・点滅との組合せにより、ゲート部 2 4 0 1 を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果を表示することができるようになっている。なお、普通図柄表示器 1 1 8 9 による普通図柄の表示も、特別図柄と同様に、所定時間変動表示した後に、普通抽選結果に対応した発光パターンで停止表示するようになっている。

20

【0618】

また、機能表示ユニット 1 1 8 0 における普通図柄記憶表示器 1 1 8 8 は、普通図柄表示器 1 1 8 9 において普通図柄を変動表示させることができない時に、ゲート部 2 4 0 1 を遊技球が通過した場合に、変動表示の開始が保留（記憶）された普通図柄の保留数（記憶数）を表示するものである。この普通図柄記憶表示器 1 1 8 8 は、下から並んで配置された四つの普通図柄記憶ランプ 1 1 8 8 a ~ 1 1 8 8 d を備え、夫々が所定の L E D とされており、保留数に応じて下から普通図柄記憶ランプ 1 1 8 8 a ~ 1 1 8 8 d を順次点灯させることで普通図柄の保留数を表示させることができるようになっている。なお、本例では、普通図柄の変動表示が四つまで保留（記憶）されるようになっている。

30

【0619】

本例の機能表示ユニット 1 1 8 0 は、図 1 0 2 (A) に示すように、遊技盤 4 をパチンコ機 1 に取付けた状態で、扉枠 5 の遊技窓 1 0 1 を通して遊技者側から視認することができるようになっている。また、機能表示ユニット 1 1 8 0 の遊技状態表示器 1 1 8 3、第一特別図柄記憶表示器 1 1 8 4、第一特別図柄表示器 1 1 8 5、第二特別図柄表示器 1 1 8 6、第二特別図柄記憶表示器 1 1 8 7、普通図柄記憶表示器 1 1 8 8、及び普通図柄表示器 1 1 8 9 は、機能表示基板 1 1 9 1（図 1 6 8 を参照）の前面に取付けられている。また、機能表示ユニット 1 1 8 0 の後方突出部 1 1 8 2 の後端には、機能表示基板 1 1 9 1 と、主制御基板 4 1 0 0 とを接続するための接続端子が取付けられている。

40

【0620】

本例では、機能表示ユニット 1 1 8 0 を遊技盤 4 の前構成部材 1 1 1 0 に備えるようにしているので、遊技パネル 1 1 5 0 に取付けられる表ユニット 2 0 0 0 や裏ユニット 3 0 0 に備えるようにした場合と比較して、機能表示ユニット 1 1 8 0 を遊技盤 4 の基本構成として流用することができ、パチンコ機 1 に係る構成を簡略化してコストが増加するのを防止することができると共に、パチンコ機 1 の機種（表ユニット 2 0 0 0 や裏ユニット 3 0 0 0 により具現化されパチンコ機 1 の機種を特徴付けることが可能な遊技盤 4 の詳細構

50

成)が異なっているとしても、機能表示ユニット1180の表示部1181の位置が変化しないので、遊技者や遊技ホールの店員等に対して、戸惑うことなく表示部1181の位置を認識させることができるようになっている。

【0621】

また、パチンコ機1の機能表示ユニット1180としては、図102(B)に示すような形態としても良い。この例では、7セグメントLEDにより構成した第一特別図柄表示器1185と第二特別図柄表示器1186を、夫々八つのLED群によって構成したものである。また、第一特別図柄記憶表示器1184と第二特別図柄記憶表示器1187を、夫々四つのLED群により構成すると共に、普通図柄記憶表示器1188を、二つのLEDにより構成するようにしている。

10

【0622】

この機能表示ユニット1180でも上記と同様の作用効果を奏することができる他に、第一特別図柄表示器1185と第二特別図柄表示器1186を八つのLED群で構成するようにしているので、7セグメントLEDを用いた場合と比較して、遊技者に対して表示される特別図柄を憶え難くすることができる。従って、機能表示ユニット1180で表示されている内容が判り辛いので、遊技中に機能表示ユニット1180の表示が気掛かりとなって遊技に専念し難くなるのを抑制することができ、遊技球の動き、可動演出や演出画像等に専念させて遊技をより楽しませることができるようになっている。

【0623】

[1-4F. 遊技パネルの第二実施形態]

20

続いて、上記した遊技盤4における遊技パネル1150とは異なる形態の遊技パネル1200について、図103乃至図105を参照して説明する。なお、図103乃至図105における前構成部材1110、基板ホルダ1160、及び主制御基板ボックス1170は、上述したものの同一の構成とされており、ここでの詳細な説明は省略する。本実施形態の遊技パネル1200は、上述した遊技パネル1150よりも厚さが薄く前構成部材1110によって外周が区画された遊技領域1100の後端を区画可能な板状で前構成部材1110の外形よりも外形が小さく形成されたパネル板1210と、パネル板1210を前側から脱着可能に保持すると共に前構成部材1110の後面に取付けられる枠状のパネルホルダ1220と、を備えている。

【0624】

30

この遊技パネル1200パネル板1210は、その外形が遊技領域1100よりも若干大きい多角形状とされており、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板1210の板厚は、パネルホルダ1220(遊技パネル1150)よりも薄く、図示しない障害釘を前面に植設したり表ユニット2000を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ(8~10mm)とされている。なお、本例では、透明な合成樹脂板によってパネル板1210が形成されている。

【0625】

このパネル板1210は、外周近傍に配置され前後方向に貫通する丸孔からなる複数の嵌合孔1211と、左下部の外周近傍に配置され前後方向に貫通し上下方向に延びる長孔1212と、を備えている。これら嵌合孔1211及び長孔1212は、遊技領域1100よりも外側に配置されており、パネルホルダ1220との位置決めを行うものである。また、パネル板1210には、その上辺の両端と下辺の両端に、前側が窪んだ段状の係合段部1213が夫々備えられている。この係合段部1213は、パネル板1210の板厚の略半分まで切欠いた形態とされると共に、嵌合孔1211及び長孔1212と同様に、遊技領域1100よりも外側に配置されており、パネル板1210をパネルホルダ1220へ係合固定するためのものである。

40

【0626】

また、パネル板1210は、所定位置に内レール固定孔1214が複数備えられている。この内レール固定孔1214に内レール1112の後側から突出する位置決め突起11

50

27を嵌合固定させることで、内レール1112を所定の位置に固定することができるようになっている。

【0627】

一方、遊技パネル1200におけるパネルホルダ1220は、パネル板1210を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、上述した木質板からなる遊技パネル1150の厚さと略同じ厚さ（本例では、約20mm）とされた合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）からなるものである。このパネルホルダ1220には、パネル板1210を着脱可能に保持し前面側から後方側に向かって凹んだ保持段部1221と、保持段部1221の内側において略遊技領域1100と同等の大きさで前後方向に貫通する貫通口1222とを主に備えている。

10

【0628】

パネルホルダ1220の保持段部1221は、前面からの深さがパネル板1210の厚さと略同じ深さとされており、保持段部1221内に保持されたパネル板1210の前面がパネルホルダ1220の前面と略同一面となるようになっている。また、この保持段部1221は、その前側内周面が、パネル板1210の外周面に対して所定量のクリアランスが形成される大きさとされている。このクリアランスにより、温度変化や経時変化により相対的にパネル板1210が伸縮しても、その伸縮を吸収できるようになっている。なお、クリアランス内にゴム等の弾性部材を詰めても良い。

【0629】

また、パネルホルダ1220には、保持段部1221に保持されるパネル板1210に形成された嵌合孔1211及び長孔1212と対応する位置に配置され、保持段部1221の前面から前方に向かって延び、パネル板1210の嵌合孔1211及び長孔1212に嵌合及び挿通可能な複数の突出ピン1223を備えている。これらの突出ピン1223をパネル板1210の嵌合孔1211及び長孔1212に嵌合及び挿通することで、パネルホルダ1220とパネル板1210とを互いに位置決めすることができるようになっている。

20

【0630】

更に、パネルホルダ1220には、パネル板1210の係合段部1213と対応する位置に、係合段部1213と係合する係合爪1224及び係合片1225を供えている。詳述すると、係合爪1224は、パネルホルダ1220の上側の保持段部1221に配置されており、パネル板1210における上側の係合段部1213と対応し、保持段部1221の前面から前方に向かって突出し係合段部1213と弾性係合するようになっている。この係合爪1224は、その先端がパネルホルダ1220の前面から突出しない大きさとされている。一方、係合片1225は、パネルホルダ1220の下側の保持段部1221に配置され、パネル板1210における下側の係合段部1213と対応し、保持段部1221の前面との間にパネル板1210の係合段部1213が挿入可能な大きさの所定の隙間を形成した状態で、パネルホルダ1220の前面に沿って上側（中心側）に向かって所定量延びる形態とされている。これら係合爪1224及び係合片1225にパネル板1210の係合段部1213を係合させることで、パネル板1210がパネルホルダ1220に対して着脱可能に保持されるようになっている。

30

40

【0631】

また、パネルホルダ1220には、前構成部材1110に備えられた取付ボス1126を挿通可能な前後方向に貫通するボス挿通孔1226を備えており、このボス挿通孔1226に前構成部材1110の取付ボス1126を挿通することで、パネルホルダ1220と前構成部材1110とが互いに位置決めされるようになっている。

【0632】

このパネルホルダ1220には、図104に示すように、その後面側に、上下方向の中央やや下方より下側と外周縁を残すように前側に所定量窪んだ形態の取付支持部1227が備えられている。この取付支持部1227により、パネルホルダ1220の後面は、下端より所定高さまでの所定範囲より上側で、後面側外周部が後方に突出したような状態で

50

窪んだ形態となると共に、その窪み量（深さ）が、取付支持部 1 2 2 7 に取付固定される裏ユニット 3 0 0 0 における裏箱 3 0 0 1 のフランジ状の固定部 3 0 0 1 a（図 1 1 4 等を参照）を収容できる深さ（本例では、約 2.5 mm とされており、1 ~ 3 mm の間とすることが望ましい）とされている。この取付支持部 1 2 2 7 に所定の部材を取付固定することで、その固定部 3 0 0 1 a がパネルホルダ 1 2 2 0 よりも後側に突出するのを防止することができ、パネルホルダ 1 2 2 0 すなわち遊技盤 4 を本体枠 3（パチンコ機 1）の遊技盤保持口 6 0 1 内に確実に設置装着できるようになっている。

【0 6 3 3】

更に、パネルホルダ 1 2 2 0 には、図示するように、後面側の取付支持部 1 2 2 7 内及び収容凹部 6 3 0 h よりも上側に配置され所定のビスを螺合可能な複数の取付孔 1 2 2 8 が所定配列で配置されている。また、パネルホルダ 1 2 2 0 には、取付孔 1 2 2 8 と対応するように配置される複数の位置決め孔 1 2 2 9 が備えられている。この位置決め孔 1 2 2 9 は、取付孔 1 2 2 8 を用いて取付固定される部材に形成された位置決め突起（例えば、裏箱 3 0 0 1 における前面のフランジ状に形成された固定部 3 0 0 1 a から前方へ突出する位置決め突起（図示は省略する））が挿入されるものである。なお、本例では、位置決め孔 1 2 2 9 は、背面視略矩形状（角孔状）の止り孔とされている。

【0 6 3 4】

なお、取付孔 1 2 2 8 に対して、その孔の内径が大径のものと小径のものとを混在させるようにして、取付固定する所定の部材の大きさや重量等に応じて、適宜径の取付孔 1 2 2 8 を用いるようにしても良い。

【0 6 3 5】

また、パネルホルダ 1 2 2 0 には、少なくとも下端から所定高さまでの所定範囲では後面側に開口する複数の肉抜き部 1 2 3 0 が形成されており、肉抜き部 1 2 3 0 によりパネルホルダ 1 2 2 0 の重量が軽減されるようになっている。図 1 0 3 に示すように、収容凹部 6 3 0 h の前側、つまり、パネルホルダ 1 2 2 0 の前面側の下端から所定高さまでの所定範囲内には、これらの肉抜き部 1 2 3 0 が形成されておらず、その範囲内では、パネルホルダ 1 2 2 0 の前面が略平らな面となるようになっているので、その前面に配置される前構成部材 1 1 1 0 の後面が略平らな面となり、打球発射装置 6 5 0 から発射された遊技球が、滑らかに案内されるようになっている。また、このパネルホルダ 1 2 2 0 は、図示するように、肉抜き部 1 2 3 0 が形成されることで、取付孔 1 2 2 8 等がボス状に形成されると共に、それらを支持したりパネルホルダ 1 2 2 0 の強度を維持したりするために、箱状のリブが形成された状態となっている。

【0 6 3 6】

なお、このパネルホルダ 1 2 2 0 には、障害釘植設装置（図示しない）や、組立治具等の位置決め手段に対応した位置決め部 1 2 3 1 が形成されており、障害釘植設装置に遊技パネル 1 1 5 0 を保持した状態でセットできるようになっている。また、パネルホルダ 1 2 2 0 の下部には、前構成部材 1 1 1 0 のアウト口誘導面 1 1 1 5 と対応した位置に前後方向へ貫通するアウト口 1 2 3 2 と、下端の正面視左側に前後方向へ横長に貫通すると共に下方へ開放され前構成部材 1 1 1 0 の球通路用切欠部 1 1 2 2 と同形状の球通路用切欠部 1 2 3 3 と、正面視右下隅部に前後方向へ貫通し機能表示ユニット 1 1 8 0 の後方突出部 1 1 8 2 が挿入される挿入穴 1 2 3 4 と、を備えている。

【0 6 3 7】

また、パネルホルダ 1 2 2 0 は、アウト口 1 2 3 2 の後面側で後面から前方へ向かって所定量窪むと共に下端側が下方へ開放された溝状のアウト球排出溝 1 2 3 5（図 1 0 4 を参照）と、前構成部材 1 1 1 0 の遊技盤止め具 1 1 2 0 と対応した位置に形成され正面視右端から前後方向へ貫通するように切欠かれた切欠部 1 2 3 6 と、を備えている。また、パネルホルダ 1 2 2 0 は、適宜位置に前構成部材 1 1 1 0 の後面に対して取付固定するための複数の取付孔を備えている。

【0 6 3 8】

このパネルホルダ 1 2 2 0 におけるアウト球排出溝 1 2 3 5 は、遊技盤 4 を本体枠 3 の

10

20

30

40

50

遊技盤保持口 601 へ挿入保持させると、本体枠 3（本体枠ベース 600 における遊技盤載置部 606 の上面）に備えられた位置決め突起 607 と嵌合するようになっており、アウト球排出溝 1235 が位置決め突起 607 と嵌合することで、本体枠 3 に対して遊技盤 4 が左右方向へ相対移動するのが規制されるようになっている。

【0639】

本実施形態の遊技パネル 1200 は、前方からパネルホルダ 1220 の保持段部 1221 内へパネル板 1210 を嵌合挿入して、係合爪 1224 及び係合片 1225 と、係合段部 1213 とを係合させることで、パネルホルダ 1220 にパネル板 1210 を保持させることができると共に、パネル板 1210 とパネルホルダ 1220 の前面側が略面一となるようになっていると、従来より用いられている障害釘植設装置を改造等しなくてもパネル板 1210 をパネルホルダ 1220 に保持した状態で従前の障害釘植設装置にセットすることが可能となり、障害釘の植設にかかるコストが増加するのを抑制することができるようになっている。

10

【0640】

また、本例の遊技パネル 1200 は、図示は省略するが、パネル板 1210 の前面における遊技領域 1100 と対応した範囲内に、複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されるようになっていると共に、表ユニット 2000 が取付けられるようになっている。また、パネルホルダ 1220 の後面には、裏ユニット 3000 が取付けられるようになっている。これにより、薄いパネル板 1210 においては、表ユニットのみを支持するようにしているので、表ユニットの荷重によってパネル板 1210 が歪むのを防止することができるようになっている。

20

【0641】

更に、遊技パネル 1200 を、パネル板 1210 とパネルホルダ 1220 とによる分割構造としているので、パネル板 1210 を透明板としても遊技パネル 1200 全体の重量が増加するのを抑制することができ、透明なパネル板 1210 を通して遊技領域 1100 の後側が遊技者から見えるパチンコ機 1 を具現化することができ、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機 1 とすることができるようになっている。

【0642】

また、遊技パネル 1200 を、パネル板 1210、及びパネルホルダ 1220 に分割するようにしているので、パチンコ機 1 の機種によって障害釘や入賞口等の位置が変化するパネル板 1210 を交換パーツとすると共に、パネルホルダ 1220 を共通パーツとすることができ、パネル板 1210 のみを交換するだけで種々の機種に対応可能な遊技盤 4 を備えたパチンコ機 1 とすることができるようになっている。

30

【0643】

更に、パネルホルダ 1220 に予め複数の取付孔 1228 が所定配列で備えられているので、機種に応じてパネルホルダ 1220 の後面側に取付固定される裏ユニット 3000 等の種々の所定部材の取付固定位置が異なる位置となっても、各種部材の固定部を取付孔 1228 の位置と対応させるように設計することで、パネルホルダ 1220 を機種に依存しないパチンコ機 1 の共通パーツとすることができるようになっている。

【0644】

[1-5. パチンコ機の防犯構造]

続いて、本実施形態のパチンコ機 1 における防犯構造について、主に図 106 及び図 107 を参照して説明する。図 106 は、パチンコ機の軸支側における防犯構造を示す部分断面図である。また、図 107 は、遊技盤を収容した状態で後側から見た斜視図である。

40

【0645】

まず、本例のパチンコ機 1 における軸支側の防犯構造は、図 106 に示すように、本体枠 3 における合成樹脂によって形成された本体枠ベース 600 の軸支側（正面視で左側）の側面に取付けられる金属製の防犯側面板 950 と、扉枠 5 における合成樹脂によって形成された扉枠ベース 110 の後面に取付けられる金属製の補強ユニット 150 とによって構成されている。

50

【0646】

本体枠3の防犯側面板950は、上述したように、金属（例えば、アルミ合金）製の押出型材によって形成されており、上下方向の寸法が本体枠ベース600の上下方向の寸法と略同じ寸法とされると共に、前後方向の寸法が遊技盤4における前構成部材1110と遊技パネル1150とを合わせた前後方向の寸法よりも大きい寸法とされている。この側面防犯板950は、上下方向へ延びると共に前後方向へ延び本体枠3の側面を形成する板状の側面片952aと、側面片952aの前端から略直角方向内側（開放側）へ延びた前端片952bと、前端片952bの後側に所定量の隙間を形成するように側面片952aから前端片952bに沿って延びた中片952cと、側面片952aの後端から略直角方向内側へ延びた後端片952dとを備えている。これにより、防犯側面板950の前端は、前端片952bと中片952cとによって内側（開放側）に開口する断面が略コ字状に形成されている。

10

【0647】

また、側面防犯板950（本体952）は、側板片952aの面に対して直角方向へ配置された前端片952b、中片952c、及び後端片952dにより、側面防犯板950の強度・剛性が高められており、本体枠3全体の強度を高めて遊技盤4や扉枠5等を良好に支持することができるようになっている。

【0648】

一方、扉枠5の補強ユニット150は、上述したように、複数の長尺状の金属板をスポット溶接やリベット等を用いて扉枠5における遊技窓101の外周を囲うように枠状に形成したものであり、軸支側の軸支側補強板金152の外側辺には外側（軸支側）に開口した断面が略コ字状の軸支側コ字状突片166を備えている。この補強ユニット150の軸支側補強板金152では、軸支側コ字状突片166によって軸支側補強板金152の強度がより高められており、軸支側補強板金152が曲がり難くなっている。

20

【0649】

ところで、本例では、扉枠5が本体枠3に対して上軸支部156と下軸支部158の上下の二点でのみ取付支持されるようになっているので、軸支側の扉枠5と本体枠3との間にドライバーやバール等の不正な工具が差込まれると、軸支側補強板金152が変形して扉枠5と本体枠3との隙間が大きくなりその隙間を介して不正行為が行われる虞がある。これに対して、本例の防犯構造は、本体枠3に対して扉枠5を閉じた状態とすると、防犯側面板950の前端内側に形成された前端片952bと中片952cとの間に扉枠5における補強ユニット150の略コ字状に形成された軸支側コ字状突片166の後側の片が挿入される（侵入する）ようになっており、前端片952aを軸支側コ字状突片166で挟持した状態となるようになっている。これにより、本体枠3に対して扉枠5を無理やり開けようとしても、扉枠5の軸支側コ字状突片166が本体枠3の前端片952bの後面側に当接して扉枠5の軸支側コ字状突片166が本体枠3から離れる方向へ移動するのを阻止することができるので、閉鎖された扉枠5が挟み開けられるのを防止することができ、本体枠3に対して扉枠5を挟み開けるような不正行為が行われるのを防止することができるようになっている。

30

【0650】

また、本体枠3における金属により形成された防犯側面板950と、扉枠5における金属により形成された補強ユニット150とを嵌合させるようにしているので、本体枠3と扉枠5との間の強度・剛性が高くなり、不正な工具によって本体枠3や扉枠5を歪み難くすることができ、防犯性能を高めることができるようになっている。

40

【0651】

更に、防犯側面板950における側面片952aの後端が遊技盤4における遊技パネル1150よりも後方へ延出するようにしているので、仮に側面片952aの後端よりも後側の本体枠ベース600が破壊されても、側面片952aの後端から遊技盤4（遊技パネル1150）の前面の遊技領域1100内へピアノ線等の不正な工具を侵入させることができず、不正行為が行われるのを確実に防止することができるようになっている。なお、

50

図106に示すように、防犯側面板950の外側を覆うように外枠2の側枠板12が接しているため、堅牢な側面を有したパチンコ機1となっており、側面側からの破壊行為に対して充分に対抗できるようになっている。また、一般的に、パチンコ機1を設置する遊技ホールでは、パチンコ機1の側面がパチンコ機1を設置するための島設備の枠内に挿入固定されるようになっているので、遊技者側（前側）からは側面片952cの後端よりも後側へ不正工具を侵入させることはほとんど不可能な状態となり、パチンコ機1の防犯性能をより高められた状態となるようになっている。

【0652】

続いて、本例のパチンコ機1における後方側からの防犯構造としては、図107に示すように、遊技盤4を収容する本体枠3における賞球ベース710、タンクレール731、賞球装置740のユニットベース741、満タン分岐ユニット770、及び裏カバー900が、透明な合成樹脂によって形成されているので、本体枠3内に収容された遊技盤4の後側や側面側を、遊技盤4を本体枠3から取外したり裏カバー900を開けたりしなくても、本体枠3の後側から視認することができるようになっている。これにより、遊技盤4の後側等に不正な装置が取り付けられていても、容易に発見することができ、不正行為が行われるのを防止することができるようになっている。また、遊技盤4に取り付けられた不正な装置等を外側から簡単に発見することができるので、不正な装置の取付けを躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力を高めることができるようになっている。

【0653】

また、本体枠3の後側から遊技盤4の後側や側面側を、透明な賞球ベース710や裏カバー900等を通して視認することができるので、メンテナンスや機種の変更を行うために本体枠3に対して遊技盤4を脱着した際、本体枠3と遊技盤4との間に、ドライバーやペンチ等の工具、洗浄用のウェス、埃やゴミ、等が残留した場合でも、それらを外側から簡単に発見することができ、それらによって何らかの不具合が発生するのを防止することができるようになっていると共に、パチンコ機1に対するメンテナンス性を向上させることができるようになっている。

【0654】

[2. 遊技盤の詳細構成]

続いて、本実施形態のパチンコ機1における遊技盤4の詳細な構成について、図108乃至図115を参照して説明する。図108は遊技パネルを通して見える部分を省略して示す遊技盤の正面図であり、図109は遊技盤の正面図であり、図110は遊技盤を斜め右前から見た斜視図であり、図111は遊技盤を斜め左前から見た斜視図である。図112は遊技盤を斜め後から見た斜視図である。また、図113は、図108におけるA-A断面図である。更に、図114は遊技盤を構成する主な部材毎に分解して斜め前から見た斜視図であり、図115は遊技盤を構成する主な部材毎に分解して斜め後から見た斜視図である。

【0655】

本実施形態のパチンコ機1における遊技盤4は、外レール1111及び内レール1112を有し、遊技者がハンドル装置500を操作することで遊技媒体としての遊技球（単に「球」とも称す）が打ち込まれる遊技領域1100の外周を区画形成する枠状の前構成部材1110と、前構成部材1110の正面視右下隅部でパチンコ機1へ取付けた時に扉枠5の遊技窓101から遊技者側へ視認可能となる位置に配置された機能表示ユニット1180と、前構成部材1110の後側に遊技領域1100を閉鎖するように取り付けられ遊技領域1100と対応する位置に所定形状で前後方向へ貫通した複数の開口部1215（図114を参照）を有し遊技領域1100の後端を区画する板状の遊技パネル1200と、を備えている。

【0656】

本例の遊技パネル1200は、前構成部材1110によって外周が区画された遊技領域1100の後端を区画可能な板状で前構成部材1110よりも外形が小さく形成された透明なパネル板1210と、パネル板1210を前側から脱着可能に保持すると共に前構成

部材 1 1 1 0 の後面に取付けられる枠状のパネルホルダ 1 2 2 0 と、を備えている。遊技パネル 1 2 0 0 の開口部 1 2 1 5 は、透明なパネル板 1 2 1 0 に形成されている。

【0 6 5 7】

また、遊技盤 4 は、遊技パネル 1 2 0 0 の開口部 1 2 1 5 に対して前側から取付けられる表ユニット 2 0 0 0 と、遊技パネル 1 2 0 0（パネルホルダ 1 2 2 0）の後面に取付けられる裏ユニット 3 0 0 0 と、裏ユニット 3 0 0 0 の後側に遊技者側から視認可能に取付けられ所定の演出画像を表示可能な液晶表示装置 1 9 0 0 と、裏ユニットの下部を後側から覆うように遊技パネル 1 1 5 0 の後面下部に取付けられる基板ホルダ 1 1 6 0 と、基板ホルダ 1 1 6 0 の後面に取付けられる主制御基板ボックス 1 1 7 0 と、を備えている。

【0 6 5 8】

本例の遊技盤 4 における表ユニット 2 0 0 0 は、遊技領域 1 1 0 0 内の下部でアウト口 1 1 5 1 の上側に配置されたアタッカユニット 2 1 0 0 と、アタッカユニット 2 1 0 0 の左上側で遊技領域 1 1 0 0 の外周に沿って配置されたサイド誘導部材 2 3 0 0 と、サイド誘導部材 2 3 0 0 の上側で遊技領域 1 1 0 0 内の上下方向中央からやや上寄り左側に配置されたゲート部材 2 4 0 0 と、遊技領域 1 1 0 0 の略中央部分に配置された枠状のセンター役物 2 5 0 0 と、を備えている。

【0 6 5 9】

また、遊技盤 4 における裏ユニット 3 0 0 0 は、遊技パネル 1 1 5 0 の後側に取付けられ前側が開放された箱状で後壁 3 0 0 1 b に液晶表示装置 1 9 0 0 の表示画面が臨む開口 3 0 0 1 c が形成された裏箱 3 0 0 1 と、裏箱 3 0 0 1 内の前面付近に取付けられ枠状の装飾を有した裏飾りユニット 3 1 0 0 と、裏箱 3 0 0 1 の前面下部に取付けられ表ユニット 2 0 0 0 からの遊技球を下方へ誘導する球誘導ユニット 3 2 0 0 と、裏箱 3 0 0 1 内で開口 3 0 0 1 c よりも上側に取付けられ遊技状態に応じて可動する上可動演出ユニット 3 3 0 0 と、裏箱 3 0 0 1 内で開口 3 0 0 1 c の左右両側に取付けられ遊技状態に応じて可動する左右可動演出ユニット 3 4 0 0 と、裏箱 3 0 0 1 内で開口 3 0 0 1 c の下側に取付けられ遊技状態に応じて可動する下可動演出ユニット 3 6 0 0 と、下可動演出ユニット 3 6 0 0 と裏箱 3 0 0 1 の後壁 3 0 0 1 b との間に配置され下可動演出ユニット 3 6 0 0 の左右両側面を装飾する下部飾り部材 3 0 0 2 と、を備えている。

【0 6 6 0】

この裏ユニット 3 0 0 0 における裏箱 3 0 0 1 には、後壁 3 0 0 1 b に前後方向へ貫通した略矩形状の開口 3 0 0 1 c を有しており、この開口 3 0 0 1 c から表示画面が前方（遊技者側）へ臨むように、液晶表示装置 1 9 0 0 が裏箱 3 0 0 1 の後壁 3 0 0 1 b の後側に脱着可能に取付けられている。

【0 6 6 1】

更に、遊技盤 4 における液晶表示装置 1 9 0 0 の後側には、詳細は後述するが、周辺制御部 4 1 4 0 及び液晶制御部 4 1 5 0 を有した周辺制御基板 4 0 1 0 を収容する周辺制御基板ボックス 1 9 1 0 が備えられている。

【0 6 6 2】

[2 - 1 . 表ユニットの全体構成]

次に、本実施形態のパチンコ機 1 における遊技盤 4 の表ユニット 2 0 0 0 について、図 1 1 6 及び図 1 1 7 を参照して説明する。図 1 1 6 は遊技盤における表ユニットを前から見た斜視図であり、図 1 1 7 は遊技盤における表ユニットを後から見た斜視図である。

【0 6 6 3】

遊技盤 4 における表ユニット 2 0 0 0 は、遊技領域 1 1 0 0 内の左右方向略中央下部でアウト口 1 1 5 1 の上側に配置され遊技パネル 1 2 0 0（パネル板 1 2 1 0）の前面に支持されるアタッカユニット 2 1 0 0 と、アタッカユニット 2 1 0 0 の左上側に配置され遊技領域 1 1 0 0 の外周から左右方向中央側へ延びたサイド誘導部材 2 3 0 0 と、サイド誘導部材 2 3 0 0 の上側で遊技領域 1 1 0 0 内の上下方向中央からやや上寄り左側に配置され遊技パネル 1 1 5 0 の前面に支持されるゲート部材 2 4 0 0 と、遊技領域 1 1 0 0 の略中央部分に配置され遊技パネル 1 1 5 0 に支持される枠状のセンター役物 2 5 0 0 と、を

10

20

30

40

50

備えている。

【0664】

この表ユニット2000のアタッカユニット2100には、遊技球が常時受入可能とされた第一始動口2101と、第一始動口2101の下側に配置されゲート部材2400におけるゲート部2401を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口2102と、第二始動口2102の下側に配置され第一始動口2101や第二始動口2102への遊技球の受入れにより抽選される特別抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる大入賞口2103と、大入賞口2103よりも上側に配置され遊技球を常時受入可能とされた四つの一般入賞口2104と、を備えている。また、表ユニット2000のゲート部材2400には、遊技球が一つの通過可能なゲート部2401を備えている。

10

【0665】

また、表ユニット2000のセンター役物2500には、遊技パネル1200（パネル板1210）の前面と当接する略枠状のフランジ部2502と、遊技領域1100内を流下してきた遊技球が枠内へ侵入するのを阻止する周壁部2503と、周壁部2503の所定位置に開口するワープ入口2504と、ワープ入口2504に進入した遊技球を枠内へ放出するワープ出口2505と、ワープ出口2505から放出された遊技球を左右方向へ転動させた後に遊技領域1100内へ放出して還流させるステージ2510と、が備えられている。

20

【0666】

更に、表ユニット2000におけるセンター役物2500は、前後方向に貫通し後側に配置された液晶表示装置1900の表示画面や裏ユニット3000等が透明な遊技パネル1200を通さずに視認することができる窓部2501と、窓部2501の上枠を形成しパチンコ機1のコンセプトに沿ったロゴを備えたセンターロゴ装飾部材2520と、窓部2501の右枠を形成する右枠装飾部材2530と、を備えている。このセンター役物2500のセンターロゴ装飾部材2520及び右枠装飾部材2530は、夫々LEDが実装された装飾基板2523、2532を備えており、遊技状態に応じて発光装飾させることができるようになっている。

【0667】

〔2-2. アタッカユニット〕

次に、本実施形態のパチンコ機1の遊技盤4における表ユニット2000のアタッカユニット2100について、図118乃至図120参照して説明する。図118はアタッカユニットを前から見た斜視図であり、図119はアタッカユニットを後から見た斜視図である。また、図120は、アタッカユニットを後下から見た斜視図である。

30

【0668】

本例の表ユニット2000における遊技盤4のアタッカユニット2100は、遊技パネル1200のパネル板1210における左右方向中央の下部に形成された開口部1215に対して、前側から挿入された上で、遊技パネル1200（パネル板1210）の前面に固定されるものである。このアタッカユニット2100は、遊技領域1100内へ打ち込まれた遊技球が受入可能とされた複数の受入口（入賞口）を有している。具体的には、左右方向の略中央に配置された第一始動口2101と、第一始動口2101の下側に配置された第二始動口2102と、第二始動口2102の下側に配置され第一始動口2101や第二始動口2102よりも左右方向へ大きく延びた矩形状の大入賞口2103と、大入賞口2103よりも高い位置に配置された四つの一般入賞口2104と、を備えている。

40

【0669】

このアタッカユニット2100の第一始動口2101は、上側が開放されており遊技球が常時受入（入賞）可能となっている。一方、第一始動口2101の下側に配置された第二始動口2102は、図示するように、第二始動口2102の左右両側に略直立状態で配置された一対の羽根状の可動片2105によって第一始動口2101との間が閉鎖された状態となっており、図示の状態では遊技球が第二始動口2102へ受入不能な状態となっ

50

ている。この第二始動口 2 1 0 2 を閉鎖する一対の可動片 2 1 0 5 は、下端側が回動可能に軸支されており、上端側を互いに離反する方向へ回動させて拡開させることで、第二始動口 2 1 0 2 へ遊技球が受入可能な状態となるようになっている。つまり、第二始動口 2 1 0 2 は、一対の可動片 2 1 0 5 により可変入賞口となっている。

【0670】

また、アタッカユニット 2 1 0 0 の大入賞口 2 1 0 3 は、その開口を閉鎖可能な横長矩形形状の開閉部材 2 1 0 6 によって開閉可能とされている。この開閉部材 2 1 0 6 は、下辺が回動可能に軸支されており、略垂直な状態では大入賞口 2 1 0 3 を閉鎖して遊技球を受入不能とすることができると共に、上辺が前側へ移動するように回動すると大入賞口 2 1 0 3 を開放して遊技球を受入可能とすることができるようになっている。つまり、大入賞口 2 1 0 3 は、開閉部材 2 1 0 6 により可変入賞口となっている。

10

【0671】

このアタッカユニット 2 1 0 0 は、第一始動口 2 1 0 1 の左右方向の幅が遊技球の外形より若干大きい幅とされ、遊技球が一つずつ受入れられるような大きさ（幅）となっている。また、アタッカユニット 2 1 0 0 の第二始動口 2 1 0 2 は、一対の可動片 2 1 0 5 の上端同士が互いに離反する方向へ回動させて拡開させた時の左右方向の幅が、遊技球の外形の 3 倍～5 倍の幅とされている。更に、アタッカユニット 2 1 0 0 の大入賞口 2 1 0 3 は、開閉部材 2 1 0 6 を開状態とした時の左右方向の幅が、遊技球の外形の 5 倍～8 倍の幅とされている。これにより、各入賞口 2 1 0 1, 2 1 0 2, 2 1 0 3 が受入可能となった状態では、下側の入賞口ほど遊技球が受入れられ易くなるようになっている。

20

【0672】

更に、アタッカユニット 2 1 0 0 の四つの一般入賞口 2 1 0 4 は、二つが、大入賞口 2 1 0 3 を挟んで左右両側に上方へ開口した状態で配置されており、残りの二つが、大入賞口 2 1 0 3 を挟んで左側に配置された一般入賞口 2 1 0 4 よりも更に左斜め上側に互いが背向するように配置されている。

【0673】

本例のアタッカユニット 2 1 0 0 は、更に詳述すると、遊技パネル 1 2 0 0 におけるパネル板 1 2 1 0 の前面に取付けられ、遊技領域 1 1 0 0 の左右方向中央と対応する位置に第一始動口 2 1 0 1 及び大入賞口 2 1 0 3 を有し、第二始動口 2 1 0 2、及び一般入賞口 2 1 0 4 を形成可能な板状の台板 2 1 1 0 と、台板 2 1 1 0 における第一始動口 2 1 0 1 の下側前面に取付けられ一対の可動片 2 1 0 5 を回動可能に軸支すると共に第二始動口 2 1 0 2 を形成し上側及び後側が開放された中央受部材 2 1 1 1 と、上方に開口した一般入賞口 2 1 0 4 を形成し台板 2 1 1 0 における大入賞口 2 1 0 3 の左右両側前面に取付けられると共に上側及び後側が開放された一対の両サイド受部材 2 1 1 2 と、互いに背向した一般入賞口 2 1 0 4 を形成し台板 2 1 1 0 における左側の両サイド部材 2 1 1 2 が取付けられる部位よりも左斜め上の位置に取付けられる左サイド受部材 2 1 1 3 と、を備えている。

30

【0674】

また、アタッカユニット 2 1 0 0 は、台板 2 1 1 0 の後側に取付けられ、大入賞口 2 1 0 3 を開閉する開閉部材 2 1 0 6 を回動可能に軸支すると共に、一対の可動片 2 1 0 5 及び開閉部材 2 1 0 6 を回動駆動させるアタッカ駆動ユニット 2 1 2 0 と、台板 2 1 1 0 の後側でアタッカ駆動ユニット 2 1 2 0 よりも右側に取付けられる右裏カバー 2 1 4 1 と、台板 2 1 1 0 の後側でアタッカ駆動ユニット 2 1 2 0 よりも左側に取付けられる左裏カバー 2 1 4 2 と、を備えている。アタッカユニット 2 1 0 0 の右裏カバー 2 1 4 1 及び左裏カバー 2 1 4 2 は、後面が平坦面となっており、アタッカユニット 2 1 0 0 をパネル板 1 2 1 0 に取付けた状態で、右裏カバー 2 1 4 1 及び左裏カバー 2 1 4 2 の後面がパネル板 1 2 1 0 の後面と略同一面状となるようになっている。

40

【0675】

アタッカユニット 2 1 0 0 の台板 2 1 1 0 は、左右方向へ延びた板状に形成されており、表面に浅いレリーフ状の装飾が施されている。この台板 2 1 1 0 は、第二始動口 2 1 0

50

2と対応した位置と左サイド受部材2113が取付けられる位置とに、前後方向へ貫通し遊技球が通過可能な大きさの開口2110aを有している。また、台板2110は、第一始動口2101及び一般入賞口2104が形成された位置から後方へ延出し遊技球を誘導可能な樋部2110bを備えている。

【0676】

アタッカユニット2000における台板2110の前面に取付けられる中央受部材2111は、前面にハート型の宝石の外周に小さい宝石を散りばめたようなレリーフが施されている。なお、詳細な図示は省略するが、この中央受部材2110は、台板2110における開口2110aの左右の幅よりも広い間隔で前板の後面から後方へ延出した一对の軸部を備えており、これら軸部によって可動片2105を回動可能に軸支することができる

10

【0677】

また、両サイド受部材2112は、前面に円形の宝石の外周を小さい宝石で囲ったようなレリーフ状の装飾が施されている。また、左サイド受部材2113は、背向配置された一般入賞口2104の上側に形成され左右方向へ短く延びると共に右端側が低くなるように傾斜した棚部2113aを備えており、棚部2113a上に落下した遊技球を、遊技領域1100の左右方向中央側へ誘導することができるようになっている。

【0678】

更に、アタッカユニット2100におけるアタッカ駆動ユニット2120は、第二始動口2102を開閉する一对の可動片2105を開閉駆動させるための始動口ソレノイド2121と、始動口ソレノイド2121を支持し台板2110の後側に取付けられる始動口駆動機構ベース2123と、大入賞口2103を閉鎖する開閉部材2106を開閉駆動させるためのアタッカソレノイド2124と、アタッカソレノイド2124を支持すると共に開閉部材2106を回動可能に軸支し、始動口駆動機構ベース2123の下側で台板2110の後側に取付けられるアタッカ駆動機構ベース2126と、アタッカ駆動機構ベース2126の所定位置に支持され第二始動口2102に受入れられた遊技球を検知する第二始動口センサ2127と、第二始動口センサ2127とは異なる位置に支持され大入賞口2103に受入れられた遊技球を検知するカウントセンサ2128と、アタッカ駆動機構ベース2126の上面に支持され始動口ソレノイド2121、アタッカソレノイド2124、第二始動口センサ2127、及びカウントセンサ2128と主制御基板4100との接続を中継するためのアタッカユニット中継基板2130と、を備えている。

20

30

【0679】

始動口ソレノイド2121は、図示は省略するが、通電によって進退可能とされると共にコイルバネによって突出方向へ付勢されたプランジャを有しており、第一始動口2101の下側で第二始動口2102の後方位置に、プランジャが前方へ向かって突出するように始動口駆動機構ベース2123に支持されている。本例のアタッカユニット2100は、始動口ソレノイド2121へ通電すると、始動口ソレノイド2121のプランジャがコイルバネの付勢力に抗して後退し、プランジャの先端と係合した伝達部材を介して一对の可動片2105の上端同士が互いに離反した方向へ回動するようになっており、第二始動口2102が開状態となるようになっている。

40

【0680】

また、始動口駆動機構ベース2123は、始動口ソレノイド2121を前側から収容支持することができるように箱状に形成されていると共に、上面に第一始動口2101へ受入れられて台板2110の樋部2110bを流通した遊技球を正面視で右方向へ誘導する第一誘導部2123aと、始動口ソレノイド2121を支持する部位よりも下側に形成され第二始動口2102へ受入れられた遊技球を下方へ誘導する第二誘導部（詳細な図示は省略する）と、を備えている。

【0681】

アタッカ駆動ユニット2120におけるアタッカソレノイド2124は、図示は省略するが、始動口ソレノイド2121と同様に、通電によって進退可能とされると共に、コイ

50

ルバネによって突出方向へ付勢されたプランジャを有している。本例のアタッカユニット 2100 は、アタッカソレノイド 2124 に通電すると、アタッカソレノイド 2124 のプランジャが没入し、プランジャの先端に係合された伝達部材を介して開閉部材 2106 の上端が相対的に前方へ移動するように回転するようになっており、大入賞口 2103 が開状態となるようになっている。

【0682】

本例のアタッカユニット 2100 は、第一始動口 2101 及び一般入賞口 2104 が常時遊技球を受入可能な状態となっている。一方、第二始動口 2102 では、後述するゲート部材 2400 において遊技球がゲート部 2401 を通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、始動口ソレノイド 2121 が通電駆動されることで一对の可動片 2105 が拡開して受入可能となるようになっている。また、大入賞口 2103 では、第一始動口 2101 や第二始動口 2102 へ遊技球が受入れられる（始動入賞する）ことで抽選される特別抽選結果に応じて（例えば、特別抽選結果が「大当たり」の時に）、アタッカソレノイド 2124 が通電駆動されることで開閉部材 2106 が所定パターンで開閉して受入可能となるようになっている。

10

【0683】

また、アタッカユニット 2100 は、図示は省略するが、アタッカ駆動機構ベース 2126 の下部に支持され上面に複数の LED が実装された大入賞口装飾基板を備えており、大入賞口 2103 内を発光装飾させることができるようになっている。

20

【0684】

このアタッカユニット 2100 は、第一始動口 2101 及び大入賞口 2103 の右側に配置された一般入賞口 2104 へ受入れられた遊技球が、後述する裏ユニット 3000 の球誘導ユニット 3200 における右通路部材 3210 の始動口通路 3211 及び中右一般入賞口通路 3212 へ送られるようになっている。また、アタッカユニット 2100 は、大入賞口 2103 の左側に配置された一般入賞口 2104 へ受入れられた遊技球が、後述する裏ユニット 3000 の球誘導ユニット 3200 における左通路部材 3220 の各一般入賞口通路 3221, 3222, 3223 へ送られるようになっている。

【0685】

また、アタッカユニット 2100 は、また、第二始動口 2102 へ受入れられた遊技球が、アタッカ駆動機構ベース 2126 に支持された第二始動口センサ 2127 により検知された後に下方へ排出されるようになっている。更に、アタッカユニット 2100 は、大入賞口 2103 へ受入れられた遊技球が、カウントセンサ 2128 により検知された後に下方へ排出されるようになっている。

30

【0686】

本実施形態のアタッカユニット 2100 は、アタッカソレノイド 2124 を、プランジャ 2124a の進退方向が左右方向となるように配置すると共に、アタッカソレノイド 2124 を可及的に開閉部材 2106 へ近付けた位置に配置するようにしているので、アタッカユニット 2100 における前後方向の寸法を、従来品と比較して、5～30% 短くすることができ、アタッカユニット 2100 の後方空間をより広く確保することができるようになっている。

40

【0687】

[2-3. サイド誘導部材]

続いて、本実施形態のパチンコ機 1 の遊技盤 4 における表ユニット 2000 のサイド誘導部材 2300 について、主に図 116 及び図 117 を参照して説明する。遊技盤 4 におけるサイド誘導部材 2300 は、遊技パネル 1200 のパネル板 1210 における遊技領域 1100 内の左右方向中央よりも左側で上下方向中央から下寄りの位置に、遊技領域 1100 の外周と接するようにパネル板 1210 の前面に固定されるものである。

【0688】

本例のサイド誘導部材 2300 は、遊技パネル 1200（パネル板 1210）の前面に取付けられ左右方向へ延びた板状の当接部 2301 と、当接部 2301 の上下方向略中央

50

から前方に延出し左右方向へ延びると共に右端側が低くなるように傾斜した棚部 2302 と、を備えている。このサイド誘導部材 2300 は、棚部 2302 により、遊技領域 1100 の左端に沿って流下してきた遊技球を右方向へ誘導することができるようになっている。また、サイド誘導部材 2300 は、透光性を有した素材により形成されており、サイド誘導部材 2300 を通して後側が見えるようになっている。

【0689】

[2-4. ゲート部材]

次に、本実施形態のパチンコ機 1 の遊技盤 4 における表ユニット 2000 のゲート部材 2400 について、主に図 116 及び図 117 等を参照して説明する。遊技盤 4 におけるゲート部材 2400 は、遊技パネル 1200 のパネル板 1210 における左右方向中央よりも左側で上下方向中央からやや上寄りの位置に形成された開口部 1215 に対して、前側から挿入された上で、遊技パネル 1200 (パネル板 1210) の前面に固定されるものである。このゲート部材 2200 は、遊技球が一つのみ通過可能な幅のゲート部 2401 を有しており、このゲート部 2401 内に配置されたゲートセンサ 2402 によりゲート部 2401 を通過した遊技球を検出することができるようになっている。

10

【0690】

なお、本例のゲート部材 2400 は、従来のゲート部材と比較して、前後方向の長さが短く形成されており、遊技パネル 1150 の前面よりも後側の部分が、遊技パネル 1150 の厚さ内に収まるようになっている。つまり、遊技パネル 1150 の後面からはゲートセンサ 2402 に接続された配線コードのみが延びだすようになっている。

20

【0691】

[2-5. センター役物]

続いて、本実施形態のパチンコ機 1 の遊技盤 4 における表ユニット 2000 のセンター役物 2500 について、主に図 121 及び図 122 を参照して説明する。図 121 は、センター役物を前から見た斜視図である。また、図 122 は、センター役物を後から見た斜視図である。本例のセンター役物 2500 は、遊技パネル 1200 における透明板状のパネル板 1210 の略中央を貫通するように大きく形成された開口部 1215 に対して、前側から挿入された上で、パネル板 1210 の前面に固定されるものであり、図示するように、遊技領域 1100 の大半を占める大きさの枠状で前後方向へ貫通した大きな窓部 2501 を備えている。

30

【0692】

このセンター役物 2500 は、上枠外周の形状が、正面視で左右方向の略中央から左側では、急な角度で直線状に傾斜して所定量下がった上で、更に、左側へ向かうに従って緩やかに傾斜した複数の段形状とされている。一方、センター役物 2500 は、上枠における右側の外周形状が、遊技領域 1100 の内周に略沿った湾曲形状(円弧形状)とされている。このセンター役物 2500 は、上枠が遊技領域 1100 の内周に沿った所定幅の円弧状に形成されており、上枠内周の形状が、遊技領域 1100 の左右方向中央が最も高くなるように円弧状に湾曲した形状とされている。このセンター役物 2500 の上枠には、後述するセンターロゴ装飾部材 2520 が備えられている。

40

【0693】

また、センター役物 2500 は、左枠の外周形状が、下方へ垂下するように形成されていると共に、左枠の内周形状が、上下方向の略中央を挟んで上側と下側とが左方向へ窪むよう湾曲した波形状に形成されている。また、センター役物 2500 は、右枠の外周形状が、湾曲状の上部と連続すると共に左枠よりも下方へ延出し遊技領域 1100 の内周に略沿った円弧形状とされていると共に、右枠の内周形状が、略半円形状に湾曲した三つの窪みが上下方向に列設された形状に形成されている。

【0694】

更に、センター役物 2500 は、下枠の形状が、左枠の下端から右方向へ向かうに従って低くなると共に、遊技領域 1100 における左右方向の中央と対応した位置を過ぎると右方向へ向かうに従って高くなり、そして、左端から右方向へ全体の約 3/4 の位置から

50

右枠の下端へ向かって傾斜した形状とされている。

【0695】

このセンター役物2500は、上枠右側の外周と右枠の外周とが、上述したように、遊技領域1100の内周に略沿った形状とされており、遊技パネル1200のパネル板1210に取付けた状態では、センター役物2500の右側の外周に、遊技球の外形よりも若干大きい隙間が形成されるようになっている。また、センター役物2500は、上枠左側と左枠と下枠とが上述したような形状とされており、パネル板1210に取付けた状態では、センター役物2500の左側の外周に、遊技領域1100の内周との間で所定幅の領域が形成されるようになっている。

【0696】

このセンター役物2500は、遊技パネル1150の前面と当接する板状のフランジ部2502と、フランジ部2502から前方へ膨出し左右方向の略中央を境として遊技領域1100内を流下してきた遊技球を左右へ誘導すると共に枠内への遊技球の侵入を阻止する周壁部2503と、を備えている。また、センター役物2500は、パネル板1210の前側に位置する周壁部2503の左側の外周面に開口し遊技領域1100を流下する遊技球が進入可能とされたワープ入口2504（図111を参照）と、ワープ入口2504に進入した遊技球を枠内へ放出するワープ出口2505と、ワープ出口2505から放出された遊技球を左右方向へ転動させた後にアタッカユニット2100の上側の遊技領域1100内へ放出・還流させ窓部2501の下内縁の下側に配置されたステージ2510と、を備えている。

【0697】

このセンター役物2500におけるステージ2510は、ワープ出口2505から放出された遊技球が供給される第一ステージ2511と、第一ステージ2511よりも下側且つ前側に配置され第一ステージ2511から遊技球が供給される第二ステージ2512と、第二ステージ2512よりも下側且つ前側に配置され第二ステージから遊技球が供給されると共に遊技領域1100内へ遊技球を放出可能とされた第三ステージ2513と、を備えている。

【0698】

ステージ2510における第一ステージ2511は、全体的に左右方向の両端が高くなるような湾曲形状とされていると共に、遊技領域1100の左右方向の略中央と対応する位置が若干高くなるような波状に形成されており、若干高くなった両側の低くなった部位（谷部）から遊技球を前側（第二ステージ2512側）へ放出することができるようになっている。

【0699】

また、第二ステージ2512は、第一ステージ2511よりは上下方向の変化が緩やかに形成されており、左右方向の両端が最も高くなると共に、遊技領域1100の左右方向中央と対応した位置が若干高くなるような波状に形成されている。この第二ステージ2512もまた、中央の若干高くなった部位の両側の低くなった部位（谷部）から遊技球を前側（第三ステージ2513）へ放出することができるようになっている。

【0700】

更に、第三ステージ2513は、第二ステージ2512よりも更に緩やかで左右両端が最も高くなると共に遊技領域1100の左右方向中央と対応した位置が最も低くなるような湾曲状に形成されており、最も低くなった中央から前側（遊技領域1100内）へ遊技球を放出することができるようになっている。

【0701】

センター役物2500のステージ2510には、第二ステージ2512における遊技領域1100の左右方向略中央と対応した位置で第一ステージ2511との間に形成された立壁に前方へ向かって開口し遊技球が進入可能なチャンス入口2514と、チャンス入口2514へ進入した遊技球が放出され第三ステージ2513の下側でチャンス入口2514の直下に配置され前方へ向かって開口したチャンス出口2515と、を備えている。こ

のチャンス入口 2 5 1 4 へ進入した遊技球は、チャンス出口 2 5 1 5 から遊技領域 1 1 0 0 内へ放出されるようになっている。また、このチャンス出口 2 5 1 5 は、図 1 0 8 等示するように、アタッカユニット 2 1 0 0 における第一始動口 2 1 0 1 の直上に配置されており、チャンス出口 2 5 1 5 から放出された遊技球は、高い確率で第一始動口 2 1 0 1 へ受入れられる（入賞する）ようになっている。

【0702】

このセンター役物 2 5 0 0 は、ステージ 2 5 1 0 の略全体が透明な部材により形成されており、ステージ 2 5 1 0 を通して後側に配置された裏ユニット 3 0 0 0 の下部飾り部材 3 0 0 2 や下可動演出ユニット 3 6 0 0 等が遊技者側から視認することができるようになっている。

10

【0703】

また、センター役物 2 5 0 0 は、窓部 2 5 0 1 の上枠を形成すると共に左右方向へ円弧状に延びパチンコ機 1 のコンセプトに沿ったロゴを備えたセンターロゴ装飾部材 2 5 2 0 と、窓部 2 5 0 1 の右枠を形成すると共に発光装飾可能とされた右枠装飾部材 2 5 3 0 と、を備えている。

【0704】

センター役物 2 5 0 0 のセンターロゴ装飾部材 2 5 2 0 は、レリーフ状にロゴ（詳細な図示は省略する）が形成されると共に透光性を有したロゴレンズ 2 5 2 1 と、ロゴレンズ 2 5 2 1 の後側に配置され複数のプリズムを備えた拡散レンズ部材（図示は省略）と、拡散レンズ部材の後側に配置され前面に複数のカラー L E D が実装されたロゴ装飾基板 2 5 2 3 と、ロゴ装飾基板 2 5 2 3 の後側を覆うロゴカバー 2 5 2 4 と、を備えている。このセンターロゴ装飾部材 2 5 2 0 は、ロゴ装飾基板 2 5 2 3 の L E D を適宜発光させることで、ロゴレンズ 2 5 2 1 を様々な色で発光装飾させることができるようになっている。また、センターロゴ装飾部材 2 5 2 0 は、ロゴカバー 2 5 2 4 の後面が、遊技パネル 1 2 0 0 のパネル板 1 2 1 0 の後面と略同一面状となるように前後方向の厚さが薄く形成されている。

20

【0705】

また、センター役物 2 5 0 0 の右枠装飾部材 2 5 3 0 は、右枠表面を形成する所定形状に形成されると共に部分的に透光性を有した表面装飾部材 2 5 3 1 と、表面装飾部材 2 5 3 1 の後側に配置され前面に複数のカラー L E D が実装された右枠装飾基板 2 5 3 2 と、右枠装飾基板 2 5 3 2 の後側を覆うと共に表面装飾部材 2 5 3 1 の後側面を装飾する透光性を有したカバーレンズ 2 5 3 3 と、を備えている。この右枠装飾部材 2 5 3 0 の右枠装飾基板 2 5 3 2 は、表面装飾部材 2 5 3 1 に形成された三つの略半円形状の窪みと対応するように上側から、センター右上装飾基板 2 5 3 2 a、センター右中装飾基板 2 5 3 2 b、及びセンター右下装飾基板 2 5 3 2 c によって構成されている。

30

【0706】

また、右枠装飾部材 2 5 3 0 のカバーレンズ 2 5 3 3 は、右枠装飾基板 2 5 3 2 の三つのセンター右上装飾基板 2 5 3 2 a、センター右中装飾基板 2 5 3 2 b、及びセンター右下装飾基板 2 5 3 2 c と夫々対応した三つの右上カバーレンズ 2 5 3 3 a、右中カバーレンズ 2 5 3 3 b、及び右下カバーレンズ 2 5 3 3 c によって構成されている。

40

【0707】

この右枠装飾部材 2 5 3 0 は、右枠装飾基板 2 5 3 2 に実装された L E D を適宜発光させることで、表面装飾部材 2 5 3 1 やカバーレンズ 2 5 3 3 を発光装飾させることができるようになっていると共に、各装飾基板 2 5 3 2 a、2 5 3 2 b、2 5 3 2 c の L E D を夫々適宜発光させることで、三つの略半円形状の窪みを夫々独立して発光装飾させることができるようになっている。

【0708】

[2-6. 裏ユニットの全体構成]

続いて、本実施形態のパチンコ機 1 における遊技盤 4 の裏ユニット 3 0 0 0 について、図 1 2 3 乃至図 1 2 6 を参照して説明する。図 1 2 3 は遊技盤における裏ユニットを前か

50

ら見た斜視図であり、図124は遊技盤における裏ユニットを後から見た斜視図である。また、図125は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図126は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。

【0709】

本例の裏ユニット300は、遊技パネル1150の後側に取付けられ前側が開放された箱状で後壁3001bに液晶表示装置1900の表示画面が臨む開口3001cが形成された裏箱3001と、裏箱3001内の前面付近に取付けられると共に前面にレリーフ状の装飾が施され枠状に形成された裏飾りユニット3100と、裏飾りユニット3100の下部に取付けられ表ユニット2000における第一始動口2101及び一般入賞口2104に受入れられた遊技球を下方の所定位置へ誘導する球誘導ユニット3200と、裏箱3001内で開口3001cよりも上側に取付けられ遊技状態に応じて可動する上可動演出ユニット3300と、裏箱3001内で開口3001cの左右両側に取付けられ遊技状態に応じて可動する左右可動演出ユニット3400と、裏箱3001内で開口3001cの下側に取付けられ遊技状態に応じて可動する下可動演出ユニット3600と、下可動演出ユニット3600と裏箱3001の後壁3001bとの間に配置され下可動演出ユニット3600の左右両側面を装飾する下部飾り部材3002と、を備えている。

10

【0710】

また、裏ユニット3000は、裏箱3001の後壁3001bの後面に、背面視で左下隅に取付けられ主制御基板4100と表ユニット2000のカウントセンサ2128等との接続を中継するパネル中継基板3012を備えている。

20

【0711】

更に、裏ユニット3000は、パネル中継基板3012の背面視で右側に配置され表ユニット2000におけるアタッカユニット2100の大入賞口装飾基板（図示は省略）、センター役物2500の右枠装飾基板2532、裏ユニット3000における裏飾りユニット3100の左裏装飾基板3112及び右裏装飾基板3122、下可動演出ユニット3600の昇降ソレノイド3610、昇降装飾体装飾基板3621、ステージ下右装飾基板3661、及びステージ下左装飾基板3662と、液晶表示装置1900の後側に取付けられる周辺制御基板4010（図168を参照）との接続を中継する下部中継基板3014と、下部中継基板3014の後側を覆うと共に裏箱3001の後面に取付けられる下部中継基板カバー3015と、を備えている。

30

【0712】

また、裏ユニット3000は、裏箱3001の後面で開口3001cの上側に配置され前ユニット2000におけるセンター役物2500のロゴ装飾基板2523、裏ユニット3000における裏飾りユニット3100の上裏装飾基板3132、上可動演出ユニット3300のキャラクタ体駆動モータ3315、上可動体下装飾基板3318、回転検知センサ3320、上可動体背面中央装飾基板3334、上可動体背面サイド装飾基板3335、昇降駆動モータ3361、及び昇降検知センサ3368と、周辺制御基板4010との接続を中継する上部中継基板3016と、上部中継基板3016の後側を覆うと共に裏箱3001の後面に取付けられる上部中継基板カバー3017と、を備えている。

40

【0713】

更に、裏ユニット3000は、裏箱3001の後面で開口3001cの背面視左側（正面視右側）に配置され裏ユニット3000の左右可動演出ユニット3400における右ユニット3400Rの回転駆動モータ3412、回転ヘッド装飾基板3416、回転検知センサ3426、ベース装飾基板3428、スライド駆動モータ3525、3535、3545、及び位置検知センサ3526、3536、3546と、周辺制御基板4010との接続を中継する右部中継基板3018と、右部中継基板3018の後側を覆うと共に裏箱3001の後側に取付けられる右部中継基板カバー3019と、を備えている。

【0714】

また、裏ユニット3000は、裏箱3001の後面で開口3001cの背面視右側（正面視左側）に配置され裏ユニット3000の左右可動演出ユニット3400における左ユ

50

ニット3400Lの回転駆動モータ3412、回転ヘッド装飾基板3416、回転検知センサ3426、ベース装飾基板3428、スライド駆動モータ3565、3575、3585、及び位置検知センサ3566、3576、3586と、周辺制御基板4010との接続を中継する左部中継基板3020と、左部中継基板3020の後側を覆うと共に裏箱3001の後側に取付けられる左部中継基板カバー3021と、を備えている。

【0715】

また、裏ユニット3000は、裏箱3001の後側で、開口3001cの上側の左右方向略中央と、背面視で開口3001cの左側の上下方向略中央とに夫々取付けられ、裏箱3001の後面に液晶表示装置1900を脱着可能に保持するためのロック部材3022を備えている。

10

【0716】

この裏ユニット3000における裏箱3001は、後壁3001bの前後の適宜位置に、下飾り部材3002、裏飾りユニット3100、球誘導ユニット3200、上可動演出ユニット3300、左右可動演出ユニット3400、下可動演出ユニット3600、パネル中継基板3012、下部中継基板カバー3015、上部中継基板カバー3017、右部中継基板カバー3019、及び左部中継基板カバー3021等を取付けるための取付孔や取付ボスを備えている。

【0717】

また、裏箱3001は、前端から外方へ延出したフランジ状の固定部3001aを備えており、この固定部3001aを介して遊技パネル1150の後側に固定されるようになっている。また、裏箱3001は、図124等に応示するように、後壁3001bの後面側に開口3001cを含む開口3001cの外周全体が前側へ浅く段状に凹み液晶表示装置1900を挿入可能とされた取付段部3001dと、取付段部3001dの底部及び背面視で右部に形成され液晶表示装置1900の下面及び側面（正面視で左側面）から下方へ延出した一対の固定片1902が挿入される取付凹部3001eと、を備えている。

20

【0718】

[2-7. 裏飾りユニット]

続いて、裏ユニット3000における裏飾りユニット3100について、主に図127及び図128を参照して説明する。図127は、遊技盤の裏ユニットにおける裏飾りユニットを前から見た斜視図である。また、図128は、遊技盤の裏ユニットにおける裏飾りユニットを後から見た斜視図である。本例の裏飾りユニット3100は、前側が開放された箱状の裏箱3001の前面開口を閉鎖するように裏箱3001内の前端に取付けられるものである。この裏飾りユニット3100は、正面視で裏箱3001の左辺に沿って配置される左裏飾りユニット3110と、裏箱3001の右辺に沿って配置される右裏飾りユニット3120と、左裏飾りユニット3110と右裏飾りユニット3120との間で裏箱3001の上辺に沿って配置される上裏飾りユニット3130と、左裏飾りユニット3110と右裏飾りユニット3120との間で裏箱3001の下辺に沿って配置される下裏飾りユニット3140と、を備えている。

30

【0719】

裏飾りユニット3100における左裏飾りユニット3110は、表面にレリーフ状の装飾が形成されると共に部分的に透光性を有するように形成された左裏飾り部材3111と、左裏飾り部材3111の後側に配置され前面に複数のLEDが実装された左裏装飾基板3112と、左裏装飾基板3112の後側に配置され左裏飾り部材3111及び左裏装飾基板3112を支持すると共に裏箱3001内の前端左側に取付けられる透明な左裏飾りベース3113と、を備えている。

40

【0720】

左裏飾りユニット3110の左裏飾り部材3111は、正面視左端の形状が遊技領域1100の内周形状に略沿った円弧形状とされていると共に、右端の形状が略半円形状に左方へ窪んだ三つの部位が上下方向に列設された波形状とされており、左端の三つの略半円形状の部位が夫々後述する左右可動演出ユニット3400における左ユニット3400L

50

に備えられた回転体ユニット 3 4 1 0 の回転装飾体 3 4 1 0 A の回転ヘッド 3 4 1 5 と対応した形状となっている。

【0 7 2 1】

また、左裏飾りユニット 3 1 1 0 の左裏装飾基板 3 1 1 2 は、左裏飾り部材 3 1 1 1 の三つの略半円形状における最も窪んだ位置の外周左側に夫々配置される裏外周左上装飾基板 3 1 1 2 a、裏外周左中装飾基板 3 1 1 2 b、及び裏外周左下装飾基板 3 1 1 2 c を備えており、左裏飾り部材 3 1 1 1 における略半円形に窪んだ三つの周縁を夫々独立して発光装飾させることができるようになっている。また、左裏装飾基板 3 1 1 2 は、左裏飾り部材 3 1 1 1 における略半円形状に窪んだ三つの部位の間を発光装飾させる裏上左装飾基板 3 1 1 2 d、裏左上装飾基板 3 1 1 2 e、裏左下装飾基板 3 1 1 2 f、及び裏下左装飾基板 3 1 1 2 g を備えている。

10

【0 7 2 2】

裏飾りユニット 3 1 0 0 における右裏飾りユニット 3 1 2 0 は、表面にレリーフ状の装飾が形成されると共に部分的に透光性を有するように形成された右裏飾り部材 3 1 2 1 と、右裏飾り部材 3 1 2 1 の後側に配置され前面に複数の LED が実装された右裏装飾基板 3 1 2 2 と、右裏装飾基板 3 1 2 2 の後側に配置され右裏飾り部材 3 1 2 1 及び右裏装飾基板 3 1 2 2 を支持すると共に裏箱 3 0 0 1 内の前端右側に取付けられる右裏飾りベース 3 1 2 3 と、を備えている。

【0 7 2 3】

右裏飾りユニット 3 1 2 0 の右裏飾り部材 3 1 2 1 は、正面視で右方向へ略半円形状に窪んだ三つの部位を上下方向へ列設した形状を備えており、三つの略半円形状の部位が夫々後述する左右可動演出ユニット 3 4 0 0 における右ユニット 3 4 0 0 R に備えられた回転体ユニット 3 4 1 0 の回転体ヘッド 3 4 1 5 と対応した形状となっている。また、右裏飾りユニット 3 1 2 0 の右裏装飾基板 3 1 2 2 は、右裏飾り部材 3 1 2 1 における略半円形状に窪んだ三つの部位の間を発光装飾させる裏上右装飾基板 3 1 2 2 a、裏右中装飾基板 3 1 2 2 b、及び裏右下装飾基板 3 1 2 2 c を備えている。

20

【0 7 2 4】

裏飾りユニット 3 1 0 0 における上裏飾りユニット 3 1 3 0 は、表面にレリーフ状の装飾が形成されると共に部分的に透光性を有するように形成された上裏飾り部材 3 1 3 1 と、上裏飾り部材 3 1 3 1 の後側に取付けられ前面に複数の LED が実装された上裏装飾基板 3 1 3 2 と、を備えている。上裏飾りユニット 3 1 3 0 の上裏飾り部材 3 1 3 1 は、上端が遊技領域 1 1 0 0 の内周形状に略沿った円弧形状とされていると共に、下端が M 字状に緩く湾曲した波形状とされており、下端の形状が左裏飾りユニット 3 1 1 0 における左裏飾り部材 3 1 1 1 の右端の形状と右裏飾りユニット 3 1 2 0 における右裏飾り部材 3 1 2 1 の左端の形状と連続するような形状となっている。

30

【0 7 2 5】

また、上裏飾りユニット 3 1 3 0 の上裏装飾基板 3 1 3 2 は、上裏飾り部材 3 1 3 1 における波形状に形成された下端と沿うように配置されており、裏外周上左装飾基板 3 1 3 2 a と裏外周上右装飾基板 3 1 3 2 b とを備えている。この上裏装飾基板 3 1 3 2 は、上裏飾り部材 3 1 3 1 の後側に取付けられており、前面に実装された LED を適宜発光させることで上裏飾り部材 3 1 3 1 の波状に形成された下端縁を発光装飾させることができるようになっている。

40

【0 7 2 6】

この上裏飾りユニット 3 1 3 0 は、左右両端が夫々左裏飾りユニット 3 1 1 0 及び右裏飾りユニット 3 1 2 0 の上端に取付けられるようになっている。

【0 7 2 7】

裏飾りユニット 3 1 0 0 における下裏飾りユニット 3 1 4 0 は、前ユニット 2 0 0 0 におけるアタッカユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 1 0 1 及び第二始動口 2 1 0 2 の後側外周を囲うように上方へ膨出した略半円形状の下裏飾り部材 3 1 4 1 と、下裏飾り部材 3 1 4 1 を後側から支持する下裏飾りベース 3 1 4 2 と、を備えている。下飾りユニット 3 1

50

40の下飾り部材3141は、表面に円を基調としたレリーフ状の装飾が形成されていると共に部分的に透光性を有するように形成されている。また、下裏飾りベース3142は、下裏飾り部材3141よりも左右方向へ延出すると共に透明な部材で形成されており、表面に多角錐状に形成された複数のレンズ部を備えている。

【0728】

本例の裏飾りユニット3100は、前面側が遊技パネル1200の透明なパネル板1210やセンター役物2500の窓部2501を通して視認できるようになっており、遊技パネル1200の後側を装飾することができるようになっている。また、裏飾りユニット3100は、左裏飾りユニット3110、右裏飾りユニット3120、上裏飾りユニット3130、及び下裏飾りユニット3140によって枠状に形成されており、枠内を通して後側に配置される上可動演出ユニット、右可動演出ユニット、左可動演出ユニット、下可動演出ユニット、及び液晶表示装置1900等が視認できるようになっている。

10

【0729】

[2-8. 球誘導ユニット]

続いて、裏ユニット3000における球誘導ユニット3200について、主に図129を参照して説明する。図129(a)は遊技盤の裏ユニットにおける球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は球誘導ユニットを後から見た斜視図である。本例の球通路ユニット3200は、裏ユニット3000における裏箱3001内の前面付近で左右方向中央下部に配置され、アタッカユニット2100の第一始動口2101及び一般入賞口2104に受入れられた遊技球を下方へ誘導するものである。この球誘導ユニット3200は、遊技領域1100の左右方向中央に対して右側に配置される右通路部材3210と、左側に配置される左通路部材3220と、を備えている。

20

【0730】

球誘導ユニット3200の右通路部材3210は、アタッカユニット2100の第一始動口2101に受入れられて樋部2110bにより後方へ案内された遊技球を受取って下方へ誘導する始動口通路3211と、始動口通路3211と隣接して形成されアタッカユニット2100における大入賞口2103の右側に配置された一般入賞口2104に受入れられて樋部2110bにより後方へ案内された遊技球を受取って下方へ誘導する中右一般入賞口通路3212と、を備えている。

【0731】

また、球誘導ユニット3200の左通路部材3220は、アタッカユニット2100における大入賞口2103の左側で、大入賞口2103の右側に配置された一般入賞口2104と略対称位置に配置された一般入賞口2104に受入れられて樋部2110bにより後方へ案内された遊技球を受取って下方へ誘導する中左一般入賞口通路3221と、アタッカユニット2100における互いに背向配置された一般入賞口2104の右側の一般入賞口2104に受入れられて樋部2110bにより後方へ案内された遊技球を受取って中左一般入賞口通路3221の下部へ誘導するサイド右一般入賞口通路3222と、アタッカユニット2100における互いに背向配置された一般入賞口2104の左側の一般入賞口2104に受入れられて樋部2110bにより後方へ案内された遊技球を受取って中左一般入賞口通路3221の下部へ誘導するサイド左一般入賞口通路3223と、を備えている。

30

40

【0732】

これら右通路部材3210及び左通路部材3220によって下方へ誘導された遊技球は、基板ホルダ1160の底壁部上に排出され、基板ホルダ1160のアウト球排出部1161から遊技盤4の下方へ排出されるようになっている。

【0733】

また、本例の球誘導ユニット3200は、右通路部材3210の所定位置に取付けられ始動口通路3211内を流通する遊技球を検知する第一始動口センサ3231と、右通路部材3210及び左通路部材3220の所定位置に夫々取付けられ一般入賞口2104に受入れられた遊技球を検出する一般入賞口センサ3232と、を備えている。一般入賞口

50

センサ 3 2 3 2 は、中右一般入賞口通路 3 2 1 2、中左一般入賞口通路 3 2 2 1、サイド右一般入賞口通路 3 2 2 2、及びサイド左一般入賞口通路 3 2 2 3 に対して夫々一つずつ備えられており、何れの一般入賞口 2 1 0 4 に入賞した遊技球であるのかが判別できるようになっている。なお、中左一般入賞口通路 3 2 2 1 に備えられた一般入賞口センサ 3 2 3 2 は、サイド右一般入賞口通路 3 2 2 2 及びサイド左一般入賞口通路 3 2 2 3 が合流した位置よりも下流側に配置されており、サイド右一般入賞口通路 3 2 2 2 及びサイド左一般入賞口通路 3 2 2 3 を流通する遊技球は二つの一般入賞口センサ 3 2 3 2 で検知されるようになっている。

【0734】

[2-9. 上可動演出ユニット]

次に、裏ユニット 3 0 0 0 における上可動演出ユニット 3 3 0 0 について、主に図 1 3 0 乃至図 1 4 0 を参照して説明する。図 1 3 0 (a) は遊技盤の裏ユニットにおける上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は上可動演出ユニットを後から見た斜視図である。また、図 1 3 1 は上可動演出ユニットを上可動ユニットと昇降ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 3 2 は上可動演出ユニットを上可動ユニットと昇降ユニットとに分解して後から見た分解斜視図である。また、図 1 3 3 は上可動演出ユニットの上可動ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 3 4 は上可動演出ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。更に、図 1 3 5 (a) は上可動演出ユニットにおける上可動ユニットの平面図であり、(b) は上可動ユニットの正面図であり、(c) はフィギュアを回転させた状態で示す上可動ユニットの正面図である。

【0735】

また、図 1 3 6 は上可動演出ユニットの昇降ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 3 7 は昇降ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。また、図 1 3 8 は、上可動演出ユニットにおける昇降機構の要部を後から示す斜視図である。更に、図 1 3 9 は上可動演出ユニットにおける上可動ユニットの昇降を説明するための正面図であり、図 1 4 0 は上可動ユニットの昇降を説明するための背面図である。

【0736】

裏ユニット 3 0 0 0 における上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、裏箱 3 0 0 1 内の開口 3 0 0 1 c よりも上側で左右方向の略中央に取付けられるものであり、遊技盤 4 を組立てた状態でセンター役物 2 5 0 0 のセンターロゴ装飾部材 2 5 2 0 の後側に位置するようになっている。この上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、左右方向に離間して配置された一对のキャラクタ体 3 3 1 1 を有する上可動ユニット 3 3 1 0 と、上可動ユニット 3 3 1 0 を昇降させる昇降ユニット 3 3 5 0 と、を備えている。

【0737】

上可動演出ユニット 3 3 0 0 の上可動ユニット 3 3 1 0 は、図 1 3 3 及び図 1 3 4 等に応示するように、円盤状の台座部 3 3 1 1 a、及び台座部 3 3 1 1 a 上に取付けられパチンコ機 1 のコンセプトに沿ったキャラクターを模したフィギュア 3 3 1 1 b を有し左右方向へ離間して配置される一对のキャラクタ体 3 3 1 1 と、各キャラクタ体 3 3 1 1 における台座部 3 3 1 1 a の下端に接続される平歯車状の一对の回転ギア 3 3 1 2 と、一对の回転ギア 3 3 1 2 同士の間配置されると共に正面視右側の回転ギア 3 3 1 2 と噛合する中間ギア 3 3 1 3 と、中間ギア 3 3 1 3 と左側の回転ギア 3 3 1 2 とに噛合すると共に中間ギア 3 3 1 3 と同径とされた駆動ギア 3 3 1 4 と、駆動ギア 3 3 1 4 を回転駆動させるキャラクタ体駆動モータ 3 3 1 5 と、キャラクタ体駆動モータ 3 3 1 5 を下面に支持すると共に回転ギア 3 3 1 2、中間ギア 3 3 1 3 及び駆動ギア 3 3 1 4 を上面側で回転可能に支持し上部が開放された浅い皿状のキャラクタベース 3 3 1 6 と、を備えている。

【0738】

左右に離間して配置される一对のキャラクタ体 3 3 1 1 は、互いに異なるキャラクターのフィギュア 3 3 1 1 b とされているが、フィギュア 3 3 1 1 b のポーズは略同じポーズに形成されている。また、左側の回転ギア 3 3 1 2 は、下端から回転軸に対して直角方向へ延出し周方向の一部が切欠かれた板状の検知片 3 3 1 2 a を備えている。更に、キャラク

10

20

30

40

50

タベース 3316 は、回転ギア 3312 が配置される部位に回転ギア 3312 よりも小径で上下方向に貫通した支持孔 3316a が形成されている。

【0739】

また、上可動ユニット 3310 は、キャラクターベース 3316 の開放された上部を覆うと共にキャラクター体 3311 の台座部 3311a が通過可能な貫通孔 3317a を有し、上面にレリーフ状の装飾が形成された一部が透光性を有する装飾板 3317 と、キャラクターベース 3316 の下面に取付けられ上面及び下面に複数の LED が実装された上可動体下装飾基板 3318 と、上可動体下装飾基板 3318 の下側を覆いキャラクターベース 3316 の下面に取付けられる透光性を有したキャラクターベースカバー 3319 と、を備えている。

10

【0740】

また、上可動ユニット 3310 は、キャラクターベースカバー 3319 よりも上側でキャラクターベース 3316 の下面に取付けられ正面視左側の回転ギア 3312 における検知片 3312a を検知する回転検知センサ 3320 と、キャラクターベース 3316 の下側から支持孔 3316a を通して回転ギア 3312 の下面に取付けられる円盤状の回転押え 3321 と、を備えている。回転検知センサ 3320 は、左側の回転ギア 3312 における検知片 3312a に形成された切欠きを検知することで回転ギア 3312、つまり、キャラクター体 3311 の回転位置を検知することができるようになっている。

【0741】

上可動ユニット 3310 の回転押え 3321 は、キャラクターベース 3316 の支持孔 3316a を通して回転ギア 3312 の下面に取付けることで、回転ギア 3312 と回転押え 3321 とによってキャラクターベース 3316 を挟んだ状態とすることができるようになっている。これにより、支持孔 3316a がガイドとなって、回転ギア 3312 がキャラクターベース 3316 に対して回転可能に支持された状態となると共に、回転ギア 3312 がキャラクターベース 3316 の面に沿って回転することができ、回転ギア 3312 の上下方向へ延びた回転軸が傾くのを防止することができるようになっている。つまり、キャラクター体 3311 が傾くのを防止することができるようになっている。

20

【0742】

更に、上可動ユニット 3310 は、キャラクターベース 3316 の後端に取付けられ一对のキャラクター体 3311 の背景を形成する背面装飾部材 3330 を備えている。この上可動ユニット 3310 における背面装飾部材 3330 は、装飾板 3317 よりも上側で一对のキャラクター体 3311 の後側（背景）を装飾しハート型のレリーフが形成されると共に透光性を有した背面中央飾り部材 3331 と、背面中央飾り部材 3331 の左右両側に配置され星型の装飾を複数有した背面サイド飾り部材 3332 と、背面サイド飾り部材 3332 及び背面中央飾り部材 3331 を夫々支持する背面フレーム 3333 と、背面中央飾り部材 3331 の後側に配置され前面に複数の LED が実装された上可動体背面中央装飾基板 3334 と、背面サイド装飾基板 3332 の後側に配置されると共に背面フレーム 3333 に支持され前面に複数の LED が実装された上可動体背面サイド装飾基板 3335 と、上可動体背面中央装飾基板 3334 の後側に配置されると共に背面中央飾り部材 3331、背面フレーム 3333、及びキャラクターベース 3316 の後端を支持する背面ベース 3336 と、を備えている。

30

40

【0743】

背面装飾部材 3330 の上可動体背面装飾基板 3334 は、図 133 に示すように、背面中央飾り部材 3331 の下端よりも下方へ延出しており、キャラクターベース 3316 の下側に取付けられるキャラクターベースカバー 3319 の後側まで延出した形態とされている。この上可動体背面装飾基板 3334 は、キャラクターベースカバー 3319 の後側まで延出した部位の前面にも複数の LED が実装されており、キャラクターベースカバー 3316 も発光装飾させることができるようになっている。

【0744】

本例の上可動演出ユニット 3300 における上可動ユニット 3310 は、回転検知セン

50

サ 3 3 2 0 が回転ギア 3 3 1 2 における検知片 3 3 1 2 a の切欠部を検知した状態では、左右に離間して配置された一对のキャラクタ体 3 3 1 1 のフィギュア 3 3 1 1 b が、夫々正面を向いた状態となるようになっている（図 1 3 5（b）等を参照）。この上可動ユニット 3 3 1 0 は、キャラクタ体駆動モータ 3 3 1 5 によって駆動ギア 3 3 1 4 を回転駆動させると、駆動ギア 3 3 1 4 と噛合した左側の回転ギア 3 3 1 2 と中間ギア 3 3 1 3 が、駆動ギア 3 3 1 4 とは夫々逆方向に回転すると共に、更に中間ギア 3 3 1 3 と噛合した右側の回転ギア 3 3 1 2 が駆動ギア 3 3 1 4 と同じ方向へ回転することとなる。なお、本例では駆動ギア 3 3 1 4 と中間ギア 3 3 1 3 とが同じ径とされているので、左右の回転ギア 3 3 1 2 は、夫々異なる方向へ同じ速度で回転することとなる。

【0745】

10

これにより、左右に離間して配置された一对の回転ギア 3 3 1 2 に夫々取付けられたキャラクタ体 3 3 1 1 は、上下方向へ延びた軸周りに夫々異なる方向へ回転することができるようになっている。従って、一对のキャラクタ体 3 3 1 1（フィギュア 3 3 1 1 b）を、正面以外の方向に向けることができ、多彩な可動演出を行うことができるようになっている（図 1 3 5（c）を参照）。

【0746】

一方、上可動演出ユニット 3 3 0 0 における昇降ユニット 3 3 5 0 は、図 1 3 6 乃至図 1 3 8 等に示すように、裏箱 3 0 0 1 内に取付けられ左右方向へ延び前側が開放された浅い箱状のユニットベース 3 3 5 1 と、ユニットベース 3 3 5 1 の前面で左右方向中央よりも左側の位置に上端及び下端が支持され上下方向へ延びた長尺状のスライドロッド 3 3 5 2 と、スライドロッド 3 3 5 2 によって上下方向へスライド可能に支持されるスライド部材 3 3 5 3 と、スライド部材 3 3 5 3 の前端に上端左側が取付けられ略矩形状に上下方向へ板状に延び前面に上可動ユニット 3 3 1 0 が取付けられる昇降スライダ 3 3 5 4 と、昇降スライダ 3 3 5 4 の左右両側面と当接すると共に昇降スライダ 3 3 5 4 が前後方向へ移動するのを規制しユニットベース 3 3 5 1 の前面下部に回転可能に支持されるガイドローラ 3 3 5 5 と、ユニットベース 3 3 5 1 の前面における昇降スライダ 3 3 5 4 を挟んでスライドロッド 3 3 5 2 とは反対側の位置に取付けられ上下方向へ延びると共に昇降スライダ 3 3 5 4 の上端右側が前後方向へ移動するのを規制するスライドガイド 3 3 5 6 と、スライドガイド 3 3 5 6 よりも右側でユニットベース 3 3 5 1 の前面に取付けられスライド部材 3 3 5 3 を介してスライドロッド 3 3 5 2 により上下方向へスライド可能に支持された昇降スライダ 3 3 5 4 を昇降させる昇降機構 3 3 6 0 と、を備えている。

20

30

【0747】

昇降ユニット 3 3 5 0 のユニットベース 3 3 5 1 は、図示するように、左右方向の略中央に上下方向へ延びると共に前後方向に貫通した長孔状の案内溝 3 3 5 1 a が形成されており、この案内溝 3 3 5 1 a を挟んで左側にスライドロッド 3 3 5 2、右側にスライドガイド 3 3 5 6 が取付けられるようになっている。また、ユニットベース 3 3 5 1 は、案内溝 3 3 5 1 a の下端の左右両側に前方へ突出した一对のローラ支持ピン 3 3 5 1 b を備えており、これらローラ支持ピン 3 3 5 1 b にガイドローラ 3 3 5 5 を挿入することでガイドローラ 3 3 5 5 を回転可能に支持することができるようになっている。

【0748】

40

また、ユニットベース 3 3 5 1 は、スライドガイド 3 3 5 6 が取付けられる位置よりも右側の位置から前方へ突出し後述する昇降機構 3 3 6 0 の昇降アーム 3 3 6 5 を回動可能に支持するアーム支持ピン 3 3 5 1 c を備えている。また、ユニットベース 3 3 5 1 は、スライドロッド 3 3 5 2 が取付けられる位置よりも左側の位置に前後方向へ貫通した矩形状の開口 3 3 5 1 d が形成されており、この開口 3 3 5 1 d を通して上可動ユニット 3 3 1 0 に備えられたキャラクタ体駆動モータ 3 3 1 5、回転検知センサ 3 3 2 0、及び各装飾基板 3 3 1 8、3 3 3 4、3 3 3 5 と、上部中継基板 3 0 1 6 とを接続するための配線部材 3 3 5 7 がユニットベース 3 3 5 1 の後側へ延びだすようになっている。なお、本例では、配線部材 3 3 5 7 がフレキシブルフラットケーブルとされている。

【0749】

50

昇降ユニット3350の昇降スライダ3354は、矩形状に上下方向へ延びた本体部3354aと、本体部3354aの上端から正面視左方向へ延出した取付片3354bと、本体部3354aの上端から右方向へ延出した板状の延出片3354cと、本体部3354aの上端で左右方向中央部に形成され前後方向へ貫通した連結孔3354dと、を備えている。この昇降スライダ3354は、取付片3354bがスライド部材3353の前端に取付けられるようになっており、延出片3351cがスライドガイド3356のスリット3356a内に挿入されるようになっている。また、昇降スライダ3354の連結孔3354dには、後述する昇降機構3360の連結軸3366が挿入されるようになっている。なお、昇降スライダ3354には、本体部3354aに上可動ユニット3310の背面ベース3336を取付けるための取付孔が適宜位置に形成されている。

10

【0750】

昇降ユニット3350のガイドローラ3355は、前後方向へ短く延びた円筒状で前端に軸直角方向外方へ延出したフランジを有する前ローラ3355aと、前ローラ3355aの後側に配置され前後方向へ短く延びた円筒状で後端に軸直角方向外方へ延出したフランジを有する後ローラ3355bと、を備えている。このガイドローラ3355は、ユニットベース3351のローラ支持ピン3351bに挿入することで、回転可能に支持されるようになっており、前ローラ3355a及び後ローラ3355bの円筒状の部位が昇降スライダ3354における本体部3354aの側面と接触するようになっている。

【0751】

また、ガイドローラ3355は、前ローラ3355aのフランジを昇降スライダ3354の前側に位置させると共に、後ローラ3355bのフランジを昇降スライダ3354の後側に位置させるようにローラ支持ピン3351bに挿入することで、前ローラ3355aと後ローラ3355bのフランジで昇降スライダ3354の本体部3354cを前後方向に挟むことができ、昇降スライダ3354が前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。従って、昇降スライダ3354における本体部3354aを挟んで左右両側に配置されたガイドローラ3355によって、昇降スライダ3354の本体部3354aが前後方向へ移動するのを規制しつつ上下方向へスムーズに案内することができるようになっている。

20

【0752】

昇降ユニット3350のスライドガイド3356は、平面視の形状が左右方向中央から左側が右側よりも前方に位置したクランク状に形成されており、左右方向中央に前後方向へ延びると共に左右方向へ貫通したスリット3356aを備えている。このスライドガイド3356は、スリット3356a内に昇降スライダ3354の延出片3354cが左側から挿入されるようになっており、延出片3354cが上下方向へ移動することができると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

30

【0753】

昇降ユニット3350の昇降機構3360は、回転軸が後方へ延びた昇降駆動モータ3361と、昇降駆動モータ3361によって回転駆動せられる平歯車状の駆動ギア3362と、駆動ギア3362と噛合する第一伝達ギア3363a、及び第一伝達ギア3363aの後側で同軸上に一体回転し第一伝達ギア3363bよりも小径の第二伝達ギアを有した減速ギア3363と、減速ギア3363の第二伝達ギア3363bと噛合し第一伝達ギア3363aと略同径の第三伝達ギア3364a、及び第三伝達ギア3364aの回転軸に対して偏芯した位置から軸方向と平行に後方へ突出するリンクピン3364bを有したカムリンクギア3364と、カムリンクギア3364よりも後側に配置されユニットベース3351に軸支される基端部3365a、及び基端部3365aと一体的に形成されると共に回動軸に対して離れた位置に形成され昇降スライダ3354と連結するための連結部3365bを有し、カムリンクギア3364のリンクピン3364bの公転によって回動可能とされた棹状の昇降アーム3365と、昇降アーム3365の連結部3365bに支持され昇降スライダ3354の連結孔3354dに挿入される棒状の連結軸3366と、を備えている。

40

50

【0754】

この昇降機構3360は、正面視でユニットベース3351の前面側の右端付近に配置されており、駆動ギア3362、減速ギア3363、及びカムリンクギア3364が右から左方向へ並んで配置されている。

【0755】

昇降機構3360の昇降アーム3365は、ユニットベース3351のアーム支持ピン3351cが挿通される支持孔を有した基端部3365aと、基端部3365aから支持孔（回動軸）の軸心に対して直角方向へ離れた位置に配置された連結部3365bと、連結部3365bと基端部3365aとを結ぶアーム部3365cと、アーム部3365cよりも短く基端部3365aからアーム部3365cとは異なる方向へ延びた延出部3365dと、延出部3365dの先端に形成されカムリンクギア3364のリンクピン3364bと接続される接続部3365eと、アーム部3365cの途中から外方へ延出する板状の検知片3365fと、を備えている。

10

【0756】

この昇降アーム3365は、図示するように、基端部3365aからアーム部3365cがユニットベース3351に対して左右方向の中央側へ延びだしていると共に、延出部3365dがユニットベース3351に対して右端側へ延びだしており、正面視が略L字状に形成されている。また、昇降アーム3365は、連結部3365bと接続部3365eが、基端部3365aの軸心に対して直角方向へ延びると共に前後方向へ貫通した長孔状に形成されており、夫々に連結軸3366とカムリンクギア3364のリンクピン3364bが摺動可能に挿入されるようになっている。

20

【0757】

また、昇降機構3360は、ユニットベース3351の案内溝3351aによって上下方向へ案内されると共に昇降アーム3365における長孔状の連結部3365b内を摺動可能とされ連結軸3366の後端を支持する連結摺動部材3367と、ユニットベース3351の前面に取付けられ昇降アーム3365の検知片3365fを検知することで昇降アーム3365の回動位置を検知する昇降検知センサ3368と、昇降アーム3365の前側に配置されると共にユニットベース3351の前面に取付けられ駆動ギア3362、減速ギア3363、及びカムリンクギア3364の後側を被覆するギアカバー3369と、ギアカバー3369の前面に取付けられると共に駆動ギア3362、減速ギア3363、及びカムリンクギア3364の前側を覆い前面に昇降駆動モータ3361が取付けられるモータホルダ3370と、を更に備えている。

30

【0758】

昇降機構3360のギアカバー3369及びモータホルダ3370は、互いに協働して減速ギア3363とカムリンクギア3364を回転可能に支持している。また、ギアカバー3369には、カムリンクギア3364のリンクピン3364bが通過可能な半円弧状のスリット3369aを備えており、スリット3369aを通してリンクピン3364bが後側に配置された昇降アーム3365の長孔状の接続部3365e内に挿入されるようになっている。なお、図中の符号3371は、連結軸3366が挿入され昇降スライダ3354と昇降アーム3365との間の摺動抵抗を低減させるためのワッシャである。

40

【0759】

続いて、本例の上可動演出ユニット3300における上可動ユニット3310の昇降について主に図139及び図140を参照して説明する。この上可動演出ユニット3300は、昇降ユニット3350における昇降アーム3365の連結部3365bが、昇降アーム3365の回動軸（基端部3365a）よりも正面視左側に位置しており、連結部3365b及び昇降スライダ3354を介して昇降アーム3365に作用する上可動ユニット3310の荷重によって、昇降アーム3365には連結部3365bが下方へ移動する方向へ回動する力（モーメント）が常に作用するようになっている。

【0760】

この上可動演出ユニット3300は、図108等に示すように、通常の状態では上可動

50

ユニット 3310 が上昇した退避位置に位置しており、この状態では、上可動ユニット 3310 のキャラクタベースカバー 3319 を除いてセンター役物 2500 のセンターロゴ装飾部材 2520 の後側に位置することとなり、キャラクタ体 3311 や背面装飾部材 3330 等が遊技者から見えなくなっている。

【0761】

上可動演出ユニット 3300 は、上可動ユニット 3310 が上昇した退避位置の状態では、図 140 (a) に示すように、カムリンクギア 3364 のリンクピン 3364b が、昇降アーム 3365 の長孔状の接続部 3365e 内における回動軸側の端部と当接した状態となっている。また、退避位置の状態では、接続部 3365e の延びた軸線に対してリンクピン 3364b を通る法線が、カムリンクギア 3364 の回転中心よりも下側を通るので、上可動ユニット 3310 の荷重によって昇降アーム 3365 にかかる回転モーメントによって、接続部 3365e からリンクピン 3364b を下方へ移動させる力（カムリンクギア 3364 を背面視で反時計回りへ回転させる力）が作用することとなるが、上述したように、リンクピン 3364b が接続部 3365e 内の回動軸側の端部と当接しており、カムリンクギア 3364 がこれ以上背面視で反時計回りの方向へ回転することができず、昇降アーム 3365 の回動が規制（ロック）された状態となっている。従って、上可動ユニット 3310 の荷重が、昇降アーム 3365、カムリンクギア 3364、減速ギア 3363、及び駆動ギア 3362 を介して昇降駆動モータ 3361 に作用するのを防止することができ、上可動ユニット 3310 が退避位置の時に昇降駆動モータ 3361 に負荷がかからないようになっている。

【0762】

また、上可動ユニット 3310 が上昇した退避位置に位置した状態では、昇降アーム 3365 に形成された検知片 3365f が、昇降検知センサ 3368 により検知された状態となっている。これにより、昇降検知センサ 3368 によって上可動ユニット 3310 が退避位置に位置していることを検知することができるようになっている。

【0763】

上可動ユニット 3310 が上昇した退避位置の状態から、カムリンクギア 3364 を背面視で時計回りの方向へ回転するように昇降駆動モータ 3361 を回転駆動させると、リンクピン 3364b がカムリンクギア 3364 の回転中心の周りを公転すると共に、昇降アーム 3365 における長孔状の接続部 3365e 内を基端部 3365a から遠ざかる方向へ摺動することとなる。そして、昇降アーム 3365 は、接続部 3365e 内を摺動するリンクピン 3364b の公転に伴って、基端部 3365a を中心として回動することとなる。

【0764】

一方、昇降アーム 3365 における上可動ユニット 3310 を支持する連結部 3365b 側では、昇降アーム 3365 と昇降スライダ 3354 とを連結するための連結軸 3366 が、連結摺動部材 3367 を介してユニットベース 3351 の案内溝 3351a によって上下方向へ案内されると共に昇降アーム 3365 における長孔状の連結部 3365b 内で摺動可能に案内されている。これにより、昇降アーム 3365 が回動すると、連結摺動部材 3367 が、昇降アーム 3365 の連結部 3365b 内を摺動すると同時に案内溝 3351a 内を摺動し、連結摺動部材 3367 に支持された連結軸 3366 を介して昇降スライダ 3354 つまり上可動ユニット 3310 が上下方向へスライド（昇降）することとなる。

【0765】

なお、本例では、上述したように、退避位置の状態では接続部 3365e の軸線におけるリンクピン 3364b を通る法線が、カムリンクギア 3364 の回転中心よりも下側を通っているので、リンクピン 3364b が背面視で時計回りの方向へ公転してリンクピン 3364b を通る法線がカムリンクギア 3364 の回転中心を通るまでは、昇降アーム 3365 が背面視で反時計回りの方向へ回動することとなる。そして、更にリンクピン 3364b が背面視で時計回りの方向へ公転すると、リンクピン 3364b を通る法線がカム

リンクギア 3 3 6 4 の回転中心よりも上側を通ることとなり、昇降アーム 3 3 6 5 が背面視で時計回りの方向へ回転することとなる。従って、退避位置の状態、上可動ユニット 3 3 1 0 を下降させる方向へ昇降駆動モータ 3 3 6 1 を回転駆動させると、上可動ユニット 3 3 1 0 が一旦少し上昇した後に下降するようになっている。

【0 7 6 6】

そして、更に昇降アーム 3 3 6 5 が回転して昇降スライダ 3 3 5 4 の取付片 3 3 5 4 b と延出片 3 3 5 4 c との下端が、ガイドローラ 3 3 5 5 とスライダガイド 3 3 5 6 におけるスリット 3 3 5 6 a の下端と当接すると同時に、昇降駆動モータ 3 3 6 1 の回転駆動が停止し、昇降スライダ 3 3 5 4 の下方への移動が停止し、上可動ユニット 3 3 1 0 が下降した出現位置に位置することとなる（図 1 3 9（b）及び図 1 4 0（b）等を参照）。 10

【0 7 6 7】

上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、上可動ユニット 3 3 1 0 が下降した出現位置に位置した状態では、上可動ユニット 3 3 1 0 の一对のキャラクタ体 3 3 1 1 や背面装飾部材 3 3 3 0 等がセンター役物 2 5 0 0 のセンターロゴ装飾部材 2 5 2 0 よりも下側に位置した状態となり、遊技者側からキャラクタ体 3 3 1 1 等が視認できる状態となるようになっている（図 1 6 5 を参照）。

【0 7 6 8】

なお、下降した上可動ユニット 3 3 1 0 を上昇させるには、昇降駆動モータ 3 3 6 1 を上記とは逆方向へ回転駆動させて、昇降アーム 3 3 6 5 を下降時とは逆方向へ回転させることで昇降スライダ 3 3 5 4 を上昇させることができる。そして、昇降アーム 3 3 6 5 の検知片 3 3 6 5 f が昇降検知センサ 3 3 6 8 に検知されたら、昇降駆動モータ 3 3 6 1 の回転駆動を停止させることで、上可動ユニット 3 3 1 0 を上昇した退避位置に復帰させることができるようになっている。 20

【0 7 6 9】

このように、本例の上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、一对のキャラクタ体 3 3 1 1 を備えた上可動ユニット 3 3 1 0 が上昇した退避位置の時には、一对のキャラクタ体 3 3 1 1 等がセンター役物 2 5 0 0 におけるセンターロゴ装飾部材 2 5 2 0 の後側に位置し、遊技者から見えず下側に配置されたキャラクタベースカバー 3 3 1 9 の一部だけが見えるようになっている。そして、上可動ユニット 3 3 1 0 のキャラクタベースカバー 3 3 1 9 は、上側に配置された上可動体下装飾基板 3 3 1 8 と後側に配置された上可動体背面中央装飾基板 3 3 3 4 に実装された LED によって発光装飾されるようになっており、センターロゴ装飾部材 2 5 2 0 の下端から臨むキャラクタベースカバー 3 3 1 9 を明るく光らせることができ、キャラクタベースカバー 3 3 1 9（センターロゴ装飾部材 2 5 2 0 の後側）に対して遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、センター役物 2 5 0 0 の枠内を照らして遊技領域 1 1 0 0 内を目立たせることができるようになっている。 30

【0 7 7 0】

また、上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、遊技状態に応じて昇降駆動モータ 3 3 6 1 を回転駆動させることで、一对のキャラクタ体 3 3 1 1 を備えた上可動ユニット 3 3 1 0 を、遊技者側から視認できない退避位置から、遊技者側から視認できる出現位置へ下降させることができるので、キャラクタ体 3 3 1 1 の出現によって遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興味が低下するのを抑制することができるようになっている。 40

【0 7 7 1】

更に、上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、昇降によって出現する一对のキャラクタ体 3 3 1 1 を上下方向へ延びた軸周りに回転させることができるので、例えば、キャラクタ体 3 3 1 1 の回転に合わせて所定の音楽を出力することで遊技者に対してキャラクタ体 3 3 1 1 があたかも音楽に合わせて踊っているように錯覚させることができ、キャラクタ体 3 3 1 1 の動きを楽しませて興味が低下するのを抑制することができる。

【0 7 7 2】

また、上可動演出ユニット 3 3 0 0 は、一对のキャラクタ体 3 3 1 1 を上下方向へ延び 50

た軸周りに回転させることができるので、出現する際のキャラクタ体 3 3 1 1 の向きや、出現後に回転するキャラクタ体 3 3 1 1 の向き等によって、キャラクタの雰囲気を異ならせることが可能となり、遊技者に対して様々なメッセージを送ることができ、多彩な演出によって飽き難いパチンコ機 1 とすることができる。

【0773】

[2-10. 左右可動演出ユニット]

続いて、裏ユニット 3 0 0 0 における左右可動演出ユニット 3 4 0 0 について、図 1 4 1 乃至図 1 5 8 を主に参照して説明する。図 1 4 1 は遊技盤の裏ユニットにおける左右可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、図 1 4 2 は左右可動演出ユニットを後から見た斜視図である。また、図 1 4 3 は左右可動演出ユニットを回転体ユニットとスライドユニットに分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 4 4 は左右可動演出ユニットを回転体ユニットとスライドユニットに分解して後から見た分解斜視図である。また、図 1 4 5 は左右可動演出ユニットにおける一つの回転体ユニットを示す斜視図である。更に、図 1 4 6 は左右可動演出ユニットの回転体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 4 7 は左右可動演出ユニットの回転体ユニットを分解して後から見た分解斜視図である。

【0774】

また、図 1 4 8 は左右可動演出ユニットの回転体ユニットにおける回転装飾体の動きを示す説明図であり、図 1 4 9 は図 1 4 8 に続く回転装飾体の動きを示す説明図であり、図 1 5 0 は図 1 4 9 に続く回転装飾体の動きを示す説明図である。また、図 1 5 1 は左右可動演出ユニットにおける右ユニットのスライドユニットを示す斜視図であり、図 1 5 2 は右ユニットのスライドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 5 3 は右ユニットのスライドユニットを分解して後から見た分解斜視図である。更に、図 1 5 4 は左右可動演出ユニットにおける左ユニットのスライドユニットを示す斜視図であり、図 1 5 5 は左ユニットのスライドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 5 6 は左ユニットのスライドユニットを分解して後から見た分解斜視図である。また、図 1 5 7 は左右可動演出ユニットにおける右ユニットの動きを示す説明図であり、図 1 5 8 は左右可動演出ユニットにおける左ユニットの動きを示す説明図である。

【0775】

裏ユニット 3 0 0 0 における左右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、裏箱 3 0 0 1 内で開口 3 0 0 1 c の左右両側に取付けられるものであり、開口 3 0 0 1 c の右側に取付けられる右ユニット 3 4 0 0 R と、開口 3 0 0 1 c の左側に取付けられる左ユニット 3 4 0 0 L とで構成されている。本例の左右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、右ユニット 3 4 0 0 R 及び左ユニット 3 4 0 0 L に夫々複数（各三つずつ）の回転体ユニット 3 4 1 0 と、複数の回転体ユニット 3 4 1 0 を夫々独立してスライドさせるスライドユニット 3 5 0 0（右スライドユニット 3 5 1 0 及び左スライドユニット 3 5 5 0）と、を備えている。

【0776】

左右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、回転体ユニット 3 4 1 0 に前後方向へ延びた軸周りに回転可能とされた回転装飾体 3 4 1 0 A を備えており、回転装飾体 3 4 1 0 A を回転駆動させることで回転演出を行うことができるようになっている。また、左右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、各回転体ユニット 3 4 1 0 を夫々独立して左右方向へスライド移動させることができ、スライド演出を行うことができるようになっている。従って、回転体ユニット 3 4 1 0 のスライド演出と、回転装飾体 3 4 1 0 A の回転演出とを適宜組み合わせることで多彩な可動演出を行うことができるようになっている。

【0777】

[2-10A. 回転体ユニットの構成]

次に、図 1 4 6 及び図 1 4 7 等を参照して左右可動演出ユニット 3 4 0 0 における回転体ユニット 3 4 1 0 の構成について説明する。この回転体ユニット 3 4 1 0 は、スライドユニット 3 5 0 0 のスライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0 に取付けられる板状の回転体ベース 3 4 1 1 と、回転体ベース 3 4 1 1 の後側

に配置され回転軸が回転体ベース 3 4 1 1 を貫通して前方へ延出する回転駆動モータ 3 4 1 2 と、回転駆動モータ 3 4 1 2 の回転軸に固定され回転体ベース 3 4 1 1 の前面に配置される円盤状の回転カプラ 3 4 1 3 と、回転カプラ 3 4 1 3 の前面に一体回転可能に連結され前方へ延出した円柱状の軸部材 3 4 1 4 と、軸部材 3 4 1 4 の前端に取付けられ前方へ略半球状に膨出し表面にレリーフ状の装飾が形成されると共に部分的に透光性を有した回転ヘッド 3 4 1 5 と、回転ヘッド 3 4 1 5 の後側に配置され前面に複数の LED が実装された回転ヘッド装飾基板 3 4 1 6 と、回転ヘッド装飾基板 3 4 1 6 を前側から支持すると共に前面にレリーフ状の装飾を有し回転体ベース 3 4 1 1 に取付けられる基板ブラケット 3 4 1 7 と、を備えている。

【0778】

10

回転体ユニット 3 4 1 0 の回転体ベース 3 4 1 1 は、正面視の形状が、後側に取付けられる回転駆動モータ 3 4 1 2 の回転軸を中心とした所定半径の半円に、直径と同じ幅（高さ）の矩形状を組合せた砲弾状に形成されている。この回転体ベース 3 4 1 1 は、後述する回転検知センサ 3 4 2 6 の検知部が通過可能な開口が形成されている他に、各部材を固定するための取付孔や取付ボス等が適宜位置に形成されている。

【0779】

回転体ユニット 3 4 1 0 の回転カプラ 3 4 1 3 は、後面が回転体ベース 3 4 1 1 の前面に当接して摺動するように形成されていると共に、前面に複数の突起 3 4 1 3 a が形成されている。この回転カプラ 3 4 1 3 は、摩擦抵抗の低い素材によって形成されている。

【0780】

20

回転体ユニット 3 4 1 0 の軸部材 3 4 1 4 は、図示するように、後端に円盤状のフランジ部 3 4 1 4 a を備えており、フランジ部 3 4 1 4 a の後面に回転カプラ 3 4 1 3 の突起 3 4 1 3 a と嵌合する凹部 3 4 1 4 b が形成されている（図 1 4 7 を参照）。この軸部材 3 4 1 4 の凹部 3 4 1 4 b に回転カプラ 3 4 1 3 の突起 3 4 1 3 a を嵌合させることで、回転カプラ 3 4 1 3 の回転を軸部材 3 4 1 4 へ伝達させることができるようになっている。なお、軸部材 3 4 1 4 の前端は、図示するように、外周が非円柱形状に形成されており、後述する回転台前部材 3 4 2 4 の嵌合孔 3 4 2 4 a と嵌合して回転台前部材 3 4 2 4 を一体回転させることができるようになっている。

【0781】

回転体ユニット 3 4 1 0 の回転ヘッド 3 4 1 5 は、略半球状の表面にハート型の透光性を有した部位を備えており、後側に配置された回転ヘッド装飾基板 3 4 1 6 の LED によってハート型に発光装飾されるようになっている。また、回転ヘッド 3 4 1 5 は、ハート型の部位を除いた他の部位の表面が、メッキ状に金属光沢を有した状態となっており、外部からの光が反射することでキラキラ光るようになっている。なお、本例の左右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、右ユニット 3 4 0 0 R に備えられた回転体ユニット 3 4 1 0 の回転ヘッド 3 4 1 5 が略半球状に形成されているのに対して、左ユニット 3 4 0 0 L に備えられた回転ヘッド 3 4 1 5 が右ユニット 3 4 0 0 R の回転ヘッド 3 4 1 5 よりも前後方向にやや潰れた半球状に形成されている。従って、右ユニット 3 4 0 0 R の回転ヘッド 3 4 1 5 の前端が遊技パネル 1 2 0 0 の後面よりも前方へ突出した状態となっておりと共に、左ユニット 3 4 0 0 L の回転ヘッド 3 4 1 5 の前端がパネル板 1 2 1 0 よりも後側に位置した状態となっている（図 1 1 3 等を参照）。

30

40

【0782】

また、回転体ユニット 3 4 1 0 は、回転ヘッド 3 4 1 5 よりも後側に配置され軸部材 3 4 1 4 が回転可能に通過する通過孔 3 4 1 8 a、及び通過孔 3 4 1 8 a と同軸上で後端付近に形成され平歯車状の固定ギア 3 4 1 8 b を有し回転体ベース 3 4 1 1 の前面に取付けられる筒状の固定ギア部材 3 4 1 8 と、固定ギア部材 3 4 1 8 の固定ギア 3 4 1 8 b よりも大径に内径が形成されると共に固定ギア部材 3 4 1 8 における固定ギア 3 4 1 8 b よりも後側の位置に相対回転不能な状態で挿入され、後端が回転体ベース 3 4 1 1 の前面と当接する環状のガイドリング 3 4 1 9 と、ガイドリング 3 4 1 9 の前端に対して後端縁が摺動可能に当接し固定ギア部材 3 4 1 8 が通過可能な貫通孔 3 4 2 0 a を有した板状の回転

50

台後部材 3 4 2 0 と、を備えている。

【0783】

また、回転体ユニット 3 4 1 0 は、回転台後部材 3 4 2 0 の前面で回転可能に支持されると共に固定ギア部材 3 4 1 8 の固定ギア 3 4 1 8 b と噛合し、回転軸に対して偏芯した位置から前方へ突出したリンクピン 3 4 2 1 a を有する可動リンクギア 3 4 2 1 と、可動リンクギア 3 4 2 1 のリンクピン 3 4 2 1 a が摺動可能に挿入されると共に可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線に対して直角方向へ延びた長孔状の第一リンク溝 3 4 2 2 a、第一リンク溝 3 4 2 2 a と平行に延びると共に可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線を中心として対称な位置に配置された長孔状の一对の第二リンク溝 3 4 2 2 b を有し、可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向へスライド可能とされた板状の揺動部材 3 4 2 2 と、を備えている。

10

【0784】

更に、回転体ユニット 3 4 1 0 は、揺動部材 3 4 2 2 の第二リンク溝 3 4 2 2 b 内へ摺動可能に挿入され前後方向へ延びた挿入ピン 3 4 2 3 a、挿入ピン 3 4 2 3 a の後端から揺動部材 3 4 2 2 に沿って揺動部材 3 4 2 2 の外側へ延びた駆動アーム部 3 4 2 3 b、駆動アーム部 3 4 2 3 b の挿入ピン 3 4 2 3 a とは反対側の端部に形成され回転台後部材 3 4 2 0 によって回転可能に支持される軸部 3 4 2 3 c、軸部 3 4 2 3 c から駆動アーム部 3 4 2 3 b とは異なる方向へ長く延出し外面に装飾が形成された作動アーム部 3 4 2 3 d を有した一对のアーム部材 3 4 2 3 と、アーム部材 3 4 2 3 及び揺動部材 3 4 2 2 を前側から覆うように回転台後部材 3 4 2 0 の前面に取付けられ、揺動部材 3 4 2 2 を可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向へスライド可能に支持すると共に回転台後部材 3 4 2 0 と協働して軸部 3 4 2 3 c を回転可能に支持し、軸部材 3 4 1 4 の先端が通過すると共に軸部材 3 4 1 4 と一体回転可能に嵌合する嵌合孔 3 4 2 4 a を有した回転台前部材 3 4 2 4 と、を備えている。

20

【0785】

回転体ユニット 3 4 1 0 の固定ギア部材 3 4 1 8 は、円筒状の内部が、回転カプラ 3 4 1 3 や軸部材 3 4 1 4 が接触しないような内面形状に形成されており、組立てた状態で軸部材 3 4 1 4 の前端が前方へ所定量突出する長さとされている。なお、本例では、固定ギア部材 3 4 1 8 における固定ギア 3 4 1 8 b の歯数が 3 0 個とされていると共に、固定ギア 3 4 1 8 b と噛合する可動リンクギア 3 4 2 1 の歯数が 1 0 個とされている。これにより、相対的に固定ギア 3 4 1 8 b が一回転すると可動リンクギア 3 4 2 1 が三回転するようになっており、可動リンクギア 3 4 2 1 が固定ギア部材 3 4 1 8 (固定ギア 3 4 1 8 b) の周りを一回公転する間に可動リンクギア 3 4 2 1 が三回自転するようになっている。

30

【0786】

また、回転体ユニット 3 4 1 0 の回転台前部材 3 4 2 0 は、前後方向へ貫通し固定ギア部材 3 4 1 8 が通過可能な貫通孔 3 4 2 0 a よりも外側の位置から前方へ延出し可動リンクギア 3 4 2 1 を回転可能に支持するための軸ピン 3 4 2 0 b と、軸ピン 3 4 2 0 b の中心と貫通孔 3 4 2 0 a の中心とを結んだ軸線を挟んで両側に対称に配置されると共に軸線から貫通孔 3 4 2 0 a の半径よりも離れた位置に夫々配置されアーム部材 3 4 2 3 における軸部 3 4 2 3 c の後端を回転可能に支持する軸受部 3 4 2 0 c と、軸ピン 3 4 2 0 b の中心と貫通孔 3 4 2 0 a の中心とを結んだ軸線上で軸ピン 3 4 2 0 b を挟んで貫通孔 3 4 2 0 a とは反対側に配置され後方へ突出した板状の検知片 3 4 2 0 d と、を備えている。

40

【0787】

更に、回転体ユニット 3 4 1 0 の揺動部材 3 4 2 2 の第一リンク溝 3 4 2 2 a は、その長手方向中央が、可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線と一致するように形成されている。また、揺動部材 3 4 2 2 は、固定ギア部材 3 4 1 8 の先端側が通過可能とされ可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線の方向へ延びる U 字状の切欠部 3 4 2 2 c と、切欠部 3 4 2 2 c の両側で可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線と平行に延び回転体前部材

50

3 4 2 4に案内される案内突条3 4 2 2 dと、を更に備えており、案内突条3 4 2 2 dよりも軸線に対して外側に第二リンク溝3 4 2 2 bが配置されている。

【0 7 8 8】

また、回転体ユニット3 4 1 0のアーム部材3 4 2 3における作動アーム部3 4 2 3 dは、軸部3 4 2 3 cとは反対側の先端側が可動リンクギア3 4 2 1の軸芯と軸部材3 4 1 4の軸芯とを結んだ軸線へ接近する方向へ屈曲したく字状に形成されており、先端に手を模した円形状の装飾が形成されている。

【0 7 8 9】

更に、回転体ユニット3 4 1 0の回転台前部材3 4 2 4は、軸部材3 4 1 4の前端と嵌合する嵌合孔3 4 2 4 aを前端に有した円筒状の筒部3 4 2 4 bと、筒部3 4 2 4 bの後端から揺動部材3 4 2 2と平行に延びると共に回転台後部材3 4 2 0の前面を略被覆する板状の本体部3 4 2 4 cと、を更に備えている。回転台前部材3 4 2 4の筒部3 4 2 4 bは、内面形状が固定ギア部材3 4 1 8と接触しない大きさに形成されており、固定ギア部材3 4 1 8の固定ギア3 4 1 8 bよりも前側を収容することができるようになっている。

【0 7 9 0】

また、回転台前部材3 4 2 4は、可動リンクギア3 4 2 1の軸芯と軸部材3 4 1 4の軸芯とを結んだ軸線を挟んで両側の対称の位置から後方へ延出しアーム部材3 4 2 3の軸部3 4 2 3 cを回転可能に支持するための一对の支持ピン3 4 2 4 dと、一对の支持ピン3 4 2 4 dの間に配置され可動リンクギア3 4 2 1の軸芯と軸部材3 4 1 4の軸芯とを結んだ軸線と平行に延びると共に揺動部材3 4 2 2の案内突条3 4 2 2 dをスライド可能に案内する案内部3 4 2 4 eと、を備えている（図1 4 7を参照）。回転台前部材3 4 2 4の案内部3 4 2 4 eによって揺動部材3 4 2 2を可動リンクギア3 4 2 1の軸芯と軸部材3 4 1 4の軸芯とを結んだ軸線方向へスライドさせることができるようになっている。

【0 7 9 1】

更に、回転体ユニット3 4 1 0は、回転体ベース3 4 1 1の後側に取付けられ回転駆動モータ3 4 1 2の取付部を覆うモータカバー3 4 2 5と、モータカバー3 4 2 5と回転体ベース3 4 1 1との間に挟持され回転台後部材3 4 2 0の検知片3 4 2 0 dを検知するための回転検知センサ3 4 2 6と、回転体ベース3 4 1 1の前側に取付けられ前面に立体的な装飾が形成されると共に部分的に透光性を有するように形成され、ガイドリング3 4 1 9が通過可能な大きさの貫通孔3 4 2 7 a、及び回転検知センサ3 4 2 6の検知部が通過可能な開口3 4 2 7 bを有した回転体ベース飾り3 4 2 7と、を備えている。

【0 7 9 2】

この回転体ユニット3 4 1 0の回転体ベース飾り3 4 2 7は、正面視の形状が回転体ベース3 4 1 1よりもひと回り大きい砲弾状に形成されており、貫通孔3 4 2 7 aを囲むように複数の円形の透光部3 4 2 7 cが馬蹄形状に列設されている。

【0 7 9 3】

また、回転体ユニット3 4 1 0は、回転体ベース飾り3 4 2 7の後側に取付けられ前面に複数のLEDが実装されたベース装飾基板3 4 2 8を、更に備えている。ベース装飾基板3 4 2 8は、図示するように、馬蹄形状に形成されており、回転体ベース飾り3 4 2 7の複数の透光部3 4 2 7 cと対応する位置に夫々LEDが配置されている。このベース装飾基板3 4 2 8は、実装されたLEDを適宜発光させることで回転体ベース飾り3 4 2 7を発光装飾させることができるようになっている。

【0 7 9 4】

更に、回転体ユニット3 4 1 0は、固定ギア部材3 4 1 8の前端に配置されると共に回転台前部材3 4 2 4の筒部3 4 2 4 b内に配置される滑りワッシャ3 4 2 9と、回転台前部材3 4 2 4の筒部3 4 2 4 bの外周に挿入されると共に後端が回転台前部材3 4 2 4における本体部3 4 2 4 cの前面と接触し回転ヘッド装飾基板3 4 1 6を支持する基板支持部材3 4 3 0と、回転台後部材3 4 2 0の前側に取付けられ軸ピン3 4 2 0 bを挟んで貫通孔3 4 2 0 aとは反対側の前面を被覆する回転体カバー3 4 3 1と、を備えている。

【0 7 9 5】

10

20

30

40

50

この回転体ユニット 3 4 1 0 は、回転駆動モータ 3 4 1 2 より、回転カプラ 3 4 1 3、軸部材 3 4 1 4、回転ヘッド 3 4 1 5、回転台後部材 3 4 2 0、可動リンクギア 3 4 2 1、揺動部材 3 4 2 2、アーム部材 3 4 2 3、回転台前部材 3 4 2 4、及び回転台カバー 3 4 3 1 が回転するようになっており、これらが回転装飾体 3 4 1 0 A を構成している。

【0796】

[2-10B. 回転装飾体の動作]

続いて、主に図 1 4 8 乃至図 1 5 0 を参照して、左右可動演出ユニット 3 4 0 0 の回転体ユニット 3 4 1 0 における回転装飾体 3 4 1 0 A の動きについて説明する。本例の回転体ユニット 3 4 1 0 は、遊技状態に応じて回転駆動モータ 3 4 1 2 の回転軸を回転駆動させると、回転駆動モータ 3 4 1 2 の回転軸に取付けられた回転カプラ 3 4 1 3 を介して前方へ延びた軸部材 3 4 1 4 が回転するようになっている。この軸部材 3 4 1 4 の先端には回転ヘッド 3 4 1 5 が取付けられており、回転駆動モータ 3 4 1 2 によって回転体ユニット 3 4 1 0 の最前端に配置され略半球状の回転ヘッド 3 4 1 5 が回転するようになっている。

10

【0797】

また、回転装飾体 3 4 1 0 A における軸部材 3 4 1 4 の前端は、回転台前部材 3 4 2 4 の嵌合孔 3 4 2 4 a に嵌合挿入されており、軸部材 3 4 1 4 と一緒に回転台前部材 3 4 2 4 が一体回転するようになっている。この回転台前部材 3 4 2 4 は、揺動部材 3 4 2 2 をスライド可能に支持すると共に、一对のアーム部材 3 4 2 3 の軸部 3 4 2 3 c を回転可能に支持し、更に、後側に配置された回転台後部材 3 4 2 0 の前面に取付けられているので、軸部材 3 4 1 4 を介して回転台前部材 3 4 2 4 が回転することで、揺動部材 3 4 2 2、アーム部材 3 4 2 3、及び回転台後部材 3 4 2 0 も、回転台前部材 3 4 2 4 と一緒に軸部材 3 4 1 4 の軸芯を中心として一体回転するようになっている。また、回転台後部材 3 4 2 0 は、軸部材 3 4 1 4 の軸芯から離れた位置に可動リンクギア 3 4 2 1 を回転可能に支持しているので、回転台後部材 3 4 2 0 の回転と一緒に可動リンクギア 3 4 2 1 が軸部材 3 4 1 4 の軸芯を中心として公転するようになっている。

20

【0798】

一方、軸部材 3 4 1 4 と同軸上に配置された固定ギア部材 3 4 1 8 は、回転駆動モータ 3 4 1 2 が取付けられた回転体ベース 3 4 1 1 に取付固定されており、回転駆動モータ 3 4 1 2 の回転軸を回転駆動させても、回転しないようになっている。そして、この回転しない固定ギア部材 3 4 1 8 の固定ギア 3 4 1 8 b に対して、軸部材 3 4 1 4 の軸芯を中心として公転する可動リンクギア 3 4 2 1 が噛合しているので、可動リンクギア 3 4 2 1 を軸支した回転台後部材 3 4 2 0 が回転すると、可動リンクギア 3 4 2 1 が軸部材 3 4 1 4 の軸芯を中心として公転すると同時に回転台後部材 3 4 2 0 に対して相対的に回転（自転）するようになっている。

30

【0799】

この可動リンクギア 3 4 2 1 には、回転軸から偏芯した位置で前方へ突出するリンクピン 3 4 2 1 a が備えられており、可動リンクギア 3 4 2 1 が回転（自転）することでリンクピン 3 4 2 1 a が回転軸（自転軸）周りを公転することとなる。この可動リンクギア 3 4 2 1 のリンクピン 3 4 2 1 a が公転することで、軸部材 3 4 1 4 の軸芯とリンクピン 3 4 2 1 a との距離が接近したり離反したりすることとなる。

40

【0800】

本例の回転装飾体 3 4 1 0 A は、可動リンクギア 3 4 2 1 のリンクピン 3 4 2 1 a が、揺動部材 3 4 2 2 における可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線に対して直角方向へ延びた第一リンク溝 3 4 2 2 a に挿入されていると共に、揺動部材 3 4 2 2 が、可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向へスライド可能に支持されているので、リンクピン 3 4 2 1 a が公転すると、リンクピン 3 4 2 1 a が第一リンク溝 3 4 2 2 a 内を摺動すると同時に、第一リンク溝 3 4 2 2 a を介してリンクピン 3 4 2 1 a が揺動部材 3 4 2 2 を可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向へ押圧することとなり、揺動部材 3 4 2 2 が

50

可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向へスライドするようになっている。

【0801】

なお、揺動部材 3 4 2 2 は、可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向に対して、リンクピン 3 4 2 1 a の公転直径の範囲内で往復スライドするようになっている。

【0802】

この揺動部材 3 4 2 2 がスライドすることで、揺動部材 3 4 2 2 の第二リンク溝 3 4 2 2 b に挿入されたアーム部材 3 4 2 3 の挿入ピン 3 4 2 3 a が、可動リンクギア 3 4 2 1 の軸芯と軸部材 3 4 1 4 の軸芯とを結んだ軸線方向へ押圧されて移動することとなり、この挿入ピン 3 4 2 3 a が移動することで、アーム部材 3 4 2 3 がその軸部 3 4 2 3 c を中心として回転することとなる。これにより、一对のアーム部材 3 4 2 3 は、作動アーム部 3 4 2 3 d の先端（自由端）が軸部材 3 4 1 4 の軸芯に対して接近したり離反したりするような動きをすることとなる。

【0803】

更に詳述すると、本例の回転体ユニット 3 4 1 0 は、図 1 4 8 に示すように、回転装飾体 3 4 1 0 A における回転ヘッド 3 4 1 5 のハート型に形成された部位を、正面視で略砲弾状に形成された回転体ベース飾り 3 4 2 7（回転体ベース 3 4 1 1）の砲弾の先端側を向くように位置させた状態では、可動リンクギア 3 4 2 1 のリンクピン 3 4 2 1 a が軸部材 3 4 1 4 から最も遠ざかった位置となっておりと共に、一对のアーム部材 3 4 2 3 における作動アーム部 3 4 2 3 d の先端が回転ヘッド 3 4 1 5 の後方に位置した状態となっている。これにより、遊技者側からはアーム部材 3 4 2 3 の先端が殆ど見えない状態となっている。

【0804】

この状態から回転駆動モータ 3 4 1 2 によって例えば、回転ヘッド 3 4 1 5 を時計回りの方向へ回転させると、上述したように、回転装飾体 3 4 1 0 A 全体が軸部材 3 4 1 4 の軸芯を中心として回転することとなり、可動リンクギア 3 4 2 1 が軸部材 3 4 1 4 の軸芯周り、つまり、可動体ベース 3 4 1 1 に固定された固定ギア部材 3 4 1 8 の固定ギア 3 4 1 8 b の周りを時計方向へ公転することとなる。そして、可動リンクギア 3 4 2 1 が固定ギア 3 4 1 8 b の周りを公転することで、可動リンクギア 3 4 2 1 自体が反時計回りの方向へ回転（自転）することとなり、可動リンクギア 3 4 2 1 の自転によって可動リンクギア 3 4 2 1 のリンクピン 3 4 2 1 a が、軸部材 3 4 1 4 の軸芯に対して相対的に接近する方向へ公転移動し、揺動部材 3 4 2 2 が軸部材 3 4 1 4 に接近する方向へスライド移動することとなる。

【0805】

この揺動部材 3 4 2 2 が、軸部材 3 4 1 4 に接近する方向へ移動すると、揺動部材 3 4 2 2 の第二リンク溝 3 4 2 2 b を介して一对のアーム部材 3 4 2 3 が、その作動アーム部 3 4 2 3 d の先端が互いに離反する方向へ回転し、作動アーム部 3 4 2 3 d の先端が正面視で回転ヘッド 3 4 1 5 よりも外側へ移動することとなる。これにより、アーム部材 3 4 2 3（作動アーム部 3 4 2 3 d）の先端が遊技者側から良く見える状態となる。

【0806】

そして、回転装飾部材 3 4 1 0 A の回転により可動リンクギア 3 4 2 1 が公転すると共に、可動リンクギア 3 4 2 1 のリンクピン 3 4 2 1 a が軸部材 3 4 1 4 に対して最も接近する位置まで自転すると、揺動部材 3 4 2 2 も軸部材 3 4 1 4 に対して最も接近した状態となり、一对のアーム部材 3 4 2 3 の先端同士も最も離反した状態となる（図 1 4 9 を参照）。なお、本例では、固定ギア部材 3 4 1 8 の固定ギア 3 4 1 8 b の歯数に対して可動リンクギア 3 4 2 1 の歯数が 1 / 3 とされているので、図 1 4 8 の状態から時計回りの方向へ 60 度回転して図 1 4 9 の状態となると、可動リンクギア 3 4 2 1 が半回転して一对のアーム部材 3 4 2 3 の先端が最も離反した状態となるようになっている。

【0807】

この状態から回転装飾部材 3410A を更に時計回りの方向へ回転させると、公転することで自転する可動リンクギア 3421 の公転するリンクピン 3421a によって、摺動部材 3422 が軸部材 3414 から遠ざかる方向へスライド移動し、摺動部材 3422 のスライドにより一对のアーム部材 3423 が、その先端同士が互いに接近する方向へ回動することとなる。そして、図 149 の状態から回転装飾体 3410A が時計回りの方向へ 60 度回転すると、可動リンクギア 3421 のリンクピン 3421a が軸部材 3414 に対して最も離れた位置となり、アーム部材 3423 の先端同士も最も接近して正面視で回転ヘッド 3415 の後側に隠れた状態となる（図 150 を参照）。

【0808】

本例の回転体ユニット 3410 は、回転装飾体 3410A が 120 度回転すると、一对のアーム部材 3423 の先端が回転ヘッド 3415 の後側から一回出没するようになっている。つまり、回転装飾体 3410A が一回転すると一对のアーム部材 3423 の先端が回転ヘッド 3415 の後側から三回出没するようになっている。

10

【0809】

このように、回転体ユニット 3410 によると、回転駆動モータ 3412 によって回転装飾体 3410A を回転させると、回転ヘッド 3415 の後側から一对のアーム部材 3423 が出没するので、回転する回転装飾体 3410A の外観が大きく変化させることができ、遊技者を楽しませることができると共に、遊技者の関心を強く引付けることができるようになっている。

【0810】

20

また、回転体ユニット 3410 は、前後方向へ延びる軸部材 3414 の前端に取付けられた回転ヘッド 3415 等の荷重によって軸部材 3414 の前端側が下方へ移動するような力が作用しても、軸部材 3414 の後端に取付けられた円盤状の回転カプラ 3413 の後面が、回転体ベース 3411 の前面と接触するようにしているので、軸部材 3414 が前後方向へ延びた軸線に対して倒れ難くすることができ、軸部材 3414 を真直ぐな状態にして回転ヘッド 3415 等が偏芯した状態で回転するのを防止することができるようになっている。

【0811】

[2-10C. スライドユニットの構成]

次に、図 151 乃至 156 を主に参照して左右可動演出ユニット 3400 におけるスライドユニット 3500 の構成について説明する。本例のスライドユニット 3500 は、裏箱 3001 内で開口 3001c の右側に取付けられ右スライドユニット 3510 と、開口 3001c の左側に取付けられる左スライドユニット 3550 と、を備えている。これら右スライドユニット 3510 と左スライドユニット 3550 は、互いが対称に形成された形態となっている。

30

【0812】

まず、左右可動演出ユニット 3400 のスライドユニット 3500 における右スライドユニット 3510 は、図 151 乃至図 153 に示すように、裏箱 3001 内で開口 3001c の右側に取付けられ上下方向へ延びた右ユニットベース 3511 を備えている。この右ユニットベース 3511 は、三つの回転体ユニット 3410 を左右方向へスライド可能に支持するための上支持部 3511a、中支持部 3511b、及び下支持部 3511c の三つの支持部（3511a、3511b、3511c）を備えている。

40

【0813】

右ユニットベース 3511 における各支持部 3511a、3511b、3511c には、夫々後述するスライドベース 3520、3530、3540 が配置され前後方向へ貫通した矩形状のベース用開口部 3511d と、ベース用開口部 3511d の上側に形成され後述するスライドシャフト 3521、3531、3541 が配置され前後方向へ貫通した横長矩形状のシャフト用開口部 3511e と、を備えている。また、各ベース用開口部 3511d には、内周縁の下辺に後述する下部ローラ 3524、3534、3544 が転動可能とされた左右方向へ延びたレール部 3511f が形成されている。

50

【0814】

右ユニットベース3511の上支持部3511aは、左右方向に延びた矩形状のベース用開口部3511dとシャフト用開口部3511eが、夫々正面視で左側が低くなるように傾斜した状態に形成されている。また、中支持部3511bは、矩形状のベース用開口部3511dとシャフト用開口部3511eが、正面視で水平方向へ延びた状態に形成されている。更に、下支持部3511cは、左右方向に延びた矩形状のベース用開口部3511dとシャフト用開口部3511eが、夫々正面視で左側が高くなるように傾斜した状態に形成されている。

【0815】

また、右ユニットベース3511の各支持部3511a, 3511b, 3511cには、各ベース用開口部3511dの下側に後述するスライド駆動モータ3525, 3535, 3545を取付けるためのモータ取付部3511gと、モータ取付部3511gと直上のベース用開口部3511dとの間に形成され後述する第一伝達ギア3516の一部が前側へ臨む噛合用開口部3511hと、が形成されている。なお、詳細な説明は省略するが、右ユニットベース3511には、各種部材を取付けるための取付孔や取付ボス等が適宜位置に形成されている。

【0816】

本例のスライドユニット3500における右スライドユニット3510は、右ユニットベース3511の上支持部3511aにおけるベース用開口部3511dの前面に配置され前側に回転体ユニット3410が取付けられる板状の右上スライドベース3520と、右上スライドベース3520の上端を左右方向へスライド可能に支持すると共に上支持部3511aのシャフト用開口部3511e内に配置され左右方向へ延びた円柱状の右上スライドシャフト3521と、右上スライドシャフト3521の左右両端を支持し右ユニットベース3511の後側に取付けられる右上シャフトブラケット3522と、を備えている。

【0817】

また、右スライドユニット3510は、右上スライドベース3520の下部に取付けられる右上下部ローラ支持部材3523と、右上下部ローラ支持部材3523の左右両端に回転可能に支持され右ユニットベース3511におけるレール部3511f上を転動可能とされた一对の下部ローラ3524と、右上スライドベース3520を右上スライドシャフト3521に沿って左右方向へ移動させ右ユニットベース3511における上支持部3511aの下側に配置されモータ取付部3511gに取付けられる右上スライド駆動モータ3525と、右ユニットベース3511に取付けられ右上スライドベース3520のスライド位置を検知する右上位置検知センサ3526と、を備えている。

【0818】

右スライドユニット3510の右上スライドベース3520は、正面視の外形が左右方向へ延びた略矩形状とされている。この右上スライドベース3520は、上辺における右端と左右方向中央付近とに夫々形成され右上スライドシャフト3521を挿通可能な貫通孔を有した一对のスライド受部3520aと、下辺に形成され左右方向へ延びたラックギア3520bと、前後方向に貫通し回転体ユニット3410における回転駆動モータ3412の後部が挿通される挿通孔3520cと、を備えている。また、右上スライドベース3520は、下辺から下方へ板状に延出し右上位置検知センサ3526によって検知可能とされた検知片3520dを備えている。

【0819】

この右上スライドベース3520は、一对のスライド受部3520aが夫々右上スライドシャフト3521に挿通されたスライドブッシュ3512を介して右上スライドシャフト3521に支持されている。詳細な図示は省略するが、スライドブッシュ3512は、円筒状の一方の端部に外方へ延出した鏝部を備えており、一对のスライド受部3520aの貫通孔に対して鏝部が互いに向き合うように挿入されている。また、右上スライドシャフト3521における一对のスライド受部3520a（スライドブッシュ3512）の間

には、円筒状のシャフトカラー 3 5 1 3 が挿入されており、このシャフトカラー 3 5 1 3 によってスライドブッシュ 3 5 1 2 が互いに接近する方向へ移動するのを阻止することができ、スライド受部 3 5 2 0 a からスライドブッシュ 3 5 1 2 が抜けなくなっている。

【0 8 2 0】

右上スライドベース 3 5 2 0 における一对のスライド受部 3 5 2 0 a は、挿通される右上スライドシャフト 3 5 2 1 の長さに対して、約 1 / 2 の距離離間して配置されており、右上スライドシャフト 3 5 2 1 に対してガタ付き難いようになっている。

【0 8 2 1】

右スライドユニット 3 5 1 0 の右上スライドシャフト 3 5 2 1 は、断面が円形の金属棒によって形成されており剛性の高いものとなっている。また、右スライドユニット 3 5 1 0 の右上シャフトブラケット 3 5 2 2 は、金属板を適宜折曲げて形成したものであり、右ユニットベース 3 5 1 1 の後側に取付けられている。これら右上スライドシャフト 3 5 2 1 及び右上シャフトブラケット 3 5 2 2 は、上支持部 3 5 1 1 a の斜めに傾斜したシャフト用開口部 3 5 1 1 e に沿うように取付けられており、右上スライドベース 3 5 2 0 をベース用開口部 3 5 1 1 d の延びる方向と同じ方向、つまり、正面視で左側が低くなった方向（遊技領域 1 1 0 0 の略中心を通る軸線方向）へスライドさせることができるようになっている。

【0 8 2 2】

また、右スライドユニット 3 5 1 0 における右上下部ローラ支持部材 3 5 2 3 に軸支された一对の下部ローラ 3 5 2 4 は、右ユニットベース 3 5 1 1 の上支持部 3 5 1 1 a におけるベース用開口部 3 5 1 1 d の下辺に備えられたレール部 3 5 1 1 f を、前後方向から挟むように転動可能に支持されており、右上下部ローラ支持部材 3 5 2 3 （右上スライドベース 3 5 2 0 の下部）をレール部 3 5 1 1 f に沿ってスライド可能に支持すると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

【0 8 2 3】

従って、右スライドユニット 3 5 1 0 では、右上スライドベース 3 5 2 0 を、右上スライドシャフト 3 5 2 1 によって吊持支持すると共に、右上スライドシャフト 3 5 2 1 及び右ユニットベース 3 5 1 1 の上支持部 3 5 1 1 a におけるレール部 3 5 1 1 f によって前後方向への移動を規制しつつ左右方向へスライド可能に支持することができるようになっている。

【0 8 2 4】

また、右スライドユニット 3 5 1 0 の右上スライド駆動モータ 3 5 2 5 は、右ユニットベース 3 5 1 1 の前側で上支持部 3 5 1 1 a のモータ取付部 3 5 1 1 g に対して、回転軸が右ユニットベース 3 5 1 1 を貫通して後方へ延出するように取付けられている。

【0 8 2 5】

また、右スライドユニット 3 5 1 0 は、右ユニットベース 3 5 1 1 の後側に配置され右上スライド駆動モータ 3 5 2 5 の回転軸に一体回転可能に固定される駆動ギア 3 5 1 4 と、駆動ギア 3 5 1 4 と噛合し駆動ギア 3 5 1 4 よりも大径の大径ギア 3 5 1 5 a、及び大径ギア 3 5 1 5 a と一体回転し大径ギア 3 5 1 5 a よりも小径の小径ギア 3 5 1 5 b を有し右ユニットベース 3 5 1 1 の後面に軸支される減速ギア 3 5 1 5 と、減速ギア 3 5 1 5 の小径ギア 3 5 1 5 b と噛合し右ユニットベース 3 5 1 1 の後面に軸支されると共に周面の一部が右ユニットベース 3 5 1 1 の噛合用開口部 3 5 1 1 e を通して右ユニットベース 3 5 1 1 の前面側へ露出する第一伝達ギア 3 5 1 6 と、第一伝達ギア 3 5 1 6 における噛合用開口部 3 5 1 1 e から前面側へ露出した部位と噛合すると共に右上スライドベース 3 5 2 0 のラックギア 3 5 2 0 b と噛合し右ユニットベース 3 5 1 1 の前面に軸支される第二伝達ギア 3 5 1 7 と、を備えている。

【0 8 2 6】

この右スライドユニット 3 5 1 0 は、右上スライド駆動モータ 3 5 2 5 によって駆動ギア 3 5 1 4 を適宜方向へ回転駆動させると、減速ギア 3 5 1 5、第一伝達ギア 3 5 1 6、

10

20

30

40

50

及び第二伝達ギア 3517 を介して右上スライドベース 3520 のラックギア 3520b へ伝達させて右上スライドベース 3520 を左右方向へスライド駆動させることができるようになっている。これにより、右上スライドベース 3520 の前面に取付けられる回転体ユニット 3410 も左右方向へスライドさせることができるようになっている。

【0827】

本例のスライドユニット 3500 における右スライドユニット 3510 は、右ユニットベース 3511 の中支持部 3511b におけるベース用開口部 3511d の前面に配置され前側に回転体ユニット 3410 が取付けられる板状の右中スライドベース 3530 と、右中スライドベース 3530 の上端を左右方向へスライド可能に支持すると共に中支持部 3511b のシャフト用開口部 3511e 内に配置され左右方向へ延びた円柱状の右中スライドシャフト 3531 と、右中スライドシャフト 3531 の左右両端を支持し右ユニットベース 3511 の後側に取付けられる右中シャフトブラケット 3532 と、を備えている。

10

【0828】

また、右スライドユニット 3510 は、右中スライドベース 3530 の下部に取付けられる右中下部ローラ支持部材 3533 と、右中下部ローラ支持部材 3533 の左右両端に回転可能に支持され右ユニットベース 3511 におけるレール部 3511f 上を転動可能とされた一対の下部ローラ 3534 と、右中スライドベース 3530 を右中スライドシャフト 3531 に沿って左右方向へ移動させ右ユニットベース 3511 における中支持部 3511b の下側に配置されモータ取付部 3511g に取付けられる右中スライド駆動モータ 3535 と、右ユニットベース 3511 に取付けられ右中スライドベース 3530 のスライド位置を検知する右中位置検知センサ 3536 と、を備えている。

20

【0829】

右スライドユニット 3510 の右中スライドベース 3530 は、正面視の外形が左右方向へ延びた略矩形状とされている。この右中スライドベース 3530 は、上辺における右端と左右方向中央付近とに夫々形成され右中スライドシャフト 3531 を挿通可能な貫通孔を有した一対のスライド受部 3530a と、下辺に形成され左右方向へ延びたラックギア 3530b と、前後方向に貫通し回転体ユニット 3410 における回転駆動モータ 3412 の後部が挿通される挿通孔 3530c と、を備えている。また、右中スライドベース 3530 は、上辺から上方へ板状に延出し右中位置検知センサ 3536 によって検知可能とされた検知片 3530d を備えている。

30

【0830】

この右中スライドベース 3530 は、一対のスライド受部 3530a が夫々右中スライドシャフト 3531 に挿通されたスライドブッシュ 3512 を介して右中スライドシャフト 3531 に支持されている。詳細な図示は省略するが、スライドブッシュ 3512 は、円筒状の一方の端部に外方へ延出した鏝部を備えており、一対のスライド受部 3530a の貫通孔に対して鏝部が互いに向き合うように挿入されている。また、右中スライドシャフト 3531 における一対のスライド受部 3530a (スライドブッシュ 3512) の間には、円筒状のシャフトカラー 3513 が挿入されており、このシャフトカラー 3513 によってスライドブッシュ 3512 が互いに接近する方向へ移動するのを阻止することができ、スライド受部 3530a からスライドブッシュ 3512 が抜けなくなっている。

40

【0831】

右中スライドベース 3530 における一対のスライド受部 3530a は、挿通される右中スライドシャフト 3531 の長さに対して、約 1/3 の距離離間して配置されており、右中スライドシャフト 3531 に対してガタ付き難いようになっている。

【0832】

右スライドユニット 3510 の右中スライドシャフト 3531 は、断面が円形の金属棒によって形成されており剛性の高いものとなっている。また、右スライドユニット 3510 の右中シャフトブラケット 3532 は、金属板を適宜折曲げて形成したものであり、右

50

ユニットベース 3511 の後側に取付けられている。これら右中スライドシャフト 3531 及び右中シャフトブラケット 3532 は、中支持部 3511b の水平に延びたシャフト用開口部 3511e に沿うように取付けられており、右中スライドベース 3530 をベース用開口部 3511d の延びる方向と同じ方向、つまり、正面視で水平方向（遊技領域 1100 の略中心を通る軸線方向）へスライドさせることができるようになっている。

【0833】

また、右スライドユニット 3510 における右中下部ローラ支持部材 3533 に軸支された一对の下部ローラ 3534 は、右ユニットベース 3511 の中支持部 3511b におけるベース用開口部 3511d の下辺に備えられたレール部 3511f を、前後方向から挟むように転動可能に支持されており、右中下部ローラ支持部材 3533（右中スライドベース 3530 の下部）をレール部 3511f に沿ってスライド可能に支持すると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

10

【0834】

従って、右スライドユニット 3510 では、右中スライドベース 3530 を、右中スライドシャフト 3531 によって吊持支持すると共に、右中スライドシャフト 3531 及び右ユニットベース 3511 の中支持部 3511b におけるレール部 3511f によって前後方向への移動を規制しつつ左右方向へスライド可能に支持することができるようになっている。

【0835】

また、右スライドユニット 3510 の右中スライド駆動モータ 3535 は、右ユニットベース 3511 の前側で中支持部 3511b のモータ取付部 3511g に対して、回転軸が右ユニットベース 3511 を貫通して後方へ延出するように取付けられている。

20

【0836】

また、右スライドユニット 3510 は、右ユニットベース 3511 の後側に配置され右中スライド駆動モータ 3535 の回転軸に一体回転可能に固定される駆動ギア 3514 と、駆動ギア 3514 と噛合し駆動ギア 3514 よりも大径の大径ギア 3515a、及び大径ギア 3515a と一体回転し大径ギア 3515a よりも小径の小径ギア 3515b を有し右ユニットベース 3511 の後面に軸支される減速ギア 3515 と、減速ギア 3515 の小径ギア 3515b と噛合し右ユニットベース 3511 の後面に軸支されると共に周囲の一部が右ユニットベース 3511 の噛合用開口部 3511e を通して右ユニットベース 3511 の前面側へ露出する第一伝達ギア 3516 と、第一伝達ギア 3516 における噛合用開口部 3511e から前面側へ露出した部位と噛合すると共に右中スライドベース 3530 のラックギア 3530b と噛合し右ユニットベース 3511 の前面に軸支される第二伝達ギア 3517 と、を備えている。

30

【0837】

この右スライドユニット 3510 は、右中スライド駆動モータ 3535 によって駆動ギア 3514 を適宜方向へ回転駆動させると、減速ギア 3515、第一伝達ギア 3516、及び第二伝達ギア 3517 を介して右中スライドベース 3530 のラックギア 3530b へ伝達させて右中スライドベース 3530 を左右方向へスライド駆動させることができるようになっている。これにより、右中スライドベース 3530 の前面に取付けられる回転体ユニット 3410 も左右方向へスライドさせることができるようになっている。

40

【0838】

本例のスライドユニット 3500 における右スライドユニット 3510 は、右ユニットベース 3511 の下支持部 3511c におけるベース用開口部 3511d の前面に配置され前側に回転体ユニット 3410 が取付けられる板状の右下スライドベース 3540 と、右下スライドベース 3540 の上端を左右方向へスライド可能に支持すると共に下支持部 3511c のシャフト用開口部 3511e 内に配置され左右方向へ延びた円柱状の右下スライドシャフト 3541 と、右下スライドシャフト 3541 の左右両端を支持し右ユニットベース 3511 の後側に取付けられる右下シャフトブラケット 3542 と、を備えている。

50

【0839】

また、右スライドユニット3510は、右下スライドベース3540の下部に取付けられる右下下部ローラ支持部材3543と、右下下部ローラ支持部材3543の左右両端に回転可能に支持され右ユニットベース3511におけるレール部3511f上を転動可能とされた一对の下部ローラ3544と、右下スライドベース3540を右下スライドシャフト3541に沿って左右方向へ移動させ右ユニットベース3511における下支持部3511cの下側に配置されモータ取付部3511gに取付けられる右下スライド駆動モータ3545と、右ユニットベース3511に取付けられ右下スライドベース3540のスライド位置を検知する右下位置検知センサ3546と、を備えている。

【0840】

10

右スライドユニット3510の右下スライドベース3540は、正面視の外形が左右方向へ延びた略矩形状とされている。この右下スライドベース3540は、上辺における右端と左右方向中央付近とに夫々形成され右下スライドシャフト3541を挿通可能な貫通孔を有した一对のスライド受部3540aと、下辺に形成され左右方向へ延びたラックギア3540bと、前後方向に貫通し回転体ユニット3410における回転駆動モータ3412の後部が挿通される挿通孔3540cと、を備えている。また、右下スライドベース3540は、下辺から下方へ板状に延出し右下位置検知センサ3546によって検知可能とされた検知片3540dを備えている。

【0841】

20

この右下スライドベース3540は、一对のスライド受部3540aが夫々右下スライドシャフト3541に挿通されたスライドブッシュ3512を介して右下スライドシャフト3541に支持されている。詳細な図示は省略するが、スライドブッシュ3512は、円筒状の一方の端部に外方へ延出した鏝部を備えており、一对のスライド受部3540aの貫通孔に対して鏝部が互いに向き合うように挿入されている。また、右下スライドシャフト3541における一对のスライド受部3540a（スライドブッシュ3512）の間には、円筒状のシャフトカラー3513が挿入されており、このシャフトカラー3513によってスライドブッシュ3512が互いに接近する方向へ移動するのを阻止することができ、スライド受部3540aからスライドブッシュ3512が抜けなくなっている。

【0842】

30

右下スライドベース3540における一对のスライド受部3540aは、挿通される右下スライドシャフト3541の長さに対して、約1/2の距離離間して配置されており、右下スライドシャフト3541に対してガタ付き難いようになっている。

【0843】

右スライドユニット3510の右下スライドシャフト3541は、断面が円形の金属棒によって形成されており剛性の高いものとなっている。また、右スライドユニット3510の右下シャフトブラケット3542は、金属板を適宜折曲げて形成したものであり、右ユニットベース3511の後側に取付けられている。これら右下スライドシャフト3541及び右下シャフトブラケット3542は、下支持部3511cの斜めに傾斜したシャフト用開口部3511eに沿うように取付けられており、右下スライドベース3540をベ

40

【0844】

また、右スライドユニット3510における右下下部ローラ支持部材3543に軸支された一对の下部ローラ3544は、右ユニットベース3511の下支持部3511cにおけるベース用開口部3511dの下辺に備えられたレール部3511fを、前後方向から挟むように転動可能に支持されており、右下下部ローラ支持部材3543（右下スライドベース3540の下部）をレール部3511fに沿ってスライド可能に支持すると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

50

【0845】

従って、右スライドユニット3510では、右下スライドベース3540を、右下スライドシャフト3541によって吊持支持すると共に、右下スライドシャフト3541及び右ユニットベース3511の下支持部3511cにおけるレール部3511fによって前後方向への移動を規制しつつ左右方向へスライド可能に支持することができるようになっている。

【0846】

また、右スライドユニット3510の右下スライド駆動モータ3545は、右ユニットベース3511の前側で下支持部3511cのモータ取付部3511gに対して、回転軸が右ユニットベース3511を貫通して後方へ延出するように取付けられている。

10

【0847】

また、右スライドユニット3510は、右ユニットベース3511の後側に配置され右下スライド駆動モータ3545の回転軸に一体回転可能に固定される駆動ギア3514と、駆動ギア3514と噛合し駆動ギア3514よりも大径の大径ギア3515a、及び大径ギア3515aと一体回転し大径ギア3515aよりも小径の小径ギア3515bを有し右ユニットベース3511の後面に軸支される減速ギア3515と、減速ギア3515の小径ギア3515bと噛合し右ユニットベース3511の後面に軸支されると共に周面の一部が右ユニットベース3511の噛合用開口部3511eを通して右ユニットベース3511の前面側へ露出する第一伝達ギア3516と、第一伝達ギア3516における噛合用開口部3511eから前面側へ露出した部位と噛合すると共に右下スライドベース3540のラックギア3540bと噛合し右ユニットベース3511の前面に軸支される第二伝達ギア3517と、を備えている。

20

【0848】

この右スライドユニット3510は、右下スライド駆動モータ3545によって駆動ギア3514を適宜方向へ回転駆動させると、減速ギア3515、第一伝達ギア3516、及び第二伝達ギア3517を介して右下スライドベース3540のラックギア3540bへ伝達させて右下スライドベース3540を左右方向へスライド駆動させることができるようになっている。これにより、右下スライドベース3540の前面に取付けられる回転体ユニット3410も左右方向へスライドさせることができるようになっている。

【0849】

30

なお、図中の符号3518は、右ユニットベース3511の前面に取付けられ、回転体ユニット3410の回転駆動モータ3412、回転ヘッド装飾基板3416、回転検知センサ3426、及びベース装飾基板3428と、右部中継基板3018とを接続するための配線部材（図示は省略する）を押えるための配線押えである。

【0850】

続いて、左右可動演出ユニット3400のスライドユニット3500における左スライドユニット3550は、図154乃至図156に示すように、裏箱3001内で開口3001cの左側に取付けられ上下方向へ延びた左ユニットベース3551を備えている。この左ユニットベース3551は、三つの回転体ユニット3410を左右方向へスライド可能に支持するための上支持部3551a、中支持部3551b、及び下支持部3551cの三つの支持部（3551a、3551b、3551c）を備えている。

40

【0851】

左ユニットベース3551における各支持部3551a、3551b、3551cには、夫々後述するスライドベース3560、3570、3580が配置され前後方向へ貫通した矩形状のベース用開口部3551dと、ベース用開口部3551dの上側に形成され後述するスライドシャフト3561、3571、3581が配置され前後方向へ貫通した横長矩形状のシャフト用開口部3551eと、を備えている。また、各ベース用開口部3551dには、内周縁の下辺に後述する下部ローラ3564、3574、3584が転動可能とされた左右方向へ延びたレール部3551fが形成されている。

【0852】

50

左ユニットベース 3551 の上支持部 3551 a は、左右方向に延びた矩形状のベース用開口部 3551 d とシャフト用開口部 3551 e が、夫々正面視で右側が低くなるように傾斜した状態に形成されている。また、中支持部 3551 b は、矩形状のベース用開口部 3551 d とシャフト用開口部 3551 e が、正面視で水平方向へ延びた状態に形成されている。更に、下支持部 3551 c は、左右方向に延びた矩形状のベース用開口部 3551 d とシャフト用開口部 3551 e が、夫々正面視で右側が高くなるように傾斜した状態に形成されている。

【0853】

また、左ユニットベース 3551 の各支持部 3551 a, 3551 b, 3551 c には、各ベース用開口部 3551 d の下側に後述するスライド駆動モータ 3565, 3575, 3585 を取付けるためのモータ取付部 3551 g と、モータ取付部 3551 g と直上のベース用開口部 3551 d との間に形成され後述する第一伝達ギア 3556 の一部が前側へ臨む噛合用開口部 3551 h と、が形成されている。なお、詳細な説明は省略するが、左ユニットベース 3551 には、各種部材を取付けるための取付孔や取付ボス等が適宜位置に形成されている。

【0854】

本例のスライドユニット 3500 における左スライドユニット 3550 は、左ユニットベース 3551 の上支持部 3551 a におけるベース用開口部 3551 d の前面に配置され前側に回転体ユニット 3410 が取付けられる板状の左上スライドベース 3560 と、左上スライドベース 3560 の上端を左右方向へスライド可能に支持すると共に上支持部 3551 a のシャフト用開口部 3551 e 内に配置され左右方向へ延びた円柱状の左上スライドシャフト 3561 と、左上スライドシャフト 3561 の左右両端を支持し左ユニットベース 3551 の後側に取付けられる左上シャフトブラケット 3562 と、を備えている。

【0855】

また、左スライドユニット 3550 は、左上スライドベース 3560 の下部に取付けられる左上下部ローラ支持部材 3563 と、左上下部ローラ支持部材 3563 の左右両端に回転可能に支持され左ユニットベース 3551 におけるレール部 3551 f 上を転動可能とされた一対の下部ローラ 3564 と、左上スライドベース 3560 を左上スライドシャフト 3561 に沿って左右方向へ移動させ左ユニットベース 3551 における上支持部 3551 a の下側に配置されモータ取付部 3551 g に取付けられる左上スライド駆動モータ 3565 と、左ユニットベース 3551 に取付けられ左上スライドベース 3560 のスライド位置を検知する左上位置検知センサ 3566 と、を備えている。

【0856】

左スライドユニット 3550 の左上スライドベース 3560 は、正面視の外形が左右方向へ延びた略矩形状とされている。この左上スライドベース 3560 は、上辺における左端と左右方向中央付近とに夫々形成され左上スライドシャフト 3561 を挿通可能な貫通孔を有した一対のスライド受部 3560 a と、下辺に形成され左右方向へ延びたラックギア 3560 b と、前後方向に貫通し回転体ユニット 3410 における回転駆動モータ 3412 の後部が挿通される挿通孔 3560 c と、を備えている。また、左上スライドベース 3560 は、下辺から下方へ板状に延出し左上位置検知センサ 3566 によって検知可能とされた検知片 3560 d を備えている。

【0857】

この左上スライドベース 3560 は、一対のスライド受部 3560 a が夫々左上スライドシャフト 3561 に挿通されたスライドブッシュ 3552 を介して左上スライドシャフト 3561 に支持されている。詳細な図示は省略するが、スライドブッシュ 3552 は、円筒状の一方の端部に外方へ延出した鏝部を備えており、一対のスライド受部 3560 a の貫通孔に対して鏝部が互いに向き合うように挿入されている。また、左上スライドシャフト 3561 における一対のスライド受部 3560 a (スライドブッシュ 3552) の間には、円筒状のシャフトカラー 3553 が挿入されており、このシャフトカラー 3553

によってスライドブッシュ 3 5 5 2 が互いに接近する方向へ移動するのを阻止することができ、スライド受部 3 5 6 0 a からスライドブッシュ 3 5 5 2 が抜けなくなっている。

【0 8 5 8】

左上スライドベース 3 5 6 0 における一对のスライド受部 3 5 6 0 a は、挿通される左上スライドシャフト 3 5 6 1 の長さに対して、約 1 / 2 の距離離間して配置されており、左上スライドシャフト 3 5 6 1 に対してガタ付き難いようになっている。

【0 8 5 9】

左スライドユニット 3 5 5 0 の左上スライドシャフト 3 5 6 1 は、断面が円形の金属棒によって形成されており剛性の高いものとなっている。また、左スライドユニット 3 5 5 0 の左上シャフトブラケット 3 5 6 2 は、金属板を適宜折曲げて形成したものであり、左ユニットベース 3 5 5 1 の後側に取付けられている。これら左上スライドシャフト 3 5 6 1 及び左上シャフトブラケット 3 5 6 2 は、上支持部 3 5 5 1 a の斜めに傾斜したシャフト用開口部 3 5 5 1 e に沿うように取付けられており、左上スライドベース 3 5 6 0 をベース用開口部 3 5 5 1 d の延びる方向と同じ方向、つまり、正面視で右側が低くなった方向（遊技領域 1 1 0 0 の略中心を通る軸線方向）へスライドさせることができるようになっている。

【0 8 6 0】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 における左上下部ローラ支持部材 3 5 6 3 に軸支された一对の下部ローラ 3 5 6 4 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の上支持部 3 5 5 1 a におけるベース用開口部 3 5 5 1 d の下辺に備えられたレール部 3 5 5 1 f を、前後方向から挟むように転動可能に支持されており、左上下部ローラ支持部材 3 5 6 3 （左上スライドベース 3 5 6 0 の下部）をレール部 3 5 5 1 f に沿ってスライド可能に支持すると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

【0 8 6 1】

従って、左スライドユニット 3 5 5 0 では、左上スライドベース 3 5 6 0 を、左上スライドシャフト 3 5 6 1 によって吊持支持すると共に、左上スライドシャフト 3 5 6 1 及び左ユニットベース 3 5 5 1 の上支持部 3 5 5 1 a におけるレール部 3 5 5 1 f によって前後方向への移動を規制しつつ左右方向へスライド可能に支持することができるようになっている。

【0 8 6 2】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 の左上スライド駆動モータ 3 5 6 5 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の前側で上支持部 3 5 5 1 a のモータ取付部 3 5 5 1 g に対して、回転軸が左ユニットベース 3 5 5 1 を貫通して後方へ延出するように取付けられている。

【0 8 6 3】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の後側に配置され左上スライド駆動モータ 3 5 6 5 の回転軸に一体回転可能に固定される駆動ギア 3 5 5 4 と、駆動ギア 3 5 5 4 と噛合し駆動ギア 3 5 5 4 よりも大径の大径ギア 3 5 5 5 a、及び大径ギア 3 5 5 5 a と一体回転し大径ギア 3 5 5 5 a よりも小径の小径ギア 3 5 5 5 b を有し右ユニットベース 3 5 5 1 の後面に軸支される減速ギア 3 5 5 5 と、減速ギア 3 5 5 5 の小径ギア 3 5 5 5 b と噛合し左ユニットベース 3 5 5 1 の後面に軸支されると共に周面の一部が左ユニットベース 3 5 5 1 の噛合用開口部 3 5 5 1 e を通して左ユニットベース 3 5 5 1 の前面側へ露出する第一伝達ギア 3 5 5 6 と、第一伝達ギア 3 5 5 6 における噛合用開口部 3 5 5 1 e から前面側へ露出した部位と噛合すると共に左上スライドベース 3 5 6 0 のラックギア 3 5 6 0 b と噛合し左ユニットベース 3 5 5 1 の前面に軸支される第二伝達ギア 3 5 5 7 と、を備えている。

【0 8 6 4】

この左スライドユニット 3 5 5 0 は、左上スライド駆動モータ 3 5 6 5 によって駆動ギア 3 5 5 4 を適宜方向へ回転駆動させると、減速ギア 3 5 5 5、第一伝達ギア 3 5 5 6、及び第二伝達ギア 3 5 5 7 を介して左上スライドベース 3 5 6 0 のラックギア 3 5 6 0 b

10

20

30

40

50

へ伝達させて左上スライドベース 3 5 6 0 を左右方向へスライド駆動させることができるようになっている。これにより、左上スライドベース 3 5 6 0 の前面に取付けられる回転体ユニット 3 4 1 0 も左右方向へスライドさせることができるようになっている。

【0865】

本例のスライドユニット 3 5 0 0 における左スライドユニット 3 5 5 0 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の中支持部 3 5 5 1 b におけるベース用開口部 3 5 5 1 d の前面に配置され前側に回転体ユニット 3 4 1 0 が取付けられる板状の左中スライドベース 3 5 7 0 と、左中スライドベース 3 5 7 0 の上端を左右方向へスライド可能に支持すると共に中支持部 3 5 5 1 b のシャフト用開口部 3 5 5 1 e 内に配置され左右方向へ延びた円柱状の左中スライドシャフト 3 5 7 1 と、左中スライドシャフト 3 5 7 1 の左右両端を支持し左ユニットベース 3 5 5 1 の後側に取付けられる左中シャフトブラケット 3 5 7 2 と、を備えている。

10

【0866】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 は、左中スライドベース 3 5 7 0 の下部に取付けられる左中下部ローラ支持部材 3 5 7 3 と、左中下部ローラ支持部材 3 5 7 3 の左右両端に回転可能に支持され左ユニットベース 3 5 5 1 におけるレール部 3 5 5 1 f 上を転動可能とされた一对の下部ローラ 3 5 7 4 と、左中スライドベース 3 5 7 0 を左中スライドシャフト 3 5 7 1 に沿って左右方向へ移動させ左ユニットベース 3 5 5 1 における中支持部 3 5 5 1 b の下側に配置されモータ取付部 3 5 5 1 g に取付けられる左中スライド駆動モータ 3 5 7 5 と、左ユニットベース 3 5 5 1 に取付けられ左中スライドベース 3 5 7 0 のスライド位置を検知する左中位置検知センサ 3 5 7 6 と、を備えている。

20

【0867】

左スライドユニット 3 5 5 0 の左中スライドベース 3 5 7 0 は、正面視の外形が左右方向へ延びた略矩形状とされている。この左中スライドベース 3 5 7 0 は、上辺における左端と左右方向中央付近とに夫々形成され左中スライドシャフト 3 5 7 1 を挿通可能な貫通孔を有した一对のスライド受部 3 5 7 0 a と、下辺に形成され左右方向へ延びたラックギア 3 5 7 0 b と、前後方向に貫通し回転体ユニット 3 4 1 0 における回転駆動モータ 3 4 1 2 の後部が挿通される挿通孔 3 5 7 0 c と、を備えている。また、左中スライドベース 3 5 7 0 は、上辺から上方へ板状に延出し左中位置検知センサ 3 5 7 6 によって検知可能とされた検知片 3 5 7 0 d を備えている。

30

【0868】

この左中スライドベース 3 5 7 0 は、一对のスライド受部 3 5 7 0 a が夫々左中スライドシャフト 3 5 7 1 に挿通されたスライドブッシュ 3 5 5 2 を介して左中スライドシャフト 3 5 7 1 に支持されている。詳細な図示は省略するが、スライドブッシュ 3 5 5 2 は、円筒状の一方の端部に外方へ延出した鏝部を備えており、一对のスライド受部 3 5 7 0 a の貫通孔に対して鏝部が互いに向き合うように挿入されている。また、左中スライドシャフト 3 5 7 1 における一对のスライド受部 3 5 7 0 a (スライドブッシュ 3 5 5 2) の間には、円筒状のシャフトカラー 3 5 5 3 が挿入されており、このシャフトカラー 3 5 5 3 によってスライドブッシュ 3 5 5 2 が互いに接近する方向へ移動するのを阻止することができ、スライド受部 3 5 7 0 a からスライドブッシュ 3 5 5 2 が抜けなくなっている。

40

【0869】

左中スライドベース 3 5 7 0 における一对のスライド受部 3 5 7 0 a は、挿通される左中スライドシャフト 3 5 7 1 の長さに対して、約 1/3 の距離離間して配置されており、左中スライドシャフト 3 5 7 1 に対してガタ付き難いようになっている。

【0870】

左スライドユニット 3 5 5 0 の左中スライドシャフト 3 5 7 1 は、断面が円形の金属棒によって形成されており剛性の高いものとなっている。また、左スライドユニット 3 5 5 0 の左中シャフトブラケット 3 5 7 2 は、金属板を適宜折曲げて形成したものであり、左ユニットベース 3 5 5 1 の後側に取付けられている。これら左中スライドシャフト 3 5 7

50

1 及び左中シャフトブラケット 3 5 7 2 は、中支持部 3 5 5 1 b の水平に延びたシャフト用開口部 3 5 5 1 e に沿うように取付けられており、左中スライドベース 3 5 7 0 をベース用開口部 3 5 5 1 d の延びる方向と同じ方向、つまり、正面視で水平方向（遊技領域 1 1 0 0 の略中心を通る軸線方向）へスライドさせることができるようになっている。

【0 8 7 1】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 における左中下部ローラ支持部材 3 5 7 3 に軸支された一对の下部ローラ 3 5 7 4 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の中支持部 3 5 5 1 b におけるベース用開口部 3 5 5 1 d の下辺に備えられたレール部 3 5 5 1 f を、前後方向から挟むように転動可能に支持されており、左中下部ローラ支持部材 3 5 7 3 （左中スライドベース 3 5 7 0 の下部）をレール部 3 5 5 1 f に沿ってスライド可能に支持すると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

10

【0 8 7 2】

従って、左スライドユニット 3 5 5 0 では、左中スライドベース 3 5 7 0 を、左中スライドシャフト 3 5 7 1 によって吊持支持すると共に、左中スライドシャフト 3 5 7 1 及び左ユニットベース 3 5 5 1 の中支持部 3 5 5 1 b におけるレール部 3 5 5 1 f によって前後方向への移動を規制しつつ左右方向へスライド可能に支持することができるようになっている。

【0 8 7 3】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 の左中スライド駆動モータ 3 5 7 5 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の前側で中支持部 3 5 5 1 b のモータ取付部 3 5 5 1 g に対して、回転軸が左ユニットベース 3 5 5 1 を貫通して後方へ延出するように取付けられている。

20

【0 8 7 4】

また、左スライドユニット 3 5 5 0 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の後側に配置され左中スライド駆動モータ 3 5 7 5 の回転軸に一体回転可能に固定される駆動ギア 3 5 5 4 と、駆動ギア 3 5 5 4 と噛合し駆動ギア 3 5 5 4 よりも大径の大径ギア 3 5 5 5 a、及び大径ギア 3 5 5 5 a と一体回転し大径ギア 3 5 5 5 a よりも小径の小径ギア 3 5 5 5 b を有し左ユニットベース 3 5 5 1 の後面に軸支される減速ギア 3 5 5 5 と、減速ギア 3 5 5 5 の小径ギア 3 5 5 5 b と噛合し左ユニットベース 3 5 5 1 の後面に軸支されると共に周面の一部が左ユニットベース 3 5 5 1 の噛合用開口部 3 5 5 1 e を通して左ユニットベース 3 5 5 1 の前面側へ露出する第一伝達ギア 3 5 5 6 と、第一伝達ギア 3 5 5 6 における噛合用開口部 3 5 5 1 e から前面側へ露出した部位と噛合すると共に左中スライドベース 3 5 7 0 のラックギア 3 5 7 0 b と噛合し左ユニットベース 3 5 5 1 の前面に軸支される第二伝達ギア 3 5 5 7 と、を備えている。

30

【0 8 7 5】

この左スライドユニット 3 5 5 0 は、左中スライド駆動モータ 3 5 7 5 によって駆動ギア 3 5 5 4 を適宜方向へ回転駆動させると、減速ギア 3 5 5 5、第一伝達ギア 3 5 5 6、及び第二伝達ギア 3 5 5 7 を介して左中スライドベース 3 5 7 0 のラックギア 3 5 7 0 b へ伝達させて左中スライドベース 3 5 7 0 を左右方向へスライド駆動させることができるようになっている。これにより、左中スライドベース 3 5 7 0 の前面に取付けられる回転体ユニット 3 4 1 0 も左右方向へスライドさせることができるようになっている。

40

【0 8 7 6】

本例のスライドユニット 3 5 0 0 における左スライドユニット 3 5 5 0 は、左ユニットベース 3 5 5 1 の下支持部 3 5 5 1 c におけるベース用開口部 3 5 5 1 d の前面に配置され前側に回転体ユニット 3 4 1 0 が取付けられる板状の左下スライドベース 3 5 8 0 と、左下スライドベース 3 5 8 0 の上端を左右方向へスライド可能に支持すると共に下支持部 3 5 5 1 c のシャフト用開口部 3 5 5 1 e 内に配置され左右方向へ延びた円柱状の左下スライドシャフト 3 5 8 1 と、左下スライドシャフト 3 5 8 1 の左右両端を支持し左ユニットベース 3 5 5 1 の後側に取付けられる左下シャフトブラケット 3 5 8 2 と、を備えている。

【0 8 7 7】

50

また、左スライドユニット 3550 は、左下スライドベース 3580 の下部に取付けられる左下下部ローラ支持部材 3583 と、左下下部ローラ支持部材 3583 の左右両端に回転可能に支持され左ユニットベース 3551 におけるレール部 3551 f 上を転動可能とされた一対の下部ローラ 3584 と、左下スライドベース 3580 を左下スライドシャフト 3581 に沿って左右方向へ移動させ左ユニットベース 3551 における下支持部 3551 c の下側に配置されモータ取付部 3551 g に取付けられる左下スライド駆動モータ 3585 と、左ユニットベース 3551 に取付けられ左下スライドベース 3580 のスライド位置を検知する左下位置検知センサ 3586 と、を備えている。

【0878】

左スライドユニット 3550 の左下スライドベース 3580 は、正面視の外形が左右方向へ延びた略矩形状とされている。この左下スライドベース 3580 は、上辺における左端と左右方向中央付近とに夫々形成され左下スライドシャフト 3581 を挿通可能な貫通孔を有した一対のスライド受部 3580 a と、下辺に形成され左右方向へ延びたラックギア 3580 b と、前後方向に貫通し回転体ユニット 3410 における回転駆動モータ 3412 の後部が挿通される挿通孔 3580 c と、を備えている。また、左下スライドベース 3580 は、下辺から下方へ板状に延出し左下位置検知センサ 3586 によって検知可能とされた検知片 3580 d を備えている。

【0879】

この左下スライドベース 3580 は、一対のスライド受部 3580 a が夫々左下スライドシャフト 3581 に挿通されたスライドブッシュ 3552 を介して左下スライドシャフト 3581 に支持されている。詳細な図示は省略するが、スライドブッシュ 3552 は、円筒状の一方の端部に外方へ延出した鏝部を備えており、一対のスライド受部 3580 a の貫通孔に対して鏝部が互いに向き合うように挿入されている。また、左下スライドシャフト 3581 における一対のスライド受部 3580 a (スライドブッシュ 3552) の間には、円筒状のシャフトカラー 3553 が挿入されており、このシャフトカラー 3553 によってスライドブッシュ 3552 が互いに接近する方向へ移動するのを阻止することができ、スライド受部 3580 a からスライドブッシュ 3552 が抜けなくなっている。

【0880】

左下スライドベース 3580 における一対のスライド受部 3580 a は、挿通される左下スライドシャフト 3581 の長さに対して、約 $1/2$ の距離離間して配置されており、左下スライドシャフト 3581 に対してガタ付き難いようになっている。

【0881】

左スライドユニット 3550 の左下スライドシャフト 3581 は、断面が円形の金属棒によって形成されており剛性の高いものとなっている。また、左スライドユニット 3550 の左下シャフトブラケット 3582 は、金属板を適宜折曲げて形成したものであり、左ユニットベース 3551 の後側に取付けられている。これら左下スライドシャフト 3581 及び左下シャフトブラケット 3582 は、下支持部 3551 c の斜めに傾斜したシャフト用開口部 3551 e に沿うように取付けられており、左下スライドベース 3580 をベース用開口部 3551 d の延びる方向と同じ方向、つまり、正面視で右側が高くなった方向 (遊技領域 1100 の略中心を通る軸線方向) へスライドさせることができるようになっている。

【0882】

また、左スライドユニット 3550 における左下下部ローラ支持部材 3583 に軸支された一対の下部ローラ 3584 は、左ユニットベース 3551 の下支持部 3551 c におけるベース用開口部 3551 d の下辺に備えられたレール部 3551 f を、前後方向から挟むように転動可能に支持されており、左下下部ローラ支持部材 3583 (左下スライドベース 3580 の下部) をレール部 3551 f に沿ってスライド可能に支持すると共に前後方向へ移動するのを規制することができるようになっている。

【0883】

10

20

30

40

50

従って、左スライドユニット3550では、左下スライドベース3580を、左下スライドシャフト3581によって吊持支持すると共に、左下スライドシャフト3581及び左ユニットベース3551の下支持部3551cにおけるレール部3551fによって前後方向への移動を規制しつつ左右方向へスライド可能に支持することができるようになっている。

【0884】

また、左スライドユニット3550の左下スライド駆動モータ3585は、左ユニットベース3551の前側で下支持部3551cのモータ取付部3551gに対して、回転軸が左ユニットベース3551を貫通して後方へ延出するように取付けられている。

【0885】

また、左スライドユニット3550は、左ユニットベース3551の後側に配置され左下スライド駆動モータ3585の回転軸に一体回転可能に固定される駆動ギア3554と、駆動ギア3554と噛合し駆動ギア3554よりも大径の大径ギア3555a、及び大径ギア3555aと一体回転し大径ギア3555aよりも小径の小径ギア3555bを有し左ユニットベース3551の後面に軸支される減速ギア3555と、減速ギア3555の小径ギア3555bと噛合し左ユニットベース3551の後面に軸支されると共に周面の一部が左ユニットベース3551の噛合用開口部3551eを通して左ユニットベース3551の前面側へ露出する第一伝達ギア3556と、第一伝達ギア3556における噛合用開口部3551eから前面側へ露出した部位と噛合すると共に左下スライドベース3580のラックギア3580bと噛合し左ユニットベース3551の前面に軸支される第二伝達ギア3557と、を備えている。

【0886】

この左スライドユニット3550は、左下スライド駆動モータ3585によって駆動ギア3554を適宜方向へ回転駆動させると、減速ギア3555、第一伝達ギア3556、及び第二伝達ギア3557を介して左下スライドベース3580のラックギア3580bへ伝達させて左下スライドベース3580を左右方向へスライド駆動させることができるようになっている。これにより、左下スライドベース3580の前面に取付けられる回転体ユニット3410も左右方向へスライドさせることができるようになっている。

【0887】

なお、図中の符号3558は、左ユニットベース3551の前面に取付けられ、回転体ユニット3410の回転駆動モータ3412、回転ヘッド装飾基板3416、回転検知センサ3426、及びベース装飾基板3428と、左部中継基板3020とを接続するための配線部材（図示は省略する）を押えるための配線押えである。

【0888】

[2-10D. スライドユニットによる回転体ユニットの動作]

続いて、主に図157及び図158を参照して、左右可動演出ユニット3400におけるスライドユニット3500による回転体ユニット3410の動きについて説明する。まず、スライドユニット3500の右スライドユニット3510は、図157等に示すように、通常の状態では、右ユニットベース3511の上下方向に列設された三つの支持部3511a、3511b、3511cに夫々配置・支持された回転体ユニット3410が、右端側へ最も移動した状態（初期状態）となっている。この初期状態では、各回転体ユニット3410が右ユニットベース3511の正面投影内に略納まった状態となっている。

【0889】

また、右スライドユニット3510に支持された各回転体ユニット3410が初期状態（初期位置の状態）では、各回転体ユニット3410が前面に取付けられる各スライドベース3520、3530、3540の検知片3520d、3530d、3540dが、夫々位置検知センサ3526、3536、3546に検知された状態となっている（図151を参照）。

【0890】

この初期状態から、右ユニットベース3511の各支持部3511a、3511b、3

10

20

30

40

50

5 1 1 c のモータ取付部 3 5 1 1 g に取付けられたスライド駆動モータ 3 5 2 5, 3 5 3 5, 3 5 4 5 により、各駆動ギア 3 5 1 4 を所定方向（正面視で時計回りの方向）へ回転駆動させると、駆動ギア 3 5 1 4 と噛合した減速ギア 3 5 1 5 により、スライド駆動モータ 3 5 2 5, 3 5 3 5, 3 5 4 5 の回転数が減速されて第一伝達ギア 3 5 1 6 及び第二伝達ギア 3 5 1 7 へ伝達され、第二伝達ギア 3 5 1 7 と噛合した各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 のラックギア 3 5 2 0 b, 3 5 3 0 b, 3 5 4 0 b によって、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 が、正面視で左方向へスライドすることとなる。

【0891】

そして、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 における左側のスライド受部 3 5 2 0 a, 3 5 3 0 a, 3 5 4 0 の左端が、スライドシャフト 3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1 の左端に取付けられた E リング（詳細な説明及び図示は省略する）に当接すると略同時に各スライド駆動モータ 3 5 2 5, 3 5 3 5, 3 5 4 5 の駆動が停止し、スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0、つまり、各回転体ユニット 3 4 1 0 が最も左方向へ移動した出現位置の状態（出現状態）となる。

【0892】

本例の右スライドユニット 3 5 1 0 は、右ユニットベース 3 5 1 1 の各支持部 3 5 1 1 a, 3 5 1 1 b, 3 5 1 1 c では、正面視で遊技領域 1 1 0 0 の略中心から放射状へ延びる方向へ、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0（回転体ユニット 3 4 1 0）をスライドさせるようにしているので、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 を最も右側へ移動させた初期状態の位置から、最も左側へ移動した出現状態の位置へ移動させると、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 に取付けられた回転体ユニット 3 4 1 0 の先端同士が互いに接近した状態となるようになっている。

【0893】

また、右スライドユニット 3 5 1 0 は、各スライド駆動モータ 3 5 2 5, 3 5 3 5, 3 5 4 5 の駆動制御を適宜行うことで、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0（回転体ユニット 3 4 1 0）を夫々独立してスライドさせることができ、多彩な動き（可動演出）のバリエーションを具現化することができるようになっている。

【0894】

更に、右スライドユニット 3 5 1 0 は、スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 が初期状態、或いは、出現状態の何れの位置でも、回転体ユニット 3 4 1 0 の回転装飾体 3 4 1 0 A を回転させることができるようになっており、回転体ユニット 3 4 1 0 のスライド演出と、回転装飾体 3 4 1 0 A の回転演出とを適宜組合せた多彩な可動演出を行うことができるようになっている。

【0895】

また、右スライドユニット 3 5 1 0 は、上述したように、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 を金属棒により形成された各スライドシャフト 3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1 により吊持支持させると共に、各スライドシャフト 3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1 を金属板により形成された各シャフトブラケット 3 5 2 2, 3 5 3 2, 3 5 4 2 により支持しているので、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 をガタ付かせることなくスムーズにスライド支持させることができるようになっている。従って、右スライドユニット 3 5 1 0 は、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 に、回転駆動モータ 3 4 1 2 等を備えることで重量の重くなった回転体ユニット 3 4 1 0 を取付けても、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 を問題なくスムーズにスライドさせることができるようになっていると共に、回転体ユニット 3 4 1 0 の重心が偏芯した回転装飾体 3 4 1 0 A を回転させることで回転体ユニット 3 4 1 0 から振動の原因となる変化する偏荷重が作用しても、各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 をしっかりと支持して各スライドベース 3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0 が振動するのを防止することができ、回転装飾体 3 4 1 0 A をスムーズに回転させることができるようになっている。

【0896】

一方、スライドユニット3500の左スライドユニット3550は、図158等に示すように、通常の状態では、左ユニットベース3551の上下方向に列設された三つの支持部3551a, 3551b, 3551cに夫々配置・支持された回転体ユニット3410が、左端側へ最も移動した状態（初期状態）となっている。この初期状態では、各回転体ユニット3410が左ユニットベース3551の正面投影内に略納まった状態となっている。

【0897】

また、左スライドユニット3550に支持された各回転体ユニット3410が初期状態（初期位置の状態）では、各回転体ユニット3410が前面に取付けられる各スライドベース3560, 3570, 3580の検知片3560d, 3570d, 3580dが、夫々位置検知センサ3566, 3576, 3586に検知された状態となっている（図154を参照）。

10

【0898】

この初期状態から、左ユニットベース3551の各支持部3551a, 3551b, 3551cのモータ取付部3551gに取付けられたスライド駆動モータ3565, 3575, 3585により、各駆動ギア3554を所定方向（正面視で反時計回りの方向）へ回転駆動させると、駆動ギア3554と噛合した減速ギア3555により、スライド駆動モータ3565, 3575, 3585の回転数が減速されて第一伝達ギア3556及び第二伝達ギア3557へ伝達され、第二伝達ギア3557と噛合した各スライドベース3560, 3570, 3580のラックギア3560b, 3570b, 3580bによって、各スライドベース3560, 3570, 3580が、正面視で右方向へスライドすることとなる。

20

【0899】

そして、各スライドベース3560, 3570, 3580における右側のスライド受部3560a, 3570a, 3580の右端が、スライドシャフト3561, 3571, 3581の右端に取付けられたEリング（詳細な説明及び図示は省略する）に当接すると略同時に各スライド駆動モータ3565, 3575, 3585の駆動が停止し、スライドベース3560, 3570, 3580、つまり、各回転体ユニット3410が最も左方向へ移動した出現位置の状態（出現状態）となる。

【0900】

30

本例の左スライドユニット3550は、左ユニットベース3551の各支持部3551a, 3551b, 3551cでは、正面視で遊技領域1100の略中心から放射状へ延びる方向へ、各スライドベース3560, 3570, 3580（回転体ユニット3410）をスライドさせるようにしているので、各スライドベース3560, 3570, 3580を最も左側へ移動させた初期状態の位置から、最も右側へ移動した出現状態の位置へ移動させると、各スライドベース3560, 3570, 3580に取付けられた回転体ユニット3410の先端同士が互いに接近した状態となるようになっている。

【0901】

また、左スライドユニット3550は、各スライド駆動モータ3565, 3575, 3585の駆動制御を適宜行うことで、各スライドベース3560, 3570, 3580（回転体ユニット3410）を夫々独立してスライドさせることができ、多彩な動き（可動演出）のバリエーションを具現化することができるようになっている。

40

【0902】

更に、左スライドユニット3550は、スライドベース3560, 3570, 3580が初期状態、或いは、出現状態の何れの位置でも、回転体ユニット3410の回転装飾体3410Aを回転させることができるようになっており、回転体ユニット3410のスライド演出と、回転装飾体3410Aの回転演出とを適宜組合せた多彩な可動演出を行うことができるようになっている。

【0903】

また、左スライドユニット3550は、上述したように、各スライドベース3560,

50

3570, 3580を金属棒により形成された各スライドシャフト3561, 3571, 3581により吊持支持させると共に、各スライドシャフト3561, 3571, 3581を金属板により形成された各シャフトブラケット3562, 3572, 3582により支持しているので、各スライドベース3560, 3570, 3580をガタ付かせることなくスムーズにスライド支持させることができるようになっている。従って、左スライドユニット3550は、各スライドベース3560, 3570, 3580に、回転駆動モータ3412等を備えることで重量の重くなった回転体ユニット3410を取付けても、各スライドベース3560, 3570, 3580を問題なくスムーズにスライドさせることができるようになっていると共に、回転体ユニット3410の重心が偏芯した回転装飾体3410Aを回転させることで回転体ユニット3410から振動の原因となる変化する偏荷重が作用しても、各スライドベース3560, 3570, 3580をしっかりと支持して各スライドベース3560, 3570, 3580が振動するのを防止することができ、回転装飾体3410Aをスムーズに回転させることができるようになっている。

10

【0904】

[2-11. 下可動演出ユニット]

次に、裏ユニット3000における下可動演出ユニット3600について、図159乃至図164を主に参照して説明する。図159は遊技盤の裏ユニットにおける下可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、図160は下可動演出ユニットを後から見た斜視図である。また、図161は下可動演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図162は下可動演出ユニットを主な部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。更に、図163は、下可動演出ユニットにおける昇降ユニットの動きを示す説明図である。また、図164は、下可動演出ユニットにおける昇降装飾体の動きを示す正面図である。

20

【0905】

裏ユニット3000における下可動演出ユニット3600は、裏箱3001内で開口3001cの下側且つ左右方向の略中央に取付けられるものであり、前ユニット2000におけるアタッカーユニット2100の後に位置するようになっている。この下可動演出ユニット3600は、略円筒状の上端が上方へ半球状に膨出したような砲弾状に形成された昇降装飾体3611、昇降装飾体3611を昇降可能に支持する上下方向へ延びた円筒状の昇降軸3612、及び昇降軸3612に支持された昇降装飾体3611を上下方向へ昇降駆動させる昇降ソレノイド3613を少なくとも有した昇降ユニット3610と、二つの昇降ユニット3610を左右方向に隣接した状態で支持し正面視で左右方向の中央よりも右側に配置される右支持ベース3651と、右支持ベース3651の正面視左側に配置され二つの昇降ユニット3610を左右方向に隣接した状態で支持する左支持ベース3652と、を備えている。

30

【0906】

本例の下可動演出ユニット3600は、昇降装飾体3611を有した昇降ユニット3610を四つ備えている。

【0907】

また、下可動演出ユニット3600は、右支持ベース3651及び左支持ベース3652の上端同士を連結すると共に各昇降ユニット3610の昇降軸3612の下端を支持する上カバー3653と、上カバー3653により支持された支持ベース右3651及び支持ベース左3652の前面を覆う前カバー3654と、前カバー3654及び上カバー3653の上側に配置されると共に昇降ユニット3610における昇降装飾体3611が通過可能な貫通孔3655aを有し、裏箱3001の後壁3001bの前面に取付けられる上装飾カバー3655と、を備えている。

40

【0908】

下可動演出ユニット3600は、四つの各昇降ユニット3610の上下方向に延びた昇降軸3612に対して、対応する昇降ソレノイド3613が前側又は後側の何れかに配置された状態となっている。詳述すると、右支持ベース3651に支持された正面視右側の

50

昇降ユニット3610では、昇降軸3612よりも後側に昇降ソレノイド3613が配置されていると共に、右支持ベース3651に支持された正面視左側の昇降ユニット3610では、昇降軸3612よりも前側に昇降ソレノイド3613が配置されている。また、左支持ベース3652に支持された正面視右側の昇降ユニット3610では、昇降軸3612よりも前側に昇降ソレノイド3613が配置されていると共に、左支持ベース3652に支持された正面視左側の昇降ユニット3610では、昇降軸3612よりも後側に昇降ソレノイド3613が配置されている。従って、下可動演出ユニット3600全体では、左右方向に配置された四つの昇降装飾体3611のうち、中央側の二つの昇降装飾体3611が、左右両側の二つの昇降装飾体3611よりも若干後方へオフセットした状態となっている。

10

【0909】

また、下可動演出ユニット3600は、各昇降ユニット3610における昇降ソレノイド3613が、右支持ベース3651や左支持ベース3652に対して、進退するプランジャが下方へ向かって進退するように支持されている。

【0910】

本例の下可動演出ユニット3600の昇降ユニット3610は、昇降ソレノイド3613のプランジャの先端（下端）に取付けられるプランジャホルダ3614と、プランジャホルダ3614に下端が連結され、上端が上カバー3653の上面よりも上側に延出すると共に上端に横方向（前後方向）に延びた長孔状のリンク孔3615aを有し、昇降ソレノイド3613の左右何れかの側面に配置された棒状の昇降アーム3615と、昇降アーム3615のリンク孔3615a内へ摺動可能に挿入される左右方向へ延びたリンクピン3616a、リンクピン3616aの基端側から前後方向両側へ延びリンクピン3616aを挟んで一方側に対して他方側が一方側よりも約二倍の長さで延びた棹部3616b、棹部3616bの一方側の端部に形成され昇降ソレノイド3613の直上で上カバー3653の上面に対して回転可能に支持される軸支部3616c、を有する第一アーム3616と、第一アーム3616における他方側の端部に対して下端が回転可能に支持され上方へ第一アーム3616よりも短く延出した第二アーム3617と、第二アーム3617の上端が回転可能に取付けられる連結部3618a、連結部3618aが外周下部に形成され昇降軸3612の外周に挿入される筒状の摺動部3618b、摺動部3618bの上端に形成され昇降装飾体3611の下端が取付けられる円環状の取付部3618cを備えた昇降装飾体ベース3618と、を備えている。

20

30

【0911】

また、昇降ユニット3610は、昇降装飾体3611の内部で昇降軸3612の外周に挿入され、昇降装飾体ベース3618を下方へ付勢するコイル状の付勢部材3619を更に備えている。更に、昇降ユニット3610は、円筒状の昇降軸3612内に挿入され上端が昇降軸3612よりも上側へ突出すると共に下端が昇降軸3612よりも下側へ突出した透明棒状の導光部材3620と、導光部材3620の直下に上方へ向けて光を照射可能なLEDが少なくとも実装された昇降装飾体装飾基板3621と、を備えている。昇降ユニット3610の導光部材3620は、上端に拡散レンズが形成されており、直下に配置された昇降装飾体装飾基板3621のLEDからの光を昇降軸3612の上端へ導いた上で、拡散させて昇降装飾体3611を内側から発光装飾させることができるようになっている。

40

【0912】

また、下可動演出ユニット3600は、正面視で中央側に配置された二つの昇降ユニット3610の昇降アーム3615を上下方向へスライド可能に支持すると共に、正面視で左右両側に配置された二つの昇降ユニット3610の昇降装飾体装飾基板3621を支持し、右支持ベース3651や左支持ベース3652に取付けられるガイド部材3656を更に備えている。また、下可動演出ユニット3600は、正面視で左右両側に配置された二つの昇降ユニット3610の昇降アーム3615を上下方向へスライド可能に支持すると共に、正面視で中央側に配置された二つの昇降ユニット3610の昇降装飾体装飾基板

50

3 6 2 1を支持し、右支持ベース3 6 5 1と左支持ベース3 6 5 2を連結するセンター支持部材3 6 5 7を更に備えている。

【0 9 1 3】

更に、下可動演出ユニット3 6 0 0は、前カバー3 6 5 4に取付けられ磁気を検出するための磁気検出センサ3 6 6 0を備えている。この磁気検知センサ3 6 6 0は、アタックユニット2 1 0 0付近に作用する磁気を検出することができ、磁石等を使った不正行為を検出することができるようになっている。

【0 9 1 4】

本例の下可動演出ユニット3 6 0 0の上装飾カバー3 6 5 5は、前端下部から前方へ延出した延出部3 6 5 5 bを備えている。この延出部3 6 5 5 bは遊技盤4を組立てた状態で前ユニット2 0 0 0のセンター役物2 5 0 0におけるステージ2 5 1 0の直下に位置するようになっている。そして、下可動演出ユニット3 6 0 0は、上装飾カバー3 6 5 5の延出部3 6 5 5 bの下側に取付けられ、上面に複数のLEDが実装されたステージ下右装飾基板3 6 6 1とステージ下左装飾基板3 6 6 2とを備えている。これらステージ下右装飾基板3 6 6 1及びステージ下左装飾基板3 6 6 2によって、センター役物2 5 0 0のステージ2 5 1 0を下側から発光装飾させることができるようになっている。

【0 9 1 5】

続いて、下可動演出ユニット3 6 0 0における昇降装飾体3 6 1 0の動きについて説明する。この下可動演出ユニット3 6 0 0は、通常の状態では、昇降ユニット3 6 1 0の付勢部材3 6 1 9の付勢力と重力とによって昇降装飾体3 6 1 1が下方へ降下した状態となっている（図1 6 4（a）等を参照）。昇降ユニット3 6 1 0は、昇降装飾体3 6 1 1が下降した状態では、昇降ソレノイド3 6 1 3のプランジャが下方へ突出した状態となっている。なお、昇降装飾体3 6 1 1は、昇降軸3 6 1 2を支持する上カバー3 6 5 3の上面に昇降装飾体ベース3 6 1 8における摺動部3 6 1 8 bの下端が当接することで下方への移動が規制されるようになっている。

【0 9 1 6】

昇降ユニット3 6 1 0は、昇降装飾体3 6 1 1が下降した通常の状態から、昇降ソレノイド3 6 1 3に通電することでプランジャを上昇（没入）させると、プランジャの下端に取付けられたプランジャホルダ3 6 1 4を介して昇降アーム3 6 1 5が上昇し、この昇降アーム3 6 1 5が上昇することで、昇降アーム3 6 1 5のリンク孔3 6 1 5 aに挿入された第一アーム3 6 1 6のリンクピン3 6 1 6 aも上昇することとなる。このリンクピン3 6 1 6 aを有した第一アーム3 6 1 6は、リンクピン3 6 1 6 aに近い棹部3 6 1 6 bの一方側の軸支部3 6 1 6 cが上カバー3 6 5 3に軸支されており、リンクピン3 6 1 6 aの上昇に伴って、軸支部3 6 1 6 cを中心として棹部3 6 1 6 bの他方側が上昇する方向へ回動することとなり、他方側の端部がリンクピン3 6 1 6 aの上昇よりも大きく上昇するようになっている。

【0 9 1 7】

そして、第一アーム3 6 1 6の他方側の端部に支持された第二アーム3 6 1 7を介して昇降装飾体ベース3 6 1 8が、昇降軸3 6 1 2に案内された状態で付勢部材3 6 1 9の付勢力に抗して上昇することとなる。これにより、昇降ユニット3 6 1 0の昇降装飾体ベース3 6 1 8に取付けられた昇降装飾体3 6 1 1が、上装飾カバー3 6 5 5の上面よりも大きく上昇（突出）した状態となり（図1 6 4（b）を参照）、遊技者側から充分に視認できるようになる（図1 6 7を参照）。

【0 9 1 8】

なお、上昇した昇降装飾体3 6 1 1を下降させる場合は、昇降ソレノイド3 6 1 3への通電を停止させると、付勢部材3 6 1 9の付勢力によって昇降装飾体ベース3 6 1 8が下方へ押され、上記と逆の動きをすることで昇降装飾体3 6 1 1が下降した通常の状態に復帰するようになっている。

【0 9 1 9】

また、本例の下可動演出ユニット3 6 0 0は、四つの昇降装飾体3 6 1 1が、各昇降ユ

10

20

30

40

50

ニット3610に夫々備えられた昇降ソレノイド3613によって、夫々独立して昇降することができるようになっており、四つの昇降装飾体3611の動きを適宜組合せることで、多彩な可動演出をすることができるようになっている。

【0920】

更に、下可動演出ユニット3600は、昇降装飾体装飾基板3621のLEDからの光を昇降装飾体3611へ誘導（導光）する導光部材3620を位置固定とした上で、導光部材3620に対して昇降装飾体3611を相対的に移動（昇降）させるようにしているので、昇降装飾体3611の移動位置に応じて、導光部材3620から照射される光の範囲を変化させることができ、昇降装飾体3611の発光装飾を変化させることができるようになっている。

10

【0921】

[2-12. 液晶表示装置]

続いて、本例の遊技盤4における液晶表示装置1900は、裏ユニット3000における裏箱3001の後面に脱着可能に取付けられるようになっており、遊技状態に応じて所定の演出画像を表示することができるようになっている。この液晶表示装置1900は、図114等に応示するように、上下両側から外方へ突出した固定片1902を備えており、この固定片1902を介して裏箱3001に取付けられるようになっている。

【0922】

また、液晶表示装置1900は、図112等に応示するように、周辺制御部4140や液晶制御部4150（図168を参照）等を収容した周辺制御基板ボックス1910と、周辺制御基板ボックス1910の下部から後方へ延出したボリューム1912と、を備えている。このボリューム1912を適宜方向へ回転させることで、扉枠5に備えられた各スピーカ130、222、262や本体枠3に備えられたスピーカ821等から出力される音量を調節することができるようになっている。

20

【0923】

また、液晶表示装置1900は、バックライト（本例では、冷陰極管）を点灯させるためのインバータ基板4163（図168を参照）を収容したインバータ基板ボックス1920が、背面視で周辺制御基板ボックス1910の左側に備えられている。

【0924】

[2-13. 遊技盤における可動演出]

次に、本実施形態の遊技盤4における各可動演出ユニット3300、3400、3600を用いた可動演出について、図165乃至図167を主に参照して説明する。図165は、遊技盤における裏ユニットの上可動演出ユニットの動きを示す説明図である。また、図166は、遊技盤における裏ユニットの左右可動演出ユニットの動きを示す説明図である。更に、図167は、遊技盤における裏ユニットの下可動演出ユニットの動きを示す説明図である。

30

【0925】

本例の遊技盤4は、図109等に応示するように、通常の状態では、後ユニット3000に備えられた可動する上可動演出ユニット3300の上可動ユニット3310が上昇した回避位置に位置しており、この状態では、上可動ユニット3310のキャラクターベースカバー3319を除いて前ユニット2000におけるセンター役物2500のセンターロゴ装飾部材2520の後側に位置することとなり、キャラクター体3311や背面装飾部材3330等が遊技者から見えないようになっている。

40

【0926】

また、遊技盤4は、通常の状態では、後ユニット3000における左右可動演出ユニット3400の各回転体ユニット3410が、遊技領域1100の中央から遠ざかった初期状態の位置に位置していると共に、各回転体ユニット3410の回転装飾体3410Aが、回転ヘッド3415におけるハート型の透光性を有した部位が遊技領域1100の中央に対して接近した向きとなる回転位置（回転装飾体3410Aの回転中心と遊技領域1100の中央とを結んだ軸線上で、遊技領域1100の中央に近い側の位置にハート型の部

50

位が位置した状態)で停止した状態となっている。

【0927】

なお、左右可動演出ユニット3400の各回転体ユニット3410が、初期位置の状態では、回転装飾体3410Aにおける正面視略円形状の回転ヘッド3415が、センター役物2500の右枠の内周に形成された三つの略半円形状に湾曲した窪みや、裏飾りユニット3100の左裏飾り部材3111の右端に形成された三つの略半円形状に湾曲した窪み内に収容された状態となっており、センター役物2500や裏飾りユニット3100等の装飾と一体となっているように見えるようになっている。

【0928】

更に、遊技盤4は、通常の状態では、後ユニット3000における下可動演出ユニット3600の四つの昇降ユニット3610の各昇降装飾体3611が下降した状態となっており、センター役物2500の透明なステージ2510を通して昇降装飾体3611の上部が僅かに見えるようになっている。

10

【0929】

本例の遊技盤4は、上可動演出ユニット3300の昇降駆動モータ3361によりカムリンクギア3364を背面視で時計回りの方向へ回転駆動させると、リンクピン3364bがカムリンクギア3364の回転中心の周りを公転すると共に、昇降アーム3365における長孔状の接続部3365e内を基端部3365aから遠ざかる方向へ摺動することとなる。そして、昇降アーム3365は、接続部3365e内を摺動するリンクピン3364bの公転に伴って、基端部3365aを中心として回転することとなる。

20

【0930】

そして、昇降アーム3365が背面視で時計回りの方向へ回転すると、連結摺動部材3365が、昇降アーム3365の連結部3365b内を摺動すると同時に案内溝3351a内を摺動し、連結摺動部材3365に支持された連結軸3366を介して昇降スライド3354つまり上可動ユニット3310が下方へスライド(昇降)することとなる。

【0931】

これにより、上可動ユニット3310の一对のキャラクタ体3311や背面装飾部材3330等が、センター役物2500のセンターロゴ装飾部材2520よりも下側に位置した状態となり、図165に示すように、遊技者側からキャラクタ体3311等が視認できる状態となる。つまり、一对のキャラクタ体3311が出現することとなる。

30

【0932】

なお、上可動演出ユニット3300における一对のキャラクタ体3311は、上下方向へ延びた軸線に対して互いに異なる方向へ回転することができるようになっているので、上可動ユニット3310が出現位置へ下降させて一对のキャラクタ体3311を出現させる可動演出だけでなく、一对のキャラクタ体3311を互いに回転させる可動演出も行うことができるようになっている。

【0933】

この上可動演出ユニット3300による可動演出のパターンとしては、図示は省略するが、例えば、上可動ユニット3310が退避位置の時に一对のキャラクタ体3311が夫々後を向くように回転停止させ、この状態で上可動ユニット3310を下降させて一对のキャラクタ体3311を出現させる。その後、一对のキャラクタ体3311が前を向くように回転させる。これにより、一对のキャラクタ体3311が後を向いた状態で出現するので、その後、回転して一对のキャラクタ体3311が前を向くと、遊技者に対してチャンスの到来を強く抱かせることができるので、出現した一对のキャラクタ体3311が前を向くか否かで遊技者をワクワク・ドキドキさせることができ、期待感を高めて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができるようになる。

40

【0934】

或いは、出現させた一对のキャラクタ体3311の回転に合わせて、所定の音楽を出力するようにしても良く、これにより、一对のキャラクタ体3311が音楽に合わせてあたかも踊っているように錯覚させることができ、遊技者に対して一对のキャラクタ体3311の

50

動きを楽しませて興味が低下するのを抑制することができるようになる。

【0935】

また、本例の遊技盤4は、正面視で液晶表示装置1900の左右両側に配置された左右可動演出ユニット3400における六つの回転体ユニット3410の各回転駆動モータ3412を回転駆動させると、回転体ユニット3410の最前端に配置され略半球状の回転ヘッド3415が回転すると共に、回転ヘッド3415の後側に配置された一对のアーム部材3423が回転ヘッド3415と共に回転しながら互いに離反したり接近したりして回転軸に対して進退する動きをするようになっている。これにより、回転しながら手を模した一对のアーム部材3423が開いたり閉じたりしているように見え、遊技者の関心を強く引付けることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができるようになる。

10

【0936】

この左右可動演出ユニット3400では、六つの回転装飾体3410Aの回転を、夫々同じタイミングで回転させるようにしても良いし、回転させるタイミングを夫々異ならせるようにしても良い。なお、六つの回転装飾体3410Aを回転させるタイミングを夫々異ならせるようにした場合は、回転ヘッド3415の向きや一对のアーム部材3423の進退するタイミングが異なることで、遊技機4全体としては、各回転装飾体3410Aが揺れているように錯覚させることができ、より目立たせることができるようになる。

【0937】

また、左右可動演出ユニット3400では、六つの回転体ユニット3410と夫々対応したスライド駆動モータ3525、3535、3545、3565、3575、3585を回転駆動させること、各回転体ユニット3410を取付けた各スライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580が遊技領域1100の中央へ向かう方向へスライドし、図166に示すように、六つの回転体ユニット3410が遊技領域1100の中央側へ寄った出現位置の状態となるようになっている。この状態では、各回転体ユニット3410が遊技領域1100の中央側へ位置することで、遊技者側からより目立つようになり、遊技者の関心を強く引付けることができるようになる。

20

【0938】

遊技盤4は、図166に示すように、左右可動演出ユニット3400における六つの回転体ユニット3410を出現位置へ位置させた状態では、各回転体ユニット3410の回転装飾体3410Aにおける回転ヘッド3415が、センター役物2500や裏飾りユニット3100に形成された略半円形状に湾曲した窪み内から飛び出したような状態となり、センター役物2500や裏飾りユニット3100の装飾から離れて回転体ユニット3410が目立つ状態となっている。

30

【0939】

また、左右可動演出ユニット3400は、図166に示すような、各回転体ユニット3410を遊技領域1100の中央側へ寄った出現位置に位置させることで、液晶表示装置1900の可視範囲を狭くすることができ、液晶表示装置1900の視認範囲を物理的に変化させて遊技者の関心を強く引付けることができるようになっている。

【0940】

40

更に、左右可動演出ユニット3400では、図166に示すような、各回転体ユニット3410を出現位置に位置させた状態で、回転駆動モータ3412により回転装飾体3410Aを回転させるようにしても良く、これにより、遊技者に対して回転装飾体3410Aの回転演出をより見易くすることができ、遊技者を楽しませることができると共に、遊技領域1100全体で広く可動演出（回転演出）が行われることとなり、遊技者に遊技に対する期待感を強く抱かせることが可能となり、興味が低下するのを抑制することができるようになる。

【0941】

なお、左右可動演出ユニット3400では、各回転体ユニット3410を夫々区々に遊技領域1100の中央寄りの方向へスライドさせるようにしても良く、これにより、遊技

50

者に対して、スライドする回転体ユニット 3 4 1 0 の位置や、スライドする回転体ユニット 3 4 1 0 の数等によって、チャンスの到来を示唆しているものと思わせることが可能となり、複数の回転体ユニット 3 4 1 0 による可動演出に対して期待感を持たせることができ、可動演出が行われることを楽しみにさせて飽き難いパチンコ機 1 とすることができるようになる。

【0 9 4 2】

また、左右可動演出ユニット 3 4 0 0 では、各回転体ユニット 3 4 1 0 のスライド演出や回転装飾体 3 4 1 0 A の回転演出に応じて、後側に配置された液晶表示装置 1 9 0 0 に演出画像を表示させるようにしても良く、可動演出と演出画像とによるコラボレーション演出によって遊技者をより楽しませることができるようになる。

10

【0 9 4 3】

更に、左右可動演出ユニット 3 4 0 0 では、一つの回転体ユニット 3 4 1 0 に対して、その回転体ユニット 3 4 1 0 における遊技領域 1 1 0 0 の中央寄り側の液晶表示装置 1 9 0 0 の領域に、回転体ユニット 3 4 1 0 の可動演出と対応した特定の演出画像を表示させるようにし、可動演出を行う回転体ユニット 3 4 1 0 の位置に合わせて、液晶表示手段 1 9 0 0 における特定の演出画像を表示させる領域を変化させるようにしても良く、これにより、回転体ユニット 3 4 1 0 と特定演出画像とによる演出（特定演出）が、六つの略同じ形状の回転体ユニット 3 4 1 0 を配置した任意の位置で行うことができるので、これまでのパチンコ機では見ることができなかった演出を遊技者に見せることが可能となり、遊技者を驚かせることができると共に楽しませることができ、興味が低下するのを抑制することができるようになる。

20

【0 9 4 4】

更に、本例の遊技盤 4 は、センター役物 2 5 0 0 におけるステージ 2 5 1 0 の後側に配置された下可動演出ユニット 3 6 0 0 の四つの昇降ユニット 3 6 1 0 における各昇降ソレノイド 3 6 1 3 を駆動させることで、図 1 6 7 に示すように、各昇降装飾体 3 6 1 1 を上昇させることができ、四つの昇降装飾体 3 6 1 1 を上昇させることで、各昇降装飾体 3 6 1 1 の上端がステージ 2 5 1 0 よりも上側へ突出した状態となるようになっている。

【0 9 4 5】

これにより、ステージ 2 5 1 0 の後側且つ下側から昇降装飾体 3 6 1 1 が、上昇することで突出して液晶表示装置 1 9 0 0 の下部前面に突出するので、遊技者に対して昇降装飾体 3 6 1 1 の上昇に気付かせ易くすることができ、上昇した昇降装飾体 3 6 1 1 に注目させて、昇降装飾体 3 6 1 1 の装飾や動き等を楽しませることができるようになっている。

30

【0 9 4 6】

また、下可動演出ユニット 3 6 0 0 は、四つの昇降装飾体 3 6 1 1 を夫々別々に昇降させることができるので、四つの昇降装飾体 3 6 1 1 を昇降させるパターンを適宜選択することで様々な昇降演出を行うことができ、飽き難い可動演出を行うことができるようになっている。

【0 9 4 7】

更に、下可動演出ユニット 3 6 0 0 では、昇降ユニット 3 6 1 0 の昇降装飾体 3 6 1 1 を発光装飾させるための昇降装飾体装飾基板 3 6 2 1 からの光を導く導光部材 3 6 2 0 が、昇降装飾体 3 6 1 1 に対して位置固定とされているので、昇降装飾体 3 6 1 1 を昇降させると導光部材 3 6 2 0 （の上端）との距離が変化するようになっており、昇降装飾体 3 6 1 1 の発光具合や、発光範囲を変化させることができ、昇降装飾体 3 6 1 1 の発光演出も楽しませることができるようになっている。

40

【0 9 4 8】

また、下可動演出ユニット 3 6 0 0 では、四つの昇降装飾体 3 6 1 1 を夫々独立して昇降させることができるので、例えば、始動入賞により保留された抽選結果の数を、上昇させる昇降装飾体 3 6 1 1 の数で表すようにしても良く、従来のパチンコ機のように、ランプの点灯数や画像等によって表示する場合と比較して、保留数をより目立ち易くすることができ、保留された抽選結果に対する期待感を高めさせて興味が低下するのを抑制するこ

50

とができるようになっている。なお、この場合、昇降装飾体 3611 の発光色によって保留している抽選結果の種類を示唆するようにしても良く、より多彩な保留表示を行うことができる。

【0949】

[3. 各種基板]

続いて、パチンコ機 1 の各種制御を行う制御基板について、図 168 を参照して説明する。図 168 はパチンコ機の制御構成を概略的に示すブロック図。パチンコ機 1 の制御構成は、図示するように、主基板 4000 のグループ及び周辺制御基板 4010 のグループから構成されており、これら 2 つのグループにより各種制御が分担されている。主基板 4000 のグループは、遊技動作（遊技の進行）を制御する主制御基板 4100 と、遊技球の払出し等を制御する払出制御基板 4110 と、を備えて構成されている。また、周辺制御基板 4010 のグループは、主制御基板 4100 からのコマンドに基いて各種演出を制御する周辺制御部 4140 と、周辺制御部 4140 からのコマンドに基いて液晶表示装置 1900 での演出画像の表示を制御する液晶制御部 4150 と、を備えている。

【0950】

[3-1. 主制御基板]

遊技の進行を制御する主制御基板 4100 は、図 168 に示すように、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶する ROM や一時的にデータを記憶する RAM 等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御 MPU 4100a と、入出力デバイス（I/O デバイス）としての主制御 I/O ポート 4100b と、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路 4100f と、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路 4100g と、主制御 MPU 4100a に内蔵されている RAM 4100e（以下、「主制御内蔵 RAM 4100e」とも記載する。）に記憶された情報を完全に消去するための RAM クリアスイッチ 4100c と、を備えている。主制御 MPU 4100a は、その内蔵された ROM 4100d（以下、「主制御内蔵 ROM 4100d」とも記載する。）や主制御内蔵 RAM 4100e のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【0951】

主制御基板 4100 の主制御 MPU 4100a は、第一始動口 2101 へ受入れられた遊技球を検出する第一始動口センサ 3231、第二始動口 2102 へ受入れられた遊技球を検出する第二始動口センサ 2127、及び一部の一般入賞口センサ 3232 からの検出信号が夫々主制御 I/O ポート 4100b を介して入力されたり、ゲートセンサ 2402、一般入賞口センサ 3232、カウントセンサ 2128 及び裏ユニット 3000 に取付けられた磁気検出センサ 3660 からの検出信号が、遊技盤 4 に取付けられたパネル中継基板 3012、及び主制御 I/O ポート 4100b を介して入力されたりするようになっている。

【0952】

主制御 MPU 4100a は、これらの検出信号に基づいて、主制御 I/O ポート 4100b から主制御ソレノイド駆動回路 4100g に制御信号を出力することにより、パネル中継基板 3012 を介して始動口ソレノイド 2121 及びアタッカソレノイド 2124 に駆動信号を出力したり、主制御 I/O ポート 4100b、パネル中継基板 3012、センタ役物 2500 の保留表示基板 2603、及び機能表示基板 1191 を介して第一特別図柄表示器 1185、第二特別図柄表示器 1186、第一特別図柄記憶表示器 1184、第二特別図柄記憶表示器 1187、普通図柄表示器 1189、普通図柄記憶表示器 1188、遊技状態表示器 1183 に駆動信号を出力したりする。

【0953】

このように、主制御 MPU 4100a が、こうした検出信号に基づいて ROM に格納されている制御プログラムを実行することで、上記始動口ソレノイド 2121、及びアタッカソレノイド 2124 など、各種のアクチュエータに適宜に駆動信号が出力されるようになり、これによって当該パチンコ機 1 にて行われる各種の遊技が予め定められた手順に従

10

20

30

40

50

って進行するようになる。

【0954】

なお、本実施形態において、第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127、ゲートセンサ2402、及びカウントセンサ2128には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ3232には、接触タイプのON/OFF動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球が第一始動口2101や第二始動口2102に頻繁に入球するし、ゲート部2401を頻繁に通過するため、第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127、及びゲートセンサ2402による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127、及びゲートセンサ2402には、寿命の長い近接スイッチを用いている。また、遊技者にとって有利となる大当り遊技状態が発生すると、大入賞口2103が開放されて遊技球が頻繁に入球するため、カウントセンサ2128による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、カウントセンサ2128にも、寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球が頻繁に入球しない一般入賞口2104には、一般入賞口センサ3232による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ3232には、近接スイッチより寿命が短くとも安価なメカニカルスイッチを用いている。

10

【0955】

また、主制御MPU4100aは、遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払出しに関する各種コマンド等を払出制御基板4110に送信したり、この払出制御基板4110からのパチンコ機1の状態に関する各種コマンド等を受信したりする。更に、主制御MPU4100aは、遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機1の状態に関する各種コマンドを、主制御I/Oポート4100bを介して後述する周辺制御基板4010の周辺制御部4140に送信したりする（主制御基板4100と周辺制御部4140との基板間は図示しないハーネスより電氣的に接続されている）。なお、主制御MPU4100aは、その詳細な説明は後述するが、払出制御基板4110からパチンコ機1の状態に関する各種コマンドを受信すると、これらの各種コマンドを整形して周辺制御部4140に送信する。

20

【0956】

主制御基板4100には、詳細な説明は後述するが、電源基板851から各種電圧が供給されている。この主制御基板4100に各種電圧を供給する電源基板851は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板4100に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）BC0（図169参照）を備えている。このキャパシタBC0により主制御MPU4100aは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を主制御内蔵RAM4100eに記憶することができるになっている。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板4100のRAMクリアスイッチ4100cが操作されると、主制御内蔵RAM4100eから完全に消去（クリア）されるようになっている。このRAMクリアスイッチ4100cの操作信号（検出信号）は、払出制御基板4110にも出力されるようになっている。

30

【0957】

また、主制御基板4100には、停電監視回路が設けられている。この停電監視回路は、電源基板851から供給される各種電圧の低下を監視しており、それらの電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号を出力するようになっている。この停電予告信号は、主制御I/Oポート4100bを介して主制御MPU4100aに入力される他に図示しないハーネスを介して払出制御基板4110等にも伝達されている。

40

【0958】

[3-2. 払出制御基板]

遊技球の払出し等を制御する払出制御基板4110は、図168に示すように、払出しに関する各種制御を行う払出制御部4111と、発射ソレノイド654による発射制御を行うとともに、球送ソレノイド585による球送制御を行う発射制御部4120と、パチンコ遊技機1の状態を表示するエラーLED表示器4130と、エラーLED表示器41

50

30に表示されているエラーを解除するためのエラー解除スイッチ860aと、賞球タンク720、タンクレール731、及び賞球装置740内の遊技球をパチンコ遊技機1の外部へ排出して球抜き動作を開始するための球抜きスイッチ860bと、を備えている。

【0959】

[3-2A. 払出制御部]

払出制御基板4110における払出しに関する各種制御を行う払出制御部4111は、図168に示すように、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するROMや一時的にデータを記憶するRAM等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御MPU4111aと、I/Oデバイスとしての払出制御I/Oポート4111bと、払出制御MPU4111aが正常に動作しているか否かを監視するための外部ウォッチドックタイマ4111c（以下、「外部WDT4111c」と記載する。）と、賞球装置740の払出モータ744に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路4111dと、払い出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路4111eと、を備えている。払出制御MPU4111aには、その内蔵されたROM（以下、「払出制御内蔵ROM」と記載する。）やRAM（以下、「払出制御内蔵RAM」と記載する。）のほかに、不正を防止するため機能等も内蔵されている。

【0960】

払出制御部4111の払出制御MPU4111aは、主制御基板4100からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドを払出制御I/Oポート4111bを介してシリアル方式で受信したり、主制御基板4100からのRAMクリアスイッチ4100cの操作信号（検出信号）が払出制御I/Oポート4111bを介して入力されたりする他に、満タン検知センサ550からの検出信号が入力されたり、球切れスイッチ750、計数センサ751及び回転角センサ752からの検出信号が賞球中継基板754を介して入力されたりする。

【0961】

賞球装置740のベースユニット741に形成された供給通路741a内に遊技球の有無を検出する球切れスイッチ750、及びベースユニット741に形成された賞球通路741c内を流下する遊技球を検出する計数センサ751からの検出信号は、まず賞球装置740の賞球中継基板754を介して払出制御入力回路4111eに入力され、払出制御I/Oポート4111bを介して払出制御MPU4111aに入力されている。賞球装置740の回転検出盤749に形成された検出スリット749aを検出するための回転角センサ752からの検出信号は、まず賞球装置740のセンサ基板753、そして賞球中継基板754を介して払出制御入力回路4111eに入力され、払出制御I/Oポート4111bを介して払出制御MPU4111aに入力されている。

【0962】

また、本体枠3に対する扉枠5の開放を検出する扉枠開放スイッチ618、及び外枠2に対する本体枠3の開放を検出する本体枠開放スイッチ619からの検出信号は、まず払出制御入力回路4111eに入力され、払出制御I/Oポート4111bを介して払出制御MPU4111aに入力されている。

【0963】

また、ファールカバーユニット540の収容空間546が貯留された遊技球で満タンであるか否かを検出する満タン検知センサ550からの検出信号は、まずハンドル装置中継基板192、そして主側中継端子板880を介して払出制御入力回路4111eに入力され、払出制御I/Oポート4111bを介して払出制御MPU4111aに入力されている。

【0964】

払出制御MPU4111aは、払出モータ744を駆動するための駆動信号を、払出制御I/Oポート4120b、そして賞球中継基板754を介して払出モータ744に出力したり、パチンコ遊技機1の状態をエラーLED表示器4130に表示するための信号を、払出制御I/Oポート4111bを介してエラーLED表示器4130に出力したり、パチン

コ遊技機 1 の状態を示すためのコマンドを、払出制御 I / O ポート 4 1 1 1 b を介して主制御基板 4 1 0 0 にシリアル方式で送信したり、実際に払い出した遊技球の球数を払出制御 I / O ポート 4 1 1 1 b を介して外部端子板 7 8 4 に出力したりする。この外部端子板 7 8 4 は、遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータと電氣的に接続されている部分であり、これによってホールコンピュータが、パチンコ遊技機 1 が払い出した遊技球の球数やパチンコ遊技機 1 の遊技情報等を把握し、遊技者の遊技を監視することができるようになる。

【0965】

このような払出制御部 4 1 1 1 によれば、主制御基板 4 1 0 0 からの払い出しに関する各種コマンドに基づいて R O M に格納されている制御プログラムが実行されることで、上述の如く払出モータ 7 4 4 に駆動信号が出力されるようになり、ひいては上記受信された払い出しに関するコマンドにより示される賞球数だけ遊技球が払い出されるようになる。

【0966】

また、エラー L E D 表示器 4 1 3 0 は、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ遊技機 1 の状態を表示している。エラー L E D 表示器 4 1 3 0 が表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「—」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「0」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板 4 1 0 0 と払出制御基板 4 1 1 0 との基板間の電氣的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「1」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切れスイッチ 7 5 0 からの検出信号に基づいて賞球装置 7 4 0 のベースユニット 7 4 1 に形成された供給通路 7 4 1 a 内に遊技球がない旨）を報知し、数字「2」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、回転角センサ 7 5 2 からの検出信号に基づいて賞球装置 7 4 0 のベースユニット 7 4 1 に形成された供給通路 7 4 1 a と連通する振分空間 7 4 1 b の入口において払出回転体 7 4 8 と遊技球とがその入口近傍でかみ合って払出回転体 7 4 8 が回転困難となっている旨）を報知し、数字「3」が表示されているときには「計数スイッチエラー」である旨（具体的には、計数センサ 7 5 1 からの検出信号に基づいて計数センサ 7 5 1 に不具合が生じている旨）を報知し、数字「5」が表示されているときには「リトライエラー」である旨（具体的には、払い出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「6」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ 5 5 0 からの検出信号に基づいてファールカバーユニット 5 4 0 の収容空間 5 4 6 が貯留された遊技球で満タンである旨）を報知し、数字「7」が表示されているときには「C R 未接続」である旨（払出制御基板 4 1 1 0 から C R ユニット 6 までに亘るいずれかにおいて電氣的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「9」が表示されているときには「ストック中」である旨（具体的には、まだ払い出していない遊技球の球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

【0967】

球貸スイッチ 3 6 5 a からの遊技球の球貸要求信号、及び返却スイッチ 3 6 5 b からのプリペイドカードの返却要求信号は、まず度数表示板 3 6 5、主側中継端子板 8 8 0、そして C R ユニット接続端子板 8 7 4 を介して C R ユニット 6 に入力されるようになっている。C R ユニット 6 は、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球の球数を指定した信号を、C R ユニット接続端子板 8 7 4 を介して払出制御基板 4 1 1 0 にシリアル方式で送信し、この信号が払出制御 I / O ポート 4 1 1 1 b で受信されて払出制御 M P U 4 1 1 1 a に入力されるようになっている。また C R ユニット 6 は、貸し出した遊技球の球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度を残度数表示器 3 6 5 c に表示するための信号を、C R ユニット接続端子板 8 7 4、主側中継端子板 8 8 0、そして度数表示板 3 6 5 に出力し、この信号が残度数表示器 3 6 5 c に入力されるようになっている。

【0968】

[3-2B. 発射制御部]

発射ソレノイド 6 5 4 による発射制御と、球送ソレノイド 5 8 5 による球送制御と、を行う発射制御部 4 1 2 0 は、図 1 6 8 に示すように、発射に関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される発射制御入力回路 4 1 2 0 a と、定時間毎にクロック信号を出力する発振回路 4 1 2 0 b と、このクロック信号に基づいて遊技球を遊技領域 1 1 0 0 に向かって打ち出すための発射基準パルスを出力する発射タイミング制御回路 4 1 2 0 c と、この発射基準パルスに基づいて発射ソレノイド 6 5 4 に駆動信号を出力する発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d と、発射基準パルスに基づいて球送ソレノイド 5 8 5 に駆動信号を出力する球送ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 e と、を備えている。発射タイミング制御回路 4 1 2 0 c は、発振回路 4 1 2 0 b からのクロック信号に基づいて、1 分当たり 1 0 0 個の遊技球が遊技領域 1 1 0 0 に向かって打ち出されるよう発射基準パルスを生成して発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d に出力するとともに、発射基準パルスを所定数倍した球送基準パルスを生成して球送ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 e に出力する。

10

【0969】

回転ハンドル本体前 5 0 6 に手のひらや指が触れているか否かを検出するタッチセンサ 5 1 6、及び遊技者の意志によって遊技球の打ち出しを強制的に停止するか否かを検出する発射停止スイッチ 5 1 8 からの検出信号は、まずハンドル装置中継基板 1 9 2、そして主側中継端子板 8 8 0 を介して発射制御入力回路 4 1 2 0 a に入力され、発射タイミング制御回路 4 1 2 0 c に入力されている。また CR ユニット 6 と CR ユニット接続端子板 8 7 4 とが電氣的に接続されると、CR 接続信号として発射制御入力回路 4 1 2 0 a に入力され、発射タイミング制御回路 4 1 2 0 c に入力されるようになっている。回転ハンドル本体前 5 0 6 の回転位置に応じて遊技球を遊技領域 1 1 0 0 に向かって打ち出す強度を電氣的に調節する回転位置検知センサ 5 1 2 からの信号は、まずハンドル装置中継基板 1 9 2、そして主側中継端子板 8 8 0 を介して発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d に入力されている。

20

【0970】

この発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d は、回転位置検知センサ 5 1 2 からの信号に基づいて、回転ハンドル本体前 5 0 6 の回転位置に見合う打ち出し強度で遊技球を遊技領域 1 1 0 0 に向かって打ち出すための駆動電流を、発射基準パルスが入力されたことを契機として、発射ソレノイド 6 5 4 に出力するようになっている。これに対して、球送ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 e は、球送基準パルスが入力されたことを契機として、主側中継端子板 8 8 0、そしてハンドル装置中継基板 1 9 2 を介して球送ソレノイド 5 8 5 に一定電流を出力することにより球送ユニット 5 8 0 の球送部材 5 8 4 が皿ユニット 3 0 0 の上皿 3 0 1 に貯留された遊技球を 1 球受入れ、その球送基準パルスの入力終了したことを契機として、その一定電流の出力を停止することにより球送部材 5 8 4 が受入れた遊技球を打球発射装置 6 5 0 側へ送るようになっている。このように、発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d から発射ソレノイド 6 5 4 に出力される駆動電流は可変に制御されるのに対して、球送ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 e から球送ソレノイド 5 8 5 に出力される駆動電流は一定に制御されている。

30

【0971】

なお、払出制御基板 4 1 1 0 に各種電圧を供給する電源基板 8 5 1 は、電源遮断時にも所定時間、払出制御基板 4 1 1 0 に電力を供給するためのバックアップ電源としてのキャパシタ BC 1 (図 1 6 9 参照)を備えている。このキャパシタ BC 1 により払出制御 MPU 4 1 1 1 a は、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を払出制御内蔵 RAM に記憶することができるようになっている。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板 4 1 0 0 の RAM クリアスイッチ 4 1 0 0 c が操作されると、払出制御内蔵 RAM から完全に消去 (クリア) されるようになっている。

40

【0972】

[3-3. 周辺制御基板]

周辺制御基板 4 0 1 0 は、図 1 6 8 に示すように、主制御基板 4 1 0 0 からのコマンドに基づいて演出制御を行う周辺制御部 4 1 4 0 と、この周辺制御部 4 1 4 0 からの制御デ

50

ータに基づいて液晶表示装置 1900 の描画制御を行う液晶制御部 4150 と、を備えている。

【0973】

[3-3A. 周辺制御部]

周辺制御基板 4010 における演出制御を行う周辺制御部 4140 は、図 168 に示すように、マイクロプロセッサとしての周辺制御 MPU 4140a と、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶する周辺制御 ROM 4140b と、高音質の演奏を行う音源 IC 4140c と、この音源 IC 4140c が参照する音楽及び効果音等の音情報が記憶されている音 ROM 4140d と、を備えている。

【0974】

周辺制御 MPU 4140a は、パラレル I/O ポート、シリアル I/O ポート等を複数内蔵しており、主制御基板 4100 から各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、遊技盤 4 の各装飾基板に設けられたカラー LED 等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアル I/O ポートからランプ駆動基板 4170 に送信したり、遊技盤 4 に設けられた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電氣的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側駆動データと、遊技盤 4 に備えられた各装飾基板のカラー LED 等へ点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号等を出力するための遊技盤発光データと、から構成される遊技盤側駆動発光データを遊技盤装飾駆動基板用シリアル I/O ポートから裏箱 3001 の後面に取付けられた各中継基板 3014, 3016, 3018, 3020 に送信したり、扉枠 5 に設けられたダイヤル駆動モータ 414 等の電氣的駆動源への駆動信号を出力するための扉側駆動データと、扉枠 5 の各装飾基板に設けられたカラー LED 等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データと、から構成される扉側駆動発光データを枠装飾駆動基板用シリアル I/O ポートから周辺パネル中継端子板 872、そして周辺側中継端子板 882 を介して扉枠ベース基板 194 に送信したり、液晶表示装置 1900 に表示させる画面を示す制御データ（表示コマンド）を液晶制御部用シリアル I/O ポートから液晶制御部 4150 に送信したりするほかに、音 ROM 4140d から音情報を抽出するための制御信号（音コマンド）を音源 IC 4140c に出力したりする。

【0975】

遊技盤 4 に設けられた各種可動体の原位置を検出するための各種原位置検出センサからの検出信号は、裏箱 3001 の後面に取付けられた各中継基板 3014, 3016, 3018, 3020 を介して周辺制御 MPU 4140a に入力されている。扉枠 5 に設けられた操作ユニット 400 のダイヤル操作部 401 の回転を検出する回転検知センサ 432a, 432b、押圧操作部 405 の操作を検出する押圧検知センサ 432c からの検出信号は、扉枠ベース基板 194、周辺側中継端子板 882、そして周辺パネル中継端子板 872 を介して周辺制御 MPU 4140a に入力されている。

【0976】

また周辺制御 MPU 4140a は、液晶制御部 4150 が正常に動作している旨を伝える信号（動作信号）が液晶制御部 4150 から入力されており、この動作信号に基づいて液晶制御部 4150 の動作を監視している。

【0977】

音源 IC 4140c は、周辺制御 MPU 4140a からの制御データ（音コマンド）に基づいて音 ROM 4140d から音情報を抽出し、周辺パネル中継端子板 872、そして周辺側中継端子板 882 を介して本体枠 3 に設けられたスピーカ 821 から各種演出に合わせた音楽及び効果音等が流れるよう制御を行うとともに、周辺パネル中継端子板 872、周辺側中継端子板 882、そして扉枠ベース基板 194 を介して扉枠 5 に設けられたスピーカ 130, 222, 262 や、本体枠 3 に備えられたスピーカ 821 から各種演出に合わせた音楽及び効果音等が流れるよう制御を行っている。なお、周辺制御基板 4010 に実装され周辺制御基板ボックス 1910 から後方へ突出したボリューム 1912 を回転操作することで、音量を調整することができるようになっている。

【0978】

なお、周辺制御部4140は、周辺制御MPU4140aに内蔵されたウォッチドックタイマ（以下、「周辺制御内蔵WDT」と記載する。）のほかに、図示しない、外部ウォッチドックタイマ（以下、「周辺制御外部WDT」と記載する。）も備えており、周辺制御MPU4140aは、周辺制御内蔵WDTと周辺制御外部WDTとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。

【0979】

この周辺制御MPU4140aから液晶制御部4150に出力される表示コマンドはシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレート（単位時間あたりに送信できるデータの大きさ）として19.2キロ（k）ビーピーエス（bits per second、以下、「bps」と記載する）が設定されている。一方、周辺制御MPU4140aから裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020に出力される、初期データ、扉枠側点灯点滅コマンド、遊技盤側点灯点滅コマンド、可動体駆動コマンド、表示コマンドと異なる複数のシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレートとして250kbpsが設定されている。

10

【0980】

この裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020は、受信した扉枠側点灯点滅コマンドに基いて点灯信号又は点滅信号を、周辺側中継端子板882を介して扉枠5に備えられた各装飾基板214、216、254、256、286、320、322、430、432等のLEDに出力したり、受信した遊技盤側点灯点滅コマンドに基いて点灯信号又は点滅信号を遊技盤4に備えられた各装飾基板2523、2532、3112、3122、3132、3318、3334、3335、3416、3428、3621、3661、3662のLEDに出力したりする。また、裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020は、受信した可動体の駆動コマンドに基いて駆動信号を、周辺側中継端子板882を介して扉枠5に備えられたダイヤル駆動モータ414や、遊技盤4に備えられた各駆動モータ3315、3361、3412、3525、3535、3545、3565、3575、3585及びソレノイド3610に出力したりする。

20

【0981】

また、周辺制御MPU4140aは、液晶制御部4150が正常動作している旨を伝える信号（動作信号）が液晶制御部4150から入力されたり、扉枠5における皿ユニット300に備えられた操作ユニット400におけるダイヤル操作部401の回転操作を検知する回転検知センサ432a、432bや、操作ユニット400における押圧操作部405の操作を検知する押圧検知センサ432cからの検知信号が、周辺側中継端子板882及び裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020を介して入力されたりする。

30

【0982】

音源IC4140cは、周辺制御MPU4140aから出力された音コマンドに基いて音ROM4140dから音情報を抽出し、裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020及び周辺側中継端子板882を介して扉枠5のサイドスピーカ130や上部スピーカ222、262から、或いは、裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020を介して本体枠3のスピーカ821から、各種演出に合せた音楽及び効果音等が流れるよう制御を行う。本例では、上述したように、遊技窓101における下辺の左右両側に配置されたサイドスピーカと、遊技窓101の上側に配置された上部スピーカ222、262と、本体枠3の下部に備えられた低音用のスピーカ821に、音情報としての音響信号（例えば、2chステレオ信号、4chステレオ信号、後述する下部スピーカ391を加えた2.1chサラウンド信号或いは4.1chサラウンド信号、等）を送ることで、従来よりも臨場感のある音響効果（音響演出）を提示することができるようになっている。

40

【0983】

50

またさらに、この実施の形態にかかる周辺制御基板４０１０は、リアルタイムクロック制御部４１９０（以下では、ＲＴＣ制御部４１９０とも呼ぶ）を備えている。図１９０（ａ）は、周辺制御基板４０１０の機能のうちの特にリアルタイムクロック機能を説明するための図であり、説明の便宜上、一部の構成を割愛している。図１９０（ｂ）は、周辺制御部４１４０の機能のうちの特にＲＡＭのバックアップ電源機能について説明するための図であり、説明の便宜上、一部の構成を割愛している。。

【０９８４】

＜リアルタイムクロック機能＞

周辺制御基板４０１０における周辺制御ＭＰＵ４１４０ａは、図１９０（ａ）に示すように、内蔵リアルタイムクロック４１４０ａａ（以下では、内蔵ＲＴＣ４１４０ａａ）を備えている。なお、この内蔵ＲＴＣ４１４０ａａは、後述する本実施形態の周辺制御基板４０１０において、変動表示パターンに設定された変動時間などの時間を計測するタイマ機能に含まれていてもよい。

10

【０９８５】

ＲＴＣ制御部４１９０は、リアルタイムクロック４１９２（以下では、ＲＴＣ４１９２と呼ぶ）と、電池４１９４と、ＲＡＭ４１９６と、を備えている。ＲＴＣ４１９２は、レジスタ回路、クロック入力回路、クロック出力回路、割り込み出力回路、データ入出力回路、および、制御回路などの回路で構成される。ＲＴＣ４１９２は、現在のカレンダー情報および時刻情報を出力可能である。カレンダー情報は、日にちに関する情報、例えば、「年」、「月」、「日」、「曜日」などの情報を含む。時刻情報は、時刻に関する情報、例えば、「時」、「分」、「秒」などの情報を含む。ＲＡＭ４１９６には、ＲＴＣ４１９２の動作に必要な情報が記憶される。電池４１９４は、ＲＴＣ４１９２と、ＲＡＭ４１９６とに接続され、これらのバックアップ電源として機能する。電池４１９４としては、ボタン電池などの一次電池や充電可能な二次電池を用いてもよく、また、大容量のキャパシタなどを用いてもよい。

20

【０９８６】

なお、パチンコ機１は、後述する主基板４０００や周辺制御基板４０１０などの各基板に電力を供給するための電源基板８５１（後述の図１６９等参照）を備えている。電源基板８５１がＯＮされた状態では、各基板に電力が供給され、電源基板８５１がＯＦＦされた状態では、各基板への電力の供給が停止される。

30

【０９８７】

ＲＴＣ４１９２は、パチンコ機１の電源ＯＮ時（電源基板８５１ＯＮ時）には、電源基板８５１から電力の供給を受けて作動する。一方、ＲＴＣ４１９２は、パチンコ遊技機１の電源ＯＦＦ時（電源基板８５１ＯＦＦ時）には、電源基板８５１から電力の供給を受けることができないものの、電池４１９４からの電力供給を受けることによりパチンコ遊技機１の電源ＯＦＦ時にも作動を継続することができるようになっている。

【０９８８】

内蔵ＲＴＣ４１４０ａａは、現在の日時にかかる情報の管理をする部分であり、現在のカレンダー情報および時刻情報を出力可能である。内蔵ＲＴＣ４１４０ａａは、電源基板８５１から電力の供給を受けて作動する部分であることから、パチンコ遊技機１が電源ＯＦＦになると（電源基板８５１から電力の供給が停止すると）、現在のカレンダー情報および時刻情報を消失する。従って、周辺制御ＭＰＵ４１４０ａは、パチンコ遊技機１の起動時（電源投入時）や電源基板８５１に障害が生じた場合（例えば、瞬停が生じた場合）には、ＲＴＣ４１９２からカレンダー情報および時刻情報を受け取って、内蔵ＲＴＣ４１４０ａａにセットする。以後、周辺制御ＭＰＵ４１４０ａは、カレンダー情報および時刻情報を用いる場合には、ＲＴＣ４１９２のカレンダー情報および時刻情報を用いるのではなく、内蔵ＲＴＣ４１４０ａａのカレンダー情報および時刻情報を用いる。

40

【０９８９】

なお、周辺制御ＭＰＵ４１４０ａは、ＲＴＣ４１９２からカレンダー情報および時刻情報を取得することができない場合には、ＲＴＣ４１９２が動作不良を起こしているものと判

50

断して、エラー処理を行う。エラー処理としては、カレンダー情報および時刻情報として、予め決められた初期値を設定して動作を行うようにしてもよい。この初期値としては、例えば、「2011年1月1日土曜日12時00分」などとしてもよい。

【0990】

ここで、周辺制御基板4010（例えば、後述する周辺制御RAM4140eやRAM4140f）には、予め「特別な日時（例えば、納品日から所定の期間が経過した以降の日時など）」が設定されており、周辺制御基板4010（例えば、周辺制御部4140）は、その「特別な日時」にあるときに「特別な処理」を行ってもよい。しかしながら、現在が上記「特別な日時」に該当していても、RTC4192が動作不良を起こし上記エラー処理が行われた場合には、カレンダー情報および時刻情報が上記初期値にリセットされるので、上記「特別な処理」が行われない場合がある。そこで、パチンコ遊技機1（例えば、周辺制御基板4010）は、パチンコ遊技機1が設置された遊技店（パチンコホールやゲームセンターなど）の店員が、上記「特別な日時」を好適な日時に切り替えることができるような機能を備えていてもよい。

10

【0991】

上述のように、本実施形態では、RTC制御部4190は、パチンコ遊技機1の電源OFF時でも作動する。このようにすれば、RTC制御部4190が出力するカレンダー情報および時刻情報を正確にすることができる。また、内蔵RTC4140aaは、パチンコ機1の電源OFFによってカレンダー情報および時刻情報を消失しても、パチンコ機1の電源ON時には、RTC制御部4190から出力されるカレンダー情報および時刻情報が新たにセットされる。このようにすれば、周辺制御MPU4140aは、RTC4192にその都度問い合わせることなく、正確なカレンダー情報および時刻情報に基づく制御を行うことができる。

20

【0992】

なお、本実施形態では、上記RTC制御部4190を、周辺制御基板4010に設けるようにしているが、これに限られることなく、他の基板（例えば、後述の中継基板3014, 3016, 2018, 3020やランプ駆動基板4170など）に設けるようにしてもよい。また、RTC制御部4190は、現在のカレンダー情報および時刻情報を正確な情報とするために、定期的にGPS衛星から現在のカレンダー情報および時刻情報を取得するGPS更新部を有していてもよい。

30

【0993】

＜RAMのバックアップ電源機能＞

図190（b）に示すように、周辺制御部4140を用いてRAMのバックアップ電源機能について説明する。図190（b）の周辺制御部4140では、以下に説明する機能ブロック以外の構成（例えば、後述する音源IC4140cなど）を省略して示している。周辺制御部4140は、図190（b）に示すように、周辺制御MPU4140aに加えて、キャパシタBC2と、ダイオードSD0と、RAM4140fとを備えている。

【0994】

RAM4140fは、パチンコ遊技機1（電源基板851）が電源OFFとなっても消失せずに保持しておきたい情報を記憶するためのメモリである。ダイオードSD0は、アノード端子側が周辺パネル中継端子板872を介して電源基板851の+5.25V作成回路851eと接続されており、+5.25Vの電圧が印加され得る。また、ダイオードSD0は、カソード端子側がRAM4140fおよびキャパシタBC2に接続されている。

40

【0995】

キャパシタBC2は、電気二重層キャパシタであり、RAM4140fのバックアップ電源として機能する。キャパシタBC2は、マイナス端子が、グラウンドと接地される一方、プラス端子が、ダイオードPD0のカソード端子と電氣的に接続されている。+5.25V作成回路851eからの電力は、RAM4140fに供給されると共に、キャパシタBC2にも供給される。これにより、キャパシタBC2は充電される。従って、+5.2

50

5 V 作成回路 8 5 1 e からの電力が周辺制御基板 4 0 1 0 に供給されなくなった場合には、キャパシタ B C 2 に充電された電荷が R A M 4 1 4 0 f に供給され、R A M 4 1 4 0 f の記憶内容が保持される。この場合、ダイオード S D 0 によって、キャパシタ B C 2 から電源基板 8 5 1 側へ電荷が供給されることを防止することができる。

【0996】

周辺制御 M P U 4 1 4 0 a は、パチンコ機 1（電源基板 8 5 1）が電源 O F F となっても消失せずに保持しておきたい情報を適宜 R A M 4 1 4 0 f に格納することによって、パチンコ遊技機 1 が電源 O F F になり、再び、電源 O N になった場合に、電源 O F F になる前に R A M 4 1 4 0 f に格納された情報を用いて、継続的な制御が可能となる。

【0997】

なお、本実施形態では、ダイオード S D 0、キャパシタ B C 2、および、R A M 4 1 4 0 f は、周辺制御部 4 1 4 0 に設けられていたが、これに限られず、例えば、液晶制御部 4 1 5 0 に設けられてもよい。また、R A M 4 1 4 0 f は、周辺制御部 4 1 4 0 および液晶制御部 4 1 5 0 に共用されてもよい。

【0998】

[3-4. 液晶制御部]

次に、周辺制御基板 4 0 1 0 における液晶表示装置 1 9 0 0 の描画制御を行う液晶制御部 4 1 5 0 は、図 1 6 8 に示すように、マイクロプロセッサとしての液晶制御 M P U 4 1 5 0 a と、各種処理プログラム、各種コマンド及び各種データを記憶する液晶制御 R O M 4 1 5 0 b と、上述した液晶表示装置 1 9 0 0 を表示制御する V D P (V i d e o D i s p l a y P r o c e s s o r の略) 4 1 5 0 c と、液晶表示装置 1 9 0 0 に表示される画面の各種データを記憶するキャラ R O M 4 1 5 0 d と、このキャラ R O M 4 1 5 0 d に記憶されている各種データが転送されてコピーされるキャラ R A M 4 1 5 0 e と、を備えている。

【0999】

この液晶制御 M P U 4 1 5 0 a は、パラレル I / O ポート、シリアル I / O ポート等を内蔵しており、周辺制御部 4 1 4 0 からの制御データ（表示コマンド）に基づいて V D P 4 1 5 0 c を制御して液晶表示装置 1 9 0 0 の描画制御を行っている。なお、液晶制御 M P U 4 1 5 0 a は、正常に動作していると、その旨を伝える動作信号を周辺制御部 4 1 4 0 に出力する。また液晶制御 M P U 4 1 5 0 a は、V D P 4 1 5 0 c から後述する実行中信号が入力されており、この実行中信号の出力が 1 6 m s ごとに停止されたことを契機として、割り込み処理を行っている。

【1000】

液晶制御 R O M 4 1 5 0 b は、液晶表示装置 1 9 0 0 に描画する画面を生成するための各種プログラムのほかに、周辺制御基板 4 0 1 0 からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータ、その制御データ（表示コマンド）と対応する非常駐領域転送スケジュールデータ等を複数記憶している。スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、液晶表示装置 1 9 0 0 に描画する画面の順序が規定されている。非常駐領域転送スケジュールデータは、キャラ R O M 4 1 5 0 d に記憶されている各種データをキャラ R A M 4 1 5 0 e の非常駐領域に転送する際に、その順序を規定する非常駐領域転送データが時系列に配列されて構成されている。この非常駐領域転送データは、スケジュールデータの進行に従って液晶表示装置 1 9 0 0 に描画される画面データを、前もって、キャラ R O M 4 1 5 0 d からキャラ R A M 4 1 5 0 e の非常駐領域に各種データを転送する順序が規定されている。

【1001】

液晶制御 M P U 4 1 5 0 a は、周辺制御基板 4 0 1 0 からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータの先頭の画面データを液晶制御 R O M 4 1 5 0 b から抽出して V D P 4 1 5 0 c に出力した後に、先頭の画面データに続く画面データを液晶制御 R O M 4 1 5 0 b から抽出して V D P 4 1 5 0 c に出力する。このように、液晶制御 M P U 4 1 5 0 a は、スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、先頭の画面デ

10

20

30

40

50

ータから1つずつ液晶制御ROM4150bから抽出してVDP4150cに出力する。

【1002】

VDP4150cは、液晶制御MPU4150aから出力された画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいてキャラROM4150eからスプライトデータを抽出して液晶表示装置1900に表示する描画データを生成し、この生成した描画データを液晶表示装置1900に出力する。またVDP4150cは、液晶制御MPU4150aからの画面データを受け入れないときに、その旨を伝える実行中信号を液晶制御MPU4150aに出力する。なお、VDP4150cは、ラインバッファ方式が採用されている。この「ラインバッファ方式」とは、液晶表示装置1900の左右方向を描画する1ライン分の描画データをラインバッファに保持し、このラインバッファに保持した1ライン分の描画データを液晶表示装置1900に出力する方式である。

10

【1003】

キャラROM4150dには、極めて多くのスプライトデータが記憶されており、その容量が大きくなっている。キャラROM4150dの容量が大きくなると、つまり液晶表示装置1900に描画するスプライトの数が多くなると、キャラROM4150dのアクセス速度が無視できなくなり、液晶表示装置1900に描画する速度に影響することとなる。そこで、本実施形態では、アクセス速度の速いキャラROM4150eに、キャラROM4150dに記憶されているスプライトデータを転送してコピーし、このキャラROM4150eからスプライトデータを抽出している。なお、スプライトデータは、スプライトをビットマップ形式に展開する前のデータである基データであり、圧縮された状態で

20

【1004】

ここで、「スプライト」について説明すると、「スプライト」とは、液晶表示装置1900にまとまった単位として表示されるイメージである。例えば、液晶表示装置1900に種々の人物を表示させる場合には夫々の人物を描くためのデータを「スプライト」と呼ぶ。これにより、液晶表示装置1900に複数人の人物を表示させる場合には複数のスプライトを用いることとなる。また人物のほかに、背景を構成する家、山、道路等もスプライトであり、背景全体を1つのスプライトとすることもできる。これらのスプライトは、画面に配置される位置やスプライト同士が重なる場合の上下関係（以下、「スプライトの重ね合わせの順序」と記載する。）が設定されて液晶表示装置1900に描画される。

30

【1005】

なお、スプライトは縦横それぞれ64画素の矩形領域を複数張り合わせて構成されている。この矩形領域を描くためのデータを「キャラクタ」と呼ぶ。小さなスプライトの場合には1つのキャラクタを用いて表現することができるし、人物など比較的大きいスプライトの場合には、例えば横2×縦3などで配置した合計6個のキャラクタを用いて表現することができる。背景のように更に大きいスプライトの場合には更に多数のキャラクタを用いて表現することができる。このように、キャラクタの数及び配置は、スプライトごとに任意に指定することができるようになっている。

【1006】

液晶表示装置1900は、その正面から見て左から右に向かって順次、画素に沿った一方向に画素ごとの表示状態を設定する主走査と、その一方向と交差する方向に主走査を繰り返す副走査と、によって駆動されるようになっている。液晶表示装置1900は、液晶制御部4150から出力された1ライン分の描画データが入力されると、主走査として液晶表示装置1900の正面から見て左から右に向かって順次、1ライン分の画素にそれぞれ出力する。そして1ライン分の出力が完了すると、液晶表示装置1900は、副走査として直下のラインに移行し、同様に次ライン分の描画データが入力されると、この次ライン分の描画データに基づいて主走査として液晶表示装置1900の正面から見て左から右に向かって順次、1ライン分の画素にそれぞれ出力する。

40

【1007】

[3-5. 電源システム]

50

次に、パチンコ遊技機 1 に供給される電力について説明する。まず、電源基板 8 5 1 について説明し、続いて各制御基板等に供給される電源について説明する。図 1 6 9 はパチンコ遊技機の電源システムを示すブロック図であり、図 1 7 0 は図 1 6 9 の続きを示すブロック図である。なお、各種基板のグラウンドや各種端子板のグラウンドは、図示しないが、電源基板 8 5 1 のグラウンドと電氣的に接続されている。

【1 0 0 8】

[3 - 5 A . 電源基板]

電源基板 8 5 1 は、電源コードと電氣的に接続されており、この電源コードのプラグが島設備の電源コンセントに差し込まれている。電源スイッチ 8 5 2 を操作すると、島設備から供給されている電力が電源基板 8 5 1 に供給され、パチンコ遊技機 1 の電源投入を行うことができる。

10

【1 0 0 9】

電源基板 8 5 1 は、図 1 6 9 に示すように、全波整流回路 8 5 1 a、力率改善回路 8 5 1 b、平滑化回路 8 5 1 c、+ 5 . 2 V 作成回路 8 5 1 d、+ 5 . 2 5 V 作成回路 8 5 1 e、+ 1 2 V 作成回路 8 5 1 f、+ 2 4 V 作成回路 8 5 1 g を備えている。全波整流回路 8 5 1 a は、島設備から供給されている交流 2 4 ボルト (A C 2 4 V) を全波整流して力率改善回路 8 5 1 b に供給している。この力率改善回路 8 5 1 b は、全波整流された電力の力率を改善して直流 + 3 7 V (D C + 3 7 V、以下、「+ 3 7 V」と記載する。) を作成して平滑化回路 8 5 1 c に供給している。この平滑化回路 8 5 1 c は、入力される + 3 7 V のリップルを除去して + 3 7 V を平滑化させて + 5 . 2 V 作成回路 8 5 1 d、+ 5 . 2 5 V 作成回路 8 5 1 e、+ 1 2 V 作成回路 8 5 1 f、+ 2 4 V 作成回路 8 5 1 g、払出制御基板 4 1 1 0、及び周辺パネル中継端子板 8 7 2 にそれぞれ供給している。+ 5 . 2 V 作成回路 8 5 1 d は、平滑化回路 8 5 1 c から供給される + 3 7 V から直流 + 5 . 2 V (D C + 5 . 2 V、以下、「+ 5 . 2 V」と記載する。) を作成している。

20

【1 0 1 0】

+ 5 . 2 5 V 作成回路 8 5 1 e は、平滑化回路 8 5 1 c から供給される + 3 7 V から直流 + 5 . 2 5 V (D C + 5 . 2 5 V、以下、「+ 5 . 2 5 V」と記載する。) を作成している。+ 1 2 V 作成回路 8 5 1 f は、平滑化回路 8 5 1 c から供給される + 3 7 V から直流 + 1 2 V (D C + 1 2 V、以下、「+ 1 2 V」と記載する。) を作成している。+ 2 4 V 作成回路 8 5 1 g は、平滑化回路 8 5 1 c から供給される + 3 7 V から直流 + 2 4 V (D C + 2 4 V、以下、「+ 2 4 V」と記載する。) を作成している。+ 5 . 2 V 作成回路 8 5 1 d、+ 1 2 V 作成回路 8 5 1 f、及び + 2 4 V 作成回路 8 5 1 g で作成される電圧は、払出制御基板 4 1 1 0 に供給され、+ 5 . 2 5 V 作成回路 8 5 1 e、+ 1 2 V 作成回路 8 5 1 f、及び + 2 4 V 作成回路 8 5 1 g で作成される電圧は、周辺パネル中継端子板 8 7 2 に供給されている。なお、島設備から供給されている A C 2 4 V は、全波整流回路 8 5 1 a のほかに、電源基板 8 5 1 を介して C R ユニット接続端子板 8 7 4 にも供給されている。

30

【1 0 1 1】

また、電源基板 8 5 1 は、キャパシタ B C 0、B C 1 を備えている。キャパシタ B C 0 は、主制御基板 4 1 0 0 の主制御 M P U 4 1 0 0 a に内蔵された R A M (主制御内蔵 R A M 4 1 0 0 e) のバックアップ電源であり、キャパシタ B C 1 は、払出制御基板 4 1 1 0 における払出制御部 4 1 1 1 の払出制御 M P U 4 1 1 1 a に内蔵された R A M (払出制御内蔵 R A M) のバックアップ電源である。

40

【1 0 1 2】

+ 5 . 2 V 作成回路 8 5 1 d で作成される + 5 . 2 V は、後述するように、払出制御基板 4 1 1 0 に供給されるとともに、払出制御基板 4 1 1 0 を介して主制御基板 4 1 0 0 に供給されている。払出制御基板 4 1 1 0 に供給される + 5 . 2 V は、払出制御 M P U 4 1 1 1 a の電源端子に印加されるとともに、ダイオード P D 0 を介して払出制御内蔵 R A M の電源端子に印加されるようになっている。主制御基板 4 1 0 0 に供給される + 5 . 2 V は、主制御 M P U 4 1 0 0 a の電源端子に印加されるとともに、ダイオード M D 0 を介し

50

て主制御内蔵RAM 4100eの電源端子に印加されるようになっている。

【1013】

電源基板851のキャパシタBC1のマイナス端子（以下、「キャパシタBC1の一端子」と記載する。）は、グランドと接地される一方、そのプラス端子（以下、「キャパシタBC1の＋端子」と記載する。）は、払出制御基板4110の払出制御内蔵RAMの電源端子と電氣的に接続されるとともに、払出制御基板4110のダイオードPD0のカソード端子とも電氣的に接続されている。つまり、+5.2V作成回路851dからの電力は、払出制御MPU4111aの電源端子に向かって電流が流れるとともに、ダイオードPD0により順方向である払出制御内蔵RAMの電源端子と、キャパシタBC1の＋端子と、に向かって電流が流れるようになっている。

10

【1014】

このように、キャパシタBC1は、+5.2V作成回路851dで作成される+5.2Vが払出制御基板4110、そして再び払出制御基板4110から電源基板851に戻ってくるという電氣的な接続方法により+5.2Vが印加されて充電することができるようになっている。これにより、+5.2V作成回路851dからの電力が払出制御基板4110に供給されなくなった場合には、キャパシタBC1に充電された電荷が払VBBとして払出制御基板4110に供給されるようになっているため、払出制御MPU4111aの電源端子にはダイオードPD0により電流が妨げられて流れず払出制御MPU4111aが作動しないものの、払出制御内蔵RAMの電源端子には払VBBが印加されることにより記憶内容が保持されるようになっている。

20

【1015】

電源基板851のキャパシタBC0のマイナス端子（以下、「キャパシタBC0の一端子」と記載する。）は、グランドと接地される一方、そのプラス端子（以下、「キャパシタBC0の＋端子」と記載する。）は、払出制御基板4110を介して主制御基板4100の主制御内蔵RAM 4100eの電源端子と電氣的に接続されるとともに、主制御基板4100のダイオードMD0のカソード端子とも電氣的に接続されている。つまり、+5.2V作成回路851dからの電力は、主制御MPU4100aの電源端子に向かって電流が流れるとともに、ダイオードMD0により順方向である主制御内蔵RAM 4100eの電源端子と、キャパシタBC0の＋端子と、に向かって電流が流れるようになっている。このように、キャパシタBC0は、+5.2V作成回路851dで作成される+5.2Vが払出制御基板4110、主制御基板4100、そして再び払出制御基板4110から電源基板851に戻ってくるという電氣的な接続方法により+5.2Vが印加されて充電することができるようになっている。これにより、+5.2V作成回路851dからの電力が主制御基板4100に供給されなくなった場合には、キャパシタBC0に充電された電荷が主VBBとして主制御基板4100に供給されるようになっているため、主制御MPU4100aの電源端子にはダイオードMD0により電流が妨げられて流れず主制御MPU4100aが作動しないものの、主制御内蔵RAM 4100eの電源端子には主VBBが印加されることにより記憶内容が保持されるようになっている。

30

【1016】

[3-5B. 各制御基板等に供給される電圧]

40

次に、各制御基板等に供給される電圧についての概要を説明し、続いて、主として払出制御基板4110、主制御基板4100、及び発射電源基板831に供給される電圧について説明する。

【1017】

電源基板851で作成された+5.2V、+12V、及び+24Vという3種類の電圧は、図169に示すように、払出制御基板4110に供給されるとともに、この払出制御基板4110を介して主制御基板4100にも供給されている。また電源基板851で作成された+5.25V、+12V、+24V、及び+37Vという4種類の電圧は、周辺パネル中継端子板872に供給されるとともに、この周辺パネル中継端子板872を介して周辺制御基板4010に供給される一方、その4種類の電圧のうち、+5.25V、+

50

1 2 V、及び+ 2 4 Vという 3 種類の電圧が周辺側中継端子板 8 8 2 に供給されている。周辺制御基板 4 0 1 0 に供給される+ 5 . 2 5 V、+ 1 2 V、+ 2 4 V、及び+ 3 7 Vという 4 種類の電圧は、図 1 7 0 (a) に示すように、その 4 種類の電圧のうち、+ 5 . 2 5 V、+ 1 2 V、及び+ 2 4 Vという 3 種類の電圧が裏箱 3 0 0 1 の後面に取付けられた各中継基板 3 0 1 4 , 3 0 1 6 , 3 0 1 8 , 3 0 2 0 のランプ駆動回路 4 1 6 1 に供給されてランプ駆動回路 4 1 6 1 から遊技盤 4 の各種装飾基板に点灯信号、点滅信号や階調点灯信号等の各種信号が出力され、その 4 種類の電圧が裏箱 3 0 0 1 の後面に取付けられた各中継基板 3 0 1 4 , 3 0 1 6 , 3 0 1 8 , 3 0 2 0 の駆動源駆動回路 4 1 6 2 に供給されて駆動源駆動回路 4 1 6 2 から遊技盤 4 のモータやソレノイド等の電氣的駆動源に駆動信号を出力している。また、その 4 種類の電圧のうち、+ 2 4 V 及び+ 3 7 V という 2 種類の電圧が液晶表示装置 1 9 0 0 に供給されている。

10

【1 0 1 8】

液晶表示装置 1 9 0 0 は、描画制御される液晶モジュール 1 9 0 0 a と、この液晶モジュール 1 9 0 0 a のバックライト用の電源であるバックライト電源と、を備えており、+ 2 4 V が液晶モジュール 1 9 0 0 a に供給され、+ 3 7 V がバックライト電源に供給されている。これに対して、周辺側中継端子板 8 8 2 に供給される+ 5 . 2 5 V、+ 1 2 V、及び+ 2 4 V という 3 種類の電圧は、図 1 7 0 (b) に示すように、扉枠ベース基板 1 9 4 に供給されており、その 3 種類の電圧のうち、+ 1 2 V が+ 9 V 作成回路 1 9 4 a に供給されて直流+ 9 V (D C + 9 V、以下、「+ 9 V」と記載する。)を作成している。扉枠ベース基板 1 9 4 は、その 3 種類の電圧に加えて、+ 9 V 作成回路 1 9 4 a で作成される+ 9 V を合わせた 4 種類の電圧を扉枠 5 の各種装飾基板等に供給している。

20

【1 0 1 9】

[3 - 5 C . 払出制御基板に供給される電圧]

払出制御基板 4 1 1 0 は、図 1 6 9 に示すように、払出制御 M P U 4 1 1 1 a 等のほかに、払出制御フィルタ回路 4 1 1 0 a、停電監視回路 4 1 1 0 b も備えている。この払出制御フィルタ回路 4 1 1 0 a は、電源基板 8 5 1 からの+ 5 . 2 V が供給されており、この+ 5 . 2 V からノイズを除去している。この+ 5 . 2 V は、ダイオード P D 0 を介して電源基板 8 5 1 のキャパシタ B C 1 に供給されるほかに、例えば、払出制御部 4 1 1 1 の払出制御 M P U 4 1 1 1 a 等に供給されている。停電監視回路 4 1 1 0 b は、電源基板 8 5 1 からの+ 1 2 V 及び+ 2 4 V が供給されており、これら+ 1 2 V 及び+ 2 4 V の停電又は瞬停の兆候を監視している。停電監視回路 4 1 1 0 b は、+ 1 2 V 及び+ 2 4 V の停電又は瞬停の兆候を検出すると、停電予告として停電予告信号を主制御基板 4 1 0 0 の主制御 M P U 4 1 0 0 a に出力する。この停電予告信号は、主制御基板 4 1 0 0 を介して、周辺制御基板 4 0 1 0 に伝わることにより、この周辺制御基板 4 0 1 0 を介して、図 1 7 0 (a) , (b) に示すように、液晶表示装置 1 9 0 0 のバックライト電源 1 9 0 0 b に伝わる一方、周辺パネル中継端子板 8 7 2、周辺側中継端子板 8 8 2、そして扉枠ベース基板 1 9 4 にも伝わって、扉枠ベース基板 1 9 4 を介して、扉枠 5 の各種装飾基板等に伝わるようになっている。

30

【1 0 2 0】

なお、+ 1 2 V 及び+ 2 4 V は、停電監視回路 4 1 1 0 b に供給されるほかに、+ 1 2 V は、例えば、払出制御部 4 1 1 1 の払出制御入力回路 4 1 1 1 e 等にも供給され、+ 2 4 V は、例えば、払出制御部 4 1 1 1 の払出モータ駆動回路 4 1 1 1 d 等にも供給されている。また、電源基板 8 5 1 からの+ 3 7 は、払出制御基板 4 1 1 0 において何ら使用されずに、払出制御基板 4 1 1 0 を介して、そのまま発射電源基板 8 3 1 に供給されている。発射電源基板 8 3 1 は、供給される+ 3 7 V から後述する所定電圧を作成して発射制御部 4 1 2 0 の発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d に供給している。

40

【1 0 2 1】

[3 - 5 D . 主制御基板に供給される電圧]

主制御基板 4 1 0 0 は、図 1 6 9 に示すように、主制御 M P U 4 1 0 0 a 等のほかに、主制御フィルタ回路 4 1 0 0 h も備えている。主制御フィルタ回路 4 1 0 0 h は、払出制

50

御基板4110からの+5.2Vが供給されており、この+5.2Vからノイズを除去している。この+5.2Vは、ダイオードMD0を介して電源基板851のキャパシタBC0に供給されるほかに、例えば、主制御MPU4100a等に供給されている。払出制御基板4110からの+12Vは、例えば、主制御入力回路4100f等に供給され、払出制御基板4110からの+24Vは、例えば、主制御ソレノイド駆動回路4100g等に供給されている。

【1022】

[3-5E. 発射電源基板に供給される電圧]

発射電源基板831は、図169に示すように、DC/DCコンバータ831a、電解コンデンサSC0（本実施形態では、静電容量：4700マイクロファラッド（ μF ））を備えている。DC/DCコンバータ831aは、払出制御基板4110からの+37Vを降圧して直流+35V（DC+35V、以下、「+35V」と記載する。）を作成して払出制御基板4110における発射制御部4120の発射ソレノイド駆動回路4120dに供給している。

10

【1023】

電解コンデンサSC0のマイナス端子（以下、「電解コンデンサSC0の－端子」と記載する。）は、グラウンドと接地される一方、そのプラス端子（以下、「電解コンデンサSC0の＋端子」と記載する。）は、DC/DCコンバータ831aの+35V出力端子と電氣的に接続されている。つまり、電解コンデンサSC0は、DC/DCコンバータ831aから出力される+35Vが印加されることで充電されるようになっている。本実施形態では、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0に充電された電荷の放電による電流と、が併合された併合電流が払出制御基板4110の発射ソレノイド駆動回路4120dに流れるようになっている。その詳細な説明を後述する。

20

【1024】

[3-6. 発射ソレノイドの駆動方法]

次に、発射ソレノイド654の駆動方法について説明する。まず、発射ソレノイド654の駆動システムについて説明し、続いてその駆動回路の所定点における、入出力電流、出力電圧、信号の論理及び波形等について説明する。図171は発射ソレノイドの駆動回路を示すブロック図であり、図172はシャントレギュレータ回路、増幅回路、及びオペアンプ回路群を示す回路図であり、図173はDC/DCコンバータの特性を示す図であり、図174は図171の発射ソレノイドの駆動回路における所定点のタイミングチャートである。

30

【1025】

[3-6A. 発射ソレノイドの駆動システム]

発射ソレノイド654の駆動システムは、図171に示すように、主として、払出制御基板4110における発射制御部4120の発射制御入力回路4120a、発振回路4120b、発射タイミング回路4120c、発射ソレノイド駆動回路4120d、及び球送ソレノイド駆動回路4120eと、発射電源基板831のDC/DCコンバータ831a、及び電解コンデンサSC0と、電源基板851の力率改善回路851b、及び平滑化回路851cと、により構成されている。

40

【1026】

発射制御入力回路4120aは、CRユニット6がCRユニット接続端子板874を介して払出制御基板4110と電氣的に接続されると、CRユニット6がパチンコ遊技機1から電力（AC24V）供給を受けている旨を伝える信号が入力されてCR接続信号として発射タイミング回路4120cに出力し、回転ハンドル本体前506に手のひらや指が触れているか否かを検出するタッチセンサ516からの検出信号が入力されると、タッチ検出信号として発射タイミング回路4120cに出力し、遊技者の意志によって遊技球の打ち出しを強制的に停止するか否かを検出する発射停止スイッチ518からの検出信号が入力されると、発射停止検出信号として発射タイミング回路4120cに出力する。

【1027】

50

発射タイミング回路4120cは、発射制御入力回路4120aからのCR接続信号、タッチ検出信号、及び発射停止検出信号に基づいて、発射ソレノイド654による遊技球の打ち出しを許可したり、禁止したりする。具体的には、発射タイミング回路4120cは、CRユニット6がCRユニット接続端子板874を介して払出制御基板4110と電氣的に接続されていないためにCR接続信号が入力されていないという第1のケース、タッチ検出信号が回転ハンドル本体前506に手のひらや指が触れていない旨を伝えているという第2のケース、発射停止検出信号が遊技球の打ち出しを強制的に停止する旨を伝えているという第3のケース、のうち、1つでも該当するときに発射ソレノイド654による遊技球の打ち出しを禁止する一方、すべてに該当しないときに発射ソレノイド654による遊技球の打ち出しを許可する。

10

【1028】

発射タイミング回路4120cは、発振回路4120bからのクロック信号が入力されており、発射ソレノイド654による遊技球の打ち出しを許可するときには、このクロック信号に基づいて、1分当たり100個の遊技球が遊技領域1100に向かって打ち出されるよう発射基準パルスを生じて発射ソレノイド駆動回路4120dに出力するとともに、発射基準パルスを所定数倍（本実施形態では、5倍）した球送基準パルスを生じて球送ソレノイド駆動回路4120eに出力する。発射ソレノイド駆動回路4120dは、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、を併合した併合電流により打球発射装置650の発射ソレノイド654を駆動する。これに対して、球送ソレノイド駆動回路4120eは、電源基板851からの+24Vによる球送ソレノイド585を駆動する。

20

【1029】

発射ソレノイド駆動回路4120dは、主として、シャントレギュレータ回路4121a、増幅回路4121b、電圧比較回路4121c、スイッチング回路4121dから構成されている。シャントレギュレータ回路4121aは、電源基板851の+5.2V作成回路851dで作成される+5.2Vが供給されており、この+5.2Vから安定化された直流+2.5V（DC+2.5V、以下、「+2.5V」と記載する。）を作成して増幅回路4121bに供給している。

【1030】

シャントレギュレータ回路4121aは、図172（a）に示すように、シャント式安定化電源回路PIC0を主として構成されている。このシャント式安定化電源回路PIC0は、周囲温度による温度ドリフトが低減されたものであり、負荷に対して一定電圧に保持される安定化電源を作成して供給することができる。シャント式安定化電源回路PIC0の基準電圧入力端子であるREF端子、及びカソード端子であるK端子は、+5.2Vと抵抗PR2を介して電氣的に接続されており、この抵抗PR2によりREF端子に入力される電流が制限されている。K端子は増幅回路4121bに+2.5Vを出力している。この+2.5Vは、グラウンドと接地されたコンデンサPC0によりリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている（コンデンサPC0は、ローパスフィルタとしての役割も担っている）。なお、シャント式安定化電源回路PIC0のアノード端子であるA端子はグラウンド（GND）と接地されている。

30

40

【1031】

図171に戻り、増幅回路4121bは、シャントレギュレータ回路4121aからの+2.5Vを2倍に増幅して直流+5.0V（DC+5.0V、以下、「+5.0V」と記載する。）を作成して主側中継端子板880、そしてハンドル装置中継基板192を介して、ハンドル装置500における回転位置検知センサ512に供給している。

【1032】

増幅回路4121bは、図172（a）に示すように、オペアンプPIC1を主として構成されている。オペアンプPIC1は、非反転増幅回路として構成されており、オペアンプPIC1の非反転入力端子（+端子）にはシャントレギュレータ回路4121aのシャント式安定化電源回路PIC0からの+2.5Vが印加され、オペアンプPIC1の反

50

転入力端子（－端子）には一端がグラウンドと接地された抵抗PR3の他端と電氣的に接続されるとともに、オペアンプPIC1の出力端子と一端が電氣的に接続された抵抗PR4の他端と電氣的に接続されている。抵抗PR3、PR4の抵抗値は、オペアンプPIC1の増幅率（平ループ利得）が2倍となるように設定されている。オペアンプPIC1の出力端子は、オペアンプPIC1の非反転入力端子（＋端子）に印加された＋2.5Vを2倍に増幅した＋5.0Vを、上述したように、主側中継端子板880、そしてハンドル装置中継基板192を介して、ハンドル装置500における回転位置検知センサ512に供給している。この＋5.0Vは、グラウンドと接地されたコンデンサPC2によりリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている（コンデンサPC2は、ローパスフィルタとしての役割も担っている）。なお、オペアンプPIC1の電源端子に入力される＋2.4Vは、グラウンドと接地されたコンデンサPC1によりリップルが除去されて平滑化されている。

10

【1033】

図171に戻り、回転位置検知センサ512は3端子の可変抵抗器であり、両端の一の固定端子が上述した増幅回路4121bからの＋5.0Vが供給され、その両端の他の固定端子がハンドル装置中継基板192、そして主側中継端子板880を介して、払出制御基板4110における発射ソレノイド駆動回路4120dの抵抗PR0と電氣的に接続されている。この抵抗PR0の他端は、グラウンドと接地されている。回転位置検知センサ512の両端の固定端子とは別の端子である可変端子から、可変された抵抗値に従って両端に印加された電圧の分圧を取り出すことができるようになっている。回転位置検知センサ512の可変端子から取り出した電圧は、ハンドル装置中継基板192、そして主側中継端子板880を介して、払出制御基板4110の発射ソレノイド駆動回路4120dにおける後述する抵抗PR5、PR6（図172（b）参照）で分圧され、この分圧された抵抗PR6が受け持つ電圧が発射強度目標電圧として、電圧比較回路4121cに印加される。

20

【1034】

ハンドル装置500の回転位置検知センサ512の可変端子から取り出した電圧は、上述したように、ハンドル装置中継基板192、そして主側中継端子板880を介して、図172（b）に示すように、グラウンドと接地されたコンデンサPC3によりリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化され（コンデンサPC3は、ローパスフィルタとしての役割も担っている。）、払出制御基板4110の発射ソレノイド駆動回路4120dのボルテージフォロアとして構成されたオペアンプ回路群に印加される。このオペアンプ回路群は、図172（b）に示すように、初段のオペアンプPIC2、後段のオペアンプPIC3を主として構成されている。ハンドル装置500からの電圧は、ボルトオーダーの電圧であり初段のオペアンプPIC2の非反転入力端子（＋端子）に印加される。初段のオペアンプPIC2の反転入力端子（－端子）には、初段のオペアンプPIC2の出力端子と電氣的に接続されている。初段のオペアンプPIC2の出力端子は、オペアンプPIC2の非反転入力端子（＋端子）に印加された電圧を1倍にして、つまりそのままのボルトオーダーの電圧として出力する。この初段のオペアンプPIC2は、ボルトオーダーの電圧である入力電圧を単にそのまま出力しているものの、ハンドル装置500からの電圧を印加するための初段入力側回路と、電圧を後段のオペアンプPIC3に出力するための初段出力側回路と、の回路分離を実現している。これにより、初段入力側回路から初段出力側回路に向かって電圧が信号として伝達することができ、初段出力側回路の影響を初段入力側回路へ与えなくすることができる。なお、オペアンプPIC2の電源端子に入力される＋2.4Vは、グラウンドと接地されたコンデンサPC4によりリップルが除去されて平滑化されている。

30

40

【1035】

初段のオペアンプPIC2の出力端子は、自身の反転入力端子（－端子）のほかに、抵抗PR5の一端と電氣的に接続され、この抵抗PR5の他端が後段のオペアンプPIC3の非反転入力端子（＋端子）と電氣的に接続されている。後段のオペアンプPIC3の非

50

反転入力端子（＋端子）は、抵抗PR5の他端のほかに、一端がグランドと接地された抵抗PR6の他端と電氣的に接続されている。これにより、初段のオペアンプPIC2の出力端からの電圧は、上述したように、ボルトオーダーの電圧である入力電圧を単にそのまま出力しているため、ボルトオーダーの電圧であり、抵抗PR5、PR6により分圧され、この分圧された抵抗PR6が受け持つ電圧がミリボルトオーダーの電圧として後段のオペアンプPIC3の非反転入力端子（＋端子）に印加される。後段のオペアンプPIC3の反転入力端子（－端子）には、後段のオペアンプPIC3の出力端子と電氣的に接続されている。後段のオペアンプPIC3の出力端子は、オペアンプPIC2の非反転入力端子（＋端子）に印加された電圧を1倍にして、つまりそのままのミリボルトオーダーの電圧が発射強度目標電圧として電圧比較回路4121cに出力する。この後段のオペアンプPIC3は、抵抗PR5、PR6で分圧されたミリボルトオーダーの抵抗PR6が受け持つ電圧である入力電圧を単にそのまま出力しているものの、抵抗PR5、PR6で分圧されたミリボルトオーダーの抵抗PR6が受け持つ電圧を印加するための後段入力側回路と、電圧を電圧比較回路4121cに出力するための後段出力側回路と、の回路分離を実現している。これにより、後段入力側回路から後段出力側回路に向かって電圧が信号として伝達することができ、後段出力側回路の影響を後段入力側回路へ与えなくすることができる。なお、オペアンプPIC3の電源端子に入力される+24Vは、グランドと接地されたコンデンサPC5によりリップルが除去されて平滑化されている。

10

【1036】

図171に戻り、打球発射装置650の発射ソレノイド654に流れている電流は、一端がグランドと接地された抵抗PR1を流れることでこの抵抗PR1が受け持つミリボルトオーダーの電圧が発射制御電圧として電圧比較回路4121cに印加される。電圧比較回路4121cには、上述したミリボルトオーダーの電圧である発射強度目標電圧も印加されている。このように、電圧比較回路4121cで比較する発射制御電圧と発射強度目標電圧とは、上述したように、払出制御基板4110（発射ソレノイド駆動回路4120d）においてボルトオーダーの電圧からミリボルトオーダーの電圧へ抵抗PR1、PR6が受け持つ電圧によりそれぞれ降圧されるようになっている。つまり、払出制御基板4110上に形成された配線パターンを介して印加されるため、この配線パターンがノイズの影響を受け難く、電圧比較回路4121cがミリボルトオーダーの電圧で発射制御電圧と発射強度目標電圧とを比較することができるのに対して、払出制御基板4110と打球発射装置650との基板装置間、及び払出制御基板4110とハンドル装置500との基板装置間においては、配線を介して電氣的に接続されているため、配線にノイズの影響を受け易く、ボルトオーダーの電圧とすることにより基板装置間におけるノイズの影響を抑制している。

20

30

【1037】

電圧比較回路4121cは、発射制御電圧と発射強度目標電圧とを大小比較する反転型の回路であり、その比較結果をスイッチング回路4121dに出力する。電圧比較回路4121cによる比較結果は、HI又はLOWという論理出力となっており、発射制御電圧が発射強度目標電圧より大きいときにはLOW（以下、「L」と記載する。）となる一方、発射制御電圧が発射強度目標電圧より小さいときにはHI（以下、「H」と記載する。）となる。このように、電圧比較回路4121cによる比較結果によって出力論理がH又はLとなるため、その出力信号がON/OFF信号としてスイッチング回路4121dに入力されることとなる。

40

【1038】

スイッチング回路4121dは、発射タイミング回路4120cからの発射基準パルスが入力されるごとに、電圧比較回路4121cからのON/OFF信号に従って、発射電源基板831に備える、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流を、打球発射装置650の発射ソレノイド654に流す。具体的には、スイッチング回路4121dは、電圧比較回路4121cからのON信号が入力されると、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コン

50

デンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流を発射ソレノイド654に流す一方、電圧比較回路4121cからのOFF信号が入力されると、発射ソレノイド654に流れている電流を遮断する。つまり、スイッチング回路4121dは、電圧比較回路4121cからのON信号が入力されて、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流を発射ソレノイド654に流しているときに、この発射ソレノイド654に流れている電流を、抵抗PR1によって分圧された電圧が発射制御電圧として発射強度目標電圧より大きくなると、電圧比較回路4121cの出力論理がLとなり、OFF信号をスイッチング回路4121dに出力し、スイッチング回路4121dが発射ソレノイド654に流れている定電流を遮断する。この遮断により、発射ソレノイド654に電流が流れなくなることによって発射制御電圧が発射強度目標電圧より小さくなり、電圧比較回路4121cの出力論理が再びHとなり、ON信号をスイッチング回路4121dに出力し、スイッチング回路4121dが、上述したように、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流を発射ソレノイド654に流す。このように、電圧比較回路4121cからのON/OFF信号に従ってスイッチング回路4121dが、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流を、発射ソレノイド654に流したり、その定電流を遮断したりするため、スイッチング回路4121dは、電圧比較回路4121cからのON/OFF信号に自励発振して電流を発射ソレノイドに流す制御を行っている。つまり、スイッチング回路4121dは、「自励発振定電流回路」として機能しており、発射制御電圧を発射強度目標電圧に近づけている。これにより、回転ハンドル本体前506が回転操作されて回転ハンドル本体前506の回転位置に見合った発射強度で発射ソレノイド654を駆動して遊技球を遊技領域1100に向かって打ち出すことができる。

【1039】

なお、遊技者が回転ハンドル本体前506に触れて、回転ハンドル本体前506を回転していない原回転位置であるときには、回転位置検知センサ512の可変端子から取り出される電圧は、抵抗PR0に印加されている電圧が上述したボルテージフォロアとして構成されたオペアンプ回路群に印加され、発射強度目標電圧として、電圧比較回路4121cに印加される。この場合には、電圧比較回路4121cからのON信号がスイッチング回路4121dに出力されると、スイッチング回路4121dは、DC/DCコンバータ831aからの電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流を発射ソレノイド654に流す。このDC/DCコンバータ831aからの出力される電流が最小出力電流となる。このときの発射ソレノイド654の発射強度は、少なくとも、発射レール660を飛び越えるものとなっている。つまり、抵抗PR0に印加されている電圧が発射強度目標電圧であるときには、その電圧に見合う電流(DC/DCコンバータ831aから出力される最小出力電流と、電解コンデンサSC0の放電による電流と、が併合された併合電流)が発射ソレノイド654に流れると、発射ソレノイド654によって打ち出された遊技球は、発射レール660を飛び越えることができても、遊技盤4の外レール1111に沿って遊技領域1100に達することができないため、ファール球としてファールカバーユニット540で回収されこととなる。換言すると、抵抗PR0に印加されている電圧がボルテージフォロアとして構成されたオペアンプ回路群に印加され、発射強度目標電圧として、電圧比較回路4121cに印加されるときには、発射ソレノイド654に流れる電流が最小電流となっているものの、この最小電流が発射ソレノイド654に流れても、打ち出された遊技球がすべてファール球として回収されるようになっている。これにより、球送ソレノイド585によって発射レール660に送り出された遊技球と重複することを防止することができるため、発射ソレノイド654がその重複する遊技球を遊技領域1100に向かって打ち出すことを防止することができるとともに、発射ソレノイド654への加負荷を防止することができ、故障を防止することもできる。

【1040】

本実施形態では、シャントレギュレータ回路4121aにシャント式安定化電源回路P

10

20

30

40

50

IC0を採用することにより、電圧比較回路4121cに印加される発射強度目標電圧は、シャントレギュレータ回路4121aからの一定電圧である+2.5Vが増幅回路4121bで増幅された+5.0Vがハンドル装置500の回転位置検知センサ512により分圧されたものとなることによって、この分圧された電圧も回転ハンドル本体前506の回転位置が同一回転位置に保持されているときには、変動が生じず一定の電圧に保持されることとなる。これにより、スイッチング回路4121dが打球発射装置650の発射ソレノイド654に併合電流を流すことにより発射制御電圧を発射強度目標電圧に近づけて発射制御電圧が発射強度目標電圧と同一となった際に、回転ハンドル本体前506の回転位置が同一回転位置に保持されているときには、発射ソレノイド654に流れる併合電流も変動が生じず一定の電流が流れることとなるため、発射ソレノイド654が遊技球を遊技領域1100に向かって打ち出す発射強度が同一となる。したがって、発射ソレノイド654の駆動発射による遊技球の「飛びムラ」を防止することができる。

10

【1041】

また、パチンコ遊技機1が設置される島設備は、複数のパチンコ遊技機から排出された遊技球を研磨して再びパチンコ遊技機に供給するという遊技球の循環システムが構築されている。このため、遊技球の研磨による熱、遊技球同士の衝突や摩擦による熱に加えて、パチンコ遊技機の電源基板や各種電飾による熱等により島設備内の温度は、極めて高くなっている。本実施形態では、上述したように、シャントレギュレータ回路4121aにシャント式安定化電源回路PIC0を採用することにより、パチンコ設備内に熱がこもる環境下にあっても、+2.5Vを安定化させて出力することができるようになっている。これにより、温度による+2.5Vの変動が抑制されることによって回転位置検知センサ512の可変端子から取り出された電圧、つまり発射強度目標電圧の「ゆらぎ」を抑えることができるため、この「ゆらぎ」分の電圧を含めずに、電圧比較回路4121cがスイッチング回路4121dに制御信号を出力することができる。つまり、回転ハンドル本体前506の回転位置が同一回転位置であるときには、遊技球を遊技領域1100に向かって打ち出す発射強度に「ムラ」を抑えることができるため、遊技球の「飛びムラ」を抑えることができる。

20

【1042】

[3-6B. DC/DCコンバータの入出力電流及び出力電圧]

次に、DC/DCコンバータ831aの入出力電流及び出力電圧について、図171に示した、TA点における入力電流、TB点における出力電流及び出力電圧について、図173を参照して説明する。TA点は、DC/DCコンバータ831aの入力電流 I_{in} を参照するための点であり、TB点は、DC/DCコンバータ831aの出力電流 I_{out} 及び出力電圧 V_{out} を参照するための点である。なお、この出力電圧 V_{out} は、グラウンドとの電位差である。

30

【1043】

まずTB点の出力電圧 V_{out} と出力電流 I_{out} との関係は、図173(a)に示すように、出力電圧 V_{out} が+35Vから減少につれて出力電流 I_{out} が増大する関係となっている。具体的には、出力電圧 V_{out} が+35Vから+30Vまでの区間Aでは、出力電流 I_{out} が約360mAと一定であり、出力電圧 V_{out} が+30Vから+20Vまでの区間Bでは、出力電圧 V_{out} が減少するにつれて出力電流 I_{out} が360mAから400mAまで約40mA増加し、出力電圧 V_{out} が+20Vから+10Vまでの区間Cでは、出力電圧 V_{out} が減少するにつれて出力電流 I_{out} が400mAから660mAまで約260mA増加し、出力電圧 V_{out} が+10Vから+5Vまでの区間Dでは、出力電圧 V_{out} が減少するにつれて出力電流 I_{out} が660mAから1010mAまで約350mA増加している。なお、+5VからゼロV近傍では、出力電流 I_{out} はほぼ1010mAとなっている。

40

【1044】

TA点の入力電流 I_{in} とTB点の出力電流 I_{out} との関係は、図173(b)に示すように、出力電圧 V_{out} が+35Vから減少につれて、入力電流 I_{in} が減少すると

50

ともに出力電流 I_{out} が増大する関係となっている。具体的には、出力電圧 V_{out} が +35V から +30V までの区間 A では、出力電流 I_{out} が約 360mA と一定であるのに対して、入力電流 I_{in} が 400mA から 320mA まで約 80mA 減少している。この区間 A では、回転ハンドル本体前 506 の回転位置と対応する電流が発射ソレノイド 654 に流れて出力電流 I_{out} と比べて入力電流 I_{in} が大きいときには遊技領域 1100 に向かって打ち出された遊技球が未だ遊技領域 1100 に達することが困難な発射強度となっている一方、回転ハンドル本体前 506 の回転位置と対応する電流が発射ソレノイド 654 に流れて出力電流 I_{out} と比べて入力電流 I_{in} が小さくなりだすときには遊技領域 1100 に向かって打ち出された遊技球が遊技領域 1100 に達する発射強度となっている。出力電圧 V_{out} が +30V から +20V までの区間 B では、出力電流 I_{out} が 360mA から 400mA まで約 40mA 増加するのに対して、入力電流 I_{in} が 320mA から 260mA まで約 60mA 減少しており、出力電流 I_{out} と比べて入力電流 I_{in} が完全に小さくなっている。出力電圧 V_{out} が +20V から +10V までの区間 C では、出力電流 I_{out} が 400mA から 660mA まで約 260mA 増加するのに対して、入力電流 I_{in} が 260mA から 210mA まで約 50mA 減少しており、区間 B と同様に、出力電流 I_{out} と比べて入力電流 I_{in} が完全に小さくなっている。出力電圧 V_{out} が +10V から +5V までの区間 D では、出力電流 I_{out} が 660mA から 1010mA まで約 350mA 増加するのに対して、入力電流 I_{in} が 210mA から 175mA まで約 35mA 減少しており、区間 B、及び区間 C と同様に、出力電流 I_{out} と比べて入力電流 I_{in} が完全に小さくなっている。

【1045】

なお、DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} の値が 360mA であるときには、この 360mA と、電解コンデンサ SC0 の放電による電流と、が併合された併合電流が最小電流、つまり遊技者が回転ハンドル本体前 506 に触れて、回転ハンドル本体前 506 を回動していない原回転位置であるときに発射ソレノイド 654 に流れる電流であるのに対して、DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} の値が 1010mA であるときには、この 1010mA と、電解コンデンサ SC0 の放電による電流と、が併合された併合電流が最大電流、つまり遊技者が回転ハンドル本体前 506 に触れて、回転ハンドル本体前 506 を右回りに回動して限界回転位置であるときに発射ソレノイド 654 に流れる電流である。このように、DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} は、最小出力電流の値が 360mA となり、最大出力電流の値が 1010mA となる。DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} の値が 1000mA を超える場合には、発射ソレノイド 654 の発射強度は、すでに、外レール 1111 に沿って遊技領域 1100 に飛び出した遊技球が衝止部 1114 に衝突して内周レール 1113 に沿って下流に向かって転動し、各種入賞口に入球することなく、アウト口 1151 で回収される程度にまで強くなっている。このため、遊技者が回転ハンドル本体前 506 を右回りに回動して遊技を行っているときにおける DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} の値が取りうる範囲としては、360mA より大きく 1000mA より小さく ($360\text{mA} < \text{出力電流 } I_{out} \text{ の値} < 1000\text{mA}$)、ミリアンペアオーダーの電流となっている。

【1046】

[3-6C. DC/DCコンバータの入出力電流及び出力電圧と発射タイミング回路からの発射基準パルスとの関係]

次に、回転ハンドル本体前 506 の一定回転位置において、図 171 に示した、TB 点における DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} 及び出力電圧 V_{out} と、発射タイミング回路 4120c からの発射基準パルス T0 と、について、図 174 を参照して説明する。TB 点は、上述したように、DC/DCコンバータ 831a の出力電流 I_{out} 及び出力電圧 V_{out} (グランドとの電位差) を参照するための点であり、TC 点は、発射タイミング回路 4120c からの発射基準パルス T0 を参照するための点である。

【1047】

発射タイミング回路 4120c からの発射基準パルス T0 は、上述したように、発射ソ

10

20

30

40

50

レノイド 6 5 4 による遊技球の打ち出しを許可するときにおいて、1 分当たり、つまり 6 0 0 0 0 m s 当たり 1 0 0 個の遊技球が遊技領域 1 1 0 0 に向かって打ち出されるように設定されているため、図 1 7 4 (a) に示すように、そのパルス幅が 3 0 m s 、その周期 T が 6 0 0 m s となる。

【1 0 4 8】

ここで、遊技者が回転ハンドル本体前 5 0 6 に触れて、回転ハンドル本体前 5 0 6 を回動して限界回転位置であるときと、回動していない原回転位置であるときと、における D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電圧 V o u t の波形について説明する。

【1 0 4 9】

回転ハンドル本体前 5 0 6 が限界回転位置にあるときには、発射タイミング回路 4 1 2 0 c からの発射基準パルス T 0 が発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d のスイッチング回路 4 1 2 1 d に入力されると、図 1 7 4 (b) , (c) に示すように、D C / D C コンバータ 8 3 1 a からの電流と、電解コンデンサ S C 0 に充電された電荷の放電による電流と、が併合された併合電流が上述した最大電流となって発射ソレノイド 6 5 4 に流れ始める (タイミング t 0) 。この最大電流が発射ソレノイド 6 5 4 に流れているときには、図 1 7 4 に示した D C / D C コンバータ 8 3 1 a の特性に従って、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の電圧 (電解コンデンサ S C 0 の電圧) が + 5 V まで下がり、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電流 I o u t の値が上述した最大出力電流である 1 0 1 0 m A となる。そして、発射基準パルス T 0 の入力後、3 0 m s 経過してその入力が停止されると、電解コンデンサ S C 0 の出力電圧がゼロ V 近傍に達するまで放電が進んでいる (タイミング t 1) 。発射ソレノイド 6 5 4 への最大電流が遮断されることにより、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電圧 V o u t が徐々に + 3 5 V まで回復する。これにともない、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の特性に従って電解コンデンサ S C 0 の充電が開始される。具体的には、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電流 I o u t は、図 1 7 3 に示したように、出力電圧 V o u t が小さくなるのに対して、出力電流 I o u t が大きくなるという特性がある。最大電流が遮断された直後では D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電圧 V o u t 、つまり電解コンデンサ S C 0 の出力電圧は、ゼロ V 近傍となっており、電解コンデンサ S C 0 は、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電流 I o u t である 1 0 1 0 m A という電流によって充電を開始し、そして D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電圧 V o u t が + 3 5 V 近傍まで回復してくると、3 6 0 m A という電流によって充電を継続し、その後、充電を完了することとなる。この充電は、次の発射基準パルス T 0 が入力されるまでの間にすでに完了するようになっていく (タイミング t 2) 。つまり、今回の発射基準パルス T 0 が入力されて 3 0 m s 経過して次の発射基準パルス T 0 が入力されるまでの 5 7 0 m s の期間内に充電を完了するようになっていく。

【1 0 5 0】

これに対して、回転ハンドル本体前 5 0 6 が原回転位置にあるときには、発射タイミング回路 4 1 2 0 c からの発射基準パルス T 0 が発射ソレノイド駆動回路 4 1 2 0 d のスイッチング回路 4 1 2 1 d に入力されると、図 1 7 4 (b) , (d) に示すように、D C / D C コンバータ 8 3 1 a からの電流と、電解コンデンサ S C 0 に充電された電荷の放電による電流と、が併合された併合電流が上述した最小電流となって発射ソレノイド 6 5 4 に流れ始める (タイミング t 0) 。この最小電流が発射ソレノイド 6 5 4 に流れているときには、図 1 7 4 に示した D C / D C コンバータ 8 3 1 a の特性に従って、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の電圧 (電解コンデンサ S C 0 の電圧) が若干下がるものの、図 1 7 3 に示した区間 A に属し、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電流 I o u t の値が上述した最小出力電流である 3 6 0 m A となる。そして、発射基準パルス T 0 の入力後、3 0 m s 経過してその入力が停止されると、電解コンデンサ S C 0 の放電が少し進んでいる (タイミング t 1) 。発射ソレノイド 6 5 4 への最小電流が遮断されることにより、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電圧 V o u t が徐々に + 3 5 V まで回復する。これにともない、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の特性に従って電解コンデンサ S C 0 の充電が開始される。具体的には、D C / D C コンバータ 8 3 1 a の出力電流 I o u t は、上述したように

、出力電圧 V_{out} が小さくなるのに対して、出力電流 I_{out} が大きくなるという特性がある。最小電流が遮断された直後では DC/DC コンバータ 831a の出力電圧 V_{out} 、つまり電解コンデンサ SC0 の出力電圧は、若干下がるものの、区間 A に属しており、電解コンデンサ SC0 は、DC/DC コンバータ 831a の出力電流 I_{out} である 360mA という電流によって充電を開始し、その後、充電を完了することとなる。この充電は、次の発射基準パルス T0 が入力されるまでの間にすでに完了するようになっている（タイミング t2）。つまり、今回の発射基準パルス T0 が入力されて 30ms 経過して次の発射基準パルス T0 が入力されるまでの 570ms の期間内に充電を完了するようになっている。

【1051】

10

このように、発射ソレノイド 654 に最大電流、最小電流が流れても、DC/DC コンバータ 831a の特性によって、今回の発射基準パルス T0 が入力されて 30ms という放電時間内において電解コンデンサ SC0 が放電した電荷を、次の発射基準パルス T0 が入力されるまでの残りの 570ms という充電時間内に充電を完了させることができる。

【1052】

ここで、発射基準パルス T0 が入力されて 30ms 経過するまでの期間内に電解コンデンサ SC0 が存在しない状態で DC/DC コンバータ 831a が単独で発射ソレノイド 654 に電流を流す制御方式を採用する場合について考えてみると、この制御方式では、DC/DC コンバータ 831a が単独で発射ソレノイド 654 に流す電流が 2A~3.5A 程度となるため、この電流が電源基板 851 から供給されることとなる。発射ソレノイド 654 を駆動するときには、瞬間的に 2A~3.5A より大きい大電流が流れる。そうすると、30ms という発射基準パルス T0 が 600ms という周期 T で発生すると、電源基板への負荷もこの周期 T ごとに増えることとなる。つまり、電源基板は、発射ソレノイド 654 が駆動される際に流れる瞬間的な大電流に加えて電子部品や、装飾に用いる電飾等にも所定電流を供給しているため、これらの総電力が電力供給上限値を超えると、安全のため電力供給を遮断することとなる。

20

【1053】

そこで、本実施形態では、発射基準パルス T0 が入力されてからそのパルス幅である 30ms という期間において、電解コンデンサ SC0 が存在しない状態で DC/DC コンバータ 831a が単独で発射ソレノイド 654 を駆動した場合に電源基板 851 の +37V という直流電源から DC/DC コンバータ 831a に供給されるアンペアオーダーの電流を、発射基準パルス T0 が入力されて次の発射基準パルス T0 が入力されるまでの 600ms という期間に引き延ばして、DC/DC コンバータ 831a と電解コンデンサ SC0 とによる併合電流で発射ソレノイド 654 を駆動した場合に電源基板 851 の +37V という直流電源から DC/DC コンバータ 831a に供給されるミリアンペアオーダーの「第1の電流」と、電解コンデンサ SC0 が DC/DC コンバータ 831a からの電力を充電した場合に電源基板 851 の +37V という直流電源から DC/DC コンバータ 831a に供給されるミリアンペアオーダーの「第2の電流」と、に分散することができる。これにより、電解コンデンサ SC0 が存在しない状態で発射基準パルス T0 が入力されてからそのパルス幅である 30ms という期間に電源基板 851 の +37V という直流電源から DC/DC コンバータ 831a に供給されるアンペアオーダーの電流を、電解コンデンサ SC0 が存在する状態で発射基準パルス T0 が入力されて次の発射基準パルス T0 が入力されるまでの 600ms という期間に電源基板 851 の +37V という直流電源から DC/DC コンバータ 831a に供給されるミリアンペアオーダーの「第1の電流」と「第2の電流」とにより平均化することができる。したがって、発射ソレノイド 654 の駆動による瞬間的な大電流を供給するための負荷が電源基板 851 にかからなくすることができる。また、電源基板 851 の過負荷時の安全装置の作動条件の設計に時間を費やすことも解消することができる。

30

40

【1054】

[3-6D. 発射タイミング回路からの発射基準パルスと球送基準パルスとの関係]

50

次に、発射タイミング回路4120cからの発射基準パルスT0と、球送基準パルスT1と、について、図174を参照して説明する。TC点は、上述したように、発射タイミング回路4120cからの発射基準パルスT0を参照するための点であり、図171に示したTD点は、発射タイミング回路4120cからの球送基準パルスT1を参照するための点である。

【1055】

球送基準パルスT1は、発射基準パルスT0である30msの5倍である150ms（ $=T0(30ms) \times 5$ ）が設定されている。発射基準パルスT0が発射ソレノイド駆動回路4120dのスイッチング回路4121dに入力されると、図174(a), (e)に示すように、球送基準パルスT1が発射ソレノイド駆動回路4120dの球送ソレノイド駆動回路4120eに入力され（タイミングt0、150ms経過すると、その入力停止されるようになっている（タイミングt3）。これにより、球送ソレノイド585を駆動して球送ソレノイド585による球送制御を行うことにより、次の発射基準パルスT0が入力されるまでの間に、次に打ち出される遊技球のセットを完了することができ、発射基準パルスT0が入力されるごとに、遊技球を遊技領域1100に向かって連続して打ち出すことができる。

10

【1056】

このように、本例では、発射ソレノイド654によって遊技球を打ち込むようにした上で、電解コンデンサSC0から発射ソレノイド654へ駆動する電源を供給させると共に電解コンデンサSC0を発射電源基板831に備えるようにしているので、容量の異なる電解コンデンサSC0を備えた発射電源基板831を交換することで、発射ソレノイド654へ供給する電流（最大電流）を変更することができ、打球発射装置650の打込特性を遊技盤4に合わせた特性に変更することができる。

20

【1057】

また、電解コンデンサSC0から発射ソレノイド654へ電源を供給するようにしているので、遊技球を発射してから次に発射するまでの間に、電源基板851からの電力を電解コンデンサSC0で蓄えて発射ソレノイド654へ供給することで、電源基板851から直接瞬間的に大電流が消費されるのを回避させることができ、発光装飾基板のLEDや演出駆動用のモータやソレノイド等の発光や動き等が不安定になったり遊技球の飛びムラが発生したりするのを防止することができる。

30

【1058】

更に、電源基板851は、島設備の交流電源（AC24V）から直流電源（+5.2V、+5.25V、+12V、+24V、及び+37V）を作成して供給しており、打球発射装置650は、ハンドル装置500の回転ハンドル本体前506が回転操作されてその回転ハンドル本体前506の回転位置に見合った発射強度で発射ソレノイド654を駆動して遊技球を遊技領域1100に向かって打ち出すことができる。

【1059】

また、電圧比較回路4121cに印加される発射強度目標電圧は、シャントレギュレータ回路4121aからの一定電圧である+2.5Vが増幅回路4121bで増幅された+5.0Vがハンドル装置500の回転位置検知センサ512により分圧されたものとなることによって、この分圧された電圧も回転ハンドル本体前506の回転位置が同一回転位置に保持されているときには、変動が生じず一定の電圧に保持されることとなる。これにより、スイッチング回路4121dが打球発射装置650の発射ソレノイド654に併合電流を流すことにより発射制御電圧を発射強度目標電圧に近づけて発射制御電圧が発射強度目標電圧と同一となった際に、回転ハンドル本体前506の回転位置が同一回転位置に保持されているときには、発射ソレノイド654に流れる併合電流も変動が生じず一定の電流が流れることとなるため、発射ソレノイド654が遊技球を遊技領域1100に向かって打ち出す発射強度が同一となる。したがって、発射ソレノイド654の駆動発射による遊技球の「飛びムラ」を防止することができる。

40

【1060】

50

[3 - 7 . 主制御基板での制御処理]

次に、主制御基板 4 1 0 0（特に主制御 M P U 4 1 0 0 a）で実行される制御処理の例について、図 1 7 5 乃至図 1 8 7 を参照して説明する。図 1 7 5 は、主制御基板におけるメイン処理の一例を示すフローチャートである。図 1 7 6 は、電源断発生時処理の一例を示すフローチャートである。図 1 7 7 はタイマ割込処理の一例を示すフローチャートである。図 1 7 8 は、特別制御処理の一例を示すフローチャートである。図 1 7 9 は、始動口入賞処理を示すフローチャートである。図 1 8 0 は、変動開始処理を示すフローチャートである。図 1 8 1 は、変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。図 1 8 2 は、変動中処理の一例を示すフローチャートである。

【 1 0 6 1 】

また、図 1 8 3 は、大当り遊技開始処理の一例を示すフローチャートである。図 1 8 4 は、小当り遊技開始処理の一例を示すフローチャートである。図 1 8 5 は、大当り遊技処理の一例を示すフローチャートである。図 1 8 6 は、小当り遊技処理の一例を示すフローチャートである。なお、タイマ割込処理は、主制御基板 4 1 0 0 に搭載される主制御 M P U 4 1 0 0 a により所定のタイミング（本実施形態では、4 m s 毎）で実行される。図 1 8 7 は、特別図柄用乱数記憶手段におけるテーブル構成を示す説明図である。

【 1 0 6 2 】

メイン処理は、図 1 7 5 に示すように、パチンコ機 1 へ電力の供給が開始されると、主制御 M P U 4 1 0 0 a は、電源投入時処理を実行する（ステップ S 1）。この電源投入時処理では、R A M 4 1 0 0 e に記憶されているバックアップデータが正常であるか（停電発生時の設定値となっているか）否か判別し、正常であれば R A M 4 1 0 0 e に記憶されているバックアップデータに従って停電発生時の状態に戻す処理（復電時処理）を実行し、バックアップデータが異常であれば R A M 4 1 0 0 e をクリアして C P U 周辺のデバイス設定（通常の初期設定、割込タイミングの設定、等）を行う。

【 1 0 6 3 】

なお、遊技途中でパチンコ機 1 への電力供給が停止すると、R A M 4 1 0 0 e に現在の遊技状態がバックアップデータとして記憶される。また、電源投入時処理にて R A M 4 1 0 0 e に記憶されているバックアップデータのクリアを指示する R A M クリアスイッチ 4 1 0 0 c がオンであれば、R A M 4 1 0 0 e をクリアし、通常の初期設定を行う。また、電源投入時処理において、主制御基板 4 1 0 0 の R A M 4 1 0 0 e にバックアップデータが保存されていない場合には、R A M 4 1 0 0 e をクリアし、通常の初期設定を行う。

【 1 0 6 4 】

また、電源投入時処理では、通常の初期設定を実行した時に周辺制御部 4 1 4 0 に、主制御基板 4 1 0 0 が起動したことを示す電源投入コマンドを送信可能な状態にセットする処理も実行される。電源投入コマンドは、主制御基板 4 1 0 0 が起動したことを周辺制御部 4 1 4 0 に通知するものである。なお、パチンコ機 1 を設置する遊技ホールの閉店時等にパチンコ機 1 への電力供給を停止した場合（電源を落とした場合）にも R A M 4 1 0 0 e にバックアップデータが記憶され、再びパチンコ機 1 への電力供給を開始した時には電源投入時処理が実行される。

【 1 0 6 5 】

この電源投入時処理が終了すると、主制御 M P U 4 1 0 0 a は、遊技用の各処理を繰返し実行するループ処理を開始する。このループ処理の開始時には、主制御 M P U 4 1 0 0 a は、まず、停電予告信号が検知されているか否かを判定する（ステップ S 2）。なお、この実施の形態では、パチンコ機 1 にて使用する電源電圧は、電源基板 8 5 1 によって生成する。すなわち、パチンコ機 1 に搭載される複数種類の装置はそれぞれ異なる電源電圧で動作するため、外部電源からパチンコ機 1 に供給される電源電圧を電源基板 8 5 1 にて所定の電源電圧に変換した後、各装置に供給している。しかして、停電が発生し、外部電源から電源基板 8 5 1 に供給される電源電圧が所定の電源電圧以下となると、電源基板 8 5 1 から主制御基板 4 1 0 0 に電源電圧の供給が停止することを示す停電予告信号が送信される。そして、ステップ S 2 で主制御基板 4 1 0 0 に搭載される主制御 M P U 4 1 0 0

aにより停電予告信号を検知すると、電源断発生時処理を実行する（ステップS4）。

【1066】

この電源断発生時処理は、停電後に電源基板851に供給される電源電圧（この実施の形態では、24V）が復旧した場合に（以下、復電と呼ぶ）、遊技機の動作を停電前の状態から開始するために停電発生時の状態をRAM4100eにバックアップデータとして記憶する処理である。処理内容は後述するが、本実施例においては、図示する通り、電源断発生時処理は、割込処理ではなく、ループの開始直後に停電予告信号の検知有無に応じて実行される分岐処理としてメイン処理（主制御処理）内に組み込まれている。

【1067】

ところで、ステップS2で停電予告信号が検知されていない場合、すなわち外部電源からの電力が正常に供給されている場合には、遊技にて用いられる各種乱数を更新する乱数更新処理2を行う（ステップS3）。なお、乱数更新処理2にて更新される乱数については後述する。

【1068】

次に、電源断発生時処理は、図176に示すように、メイン処理において、停電予告信号が検出された時に実行される処理である。主制御MPU4100aは、まず、割込処理が実行されないように割込禁止設定を行う（ステップS4a）。そして、RAM4100eのチェックサムを算出し、RAM4100eの所定領域に保存する（ステップS4b）。このチェックサムは、復電時に停電前のRAM4100eの内容が保持されているか否かをチェックするのに使用される。

【1069】

続いて、主制御MPU4100aは、RAM4100eの所定領域に設けられたバックアップフラグに、電源断発生時処理が行われたことを示す規定値を設定する（ステップS4c）。以上の処理を終えると、主制御MPU4100aは、RAM4100eへのアクセスを禁止し（ステップS4d）、無限ループに入って電力供給の停止に備える。なお、この処理では、ごく短時間の停電等（以下、「瞬停」と呼ぶ）によって、電源電圧が不安定となることにより、電源断発生時処理が開始されてしまった場合、実際には電源電圧は停止されないため、上記処理では、無限ループから復帰することができなくなる虞れがある。かかる弊害を回避するため、本実施例の主制御MPU4100aには、ウォッチドックタイマが設けられており、所定時間、ウォッチドックタイマが更新されないトリセツがかかると構成されている。ウォッチドックタイマは、正常に処理が行われている間は定期的に更新されるが、電源断発生時処理に入り、更新が行われなくなる。これにより、瞬停によって、電源断発生時処理に入り、無限ループに入った場合でも、所定期間経過後にリセツがかかり、電源投入時と同じプロセスで主制御MPU4100aが起動するようになっている。

【1070】

次に、タイマ割込処理は、メイン処理の実行中に主制御基板4100に搭載される主制御MPU4100aにより4ms毎にタイマ割込処理が実行されるものであり、図177に示すように、主制御MPU4100aは、レジスタの退避処理を実行した後（ステップS10）、ステップS11からステップS18の処理を実行する。ステップS11のスイッチ入力処理では、上述したスイッチ（ゲートスイッチ、始動口センサ、カウントセンサ、一般入賞スイッチ等）の検出信号を監視する処理を実行する。ステップS12の乱数更新処理1では、遊技にて用いられる各種乱数を更新する処理を実行する。なお、この実施の形態では、乱数更新処理1にて更新される乱数と、上述した乱数更新処理2にて更新される乱数と、は異なる。乱数については後述するが、乱数更新処理2にて更新される乱数を乱数更新処理1でも更新するようにしてもよい。ステップS13の払出動作処理では、スイッチ入力処理（ステップS11）にて検出された信号に基づいて払出制御基板4110に遊技球の払出しを指示する払出コマンドを設定する。

【1071】

また、ステップS14の普通制御処理では、遊技の進行状態に基づいて、普通図柄を変

10

20

30

40

50

動させると共に、普通電動役物（すなわち始動口ソレノイド 2 1 2 1 によって第二始動口 2 1 0 2 を開閉する可動片 2 1 0 5）を制御し、第二始動口 2 1 0 2 の開閉状態を変化させる処理を実行する。ステップ S 1 5 の特別制御処理では、遊技の進行状態に基づいて特別図柄表示器 1 1 8 5、1 1 8 6 で第一特別図柄（第一識別図柄）及び第二特別図柄（第二識別図柄）を変動表示させたり、特別電動役物（すなわちアタッカソレノイド 2 1 2 4 によって大入賞口 2 1 0 3 を開閉する開閉部材 2 1 0 6）を制御し、大入賞口 2 1 0 3 の開閉状態を変化させたりする処理を実行する。

【1 0 7 2】

続くステップ S 1 6 の出力データ設定処理では、パチンコ機 1 の外部（例えば、管理コンピュータ等）に遊技状態を示す状態信号を出力する処理、特図始動記憶表示器（図示せず）に駆動信号を出力する処理、等を実行する。ステップ S 1 7 のコマンド送信処理では、演出コマンドを周辺制御部 4 1 4 0 に送信する処理を実行する。また、コマンド送信処理では、パチンコ機 1 への電力供給が開始された時に電源投入時処理（ステップ S 1）でセットされた電源投入コマンドを周辺制御部 4 1 4 0 に送信する処理も行われる。ステップ S 1 1 からステップ S 1 7 の処理を実行すると、レジスタの復帰処理（ステップ S 1 8）を実行して、処理を終了する。

【1 0 7 3】

ここで、上述した乱数更新処理 1（ステップ S 1 2）および乱数更新処理 2（ステップ S 3）で、主制御基板 4 1 0 0 の主制御 M P U 4 1 0 0 a により更新される各種乱数について説明する。この実施の形態では、遊技にて用いられる各種乱数として、大当たり遊技状態を発生させるか否かの判定（大当たり判定、大当たり抽選とも呼ぶ）に用いられる大当たり判定用乱数、大当たり判定において大当たり遊技状態を発生させると判定されたときに特別図柄の停止図柄（大当たりの種別（確変大当たりや、ラウンド数など）に対応付けされている図柄）を決定するために用いられる大当たり図柄用乱数、大当たり抽選にて大当たりと小当たりとのいずれでもない旨（ハズレ）判断されたときにリーチ演出などの高期待演出を行うか否かについての判定（リーチ判定）に用いられるリーチ判定乱数、特別図柄表示器 1 1 8 5、1 1 8 6 に表示されている特別図柄の変動表示パターン（変動時間など）を決定するために用いられる変動表示パターン乱数（変動時間用乱数）、第二始動口 2 1 0 2 を開閉する可動片 2 1 0 5 を開放状態に制御するか否かの判定（普通抽選当たり判定）に用いられる普通当たり判定用乱数、等がある。

【1 0 7 4】

また、後述するが、この実施の形態にかかる大当たり判定用乱数は、大当たりに落選（ハズレ）された旨判断されたときに行われる特定の条件が満たされているか否かについての判断にも供される。また、大当たり図柄用乱数は、大当たりに当選された旨判断されたときに行われる大当たりの種別（確率変動機能や時短機能を作動させるか否かや、大当たり遊技における大入賞口 2 1 0 3 の開放状態などが決定付けされている大当たりの種別）にかかる判断にも供される。

【1 0 7 5】

これらの乱数のうち、乱数更新処理 1 では、大当たり遊技状態の発生に関わる大当たり判定用乱数、大当たり図柄用乱数、および可動片 2 1 0 5 を開放状態に制御するか否かに関わる普通図柄当たり判定用乱数の更新を行う。すなわち、大当たり遊技状態の発生および可動片 2 1 0 5 を開放状態に制御するか否かに関わる判定に用いられる乱数は所定のタイミグとして 4 m s 毎に更新される。このようにすることにより、それぞれの乱数での所定期間における確率（大当たり遊技状態を発生させると判定する確率、可動片 2 1 0 5 を開放状態に制御すると判定する確率）を一定にすることができ、遊技者が不利な状態となることを防止することができる。一方、乱数更新処理 2 では、大当たり遊技状態の発生、及び普通抽選に関わらないリーチ判定乱数、及び変動表示パターン乱数等の更新を行う。

【1 0 7 6】

[特別制御処理について]

次に、図 1 7 8 に基づいて特別制御処理について説明する。図 1 7 8 は、特別制御処理

10

20

30

40

50

の一例を示すフローチャートである。

【1077】

この特別制御処理では、まず、第一・第二始動口入賞処理（ステップS110）を行う。この第一・第二始動口入賞処理では、第一始動口2101や第二始動口2102に遊技球が入賞したか否かについての判断などが行われる。そして、この第一・第二始動口入賞処理（ステップS110）が行われた後、図中に示す複数の処理（ステップS120～ステップS230）のうち、処理フラグの状態に応じた処理を選択的に行うこととなる。

【1078】

より具体的には、第一・第二始動口入賞処理（ステップS110）を終えると、まず、処理フラグが0であるか否かを判断し（ステップS120）、処理フラグが0であれば（ステップS120におけるYES）、変動開始処理（ステップS130）を実行する。この変動開始処理（ステップS130）では、大当たり抽選の結果に基づいて特別図柄の変動表示を開始するための設定などが行われた後、処理フラグが「1」に更新される。

10

【1079】

一方、処理フラグが0でなければ（ステップS120におけるNO）、処理フラグが1であるか否かを判断する（ステップS140）。そしてこの結果、処理フラグが1であれば（ステップS140におけるYES）、変動パターン設定処理（ステップS150）を実行する。この変動パターン設定処理では、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186に表示される特別図柄（識別図柄）の変動パターン（第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186のいずれかにおいて特別図柄（識別図柄）の変動表示を開始してから停止表示するまでの変動時間など）が決定された後、処理フラグが「2」に更新される。

20

【1080】

また一方、処理フラグが1でなければ（ステップS140におけるNO）、処理フラグが2であるか否かを判断する（ステップS170）。そしてこの結果、処理フラグが2であれば（ステップS170におけるYES）、変動中処理（ステップS180）を実行する。この変動中処理では、変動パターン設定処理（ステップS150）にて設定された変動時間をタイマにより監視し、タイムアウトしたことに基づいて第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186における特別図柄の変動表示を停止させる。そしてこの後、変動開始処理（ステップS130）にて大当たりが当選されている旨判断されているときには、処理選択フラグが「3」に更新される。これに対し、大当たりには落選しているものの、特定の条件が成立されている旨判断されている（小当たりに当選されている）ときには、処理選択フラグが「4」に更新される。ただし、大当たりには落選しており、且つ特定条件の成立もしていないとき（純ハズレ）には、処理選択フラグは「0」に更新される。すなわちこの場合、次の割込処理では、変動開始処理（ステップS130）から再びやり直すこととなる。

30

【1081】

また一方、処理フラグが2でなければ（ステップS170におけるNO）、処理フラグが3であるか否かを判断する（ステップS190）。そしてこの結果、処理フラグが3であれば（ステップS190におけるYES）、大当たり遊技開始処理（ステップS200）を実行する。この大当たり遊技開始処理では、大当たりの種別が判断され、その種別に応じた大入賞口2103における開放態様（ラウンド回数、開放時間および遊技球の入賞制限個数など）がセットされた後、処理フラグが「5」に更新される。一方、ステップS190において処理フラグが3でなければ（ステップS190におけるNO）、ステップS210に進む。

40

【1082】

また一方、処理フラグが3でなければ（ステップS190におけるNO）、処理フラグが4であるか否かを判断する（ステップS210）。そしてこの結果、処理フラグが4であれば（ステップS210におけるYES）、小当たり遊技開始処理（ステップS220）を実行する。この小当たり遊技開始処理では、小当たりに応じた大入賞口2103における開

50

放態様（開閉装置 500 の開放動作を制御するための開放回数および開放時間など）がセットされた後、処理フラグが「6」に更新される。

【1083】

また一方、処理フラグが4でなければ（ステップ S 210 における NO）、処理フラグが5であるか否かを判断する（ステップ S 230）。そしてこの結果、処理フラグが5であれば（ステップ S 230 における YES）、大当り遊技処理（ステップ S 240）を実行する。この大当り遊技処理では、大当り遊技開始処理（ステップ S 200）においてセットされた大入賞口 2103 における開放態様に基づいて開閉装置 500 にかかる開閉動作が制御される。また、大当り遊技が終了する場合には、確率変動機能や時短機能を作動させるか否かについての判断などが行われた後、処理フラグが「0」に更新される。すな

10

【1084】

また一方、処理フラグが5でなければ（ステップ S 230 における NO）、処理フラグは6であるとして、小当り遊技処理（ステップ S 250）を実行する。この小当り遊技処理（ステップ S 250）では、小当り遊技開始処理（ステップ S 220）においてセットされた大入賞口 2103 における開放態様に基づいて開閉装置 500 にかかる開閉動作が制御される。また、小当り遊技処理が終了する場合には、処理フラグが「0」に更新される、すなわちこの場合、次の割込処理では、変動開始処理（ステップ S 130）から再びやり直すこととなる。

20

【1085】

このように、ステップ S 130、ステップ S 150、ステップ S 180、ステップ S 200、ステップ S 220、ステップ S 240、及びステップ S 250 の処理のいずれかが処理フラグの状態に基づいて選択的に実行された時点で、特別制御処理は終了される。

【1086】

[第一・第二始動口入賞処理について]

次に、第一・第二始動口入賞処理（ステップ S 110 の処理）について図 179 に基づいて説明する。図 179 は、第一・第二始動口入賞処理の一例を示すフローチャートである。

【1087】

この第一・第二始動口入賞処理（ステップ S 110）においては、大きくは、第一始動口 2101 や第二始動口 2102 に遊技球が入賞された否かについての判断にかかる処理と、該入賞があった旨判断されたことを条件に、該当する特別図柄（第一特別図柄、もしくは第二特別図柄）の保留状態の更新にかかる処理とが行われる。

30

【1088】

したがって、主制御 MPU 4100a は、まず、第二始動口センサ 2127 から検出信号が出力されたか否かについての判断を行う。そしてこの結果、第二始動口センサ 2127 から検出信号が出力された旨判断されたときには、第二始動口 2102 への遊技球の入賞があった旨判断し（ステップ S 201 にて YES）、次にステップ S 202 の処理を行う。このステップ S 202 の処理では、第二大当り抽選用の各種乱数（大当り判定用乱数、大当り図柄用乱数など）を取得し、RAM 4100e に設けられている第二保留数カウンタの値が上限値となる 4 未満であるか否かについての判断を行う。そしてこの結果、第二保留数カウンタが 4 未満であれば、第二始動保留記憶処理（ステップ S 203）、及び保留履歴更新処理（ステップ S 204）を順次に行う。

40

【1089】

すなわちこの場合、主制御 MPU 4100a は、まず、第二始動保留記憶処理（ステップ S 203）として、第二始動口 2102 に遊技球が入賞したことによって取得された各種データ（大当り判定用乱数、大当り図柄用乱数など）を、特別図柄の種類や保留順に対応付けしつつ所定の記憶領域（RAM 4100e）に記憶する。次いで、保留履歴更新処理（ステップ S 204）として、RAM 4100e に設けられている第二保留数カウンタ

50

のカウンタ値に1を加算することとなる。

【1090】

なお、ステップ203の処理においては、第二始動口2102への遊技球の入賞があった旨（より正確には、特別図柄の種類や保留順など）が示される入賞通知コマンドをセットし、こうしてセットされた入賞通知コマンドが上述のコマンド送信処理（ステップS17）にて周辺制御基板4010に対して送信されるようにしてもよい。このような構成では、周辺制御基板4010による制御を通じて、液晶表示装置1900などに第二始動口2102側の保留表示をする場合にこれを迅速に更新させることができるようになる。

【1091】

一方、上記ステップS201の処理において、第二始動口センサ2127からの検出信号が出力されていない旨判断されたときや、上記ステップS202の処理において、第二保留数カウンタの値が上限値となる4である旨判断されたときは、次にステップS205の処理として、第一始動口センサ3231から検出信号が出力されたか否かについての判断を行う。そしてこの結果、第一始動口センサ3231から検出信号が出力された旨判断されたときは、第一始動口2101への遊技球の入賞があった旨判断し（ステップS205にてYES）、次にステップS206の処理を行う。このステップS206の処理では、第一大当り抽選用の各種乱数（大当り判定用乱数、大当り図柄用乱数など）を取得し、RAM4100eに設けられている第一保留数カウンタの値が上限値となる4未満であるか否かについての判断を行う。そしてこの結果、第一保留数カウンタが4未満であれば、第一始動保留記憶処理（ステップS207）、及び保留履歴更新処理（ステップS208）を順次に行う。

【1092】

すなわちこの場合、主制御MPU4100aは、まず、第一始動保留記憶処理（ステップS207）として、第一始動口2101に遊技球が入賞したことによって取得した各種データ（大当り判定用乱数、大当り図柄用乱数など）を、特別図柄の種類や保留順に対応付けしつつ所定の記憶領域（RAM4100e）に記憶する。次いで、保留履歴更新処理（ステップS208）として、RAM4100eに設けられている第一保留数カウンタのカウンタ値に1を加算することとなる。

【1093】

なお、ステップ207の処理においても、第一始動口2101への遊技球の入賞があった旨（より正確には、特別図柄の種類や保留順など）が示される入賞通知コマンドをセットし、こうしてセットされた入賞通知コマンドが上述のコマンド送信処理（ステップS17）にて周辺制御基板4010に対して送信されるようにしてもよい。このような構成では、周辺制御基板4010による制御を通じて、液晶表示装置1900などに第一始動口2101側の保留表示をする場合についてもこれを迅速に更新させることができるようになる。

【1094】

他方、上記ステップS205の処理において、第一始動口2101への遊技球の入賞がなかった旨判断されたときや、上記ステップS206の処理において、第一保留数カウンタのカウンタ値が上限値となる4に達している旨判断されたときは、この時点で、当該第一・第二始動口入賞処理を終了する。

【1095】

なお、この実施の形態では、第二始動口2102への入賞処理（ステップS201～ステップS204）を実行したのちに、第一始動口2101への入賞処理（ステップS205～ステップS208）を実行している。ただし、これに代えて、第一始動口2101への入賞処理を実行したのちに、第二始動口2102への入賞処理を実行する態様であってもよい。

【1096】

また、主制御MPU4100aは、取得された各種乱数に基づく先行判定処理を実行し、入賞通知コマンドとして、更に先行判定処理の結果を表すコマンドを、周辺制御基板4

10

20

30

40

50

010に送信する場合がある。先行判定処理は、ステップS203、S207で記憶された乱数を用いた抽選（例えば、後述の大当り抽選、確変抽選、小当り抽選、変動表示パターンの決定）に先立って行われ、その抽選結果を事前に判定する処理である。先行判定処理では、ステップS203、S207で記憶された乱数と、先行判定テーブルとを用いて行われる。先行判定テーブルは、当該乱数を用いた抽選に利用されるテーブルと同様のテーブルである。先行判定処理では、当該乱数と先行判定テーブルとを比較することによって、当該乱数を用いた抽選が行われた場合の抽選結果（大当りまたは小当りの当否と、大当りの種類と、変動表示パターン等）が判定される（このように抽選に先行して行われる判定は、「先読み判定」とも呼ばれる）。周辺制御基板4010は、受信した入賞通知コマンド（先行判定結果）を反映した演出を、当該乱数を利用した抽選が行われるよりも前に、実現してもよい（このような演出は、「先読み演出」とも呼ばれる）。先読み演出は、例えば、先行判定結果が、特定の歌手をモチーフとした演出が実現されることを表す場合に、その演出が実現されるよりも前の演出において、特定の歌手を表すキャラクターを表示する演出であってもよい。

10

【1097】

なお、本実施形態のパチンコ遊技機1では、先行判定テーブルの内容は、抽選に利用されるテーブルの内容と同じである。ただし、先行判定テーブルの内容の少なくとも一部が、抽選に利用されるテーブルの内容と異なってもよい。

【1098】

また、主制御MPU4100aは、遊技状態が特定の条件を満たしている場合にのみ、先行判定処理の結果を表す入賞通知コマンドを送信し、特定の条件を満たしていない場合には、先行判定処理の結果を表さない入賞通知コマンドを送信してもよい。例えば、第一始動口2101への入賞に起因する変動表示が、入賞後すぐには開始されず保留される場合に、主制御MPU4100aは、当該入賞に関する先行判定処理の結果を表す入賞通知コマンドを送信してもよい。ここで、大当り遊技状態と、時短遊技状態とにおいては、主制御MPU4100aは、先行判定処理の結果を表す入賞通知コマンドを送信せずに、先行判定処理の結果を表さない入賞通知コマンドを送信してもよい。第二始動口2102に関する特定の条件も、同様であってよい。

20

【1099】

〔変動開始処理について〕

30

次に、変動開始処理について図180に基づいて説明する。図180は、変動開始処理の一例を示すフローチャートである。

【1100】

処理フラグが「0」のときに実行される変動開始処理（ステップS130）では、主制御MPU4100aは、まず、特別図柄表示器2390a、2390bに対応する二つの保留数カウンタの値（第一始動記憶数及び第二始動記憶数）がいずれも「0」であるか否かを判断する（ステップS301）。ここで、特別図柄表示器2390a、2390bに対応する二つの保留数カウンタにおける値とは、第一始動記憶及び第二始動記憶にかかる保存領域（特別図柄用乱数記憶手段4515、4532（図187参照））に格納される乱数値の数をそれぞれ示すものである。したがって、このステップS301において保留数カウンタの値がいずれも「0」であれば（YES）、第一大当り抽選及び第二大当り抽選に関する始動条件がいずれも成立していないと判別され、次にステップS318の処理として、処理フラグを「1」に更新した時点で変動開始処理を終了する。

40

【1101】

一方、第一始動記憶数及び第二始動記憶数がいずれも「0」でなければ（ステップS301におけるNO）、保留状態とされている大当り抽選の実行にかかる順序を更新すべく、特別図柄用乱数記憶手段4515、4532におけるシフト処理を行う（ステップS302～ステップS310）。

【1102】

ちなみに、図187（a）に示されるように、第一特別図柄用乱数記憶手段4515に

50

は、四つの記憶領域（記憶領域〔1〕4515a～記憶領域〔4〕4515d）が設けられており、それら記憶領域は、第一始動記憶数（「1」～「4」）の値にそれぞれ対応付けられている。また、図187（b）に示されるように、第二特別図柄用乱数記憶手段4532にも、四つの記憶領域（記憶領域〔1〕4532a～記憶領域〔4〕4532d）が設けられており、それら記憶領域は、第二始動記憶数（「1」～「4」）の値にそれぞれ対応付けられている。なお、各記憶領域4515a～4515d、4532a～4532dには、大当たり判定用乱数が記憶される大当たり判定用乱数記憶領域4580と、大当たり図柄用乱数やリーチ判定用乱数、変動表示パターン乱数などが記憶される大当たり図柄用乱数記憶領域4581とがそれぞれ設けられている。

【1103】

すなわち、主制御MPU4100aは、特別図柄の変動に際し、乱数記憶領域におけるシフト処理（ステップS302～ステップS310）として、これら記憶手段4515、4532にて記憶されている乱数を適宜操作することとなる。ただし後述するが、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、第一特別図柄側の抽選処理にて大当たりが当選された場合と、第二特別図柄側の抽選処理にて大当たりが当選された場合とで遊技者に付与される利益（獲得可能な賞球数など）の期待値に差異はないものの、第一特別図柄側の抽選処理では、条件装置の作動を伴わない当り（小当り）に当選される場合があるのに対し、第二特別図柄側の抽選処理では、小当りに当選される確率が「0%」となっており、これによって第二特別図柄側の抽選処理だけが実行される限りは小当り遊技状態が発生されないようになっている。

【1104】

この点、乱数記憶領域におけるシフト処理（ステップS302～ステップS310）では、第一特別図柄の抽選の実行が必ず後回しにされて、条件装置の作動を伴わない当り（小当り）が当選されない上記第二始動口2102への入賞に基づく抽選（第二特別図柄の抽選）がすべて先に消化されるように、上記記憶手段4515、4532にて記憶されている乱数を操作するようにしている。これにより、第二特別図柄側の抽選にかかる保留数が途切れて「0」になるまでは上記小当りに当選されないもとの遊技（第二特別図柄側の抽選）のみを順次行わせることができるようになる。また、これも後述するが、いわゆる時短機能が作動する遊技状態においては、先に消化される側である第二特別図柄の抽選（変動）の保留状態が途切れないように、同抽選（変動）の実行契機となる上記第二始動口2102への遊技球の入賞が容易な状態へと変化させる頻度が高められる制御が行われることから、第二特別図柄側の抽選（変動）のみの連続実行によって当該パチンコ機1に小当りが搭載されていることを遊技者に気付かせ難くすることができるようになる。

【1105】

したがって、図180、図187に示されるように、乱数記憶領域におけるシフト処理（ステップS302～ステップS310）に際しては、まず、ステップS302の処理として、優先的に消化される側である

【1106】

第二特別図柄表示器1186に対応する保留数カウンタの値（第二始動記憶数）が「0」であるか否か、すなわち第二特別図柄用乱数記憶手段4532の記憶領域〔1〕4532aに乱数が記憶されていないかを判断する。そしてこの結果、第二特別図柄用乱数記憶手段4532の記憶領域〔1〕4532aに乱数が記憶されている旨判断された場合は（ステップS302におけるNO）、同記憶領域〔1〕4532aから第二特別図柄に関する乱数を読み出してこれを取得する（ステップS303）。すなわち後述するが、こうして読み出された乱数（大当たり判定用乱数、大当たり図柄用乱数、リーチ判定用乱数、変動表示パターン乱数）が、大当たりの抽選にかかる処理はもとより、特別図柄の変動パターン（変動時間や、停止表示態様など）の設定にかかる処理や、開閉部材2106の開閉態様の設定にかかる処理、遊技状態の設定にかかる処理、等々に供されることにより第二始動口2102への遊技球の入賞を契機とした第二始動遊技が進行されうるようになる。

【1107】

次いで、主制御MPU4100aは、第二特別図柄側の抽選（変動）にかかる消化順位を更新すべく、n番目（nは2以上の自然数）の各記憶領域（記憶領域[2]4532b～記憶領域[4]4532d）に記憶される各種乱数を、n-1番目の記憶領域（記憶領域[1]4532a～記憶領域[3]4532c）にそれぞれシフトする（ステップS304）。これにより、少なくとも記憶領域[4]4532dには空きが生じるようになり、この記憶領域[4]4532dに第二特別図柄についての新たな始動情報（保留）が記憶可能とされるようになる。

【1108】

そしてこの後、主制御MPU4100aは、第二特別図柄側の遊技（第二始動遊技）が進行される状態にあることが示されるように、特別図柄変動フラグに「1」をセットする（ステップS305）。またさらに、第二特別図柄側の抽選（変動）にかかる保留数を更新すべく、第二特別図柄に対応する保留数カウンタを「1」減算する（ステップS306）。なお、こうして「1」にセットされた特別図柄変動フラグについては、当該変動開始処理が終了して以降、例えば、処理フラグが「0」に更新されるときにリセットされる。

【1109】

これに対し、図180、図187に示されるように、ステップS302の処理において、第二特別図柄用乱数記憶手段4532の記憶領域[1]4532aに乱数が記憶されていない旨判断された場合は（ステップS302におけるYES）、第一特別図柄用乱数記憶手段4515の記憶領域[1]4515aから第一特別図柄に関する乱数を読み出してこれを取得する（ステップS307）。すなわち後述するが、こうして読み出された乱数が、大当りの抽選にかかる処理はもとより、特別図柄の変動パターンの設定にかかる処理や、開閉部材2106の開閉態様の設定にかかる処理、遊技状態の設定にかかる処理、等々に供されることにより第一始動口2101への遊技球の入賞を契機とした第一始動遊技が進行されるようになる。

【1110】

次いで、主制御MPU4100aは、第一特別図柄側の抽選（変動）にかかる消化順位を更新すべく、n番目（nは2以上の自然数）の各記憶領域（記憶領域[2]4515b～記憶領域[4]4515d）に記憶される各種乱数を、n-1番目の記憶領域（記憶領域[1]4515a～記憶領域[3]4515c）にそれぞれシフトする（ステップS308）。これにより、少なくとも記憶領域[4]4515dには空きが生じるようになり、この記憶領域[4]4515dに第一特別図柄についての新たな始動情報（保留）が記憶可能とされるようになる。

【1111】

そしてこの後、主制御MPU4100aは、第一特別図柄側の遊技（第一始動遊技）が進行される状態にあることが示されるように、特別図柄変動フラグに「2」をセットする（ステップS309）。またさらに、第一特別図柄側の抽選（変動）にかかる保留数を更新すべく、第一特別図柄に対応する保留数カウンタを「1」減算する（ステップS310）。なお、こうして「2」にセットされた特別図柄変動フラグについても同様、当該変動開始処理が終了して以降、例えば、処理フラグが「0」に更新されるときにリセットされる。

【1112】

その後、確率変動機能作動中か否か、すなわち高確率である確率変動状態か否かを判別し（ステップS312）、確率変動状態でない場合には（ステップS312にてNO）、確率変動未作動時の大当たり判定テーブル、すなわち大当たりとなる確率が低く設定されたテーブルを選択し、一方、確率変動状態の場合には（ステップS312にてYES）、確率変動作動時のテーブル、すなわち大当たりとなる確率が高く設定されたテーブルを選択する。なお、本例では、確率変動未作動時（すなわち通常時）には、大当たりとなる確率が1/400に設定され、確率変動作動時（すなわち高確率時）には、大当たりとなる確率が10/400に設定されている。

【1113】

ステップS 3 1 3又はステップS 3 1 4の処理において、何れかのテーブルが選択された後、そのテーブルに基づき、ステップS 3 0 3又はステップS 3 0 7の処理にて取得された、いずれかの特別図柄に関する大当たり判定用乱数が、大当たり相当する乱数（大当たり値）であるか否かを判別する（ステップS 3 1 5（大当たり抽選））。そして、大当たり値である場合には（ステップS 3 1 5にてYES）、同じくステップS 3 0 3又はステップS 3 0 7の処理にて取得された、何れかの特別図柄に関する大当たり図柄用乱数に基づいて大当たりの種別を判定する（ステップS 3 1 6）。その後、大当たりの種別に応じたフラグをON状態（セット）にして（ステップS 3 1 7）、ステップS 3 1 8に移行する。

【1114】

一方、取得した乱数が大当たり値でないハズレである場合には（ステップS 3 1 5にてNO）、その乱数が小当たり相当する乱数（小当たり値）であるか否かを判別する（ステップS 3 1 9）。そして、小当たり値である場合には（ステップS 3 1 9にてYES）、予め定められた特定の条件が満たされているとして小当たりフラグを「ON」にし（ステップS 3 2 0）、ステップS 3 1 8に移行する。ただし、小当たり値でない場合には（ステップS 3 1 9にてNO）、予め定められた特定の条件は満たされていないとして、ステップS 3 2 0を経由することなく、ステップS 3 1 8に移行する。ステップS 3 1 8では、処理フラグを「1」に更新し、変動開始処理を終了する。なお、本例では、小当たりとなる確率は、遊技状態にかかわらず3/400に設定されている。

【1115】

ところで、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、第一特別図柄と第二特別図柄とのいずれの抽選であるかにかかわらず、大当たり図柄用乱数として例えば0～99の乱数幅で発生する乱数値が用意されており、上記ステップS 3 0 3又はステップS 3 0 7の処理においては、これら乱数値のうち一つが大当たり図柄用乱数の値として取得される。そして、この取得された乱数値は、上記ステップS 3 1 6の処理にて大当たりの種別を決定付ける処理に供されるようになっており、例えば、同乱数値が0～52であれば大当たりAと判定され、53～57であれば大当たりBと判定され、58～63であれば大当たりCと判定され、64～81であれば大当たりDと判定され、82～99であれば大当たりEと判定される。

【1116】

このような判定手法によれば、図188に示されるように、大当たり（条件装置の作動を伴う当り）の種別が「大当たりA」と判定される確率は「53%」であり、大当たりの種別が「大当たりB」と判定される確率は「5%」であり、大当たりの種別が「大当たりC」と判定される確率は「6%」であり、大当たりの種別が「大当たりD」、「大当たりE」と判定される確率はそれぞれ「18%」である。

【1117】

ここで、「大当たりA」が当選された場合は、該当当選されたときの遊技状態にかかわらず、当該大当たりAの当選に応じた大当たり遊技が行われた後、確率変動機能と時短機能（開放延長機能）とのいずれもが作動する確変外部有利遊技状態に制御される。この大当たりAの当選に応じた大当たり遊技では、開閉部材2106の開閉を、長時間開閉パターンで複数回（本実施形態では、16回）繰り返す長開放当り遊技として行われるようになっている。なお、長時間開閉パターンとは、開閉部材2106を閉状態から開状態とした後に、所定長時間（例えば、26秒～33秒）経過すること、或いは、所定の大個数（例えば、10個）の遊技球が大入賞口2003に入賞すること、の何れかの条件が充足すると開閉部材2106を閉状態に戻すパターンである。この長時間開閉パターンにおいて、開閉部材2106が開状態とされる時間は、後述の中時間開閉パターンや小時間開閉パターンにおいて、開閉部材2106が開状態とされる時間よりも長い。すなわち、長開放当り遊技では、特典として多量の賞球（本実施形態では、約1750個）が実質的に遊技者に獲得可能とされる。

【1118】

これに対し、「大当たりB」が当選された場合も、該当当選されたときの遊技状態にかかわらず、当該大当たりBの当選に応じた大当たり遊技が行われた後、確率変動機能と時短機能（

10

20

30

40

50

開放延長機能)とのいずれもが作動する確変外部有利遊技状態に制御される。ただし、大当たりBの当選に応じた大当たり遊技では、開閉部材2106の開閉を、中時間開閉パターンで複数回(本実施形態では、16回)繰り返す中開放当たり遊技として行われるようになっている。なお、中時間開閉パターンとは、開閉部材2106を閉状態から開状態とした後に、所定中時間(例えば、13秒~17秒)経過すること、或いは、所定の中個数(例えば、6個)の遊技球が大入賞口2003に入賞すること、の何れかの条件が充足すると開閉部材2106を閉状態に戻すパターンである。この中時間開閉パターンにおいて、開閉部材2106が開状態とされる時間は、後述の小時間開閉パターンにおいて、開閉部材2106が開状態とされる時間よりも長い。すなわち、中開放当たり遊技では、特典として中量の賞球(本実施形態では、約1000個)が実質的に遊技者に獲得可能とされる。

10

【1119】

一方、「大当たりC」が当選された場合は、該当選されたときの遊技状態が「時短機能が作動する外部有利遊技状態」であるときに限り、当該大当たりCの当選に応じた大当たり遊技が行われた後、確率変動機能と時短機能(開放延長機能)とのいずれもが作動する確変外部有利遊技状態に制御される。ただし、該当選されたときの遊技状態が「時短機能が作動する外部有利遊技状態」でないときには、当該大当たりCの当選に応じた大当たり遊技が行われた後、確率変動機能と時短機能(開放延長機能)とのうち、確率変動機能のみが作動する高確遊技状態(確変外部不利遊技状態)に制御される。なお、大当たりCの当選に応じた大当たり遊技では、開閉部材2106の開閉を、中時間開閉パターンで複数回(本実施形態では、16回)繰り返す上述の中開放当たり遊技として行われる。

20

【1120】

また一方、「大当たりD」が当選された場合は、該当選されたときの遊技状態にかかわらず、当該大当たりDの当選に応じた大当たり遊技が行われた後、確率変動機能と時短機能(開放延長機能)とのうち、確率変動機能のみが作動する高確遊技状態(確変外部不利遊技状態)に制御される。なお、大当たりDの当選に応じた大当たり遊技では、開閉部材2106の開閉を、中時間開閉パターンで複数回(本実施形態では、16回)繰り返す上述の中開放当たり遊技として行われる。

【1121】

他方、「大当たりE」が当選された場合は、該当選されたときの遊技状態にかかわらず、当該大当たりEの当選に応じた大当たり遊技が行われた後、確率変動機能と時短機能(開放延長機能)とのいずれもが作動しない通常遊技状態(通常外部不利遊技状態)に制御される。なお、大当たりEの当選に応じた大当たり遊技では、開閉部材2106の開閉を、中時間開閉パターンで複数回(本実施形態では、16回)繰り返す上述の中開放当たり遊技として行われる。

30

【1122】

ちなみに、このような大当たりA~E(条件装置の作動を伴う当り)に対し、小当たり(条件装置の作動を伴わない当り)が当選された場合は、開閉部材2106の開閉を、小時間開閉パターンで複数回(本実施形態では、2回)繰り返す小開放当たり遊技(小当たり遊技)が行われるだけであり、小開放当たり遊技(小当たり遊技)が行われる前と同遊技が行われた後とで遊技状態が異なるようなことはない。なお、小時間開閉パターンとは、開閉部材2106を閉状態から開状態とした後に、所定小時間(例えば、3秒~6秒)経過、或いは、所定の小個数(例えば、2個)の遊技球が大入賞口2003に入賞の何れかの条件が充足すると開閉部材2106を閉状態に戻すパターンである。すなわち、小開放当たり遊技(小当たり遊技)では、特典として少量の賞球(本実施形態では、40~50個程度)しか実質的に遊技者に獲得可能とされないことから、開閉部材2106が動作するにもかかわらず遊技興趣が低下しかねない点でその遊技設計上での取り扱い(位置づけ)に注意を要するものといえる。

40

【1123】

このように、この実施の形態にかかるパチンコ機では、条件装置の作動を伴う当り(大当たり)の種別として「大当たりA」~「大当たりE」が用意されている。したがって、上記ス

50

テップS 3 1 7の処理をさらに詳述すると、大当りの種別が「大当たりA」であるときには大当たりフラグAをON状態（セット）にし、「大当たりB」であるときには大当たりフラグBをON状態（セット）にし、「大当たりC」であるときには大当たりフラグCをON状態（セット）にし、「大当たりD」であるときには大当たりフラグDをON状態（セット）にし、「大当たりE」であるときには大当たりフラグEをON状態（セット）にすることとなる。

【1 1 2 4】

〔変動パターン設定処理について〕

次に、大当たり抽選（ステップS 3 1 5）の結果などに基づいて特別図柄の変動パターンが設定される変動パターン設定処理について説明する。図1 8 1は、変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。

10

【1 1 2 5】

同図1 8 1に示されるように、処理フラグが「1」のときに実行される変動パターン設定処理（ステップS 1 5 0）では、主制御MPU 4 1 0 0 aは、まず、ステップS 4 0 1の処理として、大当たりフラグが「ON」であるか否かを判断する。そしてこの結果、大当たりフラグが「ON」である旨判断されたときは（ステップS 4 0 1におけるYES）、大当たり当選されているときの変動パターンが設定されるべく、後述の大当たり変動パターンテーブル設定処理を行う（ステップS 4 0 2）。

【1 1 2 6】

これに対し、上記ステップS 4 0 1の処理において、大当たりフラグが「ON」でない旨判断されたときは、次にステップS 4 0 3の処理として、小当たりフラグが「ON」であるか否かを判断する。そしてこの結果、小当たりフラグが「ON」である旨判断されたときは（ステップS 4 0 3におけるYES）、ハズレではなるものの特定の条件が満たされている状態にあるとして、小当たり当選されているときの変動パターンが設定されるべく、後述の小当たり変動パターンテーブル設定処理を行う（ステップS 4 0 4）。

20

【1 1 2 7】

一方、上記ステップS 4 0 3の処理において、小当たりフラグが「ON」でない旨判断されたときは、次にステップS 4 0 5の処理として、大当たりへの当選の期待度が高い高期待演出（例えばリーチ演出など）を行うべきか否かを判断する。このステップS 4 0 5の処理では、例えば、上記ステップS 3 0 3（図1 8 0参照）の処理にて取得されたリーチ判定用乱数が所定の当り値であるときに高期待演出を行うと判断され、取得されたリーチ判定用乱数が所定の当り値でないときには高期待演出を行わないと判断される。そしてこの結果、高期待演出を行うべきであると判断されると（ステップS 4 0 5におけるYES）、高期待演出を行うときの変動パターンが設定されるべく、後述の高期待ハズレ変動パターンテーブル設定処理を行う（ステップS 4 0 6）。

30

【1 1 2 8】

なお、リーチ判定用乱数に対して用意される所定の当り値の数については、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）、通常外部有利遊技状態（時短機能のみ作動）、確変外部不利遊技状態（確変機能のみ作動）、及び確変外部有利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも作動）の各遊技状態の別に異ならしめるようにしてもよい。例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、通常外部不利遊技状態においては、リーチ判定用乱数が所定の当り値であることに基づいて高期待演出を行うべきであると判断される確率は「1/12」となっているが、通常外部有利遊技状態や確変外部有利遊技状態においては、リーチ時の期待度がより高められるように（若しくは、効率の良い保留消化が行われるように）、より低い確率をもって高期待演出を行うべきであると判断されるようにしてもよい。また逆に、確変外部不利遊技状態においては、大当たりである可能性をより高い頻度で意識付けさせることができるように、より高い確率をもって高期待演出を行うべきであると判断されるようにしてもよい。

40

【1 1 2 9】

また一方、上記ステップS 4 0 5の処理において、大当たりへの当選の期待度が高い高期待演出を行うべきでないと判断されると（ステップS 4 0 5におけるNO）、高期待演出

50

が行われないときのハズレ変動パターン（通常の変動パターン）が設定されるべく、低期待ハズレ変動パターンテーブル設定処理を行う（ステップS407）。

【1130】

ここで、低期待ハズレ変動パターンテーブル設定処理にて設定されるテーブルは、複数の遊技状態の別にそれぞれ対応付けされるかたちで用意されており、例えば、通常遊技状態においては、保留数が所定値以上であるときに短縮変動が行われるようになっている。

【1131】

ただし、時短機能が作動する遊技状態においては、小当りに当選される確率が「0」とされている第二特別図柄側の抽選（変動）にかかる保留数が途切れ難くなるように変動時間が設定されている。より具体的には、第二特別図柄側の保留数が所定値以下であるときには、時短機能が作動する遊技状態にあるにもかかわらず短縮変動を採用せず、通常遊技状態において短縮変動が採用されないときの変動時間と同等以上の長さをもった変動時間（通常遊技状態における短縮変動よりも長い変動時間）のみが選択されるようになっている。また、第一特別図柄側の変動時間についてはその保留数にかかわらず短縮変動を採用せず、通常遊技状態において短縮変動が採用されないときの変動時間と同等以上の長さをもった変動時間のみが選択されるようになっている。これにより、時短機能が作動する遊技状態にあるときは、小当りが当選されうる第一特別図柄側の保留が消化されることが抑制されるようになり、ひいては当該パチンコ機1に小当りが搭載されていることを遊技者に気付かせ難くすることができるようになる。

【1132】

そして後述するが、図181に示されるように、ステップS402、ステップS404、ステップS406、及びステップS407のいずれかの処理において、変動パターンにかかる選択テーブルが設定されると、上記主制御MPU4100aは、次にステップS410の処理として、該設定された選択テーブルに基づいて特別図柄の変動パターンを決定する。次いで、ステップS411の処理として、こうして決定された特別図柄の変動パターン（変動時間）を演出コマンドとしてセットするとともに、大当りフラグ（ステップS317）や小当りフラグ（ステップS320）の状態に基づいて当選情報コマンド（当たりにかかる当落や、小当りを含めてその当選種を示すコマンド）をセットする。

【1133】

またさらに、上記決定された変動パターンに応じた変動時間の値をタイマにセットし（ステップS412）、特図LED作動フラグをONにセットする（ステップS413）。この特図LED作動フラグがONにセットされると、上記ステップS305又は上記ステップS309の処理にて設定された特別図柄変動フラグの値に基づいて、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186としての複数のLEDの点灯パターンにかかる変動表示が開始されるようになる。そしてこの後、処理フラグを「2」に更新し（ステップS414）、変動パターン設定処理を終了する。

【1134】

ところで、この変動パターン設定処理で設定された変動パターンは、上記ステップS411の処理にてセットされる演出コマンドとして、図177に示したコマンド送信処理（ステップS17）によって周辺制御基板4010に送信される。これにより、液晶表示装置1900においては、周辺制御基板4010側による後述の制御を通じて、上記演出コマンドにより示される変動パターンと上記当選情報コマンドにより示される情報とに基づいて、大当り抽選の結果が示されるように表示演出が行われるようになる。

【1135】

ただし後述するが、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当り抽選の結果が条件装置の作動を伴わない当り（小当り）であるとき、液晶表示装置1900における表示演出については、上記設定された変動パターンの変動時間内で終了させることなく、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186としての複数のLEDの点灯パターンにかかる変動表示の停止後の期間にまで延長（演出時間を延長）させた上で、条件装置の作動を伴う当り（大当り）に落選されたことを示すように実行されうるようにし

10

20

30

40

50

ている（図１９８（ｂ）の延長演出パターン）。すなわちこの場合、特別図柄の停止後、小開放当り遊技の実行に際し、賞球の獲得を煽るような表示演出が現れなくなることはもとより、大当りの落選であることが示されてから比較的早く次変動（特別図柄の保留消化）に移行させることができるようになり、上記開閉部材２１０６が動作するまでの演出として何らかの期待を持たせてしまう可能性がある間延びも好適に回避されるようになる。

【１１３６】

また、これも後述するが、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特別図柄の停止後に大当りの落選であることが示される上述の小当り時の表示演出（延長ハズレ演出）に対し、特別図柄の停止後に大当りに当選されたことが示される表示演出（延長大当り演出）も用意している。すなわち、大当り抽選の結果が条件装置の作動を伴う当り（大当り）であるとき、液晶表示装置１９００における表示演出については、上記設定された変動パターンの変動時間内で終了させることなく、第一特別図柄表示器１１８５または第二特別図柄表示器１１８６としての複数のＬＥＤの点灯パターンにかかる変動表示の停止後の期間にまで延長させた上で、条件装置の作動を伴う当り（大当り）に当選されたことを示すように実行されうるようにしている（図１９８（ｂ）の延長演出パターン）。

10

【１１３７】

すなわちこの場合、上述の小当り時の表示演出が大当りの落選時に現れる単なるハズレ演出（高期待ハズレ変動パターン）として位置付けされることとなる。これにより、条件装置の作動を伴わない当り（小当り）が搭載されているパチンコ機１であることが気付かれ難くなり、ひいては小当りの当選に応じて開閉部材２１０６が動作することによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。

20

【１１３８】

なお、小当りの当選時における複数のＬＥＤ（特別図柄）の点灯態様（特別図柄の停止時）については、大当りの当選時における複数のＬＥＤ（特別図柄）の点灯態様（特別図柄の停止時）から１つのＬＥＤが点灯しているか否かだけの違いとされるなど、互いに近似した態様として現れるように制御している。すなわちこの場合、液晶表示装置１９００における表示演出が特別図柄の停止後の期間にまで延長されたときに、同図柄（複数のＬＥＤ）を見てもいずれの結果であるのかすぐ（少なくとも演出延長後に当落が明示されるまでの短い時間が経過するまでの間）には把握し難くなる。したがって、同延長された表示演出（延長演出）に集中させることができるようになることはもとより、特別図柄（複数のＬＥＤ）に対する興味が減退されることによって特別図柄の停止後の期間にまで延長された表示演出であることすら遊技者が認識し難くすることができるようになる。これにより、延長演出が現れたときの特殊性によって当該パチンコ機１に小当りが搭載されていることが推測されてしまうようなことが抑制されるようになり、ひいては小当りの当選に応じて開閉部材２１０６が動作することによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。

30

【１１３９】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、大当りの種別にかかわらず単一のラウンド数が設定されるようにしており、大当りが当選されたときに大当り遊技のラウンド数が示される周知のラウンドランプについてはこれを割愛するようにしている。これにより、特別図柄の停止時におけるラウンドランプの点灯の有無によって大当りと小当りとのいずれが当選されたのかが暴露されてしまうようなことが回避されている。

40

【１１４０】

[大当り時の変動パターン決定処理について]

次に、図１８９に基づいて大当り時の変動パターン決定処理について説明する。図１８９は、通常時の大当り変動パターンテーブルＴ１、通常時の小当り変動パターンテーブルＴ２、及び通常時の高期待ハズレ変動パターンテーブルＴ３の一例を示す一覧表図である。なお、同図１８９の当落の欄に記載の○は大当りを意味し、△はハズレ時の特定条件の成立（小当り）を意味し、×はハズレ時の特定条件の不成立（純ハズレ）を意味する。

【１１４１】

50

上述の通り、いま、上記ステップS401（図181参照）の処理において、大当りフラグがONである旨判断されたとすると、主制御MPU4100aは、ステップS402（図181参照）の処理として、大当りに当選されているときの変動パターンが設定されるべく、大当り変動パターンテーブル設定処理を行う。

【1142】

この大当り変動パターンテーブル設定処理では、まず、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）、通常外部有利遊技状態（時短機能のみ作動）、確変外部不利遊技状態（確変機能のみ作動）、及び確変外部有利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも作動）のいずれの遊技状態にあるかを判断する。すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、各遊技状態の別に異なる大当り変動パターンテーブル（図示は割愛する）が用意されており、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）にある旨判断されたときには、大当りの種別にかかわらず図189に示した通常時の大当り変動パターンテーブルT1を選択するようにしている。

【1143】

そして上述の通り、こうして通常時の大当り変動パターンテーブルT1が選択されると、主制御MPU4100aは、該選択されたテーブルT1を参照しつつ、上記ステップS303（図180参照）の処理にて取得された変動表示パターン乱数に基づいて特別図柄の変動パターンを決定する（ステップS410）。なおここでは、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186（LED）の停止（点灯）態様も決定される。

【1144】

ここで、特別図柄の変動表示パターン乱数として例えば「0」～「99」までの値が取得され得るとすると、通常時の大当り変動パターンテーブルT1では、これら「0」～「99」までの値のうち、9個の特定の値が変動番号1（変動時間Ta1）に割り振られており（大当り時の選択率9%）、20個の特定の値が変動番号5（変動時間Tb1）に割り振られており（大当り時の選択率20%）、30個の特定の値が変動番号9（変動時間Tc1）に割り振られており（大当り時の選択率30%）、40個の特定の値が変動番号12（変動時間Td1）に割り振られており（大当り時の選択率40%）、1個の特定の値が変動番号15（変動時間Te）に割り振られている（大当り時の選択率1%）。このように、大当り確定の変動番号15を除けば、変動番号が大きくなるにつれて特定の値（大当り値）の割り振られる数が大きくなる傾向を持たせている。

【1145】

なお後述するが、変動番号1（変動時間Ta1）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「a（若しくは、a'）」が現れているもとで大当りに当選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号5（変動時間Tb1）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「b（若しくは、b'）」が現れているもとで大当りに当選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号9（変動時間Tc1）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「c（若しくは、c'）」が現れているもとで大当りに当選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号12（変動時間Td1）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「d（若しくは、d'）」が現れているもとで大当りに当選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号15（変動時間Te）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「e」が現れているもとで大当りに当選されたことが示される表示演出が行われる。ちなみに、演出内容a、演出内容a'、演出内容b、演出内容b'、演出内容c、演出内容c'、演出内容d、演出内容d'、演出内容eはいずれも、液晶表示装置1900にて現れる表示演出の種類（例えば、リーチ演出の種類やストーリー演出の種類）の異なるものである。

【1146】

また、これも後述するが、変動時間の長さとしては、変動時間Ta1よりも変動時間Tb1のほうが長くなっており、変動時間Tb1よりも変動時間Tc1のほうが長くなっており、変動時間Tc1よりも変動時間Td1のほうが長くなっており、変動時間Td1よ

10

20

30

40

50

りも変動時間T eのほうが長くなっている。

【1147】

そして上述の通り、このような通常時の大当り変動パターンテーブルT 1において、上記ステップS 303（図180参照）の処理にて取得された変動表示パターン乱数に基づいて特別図柄の変動パターンが決定されると、該決定された変動パターンに対応付けされている演出コマンド（例えば、変動番号1であればコマンド「01H」）と、当選情報コマンド（当りにかかる当落や、小当りを含めてその当選種を示すコマンド）とをそれぞれセットする（ステップS 411）。またさらに、上記決定された変動パターンに対応付けされている変動時間の値（例えば、変動番号1であれば変動時間T a1）をタイマにセットし（ステップS 412）、特図LED作動フラグをONにセットし（ステップS 413）、処理フラグを「2」に更新（ステップS 414）することとなる。

10

【1148】

一方、大当り変動パターンテーブル設定処理を行うにあたり、通常外部不利遊技状態とは異なる他の遊技状態である旨判断されたときには、該判断された遊技状態に対応付けされている大当り変動パターンテーブルを選択し、該選択したテーブルに基づいて変動パターンを決定し、該決定された変動パターンに応じた各種コマンドを設定することとなるが、この説明については割愛する。

【1149】

なお、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、通常外部不利遊技状態において、第一特別図柄側の抽選（変動）と第二特別図柄側の抽選（変動）とのいずれによって大当りが当選されたかにかかわらず、通常時の大当り変動パターンテーブルT 1を選択することとしたが、第一特別図柄側の抽選（変動）が行われるときと、第二特別図柄側の抽選（変動）が行われるときとで、異なる内容とされた大当り変動パターンテーブルを選択することにより異なる内容の表示演出が現れるようにしてもよい。

20

【1150】

また、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）にある旨判断されたときには、大当りの種別にかかわらず図189に示した通常時の大当り変動パターンテーブルT 1を選択するようにしたが、大当りの種別に応じた大当りフラグの状態に基づいて、大当りの種別毎に用意された通常時の大当り変動パターンテーブルのいずれかを選択的に用いるようにしてもよい。

30

【1151】

すなわちこの場合、大当りの種別に応じて変動パターンの選択率を異ならしめることができるようになり、特定の変動パターンが現れたときには特定種別の大当りである確率を高くするなどの偏りが持たせられるようになる。また、変動時間が同じ場合であっても変動番号（演出コマンド）を大当りの種別に応じて異ならしめることができるようになり、この場合には、演出コマンドを確認するだけで、変動パターンはもとより、大当りの種別を把握することができるようになる。このため、周辺制御基板4010側にて演出コマンドと当選情報コマンドとを比較してその適正性を判断するようにすれば、主制御基板4100との間での通信にかかる信頼度の向上を図ることができるようになる。

【1152】

40

[小当り時の変動パターン決定処理について]

次に、図189に基づいて小当り時の変動パターン決定処理について説明する。

【1153】

上述の通り、いま、上記ステップS 403（図181参照）の処理において、小当りフラグがONである旨判断されたとすると、主制御MPU4100aは、ステップS 404（図181参照）の処理として、小当りに当選されているときの変動パターンが設定されるべく、小当り変動パターンテーブル設定処理を行う。

【1154】

この小当り変動パターンテーブル設定処理では、まず、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）、通常外部有利遊技状態（時短機能のみ作動）、確変外

50

部不利遊技状態（確変機能のみ作動）、及び確変外部有利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも作動）のいずれの遊技状態にあるかを判断する。すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、各遊技状態の別に異なる小当り変動パターンテーブル（図示は割愛する）が用意されており、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）にある旨判断されたときに、図189に示した通常時の小当り変動パターンテーブルT2を選択するようにしている。

【1155】

そして上述の通り、こうして通常時の小当り変動パターンテーブルT2が選択されると、主制御MPU4100aは、該選択されたテーブルT2を参照しつつ、上記ステップS303（図180参照）の処理にて取得された変動表示パターン乱数に基づいて特別図柄の変動パターンを決定する（ステップS410）。なおここでは、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186（LED）の停止（点灯）態様も決定される。

10

【1156】

ここで、特別図柄の変動表示パターン乱数として例えば「0」～「99」までの値が取得され得るとすると、通常時の小当り変動パターンテーブルT2では、これら「0」～「99」までの値のうち、35個の特定の値が変動番号2（変動時間Ta2）に割り振られており（小当り時の選択率35%）、30個の特定の値が変動番号6（変動時間Tb2）に割り振られており（小当り時の選択率30%）、30個の特定の値が変動番号10（変動時間Tc2）に割り振られており（小当り時の選択率20%）、5個の特定の値が変動番号13（変動時間Td2）に割り振られている（小当り時の選択率5%）。このように、変動番号が大きくなるにつれて特定の値（小当り値）の割り振られる数が小さくなる傾向を持たせている。

20

【1157】

なお後述するが、変動番号2（変動時間Ta2）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「a（若しくは、a'）」が現れているもとで大当り抽選の結果が示される表示演出が行われ、変動番号6（変動時間Tb2）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「b（若しくは、b'）」が現れているもとで大当り抽選の結果が示される表示演出が行われ、変動番号10（変動時間Tc2）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「c（若しくは、c'）」が現れているもとで大当り抽選の結果が示される表示演出が行われ、変動番号13（変動時間Td2）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「d（若しくは、d'）」が現れているもとで大当り抽選の結果が示される表示演出が行われる。ちなみに、大当り抽選の結果が示されるこのような表示演出としては、例えば、大当りに落選されたことが示される表示演出や、開閉部材2106の動作によって賞球獲得が可能とされる遊技状態に移行することが示される表示演出（大当りに当選された場合にも現れる表示演出）などが適宜に採用される。

30

【1158】

また、これも後述するが、変動時間の長さとしては、変動時間Ta2は、変動時間Ta1を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）として設定されており、変動時間Ta1（変動番号1）や、変動時間Ta2（変動番号2）が選択されたときにはいずれも演出内容「a（若しくは、a'）」が現れているもとで、大当り抽選としていかなる結果が得られたかについての対の演出が現れる。また、変動時間Tb2は、変動時間Tb1を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）として設定されており、変動時間Tb1（変動番号5）や、変動時間Tb2（変動番号6）が選択されたときにはいずれも演出内容「b（若しくは、b'）」が現れているもとで、大当り抽選としていかなる結果が得られたかについての対の演出が現れる。また、変動時間Tc2は、変動時間Tc1を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）として設定されており、変動時間Tc1（変動番号9）や、変動時間Tc2（変動番号10）が選択されたときにはいずれも演出内容「c（若しくは、c'）」が現れているもとで、大当り抽選としていかなる結果が得られたかについての対の演出が

40

50

現れる。また、変動時間 T d 2 は、変動時間 T d 1 を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）として設定されており、変動時間 T d 1（変動番号 1 2）や、変動時間 T d 2（変動番号 1 3）が選択されたときにはいずれも演出内容「d（若しくは、d'）」が現れているもとで、大当たり抽選としていかなる結果が得られたかについての対の演出が現れる。

【1159】

そして上述の通り、このような通常時の小当たり変動パターンテーブル T 2 において、上記ステップ S 3 0 3（図 1 8 0 参照）の処理にて取得された変動表示パターン乱数に基づいて特別図柄の変動パターンが決定されると、該決定された変動パターンに対応付けされている演出コマンド（例えば、変動番号 2 であればコマンド「0 2 H」）と、当選情報コマンド（当たりにかかる当落や、小当たりを含めてその当選種を示すコマンド）とをそれぞれセットする（ステップ S 4 1 1）。またさらに、上記決定された変動パターンに対応付けされている変動時間の値（例えば、変動番号 2 であれば変動時間 T a 2）をタイマにセットし（ステップ S 4 1 2）、特図 L E D 作動フラグを O N にセットし（ステップ S 4 1 3）、処理フラグを「2」に更新（ステップ S 4 1 4）することとなる。

【1160】

一方、小当たり変動パターンテーブル設定処理を行うにあたり、通常外部不利遊技状態とは異なる他の遊技状態である旨判断されたときには、該判断された遊技状態に対応付けされている小当たり変動パターンテーブルを選択し、該選択したテーブルに基づいて変動パターンを決定し、該決定された変動パターンに応じた各種コマンドを設定することとなるが、この説明については割愛する。ただし、時短機能が作動する遊技状態（外部有利遊技状態）において小当たりが当選された場合は、単一の変動パターンが決定されて、期待感を煽ることなく淡々と表示処理（例えば、純ハズレ時の低期待演出と同じ表示処理）されるようにすることが望ましい。

【1161】

[高期待演出時の変動パターン決定処理について]

次に、図 1 8 9 に基づいて高期待演出時の変動パターン決定処理について説明する。

【1162】

上述の通り、いま、上記ステップ S 4 0 5（図 1 8 1 参照）の処理において、高期待演出を行うべきであると判断されたとすると、主制御 M P U 4 1 0 0 a は、ステップ S 4 0 6（図 1 8 1 参照）の処理として、高期待演出を行うときの変動パターンが設定されるべく、高期待ハズレ変動パターンテーブル設定処理を行う（ステップ S 4 0 6）。

【1163】

この高期待ハズレ変動パターンテーブル設定処理においても、まず、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）、通常外部有利遊技状態（時短機能のみ作動）、確変外部不利遊技状態（確変機能のみ作動）、及び確変外部有利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも作動）のいずれの遊技状態にあるかを判断する。すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機 1 では、各遊技状態の別に異なる高期待ハズレ変動パターンテーブル（図示は割愛する）が用意されており、通常外部不利遊技状態（確変機能、時短機能がいずれも非作動）にある旨判断されたときに、図 1 8 9 に示した通常時の高期待ハズレ変動パターンテーブル T 3 を選択するようにしている。

【1164】

そして上述の通り、こうして通常時の高期待ハズレ変動パターンテーブル T 3 が選択されると、主制御 M P U 4 1 0 0 a は、該選択されたテーブル T 3 を参照しつつ、上記ステップ S 3 0 3（図 1 8 0 参照）の処理にて取得された変動表示パターン乱数に基づいて特別図柄の変動パターンを決定する（ステップ S 4 1 0）。なおここでは、第一特別図柄表示器 1 1 8 5 または第二特別図柄表示器 1 1 8 6（L E D）の停止（点灯）態様も決定される。

【1165】

ここで、特別図柄の変動表示パターン乱数として例えば「0」～「99」までの値が取

10

20

30

40

50

得され得るとすると、通常時の高期待ハズレ変動パターンテーブルT 3では、これら「0」～「99」までの値のうち、40個の特定の値が変動番号3（変動時間T a 3）に割り振られており（高期待ハズレ時の選択率40%）、17個の特定の値が変動番号4（変動時間T a 4）に割り振られており（高期待ハズレ時の選択率17%）、25個の特定の値が変動番号7（変動時間T b 3）に割り振られており（高期待ハズレ時の選択率25%）、13個の特定の値が変動番号8（変動時間T b 4）に割り振られており（高期待ハズレ時の選択率13%）、3個の特定の値が変動番号11（変動時間T c 3）に割り振られており（高期待ハズレ時の選択率3%）、2個の特定の値が変動番号14（変動時間T d 3）に割り振られている（高期待ハズレ時の選択率2%）。このように、変動番号が大きくなるにつれて特定の値（ハズレ値）の割り振られる数が小さくなる傾向を持たせている。

10

【1166】

なお後述するが、変動番号3（変動時間T a 3）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「a、発展なし（若しくは、a'）」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号4（変動時間T a 4）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「a、発展あり」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出、若しくは液晶表示装置1900において演出内容「c'」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号7（変動時間T b 3）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「b、発展なし（若しくは、b'）」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号8（変動時間T b 4）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「b、発展あり」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出、若しくは液晶表示装置1900において演出内容「d'」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号11（変動時間T c 3）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「c（若しくは、c'）」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出が行われ、変動番号14（変動時間T d 3）が選択されたときには、液晶表示装置1900において演出内容「d（若しくは、d'）」が現れているもとで大当りに落選されたことが示される表示演出が行われる。ちなみに、後述するが、変動番号4、8のときは、周辺制御基板4010側での制御モードに応じて異なる演出内容でのハズレ演出パターンとして現れるようになっており、これによって当該ハズレ演出パターンの変動番号4、8の対となる大当り演出パターンの変動番号が変動番号1、5と変動番号9、12との間で変更されるようになることから、周辺制御基板4010側での制御モードに応じて大当り期待度の異なる演出パターンが現れるようにすることができるようになる。

20

30

【1167】

また、これも後述するが、変動時間の長さとしては、変動時間T a 3は、変動時間T a 1を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）として設定されており、変動時間T a 1（変動番号1）や、変動時間T a 2（変動番号2）、変動時間T a 3（変動番号3）が選択されたときにはいずれも演出内容「a」が現れているもとで、大当り抽選としていかなる結果が得られたかについての対の演出が現れる。ただし、変動時間T a 1（変動番号1）や、変動時間T a 2（変動番号2）が選択されたときには、開閉部材2106によって大入賞口2103が開閉される前のオープニング期間にまで演出内容「a」にかかる演出が延長される場合があることから、こうした延長演出が行われるときの対となるハズレ演出パターンとして、変動時間T a 3（変動番号3）よりも長い変動時間T a 4（変動番号4）が用意されている。また、この変動時間T a 4（変動番号4）は、変動時間T c 3（変動番号11）を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）としても設定されており、これによって周辺制御基板4010側での制御によっては、変動時間T c 3（変動番号11）の演出パターンとして用いることもできるようになっている。これにより、当該ハズレ演出パターンの変動番号4の対となる大当り演出パターンの変動番号が変動番号1と変動番号9との間で変更されるようになることは上述した通りである。

40

50

【1168】

またさらに、変動時間Tb3は、変動時間Tb1を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）として設定されており、変動時間Tb1（変動番号5）や、変動時間Tb2（変動番号6）、変動時間Tb3（変動番号7）が選択されたときにはいずれも演出内容「b」が現れているもとの、大当たり抽選としていかなる結果が得られたかについての対の演出が現れる。ただし、変動時間Tb1（変動番号5）や、変動時間Tb2（変動番号6）が選択されたときには、開閉部材2106によって大入賞口2103が開閉される前のオープニング期間にまで演出内容「b」にかかる演出が延長される場合があることから、こうした延長演出が行われるときの対となるハズレ演出パターンとして、変動時間Tb3（変動番号7）よりも長い変動時間Tb4（変動番号8）が用意されている。また、この変動時間Tb4（変動番号8）は、変動時間Td3（変動番号14）を基準としてこれに合わせた長さの時間（同一、若しくは近似した時間）としても設定されており、これによって周辺制御基板4010側での制御によっては、変動時間Td3（変動番号14）の演出パターンとして用いることもできるようになっている。これにより、当該ハズレ演出パターンの変動番号8の対となる大当たり演出パターンの変動番号が変動番号5と変動番号12との間で変更されるようになることは上述した通りである。

10

【1169】

そして上述の通り、このような通常時の高期待ハズレ変動パターンテーブルT3において、上記ステップS303（図180参照）の処理にて取得された変動表示パターン乱数に基づいて特別図柄の変動パターンが決定されると、該決定された変動パターンに対応付けされている演出コマンド（例えば、変動番号3であればコマンド「03H」）と、当選情報コマンド（当たりにかかる当落や、小当たりを含めてその当選種を示すコマンド）とをそれぞれセットする（ステップS411）。またさらに、上記決定された変動パターンに対応付けされている変動時間の値（例えば、変動番号3であれば変動時間Ta3）をタイマにセットし（ステップS412）、特図LED作動フラグをONにセットし（ステップS413）、処理フラグを「2」に更新（ステップS414）することとなる。

20

【1170】

一方、大当たり変動パターンテーブル設定処理を行うにあたり、通常外部不利遊技状態とは異なる他の遊技状態である旨判断されたときには、該判断された遊技状態に対応付けされている高期待変動パターンテーブルを選択し、該選択したテーブルに基づいて変動パターンを決定し、該決定された変動パターンに応じた各種コマンドを設定することとなるが、この説明については割愛する。

30

【1171】

このような通常時の大当たり変動パターンテーブルT1、通常時の小当たり変動パターンテーブルT2、及び通常時の高期待ハズレ変動パターンテーブルT3によれば、大当たり期待度は、表示演出aよりも表示演出bのほうが高くなり、表示演出bよりも表示演出cのほうが高くなり、表示演出cよりも表示演出dのほうが高くなり、表示演出dよりも表示演出eのほうが高くなる。特に、表示演出eについては、大当たりが当選されているときにのみ現れうることから、同演出eが現れた時点で大当たりが当選されていることが確定されるようになる。

40

【1172】

[変動中処理について]

次に、処理フラグが「2」のときに実行される変動中処理（ステップS180）について説明する。図182は、変動中処理の一例を示すフローチャートである。

【1173】

同図182に示されるように、変動中処理（ステップS180）では、主制御MPU4100aは、まず、ステップS501の処理として、上記ステップS412（図181参照）の処理にてタイマにセットされた変動時間がタイムアップしたか否かを判断する。タイマにセットされた変動時間がタイムアップしていなければ（ステップS501におけるNO）、変動中処理を終了する。

50

【1174】

タイマにセットされた変動時間がタイムアップしていれば（ステップS501におけるYES）、上記ステップS413の処理にてONにセットした特図LED作動フラグをOFFにセットする（ステップS502）。この特図LED作動フラグがOFFにセットされると、上記ステップS305又は上記ステップS309の処理にて設定された特別図柄変動フラグの値に基づいて、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186としての複数のLEDの点灯パターンにかかる変動表示（特別図柄の変動）が終了されるようになる。また、液晶表示装置1900において大当り抽選についての表示演出が行われているときにはこれを終了させるべく、周辺制御基板4010に対し、同表示演出における演出結果が確定表示されるべき旨を示す確定停止コマンドをセットする（ステップS503）。なお、この確定停止コマンドは、図177に示したコマンド送信処理（ステップS17）によって周辺制御基板4010に送信される。これにより、液晶表示装置1900においては、周辺制御基板4010側による後述の制御を通じて、同表示演出における演出結果を確定表示させるようになる。ただし、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、周辺制御基板4010における制御モードによっては、確定停止コマンドを受信したにもかかわらず液晶表示装置1900における表示演出を終了させずに、その後のオープニング期間まで当該表示演出が延長されるように制御することがあることは上述した通りである。

10

【1175】

次いで、大当りフラグがONであるか否かを判断する（ステップS504）。大当りフラグがONであれば（ステップS504におけるYES）、大当りに当選されたことが示されるように特別図柄が変動停止された処理段階にあるとして処理フラグを「3」に更新し（ステップS505）、当該変動中処理を終了する。

20

【1176】

一方、大当りフラグがONでなく大当りに落選されたハズレであるときは（ステップS504におけるNO）、次にステップS506の処理として、小当りフラグがONであるか否かを判断する。小当りフラグがONであれば（ステップS506におけるYES）、小当りに当選されたことが示されるように特別図柄が変動停止された処理段階にあるとして処理フラグを「4」に更新し（ステップS507）、当該変動中処理を終了する。

【1177】

また一方、小当りフラグがONでなく純ハズレ（特定条件が満たされないハズレ）であるときは（ステップS506におけるNO）、大当りと小当りとのいずれにも落選されたことが示されるように特別図柄が変動停止された処理段階にあるとして処理フラグを「0」に更新し（ステップS508）、当該変動中処理を終了する。すなわちこの場合、次の割り込み制御が行われる際に、上記ステップS130の処理にて保留消化されることを条件に、特別図柄にかかる次変動が行われることとなる。

30

【1178】

[大当り遊技開始処理について]

次に、処理フラグが「3」のときに実行される大当り遊技開始処理（ステップS200）について説明する。図183は、大当り遊技開始処理の一例を示すフローチャートである。

40

【1179】

同図183に示されるように、大当り遊技開始処理（ステップS200）では、主制御MPU4100aは、まず、ステップS601の処理として、通常外部不利遊技状態や通常外部有利遊技状態にあるときよりも条件装置の作動を伴う当り（大当り）の当選確率を高くする機能（確率変動機能）が作動中（確率変動状態）であるか否かを判断する。そしてこの結果、確変外部不利遊技状態、及び確変外部有利遊技状態のいずれかの遊技状態にあり、確率変動機能が作動中である旨判断されたときには（ステップS601におけるYES）、この確率変動機能の作動を停止させる（ステップS602）。

【1180】

50

そして次に、ステップS603の処理として、こうして確率変動機能の作動が停止されたもとで、上記第二始動口2102に遊技球が入球され易くする機能（時短機能）が作動中（時短遊技状態）であるか否かを判断する。なお、上記ステップS601の処理にて確率変動機能が作動中である旨判断されなかったときには、上記ステップS602の処理を実行することなく当該ステップS603の処理に移行する。そしてこの結果、通常外部有利遊技状態、及び確変外部有利遊技状態のいずれかの遊技状態にあり、時短機能が作動中である旨判断されたときには（ステップS603におけるYES）、この時短機能の作動を停止させる（ステップS604）。

【1181】

そして次に、こうして確率変動機能と時短機能との作動がいずれも停止されたもとで大当たり遊技が行われるべく、ステップS605の処理として、同大当たり遊技にて大入賞口2103が繰り返し開放されるラウンド遊技の最大回数（この実施の形態では、いずれも16回）や、各ラウンド遊技にて大入賞口2103に遊技球が入球可能とされる上限数（所定の個数や、中個数）や、各ラウンド遊技における開閉部材2106の開閉動作制限時間（長時間開閉パターンの所定長時間や、中時間開閉パターンの所定中時間）など、大当たり遊技における開放態様をセットする。すなわち、このステップS605の処理では、まず、上記ステップS317（図180参照）の処理にてセットされた大当たりフラグに基づいて、大当たりの種別が判断される。そして、こうして判断された大当たりの種別（大当たりA～大当たりE）ごとに対応付けられて用意されている「大当たり遊技における開放態様」にかかる情報がROM4100d（図168参照）などから読み出され、該読み出された情報がセットされることとなる。これにより、大当たりの種別（大当たりA～大当たりE）に応じた上述の開放態様をもって大当たり遊技が実行可能とされるようになる。なお、上記ステップS603の処理にて時短機能が作動中である旨判断されなかったときには、上記ステップS604の処理を実行することなく当該ステップS605の処理を行うこととなる。

【1182】

そしてその後、大当たり遊技が行われるのに先立って、大当たり遊技が行われる前のインターバル演出（例えば、「おめでとう」などのオープニング演出や、「出玉獲得のチャンス！」などのチャレンジボーナス演出）が実行可能とされるように、特別図柄の停止時から大当たり遊技が開始されるまでの時間などが示されるインターバル演出コマンドをセットする（ステップS606）。ただし上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当たりの当選時においては、上記液晶表示装置1900における表示演出が特別図柄の停止後の期間にまで延長される演出（上述の如くの延長演出）が実行されうることから、こうしてセットされるインターバル演出コマンドとしてもこれを踏まえたものとして用意されている。すなわち、小当たり当選時にも現れる延長演出に要する時間との関係上、大当たりの種別にかかわらず特定の時間（例えば8秒）が示されるインターバル演出コマンドのみがセットされるようになっており、この特定のインターバル時間だけ、上述の如くのオープニング演出と上述の如くの延長演出とのいずれかが選択的に実行される。なお後述するが、こうしてセットされたインターバル演出コマンドが、図177に示したコマンド送信処理（ステップS17）によって周辺制御基板4010に送信されることで、液晶表示装置1900においては、周辺制御基板4010側による後述の制御を通じて、上記インターバル演出コマンドにより示される時間だけインターバル演出が行われるようになる。

【1183】

次いで、上記ステップS606の処理にてセットされたインターバル演出コマンドに対応付けされたインターバル演出タイマ（例えば8秒）をセットするとともに（ステップS607）、処理フラグを「5」に更新し（ステップS608）、当該大当たり遊技開始処理を終了する。

【1184】

〔小当たり遊技開始処理について〕

次に、処理フラグが「4」のときに実行される小当たり遊技開始処理（ステップS220）について説明する。図184は、小当たり遊技開始処理の一例を示すフローチャートであ

10

20

30

40

50

る。

【1185】

同図184に示されるように、小当り遊技開始処理（ステップS220）では、主制御MPU4100aは、まず、小開放当り遊技（小当り遊技）が行われるべく、ステップS701の処理として、同小当り遊技にて大入賞口2103が繰り返し開放される回数（この実施の形態では、2回）や、開放時に大入賞口2103に遊技球が入球可能とされる上限数（所定の小個数）や、開放時に開閉部材2106の開閉動作制限時間（小時間開閉パターン）など、小開放当り遊技（小当り遊技）における開放態様をセットする。

【1186】

そしてその後、小開放当り遊技（小当り遊技）が行われるのに先立って、小遊技が行われる前のインターバル演出（例えば、「出玉獲得のチャンス！」などのチャレンジボーナス演出）が実行可能とされるように、特別図柄の停止時から大当り遊技が開始されるまでの時間などが示されるインターバル演出コマンドをセットする（ステップS702）。ただし上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、小当りの当選時においては、上記液晶表示装置1900における表示演出が特別図柄の停止後の期間にまで延長される演出（上述の如くの延長演出）が実行されうることから、こうしてセットされるインターバル演出コマンドとしてもこれを踏まえたものとして用意されている。すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当り当選時にも現れる延長演出に要する時間との関係上、小当り当選時の図柄乱数にかかわらず特定の時間（例えば8秒）が示されるインターバル演出コマンドのみがセットされるようにしている。延長演出が現れるときのこうした時間設定によって小当りの存在が推測されてしまうようなことが抑制されるようになり、ひいては小当りの当選に応じて開閉部材2106が動作することによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。

【1187】

次いで、上記ステップS702の処理にてセットされたインターバル演出コマンドに対応付けされたインターバル演出タイマ（例えば8秒）をセットするとともに（ステップS703）、処理フラグを「6」に更新し（ステップS704）、当該小当り遊技開始処理を終了する。

【1188】

なお後述するが、こうしてセットされたインターバル演出コマンドが、図177に示したコマンド送信処理（ステップS17）によって周辺制御基板4010に送信されることで、液晶表示装置1900においては、周辺制御基板4010側による後述の制御を通じて、上記インターバル演出コマンドにより示される時間だけインターバル演出が行われるようになる。

【1189】

〔大当り遊技処理について〕

次に、処理フラグが「5」のときに実行される大当り遊技処理（ステップS240）について説明する。図185は、大当り遊技処理の一例を示すフローチャートである。

【1190】

同図185に示されるように、大当り遊技処理（ステップS240）では、主制御MPU4100aは、まず、ステップS801の処理として、大当り遊技が既に行われている状態にあることを示す大当り遊技中フラグがON状態（セット）にあるか否かを判断する。

【1191】

ここで、この大当り遊技中フラグは、当該大当り遊技処理（ステップS240）に移行してすぐの処理状況にあるときにはOFF状態に操作されている。したがって、当該大当り遊技処理（ステップS240）に移行してすぐの処理状況にあるときには、大当り遊技中フラグはON状態（セット）にない旨判断され（ステップS801におけるNO）、次にステップS802の処理を行う。

【1192】

このステップS 8 0 2の処理では、上述のインターバル演出（オープニング演出、チャレンジボーナス演出、若しくは延長演出）が終了したか否か、すなわち上記ステップS 6 0 7（図1 8 3参照）の処理にてセットされたインターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップしたか否かについての判断を行う。インターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップしておらず、上述のインターバル演出（オープニング演出、チャレンジボーナス演出、若しくは延長演出）が未だ実行中である場合には（ステップS 8 0 2におけるNO）、当該大当たり遊技処理を一旦終了し、ステップS 8 0 1及びステップS 8 0 2の処理を通じてインターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップするまで待機することとなる。

【1 1 9 3】

10

こうした処理が行われた結果、インターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップした場合には、ステップS 8 0 3の処理として、大当たり遊技を開始させることを示す大当たり開始コマンドをセットするとともに、大当たり遊技が既に行われている状態にあることを示す上記大当たり遊技中フラグをON状態に操作（セット）し、次にステップS 8 0 4の処理に移行する。

【1 1 9 4】

すなわち、後述するが、こうしてセットされた大当たり開始コマンドが、図1 7 7に示したコマンド送信処理（ステップS 1 7）によって周辺制御基板4 0 1 0に送信されることで、液晶表示装置1 9 0 0においては、周辺制御基板4 0 1 0側による後述の制御を通じて、上記大当たり遊技中における表示演出が行われるようになる。また、大当たり遊技中フラグをON状態に操作（セット）するようにしたことで、次回以降の割り込み制御にて当該大当たり遊技処理（ステップS 2 4 0）が開始されるときには、このようなステップS 8 0 1～ステップS 8 0 3の処理を行うことなく、大当たり遊技の実行にかかる処理を行うべく以下のステップS 8 0 4の処理から行われるようになる。

20

【1 1 9 5】

ステップS 8 0 4の処理では、大入賞口2 1 0 3が開放中か否かを判断する。開放中の場合には（ステップS 8 0 4におけるYES）、次にステップS 8 0 5の処理として、大入賞口2 1 0 3の開放時間（開放した後の経過時間）が上記ステップS 6 0 5（図1 8 3参照）の処理にて設定された開閉動作制限時間（所定長時間、若しくは所定中時間）に達したか否かを判断する。そしてこの結果、この開閉動作制限時間が経過した旨判断されたときは（ステップS 8 0 5にてYES）、開閉部材2 1 0 6を閉動作させることにより大入賞口2 1 0 3を閉鎖する（ステップS 8 0 7）。

30

【1 1 9 6】

ただし、上記ステップS 8 0 5の処理において、上記設定された開閉動作制限時間が未だ経過していない旨判断された場合であっても（ステップS 8 0 5にてNO）、大入賞口2 1 0 3が開放された後に同大入賞口2 1 0 3に入球した遊技球の個数が、上記ステップS 6 0 5の処理にて設定された上限数（例えば6個、若しくは10個）以上になっている場合には（ステップS 8 0 6にてYES）、上記ステップS 8 0 7の処理に移行して大入賞口2 1 0 3を閉鎖する。これに対し、上記設定された開閉動作制限時間が未だ経過しておらず（ステップS 8 0 5にてNO）、大入賞口2 1 0 3に入球した遊技球の個数も上限数に未だ達していない場合には（ステップS 8 0 6にてNO）、大入賞口2 1 0 3を開放状態にて維持したままで、大当たり遊技処理を終了する。

40

【1 1 9 7】

一方、上記ステップS 8 0 4の処理において、大入賞口2 1 0 3が開放中でない旨判断された場合には、開閉部材2 1 0 6による大入賞口2 1 0 3の開放回数（ラウンド遊技の回数）が、上記ステップS 6 0 5（図1 8 3参照）の処理にて設定された最大回数（16回）に到達しているか否かを判別する（ステップS 8 0 8）。そして、到達していない場合には（ステップS 8 0 8にてNO）、開閉部材2 1 0 6を作動して大入賞口2 1 0 3を開放し（ステップS 8 0 9）、大当たり遊技処理を終了する。

【1 1 9 8】

50

また一方、上記ステップS808の処理において、ラウンド遊技が既に最大回数分だけ行われた旨判断されたときは、ステップS810～ステップS815の処理を実行することにより、例えばステップS317（図180参照）の処理にて大当りフラグとは別にRAM4100e（図168参照）にて記憶されている当該大当り遊技の実行契機とされた大当りの当選種に基づいて、大当り遊技後の遊技状態を設定してから当該大当り遊技状態を終了させる。なお、ここでの当選種とは、確率変動機能や時短機能を作動させる当選種であるか否かについてのものであり、例えば当該大当り遊技の実行契機とされた大当りが大当りCである場合には、当該大当りである旨判断されたときの遊技状態に応じて時短機能を作動させるものであるか否かについての情報の内容が異なることとなる。

【1199】

10

すなわち、まず、大当りフラグと大当り遊技中フラグとをそれぞれOFF状態に操作し（ステップS810）、当該大当り遊技の実行契機とされた大当りの当選種を判別する（ステップS811、ステップS813）。ここで、ステップS811の処理では、確率変動機能を作動させる当選種（大当りA～D）であるか否かが判断される。そしてこの結果、確率変動機能を作動させる当選種でない旨判断されたときには、確率変動機能を作動させることなく、次に上記ステップS813の処理に移行する。これに対し、上記ステップS811の処理にて、確率変動機能を作動させる当選種である旨判断されたときには、確率変動機能を作動させてから（ステップS812）、次に上記ステップS813の処理に移行する。

【1200】

20

また、ステップS813の処理では、時短機能を作動させる当選種（大当りA、大当りB、時短遊技状態であるときに当選された大当りC）であるか否かが判断される。そしてこの結果、時短機能を作動させる当選種でない旨判断されたときには、時短機能を作動させることなく、処理フラグを「0」をセットした時点で（ステップS815）、大当り遊技処理を終了する。これに対し、上記ステップS813の処理にて、時短機能を作動させる当選種である旨判断されたときには、時短機能を作動させてから（ステップS814）、処理フラグを「0」をセットした時点で（ステップS815）、大当り遊技処理を終了する。

【1201】

このような大当り遊技開始処理によれば、ステップ806の処理にてラウンド遊技が最大回数に到達した旨判断されるまでの間、大入賞口2103は、大当りの種別に応じた開放態様（ステップS805、ステップS806、ステップS808）をもって繰り返し開放されるようになり、ひいては大当りの種別に応じた賞球が遊技者によって獲得可能とされるようになる。

30

【1202】

〔小当り遊技処理について〕

次に、処理フラグが「6」のときに実行される小当り遊技処理（ステップS250）について説明する。図186は、小当り遊技処理の一例を示すフローチャートである。

【1203】

同図186に示されるように、小当り遊技処理（ステップS250）においても、主制御MPU4100aは、まず、ステップS901の処理として、小当り遊技が既に行われている状態にあることを示す小当り遊技中フラグがON状態（セット）にあるか否かを判断する。

40

【1204】

ここで、この小当り遊技中フラグは、当該小当り遊技処理（ステップS250）に移行してすぐの処理状況にあるときにはOFF状態に操作されている。したがって、当該小当り遊技処理（ステップS250）に移行してすぐの処理状況にあるときには、小当り遊技中フラグはON状態（セット）にない旨判断され（ステップS901におけるNO）、次にステップS902の処理を行う。

【1205】

50

このステップS 9 0 2の処理では、上述のインターバル演出（チャレンジボーナス演出、若しくは延長演出）が終了したか否か、すなわち上記ステップ7 0 3（図1 8 4参照）の処理にてセットされたインターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップしたか否かについての判断を行う。インターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップしておらず、上述のインターバル演出（チャレンジボーナス演出、若しくは延長演出）が未だ実行中である場合には（ステップS 9 0 2におけるNO）、当該小当り遊技処理を一旦終了し、ステップS 9 0 1及びステップS 9 0 2の処理を通じてインターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップするまで待機することとなる。

【1 2 0 6】

こうした処理が行われた結果、インターバル演出タイマ（ここでは8秒）がタイムアップした場合には、ステップS 9 0 3の処理として、小当り遊技を開始させることを示す小当り開始コマンドをセットするとともに、小当り遊技が既に行われている状態にあることを示す上記小当り遊技中フラグをON状態に操作（セット）し、次にステップS 9 0 4の処理に移行する。

10

【1 2 0 7】

すなわち、後述するが、こうしてセットされた小当り開始コマンドが、図1 7 7に示したコマンド送信処理（ステップS 1 7）によって周辺制御基板4 0 1 0に送信されることで、液晶表示装置1 9 0 0においては、周辺制御基板4 0 1 0側による後述の制御を通じて、上記小当り遊技中における表示演出が行われるようになる。また、小当り遊技中フラグをON状態に操作（セット）するようにしたことで、次回以降の割込処理にて当該小当り遊技処理（ステップS 2 5 0）が開始されるときには、このようなステップS 9 0 1～ステップS 9 0 3の処理を行うことなく、小当り遊技の実行にかかる処理を行うべく以下のステップS 9 0 4の処理から行われるようになる。

20

【1 2 0 8】

ステップS 9 0 4の処理では、大入賞口2 1 0 3が開放中か否かを判断する。開放中の場合には（ステップS 9 0 4におけるYES）、次にステップS 9 0 5の処理として、大入賞口2 1 0 3の開放時間（開放した後の経過時間）が上記ステップS 7 0 1（図1 8 4参照）の処理にて設定された開閉動作制限時間（小時間開閉パターンの所定小時間）に達したか否かを判別する。そしてこの結果、この開閉動作制限時間が経過した旨判断されたときは（ステップS 9 0 5にてYES）、開閉部材2 1 0 6を閉動作させることにより大入賞口2 1 0 3を閉鎖する（ステップS 9 0 7）。

30

【1 2 0 9】

ただし、上記ステップS 9 0 5の処理において、上記設定された開閉動作制限時間が未だ経過していない旨判断された場合であっても（ステップS 9 0 5にてNO）、大入賞口2 1 0 3が開放された後に同大入賞口2 1 0 3に入球した遊技球の個数が、上記ステップS 7 0 1の処理にて設定された上限数（例えば、2個）以上になっている場合には（ステップS 9 0 5にてYES）、上記ステップS 9 0 7の処理に移行して大入賞口2 1 0 3を閉鎖する。これに対し、上記設定された開閉動作制限時間が未だ経過しておらず（ステップS 9 0 5にてNO）、大入賞口2 1 0 3に入球した遊技球の個数も上限数に未だ達していない場合には（ステップS 9 0 5にてNO）、大入賞口2 1 0 3を開放状態にて維持したままで、小当り遊技処理を終了する。

40

【1 2 1 0】

一方、上記ステップS 9 0 4の処理において、大入賞口2 1 0 3が開放中でない旨判断された場合には、開閉部材2 1 0 6による大入賞口2 1 0 3の開放回数が、上記ステップS 7 0 1（図1 8 4参照）の処理にて設定された最大回数（2回）に到達しているか否かを判別する（ステップS 9 0 8）。そして、到達していない場合には（ステップS 9 0 8にてNO）、開閉部材2 1 0 6を作動して大入賞口2 1 0 3を開放し（ステップS 9 0 9）、小当り遊技処理を終了する。

【1 2 1 1】

また一方、上記ステップS 9 0 8の処理において、開閉部材2 1 0 6による大入賞口2

50

103の開放回数が既に最大回数分だけ行われた旨判断されたときは、小当りフラグと小当り遊技中フラグとをそれぞれOFF状態に操作し（ステップS910）、処理フラグを「0」をセットした時点で（ステップS911）、小当り遊技処理を終了する。

【1212】

このような小当り遊技処理によれば、ステップ906の処理にて開閉部材2106による大入賞口2103の開放が最大回数に到達した旨判断されるまでの間、大入賞口2103は、大当りに応じた開放態様と比較すれば大入賞口2103への遊技球の入球は困難とされる開放態様ではあるものの、こうした開放態様に応じた分の賞球が遊技者によって獲得可能とされるようになる。

【1213】

[3-8. 周辺制御部での制御処理]

次に、周辺制御部4140に搭載される周辺制御MPU4140aによって実行される処理について、図191乃至図197を参照して説明する。図191は、サブメイン処理の一例を示すフローチャートであり、図192は、16ms定常処理の一例を示すフローチャートである。図193は、コマンド解析処理（ステップS1100）の一例を示すフローチャートである。図194は、演出制御処理（ステップS1200）の一例を示すフローチャートである。図195は、装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）の一例を示すフローチャートである。図196は、第1演出モードでの停止図柄の決定処理（ステップS1225a）の一例を示すフローチャートであり、図197は、第2演出モードでの停止図柄の決定処理（ステップS1225b）の一例を示すフローチャートである。

【1214】

サブメイン処理では、図191に示すように、パチンコ機1への電力供給が開始されると、周辺制御MPU4140aによって初期設定処理を行う（ステップS1001）。この初期設定処理では、周辺制御部4140に搭載される周辺制御RAM4140eをクリアする処理等が行われる。なお、この初期設定処理中では割込禁止となっており、初期設定処理のあと割込許可となる。初期設定処理（ステップS1001）が終了すると、16ms経過フラグTがセットされたか否かを監視するループ処理を開始する（ステップS1002）。

【1215】

ここで、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aは、2msが経過する毎に割込処理としての2ms定常処理を実行するものとなっている。すなわち、この2ms定常処理では、16ms経過監視カウンタのカウント値がカウントアップ（カウント値に「1」を加算）されるようになっている。そして、2msが経過する毎にこうしてカウントアップが繰り返し行われた結果、同カウンタ値が8になったとき（16msが経過したとき）には、16ms経過フラグTがセットされるとともに、16ms経過監視カウンタのカウント値がリセットされる。

【1216】

この点、上記ステップ1002の処理では、このような16ms経過フラグTが上述の2ms定常処理にてセットされるまでこれを監視することとなる（ループ処理）。そしてこの結果、16ms経過フラグがセットされている旨判断したときには（ステップ1002のYes）、16ms経過フラグをリセットした上で（ステップS1003）、後述の16ms定常処理を行うことで（ステップS1004）、当該16ms定常処理が16ms経過する毎に行われるようにしている。

【1217】

この16ms定常処理では、主制御基板4100から受信した各種の演出コマンドに基づいて液晶表示装置1900、扉枠5や遊技盤4に備えられた各装飾基板214、216、254、256、286、320、322、430、432、3014等のLED、扉枠5や本体枠3のスピーカ130、222、262、821等を制御する処理が実行される。16ms定常処理が終了すると、上記ステップS1002の処理に戻り、16ms経過フラグTが上述の2ms定常処理にてセットされるまでこれを再び監視することとなる

10

20

30

40

50

(ループ処理)。

【1218】

[16ms 定常処理について]

図192に示されるように、16ms 定常処理では、周辺制御MPU4140aが、まず、ステップS1100の処理として、主制御基板4100から受信した各種の演出コマンドを解析(コマンド解析処理)する。次いで、上記解析された演出コマンドに基づいて、液晶表示装置1900の演出表示にかかる制御(演出制御処理)を実行する(ステップS1200)。より具体的には、液晶表示装置1900の演出表示にて現われうる予告演出の設定や、液晶表示装置1900の演出表示にて現われうる装飾図柄の停止図柄の決定、等々を行う。

10

【1219】

そして次に、周辺制御MPU4140aは、演出効果を促進させる効果音(例えばBGM)を発生させるための、スピーカ130、222、262、821の音出力にかかる音制御処理を実行する(ステップS1300)。またさらに、扉枠5や遊技盤4に備えられた各装飾基板214、216、254、256、286、320、322、430、432、3014による発光装飾にかかる発光装飾制御処理を実行する(ステップS1400)。

【1220】

そしてこの後、裏箱3001の後面に取付けられた各中継基板3014、3016、3018、3020や、液晶制御部4150に対し、上記各処理S1200～S1400にてセットされたコマンド(後述の表示コマンドのほか、音出力コマンドや、発光装飾コマンドなど)が送信される情報出力処理を行う(ステップS1500)。これにより、液晶表示装置1900や、スピーカ821、扉枠5や遊技盤4に備えられた各装飾基板214、216、254、256、286、320、322、430、432、3014などを通じて、上記セットされたコマンドに応じた演出が行われるようになる。

20

【1221】

この情報出力処理(ステップS1500)が行われた後は、演出制御処理(ステップS1200)にて各種設定に用いられる乱数が更新される乱数更新処理を実行した時点で(ステップS1600)、当該16ms 定常処理を終了する。

【1222】

なお、こうしたステップS1100～ステップS1600の処理(16ms 定常処理)は16ms以内に終了される処理量として設定されているが、仮に、16ms 定常処理を開始してから16msの時間が経過した時点でステップS1600の処理までの実行が終了されていなかった場合であっても、上記ステップS1100の処理(コマンド解析処理から)に戻ることなく、その時点で実行途中の処理をそのまま継続するかたちで上記ステップS1600の処理まで行うこととなる。すなわち、16ms 定常処理の実行中に16ms経過したときには、16ms経過フラグのセットのみを行い、当該16ms 定常処理の終了後にステップS1002で16ms経過フラグがセットされていると判別されたときに16ms 定常処理を開始する。

30

【1223】

また、この実施形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、16ms 定常処理にて乱数更新処理(ステップS1600)を実行して各種乱数を更新するように構成しているが、各種乱数を更新する時期(タイミング)はこれに限られるものではない。例えば、サブメイン処理におけるループ処理および16ms 定常処理の何れか一方または両方にて各種乱数を更新するように構成してもよい。

40

【1224】

[コマンド解析処理について]

次に、コマンド解析処理(ステップS1100の処理)について、図193を参照しつつ説明する。

【1225】

50

同図193に示されるように、コマンド解析処理では、周辺制御MPU4140aが、まず、ステップS1101の処理として、主制御基板4100からの演出コマンドが周辺制御RAM4140eの受信コマンド格納領域に記憶されているか否かを判断する（ステップS1101）。

【1226】

すなわち、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aは、主制御基板4100から演出コマンドを受信すると、16ms定常処理等の他の処理を中断してコマンド受信割込処理を発生させ、このコマンド受信割込処理において、主制御基板4100からの演出コマンドを周辺制御RAM4140eの受信コマンド格納領域に記憶するものとなっている。なお、受信コマンド格納領域には、主制御基板4100からの演出コマンドの受信順に対応して複数の領域が設けられており、コマンド受信割込処理では、それら演出コマンドが、その受信順に対応付けされるかたちでこうした複数の領域の別にそれぞれ記憶されるようになっている。

10

【1227】

この点、上記ステップS1101の処理では、受信コマンド格納領域の内容を確認し、演出コマンドが記憶されていれば、主制御基板4100からの受信順が最も早い演出コマンドを上記受信コマンド格納領域から読み出すこととなる（ステップS1102）。

【1228】

次いで、該読み出した演出コマンドが上記ステップS411（図181参照）の処理にて上記主制御基板4100側にてセットされた演出コマンドのうちのパターンコマンド（変動パターンを示すコマンド）であるか否かを判断する（ステップS1103）。そしてこの結果、同演出コマンドである旨判断されたときは（ステップS1103にてYES）、周辺制御RAM4140eの変動表示パターン格納領域に変動パターンコマンドを記憶するとともに、変動パターン受信フラグをセットした時点で（ステップS1104）、当該コマンド解析処理を終了する。

20

【1229】

一方、上記読み出した演出コマンドがパターンコマンド（図189に示したコマンド）でない旨判断されたときは（ステップS1103にてNO）、該読み出した演出コマンドが上記ステップS411（図181参照）の処理にて上記主制御基板4100側にてセットされた演出コマンドのうちの当選情報コマンド（当たりにかかる当落や、小当りを含めてその当選種を示す当選情報コマンド）であるか否かを判断する（ステップS1105）。そしてこの結果、同演出コマンドである旨判断されたときは（ステップS1105にてYES）、周辺制御RAM4140eの当選情報格納領域に当選情報コマンドを記憶した時点で（ステップS1106）、当該コマンド解析処理を終了する。

30

【1230】

また一方、上記読み出した演出コマンドが当選情報コマンドでない旨判断されたときは（ステップS1105にてNO）、周辺制御RAM4140eの対応する格納領域にて受信した演出コマンドに対応したフラグをセットした時点で（ステップS1107）、当該コマンド解析処理を終了する。なお、こうした演出コマンドとしては、例えば、上記ステップS503（図182参照）の処理にて上記主制御基板4100側にてセットされる確定停止コマンドや、上記ステップS606（図183参照）や上記ステップS702（図184参照）の処理にて上記主制御基板4100側にてセットされるインターバル演出コマンドや、上記ステップS803（図185参照）の処理にて上記主制御基板4100側にてセットされる大当り開始コマンドや、上記ステップS903（図186参照）の処理にて上記主制御基板4100側にてセットされる小当り開始コマンドなどがある。

40

【1231】

[演出制御処理について]

次に、演出制御処理（ステップS1200の処理）について、図194を参照しつつ説明する。

【1232】

50

同図194に示されるように、この演出制御処理は、遊技の進行状態を示す処理選択フラグの値に基づいて、装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）、装飾図柄変動処理（ステップS1220）、大当り表示処理（ステップS1230）、及び小当り表示処理（ステップS1240）のいずれかの処理を選択的に行うものとなっている。

【1233】

すなわち後述するが、処理選択フラグが「0」のときに実行される装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）では、上記ステップS1104（図193参照）の処理にて操作されうる変動パターン受信フラグがセットされていることを条件に、装飾図柄の変動表示を含めて、液晶表示装置1900における表示演出を開始させるべく処理を行う。例えば、パターンコマンドや当選情報コマンドに基づいて表示演出パターン（装飾図柄の停止図柄や、上述の延長演出の有無など）を決定し、該決定した表示演出パターンに応じた（液晶制御部4150に対しての）表示コマンドをセットするほか、予告演出にかかる設定、等々の処理も行う。

10

【1234】

また、処理選択フラグが「1」のときに実行される装飾図柄変動処理（ステップS1220）では、上記ステップS1107（図193参照）の処理にて操作されうる確定停止コマンドに対応したフラグがセットされていることを条件に、大当り抽選の結果が示されるように、装飾図柄の変動表示を含めて、液晶表示装置1900における表示演出を終了させるべく（液晶制御部4150に対しての）表示コマンドをセットする、等々の処理を行う。また、当該処理の終了に際しては、確定停止コマンドに対応したフラグがリセットされる。

20

【1235】

また、処理選択フラグが「2」の時に実行される大当り表示処理（ステップS1230）では、上記ステップS1107（図193参照）の処理にて操作されうる大当り時のインターバル演出コマンドに対応したフラグや、大当り開始コマンドに対応したフラグがセットされていることを条件に、大入賞口2103が開放されることを液晶表示装置1900にて示す表示や、大当り遊技状態中の表示（例えば、ラウンド表示等）をさせる制御をそれぞれ行う。また、当該処理の終了に際しては、大当り時のインターバル演出コマンドに対応したフラグや、大当り開始コマンドに対応したフラグがリセットされる。

30

【1236】

また、処理選択フラグが「3」の時に実行される小当り表示処理（ステップS1240）では、上記ステップS1107（図193参照）の処理にて操作されうる小当り時のインターバル演出コマンドに対応したフラグや、小当り開始コマンドに対応したフラグがセットされていることを条件に、大入賞口2103が開放されることを液晶表示装置1900にて示す表示や、小当り遊技状態中の演出表示をさせる制御をそれぞれ行う。また、当該処理の終了に際しては、小当り時のインターバル演出コマンドに対応したフラグや、小当り開始コマンドに対応したフラグがリセットされる。

【1237】

ただし上述の通り、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、液晶表示装置1900における大当り時や小当り時の表示演出については、上記受信されたパターンコマンドにより示される変動時間内で終了させることなく、第一特別図柄表示器1185または第二特別図柄表示器1186としての複数のLEDの点灯パターンにかかる変動表示の停止後の期間（オープニング期間）にまで延長させた上で、この延長後の表示演出において大当り抽選の結果が示されうる場合を持たせるようにしている。

40

【1238】

すなわちこの場合、後述するが、上記装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）では、主制御基板4100から受信したパターンコマンドにより示される変動時間よりも長い、オープニング期間における延長演出に要する時間をも含めた表示演出パターンを決定し、該決定した表示演出パターンに応じた（液晶制御部4150に対しての）表示コマンドをセットすることとなる。また、上記装飾図柄変動処理（ステップS1220）では、

50

確定停止コマンドに対応したフラグがセットされているにもかかわらず、液晶表示装置 1900 における表示演出が終了していない中途の演出段階が現れているもとで、当該処理を終了させることとなる。

【1239】

そして、上記大当り表示処理（ステップ S 1230）、若しくは上記小当り表示処理（ステップ S 1240）において、こうして延長された表示演出が、上記装飾図柄変動開始処理（ステップ S 1210）にてセットされた表示コマンドにより示される内容に応じたものとして継続して行われるべく処理を行うこととなる。したがって、この延長時の処理では、インターバル演出コマンドに対応したフラグがセットされている場合であっても、該コマンドに応じた演出制御（大入賞口 2103 が開放されることを示す表示制御など）を行うことはない。

10

【1240】

なお上述の通り、当該演出制御処理におけるステップ S 1210～1230 の処理においてセットされたコマンドは、図 193 に示した情報出力処理（ステップ S 1500）によって液晶制御部 4150 に送信される。これにより、液晶制御部 4150 側による制御を通じて、液晶表示装置 1900 において上記コマンドにより示される内容（表示演出パターンなど）の表示演出が現れるようになる。

【1241】

[装飾図柄変動開始処理について]

次に、処理選択フラグが「0」のときに実行される装飾図柄変動開始処理（ステップ S 1210）について説明する。図 195 は、装飾図柄変動開始処理の一例を示すフローチャートである。

20

【1242】

同図 195 に示されるように、装飾図柄変動開始処理（ステップ S 1210）では、周辺制御 MPU 4140a は、まず、ステップ S 1221 の処理として、上記ステップ S 1104（図 193 参照）の処理にて操作されうる変動パターン受信フラグが ON 状態（セット）にあるか否かを判断する。すなわち、このステップ 1221 の処理では、主制御基板 4100 側にて所定の始動条件（ステップ S 301 における YES）が成立されることに基づいて、上記ステップ S 1104（図 193 参照）の処理にて上記変動パターン受信フラグが ON 状態に操作されるのを待つこととなる。

30

【1243】

そして、変動パターン受信フラグが ON 状態に操作されるまでの間、周辺制御 MPU 4140a では、以下のステップ S 1232～ステップ S 1237 の処理によってデモ演出や演出モードにかかる制御を行う。

【1244】

すなわち、まず、液晶表示装置 1900 においてデモ演出を実行している状態にあるか否かを判断し（ステップ S 1232）、同状態にない旨判断されたときには、前回の図柄変動などの表示演出が終了してから所定時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1236）。そしてこの結果、所定時間が経過した旨判断されたときには、液晶表示装置 1900 においてデモ演出を開始させるべく（液晶制御部 4150 に対しての）表示コマンドをセットすることとなる。そして、こうしてセットされた表示コマンドが、図 193 に示した情報出力処理（ステップ S 1500）によって液晶制御部 4150 に送信されることで、液晶制御部 4150 側による制御を通じて、液晶表示装置 1900 においてデモ演出が実行されるようになる。

40

【1245】

なお、上記ステップ S 1236 の処理において所定時間が経過した旨判断されなかったときは、当該装飾図柄変動開始処理を一旦終了し、変動パターン受信フラグがセットされるか（ステップ S 1221 における YES）、所定時間が経過するか（ステップ S 1236 における YES）のどちらかの条件が満たされるまで待機することとなる。

【1246】

50

また、このような処理（ステップS 1 2 3 6、ステップS 1 2 3 7）を行った結果、上記ステップS 1 2 3 2の処理にて、液晶表示装置1 9 0 0においてデモ演出を実行している状態にある旨判断された場合は（ステップS 1 2 3 2におけるYES）、演出モードに対する遊技者による操作が許容されている状態にあるか否かを判断する（ステップS 1 2 3 3）。

【1 2 4 7】

すなわち上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当たり抽選の結果が条件装置の作動を伴わない当り（小当り）、若しくは条件装置の作動を伴う当り（大当り）であるとき、液晶表示装置1 9 0 0における表示演出については、上記主制御基板4 1 0 0側にて設定された変動パターンの変動時間内で終了させることなく、第一特別図柄表示器1 1 8 5または第二特別図柄表示器1 1 8 6としての複数のLEDの点灯パターンにかかる変動表示の停止後の期間にまで延長させた上で、条件装置の作動を伴う当り（大当り）に当選したか否かについての表示演出が現れうる表示演出パターン（延長演出パターン）を選択しうる第1の演出モードと、チャレンジボーナス演出パターンを選択しうる第2の演出モードとを用意している。

10

【1 2 4 8】

ここで、この実施の形態にかかるパチンコ機1が第1の演出モードにあるときに現れうるこのような延長演出パターンと、第2の演出モードにあるときに現れうるチャレンジボーナス演出パターンとの概要をそれぞれ説明する。図1 9 8（a）、（b）は、通常（非延長時）の表示演出パターンと比較しつつ、延長演出パターンを説明するための図であり、図1 9 8（c）は、チャレンジボーナス演出パターンを説明するための図である。

20

【1 2 4 9】

同図1 9 8（a）に示されるように、まず、通常（非延長時）の表示演出パターンでは、特別図柄の変動開始に合わせるように（変動パターン受信フラグがセットされていることに基づいて）、液晶表示装置1 9 0 0における表示演出が開始される。そして、同表示演出の終了についても、特別図柄の変動終了に合わせるように（確定停止コマンドに対応したフラグのセットに基づいて）行われ、当該表示演出の終了に際しては、大当たり抽選の結果が示される演出が現れる。また、こうして表示演出が終了した後は、大入賞口2 1 0 3が開放されるまでのオープニング期間を利用して、液晶表示装置1 9 0 0においては、インターバル演出コマンドに対応したフラグがセットされていることに基づいて、例えば、大当たりや小当りなどの当選結果に応じたオープニング演出に切り替えられる。そして、大入賞口2 1 0 3の開放が行われるときには、大当たり開始コマンドや小当り開始コマンドに対応したフラグがセットされていることに基づいて、大入賞口2 1 0 3の開放にかかる制御が行われていることなどを示す開放中演出に切り替えられる。

30

【1 2 5 0】

これに対し、同図1 9 8（b）に示されるように、延長時の表示演出パターン（延長演出パターン）においても、特別図柄の変動開始に合わせるように（変動パターン受信フラグがセットされていることに基づいて）、液晶表示装置1 9 0 0における表示演出が開始される。ただし、確定停止コマンドに対応したフラグがセットされた状況にあっても、当該表示演出を終了させることはなく、特別図柄の変動終了時においても、液晶表示装置1 9 0 0における表示演出は継続して行われている。また、大入賞口2 1 0 3が開放されるまでのオープニング期間への突入に際しては、インターバル演出コマンドに対応したフラグがセットされることとなるが、周辺制御MPU 4 1 4 0 aは、大入賞口2 1 0 3が開放されることが示されるインターバル演出に切り替えることなく同コマンドのセットを無視し、液晶表示装置1 9 0 0における表示演出を継続させる。そして、大入賞口2 1 0 3の開放が行われるときに、大当たり開始コマンドや小当り開始コマンドに対応したフラグがセットされていることに基づいて、液晶表示装置1 9 0 0における表示演出を、大当たり抽選の結果が条件装置の作動を伴う当り（大当り）であるか否かについての当落情報が示される当落明示演出に切り替えるかたちで実行する。

40

【1 2 5 1】

50

すなわちこの場合、上述の小当たり時の演出が大当たりの落選時に現れる一演出として位置付けられることはもとより、特別図柄の停止後、小開放当り遊技（小当り遊技）の実行に際してのオープニング期間やその後の大入賞口 2 1 0 3 の開放期間にまでわたって行うようにしたことで、大当たりの落選であることが示されてから比較的早く次変動（特別図柄の保留消化）にかかる表示演出に移行させることができるようになる。これにより、いわゆる高期待のハズレ演出であるときと同じような態様で演出が進行することになることから、条件装置の作動を伴わない当り（小当り）が搭載されているパチンコ機 1 であることが気付かれ難くなり、ひいては小当たりの当選に応じて開閉部材 2 1 0 6 が動作することによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。

【1 2 5 2】

しかも、この実施の形態にかかるパチンコ機 1 によれば、このような小当たりの当選に応じた小開放当り遊技（小当り遊技）が行われるときの開閉部材 2 1 0 6 の動作態様と近似、若しくは同一の動作態様をもって開閉部材 2 1 0 6 を動作させる大当り遊技が用意されていないことから、いわゆる小当りを用いた潜伏演出状態が発生することではなく、この意味でも、条件装置の作動を伴わない当り（小当り）が搭載されているパチンコ機 1 であることが気付かれ難くされている。この意味では、上述の小当たり時の演出は、大当たり時に現れる当り演出パターンに対するハズレ演出パターン（対の演出）として用いられているものの、このことは、小当りが搭載されているパチンコ機 1 であることを把握し難くする、といった技術思想（従来とは逆の技術思想）に基づくものであるといえる。すなわち、このような技術思想のもとで、特別図柄の変動及び停止、オープニング期間、大入賞口の開放、といった小当たり時における一連の挙動が大当たり時にも現れることに鑑み、そのオープニング期間（さらには、大入賞口の開放期間）までも含めて、大当たり時（大当たりの当選）と小当たり時（大当たりの落選）とで当落にかかる表示演出を行うようにしたものである。これにより、オープニング期間や大入賞口 2 1 0 3 の開放が注目され難くなり、ひいては小当たり時の表示演出を高期待ハズレ演出パターンであるかのように見せることができるようになる。

【1 2 5 3】

なお、延長演出パターンでは、液晶表示装置 1 9 0 0 における延長された表示演出中に、オープニング期間の終了に際し、大当たり抽選の結果が条件装置の作動を伴う当り（大当り）であるか否かについての当落情報が示されるようにしてもよい。

【1 2 5 4】

そして、この実施の形態にかかるパチンコ機 1（周辺制御 M P U 4 1 4 0 a）では、このような延長演出パターンを選択しうる第 1 の演出モードでは、開閉部材 2 1 0 6 の動作によって賞球を得る機会が提供されることとなる結果が得られた場合であっても、当該抽選の結果が小当りであるときには、液晶表示装置 1 9 0 0 においては大きりに落選したことが示されるハズレ時の表示演出が現れるようにしている。

【1 2 5 5】

このような第 1 の演出モードにあるときの延長演出パターンに対し、第 2 の演出モードにあるときは、開閉部材 2 1 0 6 の動作によって賞球を得る機会が提供されることとなる結果が得られた場合は、当該抽選の結果が小当りと大当たりとのいずれであるかにかかわらず液晶表示装置 1 9 0 0 においては賞球獲得が可能とされる当りに当選されたことが示されるチャレンジボーナス演出が現れるようにしている。このチャレンジボーナス演出パターンでは、大当たり抽選の結果が条件装置の作動を伴わない当り（小当り）、若しくは条件装置の作動を伴う当り（大当り）であるときに、大入賞口 2 1 0 3 の開放によって賞球獲得が可能とされる当りとして大当たりはもとより、小当りもその 1 つの種類（当りの種別）として扱われる表示演出として現れることとなる。

【1 2 5 6】

すなわち、同図 1 9 8（c）に示されるように、このチャレンジボーナス演出パターンにおいても、特別図柄の変動開始に合わせるように（変動パターン受信フラグがセットされていることに基づいて）、液晶表示装置 1 9 0 0 における表示演出が開始される。ただ

10

20

30

40

50

し、この表示演出は、大当りの当落にかかる抽選結果が示される演出ではなく、大入賞口 2 1 0 3 が開放されることによる賞球獲得の機会が付与される当り（大当り、小当り）に当選されているか否かが示される演出として行われる。したがって、同表示演出の終了については、特別図柄の変動終了に合わせるように（確定停止コマンドに対応したフラグがセットされていることに基づいて）行われるものの、当該表示演出の終了に際しては、大入賞口 2 1 0 3 が開放されることによる賞球獲得の機会が付与されるか否かが示される演出が現れる。また、こうして表示演出が終了した後のオープニング期間においては、インターバル演出コマンドに対応したフラグがセットされていることに基づいて、大入賞口 2 1 0 3 が開放されることによる賞球獲得の機会が付与されることが遊技者に把握可能とされているもとの、大入賞口 2 1 0 3 の開放によって遊技者が獲得可能とされる賞球数がどの程度のものであるかについてのチャレンジボーナス演出に切り替えられる。

10

【1 2 5 7】

このチャレンジボーナス演出としては、例えば、所定の操作手段（操作ユニット 4 0 0 におけるダイヤル操作部 4 0 1 や押圧操作部 4 0 5 など）に対する操作が行われる都度、遊技者によって獲得可能とされる賞球数の目安ゲージ（例えば、少量の賞球を想起させる「お小遣いゲット!」、中量の賞球を想起させる「ボーナスゲット!」、多量の賞球を想起させる「金脈発見!」など）が多量の賞球を想起させる側に溜まっていくか否かについての演出抽選が行われる演出など、「所定の操作手段に対する複数回の操作によって段階性のあるミッションをどの程度のレベルで達成させることができたか」といったミッション性のある操作系演出などとして行われるようにすることが望ましい。またさらに、この

20

【1 2 5 8】

すなわちこの場合、当り時の表示演出が現れた後、大入賞口 2 1 0 3 の開放に際しては、オープニング期間を利用することによって、少なくとも特定数（例えば、少量の賞球（本実施形態では、4 0 ～5 0 個程度））の賞球は獲得可能とされるように賞球を得る機会が提供されることが遊技者に把握されているもとの、あとはどれだけの賞球数をボーナスとして上積み可能とされるか、といったラウンド抽選的な要素のあるチャレンジボーナス演出が行われる。またさらに、賞球数の上積みがあったときには、遊技者に有利な遊技状態（確率変動機能や時短機能が作動する遊技状態）への変更が行われる可能性も生じる。したがって、このようなチャレンジボーナス演出においては、条件装置の作動を伴う当りの当選確率（1 / 4 0 0）に対し、条件装置の作動を伴わない当りの当選確率（3 / 4 0 0）を加えたより高い確率（1 / 1 0 0）をもって、遊技者に対して賞球が払い出されうること（換言すれば、開閉部材 2 1 0 6 が動作すること）のみならず、遊技者に有利な遊技状態に移行されうることをも意識付けさせることができるようになる。これにより、低く設定されている大当り（特別当り）の当選確率によって、単調なハズレ演出ばかりが繰り返り表示されるようなことが回避されるようになり、遊技興趣の低下が抑制されるようになる。

30

40

【1 2 5 9】

また、このようなチャレンジボーナス演出によれば、大当りに落選した場合であっても、特定の条件を満たしているときには、液晶表示装置 1 9 0 0 において当り時の表示演出が現れるように制御して遊技者に対して賞球が払い出されうることと、遊技者に有利な遊技状態への変更とを意識付けさせるにもかかわらず、大入賞口 2 1 0 3 の動作に際しては

50

、例えばチャレンジ結果演出などにおいて、大当りに当選されているときには現れない特定画像（少量の賞球のみが獲得可能とされることを示す画像など）を液晶表示装置1900において表示させようようにしている。すなわちこの場合、大当りの当選に応じて大入賞口2103が開放されるまでの間は、特定画像が出現するか否かの待ち演出期間として機能することとなる。特に、特定画像が出現したときには、遊技者に有利な遊技状態への変更がないことはもとより、遊技者によって獲得可能とされる賞球数としても、同特定画像が出現しないときよりも大幅に少ない賞球数しか獲得可能とされないようになってしまうことから、遊技者が得られる利益のこのようなギャップの大きさも相まって、大当りが当選されたことが示される演出が現れたときの遊技興趣をより高めることができるようになる。

10

【1260】

このような2つの演出モードが採用される構成によれば、延長演出パターンを選択しうる第1の演出モードでは、小開放当り遊技（小当り遊技）の実行に際し、遊技者に対して賞球が払い出されうること（換言すれば、開閉部材2106が動作すること）を意識付けさせない演出が行われうるのに対し、チャレンジボーナス演出パターンを選択しうる第2の演出モードでは、小開放当り遊技（小当り遊技）の実行に際し、遊技者に対して賞球が払い出されうること（換言すれば、開閉部材2106が動作すること）を意識付けさせる演出が行われうることとなる。これにより、チャレンジボーナス演出パターンを選択しうる第2の演出モードでは、延長演出パターンを選択しうる第1の演出モードにあるときよりも高い確率（大当りの当選確率「 $1/400$ 」に、小当りの当選確率「 $3/400$ 」を加えたより高い確率「 $1/100$ 」）をもって、遊技者に対して賞球が払い出されうることを意識付けさせる演出が現れるようになり、こうした演出モードの使い分けによって、条件装置の作動を伴った遊技状態の変化を生じさせずとも、遊技者に対して賞球が払い出されうるボーナス遊技（開閉部材2106による大入賞口2103の開放）の実行確率がその都度変化するかのようなより深みのある演出を実現することができるようになる。なお、こうした演出を実現することができるのは、第1の演出モードにおいて小当りが搭載されているパチンコ機1であることを遊技者に気付かれ難くした上で、第2の演出モードでは、大入賞口2103の開放によって賞球獲得が可能とされる当りとして大当りはもとより、小当りもその1つの種類として扱われる表示演出を行うようにしているからである。

20

30

【1261】

特に、この実施の形態にかかるパチンコ機1（周辺制御MPU4140a）では、このような延長演出パターンを選択しうる第1の演出モードと、チャレンジボーナス演出パターンを選択しうる第2の演出モードとのいずれかの演出モードに強制決定されて、該強制決定されている演出モードからの遊技者の操作による変更が許容されないモード強制期間を創出するモード強制制御手段を備えている。

【1262】

例えば、当該パチンコ機1がホールに納品されてからの第1の所定期間（例えば、1ヶ月間などの所定の月日が経過するまでの期間）を第1の演出モードに強制決定しておき、その第1の所定期間が経過してからの第2の所定期間（例えば、次の1ヶ月間などの所定の月日が経過するまでの期間）を第2の演出モードに強制決定するように上記モード強制期間の創出にかかる制御を行うようにした場合には、最初の1ヶ月間は、上述の如く小当りが搭載されていることを隠すように演出が行われることによって、大当りの当選確率のもとで遊技者に対して賞球が払い出されうるパチンコ機1として稼動する。これに対し、次の1ヶ月間は、大入賞口2103の開放によって賞球獲得が可能とされる当りの1つの種類として小当りが扱われる演出が行われることによって、大当りの当選確率よりも高い確率のもとで遊技者に対して賞球が払い出されうるパチンコ機1として稼動するようになり、1つの遊技仕様しか搭載されていないパチンコ機1でありながら、最初の第1の所定期間においては小当りの存在が気付かれ難くされていたことも相まって、液晶表示装置1900における演出内容はもとより、出玉獲得にかかる遊技仕様すらも異なる別のパチン

40

50

コ機が新たに稼動したかのような印象を遊技者に与えることができるようになる。なお、第2の所定期間が経過した後は、デモ演出中における操作手段に対する遊技者の操作に応じて演出モードが設定可能とされるようになる。

【1263】

この点、上記ステップS1233の処理では、周辺制御MPU4140aが、まず、内蔵RTC4140aaのカレンダ情報や時刻情報などの時間情報に基づいて、第1の演出モードと第2の演出モードとのいずれかの演出モードに強制決定されているモード強制期間にあるか否かを判断する。そしてこの結果、第1の演出モードに強制決定されている旨判断したときや（例えば、当該パチンコ機1がホールに納品されてからの第1の所定期間にあるときなど）、第2の演出モードに強制決定されている旨判断したとき（例えば、第1の所定期間が経過してからの第2の所定期間にあるときなど）は、遊技者の操作による演出モードの変更は許容されないとして（ステップS1233におけるNO）、当該装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）を一旦終了する。すなわちこの場合、デモ演出が実行されているもとで（ステップS1232におけるYES）、変動パターン受信フラグがセットされる（ステップS1221におけるYES）のを待つこととなる。

10

【1264】

一方、内蔵RTC4140aaのカレンダ情報や時刻情報などの時間情報に基づいて、第1の演出モードと第2の演出モードとのいずれかの演出モードに強制決定されている上記モード強制期間にない旨判断されたときは（例えば、第2の所定期間が既に経過している場合など）、遊技者の操作による演出モードの変更が許容される状態にあるとして（ステップS1233におけるYES）、次にステップS1234の処理を行う。

20

【1265】

このステップS1234の処理では、演出モードを変更させるべくの遊技者による操作があったか否かを判断する。ここで、遊技者による操作としては、例えば、操作ユニット400におけるダイヤル操作部401や押圧操作部405に対する操作であり、デモ演出が行われているもとでダイヤル操作部401や押圧操作部405が操作されると、液晶表示装置1900において演出モードの選択画面を出現させる表示制御を行うようにしておくことが考えられる。そしてこの場合、こうした選択画面が現れているときに、ダイヤル操作部401に対する操作で特定の演出モードを選択し、該選択された特定の演出モードを押圧操作部405に対する操作により決定させたときに、演出モードを変更させるべく遊技者による操作があった旨判断され（ステップS1234におけるYES）、該決定された演出モードに変更するべく同演出モードにかかる設定処理を行うこととなる（ステップS1235）。

30

【1266】

なお、こうした遊技者による操作対象となる手段としては、操作ユニット400におけるダイヤル操作部401や押圧操作部405でなくてもよく、タッチパネルによる近接操作なども含めて、遊技者による所定の操作が可能なのであればよい。また、遊技者による操作があったときの処理としても、液晶表示装置1900における表示に変化を生じさせる制御（選択画面の出現、選択時の表示、決定時の表示など）のほか、例えば、透過性をもった遊技パネル1150における背面からの発光色を変更（青色から赤色に変更など）させるなど、所定の装飾部材における演出態様を異ならしめることで、演出モードが切り替えられたことを遊技者に対して示すようにしてもよい。

40

【1267】

他方、上記ステップS1221の処理において、上記ステップS1104（図193参照）の処理にて操作されうる変動パターン受信フラグがON状態（セット）にある旨判断されたときは、主制御基板4100側にて所定の始動条件（ステップS301におけるYES）が成立された状態にあるとして、液晶表示装置1900における表示演出を開始させるべく以下のステップS1222～ステップ1227の処理を行う。

【1268】

すなわち、周辺制御MPU4140aは、まず、変動パターン受信フラグをOFF状態

50

に操作（リセット）する（ステップS 1 2 2 2）。そしてこの上で、遊技状態フラグが通常外部不利遊技状態にあることを示しているか否かを判断する（ステップS 1 2 2 3）。なお、この遊技状態フラグは、例えば、大当り遊技の終了に際し（例えば、大当り表示処理（ステップS 1 2 3 0））、当該大当り遊技後に制御される遊技状態の種類を示すように操作されるものである。

【1 2 6 9】

そして、遊技状態フラグが通常外部不利遊技状態にあることを示しているときは（ステップS 1 2 2 3におけるYES）、次にステップS 1 2 2 4の処理として、上記ステップS 1 2 3 5の処理における演出モードの設定状態、若しくは内蔵RTC 4 1 4 0 a aのカレンダ情報や時刻情報などの時間情報に基づいて、第1の演出モードの設定状態にあるか否かを判断する。そしてこの結果、第1の演出モードに強制決定される期間にあるか、若しくは遊技者の操作による演出モードの変更が許容される期間において第1の演出モードが設定されている状態にあるときは、第1の演出モードの設定状態にある旨判断し（ステップS 1 2 2 4におけるYES）、次にステップS 1 2 2 5 aの処理を行う。

10

【1 2 7 0】

このステップS 1 2 2 5 aの処理では、第1の演出モードの設定状態にあるときの演出パターンテーブルを参照しつつ、周辺制御RAM 4 1 4 0 eの変動表示パターン格納領域にて記憶されている変動パターンにかかる情報と、周辺制御RAM 4 1 4 0 eの当選情報格納領域にて記憶されている当選情報とに基づいて、液晶表示装置1 9 0 0における演出パターン及び停止図柄を決定する。

20

【1 2 7 1】

次いで、予告判定乱数に基づいて予告演出を実行するか否かの判断が行われる予告選択処理を実行する（ステップS 1 2 2 6 A）。すなわち、第1の演出モードにあるときと第2の演出モードにあるときとでは、液晶表示装置1 9 0 0における演出パターンはもとより、予告演出の実行頻度やその演出内容が変わってくることから、この予告選択処理では、第1の演出モードの設定状態にあるときの予告演出テーブルにおいて、適宜の予告判定乱数に基づいて予告演出にかかる演出態様（予告演出パターン）を決定することとなる。

【1 2 7 2】

そして、こうして決定された第1の演出モード時における演出パターン、停止図柄、及び予告演出パターンにそれぞれ対応付けされている表示コマンド（予告コマンド）をセットし（ステップS 1 2 2 7）、処理選択フラグを「1」に更新した時点で（ステップS 2 2 8）、当該装飾図柄変動開始処理（ステップS 1 2 1 0）を終了する。すなわち、こうしてセットされた表示コマンドや予告コマンドが、図1 9 3に示した情報出力処理（ステップS 1 5 0 0）によって液晶制御部4 1 5 0に送信されることで、液晶表示装置1 9 0 0においては、液晶制御部4 1 5 0側による制御を通じて、上記表示コマンドにより示される内容（延長演出パターンなど）の表示演出が現れるとともに、上記予告コマンドにより示される内容の予告演出が現れるようになる。

30

【1 2 7 3】

一方、上記ステップS 1 2 2 4の処理において、第2の演出モードに強制決定される期間にあるか、若しくは遊技者の操作による演出モードの変更が許容される期間において第2の演出モードが設定されている状態にあるときは、第1の演出モードの設定状態にない旨判断し（ステップS 1 2 2 4におけるNO）、次にステップS 1 2 2 5 bの処理を行う。このステップS 1 2 2 5 bの処理では、第2の演出モードの設定状態にあるときの演出パターンテーブルを参照しつつ、周辺制御RAM 4 1 4 0 eの変動表示パターン格納領域にて記憶されている変動パターンにかかる情報と、周辺制御RAM 4 1 4 0 eの当選情報格納領域にて記憶されている当選情報とに基づいて、液晶表示装置1 9 0 0における演出パターン及び停止図柄を決定する。次いで、第2の演出モードの設定状態にあるときの予告演出テーブルにおいて、予告演出を実行するか否かの判断を含めて、適宜の予告判定乱数に基づいて予告演出にかかる演出態様（予告演出パターン）が決定される予告選択処理を実行する（ステップS 1 2 2 6 b）。

40

50

【1274】

そして、こうして決定された第2の演出モード時における演出パターン、停止図柄、及び予告演出パターンにそれぞれ対応付けされている表示コマンド（予告コマンド）をセットし（ステップS1227）、処理選択フラグを「1」に更新した時点で（ステップS1228）、当該装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）を終了する。すなわち、こうしてセットされた表示コマンドや予告コマンドが、図193に示した情報出力処理（ステップS1500）によって液晶制御部4150に送信されることで、液晶表示装置1900においては、液晶制御部4150側による制御を通じて、上記表示コマンドにより示される内容の表示演出が現れるとともに、上記予告コマンドにより示される内容の予告演出が現れるようになる。

10

【1275】

他方、上記ステップS1223の処理において、遊技状態フラグが通常外部不利遊技状態にあることを示していない旨判断されたときは（ステップS1223におけるNO）、詳述は割愛するが、現在の遊技状態に応じた演出テーブルに基づいて演出パターンや停止図柄を決定するとともに（ステップS1229）、現在の遊技状態に応じた予告演出テーブルにおいて、予告演出を実行するか否かの判断を含めて、適宜の予告判定乱数に基づいて予告演出にかかる演出態様（予告演出パターン）が決定される予告選択処理を実行することとなる（ステップS1230）。

【1276】

そして、こうして決定された現在の遊技状態に応じた演出パターン、停止図柄、及び予告演出パターンにそれぞれ対応付けされている表示コマンド（予告コマンド）をセットし（ステップS1227）、処理選択フラグを「1」に更新した時点で（ステップS1228）、当該装飾図柄変動開始処理（ステップS1210）を終了する。すなわち、こうしてセットされた表示コマンドや予告コマンドが、図193に示した情報出力処理（ステップS1500）によって液晶制御部4150に送信されることで、液晶表示装置1900においては、液晶制御部4150側による制御を通じて、上記表示コマンドにより示される内容の表示演出が現れるとともに、上記予告コマンドにより示される内容の予告演出が現れるようになる。

20

【1277】

図196は、第1の演出モード時の演出パターン及び停止図柄の決定処理（ステップS1225a）についての一例を示すフローチャートである。

30

【1278】

同図196に示されるように、このステップS1225aの処理では、まず、上記ステップS1104の処理にて変動表示パターン格納領域に記憶された変動パターンコマンドを読み出し、この変動パターンコマンドに対応付けされている演出パターンを決定する（ステップS1301）。ここで、第1の演出モード時の演出パターン決定テーブルにおいては、1つの変動パターンコマンドに対しては、複数の演出パターンが対応付けされていてもよい（図202、図203参照）、1つの演出パターンのみが対応付けされていてもよい（図199、図200参照）。なお、複数の演出パターンが対応付けされているときは、所定の演出用乱数を用いた演出抽選の結果に基づいていずれかの演出パターンを決定するか、大当りの種別に基づいていずれかの演出パターンを決定することとなる。

40

【1279】

こうして特定の演出パターンが決定された後は、装飾図柄が停止されるときに現れる停止図柄（停止時の図柄組み合わせ）を決定することとなる。すなわち後述するが、液晶表示装置1900における装飾図柄については、特別図柄の停止時に表示演出が終了されない上記延長演出パターンが採用されている場合も含めて、特別図柄の変動停止に合わせるように（確定停止コマンドがセットされていることに基づいて）停止するものとなっている。

【1280】

この点、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、当該停止図柄の決定

50

に際しては、「延長演出パターン」と、「延長演出パターンではないものの、同延長演出パターンの対となる演出として用意されうるハズレ演出パターン」とのいずれかの演出パターンが上記ステップS 1 3 0 1の処理にて決定されているかについての判断を行う（ステップS 1 3 0 2）。そしてこの結果、それら演出パターンのいずれかが決定されているときは、予め定められた延長時の停止図柄（特定のリーチハズレ図柄など）を決定した時点で（ステップS 1 3 0 3）、当該ステップS 1 2 2 5 a（図1 9 5参照）の処理を終了する。すなわちこの場合、オープニング期間においては、延長時の停止図柄をもって装飾図柄が停止表示されている状態のもとで、キャラクタなどのストーリーを中心とした表示演出の内容が延長（発展）されるかたちで継続して現れることとなり、その後、大当りに当選したか否かについての結果が明示されるようになる。

10

【1 2 8 1】

これに対し、「延長演出パターン」と、「延長演出パターンではないものの、同延長演出パターンの対となる演出として用意されうるハズレ演出パターン」とのいずれの演出パターンとも異なる通常の演出パターン（図1 9 8（a）参照）が決定されているときは、ステップS 1 3 0 4～ステップS 1 3 1 0の処理を通じて、当選情報コマンドにより示される大当り抽選の結果に応じた停止図柄を決定することとなる。

【1 2 8 2】

すなわち、まず、上記ステップS 1 1 0 6の処理にて当選情報格納領域に記憶された当選情報コマンドに基づいて大当り抽選の結果が大当りであるか否かについての判断を行う（ステップS 1 3 0 4）。そしてこの結果、大当り抽選の結果が大当りであるときは、大当り時専用の停止図柄を決定した時点で（ステップS 1 3 0 5）、当該ステップS 1 2 2 5 a（図1 9 5参照）の処理を終了する。

20

【1 2 8 3】

また、大当り抽選の結果が大当りでないときは（ステップS 1 3 0 4におけるNO）、同結果が小当りであるか否かについての判断を行うとともに（ステップS 1 3 0 6）、大当り抽選の結果が小当りであるときは、小当り時専用の停止図柄を決定することとなる（ステップS 1 3 0 7）。ただし、第1演出モードにあるとき、小当りについてはその存在が隠匿されるようにその演出コマンドは上記延長演出パターンに全て対応付けされるようにしていることから、上記ステップS 1 3 0 6の処理では必ず、大当り抽選の結果が小当りでない旨判断されることとなり、次にステップS 1 3 0 8の処理として、リーチが形成される表示演出（高期待ハズレ演出）であるか否かについての判断が行われる。

30

【1 2 8 4】

そしてこの結果、リーチが形成される表示演出であるときは、リーチハズレの停止図柄を決定した時点で（ステップS 1 3 0 9）、当該ステップS 1 2 2 5 a（図1 9 5参照）の処理を終了するのにに対し、リーチが形成される表示演出でないときは、リーチが形成されない不揃いの停止図柄を決定した時点で（ステップS 1 3 1 0）、当該ステップS 1 2 2 5 a（図1 9 5参照）の処理を終了する。

【1 2 8 5】

図1 9 7は、第2の演出モード時の演出パターン及び停止図柄の決定処理（ステップS 1 2 2 5 b）についての一例を示すフローチャートである。

40

【1 2 8 6】

同図1 9 7に示されるように、このステップS 1 2 2 5 bの処理では、まず、上記ステップS 1 1 0 4の処理にて変動表示パターン格納領域に記憶された変動パターンコマンドを読み出し、この変動パターンコマンドに対応付けされている演出パターンを決定する（ステップS 1 3 2 1）。ここで、第2の演出モード時の演出パターン決定テーブルにおいても、1つの変動パターンコマンドに対しては、複数の演出パターンが対応付けされていてもよいし、1つの演出パターンのみが対応付けされていてもよい。なお、複数の演出パターンが対応付けされているときは、所定の演出用乱数を用いた演出抽選の結果に基づいていずれかの演出パターンを決定するか、大当りの種別に基づいていずれかの演出パターンを決定することとなる。

50

【1287】

こうして特定の演出パターンが決定された後は、装飾図柄が停止されるときに現れる停止図柄（停止時の図柄組み合わせ）を決定することとなる。すなわち上述の通り、第2の演出モードにおいては、液晶表示装置1900における装飾図柄については、賞球獲得が可能とされる抽選結果が得られたときに、特別図柄の変動停止に合わせるように（確定停止コマンドがセットされていることに基づいて）当り時の停止図柄を停止させるものとなっている。

【1288】

この点、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、当該停止図柄の決定に際しては、上記ステップS1106の処理にて当選情報格納領域に記憶された当選情報コマンドに基づいて、大当り抽選の結果が賞球獲得が可能とされる当り（大当り、若しくは小当り）であるか否かについての判断を行う（ステップS1322、ステップS1324）。そしてこの結果、大当り抽選の結果が賞球獲得が可能とされる当り（大当り、若しくは小当り）であるときは（ステップS1322におけるYES、若しくはステップS1324におけるYES）、大入賞口2103の開放確定であることが把握可能となるボーナスチャレンジ停止図柄を決定した時点で（ステップS1305）、当該ステップS1225b（図195参照）の処理を終了する。なお、ボーナスチャレンジ停止図柄としては、例えば、大当り図柄組み合わせの構成要素とはならない特殊図柄をその変動中に出現させた上で、停止時の図柄組み合わせに同特殊図柄が含まれるもの、等々によって実現することができる。

【1289】

そしてこの場合、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れた後のオープニング期間においては、例えば、少なくとも特定数（例えば、少量の賞球（本実施形態では、40～50個程度））の賞球は獲得可能とされるように賞球を得る機会が提供されることが遊技者に把握されているもとで、あとはどれだけの賞球数をボーナスとして上積み可能とされるか、といったラウンド抽選的な要素のあるチャレンジボーナス演出が行われることとなる。

【1290】

一方、大当り抽選の結果が賞球獲得が可能とされる当り（大当り、若しくは小当り）でないときは（ステップS1322とステップS1324とのいずれの処理においてもNO）、次にステップS1325の処理として、リーチが形成される表示演出であるか否かについての判断が行われる。

【1291】

そしてこの結果、リーチが形成される表示演出であるときは、リーチハズレの停止図柄を決定した時点で（ステップS1326）、当該ステップS1225b（図195参照）の処理を終了するのに対し、リーチが形成される表示演出でないときは、リーチが形成されない不揃いの停止図柄を決定した時点で（ステップS1327）、当該ステップS1225b（図195参照）の処理を終了する。

【1292】

以下、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aによるこうした各種処理（ステップS1210～S1240）が進行されたときに現れる表示演出の一例について説明する。図199は、主制御MPU4100a側から図189に示した演出コマンド「01H」～「04H」のいずれかを受信したときに液晶表示装置1900にて現れる表示演出の一例を示すタイムチャートである。

【1293】

[第1の演出モード、演出コマンド「01H」のときの延長演出パターンについて]

同図199（a）に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当りが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta1をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「01H」に対応付けされている大当り時の表示演出a（例えば、特定のミッションaを成功させることができるか（キャラク

タAが敵を倒すことができるか)否かなど)の内容をもった延長演出パターン of 動的表示が開始される。そして、こうして開始された表示演出aの内容をもった延長演出パターン(演出コマンド「01H」)は、変動時間Ta1の経過によって特別図柄の変動が停止されるタイミングt1が到来した状況にあっても、当該表示演出aを終了させることなく(特定のミッションaを成功も失敗もさせることなく)これを継続させる。

【1294】

また、演出コマンド「01H」のときの延長演出パターン of 動的表示に際しては、装飾図柄の変動も開始させている。ただし上述の通り、この装飾図柄の変動については、特別図柄の変動が停止されるタイミングt1において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させるようにしている。

10

【1295】

この点、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、装飾図柄の確定停止に際しては、変動時間Ta1の時間内に当該装飾図柄を延長時のハズレ停止態様にて仮停止させるようにしている。そして、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているも to で、変動時間Ta1の経過によって同装飾図柄が確定停止されるまでの間に、液晶表示装置1900における表示演出aについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出(例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がることができるか否かなど)を行うようにしている。

【1296】

すなわちこの場合、図189に示したコマンド「03H」に対応付けされている後述の表示演出a(発展なし、ハズレ)が用意されていることで、タイミングt1を経過した時点においても当該表示演出aが継続されているときにはこれが「発展後の表示演出a(特定のミッションaを成功させるチャンスが残された演出)」として機能することとなる。したがって、この「発展後の表示演出a」が現れているときには、特別図柄の変動が停止された後のオープニング時間OPにあるにもかかわらず、遊技者側からみれば、特別図柄が未だ変動されているものとして把握されうようになる。また、液晶表示装置1900における装飾図柄についても、確定停止された後の状況にあるにもかかわらず、仮停止の状態が維持されているものとして把握されうようになり、ひいては上述の延長時のハズレ停止態様が覆されるかたちで大当りに当選されていることが示されるチャンスが未だ残っているように見せることができるようになる。

20

30

【1297】

ただしこの際、表示演出aの内容をもった延長演出パターン(演出コマンド「01H」)については、当該液晶表示装置1900のうちの大きな表示領域(表示領域の中央や全体)にて行うようにした上で、装飾図柄の変動表示については、こうした表示演出aに対して当該液晶表示装置1900のうちの小さな表示領域(表示領域の端部分などの注目され難い箇所)においてのみ行われるようにすることが、装飾図柄の動きに注目させることなく、表示演出aにおける特定のミッションaを成功させることができるか否かによって大当り抽選の結果を遊技者に把握させる(キャラクタによる結果表示を行う)ようにする上でより望ましい。

【1298】

40

すなわち、演出コマンド「01H」に対応付けされている表示演出a(大当り)の内容をもった延長演出パターンでは、特別図柄の変動が停止された後のオープニング時間OPにおいては、実際のところは装飾図柄が確定停止されているにもかかわらず、仮停止時における継続期待演出に成功した(例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がった)このような期待感が持たされているも to で、「発展後の表示演出a」が現れることとなる。この「発展後の表示演出a」では、主制御MPU4100a側のオープニング時間OPの終了タイミングt2までの時間を利用して、例えばキャラクタAが再び敵に立ち向かう様子が映し出されるなど、特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出が行われる。

【1299】

50

ただし後述するが、主制御MPU4100a側のオープニング時間OPにおけるこうした「発展後の表示演出a（特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出）」は、図189に示したコマンド「02H」に対応付けされている表示演出a（小当り）の内容をもった延長演出パターンにおいても行われる。そして上述の通り、第1の演出モードにあるときは小当りが搭載されているパチンコ機1であることを気付かれ難くするべく、表示演出a（小当り）においては、大当りの落選であることが示されてから比較的早く次変動（特別図柄の保留消化）に移行させるようにすることがより望ましい。

【1300】

そこで、演出コマンド「01H」に対応付けされている表示演出a（大当り）の内容をもった延長演出パターンでは、オープニング演出OPの終了タイミングt2が到来するまでの間には、特定のミッションaに成功した様子（キャラクタAが敵を倒す）は示されることなく、特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出（キャラクタAが敵に攻撃を仕掛けて、これが成功するか否かといった演出）が現れるようにしている。これにより、オープニング演出OPの終了タイミングt2以降に特定のミッションaに成功した様子が示されるかたちで大当り明示演出aが現れるようになり、当該演出コマンド「01H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容aをもった演出パターンのうちの当り演出パターン」として機能するようになる。なお、大当り遊技中における演出の詳細については後述するが、遊技者は、こうした大当り明示演出aが現れているもとで大入賞口2103に対して遊技球を打ち出すこととなる。

【1301】

[第1の演出モード、演出コマンド「02H」のときの延長演出パターンについて]

これに対し、同図199（b）に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて小当りが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta2（ここでは、変動時間Ta1と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「02H」に対応付けされている小当り時の表示演出a（例えば、特定のミッションaを成功させることができるか（キャラクタAが敵を倒すことができるか）否かなど）の内容をもった延長演出パターンの動的表示が開始される。そして、こうして開始された表示演出aの内容をもった延長演出パターン（演出コマンド「02H」）も、演出コマンド「01H」に対応付けされている延長演出パターン（図199（a）参照）のときと同様、変動時間Ta2の経過によって特別図柄の変動が停止されるタイミングt1が到来した状況にあっても、当該表示演出aを終了させることなく（特定のミッションaを成功も失敗もさせることなく）これを継続させる。

【1302】

また、演出コマンド「02H」に対応付けされている表示演出a（小当り）の内容をもった延長演出パターンの動的表示に際しても、装飾図柄の変動は開始させている。また、この装飾図柄の変動について、特別図柄の変動が停止されるタイミングt1において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させる点も、演出コマンド「01H」に対応付けされている延長演出パターン（図199（a）参照）のときと同様である。なお、この延長時のハズレ停止態様は、大当りのときと小当りのときとで大当りの抽選結果が異なっているにもかかわらず、単一の表示態様が採用されており、その表示態様に区別はされていない。

【1303】

またさらに、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているもとで、変動時間Ta2の経過によって同装飾図柄が確定停止されるまでの間に、液晶表示装置1900における表示演出aについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がることができるか否かなど）を行うようにしている点についても、演出コマンド「01H」に対応付けされている延長演出パターン（図199（a）参照）のときと同様である。

【1304】

すなわち、演出コマンド「02H」に対応付けされている表示演出a（小当り）の内容をもった延長演出パターンにおいても、特別図柄の変動が停止された後のオープニング時間OPにおいては、実際のところは装飾図柄が確定停止されているにもかかわらず、仮停止時における継続期待演出に成功した（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクターAが立ち上がった）このような期待感が持たされているもとの、「発展後の表示演出a」が現れることとなる。そして、この「発展後の表示演出a」では、主制御MPU4100a側のオープニング時間OPの終了タイミングt2までの時間を利用して、例えばキャラクターAが再び敵に立ち向かう様子が映し出されるなど、特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出が行われる。

10

【1305】

またさらに、これも同様、オープニング演出OPの終了タイミングt2が到来するまでの間には、特定のミッションaに成功した様子（キャラクターAが敵を倒す）は示されることなく、特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出（キャラクターAが敵に攻撃を仕掛けて、これが成功するか否かといった演出）が現れる。ただし、演出コマンド「02H」に対応付けされている表示演出a（小当り）の内容をもった延長演出パターンでは、オープニング演出OPの終了タイミングt2以降、演出コマンド「02H」のときの小開放当り遊技（小当り遊技）における大入賞口2103の開放にかかる制御の終了タイミングt3までの間、特定のミッションaに失敗した様子が示されるかたちでハズレ明示演出aが現れることとなる。これにより、当該演出コマンド「02H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容aをもった演出パターンのうちのハズレ演出パターン」として機能するようになる。

20

【1306】

このハズレ明示演出aでは、例えば、キャラクターAによる攻撃がかわされて敵が逃亡してしまうとともに、その後、キャラクターAが悔しがる様子を映し出すなど、大当りの落選演出として行われる。

【1307】

このような演出コマンド「01H」、「02H」に対応付けされている延長演出パターンによれば、特別図柄の始動タイミングt0から大入賞口2103の開放終了タイミングt3までの時間が、大当りの当落にかかる1つの演出として機能することとなることから、こうした演出に遊技者の注視先を向けることができるようになり、ハズレ明示演出aが行われているときにおける大入賞口2103の開放、ひいては小当りが搭載されているパチンコ機1であることを気付かせ難くすることができるようになる。

30

【1308】

なお、こうした作用効果を得る上では、大入賞口2103が開放していることを遊技者が確認しても何らの情報も得られないようにしておく（同開放を確認する理由になりうる事象を排除した構成にしておく）ことが重要である。例えば、小開放当り遊技（小当り遊技）のときと同一、若しくは近似した開放態様をもって大入賞口2103を開放させる大当り遊技が実行されうるようなパチンコ機1では、同開放を確認することで、その後、条件装置の作動を条件に遊技状態が変更される可能性があることを認識することができるようになる。また、大当りの低い当選確率に見合わない出球が少ない大当りに当選してしまったという、遊技を辞める契機ともなりうる情報を遊技者は得ることができることから、大入賞口2103の開放に注視を向けさせてしまう一因ともなりかねない。

40

【1309】

[第1の演出モード、演出コマンド「03H」のときの表示演出パターンについて]

一方、同図199(c)に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当りと小当りとのいずれにも当選されないハズレ（純ハズレ）が得られたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta3（ここでは、タイミングt0～t1の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置190

50

0においては、演出コマンド「03H」に対応付けされているハズレ時の表示演出a（例えば、特定のミッションaを成功させることができるか（キャラクタAが敵を倒すことができるか）否かなど）の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示が開始される。ただし、こうして開始される表示演出aの内容をもった表示演出パターン（演出コマンド「03H」）は、変動時間Ta3の経過によって特別図柄の変動が停止されるタイミングt1が到来した時点で、当該表示演出aを延長させることなく（特定のミッションaを失敗させるかたちで）これを終了させる。

【1310】

より具体的には、演出コマンド「03H」に対応付けされているハズレ時の表示演出a（発展なし）の内容をもった表示演出パターンの動的表示に際しても、装飾図柄の変動は開始させる。また、この装飾図柄の変動においても、特別図柄の変動が停止されるタイミングt1において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させるにあたり、同装飾図柄を延長時のハズレ停止態様にて仮停止させるようにしている。なお、この延長時のハズレ停止態様については、大当りのときと小当りのときと当該ハズレのときとで単一の表示態様が現れるようにしている。

【1311】

また、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているもとの、変動時間Ta3の経過によって同装飾図柄が確定停止されるまでの間に、液晶表示装置1900における表示演出aについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がるができるか否かなど）を行うようにしている点についても、演出コマンド「01H」、「02H」に対応付けされている延長演出パターン（図199（a）、（b）参照）のときと同様である。

【1312】

ただし、演出コマンド「03H」に対応付けされているハズレ時の表示演出a（発展なし）の内容をもった表示演出パターンにおいては、仮停止時における継続期待演出に失敗し（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がらなかった様子が示され）、特定のミッションに失敗したことが遊技者に把握されるようにしている。このような演出パターンを用意したことで、図199（a）、（b）、（d）に示されるタイミングt1以降も継続される演出パターンを、発展ありの演出パターンとして機能させることができるようになる。

【1313】

〔第1の演出モード、演出コマンド「04H」のときの表示演出パターンについて〕

また一方、同図199（d）に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当りと小当りとのいずれにも当選されないハズレ（純ハズレ）が得られたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta4（ここでは、タイミングt0～t3の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「04H」に対応付けされているハズレ時の表示演出a（例えば、特定のミッションaを成功させることができるか（キャラクタAが敵を倒すことができるか）否かなど）の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示が開始される。ただし、こうして開始される表示演出aの内容をもった表示演出パターン（演出コマンド「03H」）は、非延長の表示演出パターンであるにもかかわらず、演出コマンド「01H」～「03F」のときの特別図柄の変動時間ta1～ta3の経過によってタイミングt1が到来した状況にあっても、当該表示演出aを終了させることなく（特定のミッションaを成功も失敗もさせることなく）これを継続させる。またさらに、表示演出パターン（演出コマンド「04H」）の動的表示に際しては、装飾図柄の変動を開始させるものの、この装飾図柄の変動についても、上記タイミングt1において終了させることなくこれを継続させるものとなっている。

【1314】

すなわち、ハズレ（純ハズレ）の場合、大当りや小当りの場合とは異なり、大入賞口2

10

20

30

40

50

103の開放制御に要する時間はもとより、オープニング時間OPも用意されることなくすぐに次変動に移行されてしまうことから、特別図柄の変動時間に対して表示演出aに要する時間を延長させることは行い難い実情にある。

【1315】

この点、演出コマンド「04H」に対応付けされている表示演出パターン（表示演出a）については、主制御MPU4100aにおいて、小当たり時の変動開始タイミングt0から大入賞口2103の開放終了タイミングt3までの時間を基準としてこれに合わせた長さの変動時間Ta4が選択されたときに採用されるものとして用意している。したがって、この表示演出パターン（表示演出a）では、演出コマンド「01H」～「03H」に対応付けされている表示演出パターン（表示演出a）のときと同様、液晶表示装置1900 10
においては表示演出aの内容をもった演出が現れるものの、タイミングt1において特別図柄が停止されることはない、そもそもより長い時間をもった表示演出となっている。

【1316】

すなわちこの場合、特別図柄と装飾図柄とについてはそれらいずれの変動についても、上記タイミングt1において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させることはないにもかかわらず、それら図柄のうち、装飾図柄については、演出コマンド「01H」～「03H」に対応付けされている表示演出パターンのときと同様、変動時間Ta4に対しては単なる中途段階でしかないタイミングt1が経過する前の段階にて延長時のハズレ停止態様にて仮停止させる。そして、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているもとの、タイミングt1が到来するまでの間に、液晶表示装置1900 20
における表示演出aについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がることができるか否かなど）を行うこととなる。なお、この延長時のハズレ停止態様は、大当たりのときと小当たりのときと当該ハズレ（純ハズレ）のときとで大当たりの抽選結果も変動時間も異なっているにもかかわらず、単一の表示態様が採用されており、その表示態様に区別はされていない。

【1317】

そして、こうして装飾図柄が仮停止されているもとの継続期待演出に成功した（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタAが立ち上がった）このような期待感が持たされているもとの、「発展後の表示演出a」が現れることとなる。ただしこの後、仮停止されている装飾図柄が再び変動状態に戻されることはなく、演出コマンド「01H」～ 30
「03H」に対応付けされている表示演出パターンのときと同様、表示演出aに対して当該液晶表示装置1900のうちの小さな表示領域（表示領域の端部分などの注目され難い箇所）においてその停止状態（「01H」～「03H」のときは確定停止、「04H」のときは仮停止）がタイミングt2まで維持されることとなる。

【1318】

この「発展後の表示演出a」では、変動時間Ta4の時間内にて例えばキャラクタAが再び敵に立ち向かう様子が映し出されるなど、特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出が行われる。ただし、演出コマンド「01H」～「03H」に対応付けされている表示演出パターンのときと同様、上記タイミングt2が到来するまでの間には、特定のミッションaに成功した様子（キャラクタAが敵を倒す）は示されること 40
なく、特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出（キャラクタAが敵に攻撃を仕掛けて、これが成功するか否かといった演出）のみが現れるようにしている。

【1319】

そして、タイミングt2以降、演出コマンド「02H」のときの小開放当り遊技（小当り遊技）における大入賞口2103の開放にかかる制御の終了タイミングt3までの間、特定のミッションaに失敗した様子が示されるかたちでハズレ明示演出aが現れることとなる。このハズレ明示演出aでは、演出コマンド「02H」のときと同様、例えば、キャラクタAによる攻撃がかわされて敵が逃亡してしまうとともに、その後、キャラクタAが悔しが 50
る様子を映し出すなど、大当たりの落選演出として行われる。これにより、当該演出

コマンド「04H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容aをもった演出パターンのうちのハズレ演出パターン」として機能するようになる。

【1320】

このように、第1の演出モードにおいては、大当たり抽選の結果がハズレであることに基
づいて、液晶表示装置1900において特定の演出内容（表示演出a）が現れる特定のハ
ズレ演出パターン（演出コマンド「04H」）にかかる表示制御を行うときは、主制御M
PU4100a側にて特定の変動時間（変動時間Ta4）が決定されたときに、該決定され
た特定の 변동時間（変動時間Ta4）内にて特定の演出内容（表示演出a）が現れるか
たちで特定のハズレ演出パターンにかかる表示制御を行うようにしている。それにもか
かわらず、大当たり抽選の結果が当りであることに基づいて、液晶表示装置1900におい
て特定の演出内容（表示演出a）が現れる、上記特定のハズレ演出パターン（演出コマ
ンド「04H」）に対応付けされている特定の当り演出パターン（演出コマンド「01H」）
にかかる表示制御を行うときは、主制御MPU4100a側にて上記特定の変動時間（変
動時間Ta4）よりも短い変動時間（変動時間Ta1）が決定されたときに、該決定され
た短い変動時間（変動時間Ta1）のみならず、少なくとも所定のインターバル期間（オ
ープニング期間OP）を加えたより長い時間を演出時間として設定し、この演出時間内
にて特定の演出内容（表示演出a）が現れるかたちで特定の当り演出パターンにかかる表示
制御を行うようにした。

10

【1321】

このような演出手法によれば、特別図柄の停止後の所定のインターバル期間においても
、液晶表示装置1900においては当りが当選されているか否かについての当落演出が行
われるようになることから、当該当落演出が終了したときには無駄に長いオープニング演
出を経るようなことなくすぐに大当たり遊技が開始されるようになり、テンポのよい遊技進
行を実現することができるようになる。また、こうした特定の演出内容（表示演出a）の
表示演出パターンが現れたときには、その途中段階にて特別図柄が停止されるか否かとい
った点にも注目すべき演出要素が加わるようになり、同停止が確認されたときには、大入
賞口2103の開放による賞球獲得の機会が付与されることが把握可能とされることで、
遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

20

【1322】

また、演出コマンド「01H」、「02H」のときの延長演出パターンに対し、演出コ
マンド「04H」のときの当該表示演出パターンを用意するようにしたことで、「発展後
の表示演出a」が現れたときの大当たり期待度を、大当たりと小当たりとの出現比率に制約され
た範囲内で設定せざるを得なくなってしまうようなことが回避されるようになり、小当たり
が搭載されていることを認識し難くするこのような演出体系のもとであっても、図189
に示されるようなより自由度の高い演出設計を行うことができるようになる。

30

【1323】

また、演出コマンド「04H」のときの当該表示演出パターンでは、タイミングt1以
降も特別図柄は変動していることから、遊技者に特別図柄の変動状態が確認された場合で
あっても何ら問題はない。そして、このような非延長の演出パターンを、上記延長演出パ
ターンに対して混在させるかたちで用意したことで、延長演出パターンにおける特別図柄
の停止状態が確認された場合であっても、遊技者に対して見間違いかもしれない意識付け
を促すことができるようになる。

40

【1324】

また、演出コマンド「04H」のときの当該表示演出パターンでは、ハズレ明示演出a
が行われているときに大入賞口2103は開放されないことから、遊技者に大入賞口21
03が確認された場合であっても何ら問題はない。そして、このような非開放のハズレ明
示演出aを、上記演出コマンド「02H」のときのハズレ明示演出aに対して混在させる
かたちで用意したことで、ハズレ明示演出aにおける大入賞口2103の開放が確認され
た場合であっても、遊技者に対して見間違いかもしれない意識付けを促すことができ
るようになる。

50

【1325】

なお、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、演出コマンド「01H」、「02H」、「04H」のときの表示演出パターンにおいては、タイミングt2が到来するまでの間には、特定のミッションaに成功したか否か（キャラクタAが敵を倒すか否か）は示されることがないようにしたが、タイミングt2の到来に先立って、特定のミッションaに成功したか否か（キャラクタAが敵を倒すか否か）が示されるようにしてもよい。すなわちこの場合、同結果表示が現れて以降、大当たり明示演出若しくはハズレ明示演出が行われることとなるが、このような演出手法であっても、小当たり時の表示演出aにおいては、小当たり時のオープニング演出OPの大部分が表示演出aに用いられることはもとより、その後、キャラクタAが悔しがる様子を映し出すなど、大当たりの落選演出が現れることで、大当たりの落選演出が行われてから比較的早く次変動（特別図柄の保留消化）に移行させるようにすることはできる。なおこの場合は、大当たり遊技の開始時に大入賞口2103に対する遊技球の打ち込みの初動の遅延可能性を抑制することができる点で遊技者にはより有利であるといえる。

10

【1326】

ところで、このような表示演出は、第1の演出モードにおいて、主制御MPU4100a側から図189に示した演出コマンド「01H」～「04H」のいずれかが受信されたときに現れることは上述した通りである。そして、遊技者は、第1の演出モードにおけるこのような遊技性（演出性）を実現する上で特に必要とされていない小当たりの存在を意識することなく、大当たりの当選確率をもって大当たりが当選されるか否かについての遊技を楽しむこととなる。

20

【1327】

ただし、主制御MPU4100a側から図189に示した演出コマンド「01H」～「04H」のいずれかが受信された場合であっても、第2の演出モードに設定されているときは、主制御MPU4100a側からの当該演出コマンド「01H」～「04H」これ自体の内容はもとより、通常外部不利遊技状態であることに何らの変化も生じていないにもかかわらず、小当たりの当選による大入賞口2103の開放を前提とした演出内容の表示演出パターンを一転して積極的に採用することで、第1の演出モードにあるときと比較して、大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会頻度が大幅に増大されたかのような遊技性（演出性）を実現するようにしている。

30

【1328】

[第2の演出モード、演出コマンド「01H」のときの表示演出パターンについて]

すなわち、同図199(a)に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta1をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「01H」に対応付けされている大当たり時の表示演出a'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示と、装飾図柄の変動とをそれぞれ開始させる。

【1329】

ただし、この第2の演出モードにおける表示演出a'は、第1の演出モードにおける表示演出aとはその内容が異なっており、例えば、特定のミッションa'を成功させることができるか（この実施の形態では、装飾図柄を、大入賞口2103の開放確定であることが把握可能となるボーナスチャレンジ停止図柄にて停止表示させることができるか）否かなどの content をもった表示演出パターン（チャレンジボーナス演出パターン）として用意されている。したがって、装飾図柄の変動表示としても、当該液晶表示装置1900の表示領域の全体にわたって（少なくとも表示領域の中央部分など、注目され易い箇所において）行われるようにしている。このように、第2の演出モードにおいては、装飾図柄の動きに注目させ、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる停止表示態様をもって装飾図柄を停止表示させることができるか否かによって大当たり抽選の結果を遊技者に把握させるようにしている。

40

50

【1330】

この点、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、第1の演出モードと第2の演出モードとで、装飾図柄の表示形態についてもこれを異ならしめるようにしている。例えば、第1の演出モードにおける装飾図柄は数字を主体とした比較的小さな図柄画像であるのに対し、第2の演出モードにおける装飾図柄はキャラクタを主体とした比較的大きな図柄画像として表示されるなど、第2の演出モードにおいては装飾図柄がより注目され易い表示形態として設定されている。

【1331】

そして、演出コマンド「01H」のときの非延長の表示演出パターンでは、タイミングt1が到来するまでの変動時間Ta1において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出a'が現れるとともに、特別図柄の変動が停止されるタイミングt1においては、大入賞口2103の開放により賞球獲得が可能とされることが遊技者に把握可能とされるようにボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなるこれにより、当該演出コマンド「01H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容a'をもった演出パターンのうちの当り演出パターン」として機能するようになる。

10

【1332】

また、こうして装飾図柄がボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって確定停止されたとき、液晶表示装置1900においては、オープニング時間OPを利用して、大入賞口2103が開放されることによる賞球獲得の機会が付与されることがボーナスチャレンジ停止図柄の出現によって遊技者に把握可能とされているもとの、大入賞口2103の開放によって遊技者が獲得可能とされる賞球数がどの程度のものであるかについてのチャレンジボーナス演出a'が行われる。

20

【1333】

ここで、このチャレンジボーナス演出としては、例えば、「所定の操作手段に対する複数回の操作によって段階性のあるミッションをどの程度のレベルで達成させることができたか」などといったミッション性のある操作系演出などとして行うようにするほか、「所定の操作手段が1回操作されたときに出球量に対する期待度の異なる複数の表示画像のうちのいずれが出現するか」などといった操作手段に対する操作に緊張感を持たせた操作系演出などとして行うようにすることが望ましい。なおこの場合、所定の操作手段が操作されなかったときには、オープニング時間OPにおいて何らの情報も得られることなく当該チャレンジボーナス演出は終了することとなる。また、チャレンジボーナス演出において得られる演出結果には、大入賞口2103の開放がいずれの開放態様（長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターン）をもって行われるかについての確定情報が得られる演出パターンを含ませるべくようにしてもよい。

30

【1334】

そして、オープニング時間OPの終了タイミングt2が到来すると、大入賞口2103の開放に際し、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われることや、いずれの開放態様（長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターン）をもって大入賞口2103が開放されるかなどが示される開放中演出が行われる。このような開放中演出によって、遊技者は、大当たり遊技はもとより、小開放当り遊技（小当り遊技）のときにも大入賞口2103に対して遊技球を打ち出すこととなり、これによって第1の演出モードにあるときと比較して、大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会頻度が大幅に増大されたかのような遊技性（演出性）が実現されるようになる。なお、大当たり遊技中における演出の詳細については後述する。

40

【1335】

[第2の演出モード、演出コマンド「02H」のときの表示演出パターンについて]

これに対し、同図199(b)に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて小当たりが当選されたことに基づいて、図1

50

89に示した変動時間T a 2（ここでは、タイミングt 0～t 1の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt 0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「02H」に対応付けされている小当り時の表示演出a'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示と、装飾図柄の変動とをそれぞれ開始させる。

【1336】

そして、こうして開始された表示演出a'の内容をもった非延長の表示演出パターン（演出コマンド「02H」）も、タイミングt 1が到来するまでの変動時間T a 2において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出a'が現れるとともに、特別図柄の変動が停止されるタイミングt 1においては、大入賞口2103の開放により賞球獲得が可能とされることが遊技者に把握可能とされるようにボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなる。これにより、当該演出コマンド「02H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容a'をもった演出パターンのうちの当り演出パターン」として機能するようになる。

10

【1337】

また、こうして装飾図柄がボーナスチャレンジ停止図柄の現れる停止表示態様をもって確定停止されたとき、液晶表示装置1900においては、オープニング時間OPを利用して、大入賞口2103が開放されることによる賞球獲得の機会が付与されることがボーナスチャレンジ停止図柄の出現によって遊技者に把握可能とされているもとの、大入賞口2103の開放によって遊技者が獲得可能とされる賞球数がどの程度のものであるかについてのチャレンジボーナス演出a'が行われる点についても、演出コマンド「01H」のときの表示演出パターンの場合と同様である。

20

【1338】

すなわち、第2の演出モードにあるときの表示演出パターンでは、大当たりと小当たりとについてはいずれも大入賞口2103を開放させる当りであるとして同様に扱っており、装飾図柄の変動が開始されるタイミングt 0からチャレンジボーナス演出が行われるまでの演出内容では区別されておらず、ボーナスチャレンジ停止図柄及びチャレンジボーナス演出の出現によって、大入賞口2103の開放が確定されている状態にあることが示されているのみである。

30

【1339】

ただし、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当たりの当選に応じた大当たり遊技においては、長時間開閉パターンと中時間開閉パターンとのいずれかの開放態様が採用されるのに対し、小当たりの当選に応じた小開放当り遊技（小当たり遊技）においては、大当たり遊技のときには採用され得ない小時間開閉パターンの開放態様のみが採用されうる。したがって、チャレンジボーナス演出がミッション性のある操作系演出などとして行われるときには、大当たりのときよりも、小当たりのときのほうが各ミッションの達成が困難とされるかたちで所定の操作手段に対する操作に応じた演出抽選が行われることとなる。また、チャレンジボーナス演出が「所定の操作手段が1回操作されたときに出球量に対する期待度の異なる複数の表示画像のうちのいずれが出現するか」などといった操作系演出として行われるときには、大当たりのときよりも、小当たりのときのほうが出球量に対する期待度の高い表示画像が出現し難くなるかたちで所定の操作手段に対する操作に応じた演出抽選が行われることとなる。

40

【1340】

そして、こうしたチャレンジボーナス演出が行われることによりオープニング時間OPの終了タイミングt 2が到来すると、演出コマンド「02H」のときの当該表示演出パターンにおいても、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われていることや、いずれの開放態様（長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターン）をもって大入賞口2103が開放されているかなどが示される開放中演出が行われることとなり、こ

50

れによって第1の演出モードにあるときと比較して、大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会頻度が大幅に増大されたかのような遊技性（演出性）が実現されるようになる。なお、長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターンのうち、小時間開閉パターンが採用されているときには開放中演出が比較的短い時間にて終了してしまうことに鑑み、大当たりA～Eと小当たりとのうち、小当たりが当選されているか否かについては、開放中演出に先立って、オープニング時間OPにおけるチャレンジボーナス演出において大当たりの当選時には現れない特定画像を表示させることにより遊技者が把握可能とされるようにしてもよい。

【1341】

このように、演出コマンド「02H」のときの表示演出パターンについては、1つの演出コマンドに基づく表示演出パターンでありながらも、

- ・小当たりを賞球獲得の機会が付与されないノーチャンスのハズレとして（純ハズレ時の演出パターン（演出コマンド「04H」）と同様に）扱われる第1の演出モード時の延長演出パターン、及び

- ・小当たりを賞球獲得の機会が付与されるハイチャンスの当りとして（大当たり時の演出パターン（演出コマンド「01H」）と同様に）扱われる第2の演出モード時の非延長の表示演出パターン（チャレンジボーナス演出パターン）

のいずれかとして選択的に実行されるものである。すなわちこの場合、当落にかかる演出情報が周辺制御MPU4140a側にて適宜に逆転されることとなり、これによって主制御MPU4100a側でのロジックを逐一変更しなくても演出内容が大きく異なる多種多様の演出を実現させることができるようになる。

【1342】

また、さらに言えば、小開放当たり遊技（小当たり遊技）とは、特典として少量の賞球（本実施形態では、40～50個程度）しか実質的に遊技者に獲得可能とされないばかりか、小開放当たり遊技（小当たり遊技）が行われる前よりも遊技者にとって有利な遊技状態に移行されることもないものであることから、開閉部材2106が動作するにもかかわらず遊技興趣が低下しかねない点でその遊技設定上での扱いに注意を要するものといえる。したがって、従来は、小当たりを搭載するにあたっては、小開放当たり遊技（小当たり遊技）と同じような挙動をもって大当たり遊技が行われるとともにその後には有利な遊技状態に移行させるように機能する特定の当選種をまずは用意しておき、小開放当たり遊技（小当たり遊技）が行われる状況にあっては、当該特定の当選種の当選に応じた大当たり遊技である可能性を遊技者に意識付けさせることで、小開放当たり遊技（小当たり遊技）が行われるときの遊技興趣の維持を図るようにすることが大前提とされていた。ただし、このような従来の遊技機であっても、特定の当選種に当選された場合は、通常遊技状態においては極めて低く設定される大当たりの当選確率のもとでようやく大当たり当選されたにもかかわらず、この低い確率に見合った分の賞球が獲得可能とされないことによる遊技興趣の低下（大当たり確率と大当たりの実質確率とのズレによる遊技興趣の低下）が避けられないものとなっていた。

【1343】

この点、この実施の形態にかかるパチンコ機1とは、小当たりを搭載するにあたって、小開放当たり遊技（小当たり遊技）と同じような挙動をもって大当たり遊技が行われるとともにその後には有利な遊技状態に移行させるように機能する特定の当選種が用意されない点で、小開放当たり遊技（小当たり遊技）が行われるときの遊技興趣の低下の抑制を図るべく、技術思想が従来の遊技機とはそもそも大きく異なるものとなっている。

【1344】

すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、小当たりを搭載するにあたって、遊技者によって獲得可能とされる賞球量の異なる複数種の大当たり遊技が実行されうるように大当たりの当選種別（大当たりA、大当たりB～E）を用意することとしている。そして、大入賞口2103の開放に際しては、まず、大当たり抽選において大入賞口2103の開放が確定される抽選結果（多量の出玉獲得が期待される大当たりA、中量の出玉獲得が期待される大当たりB～E、少量の出玉獲得が期待される小当たり）が得られたか否かについての表示

演出が行われるようにしている（当りの種別にかかわらずチャレンジボーナス演出パターンが現れるようにしている）。そしてこの結果、同抽選結果が得られていることが遊技者に把握可能とされているもとで、あとはどれだけの出玉を上積みさせることができるか（少量の出玉獲得から、中量、若しくは多量の出玉獲得まで上積みさせることができるか）についてのチャレンジボーナス演出がさらに行われるようにしている。

【1345】

またさらに、賞球数の上積みがあったときには、遊技者に有利な遊技状態（確率変動機能や時短機能が作動する遊技状態）への変更が行われる可能性も生じる。この点、この実施の形態では、どれだけの出玉が上積みされるかによって（多量の出玉獲得が期待される大当たりA、若しくは中量の出玉獲得が期待される大当たりB～E）、確率変動機能の作動に対する期待度（確率変動機能の作動する遊技状態への移行確率）を異ならせるようにしている。すなわちこの場合、大入賞口2103の開放が終了した後に確率変動機能の作動する遊技状態への変更が行われる確率がそれぞれ異なるように複数種類用意されている動作態様のいずれが現れるかについてのチャレンジボーナス演出として機能するようになる。したがって、このようなチャレンジボーナス演出においては、条件装置の作動を伴う当りの当選確率「 $1/400$ 」に対し、条件装置の作動を伴わない当りの当選確率「 $3/400$ 」を加えたより高い確率「 $1/100$ 」をもって、遊技者に対して賞球が払い出されうること（換言すれば、開閉部材2106が動作すること）のみならず、遊技者に有利な遊技状態に移行されうることをも意識付けさせることができるようになる。

【1346】

なお、この実施の形態では、多量の出玉獲得が可能とされるまで上積みされたときの確率変動機能の作動に対する期待度（大当たりAのときの確変期待度）は100%であり、少なくとも中量の出玉獲得が可能とされるまで上積みされたときの確率変動機能の作動に対する期待度（大当たりA～Eのときの確変期待度）は82%であり、中量の出玉獲得が可能とされるまで上積みされたときの確率変動機能の作動に対する期待度（大当たりB～Eのときの確変期待度）は61.7%であり、獲得可能とされる出玉数の期待値の多い状況にあるときほど、確変期待度も高くなるようになっている。

【1347】

しかも、このようなチャレンジボーナス演出によれば、少量の出玉が獲得可能とされることがデフォルトの演出状態として位置付けされていることから、大当たりの当選に応じた多量の出玉獲得があるか否かが基本遊技（基本演出）とされる従来の遊技機とは異なり、少量の出玉が獲得可能とされる小開放当り遊技（小当り遊技）が行われる場合であっても、デフォルトの演出状態に即したかたちで大入賞口2103が開放されたただけであることから、遊技興趣の低下は抑制されるようになる。またさらに、第2の演出モードにあるときには、少量の出玉が獲得可能とされることがデフォルトの演出状態として位置付けされている分だけ、その当り演出の出現確率（チャレンジボーナスへの突入確率）としてもより高い確率（大当たりの当選確率に、小当たりの当選確率が加算されたより高い確率）に設定されており、これによって低い確率に見合った分の賞球が獲得可能とされないことによって遊技興趣が低下してしまうようなことも回避されている。

【1348】

そして、このような遊技・演出性を実現しているチャレンジボーナス演出パターンが第2の演出モードにおいて持たせられるべく、第1の演出モードにおいても、小当りにかかる抽選が行われることはもとより、小当たりの当選時には、大当たりの当選時における特別図柄の変動時間Ta1～Td1を基準としてこれに合わせた長さの変動時間Ta2～Td2が選択されうようになっている。ただし、第1の演出モードでは、本来、小当りは必要なく、大当たり確率に基づいて大当たり当選されたか否かについての表示演出が基本的に行われるようになっている。したがって、第1の演出モードにおいては、小当りが搭載されているパチンコ機であることが遊技者に気付かれ難い表示演出を実現することが好都合であるが、液晶表示装置1900において特別図柄の変動停止時に大当たり抽選の結果が現

れる演出手法を単純に採用した場合には、特別図柄の停止後、小開放当り遊技（小当り遊技）の実行に際してのオープニング期間やその後の大入賞口 2 1 0 3 の開放期間の存在が目立ってしまい、遊技興趣が低下しかねない。

【1 3 4 9】

この点、この実施の形態にかかるパチンコ機 1 では、上述の通り、第 1 の演出モードにおいては、確定停止コマンドに対応したフラグがセットされるタイミング t 1（特別図柄の変動終了時）にあっても、液晶表示装置 1 9 0 0 における表示演出を終了させることはなくこれを継続させる。また、大入賞口 2 1 0 3 が開放されるまでのオープニング期間への突入に際しては、タイミング t 1 においてインターバル演出コマンドに対応したフラグがセットされることとなるが、周辺制御 M P U 4 1 4 0 a は、大入賞口 2 1 0 3 が開放されることが示されるインターバル演出に切り替えることなく同コマンドのセットを無視し、液晶表示装置 1 9 0 0 における表示演出を継続させる。そして、大入賞口 2 1 0 3 の開放にかかる制御が開始されるタイミング t 2 にあるときに、大当り開始コマンドや小当り開始コマンドに対応したフラグがセットされていることに基づいて、液晶表示装置 1 9 0 0 における表示演出を、大当り抽選の結果が条件装置の作動を伴う当り（大当り）であるか否かについての当落情報が示される当落明示演出に切り替えるかたちで実行する。

10

【1 3 5 0】

すなわちこの場合、上述の小当り時の演出が大当りの落選時に現れる一演出として位置付けられることはもとより、特別図柄の停止後、小開放当り遊技（小当り遊技）の実行に際してのオープニング期間やその後の大入賞口 2 1 0 3 の開放期間にまでわたって行うようにしたことで、大当りの落選であることが示されてから比較的早く次変動（特別図柄の保留消化）にかかる表示演出に移行させることができるようになる。これにより、いわゆる高期待のハズレ演出であるときと同じような態様で演出が進行することから、条件装置の作動を伴わない当り（小当り）が搭載されているパチンコ機 1 であることが気付かれ難くなり、ひいては小当りの当選に応じて開閉部材 2 1 0 6 が動作することによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。

20

【1 3 5 1】

そして、このような第 1 の演出モードと第 2 の演出モードとが用意されるパチンコ機 1 にあって、特に、この実施の形態にかかる周辺制御 M P U 4 1 4 0 a は、上述の通り、第 1 の演出モードと第 2 の演出モードとのいずれかの演出モードに強制決定されて、該強制決定されている演出モードからの遊技者の操作による変更が許容されないモード強制期間を創出するモード強制制御手段を備えている。そしてこの上で、当該パチンコ機 1 がホールに納品されてからの第 1 の所定期間（例えば、1 ヶ月間）を第 1 の演出モードに強制決定しておき、その第 1 の所定期間が経過してからの第 2 の所定期間（例えば、次の 1 ヶ月間）を第 2 の演出モードに強制決定するように上記モード強制期間の創出にかかる制御を行うようにしている。

30

【1 3 5 2】

このようなモード強制期間によれば、ホール側は、第 1 の所定期間は、上述の如くの延長演出パターンが現れることによって、小当りが搭載されていながらも遊技者に対してはこれを隠匿させつつ、大当りの当選確率「1 / 4 0 0」に基づいて液晶表示装置 1 9 0 0 における表示演出において当り表示を行うことで、大当りの当選確率「1 / 4 0 0」のもとで遊技者に対して賞球が払い出されうる第 1 の遊技仕様のパチンコ機の稼動を開始させることができるようになる（第 1 の新装開店）。また、こうして第 1 の所定期間が経過した後の第 2 の所定期間においては、大入賞口 2 1 0 3 の開放によって賞球獲得が可能とされる当りとして大当りはもとより、小当りもその 1 つの種類として扱われる上述のチャレンジボーナス演出パターンが現れるようにしたことで、第 1 の所定期間においては小当りの存在が気付かれ難くされていることも相まって、大当りの当選確率「1 / 4 0 0」よりも高い確率「1 / 1 0 0」に基づいて、液晶表示装置 1 9 0 0 における表示演出において当り表示が行われるようになる。

40

【1 3 5 3】

50

すなわちこの場合、大当りの当選確率「 $1/400$ 」に小当りの当選確率「 $3/400$ 」を加えたより高い確率「 $1/100$ 」のもとで遊技者に対して賞球が払い出されうる新たな第2の遊技仕様のパチンコ機の稼動を開始させることができるようになる（第2の新装開店）。これにより、本来は1つの遊技仕様しか搭載されていないパチンコ機1でありながら、液晶表示装置1900における演出内容はもとより、出玉獲得にかかる遊技仕様すらも異なる別のパチンコ機が新たに稼動するかのような印象を遊技者に与えることができるようになる。

【1354】

またさらに、このようなモード強制期間によれば、所定の月日（第1の所定期間）が経過していない状態にあり、特定の日時（第2の所定期間）にある旨判断されない限りは、第1の演出モードからの変更制御が許容されないのみならず、複数の演出モードのうちの一部の演出モード（第2の演出モード）は未だ出現されることなく隠匿されたままでの演出制御が行われることとなる。すなわちこの場合、当該パチンコ機1がホールに納品されてから月日が経過するにつれて、それまで隠されていた演出機能が徐々に露わになっていくこととなり、最終的には、露わになった演出機能を遊技者の操作によって選択的に用いることができるようになることから、長い月日にわたって遊技興趣の維持を図ることができるようになる。

【1355】

〔第2の演出モード、演出コマンド「03H」のときの表示演出パターンについて〕

一方、同図199（c）に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりと小当たりとのいずれにも当選されないハズレ（純ハズレ）が得られたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta3（ここでは、タイミングt0～t1の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「03H」に対応付けされているハズレ時の表示演出a'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示と、装飾図柄の変動とをそれぞれ開始させる。

【1356】

そして、こうして開始された表示演出a'の内容をもった非延長の表示演出パターン（演出コマンド「03H」）も、タイミングt1が到来するまでの変動時間Ta3において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出a'が現れる。ただし、特別図柄の変動が停止されるタイミングt1においては、適宜のキャラクタによる奮闘の甲斐なく、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなる（チャレンジボーナス演出パターン）。これにより、当該演出コマンド「03H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容a'をもった演出パターンのうちのハズレ演出パターン」として機能するようになる。

【1357】

このように、演出コマンド「03H」のときの表示演出パターンについては、演出モードにかかわらず「非延長の表示演出パターン」とされている。したがって、同表示演出パターンは、第1の演出モードにあるときは、「延長演出パターン」が採用される大当たり時の表示演出aの内容を持った演出パターン（演出コマンド「01H」）との間での演出時間にズレが生じることから、大当たり時の表示演出aの内容を持った演出パターンに対してのハズレ時の演出パターンとして機能することはできず、表示演出aの内容が発展することなくその中途段階にて終了してしまう中途演出パターンとしてのみ機能することとなることは上述した通りである。

【1358】

これに対し、第2の演出モードにあるときは、演出コマンド「01H」のときの大当たり時の表示演出a'の内容を持った表示演出パターンが「非延長の表示演出パターン（チャ

10

20

30

40

50

レンジボーナス演出パターン)」として現れることから、同演出パターン（演出コマンド「01H」）との間での演出時間にズレが生じることがなく、大当たり時の表示演出a'の内容を持った演出パターン（演出コマンド「01H」）に対してのハズレ時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない演出パターン）として機能することとなる。また上述の通り、第2の演出モードにあるときは、演出コマンド「02H」のときの小当たり時の表示演出a'の内容を持った「非延長の表示演出パターン」も、当たり時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる演出パターン）として現れることから、この演出パターン（演出コマンド「02H」）に対しても、ハズレ時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない演出パターン）として機能することとなる。

10

【1359】

〔第2の演出モード、演出コマンド「04H」のときの表示演出パターンについて〕

また一方、同図199(d)に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりと小当たりとのいずれにも当選されないハズレ（純ハズレ）が得られたことに基づいて、図189に示した変動時間Ta4（ここでは、タイミングt0～t3の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「04H」に対応付けされているハズレ時の表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示が開始される。

20

【1360】

すなわち、演出コマンド「04H」のときの表示演出パターンについては、上記演出コマンド「03H」のときの表示演出パターンが、第1の演出モードにあるときに、大当たり時の表示演出aの内容を持った演出パターン（演出コマンド「01H」）に対してのハズレ時の演出パターンとして機能することができないことに鑑み、これ（第1の演出モードにあるときのハズレ時の演出パターン）を補填すべく用意されたものである。したがって、演出コマンド「04H」のときの表示演出パターンは、演出コマンド「03H」のときの表示演出パターンとは逆に、第2の演出モードにあるときに、「非延長の演出パターン」が採用される大当たり時の表示演出a'の内容を持った演出パターン（演出コマンド「01H」）との間での演出時間にズレが生じることとなり、大当たり時の表示演出a'の内容を持った演出パターンに対してのハズレ時の演出パターンとして機能することはできないものとなっている。

30

【1361】

この点、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、図189に示した変動番号「9」のときの変動時間Tc1や、変動番号「10」のときの変動時間Tc2を、変動番号「4」のときの当該変動時間Ta4と同じ長さをもった変動時間として用意することとしている。すなわちこの場合、第2の演出モードにあるときは、演出コマンド「09H」のときの当り時の表示演出c'の内容を持った後述の表示演出パターン（図200(a)参照）が「非延長の表示演出パターン」として現れることから、同演出パターン（演出コマンド「09H」）との間での演出時間にズレが生じることがなくなる。したがって、演出コマンド「04H」のときの表示演出パターンについては、第2の演出モードにあるときは、演出コマンド「04H」に対応付けされているハズレ時の表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示として開始させるようにすることで、大当たり時の表示演出c'の内容を持った演出パターン（演出コマンド「09H」）に対してのハズレ時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない演出パターン）として機能させるようにしている。

40

【1362】

なお、こうして開始された表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターン（演出コマンド「04H」）では、タイミングt3が到来するまでの変動時間Ta4において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出c

50

が現れる。ただし、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3においては、適宜のキャラクタによる奮闘の甲斐なく、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなる。

【1363】

このように、演出コマンド「04H」のときの表示演出パターンについては、特定のハズレ変動時間Ta4が選択されているときに現れるものであるが、主制御MPU4100aからの演出コマンド（変動時間）が異なる2種類の演出内容a、c'の大当たり表示演出パターンに対しての各ハズレ表示演出パターンとして機能しうるものとなっており、それら大当たり表示演出パターンのいずれに対してのハズレ表示演出パターンとして機能するかについては、第1の演出モードと第2の演出モードとのいずれに設定されているかに基づいて選択的に設定されるようになっている。これにより、2つの大当たり時の演出コマンド「01H」、「09H」については、第1の演出モードにあるときと、第2の演出モードにあるときとで、それら大当たり時の演出コマンド「01H」、「09H」の大当たり表示演出パターンに対して用意されるハズレ表示演出パターンの出現確率が変化しうようになる。

10

【1364】

より具体的には、演出コマンド「01H」の大当たり演出パターンについては、第1の演出モードにおいては、ハズレ時の演出コマンド「04H」がそのハズレ演出パターンとして採用されるにもかかわらず、第2の演出モードにおいては、ハズレ時の演出コマンド「04H」がそのハズレ演出パターンとして採用されることはない。したがって、演出コマンド「01H」の大当たり演出パターンについては、第1の演出モードよりも、第2の演出モードのときのほうが演出コマンド「04H」のハズレ演出パターンに対する出現確率が高くなるようになる。また、演出コマンド「09H」の大当たり演出パターンについては、第1の演出モードにおいては、ハズレ時の演出コマンド「04H」がそのハズレ演出パターンとして採用されることはないにもかかわらず、第2の演出モードにおいては、ハズレ時の演出コマンド「04H」がそのハズレ演出パターンとして採用されるようになる。したがって、演出コマンド「09H」の大当たり演出パターンについては、第2の演出モードよりも、第1の演出モードのときのほうが演出コマンド「04H」のハズレ演出パターンに対する出現確率が高くなるようになる。これにより、主制御MPU4100a側でのロジックを逐一変更しなくても、演出モードに応じて期待度の異なる多種多様の表示演出パターンを出現させることができるようになる（図201参照）。

20

30

【1365】

なお、こうした特殊演出を実現することのできる理由としては、1つのハズレ変動時間Ta4に対し、その特別図柄の停止タイミングt3までを演出時間として用いることによって互いの演出の長さを調整した演出コマンド「09H」の大当たり演出パターンと、当該ハズレ変動時間Ta4よりも短い変動時間Ta1でありながらも、少なくとも図柄停止後のオープニング期間をも演出時間として加算して用いることによって互いの演出の長さを調整した演出コマンド「01H」の大当たり演出パターン（第1の演出モード）とが用意されているからにほかならない。すなわち、こうして演出時間の調整された大当たり演出パターンを用意することで、1つのハズレ変動時間Ta4に対し、変動時間Ta1、Tc1の異なる演出コマンド「01H」、「09H」の大当たり演出パターンを対応付け可能とし、このハズレ変動時間Ta4が選択されたときは、周辺制御MPU4140a側にていずれの演出内容a、c'を出現させるかを決定することができるようになる。またさらに、演出時間として加算されるこのようなオープニング期間としても、大入賞口2103を開放させる当り（大当たり、若しくは小当たり）に当選されたときには、その種別にかかわらず一定の長さをもった時間（例えば、8秒）として設定されるようにしていることも、特に小当たり時の演出パターンをも含ませてこうした特殊演出を実現する上で重要である。

40

【1366】

図200は、主制御MPU4100a側から図189に示した演出コマンド「09H」～「11H」のいずれかを受信したときに液晶表示装置1900にて現れる表示演出の一

50

例を示すタイムチャートである。

【1367】

[第1の演出モード、演出コマンド「09H」のときの延長演出パターンについて]

同図200(a)に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Tc1をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると(タイミングt0)、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「09H」に対応付けされている大当たり時の表示演出c(例えば、特定のミッションcを成功させることができるか(キャラクタCが敵を倒すことができるか)否かなど)の内容をもった延長演出パターンの動的表示が開始される。そして、こうして開始された表示演出cの内容をもった延長演出パターン(演出コマンド「09H」)は、変動時間Tc1の経過によって特別図柄の変動が停止されるタイミングt3が到来した状況にあっても、当該表示演出cを終了させることなく(特定のミッションcを成功も失敗もさせることなく)これを継続させる。

10

【1368】

すなわち上述の通り、図189に示した変動番号「9」のときの変動時間Tc1は、変動番号「4」のときの当該変動時間Ta4と同じ長さをもった変動時間として用意されるものではあるものの、第1の演出モードに設定されているときは、このような「延長演出パターン」が採用されることから、同演出パターン(演出コマンド「04H」)との間での演出時間にズレが生じるものとなっている。したがって、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、第1の演出モードにあるときは、変動番号「4」のときの表示演出パターンとの間で演出的な関連性(大当たり演出パターン、ハズレ演出パターン)は持たせられていない。

20

【1369】

また、演出コマンド「09H」のときの延長演出パターンの動的表示に際しては、装飾図柄の変動も開始させている。ただし、この装飾図柄の変動については、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させるようにしている。

【1370】

この点、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、装飾図柄の確定停止に際しては、変動時間Tc1の時間内に当該装飾図柄を延長時のハズレ停止態様にて仮停止させるようにしている。そして、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているもとの、変動時間Tc1の経過によって同装飾図柄が確定停止されるまでの間に、液晶表示装置1900における表示演出cについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出(例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタCが立ち上がることができるか否かなど)を行うようにしている。

30

【1371】

すなわちこの場合、図189に示したコマンド「11H」に対応付けされている後述の表示演出c(発展なし、ハズレ)が用意されていることで、タイミングt3を経過した時点においても当該表示演出cが継続されているときにはこれが「発展後の表示演出c(特定のミッションcを成功させるチャンスが残された演出)」として機能することとなる。したがって、この「発展後の表示演出c」が現れているときには、特別図柄の変動が停止された後のオープニング時間OPにあるにもかかわらず、遊技者側からみれば、特別図柄が未だ変動されているものとして把握されうようになる。また、液晶表示装置1900における装飾図柄についても、確定停止された後の状況にあるにもかかわらず、仮停止の状態が維持されているものとして把握されうようになり、ひいては上述の延長時のハズレ停止態様が覆されるかたちで大当たりが当選されていることが示されるチャンスが未だ残っているように見せることができるようになる。

40

【1372】

ただしこの際、表示演出cの内容をもった延長演出パターン(演出コマンド「09H」)については、当該液晶表示装置1900のうちの大きな表示領域(表示領域の中央や全

50

体)にて行うようにした上で、装飾図柄の変動表示については、こうした表示演出cに対して当該液晶表示装置1900のうちの小さな表示領域(表示領域の端部分などの注目され難い箇所)においてのみ行われるようにすることが、装飾図柄の動きに注目させることなく、表示演出cにおける特定のミッションcを成功させることができるか否かによって大当たり抽選の結果を遊技者に把握させるようにする上でより望ましい。

【1373】

すなわち、演出コマンド「09H」に対応付けされている表示演出c(大当たり)の内容をもった延長演出パターンでは、特別図柄の変動が停止された後のオープニング時間OPにおいては、実際のところは装飾図柄が確定停止されているにもかかわらず、仮停止時における継続期待演出に成功した(例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタCが立ち上がった)このような期待感が持たされているもとの、「発展後の表示演出c」が現れることとなる。この「発展後の表示演出c」では、主制御MPU4100a側のオープニング時間OPの終了タイミングt4までの時間を利用して、例えばキャラクタCが再び敵に立ち向かう様子が映し出されるなど、特定のミッションcを成功させることができるか否かについての演出が行われる。

10

【1374】

ただし後述するが、主制御MPU4100a側のオープニング時間OPにおけるこうした「発展後の表示演出c(特定のミッションaを成功させることができるか否かについての演出)」は、図189に示したコマンド「10H」に対応付けされている表示演出c(小当たり)の内容をもった延長演出パターンにおいても行われる。そして上述の通り、第1の演出モードにあるときは小当たりが搭載されているパチンコ機1であることを気付かれ難くするべく、表示演出c(小当たり)においては、大当たりの落選であることが示されてから比較的早く次変動(特別図柄の保留消化)に移行させるようにすることがより望ましい。

20

【1375】

そこで、演出コマンド「09H」に対応付けされている表示演出c(大当たり)の内容をもった延長演出パターンでは、オープニング演出OPの終了タイミングt4が到来するまでの間には、特定のミッションcに成功した様子(キャラクタCが敵を倒す)は示されることなく、特定のミッションcを成功させることができるか否かについての演出(キャラクタCが敵に攻撃を仕掛けて、これが成功するか否かといった演出)が現れるようにしている。これにより、オープニング演出OPの終了タイミングt4以降に特定のミッションcに成功した様子が示されるかたちで大当たり明示演出cが現れるようになり、当該演出コマンド「09H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容cをもった演出パターンのうちの当り演出パターン」として機能するようになる。なお、大当たり遊技中における演出の詳細については後述するが、遊技者は、こうした大当たり明示演出cが現れているもとの大入賞口2103に対して遊技球を打ち出すこととなる。

30

【1376】

[第1の演出モード、演出コマンド「10H」のときの延長演出パターンについて]

これに対し、同図200(b)に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて小当たりが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Tc2(ここでは、変動時間Tc1と同じ時間に設定されているものとして説明する)をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると(タイミングt0)、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「10H」に対応付けされている小当たり時の表示演出c(例えば、特定のミッションcを成功させることができるか(キャラクタCが敵を倒すことができるか)否かなど)の内容をもった延長演出パターンの動的表示が開始される。そして、こうして開始された表示演出cの内容をもった延長演出パターン(演出コマンド「10H」)も、演出コマンド「09H」に対応付けされている延長演出パターン(図200(a)参照)のときと同様、変動時間Tc2の経過によって特別図柄の変動が停止されるタイミングt3が到来した状況にあっても、当該表示演出cを終了させることなく(特定のミッションcを成功も失敗もさせることなく)これを継続させる。

40

50

【1377】

また、演出コマンド「10H」に対応付けされている表示演出c（小当り）の内容をもった延長演出パターン of 動的表示に際しても、装飾図柄の変動は開始させている。また、この装飾図柄の変動について、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させる点も、演出コマンド「09H」に対応付けされている延長演出パターン（図200（a）参照）のときと同様である。なお、この延長時のハズレ停止態様が、大当りのときと小当りのときとで大当りの抽選結果が異なっているにもかかわらず、単一の表示態様が採用されており、その表示態様に区別はされていないことは上述した通りである。

【1378】

10

またさらに、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているもとで、変動時間Tc2の経過によって同装飾図柄が確定停止されるまでの間に、液晶表示装置1900における表示演出cについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタCが立ち上がることができるかなど）を行うようにしている点についても、演出コマンド「09H」に対応付けされている延長演出パターン（図200（a）参照）のときと同様である。

【1379】

すなわち、演出コマンド「10H」に対応付けされている表示演出c（小当り）の内容をもった延長演出パターンにおいても、特別図柄の変動が停止された後のオープニング時間OPにおいては、実際のところは装飾図柄が確定停止されているにもかかわらず、仮停止時における継続期待演出に成功した（例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタCが立ち上がった）このような期待感が持たされているもとで、「発展後の表示演出c」が現れることとなる。そして、この「発展後の表示演出c」では、主制御MPU4100a側のオープニング時間OPの終了タイミングt4までの時間を利用して、例えばキャラクタCが再び敵に立ち向かう様子が映し出されるなど、特定のミッションcを成功させることができるか否かについての演出が行われる。

20

【1380】

またさらに、これも同様、オープニング演出OPの終了タイミングt4が到来するまでの間には、特定のミッションcに成功した様子（キャラクタCが敵を倒す）は示されることなく、特定のミッションcを成功させることができるか否かについての演出（キャラクタCが敵に攻撃を仕掛けて、これが成功するか否かといった演出）が現れる。ただし、演出コマンド「10H」に対応付けされている表示演出c（小当り）の内容をもった延長演出パターンでは、オープニング演出OPの終了タイミングt4以降、演出コマンド「10H」のときの小開放当り遊技（小当り遊技）における大入賞口2103の開放にかかる制御の終了タイミングt5までの間、特定のミッションcに失敗した様子が示されるかたちでハズレ明示演出cが現れることとなる。これにより、当該演出コマンド「10H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容cをもった演出パターンのうちのハズレ演出パターン」として機能するようになる。

30

【1381】

このハズレ明示演出cでは、例えば、キャラクタCによる攻撃がかわされて敵が逃亡してしまうとともに、その後、キャラクタCが悔しがる様子を映し出すなど、ハズレ明示演出aとは異なる大当りの落選演出として行われる。

40

【1382】

このような演出コマンド「09H」、「10H」に対応付けされている延長演出パターンによれば、特別図柄の始動タイミングt0から大入賞口2103の開放終了タイミングt5までの時間が、大当りの当落にかかる1つの演出として機能することとなることから、こうした演出に遊技者の注視先を向けることができるようになり、ハズレ明示演出cが行われているときにおける大入賞口2103の開放、ひいては小当りが搭載されているパチンコ機1であることを気付かせ難くすることができるようになる。

【1383】

50

[第1の演出モード、演出コマンド「11H」のときの表示演出パターンについて]

一方、同図200(c)に示されるように、いま、第1の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりと小当たりとのいずれにも当選されないハズレ(純ハズレ)が得られたことに基づいて、図189に示した変動時間Tc3(ここでは、タイミングt0~t3の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する)をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると(タイミングt0)、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「11H」に対応付けされているハズレ時の表示演出c(例えば、特定のミッションcを成功させることができるか(キャラクタCが敵を倒すことができるか)否かなど)の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示が開始される。ただし、こうして開始される表示演出cの内容をもった表示演出パターン(演出コマンド「11H」)は、変動時間Tc3の経過によって特別図柄の変動が停止されるタイミングt3が到来した時点で、当該表示演出cを延長させることなく(特定のミッションcを失敗させるかたちで)これを終了させる。

10

【1384】

より具体的には、演出コマンド「11H」に対応付けされているハズレ時の表示演出c(発展なし)の内容をもった表示演出パターンの動的表示に際しても、装飾図柄の変動は開始させる。また、この装飾図柄の変動においても、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3において延長時のハズレ停止態様をもって確定停止させるにあたり、同装飾図柄を延長時のハズレ停止態様にて仮停止させるようにしている。

20

【1385】

また、こうして装飾図柄が延長時のハズレ停止態様にて仮停止されているもとの、変動時間Ta3の経過によって同装飾図柄が確定停止されるまでの間に、液晶表示装置1900における表示演出cについてはこれが継続されるか否かについての継続期待演出(例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタCが立ち上がることができるか否かなど)を行うようにしている点についても、演出コマンド「09H」、「10H」に対応付けされている延長演出パターン(図200(a)、(b)参照)のときと同様である。

【1386】

ただし、演出コマンド「11H」に対応付けされているハズレ時の表示演出c(発展なし)の内容をもった表示演出パターンにおいては、仮停止時における継続期待演出に失敗し(例えば、敵からの攻撃を受けて倒れているキャラクタCが立ち上がらなかった様子が示され)、特定のミッションに失敗したことが遊技者に把握されるようにしている。このような演出パターンを用意したことで、図200(a)、(b)に示されるタイミングt3以降も継続される演出パターンを、発展ありの演出パターンとして機能させることができるようになる。

30

【1387】

なお、この実施の形態にかかる周辺制御MPU4140aでは、演出コマンド「09H」、「10H」のときの表示演出パターンにおいても、タイミングt4が到来するまでの間には、特定のミッションcに成功したか否か(キャラクタCが敵を倒すか否か)は示されることがないようにしたが、タイミングt4の到来に先立って、特定のミッションcに成功したか否か(キャラクタCが敵を倒すか否か)が示されるようにしてもよい。すなわちこの場合、同結果表示が現れて以降、大当たり明示演出若しくはハズレ明示演出が行われることとなるが、このような演出手法であっても、小当たり時の表示演出cにおいては、小当たり時のオープニング演出OPの大部分が表示演出cに用いられることはもとより、その後、キャラクタCが悔しがる様子を映し出すなど、大当たりの落選演出が現れることで、大当たりの落選演出が行われてから比較的早く次変動(特別図柄の保留消化)に移行させるようにすることはできる。なおこの場合は、大当たり遊技の開始時に大入賞口2103に対する遊技球の打ち込みの初動の遅延可能性を抑制することができる点で遊技者にはより有利であるといえる。

40

【1388】

ところで、このような表示演出は、第1の演出モードにおいて、主制御MPU4100

50

a側から図189に示した演出コマンド「09H」～「11H」のいずれかが受信されたときに現れることは上述した通りである。そして、遊技者は、第1の演出モードにおけるこのような遊技性（演出性）を実現する上で特に必要とされていない小当りの存在を意識することなく、大当りの当選確率をもって大当たりが当選されるか否かについての遊技を楽しむこととなる。

【1389】

ただし、主制御MPU4100a側から図189に示した演出コマンド「09H」～「11H」のいずれかが受信された場合であっても、第2の演出モードに設定されているときは、主制御MPU4100a側からの当該演出コマンド「09H」～「11H」これ自体の内容はもとより、通常外部不利遊技状態であることに何らの変化も生じていないにもかかわらず、小当りの当選による大入賞口2103の開放を前提とした演出内容の表示演出パターンを一転して積極的に採用することで、第1の演出モードにあるときと比較して、大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会頻度が大幅に増大されたかのような遊技性（演出性）を実現するようにしている。

10

【1390】

〔第2の演出モード、演出コマンド「09H」のときの表示演出パターンについて〕

すなわち、同図200(a)に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Tc1をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「01H」に対応付けされている大当たり時の表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示と、装飾図柄の変動とをそれぞれ開始させる。

20

【1391】

ただし、この第2の演出モードにおける表示演出c'は、第1の演出モードにおける表示演出cとはその内容が異なっており、例えば、特定のミッションc'を成功させることができるか（この実施の形態では、装飾図柄を、大入賞口2103の開放確定であることが把握可能となるボーナスチャレンジ停止図柄にて停止表示させることができるか）否かなどの内容をもった表示演出パターン（チャレンジボーナス演出パターン）として用意されている。したがって、装飾図柄の変動表示としても、当該液晶表示装置1900の表示領域の全体にわたって（少なくとも表示領域の中央部分など、注目され易い箇所において）行われるようにしている。このように、第2の演出モードにおいては、装飾図柄の動きに注目させ、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる停止表示態様をもって装飾図柄を停止表示させることができるか否かによって大当たり抽選の結果を遊技者に把握させるようにしている。

30

【1392】

そして、演出コマンド「09H」のときの非延長の表示演出パターン（チャレンジボーナス演出パターン）では、タイミングt3が到来するまでの変動時間Tc1において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出c'が現れるとともに、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3においては、大入賞口2103の開放により賞球獲得の機会が付与されることが遊技者に把握可能とされるように、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなる。これにより、当該演出コマンド「09H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容c'をもった演出パターンのうちの当り演出パターン」として機能するようになる。

40

【1393】

また、こうして装飾図柄がボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって確定停止されたとき、液晶表示装置1900においては、オープニング時間OPを利用して、大入賞口2103が開放されることによる賞球獲得の機会が付与されることがボーナスチャレンジ停止図柄の出現によって遊技者に把握可能とされているもとで、大入賞口2

50

103の開放によって遊技者が獲得可能とされる賞球数がどの程度のものであるかについてのチャレンジボーナス演出c'が行われる。なお後述するが、このチャレンジボーナス演出c'は、上述のチャレンジボーナス演出a'とは期待度が異なっていることから、演出内容としてもこれを互いに異なるものとして行うようにしている。

【1394】

そして、オープニング時間OPの終了タイミングt4が到来すると、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われていることや、いずれの開放態様（長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターン）をもって大入賞口2103が開放されているかなどが示される開放中演出が行われる。このような開放中演出によって、遊技者は、大当り遊技はもとより、小開放当り遊技（小当り遊技）のときにも大入賞口2103に対して遊技球を打ち出すこととなり、これによって第2の演出モードにあるときと比較して、大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会頻度が大幅に増大されたかのような遊技性（演出性）が実現されるようになる。なお、大当り遊技中における演出の詳細については後述する。

10

【1395】

〔第2の演出モード、演出コマンド「10H」のときの表示演出パターンについて〕

これに対し、同図200（b）に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて小当りが当選されたことに基づいて、図189に示した変動時間Tc2（ここでは、タイミングt0～t3の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとする（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「10H」に対応付けされている小当り時の表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示と、装飾図柄の変動とをそれぞれ開始させる。

20

【1396】

そして、こうして開始された表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターン（演出コマンド「10H」）も、タイミングt3が到来するまでの変動時間Tc2において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出c'が現れるとともに、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3においては、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなる。これにより、当該演出コマンド「10H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容c'をもった演出パターンのうちの当り演出パターン」として機能するようになる。

30

【1397】

また、こうして装飾図柄がボーナスチャレンジ停止図柄の現れる停止表示態様をもって確定停止されたとき、液晶表示装置1900においては、オープニング時間OPを利用して、大入賞口2103が開放されることによる賞球獲得の機会が付与されることがボーナスチャレンジ停止図柄の出現によって遊技者に把握可能とされているもとの、大入賞口2103の開放によって遊技者が獲得可能とされる賞球数がどの程度のものであるかについてのチャレンジボーナス演出c'が行われる点についても、演出コマンド「09H」のときの表示演出パターンの場合と同様である。

40

【1398】

すなわち上述の通り、第2の演出モードにあるときの表示演出パターンでは、大当りと小当りとはいずれも大入賞口2103を開放させる当りであるとして同様に扱っており、装飾図柄の変動が開始されるタイミングt0からチャレンジボーナス演出が行われるまでの演出内容では区別されておらず、ボーナスチャレンジ停止図柄及びチャレンジボーナス演出の出現によって、大入賞口2103の開放が確定されている状態にあることが示されているのみである。

【1399】

ただし、これも上述したが、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当りの当選

50

に応じた大当たり遊技においては、長時間開閉パターンと中時間開閉パターンとのいずれかの開放態様が採用されるのに対し、小当たりの当選に応じた小開放当たり遊技（小当たり遊技）においては、大当たり遊技のときには採用され得ない小時間開閉パターンの開放態様のみが採用されうる。したがって、チャレンジボーナス演出がミッション性のある操作系演出などとして行われるときには、大当たりのときよりも、小当たりのときのほうが各ミッションの達成が困難とされるかたちで所定の操作手段に対する操作に応じた演出抽選が行われることとなる。また、チャレンジボーナス演出が「所定の操作手段が1回操作されたときに出球量に対する期待度の異なる複数の表示画像のうちのいずれが出現するか」などといった操作系演出として行われるときには、大当たりのときよりも、小当たりのときのほうが出球量に対する期待度の高い表示画像が出現し難くなるかたちで所定の操作手段に対する操作に応じた演出抽選が行われることとなる。

10

【1400】

そして、こうしたチャレンジボーナス演出c'が行われることによりオープニング時間OPの終了タイミングt4が到来すると、演出コマンド「10H」のときの当該表示演出パターンにおいても、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われていることや、いずれの開放態様（長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターン）をもって大入賞口2103が開放されているかなどが示される開放中演出が行われることとなり、これによって第1の演出モードにあるときと比較して、大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会頻度が大幅に増大されたかのような遊技性（演出性）が実現されるようになる。

20

【1401】

このように、演出コマンド「10H」のときの表示演出パターンについては、1つの演出コマンドに基づく表示演出パターンでありながらも、

- ・小当たりを賞球獲得の機会が付与されないノーチャンスのハズレとして扱われる第1の演出モード時の延長演出パターン、及び
- ・小当たりを賞球獲得の機会が付与されるハイチャンスの当たりとして（大当たり時の演出パターン（演出コマンド「09H」）と同様に）扱われる第2の演出モード時の非延長の表示演出パターン

のいずれかとして選択的に実行されるものである。すなわちこの場合、当落にかかる演出情報が周辺制御MPU4140a側にて適宜に逆転されることとなり、これによって主制御MPU4100a側でのロジックを逐一変更しなくても演出内容が大きく異なる多種多様の演出を実現させることができるようになる。

30

【1402】

[第2の演出モード、演出コマンド「11H」のときの表示演出パターンについて]

一方、同図200(c)に示されるように、いま、第2の演出モードに設定されているときに、主制御MPU4100a側にて大当たりと小当たりとのいずれにも当選されないハズレ（純ハズレ）が得られたことに基づいて、図189に示した変動時間Tc3（ここでは、タイミングt0～t3の時間と同じ時間に設定されているものとして説明する）をもった特別図柄にかかる変動が開始されたとすると（タイミングt0）、液晶表示装置1900においては、演出コマンド「11H」に対応付けされているハズレ時の表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターンの動的表示と、装飾図柄の変動とをそれぞれ開始させる。

40

【1403】

そして、こうして開始された表示演出c'の内容をもった非延長の表示演出パターン（演出コマンド「11H」）も、タイミングt3が到来するまでの変動時間Tc3において、例えば、このような装飾図柄を、ボーナスチャレンジ停止図柄が現れる停止表示態様をもって停止表示させるように適宜のキャラクタが奮闘するなどの内容をもった表示演出c'が現れる。ただし、特別図柄の変動が停止されるタイミングt3においては、適宜のキャラクタによる奮闘の甲斐なく、ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない停止表示態様をもって装飾図柄が確定停止されることとなる（チャレンジボーナス

50

演出パターン)。これにより、当該演出コマンド「1 1 H」に対応付けされている表示演出パターンが「演出内容c'をもった演出パターンのうちのハズレ演出パターン」として機能するようになる。

【1 4 0 4】

このように、演出コマンド「1 1 H」のときの表示演出パターンについては、演出モードにかかわらず「非延長の表示演出パターン」とされている。したがって、同表示演出パターンは、第1の演出モードにあるときは、「延長演出パターン」が採用される大当たり時の表示演出cの内容を持った演出パターン（演出コマンド「0 9 H」）との間での演出時間にズレが生じることから、大当たり時の表示演出cの内容を持った演出パターンに対してのハズレ時の演出パターンとして機能することはできず、表示演出cの内容が発展することなくその中途段階にて終了してしまう中途演出パターンとしてのみ機能することとなることは上述した通りである。

10

【1 4 0 5】

これに対し、第2の演出モードにあるときは、演出コマンド「0 9 H」のときの大当たり時の表示演出c'の内容を持った表示演出パターンが「非延長の表示演出パターン」として現れることから、同演出パターン（演出コマンド「0 9 H」）との間での演出時間にズレが生じることがなく、大当たり時の表示演出c'の内容を持った演出パターン（演出コマンド「0 9 H」）に対してのハズレ時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない演出パターン）として機能することとなる。また上述の通り、第2の演出モードにあるときは、演出コマンド「1 0 H」のときの小当たり時の表示演出c'の内容を持った「非延長の表示演出パターン」も、当り時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れる演出パターン）として現れることから、この演出パターン（演出コマンド「1 0 H」）に対しても、ハズレ時の演出パターン（ボーナスチャレンジ停止図柄が所定の図柄ライン上に現れない演出パターン）として機能することとなる。

20

【1 4 0 6】

このように、演出コマンド「0 9 H」のときの表示演出パターンは、図1 9 9（a）に示した演出コマンド「0 1 H」のときの表示演出パターンに相当しており、演出コマンド「1 0 H」のときの表示演出パターンは、図1 9 9（b）に示した演出コマンド「0 2 H」のときの表示演出パターンに相当しており、演出コマンド「1 1 H」のときの表示演出パターンは、図1 9 9（c）に示した演出コマンド「0 3 H」のときの表示演出パターンに相当しており、相当する演出パターンの間では、互いの演出内容こそ異なるものの、自身に宛がわれた演出シリーズ（演出内容aシリーズ、演出内容cシリーズ）に対しては互いにほぼ同様の役割を持った演出パターンとして機能するものとなっている。

30

【1 4 0 7】

ただし、演出内容cシリーズ（演出コマンド「0 9 H」～「1 1 H」）においては、演出内容aシリーズ（演出コマンド「0 1 H」～「0 4 H」）における演出コマンド「0 4 H」に相当する表示演出パターンは用意されていない。すなわち、演出内容cシリーズにおいても、演出コマンド「0 4 H」に相当する表示演出パターンを用意してしまうと、第1の演出パターンにおいては、演出コマンド「0 9 H」のときの表示演出パターンに対してのハズレ表示演出パターンとしてこれを有効に機能させることができるものの、第2の演出パターンにおいては、演出コマンド「0 9 H」のときの表示演出パターンに対してのハズレ表示演出パターンとして機能させることができないことから、比較的長い時間が持たせられているにもかかわらず、大当たり図柄組み合わせが現れることのないハズレ専用の表示演出パターンとして存在することとなり、これによって遊技興趣が低下しかねないことを懸念したものである。

40

【1 4 0 8】

したがって、第1の演出モードにあるとき、演出コマンド「0 9 H」のときの当り演出パターンに対しては、そのハズレ演出パターンとして、特定の条件が満たされないハズレ（純ハズレ）時の演出パターンが採用されることがなくなり、特定の条件が満たされたと

50

きの演出パターン（演出コマンド「10H」のときの表示演出パターン）のみが、当該ハズレ（純ハズレ）時の演出パターンに代わる唯一の存在として機能するようになる。すなわちこの場合、演出内容cシリーズ（演出コマンド「09H」～「11H」）では、演出内容aシリーズ（演出コマンド「09H」～「11H」）とは異なり、「発展後の表示演出c」が現れたときの大当たり期待度を、大当たりと小当たりとの出現比率に制約された範囲内で設定せざるを得なくなる。しかしながら、演出内容cシリーズ（演出コマンド「09H」～「11H」）の演出内容cについては、演出内容aシリーズ（演出コマンド「01H」～「04H」）の演出内容aよりも長い時間が持たされており、その大当たり期待度としても演出内容aよりも高い期待度の演出として実行されるものとなっている。したがって、「発展後の表示演出c」が現れたときの大当たり期待度については、大当たりと小当たりとの出現比率に制約された範囲内であってもこれを要求されている後述の適正值として設定することは比較的容易となっている。

10

【1409】

また、演出内容aシリーズ（演出コマンド「01H」～「04H」）のうちの演出コマンド「04H」に対応付けされている表示演出パターンについては、第2の演出モードにあるときは、演出内容aシリーズの当り演出パターン（演出コマンド「01H」、「02H」）ではなく、演出内容cシリーズの当り演出パターン（演出コマンド「09H」、「10H」）に対してのハズレ演出パターンとして機能させることで、大当たり図柄組み合わせが現れることのないハズレ専用の表示演出パターンとして存在してしまうことを回避するようにしていることは上述した通りである。したがって、演出内容cシリーズ（演出コマンド「09H」～「11H」）では、第2の演出モードにあるときは、当り演出パターン（演出コマンド「09H」、「10H」）に対して用意されているハズレ演出パターン（演出コマンド「11H」）の比率よりも、演出コマンド「04H」の表示演出パターンの選択確率が加えられた分だけハズレ演出パターンがより高い確率をもって出現するようになっている。

20

【1410】

また、詳細は割愛するが、図189に示した演出内容bシリーズの演出コマンド「05H」、「06H」、「07H」、「08H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターンは、演出内容aシリーズの演出コマンド「01H」、「02H」、「03H」、「04H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターン（図199（a）～（d）参照）と同じ態様をもった表示演出パターンとして設定されている。またさらに、図189に示した演出内容dシリーズの演出コマンド「12H」、「13H」、「14H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターンは、演出内容cシリーズの演出コマンド「09H」、「10H」、「11H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターン（図200（a）～（c）参照）と同じ態様をもった表示演出パターンとして設定されている。すなわち、図189に示した演出内容bシリーズの演出コマンド「05H」、「06H」、「07H」、「08H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターンと、図189に示した演出内容dシリーズの演出コマンド「12H」、「13H」、「14H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターンとの間での演出関係が、演出内容aシリーズの演出コマンド「01H」、「02H」、「03H」、「04H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターン（図199（a）～（d）参照）と、演出内容cシリーズの演出コマンド「09H」、「10H」、「11H」にそれぞれ対応付けされている各表示演出パターン（図200（a）～（c）参照）との間での上述した演出関係となるように設定されている。

30

40

【1411】

図201（a）は、第1の演出モードにあるときの大当たり期待度などを各演出内容シリーズの別にそれぞれ示す表であり、図201（b）は、第2の演出モードにあるときのチャレンジボーナス突入期待度などを各演出内容シリーズの別にそれぞれ示す表である。なお、確率を示す数値については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの数値として示していることから、各要素の確率合計値が100%とならない場合がある。

50

【1412】

このような表示演出パターンにかかる設定態様によれば、第1の演出モードにおいて当り演出が現れる期待度である大当り期待度については、同図201(a)に示されるように、演出内容aの表示演出パターンが出現したときの大当り期待度は「0.5%」であり、演出内容bの表示演出パターンが出現したときの大当り期待度は「1.5%」であり、演出内容cの表示演出パターンが出現したときの大当り期待度は「13.7%」であり、演出内容dの表示演出パターンが出現したときの大当り期待度は「33.1%」である。なお、演出内容eの表示演出パターンが出現したときには大当り期待度が「100%」となることから、表中においてはこれを割愛している。この演出内容eの表示演出パターンでは、演出モードにかかわらず、大当りに当選されていることの確定演出が現れる。

10

【1413】

また、第1の演出モードにあるときに出現しうる各表示演出パターンが発展した段階にあるときの大当り期待度（当り演出が現れる期待度）については、発展後の演出内容aが出現したときの大当り期待度が「1.3%」であり、発展後の演出内容bが出現したときの大当り期待度が「3.7%」であり、発展後の演出内容cが出現したときの大当り期待度が「25%」であり、発展後の演出内容dが出現したときの大当り期待度が「72.7%」である。

【1414】

これに対し、第2の演出モードにおいて当り演出が現れる期待度であるチャレンジボーナス突入期待度については、同図201(b)に示されるように、演出内容a'の表示演出パターンが出現したときのチャレンジボーナス突入期待度は「7.9%」であり、演出内容b'の表示演出パターンが出現したときのチャレンジボーナス突入期待度は「11.8%」であり、演出内容c'の表示演出パターンが出現したときのチャレンジボーナス突入期待度は「15.4%」であり、演出内容d'の表示演出パターンが出現したときのチャレンジボーナス突入期待度は「10%」である。

20

【1415】

すなわち上述の通り、演出内容a～dのうちの演出内容a、bの各表示演出パターンに限っては、延長演出パターンとして設定されている大当り演出パターン（演出コマンド「01H」、演出コマンド「05H」）に対して当該第1の演出モードにあるときにしかハズレ演出パターンとして機能し得ない非延長の表示演出パターン（演出コマンド「04H」、演出コマンド「08H」）を用意することとしている。そしてこの上で、こうして用意された非延長の表示演出パターン（演出コマンド「04H」、演出コマンド「08H」）を、第2の演出モードにおいては、演出内容c'の当り演出パターン（演出コマンド「09H」、演出コマンド「10H」）と、演出内容d'の当り演出パターン（演出コマンド「12H」、演出コマンド「13H」）とに対する各ハズレ演出パターンとしてそれぞれ転用するようにした。

30

【1416】

このような演出コマンド「04H」、「08H」に対応付けされた表示演出パターンによれば、第1の演出モードにあるときには、発展後の演出内容a、bを含めて、当り演出が現れる期待度（大当り期待度）は低くなるものの、演出内容a、bの各表示演出パターンの出現確率は（演出内容c、dの各表示演出パターンに対して）高められるようになり、これによって大当りに対する期待の持てない表示演出パターンばかりが繰り返し行われるようなことを回避させることができるようになる。またさらに、演出内容c、dの各表示演出パターンについては、発展後の演出内容c、dを含めて、出現確率は低くなるものの、演出内容c、dの各表示演出パターンにおいて当り演出が現れる期待度（大当り期待度）は（演出内容a、bの各表示演出パターンに対して）高められるようになり、これによって特定の表示演出パターン（演出内容c、d）が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

40

【1417】

また逆に、このような演出コマンド「04H」、「08H」に対応付けされた表示演出

50

パターンは、第2の演出モードにあるときには、演出内容c、dシリーズの表示演出パターンとして一転して用いられることによって、演出内容c、dシリーズの出現確率がその分だけ高められるようになる（出現確率に対する操作）。これにより、演出内容a～dの間における出現確率や当り演出が現れる期待度の格差を第1の演出モードにあるときよりも縮小させることができるようになり、主制御MPU4100a側でのロジックを逐一変更しなくても演出内容が大きく異なる多種多様の演出を実現させることができるようになる。

【1418】

しかも、第2の演出モードにあるとき、当り演出が現れる期待度（チャレンジボーナス突入期待度）についての演出内容間における格差については、演出コマンド「04H」、
「08H」に対応付けされた表示演出パターンが演出内容c、dシリーズの表示演出パターンとして一転して用いられることのほか、大入賞口2103の開放によって賞球獲得が可能とされる当りとして大当りはもとより、小当りもその1つの種類として扱われることによってさらに縮小させるようにしている（当り演出が現れる期待度の格差を縮小させる操作）。

10

【1419】

このような第2の演出モードにあるときの演出態様によれば、演出内容a'～d'の表示演出パターンは、演出内容a'～d'の種類にかかわらずいずれも比較的出現し易くなる。また、賞球獲得の機会付与が確定されるチャレンジボーナス演出の突入確率（当り演出の実行確率）についても、第1の演出モードにあるときよりも均等化されることとなり（ここでは、演出内容a'～d'の種類の間で±10%の範囲内）、上述の出現確率の格差が埋められたことも相まっていずれの演出内容a'～d'が現れた場合であっても、遊技者は、賞球獲得の機会が付与されることを期待し易くなる。

20

【1420】

この点、第2の演出モードにあるときは、チャレンジボーナス演出に突入（実行）したときの「大入賞口2103がいかなる態様（長時間開閉パターン、中時間開閉パターン、小時間開閉パターン）をもって開放されるか」といった演出に特徴を持たせていることから、演出内容a'～d'の表示演出パターンとしても、いずれかに偏って出現させる場合よりも、いずれも比較的出現し易くするほうが遊技興趣の低下を抑制する上でより望ましい。

30

【1421】

すなわち、図201(b)に示されるように、この実施の形態にかかる演出内容a'～d'の表示演出パターンでは、大、中時間開閉パターンの出現確率については、演出内容a'が最も小さくなっており、演出内容b'、c'、d'の順に次第に大きくなっている。また、小時間開閉パターンの出現確率については、演出内容a'が最も大きくなっており、演出内容b'、c'、d'の順に次第に小さくなっている。したがって、演出内容a'の表示演出パターンが現れた場合には、小時間開閉パターンをもって大入賞口2103が開放される可能性は確かに高いものの、特典として少なくとも少量の賞球（本実施形態では、40～50個程度）は獲得可能とされることが確定されているもとで、長時間開閉パターンや中時間開閉パターンをもって大入賞口2103が開放されることへの期待感のある色合いの演出として楽しむことができるようになる。また、演出内容d'の表示演出パターンが現れた場合には、長時間開閉パターンや中時間開閉パターンをもって大入賞口2103が開放される確率が、小時間開閉パターンをもって大入賞口2103が開放される確率よりも高くなっていることから、特典として少なくとも少量の賞球は獲得可能とされることが確定されているというよりは、むしろ長時間開閉パターンや中時間開閉パターンをもって大入賞口2103が開放されるか否かといった色合いの演出として機能することとなる。そして、演出内容b'、c'の表示演出パターンは、こうした演出内容a'の表示演出パターンと、演出内容d'の表示演出パターンとの間くらいの色合いの演出としてそれぞれ機能することとなるが、演出内容b'の表示演出パターンのほうが、演出内容a'の表示演出パターンの演出の色合いが濃く、演出内容c'の表示演出パターンのほう

40

50

が、演出内容d'の表示演出パターンへの演出の色合いが濃くなっている。したがって、このような演出内容a'～d'の表示演出パターンがいずれも比較的出現し易くなっていることで、遊技者は、様々な色合いの演出を楽しむことができるようになる。

【1422】

またさらに、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、演出内容間における当り演出が現れる期待度の格差を第1の演出モードにあるときよりも縮小させる上述の操作については、当り演出が現れる期待度の大小関係が演出モードに応じて逆転されるかたちで行うこととしている。より具体的には、同図201(a)、(b)に示されるように、第1の演出モードにあるときは、演出内容b、cの期待度がそれぞれ「1.5%」、「13.7%」であり、演出内容dの期待度「33.1%」よりも小さくなっているのに対し、第2の演出モードにあるときは、演出内容b'、c'の期待度がそれぞれ「11.8%」、「15.4%」であり、演出内容d'の期待度「10%」よりも大きくなっている。このような設定態様によっても、主制御MPU4100a側でのロジックを逐一変更しなくても演出内容が大きく異なる多種多様の演出を実現させることができるようになる。

【1423】

ただし、演出内容d'の演出パターンが現れたときは、演出内容b'、c'の演出パターンが現れたときよりも当たり演出（チャレンジボーナス演出）が実行される期待度（確率）は確かに低いものの、チャレンジボーナス演出に突入しさえすれば、演出内容b'、c'の演出パターンのときよりも高い確率で大、中時間開閉パターンをもって大入賞口2103が開放されるようになっており、多量の出玉を獲得し易いものになっている。したがって、演出内容b'、c'の演出パターンと、演出内容d'の演出パターンとについては、遊技者に応じて好みの分かれるところであり、表示演出パターンに応じてこうした様々な色合いが持たせられていることで、遊技興趣の低下が抑制されるようになる。

【1424】

次に、通常外部不利遊技状態にあるときの大当たり抽選の結果に基づいて、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われているときに液晶表示装置1900にて現れる演出例について説明する。

【1425】

図189、図199(a)及び図200(a)に示されるように、この実施の形態にかかるパチンコ機1によれば、第1の演出モードにおいては、大当たりの種類（大当たりA～大当たりE）に応じて演出内容が異なっていることがなく、且つその種類は示されることなく秘匿にされたままで大入賞口2103の開放にかかる制御（ここでは、大当たり遊技にかかる制御）が開始されることとなる。したがって、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、第1の演出モードにおいては、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われているときの期間を利用して、大当たりの種類や当該期間が終了した後の遊技状態などが示される演出を行うこととなる。

【1426】

すなわち上述の通り、通常外部不利遊技状態にあるときの大当たり抽選の結果が大当たりA、Bのいずれかであるときは、大当たり遊技が終了した後、時短機能と確率変動機能とのいずれもが作動する確変外部有利遊技状態に制御されることとなる。したがって、大当たりA、Bのいずれかが当選されているときは、液晶表示装置1900において、まず、大当たり明示演出a～dとして大当たりが当選されたことを明示した後、長時間開閉パターンと中時間開閉パターンとのいずれをもつて大入賞口2103が開放されているかについての出玉量にかかる情報（ビッグボーナス、若しくはレギュラーボーナスなど）が示される演出を行うこととなる（大当たり遊技中演出）。なお、このような出玉量にかかる大当たり遊技中演出としては、大当たり明示演出a～dが行われた後に行われるものでなくても、大当たり明示演出a～dにおいて大当たりが当選されていることを明示するときに、出玉量にかかる情報（大当たりの種別）を併せて表示（同時表示）するものであってもよい。

【1427】

また、通常外部不利遊技状態にあるときの大当たり抽選の結果が大当たりC～Eのいずれか

であるときは、大当たり遊技が終了した後、時短機能が作動しない外部不利遊技状態（確率変動機能も作動しない通常外部不利遊技状態、若しくは確率変動機能が作動する確変外部不利遊技状態）に制御される。そして、大当たり遊技が終了した後の演出状態としては、確率変動機能が作動している状態にあるか否かが秘匿にされる所定の潜伏演出状態に制御されることとなる。したがって、大当たりC～Eのいずれかが当選されているときは、液晶表示装置1900において、まず、大当たり明示演出a～dとして大当たり当選されたことを明示した後、大当たりA、Bのいずれかが当選されているときの大当たり遊技中演出とは異なる演出を行うことで、大当たりA～Eのうちの大当たりC～Eのいずれかに当選されていることが示される演出を行うこととなる（大当たり遊技中演出）。なお、大当たりC～Eの当選時にはいずれも中時間開閉パターンをもった開放態様が採用されることから、大当たりC～Eのいずれかに当選されていることを示すだけで、出玉量にかかる情報も示されたこととなる。また、大当たりC～Eのいずれかに当選されていることが示される演出についても、大当たり明示演出a～dが行われた後に行われるものでなくても、大当たり明示演出a～dにおいて大当たりが当選されていることを明示するときに併せて表示（同時表示）するものであってもよい。

10

【1428】

一方、図189、図199（a）及び図200（a）に示されるように、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、第2の演出モードにおいては、大入賞口2103を開放させる契機となる当りの種類（大当たりA～大当たりE、小当たり）に応じて演出内容が異なっていることがなく、且つその種類は示されることなく秘匿にされたままで大入賞口2103の開放にかかる制御（ここでは、大当たり遊技、若しくは小当たり遊技にかかる制御）が開始されることとなる。したがって、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、第2の演出モードにおいては、大入賞口2103の開放にかかる制御が行われているときの期間を利用して、当りの種類（大当たり、小当たり、大当たりの種類）や当該期間が終了した後の遊技状態などが示されうる演出を行うこととなる。

20

【1429】

すなわち、第2の演出モードにおける開放中演出においては、まず、長時間開閉パターンと中時間開閉パターンと小時間開閉パターンとのいずれをもつて大入賞口2103が開放されているかについての出玉量にかかる情報（ビッグボーナス、レギュラーボーナス、若しくはスモールボーナスなど）が示される演出を行うこととなる。そしてこの結果、長時間開閉パターンをもつて大入賞口2103が開放されていることが示されたときは（ビッグボーナス）、大当たりAの当選に基づいて確変外部有利遊技状態に制御されることが自ずと示されることとなる。また、小時間開閉パターンをもつて大入賞口2103が開放されていることが示されたときは（スモールボーナス）、小当たりの当選であり、遊技状態が変更されることはないことが自ずと示されることとなる。

30

【1430】

ただし、中時間開閉パターンをもつて大入賞口2103が開放されていることが示されたときは（レギュラーボーナス）、開放中演出として、所定のキャラクタによるバトル演出がさらに行われる。そしてこの結果、同バトル演出にてキャラクタが勝利したときには、大当たりBの当選に基づいて確変外部有利遊技状態に制御されることが示されるようになる。これに対し、同バトル演出にてキャラクタが敗北したときは、大当たりC～Eのいずれかに当選されていることが示されるようになり、当該開放中演出（大当たり遊技）が終了した後、時短機能が作動しない外部不利遊技状態（確率変動機能も作動しない通常外部不利遊技状態、若しくは確率変動機能が作動する確変外部不利遊技状態）に制御される。そして、大当たり遊技が終了した後の演出状態としては、確率変動機能が作動している状態にあるか否かが秘匿にされる所定の潜伏演出状態に制御されることとなる。

40

【1431】

なお、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、所定の潜伏演出状態を特定の回数（例えば、10回）の特別図柄が変動するまでの期間に限定して行うこととしている。例えば、同期間の終了時まで特定の敵キャラクタと遭遇しなかったときには、確変外部不利遊

50

技状態にあることを示す一方で、同期間中に特定の敵キャラクタと遭遇したときには所定のバトル演出を行うようにしている。そして、このバトル演出にてキャラクタが勝利したときには、大当りに当選されていることを示すとともに、同キャラクタが敗北したときには、通常外部不利遊技状態にあることを示すことで、同期間の終了を待つことなく当該潜伏演出状態を終了させるようにしている。

【1432】

このように、遅くとも特定の回数（例えば、10回）の特別図柄が変動するまでの期間が終了するまでの間には現在の遊技状態が示される潜伏演出手法によれば、遊技者としてはいずれの遊技状態にあるのかを純粋に楽しみやすくなり、時短機能が作動しないにもかかわらず長期にわたって遊技状態が秘匿にされることによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。

10

【1433】

ところで、図199(a)を参照しつつ上述した例では、第1の演出モードにあるときの図189に示した演出コマンド「01H」には、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」のみが対応付けされているが、図202に示されるように、当該「延長演出パターン」のほか、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」も対応付けされているようにしてもよい。

【1434】

すなわちこの場合、第1の演出モードにおいて、図189に示した演出コマンド「01H」が受信された場合、周辺制御MPU4140aは、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」と、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」とのいずれかを選択し、該選択した表示演出パターンの動的表示を液晶表示装置1900にて開始させることとなる。

20

【1435】

ここで、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」と、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」との選択にかかる手法としては、例えば、

(イ) 乱数に基づく所定の演出抽選の結果に基づいて、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」と、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」とのいずれかを選択する手法や、

(ロ) 大当り抽選にて当選されている大当りの種別に基づいて、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」と、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」とのいずれかを選択する手法

30

等々のほか、(イ)及び(ロ)を組み合わせた手法などを採用することができる。

【1436】

そしてこのうち、(イ)の手法を採用する場合には、取得されうる乱数の値のうちのどれだけの値が「延長演出パターン」と「非延長の表示演出パターン」とにそれぞれ対応付けされるか、といった予め対応付けされている乱数値の比率によって、第1の演出モードにおいて、図189に示した演出コマンド「01H」が受信された場合における表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」と、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」との各出現確率が定められることとなる。こうした出現確率の設定については、「非延長の表示演出パターン」よりも「延長演出パターン」のほうが現れたときのほうが大当り期待度が高くなるようにしておくことが、当該表示演出パターンの最後まで演出を楽しませる上でより望ましい。

40

【1437】

また、(ロ)の手法を採用する場合には、特定の当選種（例えば、大当りA）が当選されているとき、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」の動的表示を液晶表示装置1900にて開始させることとなる。このような演出手法によれば、タイミングt1においては少なくとも特定の当選種（例えば、大当りA）についての当落結果が示されるようになる。

【1438】

50

例えば、特別図柄の停止タイミングt 1において「非延長の表示演出パターン」による当り演出（大当りであることが明示される大当り明示演出）が現れたときには、遊技者にとって最も有利度の高い「大当りA」に当選されたことが把握可能となり、その後のオープニング時間OPにおいては、液晶表示装置1900にて「おめでとう！」などの遊技者を祝福するオープニング演出が行われるようになる。そして、大入賞口2103の開放にかかる制御が開始されるタイミングt 2以降の大当り遊技においては、当該「大当りA」専用の大当り演出が行われることとなる。ただし、特別図柄の停止タイミングt 1において「非延長の表示演出パターン」による当り演出（大当りであることが明示される大当り明示演出）が現れなかったときには、遊技者にとって最も有利度の高い「大当りA」には当選されていないことが逆に把握可能とされるようになる。そしてこの場合は、「延長演出パターン」による上述の継続期待演出を経て、大当り明示演出が現れたとき、「大当りB」～「大当りE」のいずれかが当選されたことが把握可能とされることとなる。

10

【1439】

また、(イ)及び(ロ)を組み合わせた手法を採用する場合には、大当りの種別毎に演出抽選テーブルを用意しておき、この演出抽選テーブルを参照しつつ、取得された乱数値に基づいて、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」と、表示演出aの内容をもった「非延長の表示演出パターン」とのいずれかを選択することとなる。すなわち、大当りの種別毎に演出抽選テーブルが用意されることで、各テーブルにおける「延長演出パターン」と「非延長の表示演出パターン」との選択率を異ならしめることができるようになる。これにより、例えば、「延長演出パターン」と「非延長の表示演出パターン」とのいずれで大当りに当選されていることが明示されるかによって、当選されている大当りの種別の期待度を異ならしめることができるようになるほか、「非延長の演出パターン」のほうが大当り期待度は低いものの大当りであることが明示されたときには最も有利度の高い「大当りA」である期待度は高くなっており、「延長演出パターン」のほうが大当り期待度は高いものの大当りであることが明示されたときには最も有利度の高い「大当りA」である期待度は低くなっている、といったような演出設定を行うことも可能となる。

20

【1440】

なお、「延長演出パターン」と「非延長の表示演出パターン」との選択にかかる手法については、上述の演出コマンド「01H」の表示演出パターンのほか、図189に示した演出コマンド「05H」、「09H」、「12H」の各表示演出パターンについても同様に採用することはできる。ただし、演出コマンド「01H」、「05H」の表示演出パターンに採用した場合には、当り演出パターンとしての当該表示演出パターンに対し、演出コマンド「03H」、「07H」の表示演出パターンをハズレ演出パターンとして機能させることができるようになる。

30

【1441】

また、図200(a)を参照しつつ上述した例では、第1の演出モードにあるときの図189に示した演出コマンド「02H」には、表示演出aの内容をもった「延長演出パターン」のみが対応付けされているが、図203に示されるように、当該「延長演出パターン」のほか、表示演出cの内容をもった「延長演出パターン」も対応付けされているようにしてもよい。

40

【1442】

すなわち、こうして演出コマンド「02H」に対応付けされる「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」では、特別図柄の停止タイミングt 1を延長して表示演出が行われるものであるにもかかわらず、その演出内容としては、第1の演出モードにあるときの演出コマンド「11H」の表示演出パターン（図200(c)参照）でしかなく、大当り期待度がより高くなる発展後の表示演出が現れない演出内容とされることとなる。したがって、第1の演出モードにおいて、図189に示した演出コマンド「02H」が受信された場合、その一部を、このような発展後の表示演出が現れない演出内容に割り振るようすることで、第1の演出モードにあるときの発展後の表示演出の出現確率を低く抑えたままで、小当りの当選確率をより高く設定することができるようになる。そしてこの場合、

50

第2の演出モードにあるときは、小当りの当選確率がより高く設定された分だけチャレンジボーナス演出への突入確率（当り演出が現れる期待度）が高められるようになり、これによって大入賞口2103の開放による賞球獲得の機会をより高い確率で付与することができるようになる。

【1443】

なおこの場合、第1の演出モードにおいて、図189に示した演出コマンド「02H」が受信されたときには、周辺制御MPU4140aは、「表示演出aの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」とのいずれかを選択し、該選択した表示演出パターンの動的表示を液晶表示装置1900にて開始させることとなる。また、「表示演出aの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」との選択にかかる手法としては、例えば、乱数に基づく所定の演出抽選の結果に基づいて、「表示演出aの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」とのいずれかを選択する手法を採用することができる。この手法を採用した場合、取得されうる乱数の値のうちのどれだけの値が「表示演出aの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」とにそれぞれ対応付けされるか、といった予め対応付けされている乱数値の比率によって、第1の演出モードにおいて、図189に示した演出コマンド「02H」が受信された場合における「表示演出aの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」との各出現確率が定められることとなる。

【1444】

また、「表示演出aの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出cの内容をもった延長演出パターン」との選択にかかる手法については、上述の演出コマンド「02H」の表示演出パターンのほか、図189に示した演出コマンド「06H」の表示演出パターンについても同様に採用することはできる。この演出コマンド「06H」の表示演出パターンに採用した場合は、「表示演出bの内容をもった延長演出パターン」と、「表示演出dの内容をもった延長演出パターン」との選択を行うこととなる。

【1445】

また、この実施の形態にかかるパチンコ機1では、大当り確定用の図189に示した変動パターン（変動番号「15」、演出コマンド「15H」）を用意することとしたが、この変動パターンについては割愛してもよい。すなわちこの場合、第2の演出モードにおける大入賞口2103の開放に際しては、チャレンジボーナス演出パターンを必ず出現させることができるようになる。

【1446】

[4-1A. 主基板による遊技内容]

次に、主制御基板4100や払出制御基板4110等を備えた主基板4000による遊技内容について説明する。本実施形態のパチンコ機1は、扉枠5の右下に配置されたハンドル装置500を遊技者が回転操作することで、皿ユニット300の上皿301に貯留された遊技球が、遊技パネル1150の前面に配置された遊技領域1100内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始されるようになっている。遊技領域1100内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打ち込み強さによってセンター役物2500の上側の左側或いは右側の遊技領域1100内を流下するようになっている。

【1447】

なお、遊技球の打ち込み強さは、ハンドル装置500の回転量を回転位置検知センサ512で検知した上で、回転位置検知センサ512からの検知信号に基づいて発射制御部4120により打球発射装置650における発射ソレノイド654の駆動強さが制御されるようになっており、時計回りの方向へ回転させるほど強く打ち込むことができるようになっている。また、遊技領域1100内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘が遊技パネル1150の前面に植設されており、遊技球がその障害釘に当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。

【1448】

センター役物2500の上部へ打ち込まれた遊技球が、左右方向の略中央から左側を流下してセンター役物2500の周壁部2503における左右方向中央よりも左側へ到達すると、周壁部2503によってセンター役物2500の左側の領域へと誘導される。そして、センター役物2500の左側を流下する遊技球が、センター役物2500の左側に配置されたゲート部2401に進入してゲートセンサ2402により検出されると、普通抽選結果としての普通当り判定用乱数が抽出される。そして、その普通当り判定用乱数に基づいて、機能表示ユニット1180における普通図柄表示器1189の普通図柄が変動表示（一つのLEDからなる普通図柄表示器1189が、赤色、緑色、橙色に交互に発光）され、所定時間（例えば、2秒～30秒の間）経過後に抽出され普通当り判定用乱数（普通抽選結果）に基いた普通図柄が停止表示（普通図柄表示器1189が赤色又は緑色の何れかに発光）される。この普通図柄の変動表示は、普通当り判定用テーブル（普通図柄変動パターン選択テーブル）から選択された普通図柄変動パターンに基づいて行われるようになっている。

10

【1449】

詳しくは、抽選された普通乱数が「普通当り」乱数の場合、当りを示唆する普通図柄で停止表示（普通図柄表示器1189が緑色に発光）され、抽選された普通乱数が「普通ハズレ」乱数の場合、ハズレを示唆する普通図柄で停止表示（普通図柄表示器1189が赤色に発光）されるようになっている。そして、当りを示唆する普通図柄が停止表示されると、第二始動口2102を閉鎖する一对の可動片2105が所定開放時間（例えば、0.3秒～3秒の間）拡開する動作を所定回数（例えば、1～3回）繰返し、第二始動口2102へ遊技球が入賞できるようになっている。

20

【1450】

なお、普通図柄の変動時間や第二始動口2102における可動片2105の拡開時間については、第一当り判定用乱数や第二当り判定用乱数（特別抽選結果）に応じて変化させるようになっており、特別抽選結果として、「時短当り（普通時短当り、高確率時短当り、等を含む）」が抽出された場合に、その変動時間や拡開時間を短い時間に変更するために、普通当り判定用テーブルを普通時のテーブルから高確率時のテーブルに差替えられるようになっている。

30

【1451】

なお、本例のパチンコ機1では、センター役物2500の上側において、左右方向中央から左側には遊技球が流下可能な領域が備えられているものの、中央から右側は遊技領域1100の外周に沿って下方へ延びる円弧状の領域が備えられており、この領域に遊技球が進入するとゲート部2401やワープ入口2504へ遊技球が進入する機会を得ることなくセンター役物2500の下側へ送られてしまい、チャンスが少なくなると共に遊技球の動きがあまり楽しめなくなるようになっている。従って、遊技者は、遊技球がセンター役物2500の上側において左右方向中央から左側の領域を流下するように、ハンドル装置500の回転量を適宜調整して遊技することとなり、闇雲に遊技球を強く打ち込むような遊技操作を抑制して、パチンコ機1本来のハンドル装置500の操作による遊技を楽しませて興味が低下するのを防止することができるようになっている。

40

【1452】

ところで、本例では、普通図柄表示器1189において普通図柄が変動表示中に、ゲートセンサ2402で遊技球の通過が検出されると、変動中の普通図柄停止して先に発生・抽出された普通乱数の結果が確定するまでの間、ゲートセンサ2402からの検出信号に基づいて抽出された普通当り判定用乱数（普通図柄変動パターンを含む）を一時的に記憶してその表示を保留するようになっており、その記憶された普通当り判定用乱数の数（保留数とも言う）を、普通図柄記憶表示器1188で表示するようになっている。この普通図柄記憶表示器1188は、四つのLEDからなっており、点灯する各LEDの数によって記憶数を示唆するようになっており、本例では、四つまで記憶して保留数を表示するようになっている。なお、保留数が四つを越えた場合は、ゲートセンサ2402の検出信号に

50

基いて抽出された普通当り判定用乱数が破棄されるようになっている。

【1453】

また、遊技領域1100内へ打ち込まれセンター役物2500の左側を流下した遊技球は、サイド誘導部材2300の棚部2302によってセンター役物2500の下側で遊技領域1100の中央側へ寄せられるようになっている。そして、センター役物2500の下方に配置されたアタッカユニット2100の一般入賞口2104に遊技球が入賞して、一般入賞口センサ3232に検出されると、その検出信号に基いて主制御基板4100では払出制御基板4110に対して所定の払出コマンドを送信し、その払出コマンドに応じて払出制御基板4110が賞球装置740の払出モータ744を制御して所定数（例えば、10個）の遊技球が、上皿301へ払出されるようになっている。

10

【1454】

なお、遊技領域1100内へ打ち込まれた遊技球が、一般入賞口2104、第一始動口2101、第二始動口2102、及び大入賞口2103の何れにも入賞しなかった場合、遊技領域1100の左右方向中央下端に設けられてアウト口1151から、遊技盤4の後側下方へ排出されるようになっている。また、遊技球が、一般入賞口2104、第一始動口2101、第二始動口2102、及び大入賞口2103の何れに入賞しても、入賞した遊技球は、遊技領域1100内へ戻されること無く遊技盤4の後側下方へ排出されるようになっている。

【1455】

一方、センター役物2500の左側を流下する遊技球が、センター役物2500の左側側面に開口するワープ入口2504へ進入すると、センター役物2500のステージ2510における上側の第一ステージ2511へと供給されるようになっている。そして、第一ステージ2511上へ供給された遊技球は、第一ステージ2511上を左右方向へ転動して、左右方向中央の両側に低く形成された谷部の何れかから前方へ転動して第二ステージ2512上へと供給される。この第二ステージ2512でも遊技球が左右方向へ転動し、左右方向中央の両側に低く形成された谷部の何れかから前方へ転動して第三ステージ2513へと供給される。そして、第三ステージ2513に供給された遊技球は、第三ステージ2513上でも左右方向へ転動し、左右方向略中央の低くなった部位からアタッカユニット2100の上方（第一始動口2101の略直上）の遊技領域1100内へ放出される。

20

30

【1456】

ところで、ステージ2510の第二ステージ2512上を転動する遊技球が、左右方向中央の高くなった部位の後側に開口したチャンス入口2514へ進入すると、第三ステージ2513の低くなった部位よりも更に下側でアタッカユニット2100における第一始動口2101の直上に配置されたチャンス出口2515から遊技領域1100内へ放出され、遊技球が高い確率で第一始動口2101へと受入れられるようになっている。そして、遊技球が第一始動口2101に受入れられて第一始動口センサ3231に検出されると、主制御基板4100等を介して賞球装置740から所定数（例えば、3個）の遊技球が、上皿301へ払出されるようになっている。

【1457】

40

なお、本例のパチンコ機1では、第一始動口2101、第二始動口2102、及び大入賞口2103が、上下方向に並んで配置されているので、ステージ2510から放出される遊技球が、高い確率で第一始動口2101等を受入れられるようになっており、第二始動口2102や大入賞口2103が受入可能な時に、遊技球がステージ2510やチャンス出口2515から放出されると受入れられる可能性が高いので、第一始動口2101だけでなく第二始動口2102や大入賞口2103に対しても、遊技球の受入れに関する期待感を持たせて興趣を高めることができるようになっている。

【1458】

ところで、遊技球がゲート部2401へ進入してゲートセンサ2402により検出されて普通抽選結果として「普通当り」が抽選されると、上述したように、第二始動口210

50

2を閉鎖する一对の可動片2105が所定時間拡開して入賞可能となり、その入賞可能となった時に、遊技球が第二始動口2102へ受入れられて第二始動口センサ2127に検出されると、主制御基板4100等を介して賞球装置740から所定数（例えば、4個）の遊技球が、上皿301へ払出されるようになっている。

【1459】

また、主制御基板4100では、これら第一始動口2101、第二始動口2102に遊技球が入賞して、第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127に検出されると、第一始動口2101では所定の第一当り判定用乱数の抽出が、第二始動口2102では所定の第二当り判定用乱数の抽出が、夫々行われる。そして、抽出された当り判定用乱数に基いて、機能表示ユニット1180の対応する第一特別図柄表示器1185や第二特別図柄表示器1186に表示された特別図柄の変動表示が開始された後に、抽出された当り判定用乱数と対応する特別図柄が特別抽選結果として停止表示されるようになっている。これら第一特別図柄表示器1185や第二特別図柄表示器1186において、「大当り」に対応付けされた態様で特別図柄が停止表示されると、アタッカユニット2100の開閉部材2106が、所定のパターンで開閉動作する特別有利遊技状態（例えば、大当り遊技）が発生し、その間に大入賞口2103へ遊技球を入賞させることで、より多くの遊技球を獲得できるようになっている。なお、一つの遊技球が大入賞口2103へ入賞すると、賞球装置740から所定数（例えば、13個）の遊技球が上皿301へ払い出されるようになっている。

【1460】

なお、これら第一始動口2101、第二始動口2102においても、ゲート部2401への遊技球の進入による普通図柄の変動表示と同様に、第一特別図柄表示器1185や第二特別図柄表示器1186において特別図柄が変動表示中、又は、特別有利遊技状態としての大当り遊技中等の特別図柄を変動表示することができない時に、始動口2101、2102へ遊技球が入賞して第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127で検出されると、特別図柄の変動表示が可能となるまでの間、第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127からの検出信号に基いて抽出された第一当り判定用乱数や第二当り判定用乱数を記憶してその表示を保留するようになっており、その記憶された当り判定用乱数の保留数を、第一特別図柄記憶表示器1184や第二特別図柄記憶表示器1187において表示するようになっている。これら第一特別図柄記憶表示器1184や第二特別図柄記憶表示器1187は、夫々二つのLEDからなっており、消灯・点灯・点滅する各LEDの発光状態の組合せによって記憶数を示唆するようになっており、本例では、夫々四つまで記憶して表示するようになっている。なお、保留数が四つを越えた場合は、抽出された当り判定用乱数が破棄されるようになっている。

【1461】

また、主制御基板4100では、第一始動口センサ3231、第二始動口センサ2127の検出に基いてそれぞれ抽出された大当り判定用乱数である第一当り判定用乱数や第二当り判定用乱数を、予め決められた所定の当り判定用テーブル（特別図柄変動パターンテーブルとも称す）と照合することで、「ハズレ」、「小当り」、「大当り」の何れであるかが判別されるようになっている。また、当り判定用テーブルと大当り図柄用乱数とを比較することによって、大当りの種類も判別されるようになっている。

【1462】

そして、第一始動口2101、第二始動口2102への遊技球の始動入賞を契機として抽出（抽選）された第一当り判定用乱数や第二当り判定用乱数が（特別抽選結果が）、「小当り」の場合、主制御基板4100は、アタッカユニット2100の開閉部材2106を、所定の短時間の間開状態として閉鎖する開閉パターンを複数回（例えば、2回）繰返すようになっている。

【1463】

一方、抽出された第一当り判定用乱数や第二当り判定用乱数が、「大当り」の場合、主制御基板4100は、アタッカユニット2100の開閉部材2106を開状態とした後に

、所定の長時間経過、或いは、所定個数の遊技球が大入賞口 2 1 0 3 に入賞の何れかの条件が充足すると開閉部材 2 1 0 6 を閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを 1 ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰返すようになっており、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させるようになっている。なお、所定ラウンド数の終了後に、「大当たり」については、抽出された当り判定用乱数に応じて当り判定用テーブルを高確率のテーブルに変更するようになっている。また、当り判定用乱数に応じて、時短遊技状態としたり時短遊技状態を解除したりするために、変動時間設定用テーブルを適宜変更するようになっている。

【1 4 6 4】

なお、本実施形態のパチンコでは、大当たりの種別にかかわらず大当たり遊技におけるラウンド数（開閉部材 2 1 0 6 の開閉回数）を同じ回数（例えば、1 6 回）に設定することとしたが、例えば、多量の出玉が獲得可能とされる「大当たり A」に対しては、多数回（例えば、1 6 回）のラウンド数（開閉部材 2 1 0 6 の開閉回数）を設定するとともに、中量の出玉が獲得可能とされる「大当たり B」～「大当たり E」に対しては、多数回よりも少ない中数回（例えば、9 回）のラウンド数（開閉部材 2 1 0 6 の開閉回数）を設定するようにしてもよい。このような構成によれば、大当たり遊技中（特に、第 2 の演出モード）においては、複数のラウンドにわたって、「大当たり A」と「大当たり B」（若しくは、「大当たり A」と「大当たり B」～「大当たり E」）とのいずれの種別であるかについての演出を行うことができるようになる。ただしこの場合、各ラウンド遊技における開閉部材 2 1 0 6 の開閉パターンや、各ラウンド遊技における制限時間や、大入賞口 2 1 0 3 に遊技球が入球される制限数についての違いは持たせられないこととなる。

【1 4 6 5】

また、この実施の形態では、第一特別図柄側の抽選処理にて大当たりが当選された場合と、第二特別図柄側の抽選処理にて大当たりが当選された場合とで遊技者に付与される利益（獲得可能な賞球数など）の期待値に差異は設けられていないが、同期待値に差異を設けるようにしてもよい。例えば、第一特別図柄側の抽選処理が行われた場合には遊技者によって獲得可能とされる賞球数の最も多い大当たり遊技が実行される確率が相対的に高く設定される一方で、第二特別図柄側の抽選処理が行われた場合には遊技者によって獲得可能とされる賞球数の最も多い大当たり遊技が実行される確率が相対的に低く設定されるような場合が相当する。

【1 4 6 6】

次に、操作ユニット 4 0 0 におけるダイヤル操作部 4 0 1 の回転方向及び回転速度の検出について説明する。なお、回転検知センサ 4 3 2 a, 4 3 2 b は、ダイヤル操作部 4 0 1 と一体的に回転する従動ギア 4 1 0 の回転検知片 4 1 0 c を検出することで、ダイヤル操作部 4 0 1 の回転方向及び回転速度を検出するようになっている。また、図 2 0 4 乃至図 2 0 6 中には、回転検知センサ 4 3 2 a を「A」と記載すると共に、回転検知センサ 4 3 2 b を「B」と記載する。また、以下に示すステップ 1 ～ 4 は、それぞれ回転検知センサ 4 3 2 a, 4 3 2 b を基準としたダイヤル操作部 4 0 1 の 4 種類の回転位置のことであり、ダイヤル操作部 4 0 1 が回転することで、ステップ 1、ステップ 2、ステップ 3、ステップ 4 へと順次、回転位置が移行するものであり、ステップ 4 へ移行した後は、再度ステップ 1 へ戻る。

【1 4 6 7】

まず、ダイヤル操作部 4 0 1 が時計方向へ回転する場合は、図 2 0 4 に示すように、ステップ 1 として、両方の回転検知センサ 4 3 2 a, 4 3 2 b が従動ギア 4 1 0 の回転検知片 4 1 0 c を検出し、その後、ダイヤル操作部 4 0 1 の時計方向への回転に伴うステップ 2 への移行により、回転検知センサ 4 3 2 a が回転検知片 4 1 0 c を検出する一方、従動ギア 4 1 0 のスリット 4 1 0 d が回転検知センサ 4 3 2 b へ移動して回転検知センサ 4 3 2 b が回転検知片 4 1 0 c を検出しないステップへ移行する。その後、ダイヤル操作部 4 0 1 の時計方向への回転に伴うステップ 3 への移行により、従動ギア 4 1 0 のスリット 4 1 0 d が各回転検知センサ 4 3 2 a, 4 3 2 b へ移動して回転検知センサ 4 3 2 a, 4 3

2 bが共に回転検知片410cを検出しないステップへ移行する。そして、ダイヤル操作部401の時計方向への回転に伴うステップ4への移行により、従動ギア410のスリット410dが回転検知センサ432aへ移動して回転検知センサ432aが回転検知片410cを検出しない一方、回転検知センサ432bが回転検知片410cを検出するステップへ移行する。

【1468】

一方、ダイヤル操作部401が反時計方向へ回転する場合は、図205に示すように、ステップ1として、両方の回転検知センサ432a、432bが従動ギア410の回転検知片410cを検出し、その後、ダイヤル操作部401の反時計方向への回転に伴うステップ2への移行により、従動ギア410のスリット410dが回転検知センサ432aへ移動して回転検知センサ432aが回転検知片410cを検出しない一方、回転検知センサ432bが回転検知片410cを検出するステップへ移行する。その後、ダイヤル操作部401の反時計方向への回転に伴うステップ3への移行により、従動ギア410のスリット410dが各回転検知センサ432a、432bへ移動して回転検知センサ432a、432bが共に回転検知片410cを検出しないステップへ移行する。そして、ダイヤル操作部401の反時計方向への回転に伴うステップ4への移行により、回転検知センサ432aが回転検知片410cを検出する一方、従動ギア410のスリット410dが回転検知センサ432bへ移動して回転検知センサ432bが回転検知片410cを検出しないステップへ移行する。

【1469】

即ち、ダイヤル操作部401が時計方向へ回転する場合の回転検知センサ432a、432bのON（回転検知片410cの検出あり）／OFF（回転検知片410cの検出なし）動作は、図206（A）に示すように、ステップ1で回転検知センサ432a、432bが共に「ON」であり、ステップ2で回転検知センサ432aが「ON」を継続する一方、回転検知センサ432bが「OFF」となる。その後、ステップ3で回転検知センサ432a、432bが共に「OFF」となった後に、ステップ4で回転検知センサ432aが「OFF」を継続する一方、回転検知センサ432bが「ON」となる。その後は、再度、ステップ1に戻り、回転検知センサ432a、432bが共に「ON」となる。

【1470】

一方、ダイヤル操作部401が反時計方向へ回転する場合の回転検知センサ432a、432bのON／OFF動作は、図206（B）に示すように、ステップ1で回転検知センサ432a、432bが共に「ON」であり、ステップ2で回転検知センサ432bが「ON」を継続する一方、回転検知センサ432aが「OFF」となる。その後、ステップ3で回転検知センサ432a、432bが共に「OFF」となった後に、ステップ4で回転検知センサ432bが「OFF」を継続する一方、回転検知センサ432aが「ON」となる。その後は、再度、ステップ1に戻り、回転検知センサ432a、432bが共に「ON」となる。

【1471】

このように、回転検知センサ432a、432bは、上記したような各ステップ1～4でのON／OFFに基づいてダイヤル操作部401の回転方向及び回転速度を検出するようになっているので、操作ユニット400を構成するダイヤル操作部401が操作手段として機能する場合、換言すれば、遊技者の操作によってダイヤル操作部401が回転操作された場合には、回転検知センサ432a、432bのON／OFF状態の切替りを検出することでダイヤル操作部401が回転操作されたことを検出する。また、この時、回転操作前の回転検知センサ432a、432bのON／OFF状態と、回転操作中の回転検知センサ432a、432bのON／OFF状態とから、ダイヤル操作部401が時計方向に回転操作されているのか、あるいは反時計方向に回転操作されているのかを検出するようになっている。なお、本例では、回転検知センサ432a、432bによってダイヤル操作部401の回転方向及び回転速度を検出する構成としているが、回転検知センサ432a、432bのパルスをカウントすることで、ダイヤル操作部401の回転位置も検

出が可能である。

【1472】

例えば、ステップ1、即ち回転検知センサ432a、432bが共に「ON」した状態を回転操作前の状態とした場合、回転操作中の回転検知センサ432a、432bのON/OFF状態として回転検知センサ432aが「ON」である一方、回転検知センサ432bが「OFF」であると、時計方向のステップ2と一致することから、ダイヤル操作部401が時計方向に回転操作されたことを検出する。一方、回転操作中の回転検知センサ432a、432bのON/OFF状態として回転検知センサ432aが「OFF」である一方、回転検知センサ432bが「ON」であると、反時計方向のステップ2と一致することから、ダイヤル操作部401が反時計方向に回転操作されたことを検出する。なお、回転検知センサ432a、432bによって検出されたダイヤル操作部401の時計方向又は反時計方向の操作信号は、周辺制御部4140に出力される。そして、周辺制御部4140は、入力した操作信号に基づいて遊技者の操作意思を受け、これを液晶表示装置1900等での演出に反映するようになっている。

10

【1473】

また、ダイヤル操作部401がダイヤル駆動モータ414の駆動に基づいて回転する可動演出手段として機能する場合は、ダイヤル駆動モータ414の駆動が駆動ギア412を介して従動ギア410の回転動作として伝達され、この従動ギア410の回転動作によって一体的に設けられたダイヤル操作部401が時計方向又は反時計方向に回転する。この時、回転検知センサ432a、432bは、ダイヤル操作部401と共に回転する従動ギア410の回転検知片410cの検出の有無（ON/OFF）によってダイヤル操作部401の回転方向及び回転速度を検出する。そして、この回転検知センサ432a、432bによる検出信号が周辺制御部4140に出力され、これを受けた周辺制御部4140がダイヤル操作部401の回転方向及び回転速度を把握した状態でダイヤル操作部401の回転動作を制御するようになっている。

20

【1474】

[5. 本実施形態から抽出される態様（技術思想）]

以下、本実施形態を種々の観点から見ることによって抽出される種々の技術思想について説明する。

【1475】

[遊技領域、装飾ユニット、アーム部材、リンク部材、または、移動駆動モータを具備することによって抽出される技術思想]

30

本実施形態を「装飾ユニット、アーム部材、リンク部材、または、移動駆動モータを具備する」という観点から見ることによって、以下のような態様（技術思想）を抽出することができる。

[態様1]

「遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域と、

正面視で該遊技領域内の所定位置に配置され、所定形状に形成された装飾体、及び左右方向略中央から後方へ突出した連結軸を、有する装飾ユニットと、

該装飾ユニットの前記連結軸と連結される連結部、該連結部から前記装飾ユニットの正面視外側まで延出する棹状の第一アーム部、該第一アーム部における前記連結部とは反対側の基端側に形成され前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される基端部、該基端部から前記第一アーム部とは異なる方向で短く延出した棹状の第二アーム部、及び該第二アーム部の先端に形成されると共に該第二アーム部の延びる方向へ延びた長孔状のリンク接続部を有し、前記装飾ユニットよりも後側に配置されるアーム部材と、

40

該アーム部材の前記リンク接続部内へ摺動可能に挿入されるリンクピンを有し、該リンクピンを前後方向へ延びた軸周りに対して所定半径で公転させると共に、前記装飾ユニットの正面視外側の位置で回転可能とされたリンク部材と、

該リンク部材を前記遊技領域内へ遊技媒体が打込まれることで変化する遊技状態に応じて回転させて前記装飾ユニットを移動駆動させる移動駆動モータと

50

を具備する」ものであることを特徴とする。

【1476】

ここで、「装飾体」としては、「遊技機のコセプトに沿った所定のキャラクタを模したものの（例えば、フィギュア）」、「遊技機のコセプトに沿った所定のアイテムを模したものの」、等が挙げられる。

【1477】

また、「装飾ユニット」としては、「装飾体を可動させる可動機構を備えたものの」、「装飾体等を発光装飾させるための発光手段を備えたものの」、「装飾体とは別に装飾部材を備えたものの」、「装飾体とは別に可動する可動体を備えたものの」、等が挙げられる。

【1478】

更に、「連結部」としては、「装飾ユニットの連結軸を相対回転可能に連結するもの」、「装飾ユニットの連結軸を所定方向へ摺動可能に連結するもの（長孔状に形成されたものの）」、「装飾ユニットの連結軸を相対回転可能且つ所定方向へ摺動可能に連結するもの」、「装飾ユニットの連結軸を回転不能に連結するもの」、等が挙げられる。

【1479】

また、アーム部材における第一アーム部とは「異なる方向へ延出」した第二アーム部としては、「第一アーム部の延びる方向と、第二アーム部の延びる方向との交点における角度を、90度～135度の範囲内」、とすることが望ましく、これよりも角度が小さいと、リンクピンの公転範囲におけるアーム部材の回動中心を通り装飾ユニットの移動方向と平行な軸線に対して装飾ユニット側に位置する範囲が必要以上に大きくなるので（リンク部材に係るスペースが装飾ユニット側へ必要以上に寄ってしまい）、装飾ユニットの後側のスペースを広くしなければならず、相対的に装飾ユニットが小さくなってしまふ問題があるためである。また、これよりも角度が大きいと、リンクピンの公転範囲におけるアーム部材の回動中心を通り装飾ユニットの移動方向とは直角方向へ延びた軸線を越える範囲が必要以上に大きくなるので、リンク部材等の移動駆動機構が装飾ユニットの移動範囲の中央寄りに位置することとなり、装飾ユニットを移動範囲の何れの端部側に位置させてもリンク部材等の移動駆動機構が遊技者側から見え易くなるため、移動駆動機構を隠蔽するための部材が新たに必要となったり、移動駆動機構を含む装飾ユニットの配置自由度が悪くなって効果的な位置に装飾ユニットを配置することができなくなったりする問題が発生するためである。

【1480】

また、「遊技状態に応じて」とは、「遊技領域内に配置された受入口（例えば、一般入賞口、始動入賞口（始動口）、大入賞口、役物入賞口、V入賞口、等）への遊技媒体の受入れに応じて」、「遊技領域内に打ち込まれた（投入された）遊技媒体が特定領域（例えば、ゲート、ワープ通路、ステージ、等）を通過したことに依じて」、「遊技媒体を受入れることで抽選される抽選結果に応じて」、「遊技媒体の投入を契機として回転する複数の回転体の回転に応じて」、「遊技媒体の投入を契機として回転した複数の回転体を順次停止させ、停止した回転体に表示された図柄の組合せに応じて」、「始動入賞等による抽選によって決まる演出の種類に応じて」、「遊技領域内へ打ち込まれる遊技媒体の打込量に応じて」、「遊技領域内へ打ち込まれる遊技媒体の打込ブランクの長さに応じて」、等が挙げられる。

【1481】

態様1の構成によると、遊技機に、遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域と、正面視で遊技領域内の所定位置に配置され、所定形状に形成された装飾体、及び左右方向略中央から後方へ突出した連結軸を、有する装飾ユニットと、装飾ユニットの連結軸と連結される連結部、連結部から装飾ユニットの正面視外側まで延出する棹状の第一アーム部、第一アーム部における連結部とは反対側の基端側に形成され前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される基端部、基端部から第一アーム部とは異なる方向で短く延出した棹状の第二アーム部、及び第二アーム部の先端に形成されると共に第二アーム部の延びる方向へ延びた長孔状のリンク接続部を有し、装飾ユニットよりも後側に配置されるア

10

20

30

40

50

ーム部材と、アーム部材のリンク接続部内へ摺動可能に挿入されるリンクピンを有し、リンクピンを前後方向へ延びた軸周りに対して所定半径で公転させると共に装飾ユニットの正面視外側の位置で回転可能とされたリンク部材と、リンク部材を遊技領域内へ遊技媒体が打込まれることで変化する遊技状態に応じて回転させて装飾ユニットを移動駆動させる移動駆動モータと、を具備させるようにしたものである。

【1482】

これにより、遊技媒体を遊技領域内へ打込むことで変化する遊技状態に応じて移動駆動モータによりリンク部材を回転駆動させると、リンク部材のリンクピンが前後方向へ延びたリンク部材の回転軸周りに対して所定半径で公転することとなる。このリンクピンは、アーム部材の基端部から延びた第二アーム部の先端に形成された長孔状のリンク接続部に挿入されており、リンクピンが公転することで、装飾ユニットよりも正面視外側の位置で回転可能に支持されたアーム部材の基端部とリンクピンとの位置関係が変化するので、リンクピンがリンク接続部内を摺動すると同時にリンクピンによってリンク接続部を所定方向へ押圧し、第二アーム部を介してアーム部材全体が基端部を中心に回転することとなり、基端部から第二アーム部よりも長く延びる第一アーム部の先端の装飾ユニットと連結するための連結部も回転することとなる。そして、アーム部材が回転することで、基端部から延びた第一アーム部の先端の連結部に連結された装飾ユニットが、アーム部材の回転する方向と同じ方向へ移動することとなる。従って、リンク部材や移動駆動モータ等の移動駆動機構を、装飾ユニットの後側から可及的に遠ざかった位置に配置しても、装飾ユニットを確実に移動させることができ、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除することができるので、装飾ユニットの後側のスペースを可及的に小さくすることが可能となり、相対的に装飾ユニットを大きくすることができ、装飾ユニットを大型化して遊技者側から目立たせることができると共に、大型の装飾ユニットが移動することで遊技者を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1483】

また、連結部を介して装飾ユニットと連結される第一アーム部よりも、リンク接続部を介してアーム部材を回転させる第二アーム部を短く形成しているので、装飾ユニットの移動範囲をリンク部材におけるリンクピンの公転直径よりも大きくすることができ、大きく移動する装飾ユニットによって遊技者を驚かせることができると共に楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1484】

更に、スライド機構によって装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持すると共に、アーム部材の連結部を装飾ユニットの連結軸が摺動且つ回転可能な長孔状に形成するようにしても良く、これにより、アーム部材における第一アーム部の先端（連結部）が円弧状に移動しても装飾ユニットを真直ぐ昇降させることができるので、装飾ユニットを円弧状に昇降させた場合と比較して、遊技者に対して装飾ユニットが何らかの回転に伴って移動しているのを判らないようにして装飾ユニットの昇降を自然な感じにすることが可能となり、装飾ユニットが不自然な動きをすることで遊技者の関心が装飾ユニットから離れてしまうのを回避させることができ、装飾ユニットの動き（昇降）を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1485】

また、装飾ユニットが上昇する方向へ、リンクピンを公転させて装飾ユニットが最も上昇した位置、つまり、リンクピンが上死点に到達した位置から、更にリンクピンを同じ方向へ若干公転させた時に、リンクピンがアーム部材におけるリンク接続部の一方の端部と当接するように長孔状のリンク接続部を形成しても良く、これにより、アーム部材の連結部を介して装飾ユニットからかかる荷重によって、リンクピンをリンク接続部の一方の端部側へ公転させる方向へ作用することとなるが、リンクピンがリンク接続部の一方の端部と当接しているので、リンクピンが公転することができず、アーム部材の回転（装飾ユニットの下降）が阻止された状態となり、装飾ユニットを上昇した位置に停止させ続けることができ、移動駆動モータに余計な負荷をかけたり、ブレーキ機能を有したモータを用い

10

20

30

40

50

たりする必要がなく、モータの不具合が発生し易くなるのを抑制することができると共に、モータが大型化するのを抑制して装飾ユニットの配置スペースを十分に確保することができ、相対的に装飾ユニットを大きくして上述した作用効果を確実に具現化することができる。

【1486】

また、上述したように、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除して装飾ユニットを可及的に大型化することができるので、装飾ユニット内に装飾体を回転させる回転駆動機構を備えるようにしても良く、これにより、所定方向へ移動する装飾ユニットの装飾体が回転することで、遊技者を驚かせることができると同時に、遊技者の関心を装飾ユニットへ強く引付けることができ、装飾ユニットによる可動演出を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。なお、装飾体を上下方向へ延びた軸周りに回転させるようにしても良く、これにより、回転させることで装飾体の後側も遊技者に見せることができるので、装飾体の見え方を大きく変化させることができ、遊技者の関心を強く引付けて飽き難くすることができると共に、装飾体の見え方を変化させることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めて興味が低下するのを抑制することができる。

10

【1487】

更に、一方の移動端に位置した装飾ユニットの少なくとも装飾体を、遊技者側から見えなくするような前装飾部材を備えるようにしても良く、これにより、装飾ユニットを一方の移動端から他方の移動端へ移動させると、装飾体（装飾ユニット）を出現させることができるので、装飾体（装飾ユニット）の出現により遊技者を驚かせることができ、装飾体へ遊技者の関心強く引付けることができると共に、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせて期待感を高めさせることができ、遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

20

【1488】

また、遊技領域内の正面視略中央に所定の演出画像を表示可能な演出表示手段を備えるようにした上で、装飾ユニットを演出表示手段よりも外側の位置と演出表示手段の前面の位置との間で移動させるようにしても良く、これにより、装飾ユニットを演出表示手段の前面側へ移動させることで装飾ユニットを目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、装飾ユニットの動きや装飾等を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、演出表示手段の前面側へ装飾ユニットを移動させて、装飾ユニットの動きに合せた演出画像を演出表示手段に表示させることもできるので、可動演出と演出画像とによるコラボレーション演出を行うことができ、多彩な演出によって飽き難くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

30

【1489】

また、遊技領域の後端を区画する遊技パネルを備えた上で、遊技パネルの後側に装飾ユニットを配置するようにしても良く、これにより、装飾ユニットが遊技領域内に打込まれた遊技媒体の動きを妨げることがないので、遊技媒体を良好な状態で流通させることができ、遊技機本来の遊技媒体の動きを十分に楽しませられる遊技機とすることができる。

40

【1490】

更に、遊技領域の略中央に枠状のセンター役物を備えた上で、装飾ユニットを正面視でセンター役物の枠内と枠外との間を移動させるようにしても良く、これにより、センター役物の枠内へ装飾ユニットを移動させると、装飾ユニット（装飾体）を大きく目立たせて遊技者の関心を強く引付けることができ、装飾ユニットによる可動演出や装飾演出等を楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1491】

なお、装飾ユニットを移動させるためのアーム部材、リンク部材、及び移動駆動モータ等を少なくとも支持するベース部材を備えるようにしても良く、これにより、ベース部材によって装飾ユニットを移動させるためのアーム部材やリンク部材等を所望の位置に位置

50

させることができ、アーム部材等を問題なく可動させることができると共に、アーム部材等の移動駆動機構をユニット化することが可能となり、遊技機を組立て易くすることができる、遊技機に係るコストが増加するのを抑制することができる。

【1492】

また、装飾ユニットに、複数の装飾体を備えるようにしても良く、これにより、装飾ユニットの装飾効果を高めることができ、遊技者を楽しませて興味が低下するのを抑制することができる。

【1493】

態様2：態様1の構成において、

「前記装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持するスライド機構を更に具備し、前記アーム部材は、

前記連結部が、前記装飾ユニットの前記連結軸を前記第一アーム部の延びる方向へ摺動可能、且つ、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持する長孔状に形成されている」ものであることを特徴とする。

【1494】

ここで、「スライド機構」としては、「アーム部材等を支持する側に取付けられる上下方向へ延びたスライドロッドと、スライドロッドに沿って上下方向へ延び、上下方向の一方の端部に連結軸を有すると共に一方の端部側でスライドロッドにスライド可能に支持されるスライダと、スライダにおける他方の端部側の左右両側面を回転可能に挟持しアーム部材等を支持する側に取付けられる一対のガイドローラと、を備えたもの」、「アーム部材等を支持する側に取付けられ、連結軸が摺動可能に挿入される上下方向へ延びた案内溝を備えたもの」、等が挙げられる。

【1495】

態様2の構成によると、遊技機に、装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持するスライド機構を更に具備させるようにした上で、アーム部材の連結部を、装飾ユニットの連結軸を第一アーム部の延びる方向へ摺動可能、且つ、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持する長孔状に形成したものである。

【1496】

これにより、スライド機構によって装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持すると共に、アーム部材の連結部を装飾ユニットの連結軸が摺動且つ回転可能な長孔状に形成しているので、アーム部材における第一アーム部の先端（連結部）が円弧状に移動しても装飾ユニットを真直ぐ昇降させることができる。つまり、装飾ユニットが真直ぐ昇降するので、装飾ユニットを円弧状に昇降させた場合と比較して、遊技者に対して装飾ユニットが何らかの回転に伴って移動しているのを判らないようにして装飾ユニットの昇降を自然な感じにすることが可能となり、装飾ユニットが不自然な動きをすることで遊技者の関心が装飾ユニットから離れてしまうのを回避させることができ、装飾ユニットの動き（昇降）を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1497】

また、装飾ユニットを上下方向へ移動させるようにしているので、左右方向へ移動させるようにした場合と比較して、装飾ユニットが遊技領域における左右方向の中央寄りの位置に配置されることとなり、左右の何れの側からも装飾ユニットを見易くすることができる、装飾ユニットの動きや装飾等をより楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1498】

態様3：態様2の構成において、

「前記アーム部材は、

前記リンク接続部における一方の端部が、前記リンク部材の前記リンクピンを所定方向へ公転させて前記装飾ユニットを最も上昇させた位置から更に前記所定方向へ若干公転させた位置で前記リンクピンと当接するように形成されている」ものであることを特徴とする。

【1499】

ところで、装飾ユニットを上下方向へ昇降させるようにした場合、アーム部材における第一アーム部に対して第二アーム部を短く形成しており、装飾ユニットから第一アーム部を介して第二アーム部のリンク接続部にかかる荷重が、てこの原理により装飾ユニットの荷重よりも大きくかかるので、この荷重により長孔状のリンク接続部に挿入されたリンクピンを介してリンク部材を回転（リンクピンを公転）させようとする力が作用することとなる。これに対して、装飾ユニットを上昇した位置で停止させ続けるために、アーム部材を回転駆動させるための移動駆動モータを駆動させて、装飾ユニットからかかる荷重を打消すことが考えられるが、この場合、モータに係る負荷が大きくなるので、モータが早期に消耗して不具合が発生し易くなる問題がある。

10

【1500】

一方、装飾ユニット側では、下降した位置に対しては、スライド機構等に装飾ユニットの一部が当接するストッパを設けることで、装飾ユニットがこれ以上下降するのを阻止することができるが、上昇した位置に対しては、単に当接するだけのストッパでは下降させることができなくなるので、当接を解除することが可能な可動するストッパを設ける必要があり、装飾ユニットの後側に可動するストッパを設けるスペースを確保するために相対的に装飾ユニットが小さくなってしまう問題が発生する。

【1501】

そこで、アーム部材を回転駆動させるための移動駆動モータにブレーキ機能を有したものをを用いることで、装飾ユニットを上昇した位置で停止させ続けるようにすることが考えられるが、この場合、モータが高価なものとなってコストが増加する問題があると共に、モータが大型化することで、装飾ユニットを移動させるための移動駆動機構が大きくなって移動駆動機構等を備えるためのスペースを確保し辛くなり、装飾ユニットを最適な位置に配置することができなくなる虞がある。

20

【1502】

また、リンクピンの公転により最も上昇した位置（上死点）の時にリンクピンの公転を停止させることで、アーム部材（リンク接続部）を介してリンクピンに作用する装飾ユニットからの荷重の方向を、リンク部材の回転中心を通るようにすることで、装飾ユニットからの荷重によってリンクピンが公転しないようにすることも考えられるが、リンクピンを上死点の位置で正確に停止させる必要があり、制御に係る負荷が増加する問題がある。

30

【1503】

態様3の構成によると、アーム部材のリンク接続部における一方の端部を、リンク部材のリンクピンを所定方向へ公転させて装飾ユニットを最も上昇させた位置から、更に所定方向へ若干公転させた位置でリンクピンと当接するように形成したものである。

【1504】

これにより、装飾ユニットが上昇する方向へリンクピンを公転させて、装飾ユニットが最も上昇した位置、つまり、リンクピンが上死点に到達した位置から、更にリンクピンを同じ方向へ若干公転させた時に、リンクピンがアーム部材におけるリンク接続部の一方の端部と当接するように長孔状のリンク接続部を形成しているので、アーム部材の連結部を介して装飾ユニットからかかる荷重によって、リンクピンをリンク接続部の一方の端部側へ公転させる方向へ作用することとなるが、リンクピンがリンク接続部の一方の端部と当接しているため、リンクピンが公転することができず、アーム部材の回転（装飾ユニットの下降）が阻止された状態となり、装飾ユニットを上昇した位置に停止させ続けることができる。

40

【1505】

従って、上述したように、リンクピンを長孔状のリンク接続部における一方の端部に当接させると、装飾ユニットを上昇した位置で停止・保持させることができるので、移動駆動モータに余計な負荷をかけたり、ブレーキ機能を有したモータを用いたりする必要がなく、モータの不具合が発生し易くなるのを抑制することができると共に、モータが大型化するのを抑制して装飾ユニットの配置スペースを充分に確保することができ、相対的に装

50

飾ユニットを大きくして上述した作用効果を確実に奏する遊技機とすることができる。

【1506】

態様4：態様1から態様3までの何れか一つの構成において、

「前記装飾ユニットは、

前記装飾体を遊技状態に応じて上下方向へ延びた軸周りに回転駆動させる回転駆動機構を更に有している」ものであることを特徴とする。

【1507】

ここで、「回転駆動機構」としては、「回転駆動モータの回転軸に直接装飾体を固定したもの」、「回転駆動モータにより回転する駆動ギアを介して装飾体を回転させるもの」、「回転駆動モータにより回転する駆動プーリと、装飾体と共に回転する従動プーリと、駆動プーリ及び従動プーリに巻掛けられるベルトとを備えたもの」、等が挙げられる。

10

【1508】

態様4の構成によると、装飾ユニットに、装飾体を遊技状態に応じて上下方向へ延びた軸周りに回転駆動させる回転駆動機構を、備えるようにしたものである。

【1509】

これにより、移動する装飾ユニットの装飾体が、回転駆動機構によって回転するので、所定方向へ移動する装飾ユニットの装飾体が回転することで、遊技者を驚かせることができると同時に、遊技者の関心を装飾ユニットへ強く引付けることができ、装飾ユニットによる可動演出を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

20

【1510】

また、上述したように、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除して装飾ユニットを可及的に大型化することができるので、装飾ユニット内に装飾体を回転させる回転駆動機構を問題なく配置することができ、回転する装飾体を備えた装飾ユニットを確実に具現化することができる。

【1511】

更に、装飾体を上下方向へ延びた軸周りに回転させるようにしているので、回転させることで装飾体の後側も遊技者に見せることが可能となり、装飾体の見え方を大きく変化させることができ、遊技者の関心を強く引付けて飽き難くすることができると共に、装飾体の見え方を変化させることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めて興味が低下するのを抑制することができる。

30

【1512】

態様5：態様1から態様4までの何れか一つの構成において、

「前記装飾ユニットよりも前側で前記遊技領域内における前記アーム部材の回動によって移動する前記装飾ユニットが一方の移動端の時には前記装飾体を遊技者側から視認不能となり、前記装飾ユニットが他方の移動端の時には前記装飾体を遊技者側から視認可能となる位置に配置され、所定の装飾が形成された前装飾部材を更に具備する」ものであることを特徴とする。

【1513】

ここで、「前装飾部材」としては、「発光装飾させるための発光手段を備えたもの」、「可動体を備えたもの」、等が挙げられる。

40

【1514】

態様5の構成によると、遊技機に、装飾ユニットよりも前側で遊技領域内におけるアーム部材の回動によって移動する装飾ユニットが一方の移動端の時には装飾体を遊技者側から視認不能となり、装飾ユニットが他方の移動端の時には装飾体を遊技者側から視認可能となるような位置に配置され、所定の装飾が形成された前装飾部材を、備えるようにしたものである。

【1515】

これにより、前装飾部材によって、一方の移動端に位置した装飾ユニットの装飾体を遊技者側から見えなくするようしており、装飾ユニットを一方の移動端から他方の移動端へ移動させると、装飾体を出現させることが可能となり、装飾体（装飾ユニット）の出現

50

により遊技者を驚かせることができ、装飾体へ遊技者の関心強く引付けることができると共に、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせて期待感を高めさせることができ、遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1516】

なお、前装飾部材によって装飾ユニットの装飾体のみを視認不能とするようにしても良いし、装飾ユニット全体を視認不能とするようにしても良い。

【1517】

態様6：態様1から態様5までの何れか一つの構成において、

「前記遊技領域内の正面視略中央で遊技者側から視認可能に配置され、遊技状態に応じて所定の演出画像を表示可能な演出表示手段を更に具備し、

10

前記装飾ユニットは、

前記演出表示手段よりも前側に配置されると共に、前記アーム部材の回動によって、前記演出表示手段の前記演出画像を殆ど遮らない位置と該演出画像を遮る位置との間で移動可能とされている」ものであることを特徴とする。

【1518】

ここで、「演出表示手段」としては、「液晶表示装置」、「EL表示装置」、「プラズマ表示装置」、「CRT」、「レーザーディスプレイ」、等が挙げられる。なお、液晶表示装置等のような薄型の表示手段を用いることが望ましく、遊技機の奥行方向を相対的に広く取ることが可能となり、遊技領域と演出表示手段との間を相対的に広くすることができ、装飾ユニット等を配置し易くすることができる。

20

【1519】

態様6の構成によると、遊技機に、遊技領域内の正面視略中央で遊技者側から視認可能に配置され遊技状態に応じて所定の演出画像を表示可能な演出表示手段を、更に備えた上で、装飾ユニットを、演出表示手段よりも前側に配置すると共に、アーム部材の回動によって、演出表示手段の演出画像を殆ど遮らない位置と演出画像を遮る位置との間で移動可能とするようにしたものである。

【1520】

これにより、上述したような大型の装飾ユニットが、演出表示手段の演出画像を殆ど遮らない位置、つまり、演出表示手段の正面視外側の位置から、演出画像を遮る位置（演出表示手段の前面側の位置）へ移動するので、演出表示手段の前面側へ移動させることで装飾ユニットを目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、装飾ユニットの動きや装飾等を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

30

【1521】

また、演出表示手段の前面側へ装飾ユニットを移動させることができるようにしているので、装飾ユニットの動きに合せた演出画像を演出表示手段に表示させることで、可動演出と演出画像とによるコラボレーション演出を行うことができ、多彩な演出によって飽き難くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1522】

態様7：態様1から態様6までの何れか一つの構成において、

40

「前記遊技領域における遊技者と対面する方向に対して直角方向の外周を区画する枠板状の前構成部材と、

該前構成部材の後側に配置されると共に前記遊技領域の後端を区画する板状の遊技パネルとを更に具備し、

該遊技パネルよりも後側に前記装飾ユニットが配置されている」ものであることを特徴とする。

【1523】

ここで、板状の「遊技パネル」としては、「合板（例えば、ベニア板）」、「集成材」、「金属板」、等の不透明なもの、或いは、「アクリル樹脂板」、「ポリカーボネイト樹脂板」、「ABS樹脂板」、「ポリプロピレン板」、「ポリアリレート樹脂板」、「メタ

50

クリル樹脂板」、「ガラス板」、等の透明なもの、等が挙げられる。

【1524】

態様7の構成によると、遊技機に、遊技領域における遊技者と対面する方向に対して直角方向の外周を区画する枠板状の前構成部材と、前構成部材の後側に配置されると共に遊技領域の後端を区画する板状の遊技パネルと、を更に備えた上で、遊技パネルよりも後側に装飾ユニットを配置するようにしたものである。

【1525】

これにより、遊技領域の後端を区画する遊技パネルの後側に装飾ユニットを配置するようにしているので、装飾ユニットが遊技領域内に打込まれた遊技媒体の動きを妨げることがなく、遊技媒体を良好な状態で流通させることができ、遊技機本来の遊技媒体の動きを十分に楽しむことが可能な遊技機とすることができる。

10

【1526】

また、上述したように、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除することができるので、遊技パネルの後側に装飾ユニットを配置することで前側のスペースが抑制された状態となっても、可及的に大きな装飾ユニットを配置することができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【1527】

態様8：態様7の構成において、

「前記遊技パネルは、

前記遊技領域内の正面視略中央に前後方向へ貫通した開口部を有した上で、

20

前記遊技パネルの前記開口部へ前側から取付けられると共に枠状に形成されたセンター役物を更に具備し、

該センター役物の枠状の上部に前記前装飾部材が備えられていると共に、該前装飾部材の後側に前記装飾ユニットが配置されている」ものであることを特徴とする。

【1528】

ここで、「センター役物」としては、「前後方向へ貫通した窓部と、窓部内へ遊技媒体の侵入を防止する周壁部と、周壁部の所定位置から進入した遊技媒体を転動させた後に遊技領域内へ還流させ窓部の下内縁に配置されたステージと、を備えたもの」、「前後方向へ貫通した窓部と、窓部内へ遊技媒体の侵入を防止する周壁部と、を備えたもの」、「前後方向へ貫通した窓部と、窓部内へ遊技媒体の侵入を防止する周壁部と、周壁部の所定位置に配置され遊技状態に応じて開閉可能な受入口（入賞口）と、を備えたもの」、等が挙げられる。また、センター役物の所定位置に発光装飾可能な装飾体や、可動可能な可動装飾体等を適宜備えても良い。

30

【1529】

態様8の構成によると、遊技パネルに、遊技領域内の正面視略中央の位置に前後方向へ貫通した開口部を形成した上で、遊技機に、遊技パネルの開口部へ前側から取付けられると共に枠状に形成されたセンター役物を更に備え、センター役物の枠状の上部に前装飾部材を備えると共に、前装飾部材の後側に装飾ユニットを配置したものである。

【1530】

これにより、枠状に形成されたセンター役物の上部に前装飾部材を配置すると共に、前装飾部材の後側に昇降する装飾ユニットを配置するようにしているので、装飾ユニットが上昇した位置の時には前装飾部材によって装飾体が遊技者側から視認不能な状態となり、装飾ユニットが下降した位置の時には装飾体が遊技者側から視認可能となると同時に装飾ユニットが正面視でセンター役物の枠内に位置した状態となり、装飾ユニット（装飾体）を大きく目立たせて遊技者の関心を強く引付けることができ、装飾ユニットによる可動演出や装飾演出等を楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

40

【1531】

また、遊技領域の略中央に枠状のセンター役物を備えるようにしており、従来のセンター役物を備えた遊技機と似たような雰囲気遊技機とすることができるので、従来の遊技機を見慣れた遊技者に対して違和感を与えて敬遠されてしまうのを抑制することができ、

50

遊技する遊技機として本遊技機を選択させ易くすることができる。

【1532】

態様9：遊技機において、

「遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域と、

該遊技領域における遊技者と対面する方向に対して直角方向の外周を区画する枠板状の前構成部材と、

該前構成部材の後側に配置されると共に前記遊技領域の後端を区画し、正面視略中央に前後方向へ貫通した開口部を有した板状の遊技パネルと、

該遊技パネルの前記開口部へ前側から取付けられると共に枠状に形成され、枠状の上部に所定の装飾が形成された前装飾部材を備えるセンター役物と、

該センター役物の枠内を通して前記遊技パネルの後側で遊技者側から視認可能に配置され、前記遊技領域内へ遊技媒体が打込まれることで変化する遊技状態に応じて所定の演出画像を表示可能な演出表示手段と、

該演出表示手段よりも前側で前記遊技パネルよりも後側に配置され、所定形状に形成された装飾体、該装飾体を遊技状態に応じて上下方向へ延びた軸周りに回転駆動させる回転駆動機構、及び左右方向略中央から後方へ突出した連結軸を、有する装飾ユニットと、

該装飾ユニットが上昇した一方の移動端の時には前記センター役物の前記前装飾部材によって前記装飾体が遊技者側から視認不能となり、前記装飾ユニットが下降した他方の移動端の時には前記前装飾部材によっても前記装飾体が遊技者側から視認可能となる位置との間で前記装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持するスライド機構と、

該スライド機構に支持された前記装飾ユニットの前記連結軸と連結される連結部、該連結部から長孔状に延びた方向へ前記装飾ユニットの正面視外側まで延出する棹状の第一アーム部、該第一アーム部における前記連結部とは反対側の基端側に形成され前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持される基端部、該基端部から前記第一アーム部とは異なる方向へ短く延出した棹状の第二アーム部、及び該第二アーム部の先端に形成されると共に該第二アーム部の延びる方向へ延びた長孔状のリンク接続部を有し、前記装飾ユニットよりも後側に配置されるアーム部材と、

該アーム部材の前記リンク接続部内へ摺動可能に挿入されるリンクピンを有し、該リンクピンを前後方向へ延びた軸周りに対して所定半径で公転させると共に、前記装飾ユニットの正面視外側の位置で回転可能とされたリンク部材と、

該リンク部材を遊技状態に応じて回転させて前記装飾ユニットを上下方向へ移動駆動させる移動駆動モータと

を具備し、

前記アーム部材は、

前記連結部が、前記装飾ユニットの前記連結軸を前記第一アーム部の延びる方向へ摺動可能、且つ、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持する長孔状に形成されていると共に、

前記リンク接続部における一方の端部が、前記リンク部材の前記リンクピンを所定方向へ公転させて前記装飾ユニットを最も上昇させた位置から更に前記所定方向へ若干公転させた位置で前記リンクピンと当接するように形成されている」

ものであることを特徴とする。

【1533】

態様9の構成によると、遊技機に、遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域と、遊技領域における遊技者と対面する方向に対して直角方向の外周を区画する枠板状の前構成部材と、前構成部材の後側に配置されると共に遊技領域の後端を区画し正面視略中央に前後方向へ貫通した開口部を有した板状の遊技パネルと、遊技パネルの開口部へ前側から取付けられると共に枠状に形成され、枠状の上部に所定の装飾が形成された前装飾部材を備えるセンター役物と、センター役物の枠内を通して遊技パネルの後側で遊技者側から視認可能に配置され、遊技領域内へ遊技媒体が打込まれることで変化する遊技状態に応じて所定の演出画像を表示可能な演出表示手段と、演出表示手段よりも前側で遊技パネ

ルよりも後側に配置され、所定形状に形成された装飾体、装飾体を遊技状態に応じて上下方向へ延びた軸周りに回転駆動させる回転駆動機構、及び左右方向略中央から後方へ突出した連結軸を、有する装飾ユニットと、装飾ユニットが上昇した一方の移動端の時にはセンター役物の前装飾部材によって装飾体が遊技者側から視認不能となり、装飾ユニットが下降した他方の移動端の時には前装飾部材によっても装飾体が遊技者側から視認可能となる位置との間で装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持するスライド機構と、スライド機構に支持された装飾ユニットの連結軸と連結される連結部、連結部から長孔状に延びた方向へ装飾ユニットの正面視外側まで延出する棹状の第一アーム部、第一アーム部における連結部とは反対側の基端側に形成され前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持される基端部、基端部から第一アーム部とは異なる方向へ短く延出した棹状の第二アーム部、及び第二アーム部の先端に形成されると共に第二アーム部の延びる方向へ延びた長孔状のリンク接続部を有し、装飾ユニットよりも後側に配置されるアーム部材と、アーム部材のリンク接続部内へ摺動可能に挿入されるリンクピンを有し、リンクピンを前後方向へ延びた軸周りに対して所定半径で公転させると共に装飾ユニットの正面視外側の位置で回転可能とされたリンク部材と、リンク部材を遊技状態に応じて回転させて装飾ユニットを上下方向へ移動駆動させる移動駆動モータと、を具備させた上で、アーム部材の連結部を、装飾ユニットの連結軸が第一アーム部の延びる方向へ摺動可能、且つ、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に支持することが可能な長孔状に形成すると共に、リンク接続部における一方の端部を、リンク部材のリンクピンを所定方向へ公転させて装飾ユニットを最も上昇させた位置から更に前記所定方向へ若干公転させた位置でリンクピンと当接するように形成したものである。

10

20

【1534】

これにより、センター役物における棹状の上部に配置された前装飾部材の後側且つ遊技パネルの後側に、装飾ユニットをスライド機構によって上下方向へスライド可能に支持した上で、装飾ユニットよりも正面視外側の位置で長く延びた第一アーム部と短く延びた第二アーム部とを有したアーム部材を回転可能に支持し、第一アーム部の先端の連結部に装飾ユニットの連結軸を連結すると共に、第二アーム部の先端のリンク接続部に移動駆動モータによって公転するリンク部材のリンクピンを挿入するようにしているので、遊技媒体を遊技領域内へ打込むことで変化する遊技状態に応じて、移動駆動モータによりリンク部材を回転駆動させてリンクピンを前後方向へ延びたリンク部材の回転軸周りに対して所定半径で公転させると、リンクピンがアーム部材における長孔状のリンク接続部内を摺動すると同時にリンクピンによってリンク接続部を所定方向へ押圧し、第二アーム部を介してアーム部材全体が基端部を中心に回転することとなり、基端部から第二アーム部よりも長く延びる第一アーム部の先端の連結部も回転することとなる。そして、アーム部材の連結部を、装飾ユニットの連結軸が摺動且つ回転可能な長孔状に形成しているので、アーム部材における第一アーム部の先端（連結部）が円弧状に回転すると、長孔状の連結部内を装飾ユニットの連結軸が摺動すると同時にアーム部材の連結部によって装飾ユニットの連結軸を押圧し、連結軸を介して装飾ユニットが昇降することとなる。従って、リンク部材や移動駆動モータ等の移動駆動機構を、装飾ユニットの後側から可及的に遠ざかった位置に配置しても、装飾ユニットを確実に昇降移動させることができ、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除することができるので、装飾ユニットの後側のスペースを可及的に小さくすることが可能となり、相対的に装飾ユニットを大きくすることができ、装飾ユニットを大型化して遊技者側から目立たせることができると共に、大型の装飾ユニットが移動することで遊技者を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

30

40

【1535】

また、連結部を介して装飾ユニットと連結される第一アーム部よりも、リンク接続部を介してアーム部材を回転させる第二アーム部を短く形成しているので、装飾ユニットの移動範囲をリンク部材におけるリンクピンの公転直径よりも大きくすることができ、大きく移動する装飾ユニットによって遊技者を驚かせることができると共に楽しませることがで

50

き、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1536】

また、スライド機構によって装飾ユニットを上下方向へスライド可能に支持しており、アーム部材における第一アーム部の先端（連結部）が円弧状に移動しても装飾ユニットを真直ぐ昇降させることができるので、装飾ユニットを円弧状に昇降させた場合と比較して、遊技者に対して装飾ユニットが何らかの回転に伴って移動しているのを判らないようにして装飾ユニットの昇降を自然な感じにすることが可能となり、装飾ユニットが不自然な動きをすることで遊技者の関心が装飾ユニットから離れてしまうのを回避させることができ、装飾ユニットの動き（昇降）を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

10

【1537】

更に、装飾ユニットを上下方向へ昇降移動させるようにしているので、左右方向へ移動させるようにした場合と比較して、装飾ユニットが遊技領域における左右方向の中央寄りの位置に配置されることとなり、左右の何れの側からも装飾ユニットを見易くすることができ、装飾ユニットの動きや装飾等を楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1538】

また、装飾ユニットが上昇する方向へ、リンクピンを公転させて装飾ユニットが最も上昇した位置、つまり、リンクピンが上死点に到達した位置から、更にリンクピンを同じ方向へ若干公転させた時に、リンクピンがアーム部材における長孔状のリンク接続部における一方の端部と当接するようにリンク接続部の長孔を形成しているので、装飾ユニットを上昇位置で停止させた場合、アーム部材の連結部を介して装飾ユニットからかかる荷重が、リンクピンをリンク接続部の一方の端部側へ公転させる方向へ作用しても、リンクピンがリンク接続部の一方の端部と当接しているため、リンクピンは公転することができず、アーム部材の回転（装飾ユニットの下降）が阻止された状態となり、装飾ユニットを上昇した位置に停止させ続けることができる。従って、装飾ユニットを上昇した位置で停止・保持させることができるので、移動駆動モータに余計な負荷をかけたり、ブレーキ機能を有したモータを用いたりする必要がなく、モータの不具合が発生し易くなるのを抑制することができると共に、モータが大型化するのを抑制して装飾ユニットの配置スペースを充分に確保することができ、相対的に装飾ユニットを大きくして上述した作用効果を確実に奏する遊技機とすることができる。

20

30

【1539】

また、装飾ユニットに、装飾体を遊技状態に応じて上下方向へ延びた軸周りに回転駆動させる回転駆動機構を備えるようにしているので、上下方向へ昇降移動する装飾ユニットの装飾体が回転することで、遊技者を驚かせることができると同時に、遊技者の関心を装飾ユニットへ強く引付けることができ、装飾ユニットによる可動演出を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、装飾体を上下方向へ延びた軸周りに回転させるようにしているので、回転させることで装飾体の後側も遊技者に見せることが可能となり、装飾体の見え方を大きく変化させることができ、遊技者の関心を強く引付けて飽き難くすることができると共に、装飾体の見え方を変化させることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めて興味が低下するのを抑制することができる。更に、上述したように、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除して装飾ユニットを可及的に大型化することができるので、装飾ユニット内に装飾体を回転させる回転駆動機構を問題なく配置することができ、回転する装飾体を備えた装飾ユニットを確実に具現化することができる。

40

【1540】

更に、杵状のセンター役物の上部に前装飾部材を配置すると共に、前装飾部材の後側に昇降する装飾ユニットを配置するようにしているので、装飾ユニットが上昇した位置の時には前装飾部材によって装飾体が遊技者側から視認不能な状態となり、装飾ユニットが下降した位置の時には装飾体が遊技者側から視認可能となると同時に装飾ユニットが正面視

50

でセンター役物の枠内に位置した状態となり、装飾ユニット（装飾体）を大きく目立たせて遊技者の関心を強く引付けることができ、装飾ユニットによる可動演出や装飾演出等を楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1541】

また、センター役物の後側で枠内を通して視認できる演出表示手段と遊技パネルとの間に装飾ユニットを配置するようにしており、装飾ユニットが前装飾部材の真後ろに位置する上昇した位置では、演出表示手段の演出画像を殆ど遮らない位置となり、センター役物の枠内に出現する下降した位置では、演出表示手段の演出画像を遮る位置となるので、センター役物の枠内へ下降させて演出表示手段の前面側へ移動させることで装飾ユニットを目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、装飾ユニットの動きや装飾等を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、演出表示手段の前面側へ装飾ユニットを昇降移動させることができるようにしているので、装飾ユニットの動きに合せた演出画像を演出表示手段に表示させることで、可動演出と演出画像とによるコラボレーション演出を行うことができ、多彩な演出によって飽き難くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

10

【1542】

更に、遊技領域の後端を区画する遊技パネルの後側に装飾ユニットを配置するようにしているので、装飾ユニットが遊技領域内に打込まれた遊技媒体の動きを妨げることがなく、遊技媒体を良好な状態で流通させることができ、遊技機本来の遊技媒体の動きを十分に楽しむことが可能な遊技機とすることができる。また、上述したように、装飾ユニットの真後ろからアーム部材を除いた移動駆動機構を排除することができるので、遊技パネルの後側に装飾ユニットを配置することで前側のスペースが抑制された状態となっても、可及的に大きな装飾ユニットを配置することができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

20

【1543】

態様10：態様1から態様9の何れか一つの遊技機において、パチンコ機であることを特徴とする。

ここで、パチンコ機とは、遊技者が遊技機に投入する媒体である投入媒体と、遊技者が行う実質的な遊技に用いられる媒体である遊技媒体とを同一のものとした遊技機であり、投入された例えば遊技球等の媒体を用いて遊技が行われるタイプの遊技機の一つである。具体的には、「操作ハンドルの操作に対応して遊技球を発射する発射装置と、多数の障害釘、役物、表示手段等の適宜の機器が組み込まれたり、始動入賞口、大入賞口、通過口、到達口等の遊技球が入球する適宜の入球口が設けられた遊技領域と、発射装置から遊技領域に遊技球を導くレールと、遊技領域に導かれた遊技球の入球口への入球に応じたり、複数の入球口への遊技球の入球態様に依拠して、所定数の遊技球を賞球として払い出す払出手段とを具備するもの」である。

30

【1544】

なお、パチンコ機としては、種々のタイプのものがあり、一般に「デジパチ機」と称されるものに代表される「入球口への入球状態を検出する入球状態検出手段（遊技状態検出手段として捉えることもできる）」と、入球状態検出手段によって入球が検出されると所定の抽選を行う抽選手段と、抽選手段の抽選結果に応じて特別図柄を変動させると共に変動を停止させる特別図柄表示手段とを備えたもの」や「加えて、特別図柄の変動中に、複数の図柄からなる図柄列を変動表示し、図柄列にて図柄を停止表示させたり、キャラクタや種々の物品等の表示物を描写し表示物を動作させたりする等によって適宜の演出表示を行う演出表示手段を更に具備するもの」、一般に「ハネモノ機」と称されるものに代表される「役物内での遊技球の振分けによって抽選を行う抽選手段を備えたもの」、一般に「アレパチ機」と称されるものに代表される「例えば16個等の所定個数の遊技球により1ゲームが行われ、1ゲームにおける複数の入球口への遊技球の入球態様に依拠して所定個数の遊技球の払出しを行うもの」等を例示することができる。

40

【1545】

50

態様10の構成によると、パチンコ機において、上述した態様のいずれかの作用効果を奏することができる。

【1546】

態様11：態様1から態様9までの何れか一つの遊技機において、パチスロ機であることを特徴とする。

ここで、パチスロ機とは、投入媒体であるメダルを投入し、メダルの投入後、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作によって、夫々複数の図柄が描かれた複数のリールを回転させる等して、各リール等によって構成された図柄列を変動表示させるとともに、その後、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に応じて各図柄列の変動表示を停止させる、といった遊技が遊技者によって行われるものである。換言すれば、停止操作機能付きのスロットマシーンとして捉えることができるものである。なお、所定時間が経過しても停止用操作手段が操作されない場合には、所定時間経過したことに応じて図柄列の変動表示を停止させるものであってもよい。そして、各図柄列の変動表示の停止時において、表示された単体の図柄が特定の図柄であったり、各図柄列にて表示された図柄の組合せが特定の組合せであったりする等、特定の条件を満たす場合に、満たされた条件に応じて所定個数のメダルを払出したり、遊技者が多量のメダルを獲得することができる遊技者に有利な特別有利状態を発生させたりするものである。

10

【1547】

態様11の構成によると、パチスロ機において、上述した態様のいずれかの作用効果を奏することができる。

20

【1548】

態様12：態様1から態様9までの何れか一つの遊技機において、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなることを特徴とする。

ここで、「パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機」とは、複数個（例えば5個）の遊技球を1単位の投入媒体とし、投入媒体を投入した後、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に応じて複数の図柄からなる図柄列を変動表示させるとともに、その後、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に応じて図柄列の変動を停止させるものである。なお、所定時間が経過しても停止用操作手段が操作されない場合には、所定時間経過したことに応じて図柄列の変動表示を停止させるものであってもよい。そして、各図柄列の変動表示の停止時において、表示された単体の図柄が特定の図柄であったり、各図柄列にて表示された図柄の組合せが特定の組合せであったりする等、特定の条件を満たす場合に、満たされた条件に応じて所定個数のメダルを払出したり、遊技者が多量のメダルを獲得することができる遊技者に有利な特別有利状態を発生させたりするものである。

30

【1549】

態様12の構成によると、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機において、上述した態様のいずれかの作用効果を奏することができる。

【1550】

本実施形態における液晶表示装置1900は上述の演出表示手段に、本実施形態の前ユニット2000におけるセンター役物2500のセンターロゴ装飾部材2520は上述の前装飾部材に、本実施形態の裏ユニット3000の上可動演出ユニット3300における上可動ユニット3310及び連結軸3366は上述の装飾ユニットに、本実施形態の上可動ユニット3310におけるキャラクタ体3311は上述の装飾体に、本実施形態の上可動ユニット3310における回転ギア3312、駆動ギア3314、及びキャラクタ体駆動モータ3315は上述の回転駆動機構に、夫々相当している。

40

【1551】

本実施形態の上可動演出ユニット3300の昇降ユニット3350におけるユニットベース3351の案内溝3351a、スライドロッド3352、スライド部材3353、昇降スライダ3354、ガイドローラ3355、及びスライダガイド3356は上述のスライド機構に、本実施形態の昇降ユニット3350における昇降駆動モータ3361は上述

50

の移動駆動モータに、本実施形態のカムリンクギア 3364 は上述のリンク部材に、本実施形態の昇降アーム 3365 は上述のアーム部材に、夫々相当している。

【1552】

更に、本実施形態における昇降アーム 3365 のアーム部 3365c は上述の第一アーム部に、本実施形態における昇降アーム 3365 の延出部 3365d は上述の第二アーム部に、本実施形態における昇降アーム 3365 の接続部 3365e は上述のリンク接続部に、夫々相当している。

【1553】

[6. 本実施形態の特徴的な作用効果]

このように、本実施形態のパチンコ機 1 によると、センター役物 2500 における枠状の上部に配置されたセンターロゴ装飾部材 2520 の後側且つ遊技パネル 1200 (パネル板 1210) の後側に、上可動演出ユニット 3300 の上可動ユニット 3310 を昇降ユニット 3350 におけるスライドロッド 3352 や昇降スライダ 3354 等のスライド機構によって上下方向へスライド可能に支持した上で、上可動ユニット 3310 よりも正面視外側の位置で長く延びたアーム部 3365c と短く延びた延出部 3365d とを有した昇降アーム 3365 を回動可能に支持し、アーム部 3365c の先端の連結部 3365b に上可動ユニット 3310 から延びた連結軸 3366 を連結すると共に、延出部 3365d の先端の接続部 3365e に昇降駆動モータ 3361 によって公転するカムリンクギア 3364 のリンクピン 3364b を挿入するようにしているので、遊技球を遊技領域 1100 内へ打込むことで変化する遊技状態に応じて、昇降駆動モータ 3361 によりカムリンクギア 3364 を回転駆動させてリンクピン 3364b を前後方向へ延びたカムリンクギア 3364 の回転軸周りに対して所定半径で公転させると、リンクピン 3364b が昇降アーム 3365 における長孔状の接続部 3365e 内を摺動すると同時にリンクピン 3364b によって接続部 3365e を所定方向へ押圧し、延出部 3365d を介して昇降アーム 3365 が基端部 3365a を中心に回動することとなり、基端部 3365a から延出部 3365d よりも長く延びるアーム部 3365c の先端の連結部 3365b も回動することとなる。そして、昇降アーム 3365 の連結部 3365b を、上可動ユニット 3310 の連結軸 3366 が摺動且つ回動可能な長孔状に形成しているので、昇降アーム 3365 におけるアーム部 3365c の先端 (連結部 3365b) が円弧状に回動すると、長孔状の連結部 3365b 内を上可動ユニット 3310 の連結軸 3366 が摺動すると同時に昇降アーム 3365 の連結部 3365b によって上可動ユニット 3310 の連結軸 3366 を押圧し、連結軸 3366 を介して上可動ユニット 3310 が昇降することとなる。従って、カムリンクギア 3364 や昇降駆動モータ 3361 等の移動駆動機構 (昇降機構 3360) を、上可動ユニット 3310 の後側から可及的に遠ざかった位置に配置しても、上可動ユニット 3310 を確実に昇降移動させることができ、上可動ユニット 3310 の真後ろから昇降アーム 3365 の一部を除いた昇降機構 3360 を排除することができるので、上可動ユニット 3310 の後側のスペースを可及的に小さくすることが可能となり、相対的に上可動ユニット 3310 を大きくすることができ、上可動ユニット 3310 を大型化して遊技者側から目立たせることができると共に、大型の上可動ユニット 3310 が移動することで遊技者を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1554】

また、連結部 3365b を介して上可動ユニット 3310 と連結されるアーム部よりも、接続部 3365e を介して昇降アーム 3365 を回動させる延出部 3365d を短く形成しているので、上可動ユニット 3310 の昇降範囲をカムリンクギア 3364 におけるリンクピン 3364b の公転直径よりも大きくすることができ、大きく昇降移動する上可動ユニット 3310 によって遊技者を驚かせることができると共に楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1555】

また、スライドロッド 3352 やガイドローラ 3355 等のスライド機構によって上可

10

20

30

40

50

動ユニット 3310 を上下方向へスライド可能に支持しており、昇降アーム 3365 におけるアーム部 3365c の先端（連結部 3365b）が円弧状に移動しても上可動ユニット 3310 を真直ぐ昇降させることができるので、上可動ユニット 3310 を円弧状に昇降させた場合と比較して、遊技者に対して上稼動ユニット 3310 が何らかの回転に伴って移動しているのを判らないようにして上可動ユニット 3310 の昇降を自然な感じにすることが可能となり、上可動ユニット 3310 が不自然な動きをすることで遊技者の関心が上可動ユニット 3310 から離れてしまうのを回避させることができ、上可動ユニット 3310 の動き（昇降）を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1556】

10

更に、上可動ユニット 3310 を上下方向へ昇降移動させるようにしているので、左右方向へ移動させるようにした場合と比較して、上可動ユニット 3310 が遊技領域 1100 における左右方向の中央寄りの位置に配置されることとなり、左右の何れの側からも上可動ユニット 3310 を見易くすることができ、上可動ユニット 3310 の動きや装飾等をより楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1557】

また、上可動ユニット 3310 が上昇する方向へ、カムリンクギア 3364 のリンクピン 3364b を公転させて上可動ユニット 3310 が最も上昇した位置、つまり、リンクピン 3364b が見かけ上の上死点に到達した位置から、更にリンクピン 3364b を同じ方向へ若干公転させた時に、リンクピン 3364b が昇降アーム 3365 における長孔状の接続部 3365e における一方の端部（回動中心側の端部）と当接するように接続部 3365e の長孔を形成しているので、上可動ユニット 3310 を上昇位置で停止させた場合、昇降アーム 3365 の連結部 3365a を介して上可動ユニット 3310 からかかる荷重が、リンクピン 3364b を接続部 3365e の一方の端部側へ公転させる方向へ作用しても、リンクピン 3364b が接続部 3365e の一方の端部と当接しているため、リンクピン 3364b は公転することができず、昇降アーム 3365 の回動（上可動ユニット 3310 の下降）が阻止された状態となり、上可動ユニット 3310 を上昇した位置に停止させ続けることができる。従って、上可動ユニット 3310 を上昇した位置で停止・保持させることができるので、昇降駆動モータ 3361 に余計な負荷をかけたり、ブレーキ機能を有したモータを用いたりする必要がなく、モータの不具合が発生し易くなるのを抑制することができると共に、モータが大型化するのを抑制して上可動ユニット 3310 の配置スペースを十分に確保することができ、相対的に上可動ユニット 3310 を大きくして上述した作用効果を確実に奏するパチンコ機 1 とすることができる。

20

30

【1558】

また、上可動ユニット 3310 に、キャラクタ体 3311 を遊技状態に応じて上下方向へ延びた軸周りに回転駆動させるキャラクタ体駆動モータ 3315 等の回転駆動機構を備えるようにしているので、昇降移動する上可動ユニット 3310 のキャラクタ体 3311 が回転することで、遊技者を驚かせることができると同時に、遊技者の関心を上可動ユニット 3310 へ強く引付けことができ、上可動ユニット 3310 による可動演出を楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、キャラクタ体 3311 を上下方向へ延びた軸周りに回転させるようにしているので、回転させることでキャラクタ体 3311 の後側も遊技者に見せることが可能となり、キャラクタ体 3311 の見え方を大きく変化させることができ、遊技者の関心を強く引付けて飽き難くすることができると共に、キャラクタ体 3311 の見え方を変化させることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めて興味が低下するのを抑制することができる。更に、上述したように、上可動ユニット 3310 の真後ろから昇降アーム 3365 の一部を除いた昇降機構 3360 を排除して上可動ユニット 3310 を可及的に大型化することができるので、上可動ユニット 3310 内にキャラクタ体 3311 を回転させるキャラクタ体駆動モータ 3315 等の回転駆動機構を問題なく配置することができ、回転するキャラクタ体 3311 を備えた上可動ユニット 3310 を確

40

50

実に具現化することができる。

【1559】

更に、枠状のセンター役物2500の上部にセンターロゴ装飾部材2520を配置すると共に、センターロゴ装飾部材2520の後側に昇降する上可動ユニット3310を配置するようにしているので、上可動ユニット3310が上昇した位置の時にはセンターロゴ装飾部材2520によってキャラクタ体3311等が遊技者側から視認不能な状態となり、上可動ユニット3310が下降した位置の時にはキャラクタ体3311等が遊技者側から視認可能となると同時に上可動ユニット3310が正面視でセンター役物2500の枠内に位置した状態となり、上可動ユニット3310（キャラクタ体3311）を大きく目立たせて遊技者の関心を強く引付けることができ、上可動ユニット3310による可動演出や装飾演出等を楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

10

【1560】

また、センター役物2500の後側で枠内を通して視認できる液晶表示装置1900と遊技パネル1200（パネル板1210）との間に上可動ユニット3310を配置するようにしており、上可動ユニット3310がセンターロゴ装飾部材2520の真後ろに位置する上昇した位置では、液晶表示装置1900の演出画像を殆ど遮らない位置となり、センター役物2500の枠内に出現する下降した位置では、液晶表示装置1900の演出画像（の一部）を遮る位置となるので、センター役物2500の枠内へ下降させて液晶表示装置1900の前面側へ移動させることで上可動ユニット3310を目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、上可動ユニット3310の動きや装飾等を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、液晶表示装置1900の前面側へ上可動ユニット3310を昇降移動させることができるようにしているので、上可動ユニット3310の動きに合わせた演出画像を液晶表示装置1900に表示させることで、可動演出と演出画像とによるコラボレーション演出を行うことができ、多彩な演出によって飽き難くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

20

【1561】

また、遊技領域1100の後端を区画する遊技パネル1200（パネル板1210）の後側に上可動ユニット3310を配置するようにしているので、上可動ユニット3310が遊技領域1100内に打込まれた遊技球の動きを妨げることがなく、遊技球を良好な状態で流下させることができ、パチンコ機本来の遊技球の動きを十分に楽しむことが可能なパチンコ機1とすることができる。また、上述したように、上可動ユニット3310の真後ろから昇降アーム3365の一部を除いた昇降機構3360を排除することができるので、遊技パネル1200の後側に上可動ユニット3310を配置することで前側のスペースが抑制された状態となっても、可及的に大きな上可動ユニット3310を配置することができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

30

【1562】

更に、本実施形態のパチンコ機1によると、遊技状態に応じて液晶表示装置1900の外周を囲むように配置された裏ユニット3000における左右可動演出ユニット3400の6つの回転体ユニット3410を、正面視で液晶表示装置1900の略中央から遠ざかる方向へ全てスライドさせた状態とすると、液晶表示装置1900の視認可能範囲を最も広くすることができ、6つの回転体ユニット3410を正面視で液晶表示装置1900の略中央に接近する方向へ全てスライドさせた状態とすると、液晶表示装置1900の視認可能範囲を最も狭くすることができる。また、6つの回転体ユニット3410のうちスライドさせる回転体ユニット3410を適宜選択することで、液晶表示装置1900の視認可能範囲の形状を様々に変化させることができる。従って、6つの回転体ユニット3410が可動するパターンや、6つの回転体ユニット3410による液晶表示装置1900の視認可能範囲の大きさや形状等のパターンを多様化することができるので、回転体ユニット3410と液晶表示装置1900とによって多彩な演出を行うことができ、飽き難くして遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

40

50

【1563】

また、6つの回転体ユニット3410を、正面視で液晶表示装置1900の略中央を通る軸線方向へ放射状にスライドさせるようにしているので、回転体ユニット3410を中央側へスライドさせると遊技者の関心を中央側へ向けさせることができ、回転体ユニット3410を中央側から遠ざかる方向へスライドさせると遊技者の関心を外側或いは液晶表示装置1900側へ向けさせることができ、遊技者に対して様々な異なる刺激を与えて興趣が低下するのを抑制することができる。

【1564】

また、6つの回転体ユニット3410の装飾（外観）を、夫々正面視で同一形状としているので、6つの回転体ユニット3410をスライドさせて液晶表示装置1900の視認可能範囲を変化させても、回転体ユニット3410側の雰囲気の変化を少なくすることが可能となり、遊技者の関心を視認可能範囲側、つまり、液晶表示装置1900側へ引付けることができ、表示範囲の変化した演出画像を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

10

【1565】

更に、6つの回転体ユニット3410の形状を夫々同じ形状としているので、各回転体ユニット3410を単独でスライド（可動）させると共に、液晶表示装置1900にスライドさせた回転体ユニット3410と対応する演出画像を表示させることで、回転体ユニット3410と演出画像とによるコラボレーション演出を行うことができる。そして、スライド（可動）させる回転体ユニット3410を適宜選択することで、異なる位置で同じような内容のコラボレーション演出を行うことができるので、これまでのパチンコ機には無い演出を遊技者に提示することができ、遊技者を驚かせることができると共に、楽しませることができ、遊技者の関心を強く引付けて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

20

【1566】

また、左右可動演出ユニット3400の回転体ユニット3410に、遊技状態に応じて発光可能な回転ベット装飾基板3416やベース装飾基板3428を備えるようにしており、装飾基板3416、3428によって回転体ユニット3410を発光装飾させることができるので、回転体ユニット3410の発光装飾によって回転体ユニット3410を目立たせることができ、遊技者の関心を回転体ユニット3410に引付けることができると共に、回転体ユニット3410に注目させることで回転体ユニット3410の動きや装飾を楽しませることができ、遊技者の興趣が低下するのを抑制することができる。また、液晶表示装置1900の外周を囲うように配置された6つの回転体ユニット3410に装飾基板3416、3428を備えるようにしているので、装飾基板3416、3428によって各回転体ユニット3410を発光装飾させると、液晶表示装置1900（視認可能範囲）の外周を枠状に発光させることが可能となり、遊技者の関心を視認可能領域内へ引付けることができ、視認可能領域内に表示された演出画像を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

30

【1567】

また、回転体ユニット3410の数を6つとしているので、一つ当たりの回転体ユニット3410の大きさを目立つような適度な大きさとすることができ、遊技者の関心を夫々の回転体ユニット3410に引付けることができると共に、違いの判り易い多様な演出パターン（可動パターン）を具現化することができ、飽き難くして遊技者の興趣が低下するのを抑制することができる。

40

【1568】

更に、回転体ユニット3410を正面視で液晶表示装置1900の略中央を通る軸線方向に対してスライド可能に支持すると共に、遊技状態に応じて回転装飾体3410を移動駆動させるスライドユニット3500を、備えるようにしており、スライドユニット3500によって回転体ユニット3410を、液晶表示装置1900の略中央を通る軸線方向へスライドさせることができるので、回転体ユニット3410に自身をスライドさせるた

50

めの機構を備えるようにした場合と比較して、回転体ユニット3410が大きくなるのを防止することができ、最適な大きさの回転体ユニット3410とすることができると共に、回転体ユニット3410に回転装飾体3410Aを回転させたりアーム部材3423を揺動（回動）させたりする機構を問題なく組込むことができるので、スライド以外の動きが可能な回転体ユニット3410可動体とすることができ、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機1とすることができる。

【1569】

また、液晶表示装置1900の略中央を通る軸線方向へスライド可能とされた回転体ユニット3410の回転装飾体3410Aを回転させると、一对のアーム部材3423が互いに接近又は離反する方向へ進退（回動）することとなり、一つの回転体ユニット3410でスライドと回転と進退との三つの動きをすることができるので、回転体ユニット3410の可動演出を目立たせて遊技者の関心を強く引付けることができ、回転体ユニット3410の動きを楽しませて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。また、上述したような三つの動きをする6つの回転体ユニット3410で、液晶表示装置1900の外周を囲むようにしているので、各回転体ユニット3410を可動させることで、遊技領域1100内の雰囲気を変化させることができ、遊技者に何か良いことがあるのではないかと遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、本パチンコ機1を目立たせることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機1を選択させ易くすることができる。

【1570】

更に、本実施形態のパチンコ機1によると、裏ユニット3000の左右可動演出ユニット3400の回転駆動モータ3412を回転駆動させると、回転装飾体3410Aを回転可能に支持する回転体ベース3411に対して回転不能に支持された固定ギア部材3418と噛合する回転装飾体3410Aの可動リンクギア3421が、固定ギア部材3418の固定ギア3418bに沿って回転装飾体3410Aの回転軸を中心として公転すると共に自転し、この可動リンクギア3421が自転することで可動リンクギア3421のリンクピン3421aが可動リンクギア3421の自転軸を中心に公転することとなる。そして、このリンクピン3421aの公転によってリンクピン3421aが摺動部材3422の第一リンク溝3422a内を摺動すると共にリンクピン3421aに押されて摺動部材3422が回転台後部材3420及び回転台前部材3424に対してスライドし、回転装飾体3410Aと共に回転する摺動部材3422が進退することとなる。また、摺動部材3422が進退することで摺動部材3422の第二リンク溝3422bに挿入されたアーム部材3423の挿入ピン3423aが、摺動部材3422のスライド方向へ移動すると同時に第二リンク溝3422b内を摺動するように、回転台後部材3420及び回転台前部材3424に軸支されたアーム部材3423の軸部3423cを中心に回動することとなり、駆動アーム部3423bの回動と共に駆動アーム部3423bの他端側から延出した作動アーム部3423dも同じ方向へ回動し、進退部材としての作動アーム部3423d（アーム部材3423）が回転装飾体3410Aの回転軸に対して接近及び離反する方向へ進退することとなる。従って、回転駆動モータ3412によって回転装飾体3410Aを回転駆動させると、回転装飾体3410Aと一緒に回転する摺動部材3422が直線的にスライドして進退すると共にアーム部材3423が回動して進退するので、回転中の回転装飾体3410Aに動きを付与することができ、回転中の回転装飾体3410Aを目立たせることができると共に、遊技者を回転装飾体3410Aに注目させることができ、回転装飾体3410Aの動きを楽しませて遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1571】

一方、回転装飾体3410A、回転駆動モータ3412、固定ギア部材3418、回転台後部材3420及び回転台前部材3424、可動リンクギア3421、摺動部材3422、アーム部材3423等を支持する回転体ベース3411は、上端が高剛性のスライドシャフト3521、3531、3541、3561、3571、3581にスライド可能

に支持されると共に、下端がユニットベース3511、3551のレール部3511f、3551fによって前後方向への移動が規制されたスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580の前面に取付けられており、スライドシャフト3521、3531、3541、3561、3571、3581等を支持するユニットベース3511、3551に取付けられたスライド駆動モータ3525、3535、3545、3565、3575、3585により第二伝達ギア3517、3557を回転駆動させると、第二伝達ギア3517、3557と噛合したスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580のラックギア3520a、3530a、3540a、3560a、3570a、3580aによってスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580がスライドシャフト3521、3531、3541、3561、3571、3581に沿って左右方向へ移動することとなる。従って、回転駆動モータ3412によって回転する回転装飾体3410Aを、スライド駆動モータ3525、3535、3545、3565、3575、3585によってスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580を介して左右方向へ移動させることができるので、回転する回転装飾体3410Aが左右方向へ移動することで、回転装飾体3410Aに対して遊技者の関心を強く引付けることができ、回転装飾体3410Aの回転や左右方向への移動を楽しませることができると共に、回転装飾体3410Aの動きを認識することで何か良いことがあるのではないかとと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。また、進退部材としてのアーム部材3423が進退することで回転中の回転装飾体3410Aの形状を変化させることが可能となり、従来のパチンコ機に備えられた回転体とは明らかに異なる形態の回転装飾体3410A（回転体）を遊技者に見せることができ、遊技者を驚かせることができると共に、回転装飾体3410Aの回転演出に遊技者の関心を強く引付けることができ、遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1572】

そして、この回転装飾体3410Aと回転駆動モータ3412とを支持する回転体ベース3411が取付けられるスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580の上端側を、高剛性のスライドシャフト3521、3531、3541、3561、3571、3581でスライド可能に支持しているので、回転駆動モータ3412により回転装飾体3410Aを回転させることで回転軸に対して振動するような力が作用しても、回転装飾体3410Aから作用する力によってスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580（回転体ベース3411）が振動したり揺れたりするのを防止することができ、スライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580が回転装飾体3410Aの回転面に沿った方向へブレるのを防止することができる。また、ユニットベース3511、3551のレール部3511f、3551fによってスライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580の下端側が前後方向へ移動するのを規制しているので、回転装飾体3410Aが前後方向へブレるのも防止することができる。従って、回転装飾体3410Aによる可動演出の際に、回転装飾体3410Aがブレながら回転するのを防止することができるので、回転している回転装飾体3410Aの見栄えを良くすることができ、回転装飾体3410Aの回転演出に対する視覚効果を高めることができると共に、遊技者に対して回転装飾体3410Aの回転演出を問題なく楽しませることができ、遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1573】

また、回転装飾体3410Aや回転駆動モータ3412等を備えた回転体ベース3411を、スライドベース3520、3530、3540、3560、3570、3580を介して高剛性のスライドシャフト3521、3531、3541、3561、3571、3581でスライド可能に支持するようにしているので、回転体ベース3411からかかる荷重が大きくなっても、スライドシャフト3521、3531、3541、3561、

3 5 7 1, 3 5 8 1を曲がり難くすることができ、重量の重い回転体ベース3 4 1 1（回転体ユニット3 4 1 0）でも問題なくスライドさせることができる。従って、回転体ベース3 4 1 1に回転装飾体3 4 1 0 A、回転駆動モータ3 4 1 2、摺動部材3 4 2 2等を備えて、回転体ベース3 4 1 1からスライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1にかかる荷重を増加させても、回転体ベース3 4 1 1（回転装飾体3 4 1 0 A）を問題なく左右方向へスライドさせることができ、上述した作用効果を確実に奏するものとする。また、摺動部材3 4 2 2やアーム部材3 4 2 3を進退させることで回転装飾体3 4 1 0 Aの重心位置が変化するようにしても、回転装飾体3 4 1 0 Aを問題なく回転させることができると共に回転装飾体3 4 1 0 Aを備えた回転体ベース3 4 1 1がブレるのを防止することができるので、回転装飾体3 4 1 0 Aに摺動部材3 4 2 2やアーム部材3 4 2 3を問題なく備えることができ、回転中に形状の変化する回転装飾体3 4 1 0 Aを備えたパチンコ機1を確実に具現化することができる。

10

【1 5 7 4】

更に、回転体ベース3 4 1 1が取付けられるスライドベース3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0の上端側を高剛性のスライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1で支持するようにしており、蓋然的に、回転体ベース3 4 1 1側の重心がスライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1よりも下側に位置することとなり、回転装飾体3 4 1 0 Aや回転駆動モータ3 4 1 2等を備えた回転体ベース3 4 1 1（スライドベース3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0）を上側から吊持支持するような状態となるので、スライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1によりスライドベース3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0を比較的安定した状態で支持することができ、スライドベース3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0をスムーズにスライドさせることができる。

20

【1 5 7 5】

また、上述したように、偏芯した回転装飾体3 4 1 0 Aを問題なく左右方向へ移動させることができると共に回転させることができるので、回転装飾体3 4 1 0 Aの形状として、例えば、一見しただけでは回転するものと認識できないような形状（例えば、キャラクタを模したフィギュア、アイテムを模したもの、等）とすることが可能となり、遊技者が単なる飾りと思っていたものが、左右方向へ移動したり回転したりすることで驚かせることができ、回転装飾体3 4 1 0 Aに強く注目させて回転装飾体3 4 1 0 Aの動きを楽しませることができる他に、他のパチンコ機との差別化を図ることができ、遊技者の関心を本パチンコ機1に引き付け易くすることができる。

30

【1 5 7 6】

また、高剛性のスライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1の両端を金属板により形成したシャフトブラケット3 5 2 2, 3 5 3 2, 3 5 4 2, 3 5 6 2, 3 5 7 2, 3 5 8 2で支持してユニットベース3 5 1 1, 3 5 5 1に取付けるようにしているので、ユニットベース3 5 1 1, 3 5 5 1に対してスライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1を直接取付けるようにした場合と比較して、スライドベース3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0（回転体ベース3 4 1 1側）からかかる荷重を、スライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1を介して金属板のシャフトブラケット3 5 2 2, 3 5 3 2, 3 5 4 2, 3 5 6 2, 3 5 7 2, 3 5 8 2で支持することができ、ユニットベース3 5 1 1, 3 5 5 1の材質に関係なくスライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1を強固に固定して上述した作用効果を確実に奏するものとする。

40

【1 5 7 7】

更に、スライドシャフト3 5 2 1, 3 5 3 1, 3 5 4 1, 3 5 6 1, 3 5 7 1, 3 5 8 1に対してスライド可能に支持されたスライドベース3 5 2 0, 3 5 3 0, 3 5 4 0, 3 5 6 0, 3 5 7 0, 3 5 8 0の前側に回転体ベース3 4 1 1を取付けることで、回転体ベ

50

ース 3411 をスライド可能に支持させるようにしているので、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 にスライド可能な組立てたスライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 に対して、回転装飾体 3410A や回転駆動モータ 3412 等を取付けた回転体ベース 3411 を取付ければ良く、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 とスライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 の組立作業と、回転装飾体 3410A 等と回転体ベース 3411 の組立作業とを別々に行うことができ、組立作業性を向上させてコストが増加するのを抑制することができる。

【1578】

また、スライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 を介して回転体ベース 3411 をスライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 に支持させるようにしているので、回転装飾体 3410A 等の回転体ベース 3411 側で不具合が発生した場合、スライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 から回転体ベース 3411 を取外すことで簡単に回転体ベース 3411 側（回転体ユニット 3410）を交換したりメンテナンスしたりすることができ、不具合を早期に解消させてパチンコ機 1 の稼働率を高めることができると共に、不具合の発生による遊技の中断を早期に解消させて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

【1579】

また、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 の延びた方向へ離間した一对のスライド受部 3520a, 3530a, 3540a, 3560a, 3570a, 3580a で、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 に対してスライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580（回転体ベース 3411）を支持すると共に、一对のスライド受部 3520a, 3530a, 3540a, 3560a, 3570a, 3580a を、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 の延びた方向の全長に対して $1/6 \sim 1/2$ の距離離間させるようにしているので、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 に対するガタ付を可及的に少なくできると同時に、スライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580（回転体ベース 3411）の移動距離を可及的に大きくことができ、回転装飾体 3410A（回転体ユニット 3410）をスムーズに左右方向へスライドさせることができる。

【1580】

更に、上述したように、スライドシャフト 3521, 3531, 3541, 3561, 3571, 3581 によってスライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 を吊持支持しており、スライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 にかかる荷重が、スライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 のラックギア 3520b, 3530b, 3540b, 3560b, 3570b, 3580b を介して第二伝達ギア 3517, 3557 に作用するのを防止することができるので、ラックギア 3520b, 3530b, 3540b, 3560b, 3570b, 3580b と第二伝達ギア 3517, 3557 との噛み合わせが変化して第二伝達ギア 3517, 3557 が回転し難くなったり空転してしまったりしてスライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580（回転体ベース 3411）を移動させることができなくなる不具合が発生するのを防止することができ、スライドベース 3520, 3530, 3540, 3560, 3570, 3580 を確実に左右方向へ移動させることができる。

【1581】

また、摺動部材 3422 を、第一リンク溝 3422a の長手方向中央を通り第一リンク溝 3422a の延びる方向に対して直角方向へ延びた法線が、回転装飾体 3410A の回転軸心を通るように配置すると共に、摺動部材 3422 に、その法線の両側にアーム部材

10

20

30

40

50

３４２３を進退（回動）させるための第二リンク溝３４２２ｂを備えているので、法線の両側にアーム部材３４２３を備えることが可能となり、一对のアーム部材３４２３が進退することで回転中の回転装飾体３４１０Ａの動きをより複雑なものとして目立たせることができ、遊技者に対して回転装飾体３４１０Ａの動きをより楽しませることができる。

【１５８２】

また、回転装飾体３４１０Ａに、摺動部材３４２２の前面を被覆する回転ヘッド３４１５を備えるようにしているので、回転ヘッド３４１５によって摺動部材３４２２ゆアーム部材３４２３を進退（回動）させるための機構を隠すことが可能となり、回転装飾体３４１０Ａの見栄えを良くすることができ、回転装飾体３４１０Ａの装飾性を高めて遊技者の興味が低下するのを抑制することができる。

10

【１５８３】

以上、「装飾ユニット、アーム部材、リンク部材、または、移動駆動モータを具備する」という観点から抽出された態様について説明したが、この観点からは、これらの態様に限らず、他の種々の態様を抽出可能である。また、上述の種々の態様あるいは態様の一部の構成を、本明細書で説明されている他の態様と組み合わせてもよい。また、抽出された態様あるいは態様の一部の構成は、他の種々の態様、演出例（あるいは、種々の演出例を実現するという観点から抽出される態様）に適用してもよい。

【１５８４】

以上、本実施形態から抽出される種々の態様について説明したが、それらの態様あるいは態様の一部の構成を、本明細書で説明されている他の態様と組み合わせてもよい。また、抽出された態様あるいは態様の一部の構成は、他の種々の態様、演出例（あるいは、種々の演出例を実現するという観点から抽出される態様）に適用してもよい。

20

【１５８５】

また、種々の観点から抽出される種々の態様（技術思想）について説明したが、上述の種々の態様あるいは態様の一部の構成を、本明細書で説明されている他の態様と組み合わせてもよい。また、上述の種々の態様で説明されている構成や変形を、本明細書で説明されている他の態様に適用してもよい。

【１５８６】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

30

【１５８７】

すなわち、上記実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【符号の説明】

【１５８８】

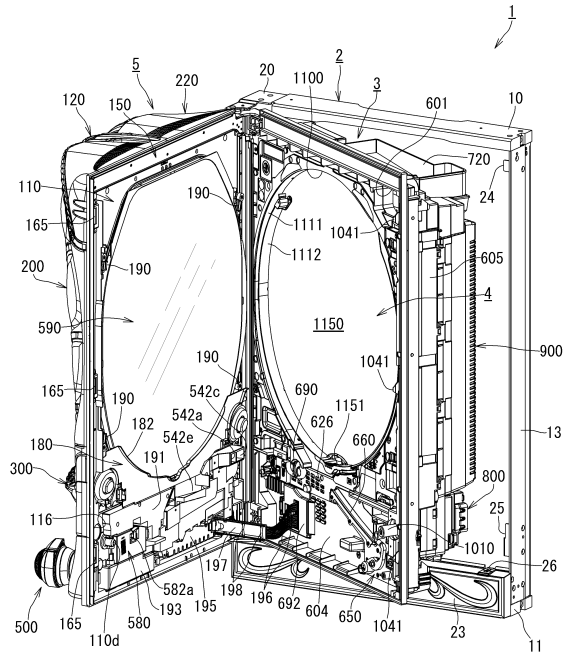
- １ パチンコ機
- ２ 外枠
- ３ 本体枠
- ４ 遊技盤
- ５ 扉枠
- １１００ 遊技領域
- １１１０ 前構成部材
- １２００ 遊技パネル
- １２１０ パネル板
- １２２０ パネルホルダ
- １９００ 液晶表示装置
- ２０００ 表ユニット

40

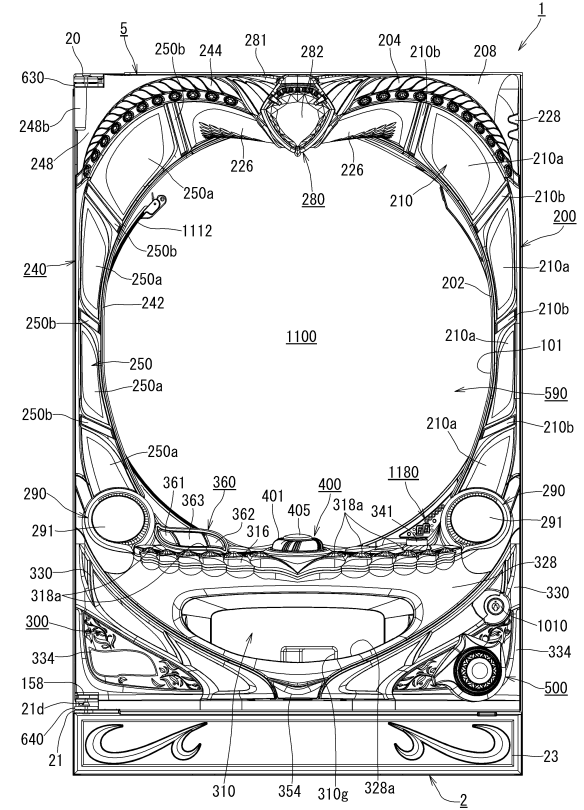
50

2 5 0 0	センター役物	
2 5 0 1	窓部	
2 5 0 2	フレンジ部	
2 5 2 0	センターロゴ装飾部材（前装飾部材）	
3 0 0 0	裏ユニット	
3 0 0 1	裏箱	
3 3 0 0	上可動演出ユニット	
3 3 1 0	上可動ユニット（装飾ユニット）	
3 3 1 1	キャラクタ体（装飾体）	
3 3 1 2	回転ギア（回転駆動機構）	10
3 3 1 3	中間ギア（回転駆動機構）	
3 3 1 4	駆動ギア（回転駆動機構）	
3 3 1 5	キャラクタ体駆動モータ（回転駆動機構）	
3 3 1 6	キャラクタベース	
3 3 1 7	装飾板	
3 3 3 0	背面装飾部材（装飾ユニット）	
3 3 5 0	昇降ユニット	
3 3 5 1	ユニットベース	
3 3 5 1 a	案内溝（スライド機構）	
3 3 5 2	スライドロッド（スライド機構）	20
3 3 5 3	スライド部材（スライド機構）	
3 3 5 4	昇降スライダ（スライド機構）	
3 3 5 5	ガイドローラ（スライド機構）	
3 3 5 6	スライダガイド（スライド機構）	
3 3 6 0	昇降機構	
3 3 6 1	昇降駆動モータ（移動駆動モータ）	
3 3 6 2	駆動ギア	
3 3 6 3	減速ギア	
3 3 6 4	カムリンクギア（リンク部材）	
3 3 6 4 b	リンクピン	30
3 3 6 5	昇降アーム（アーム部材）	
3 3 6 5 a	基端部	
3 3 6 5 b	連結部	
3 3 6 5 c	アーム部（第一アーム部）	
3 3 6 5 d	延出部（第二アーム部）	
3 3 6 5 e	接続部（リンク接続部）	
3 3 6 6	連結軸（装飾ユニット）	
3 3 6 7	連結摺動部材	

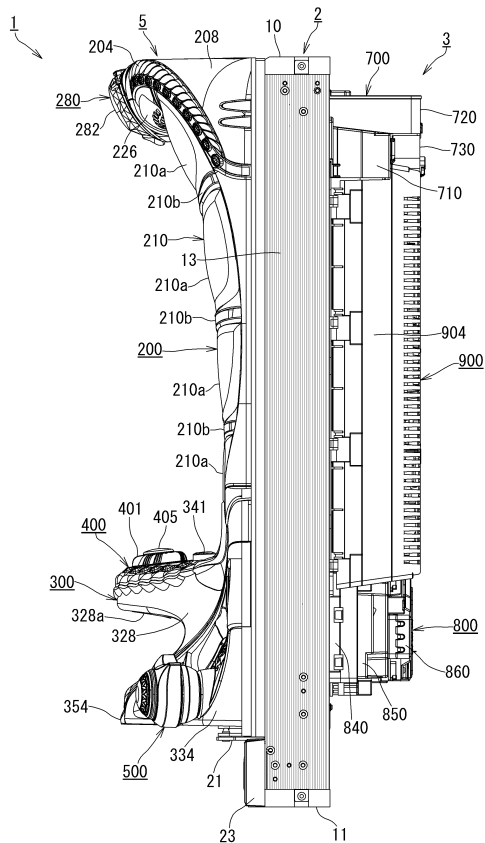
【図 1】



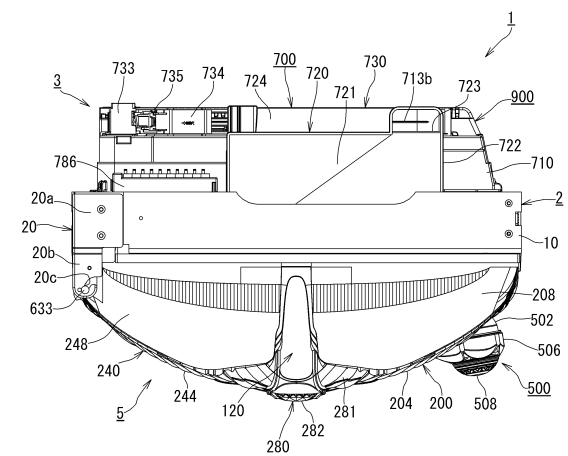
【図 2】



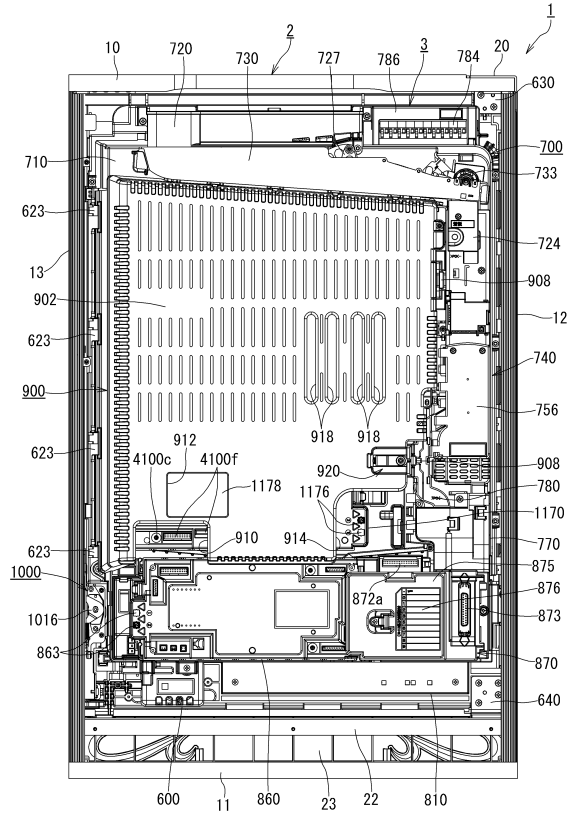
【図 3】



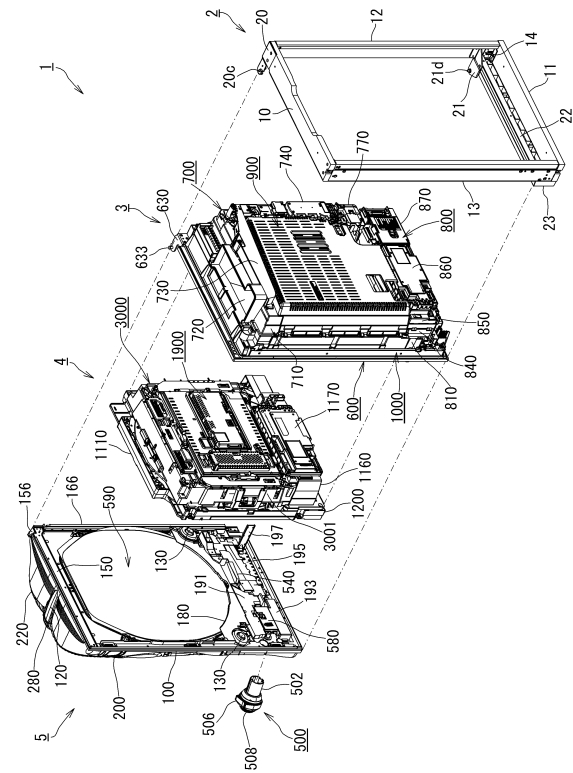
【図 4】



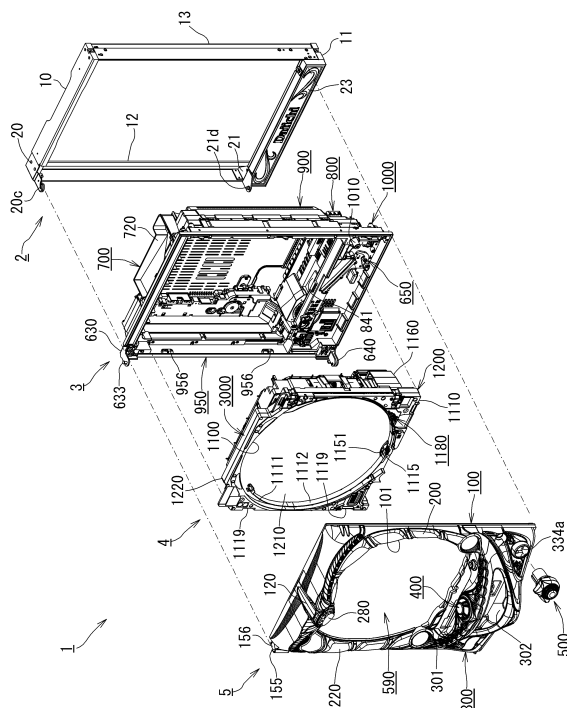
【図 5】



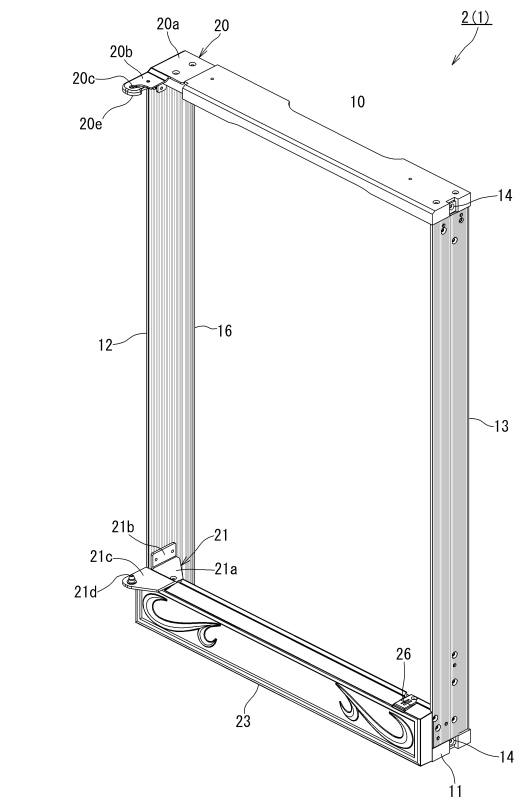
【図 6】



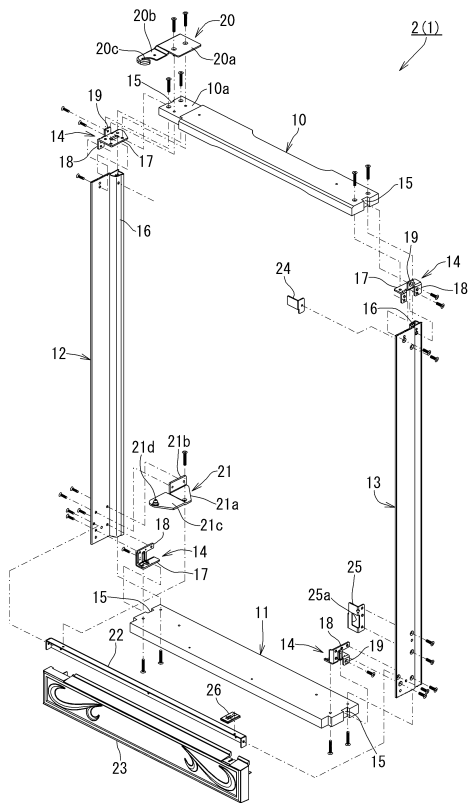
【図 7】



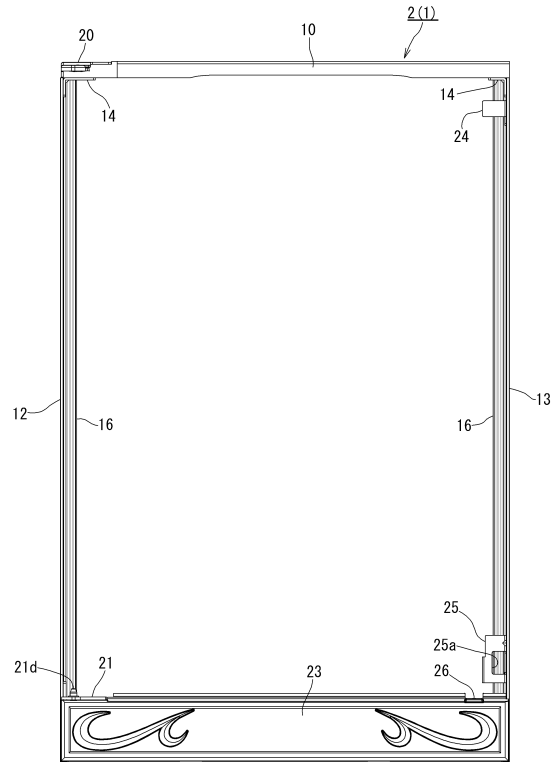
【図 8】



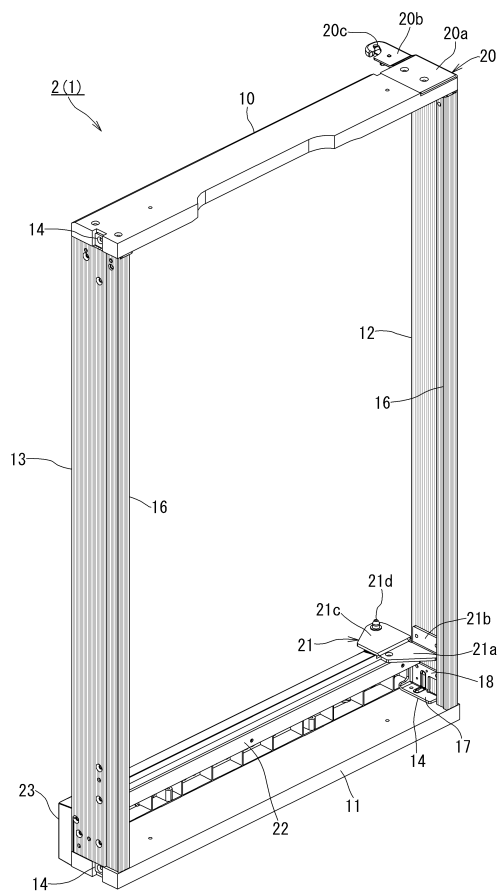
【図 9】



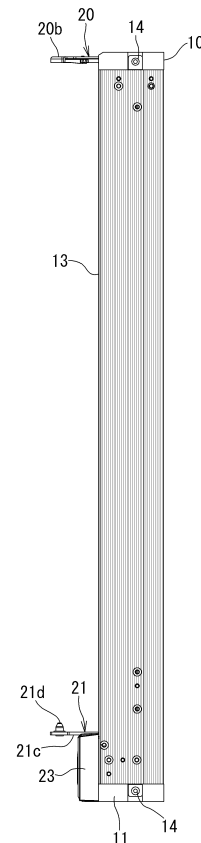
【図 10】



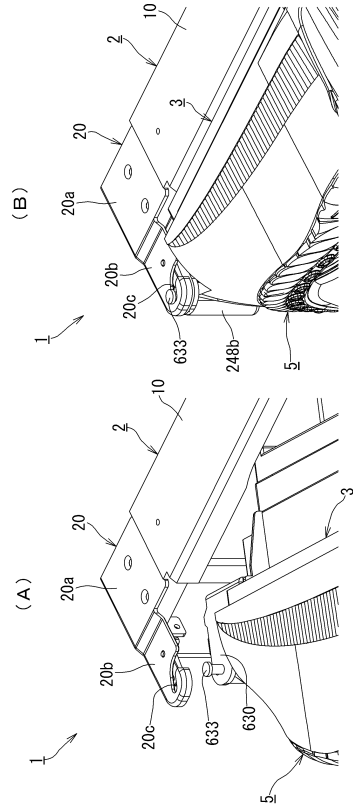
【図 11】



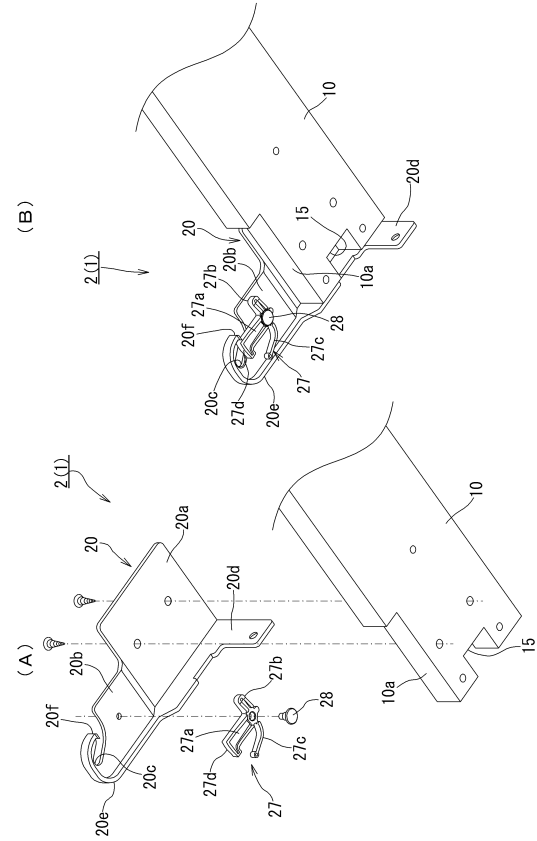
【図 12】



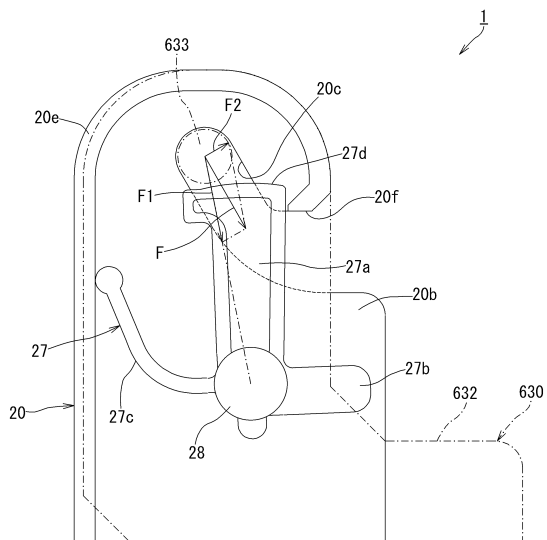
【図 13】



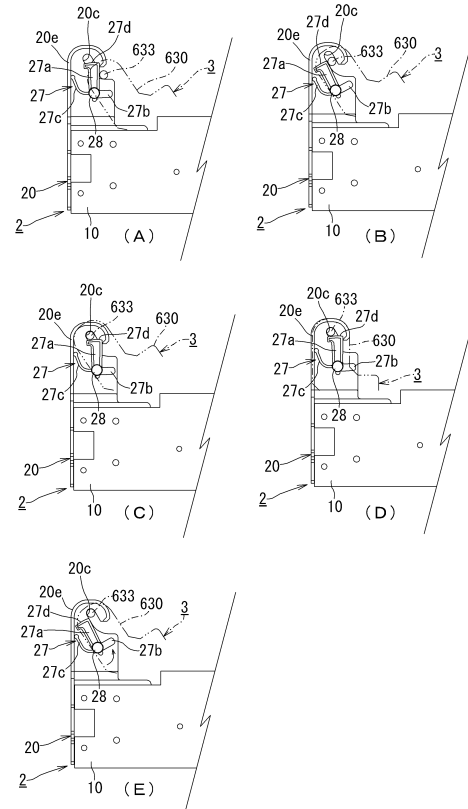
【図 14】



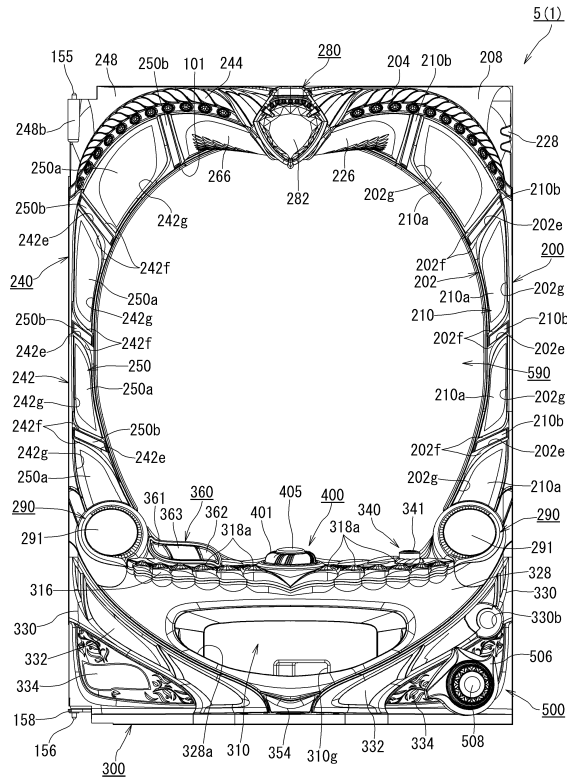
【図 15】



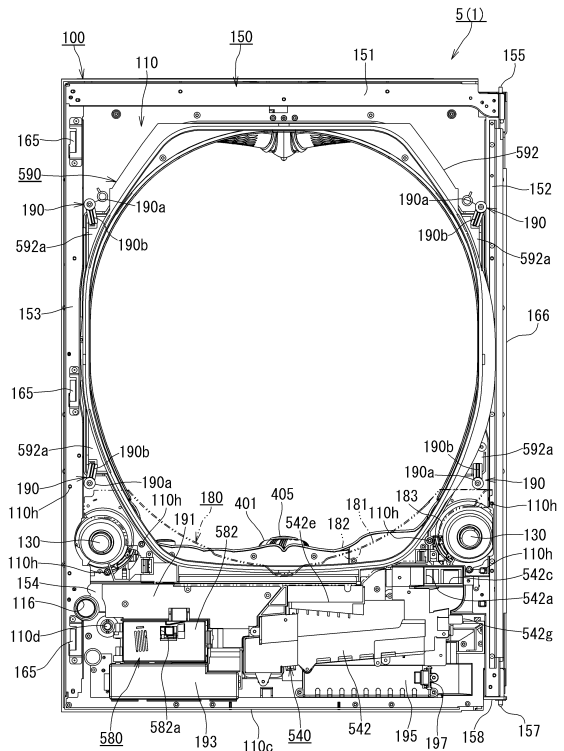
【図 16】



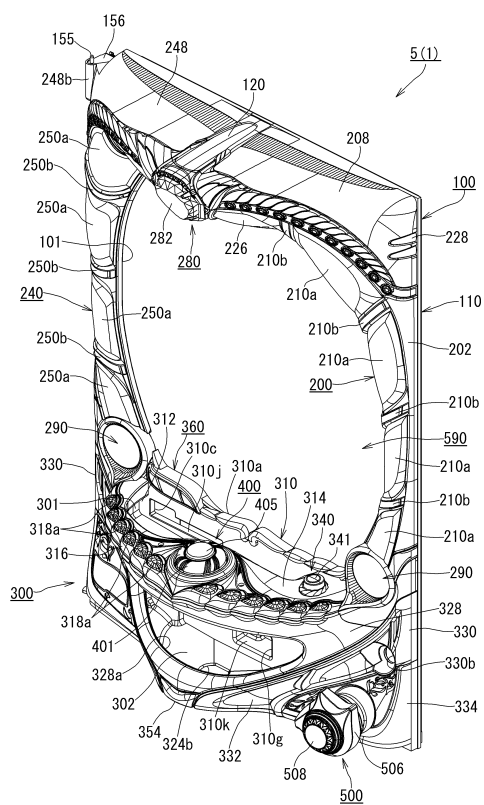
【図 17】



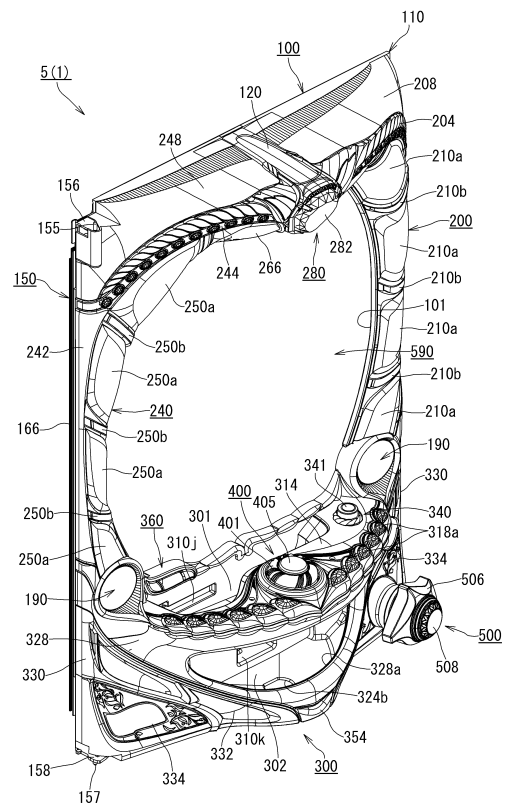
【図 18】



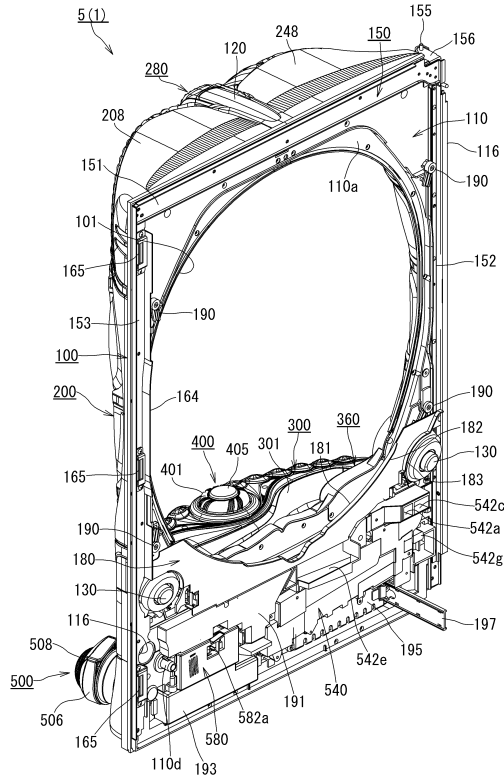
【図 19】



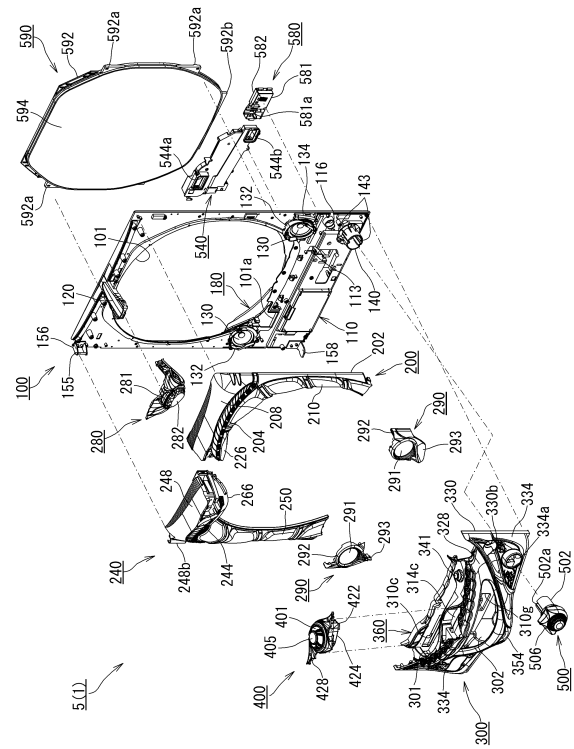
【图 20】



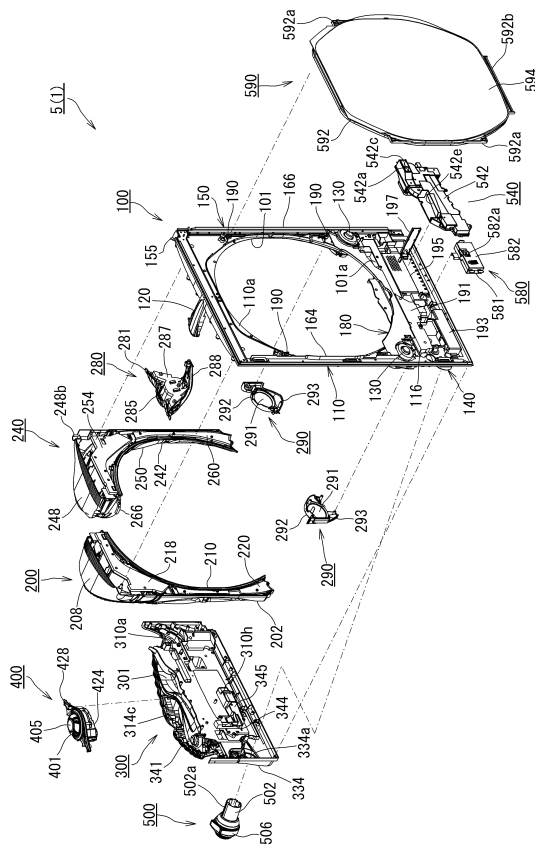
【図 2 1】



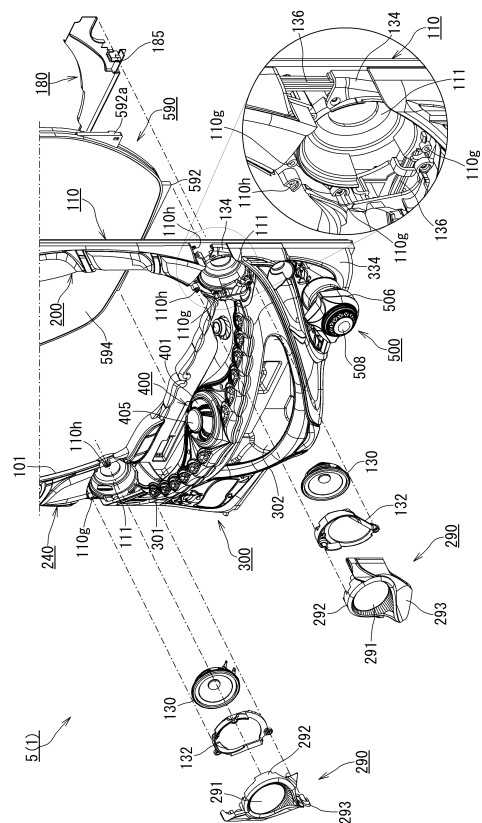
【図 2 2】



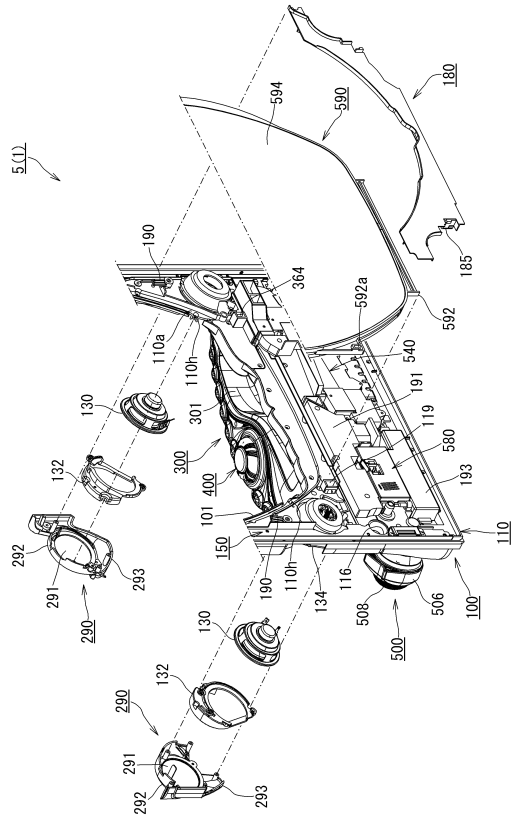
【図 2 3】



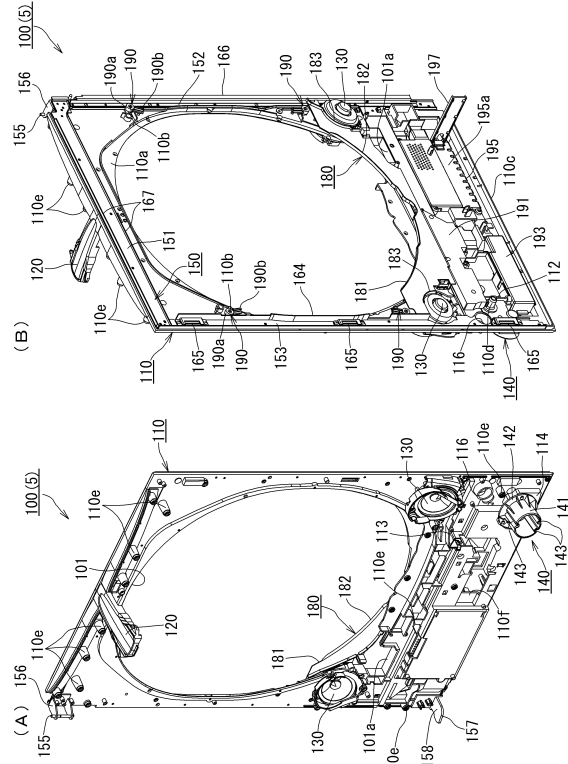
【図 2 4】



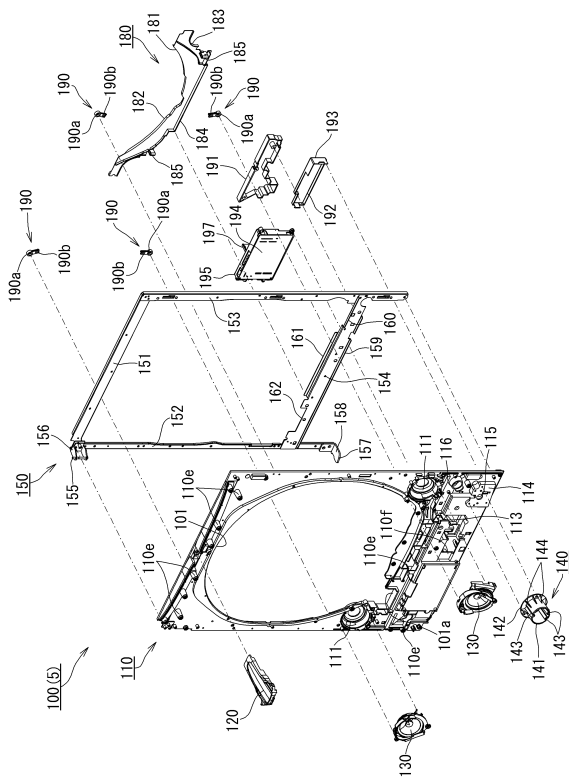
【图 2 5】



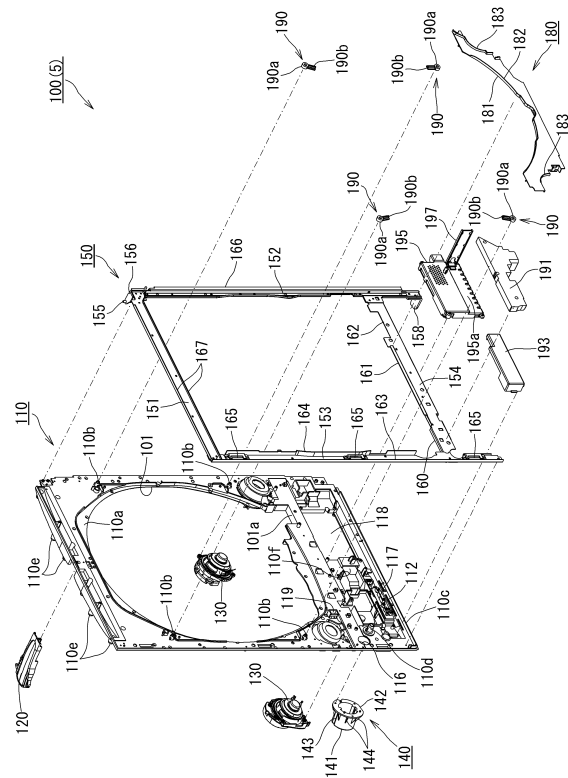
【図 26】



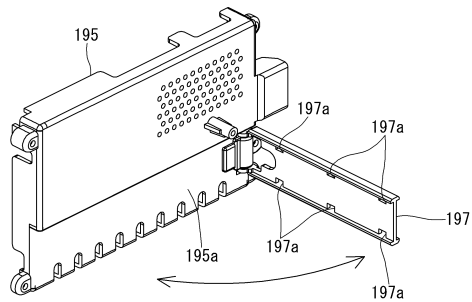
【図 27】



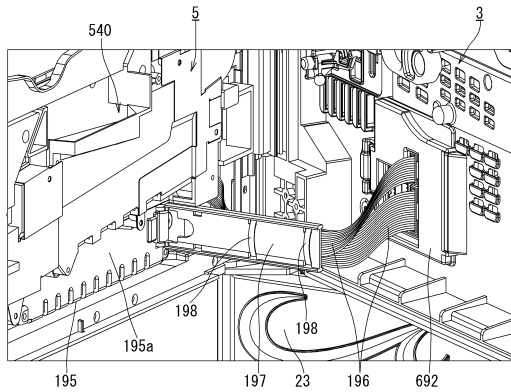
【図 28】



【図 29】



【図 3 0】



【図 3 1】

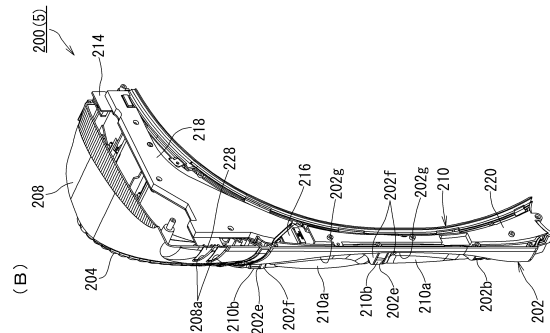
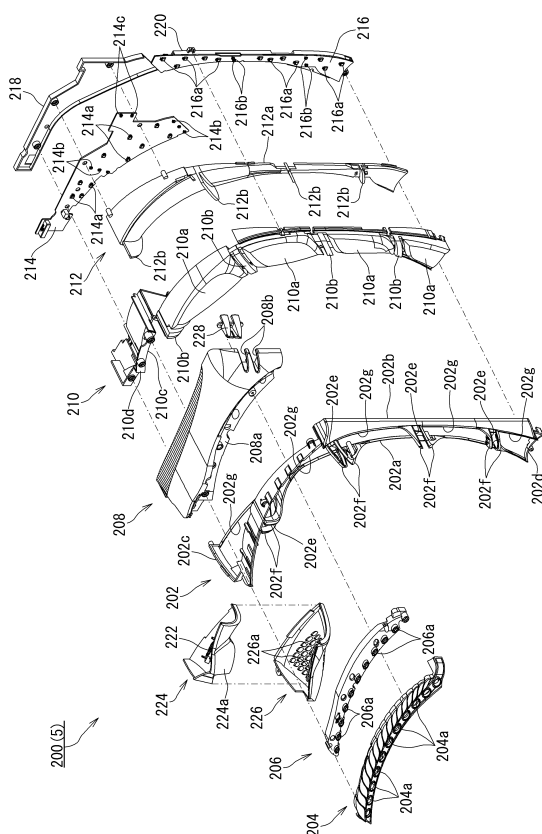
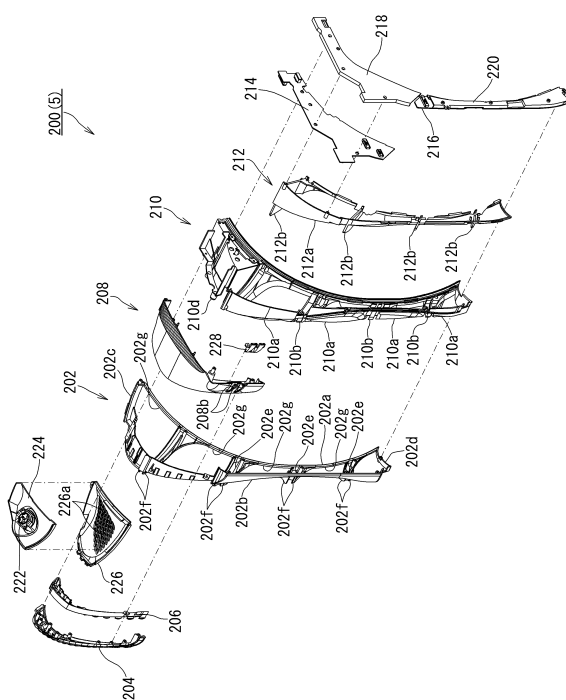


Figure 1A shows a perspective view of a curved, elongated device 200(5). The device features a series of segments 210a-f and 202g-f, which are connected by joints 202e-f. A base 208 is shown at the bottom left, and a curved surface 204 is visible. The device is shown in a curved, elongated configuration.

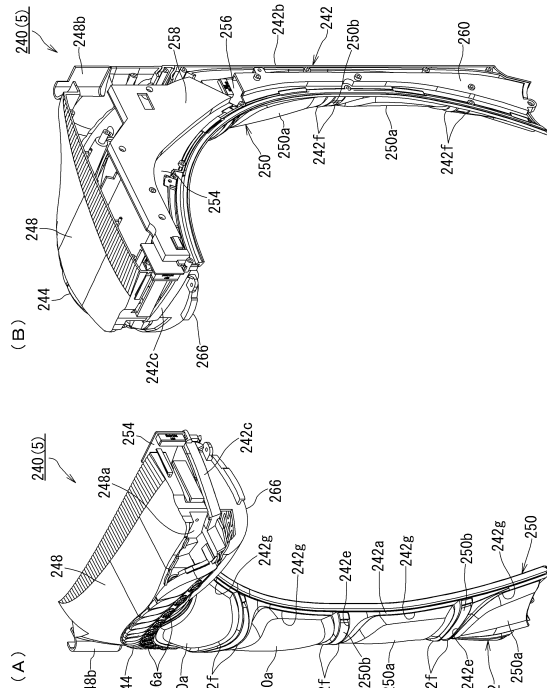
【図 3 2】



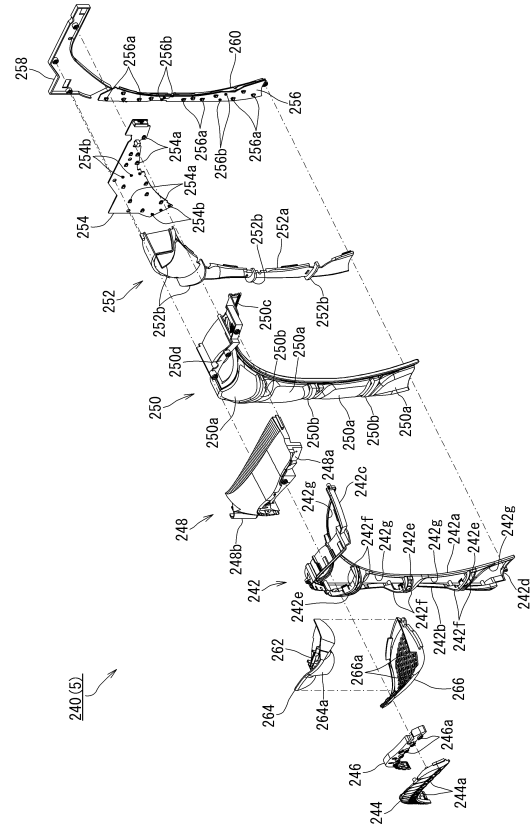
【図 3 3】



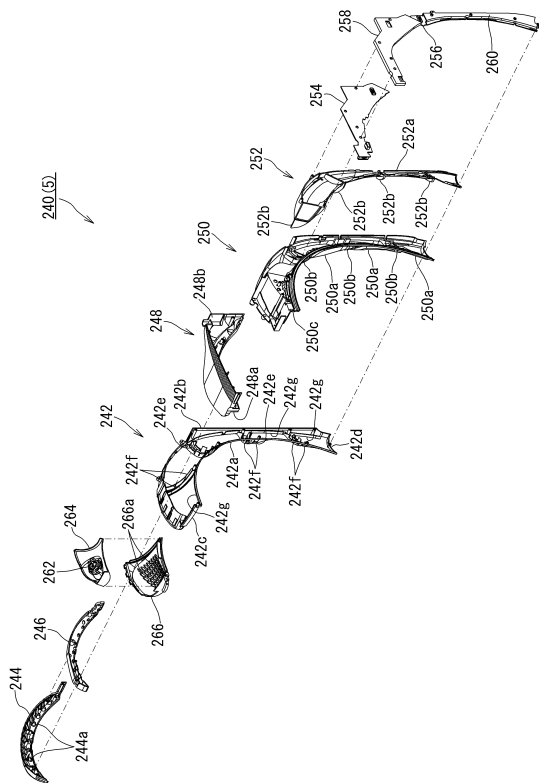
【図 34】



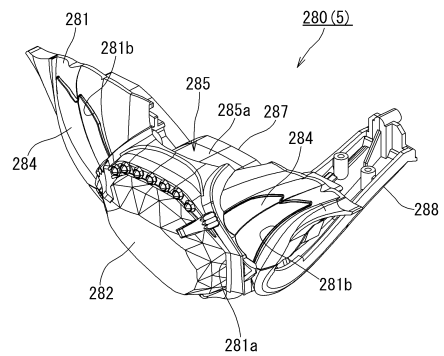
【図 35】



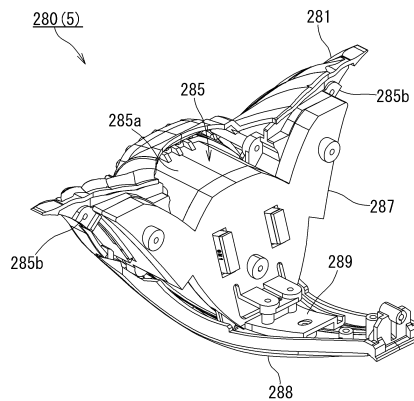
【図 36】



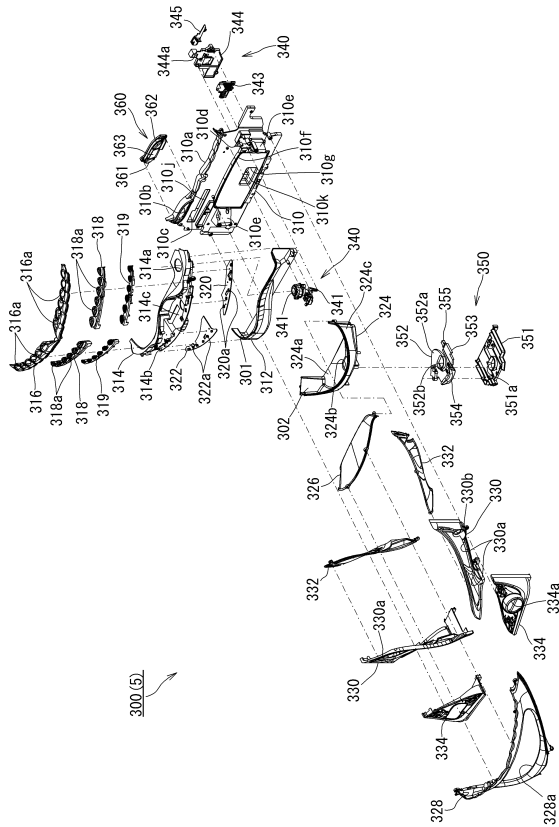
【図 37】



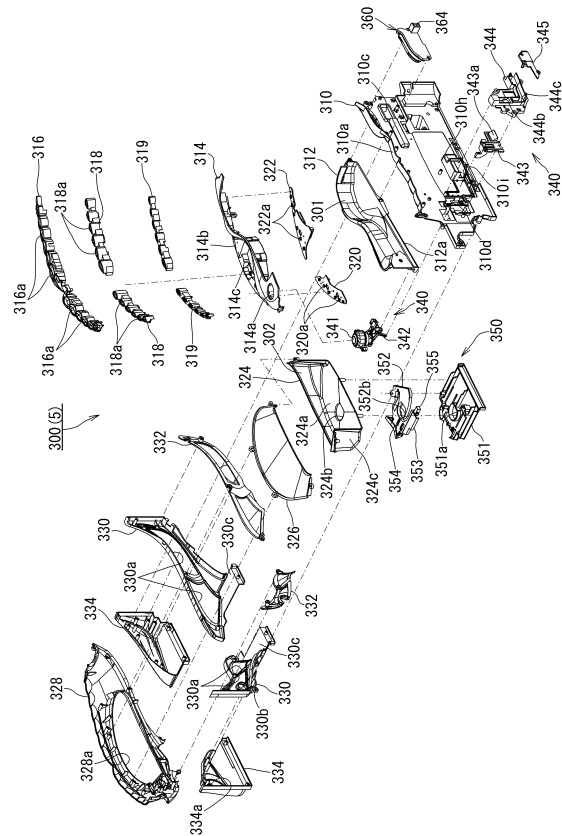
【図 38】



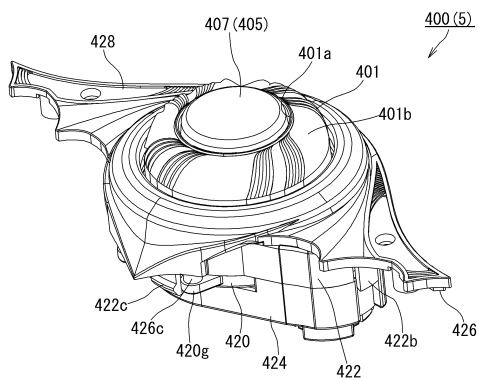
【図 4 3】



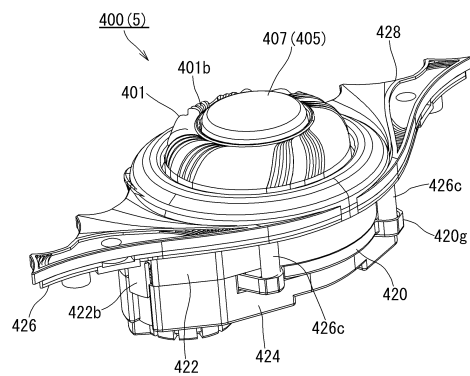
【図 4 4】



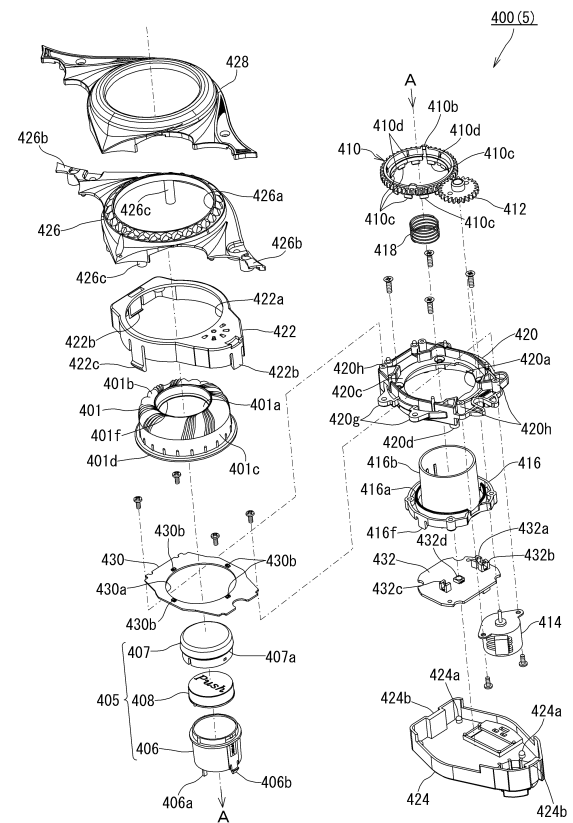
【図 4 5】



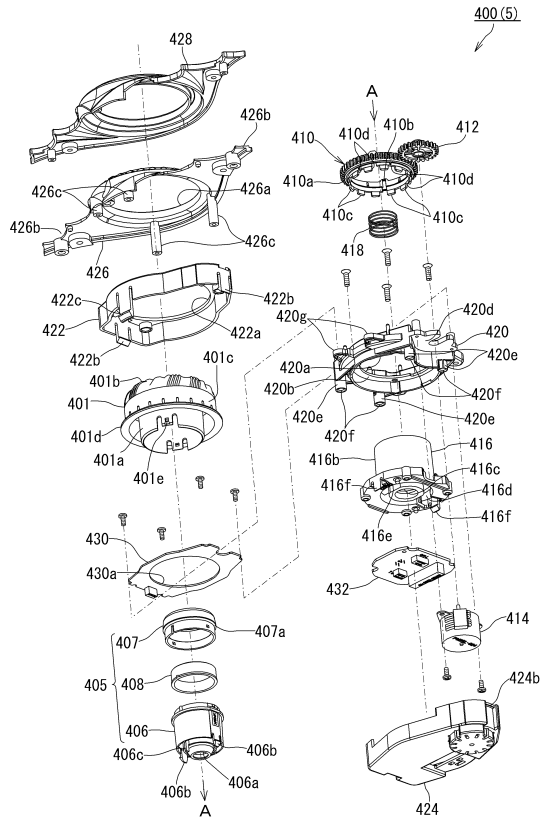
【図 4 6】



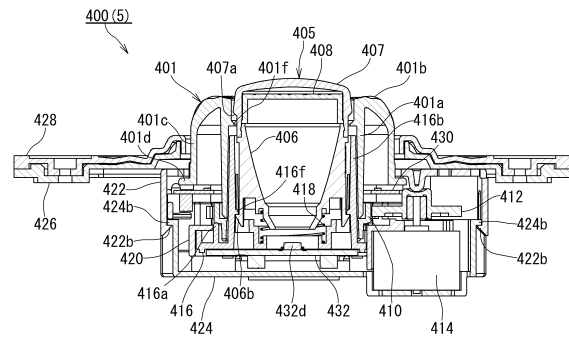
【図 4 7】



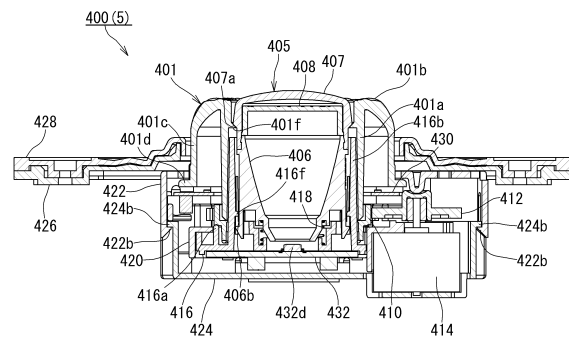
【図 48】



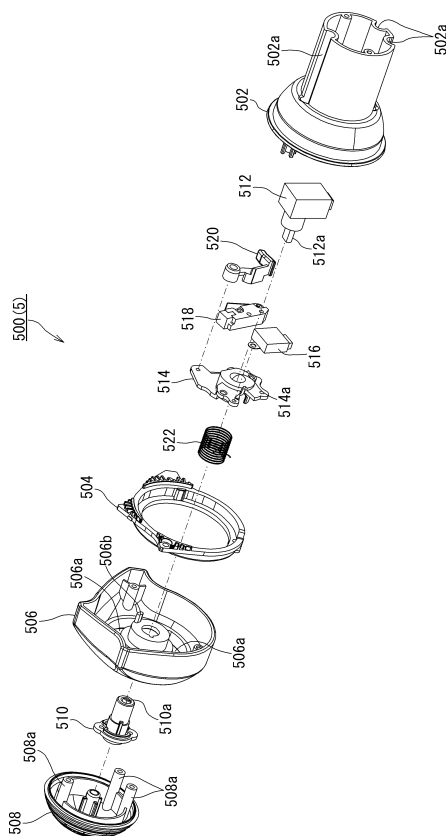
【図 49】



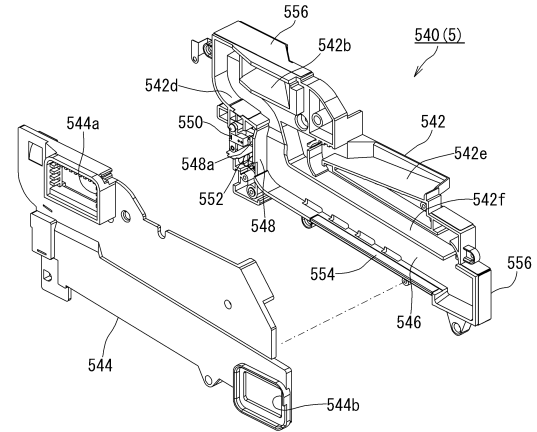
【図 50】



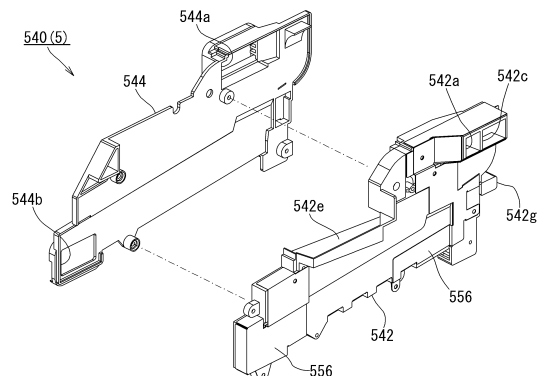
【図 51】



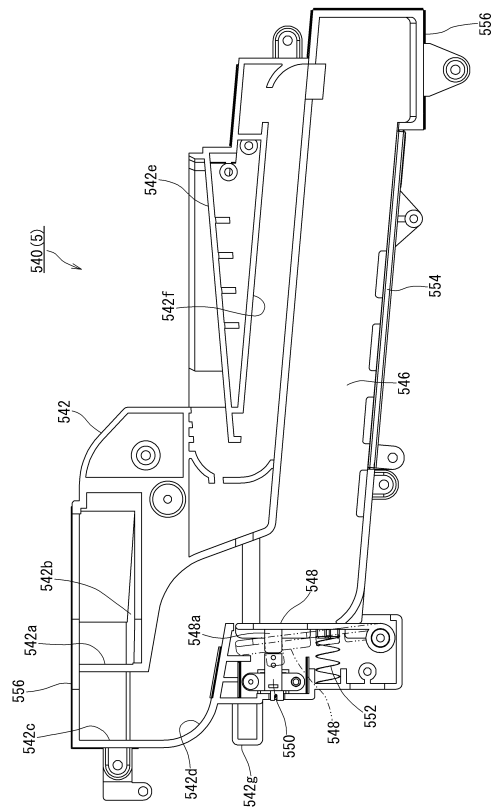
【図 52】



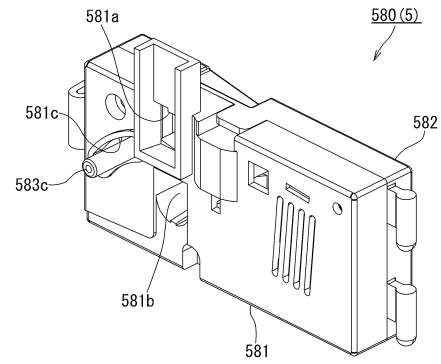
【図 53】



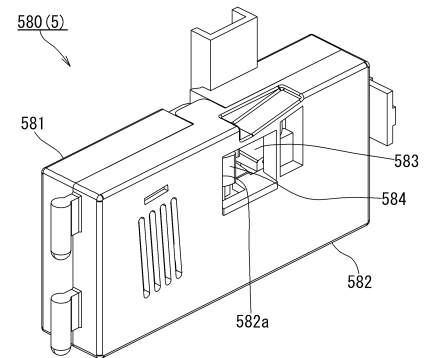
【図 5 4】



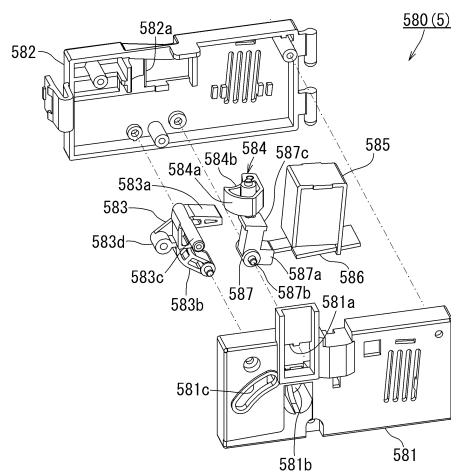
【図 5 5】



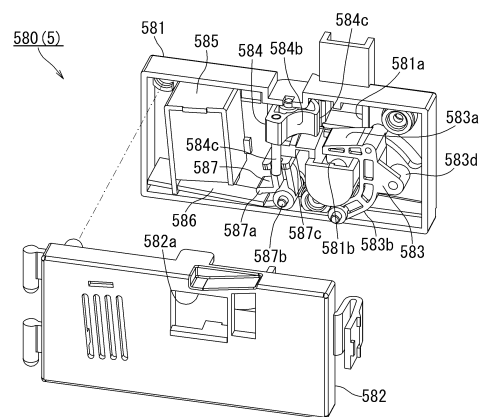
【図 5 6】



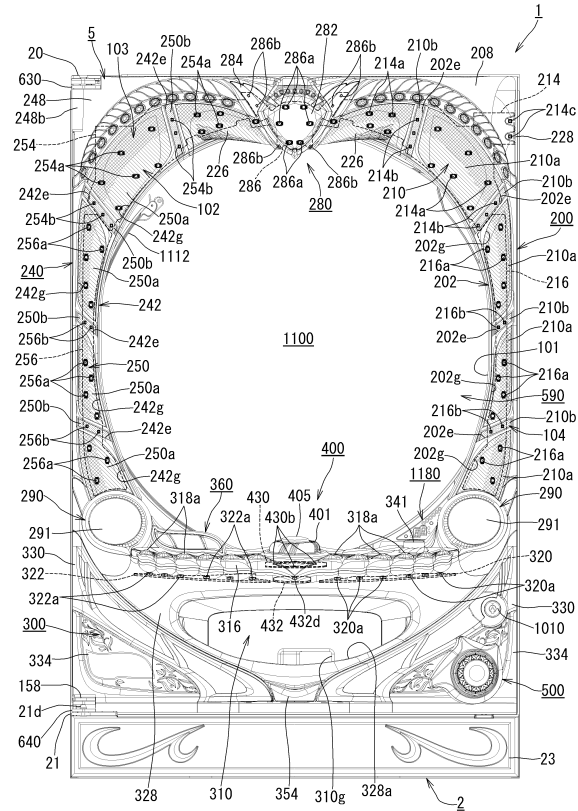
【図 5 7】



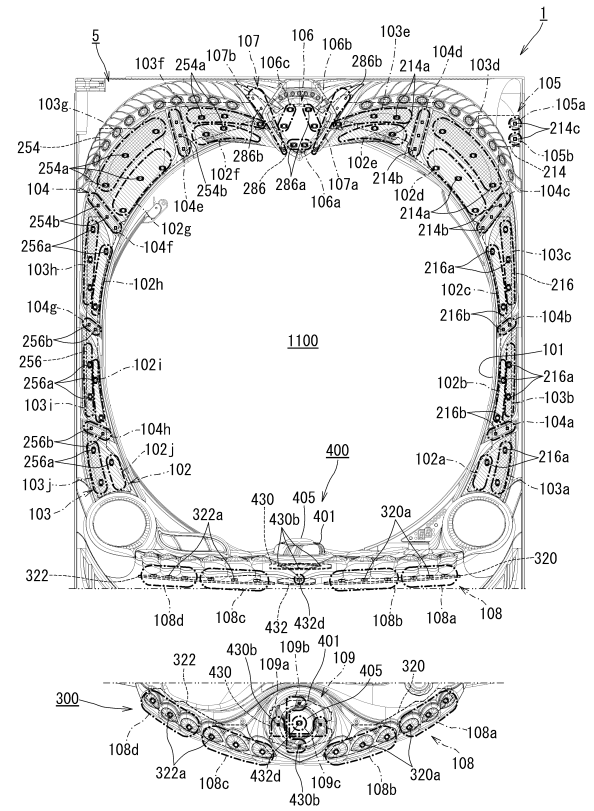
【図 5 8】



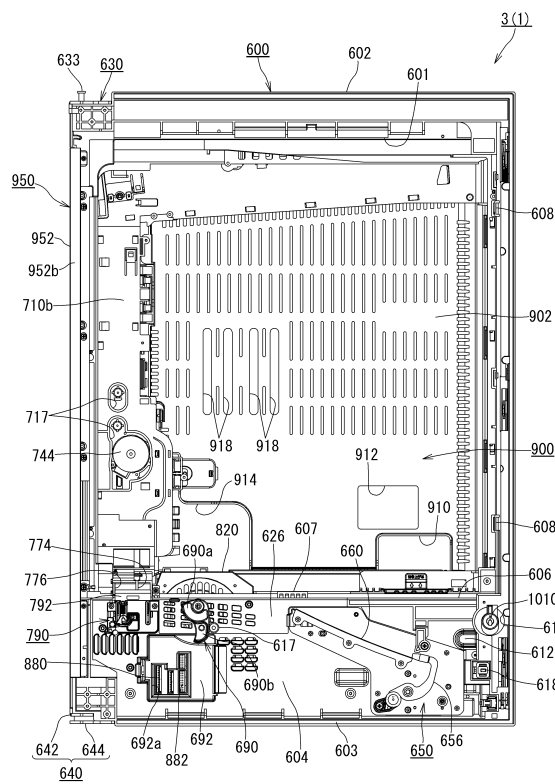
【図 59】



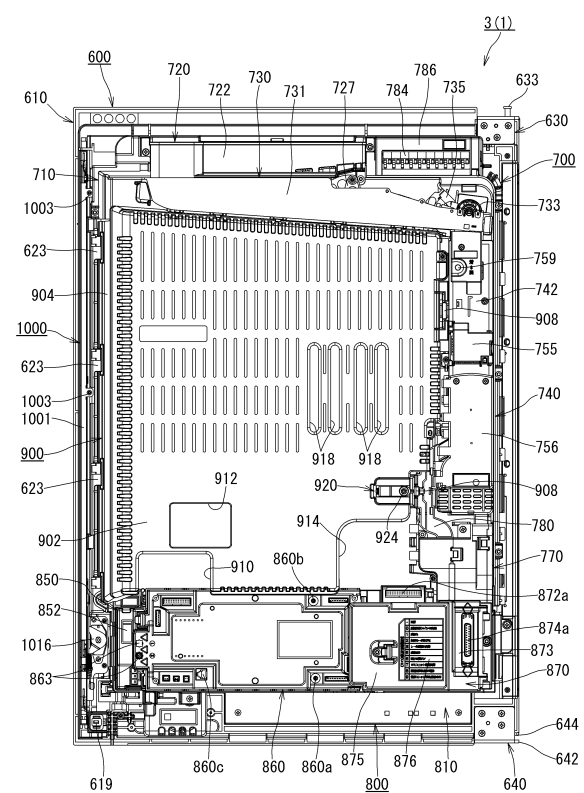
【図 60】



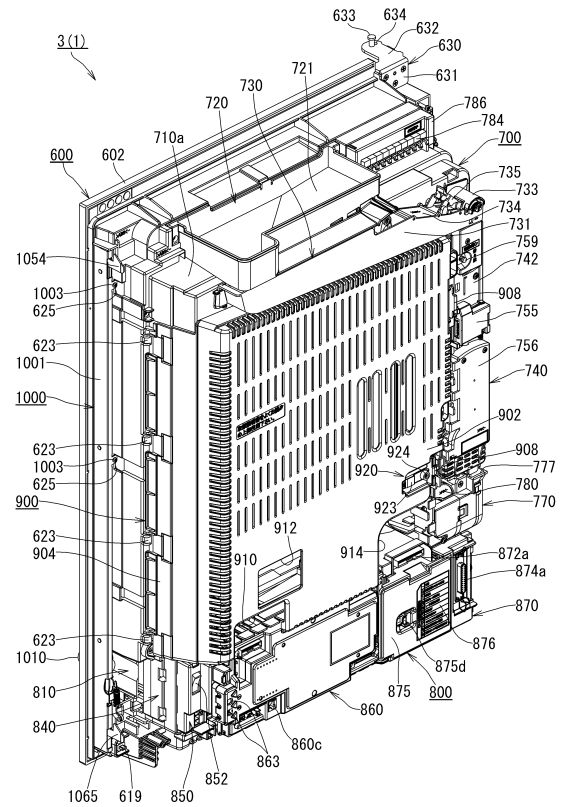
【図 61】



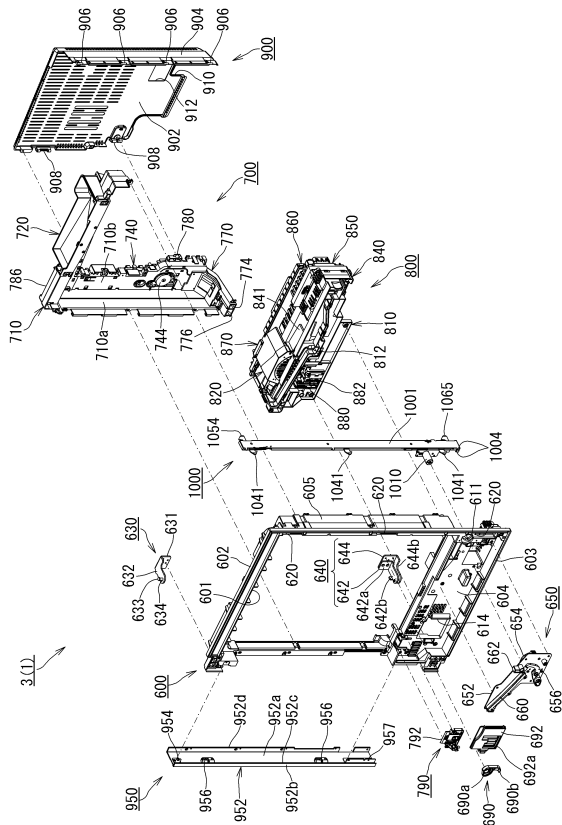
【図 62】



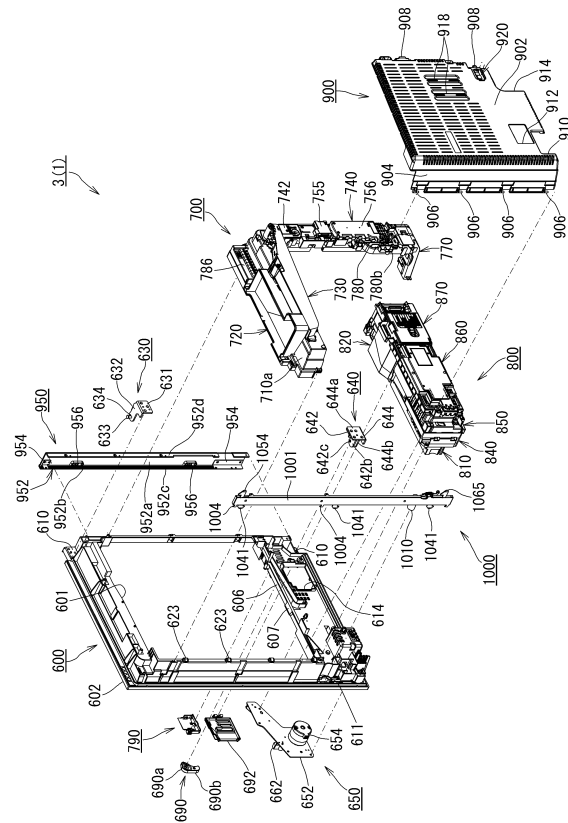
【図 6 4】



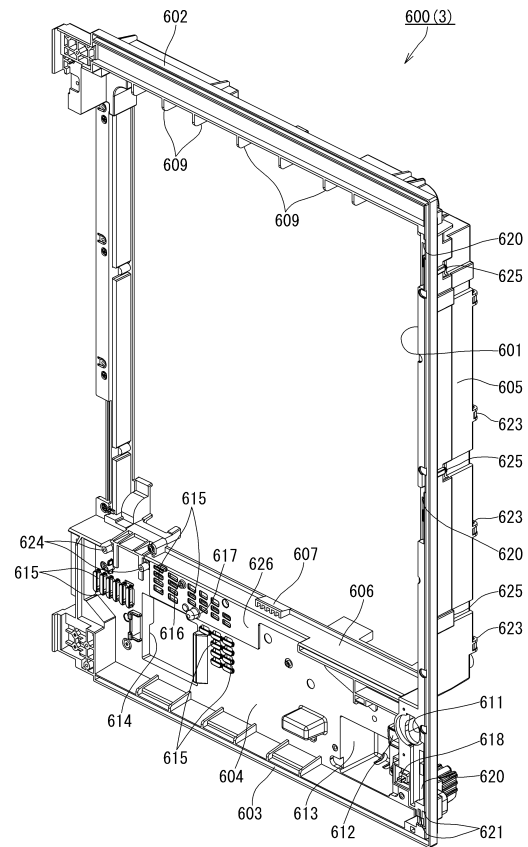
【图 6-6】



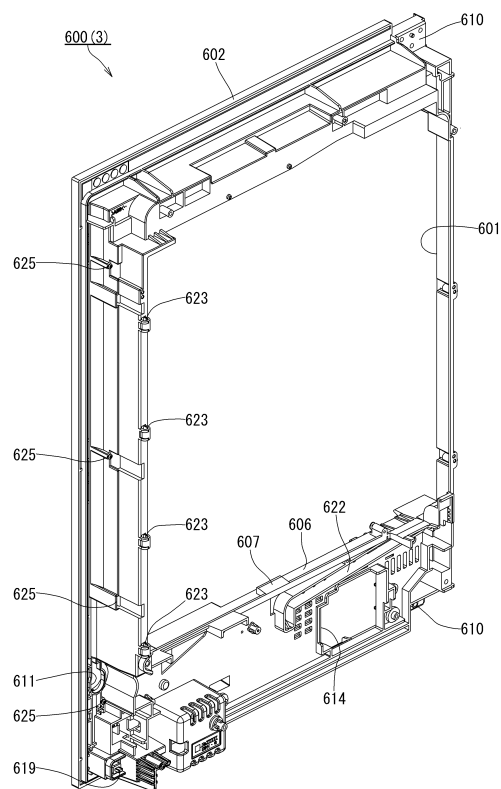
【図 67】



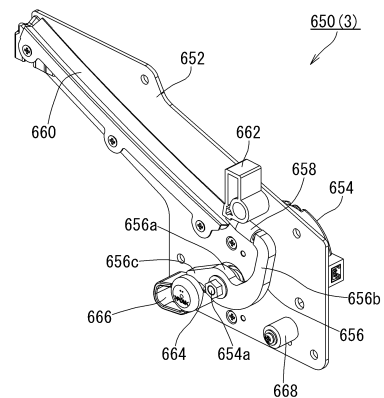
【図 68】



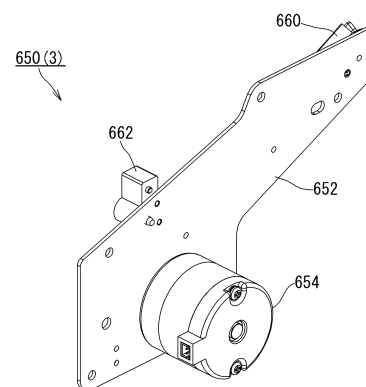
【図 69】



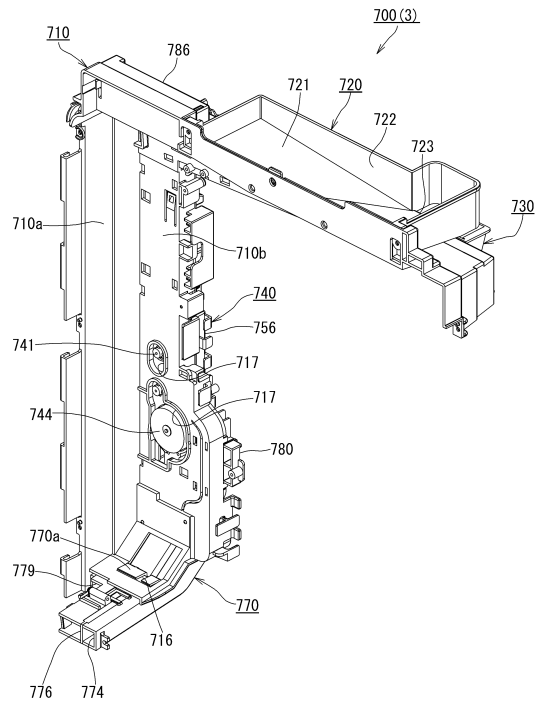
【図 70】



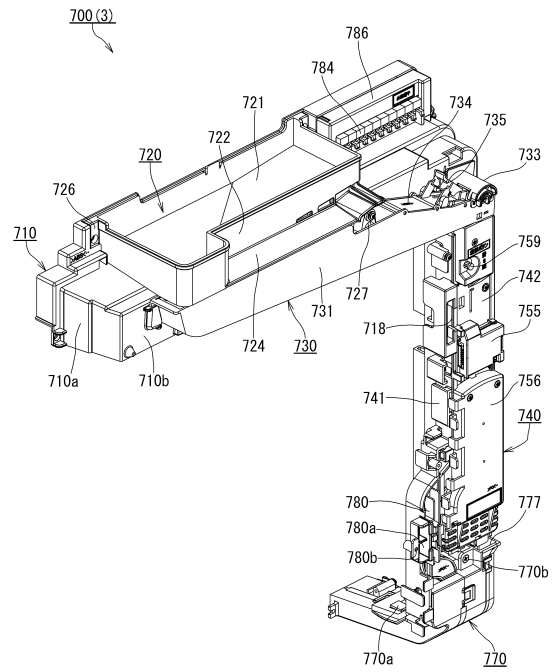
【図 71】



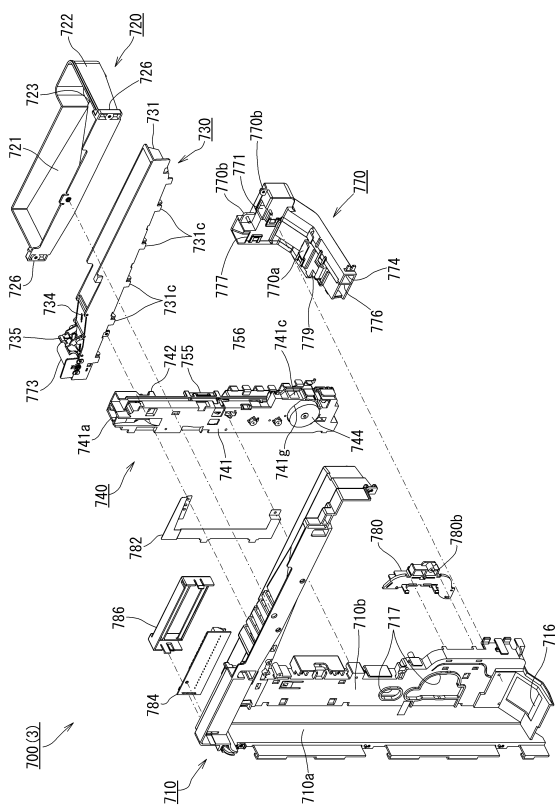
【図 7 2】



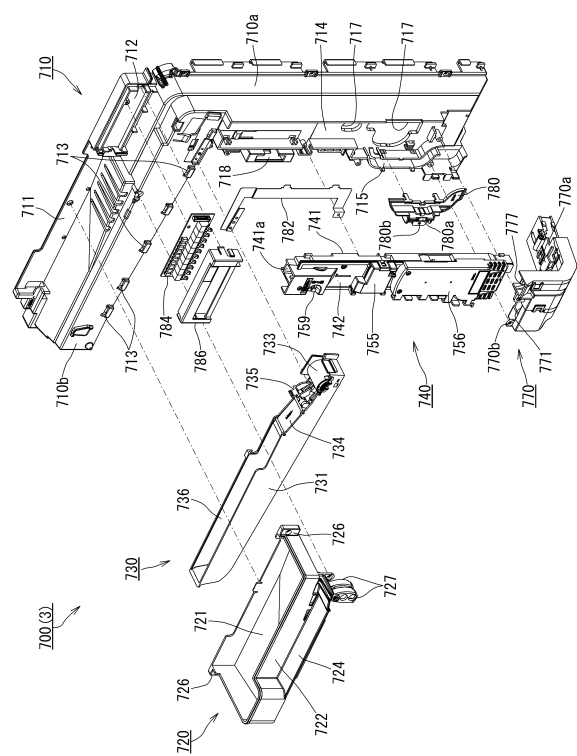
【図 7 3】



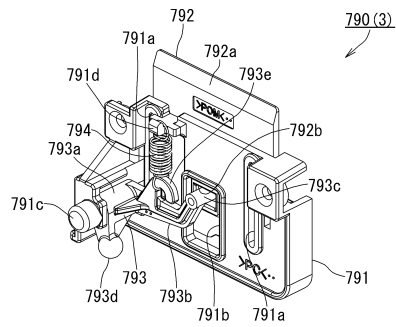
【図 7 4】



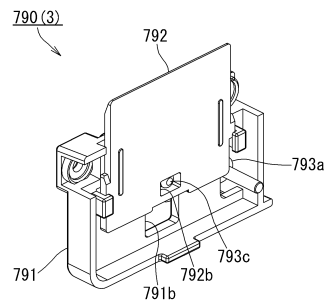
【図 7 5】



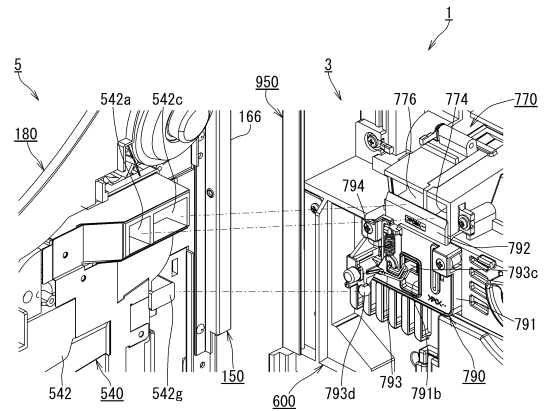
【図 80】



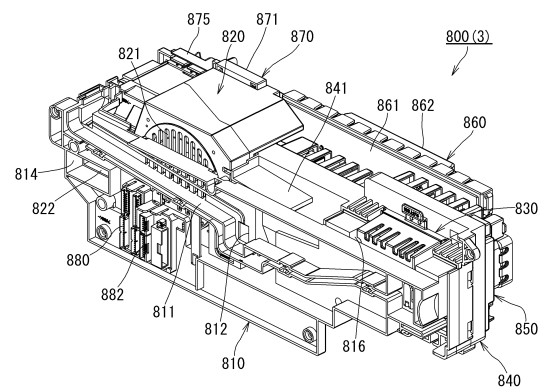
【図 81】



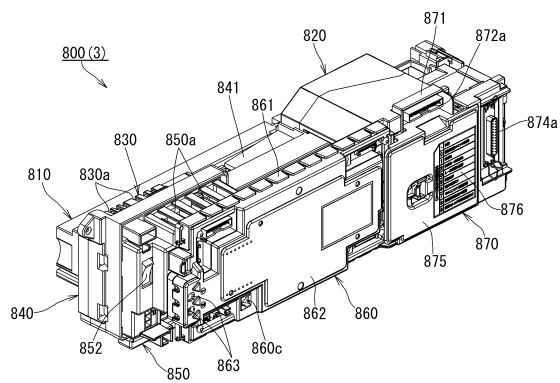
【図 82】



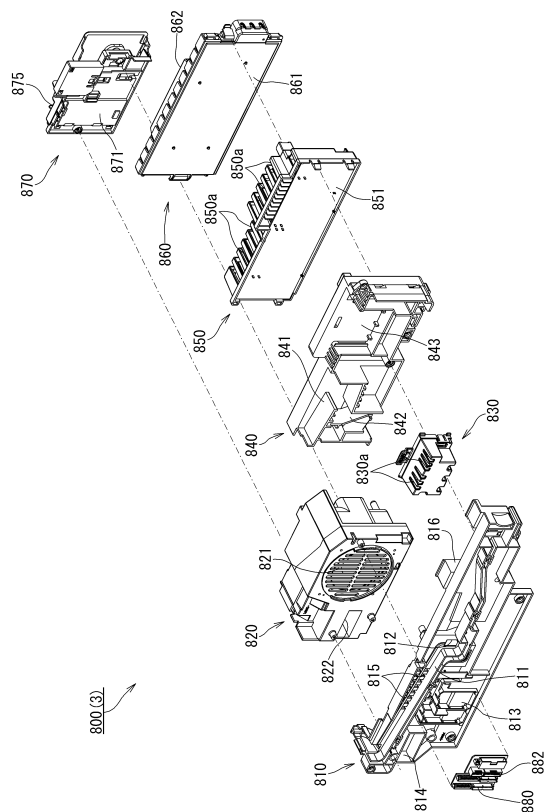
【図 83】



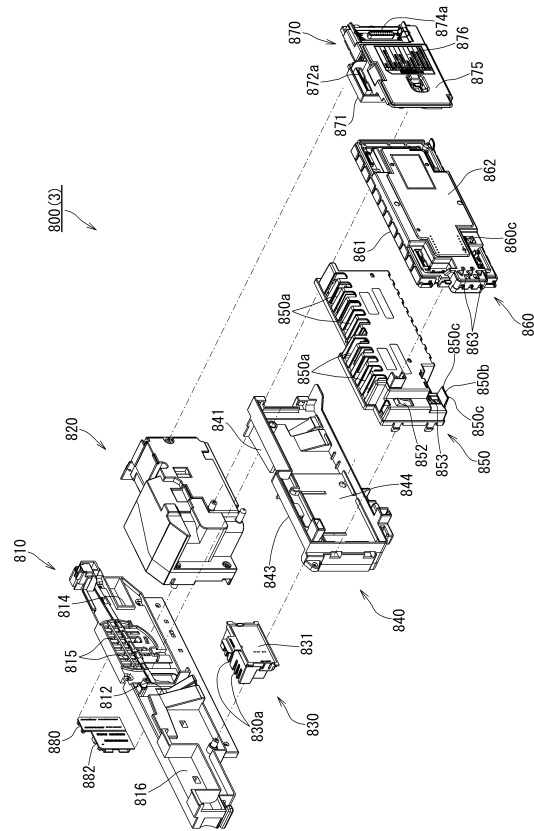
【図 84】



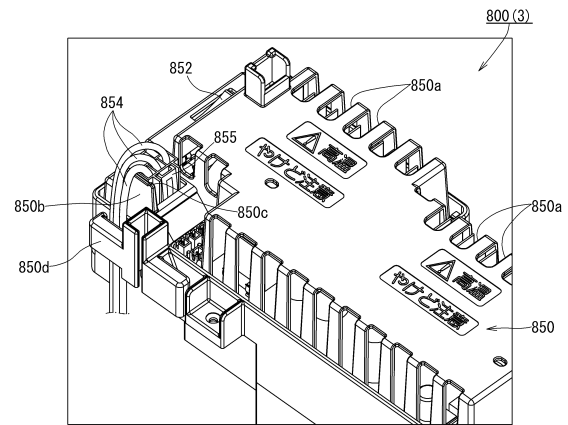
【図 85】



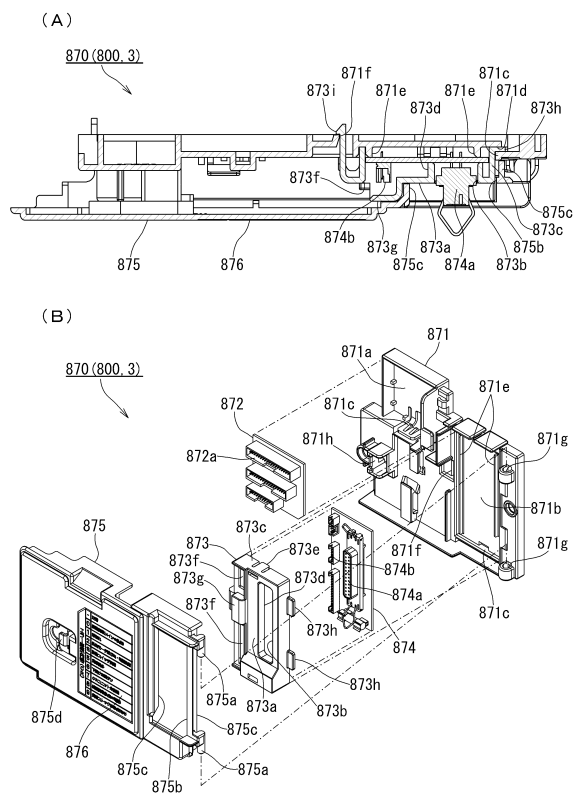
【図 86】



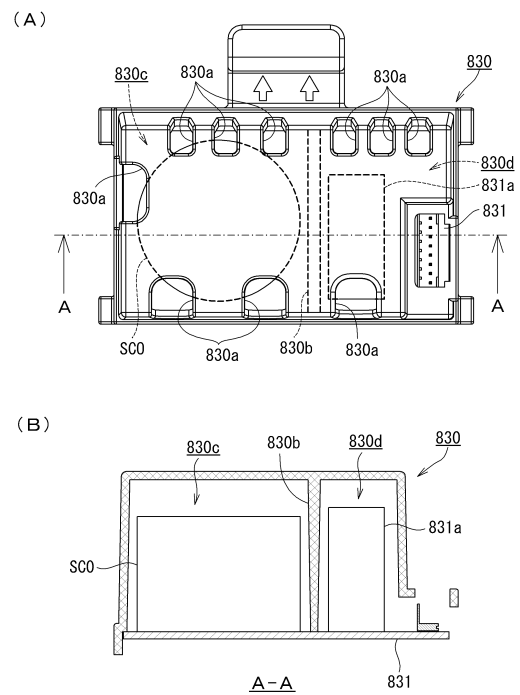
【図 87】



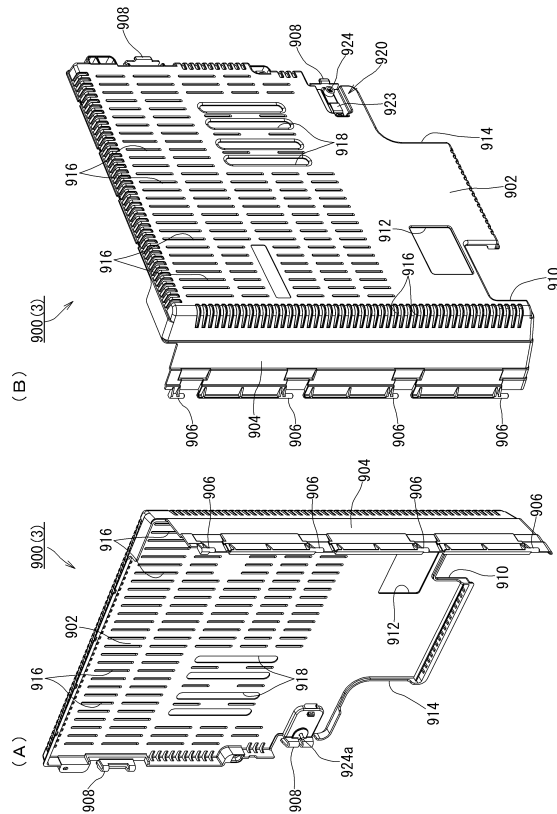
【図 88】



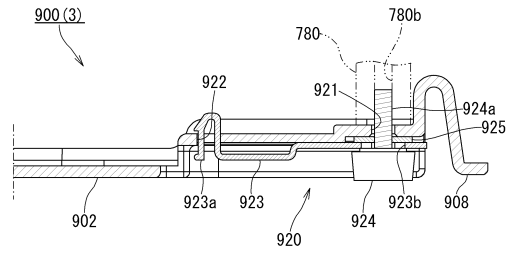
【図 89】



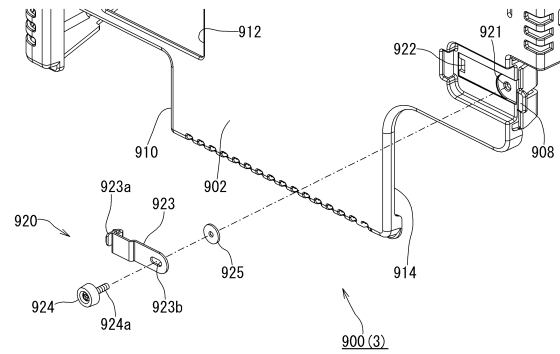
【図 90】



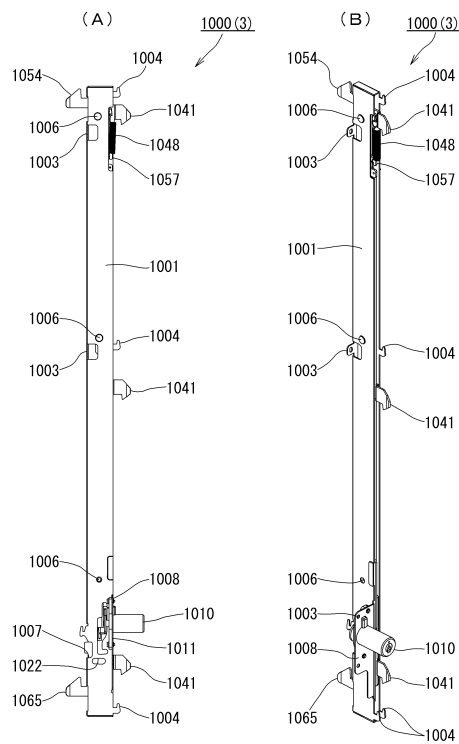
【図 91】



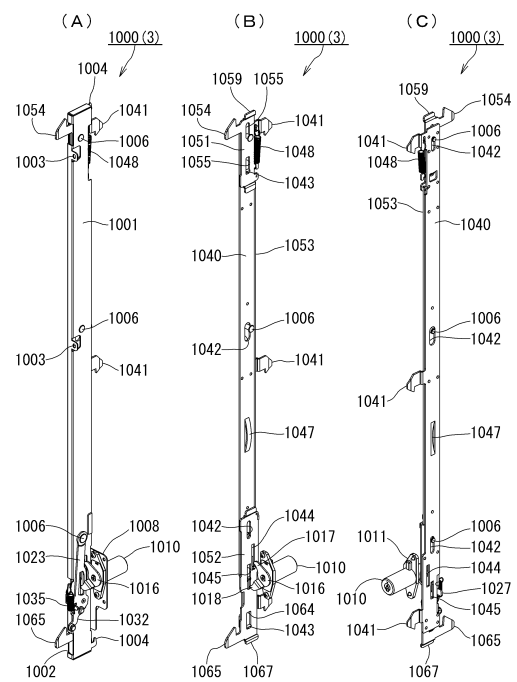
【図 92】



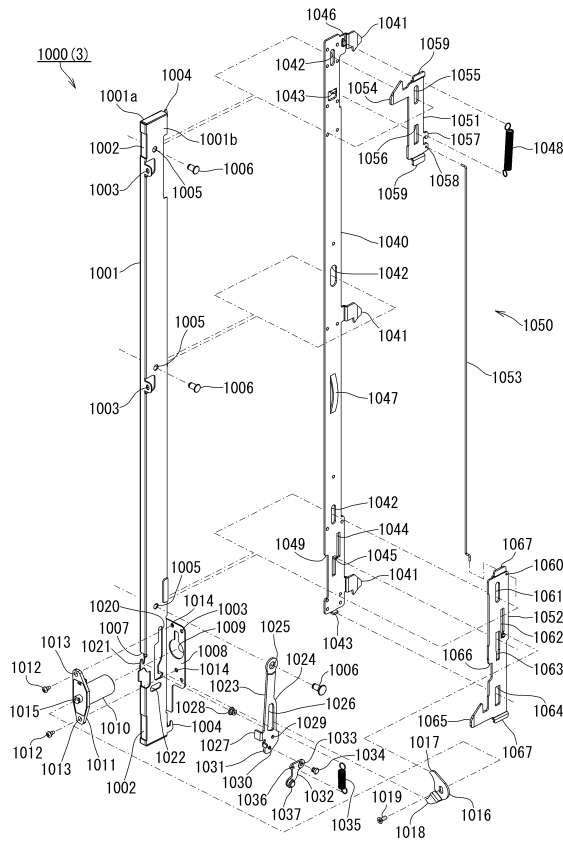
【図 93】



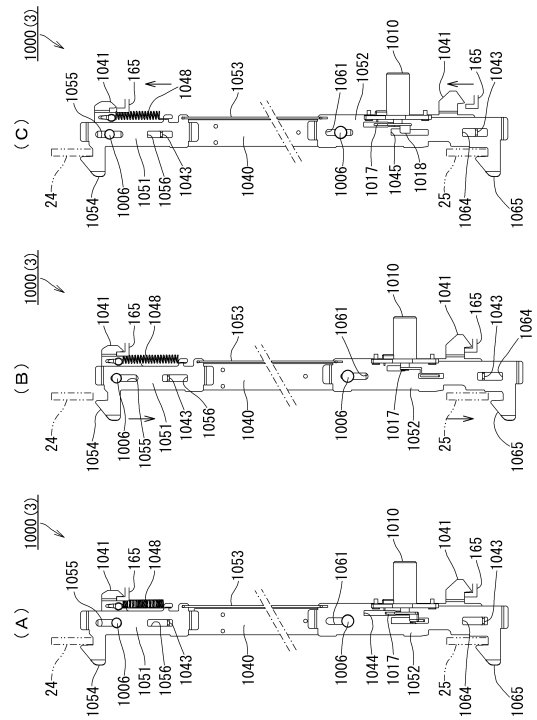
【図 94】



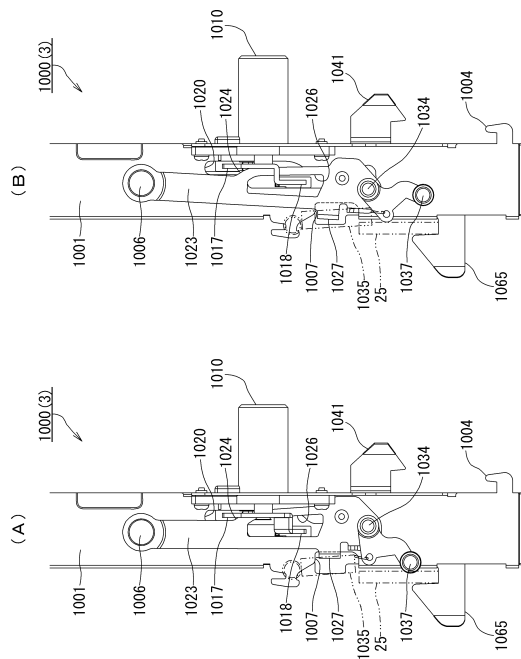
【図 9 5】



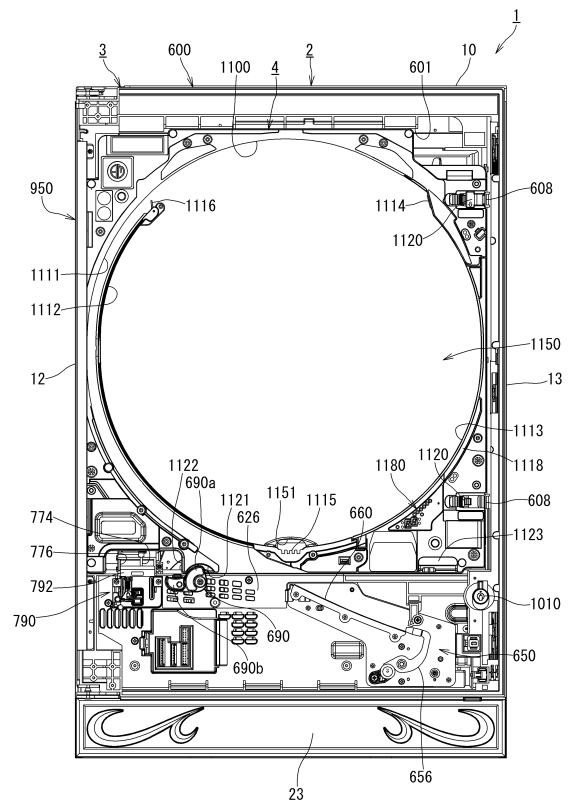
【図 9 6】



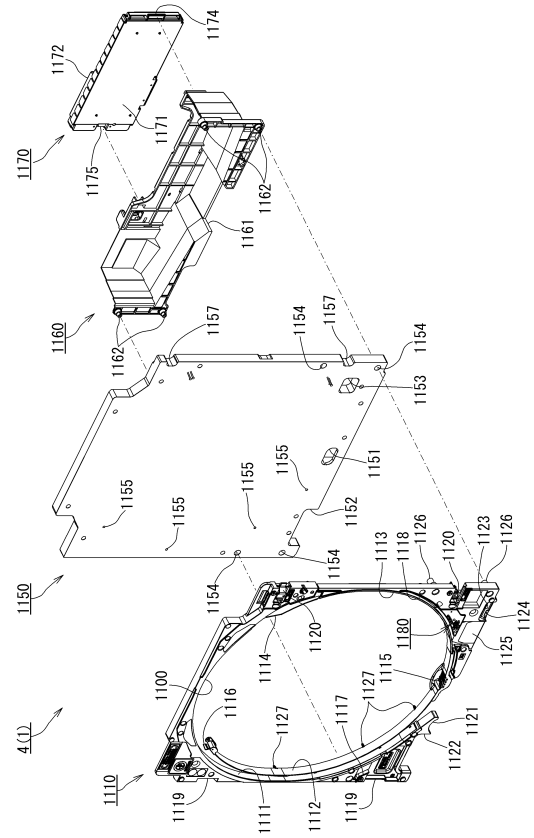
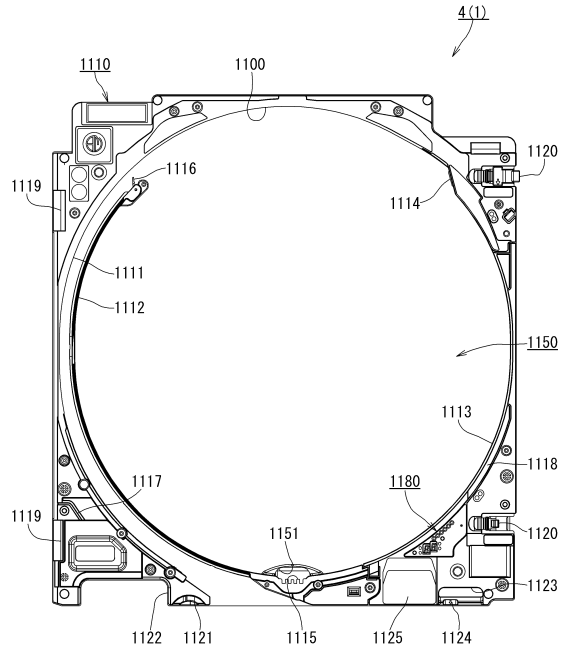
【図 9 7】



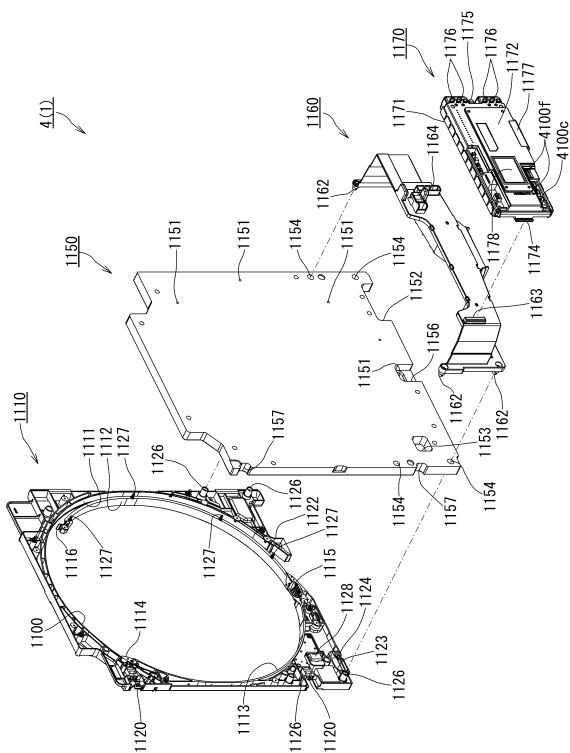
【図 9 8】



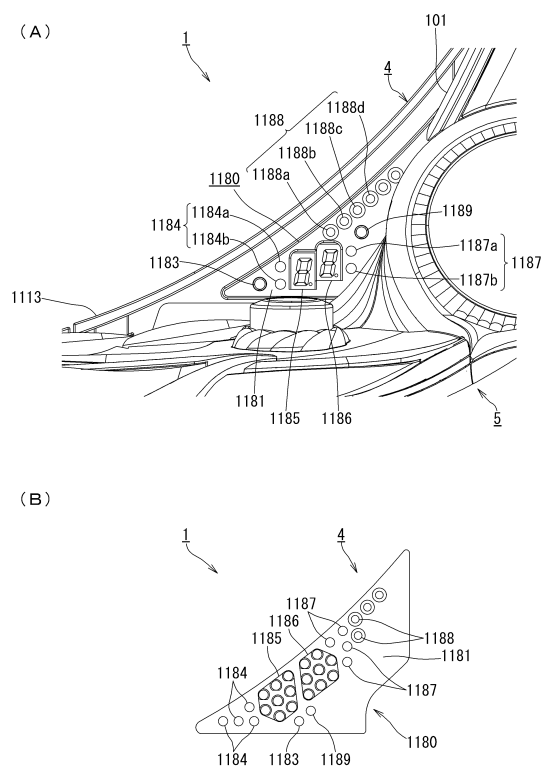
【☒ 1 0 0】



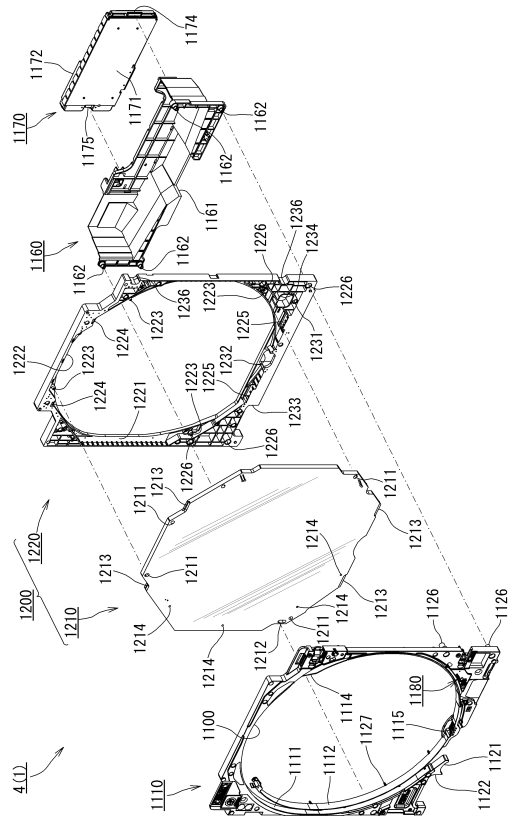
【 図 1 0 1 】



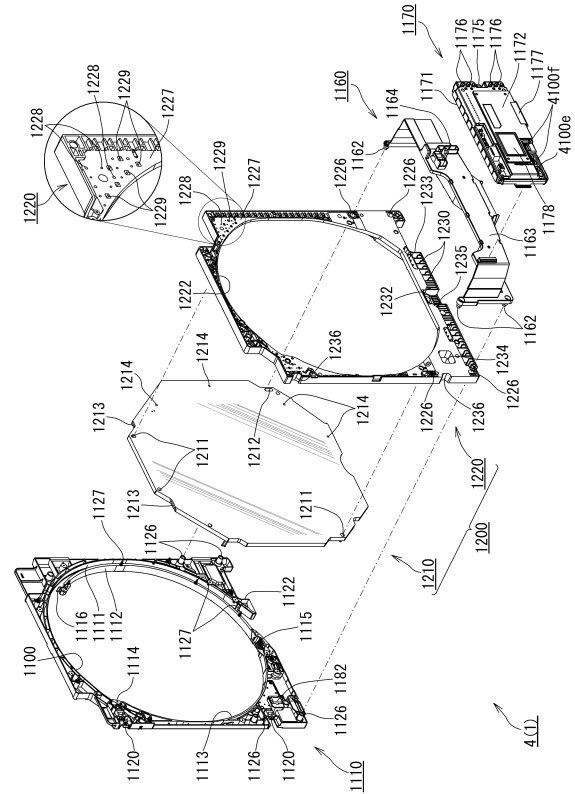
【図 1 0 2】



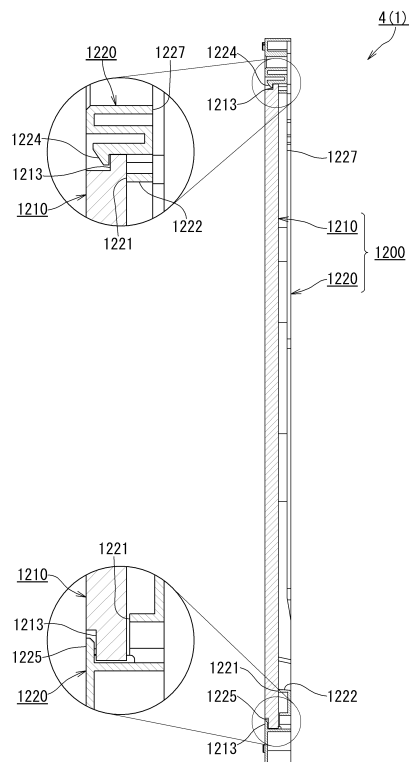
【図 103】



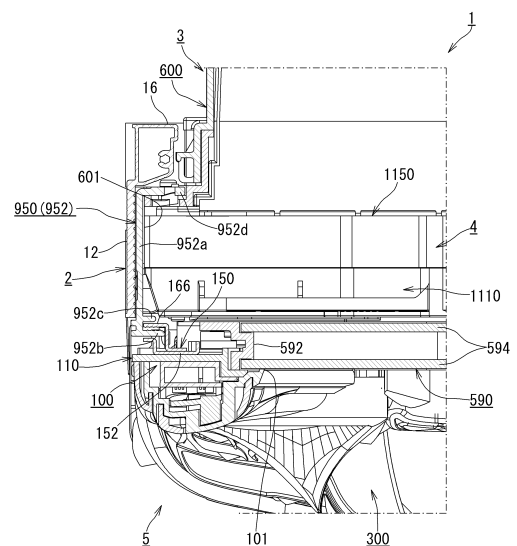
【図 1 0 4】



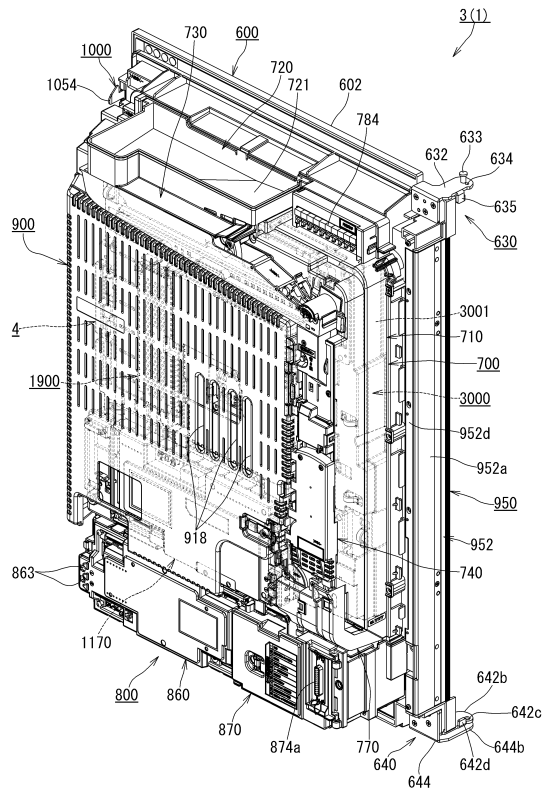
【図 105】



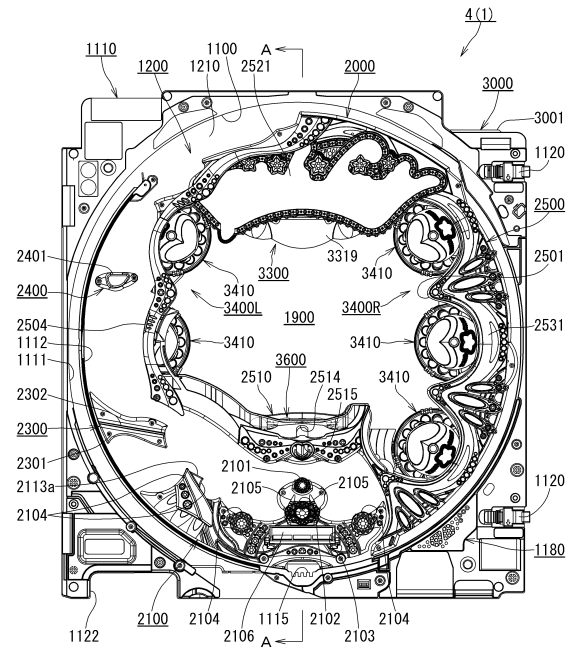
【図 1 0 6】



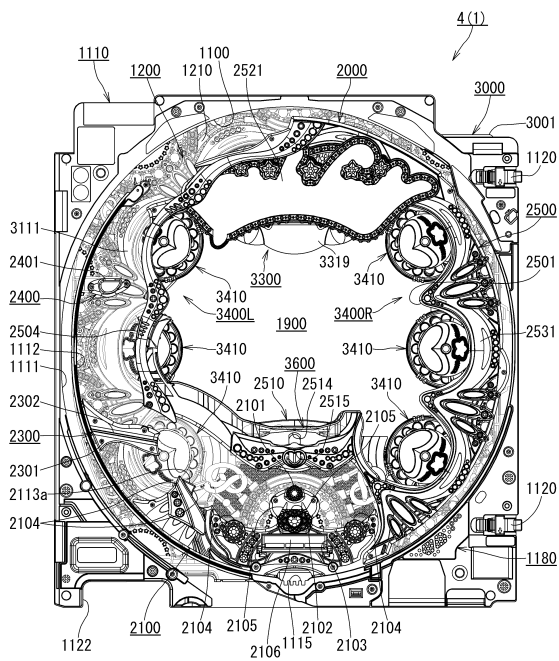
【図 107】



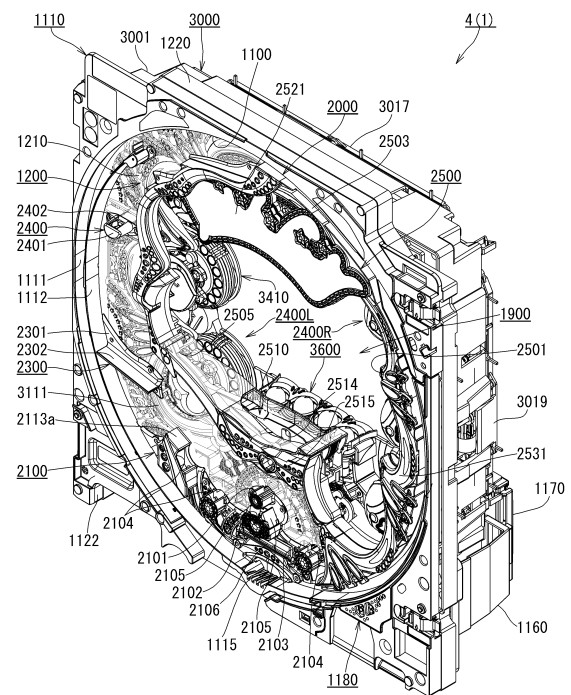
【図 108】



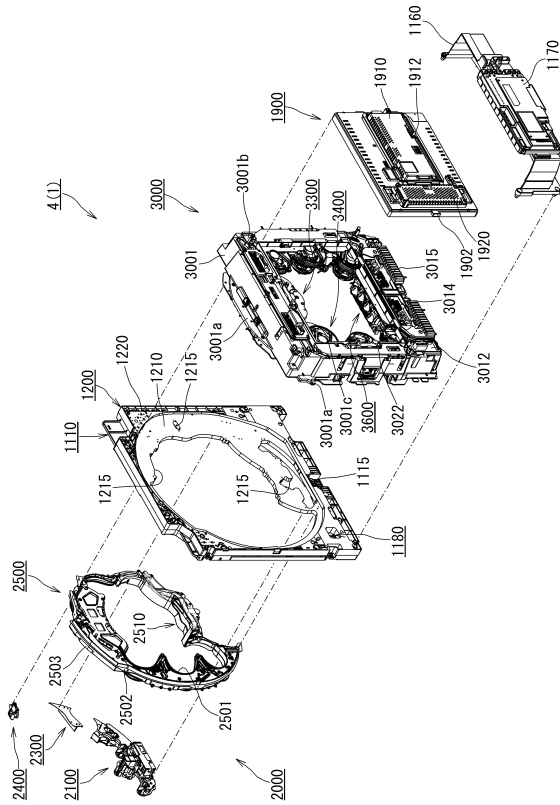
【図 109】



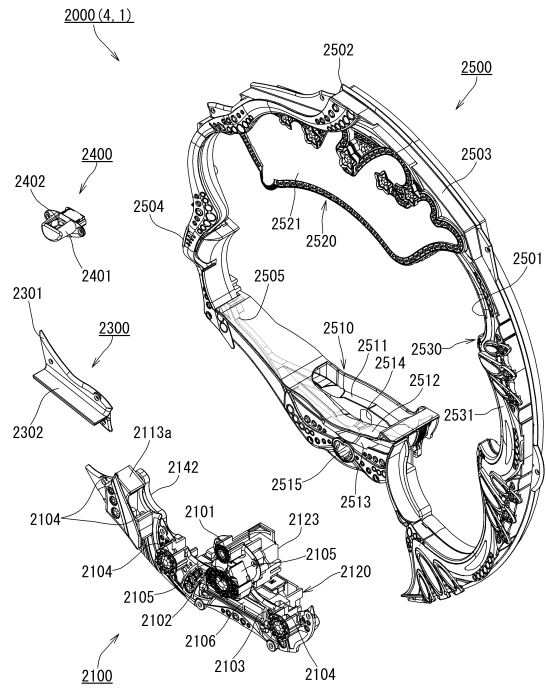
【図 110】



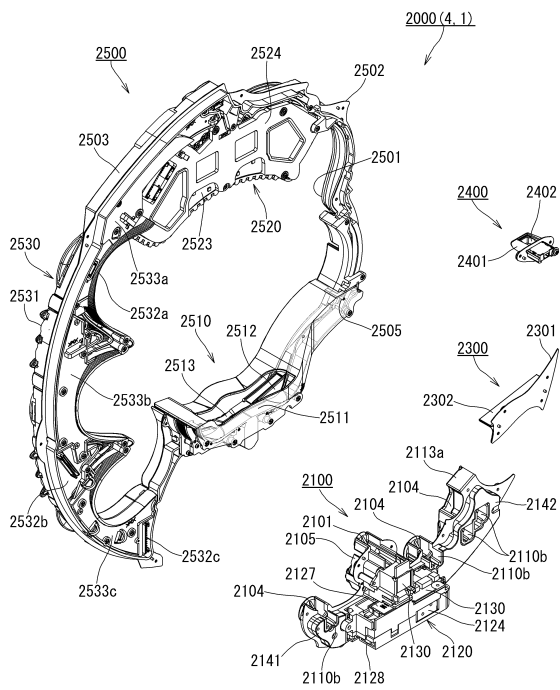
【図 1 1 5】



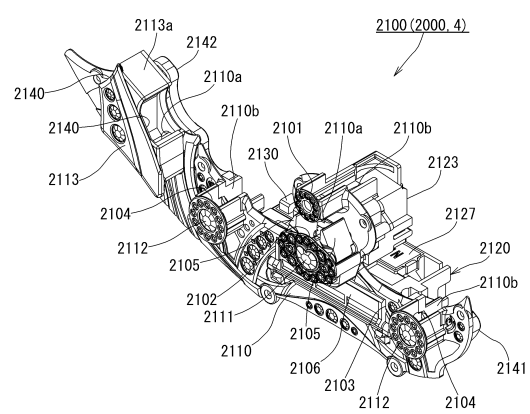
【図 1 1 6】



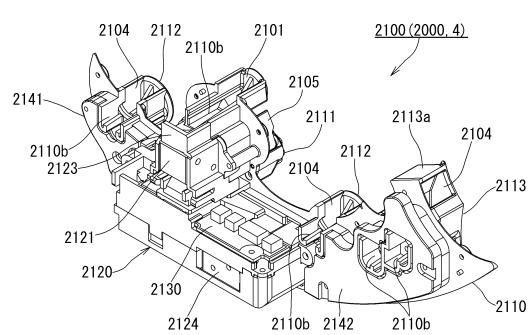
【图 1 1 7】



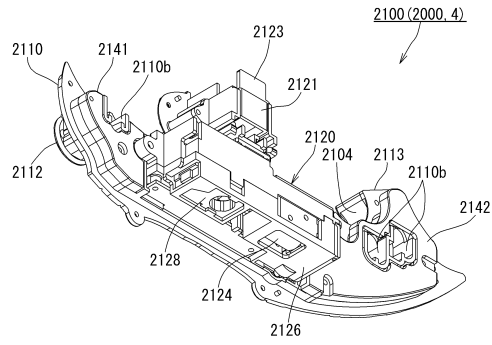
【図 1 1 8】



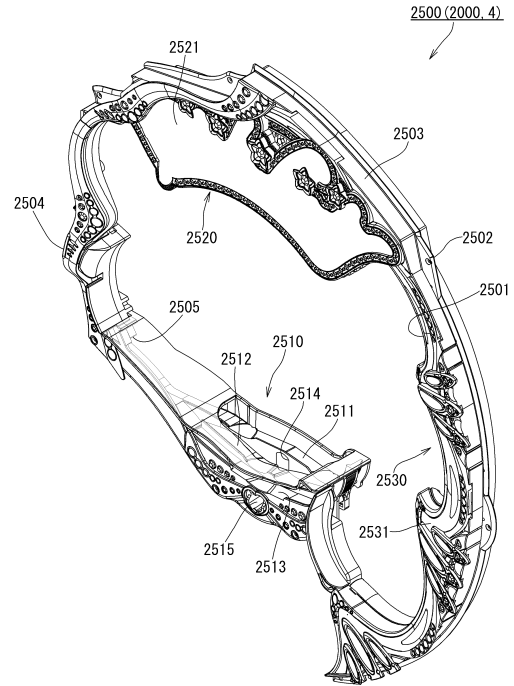
【図 1 1 9】



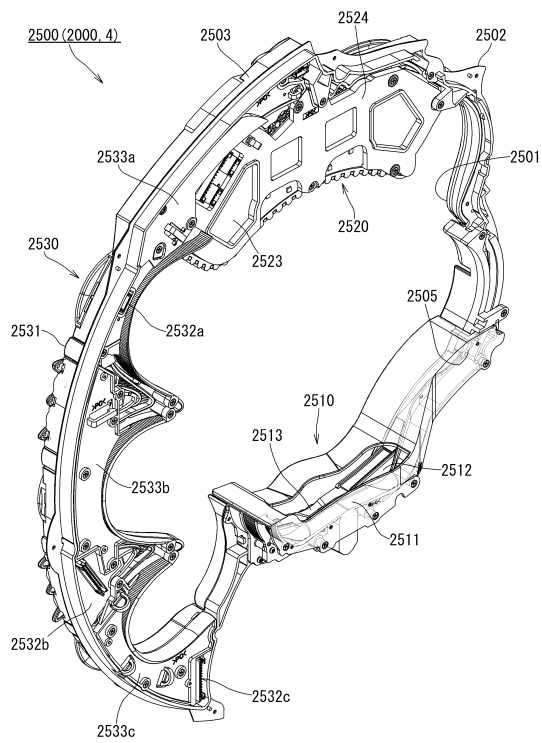
【図 1 2 0】



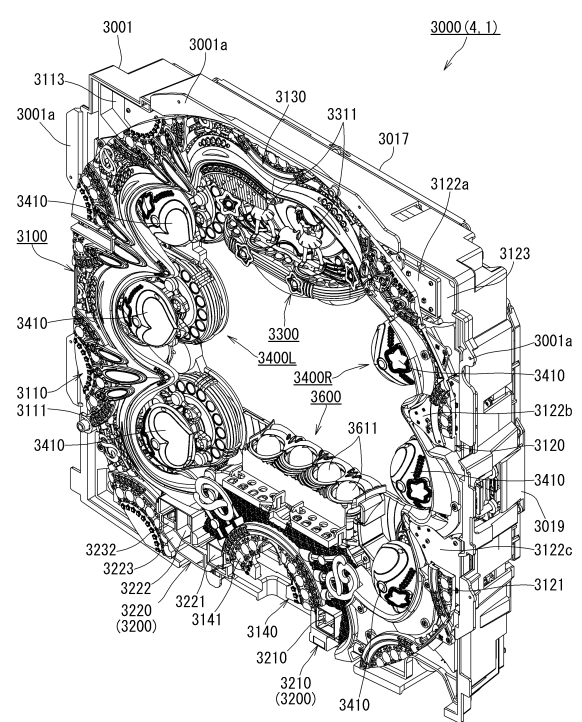
【図 1 2 1】



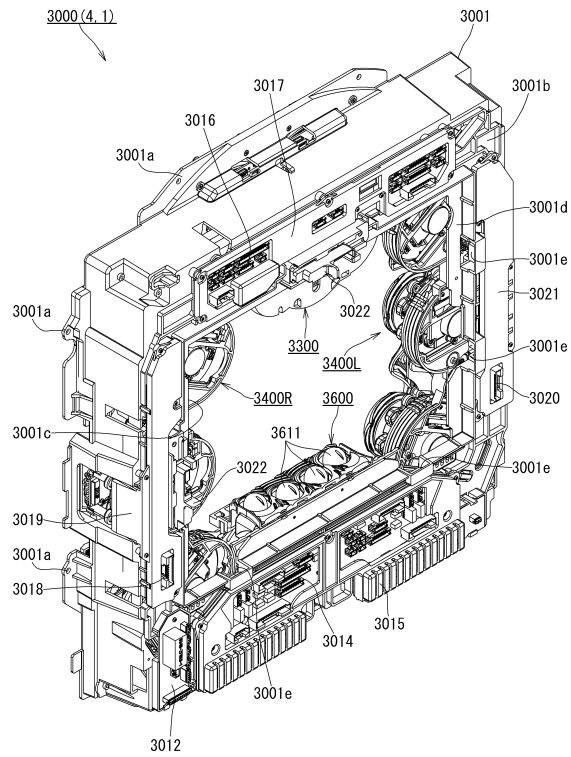
【図 1 2 2】



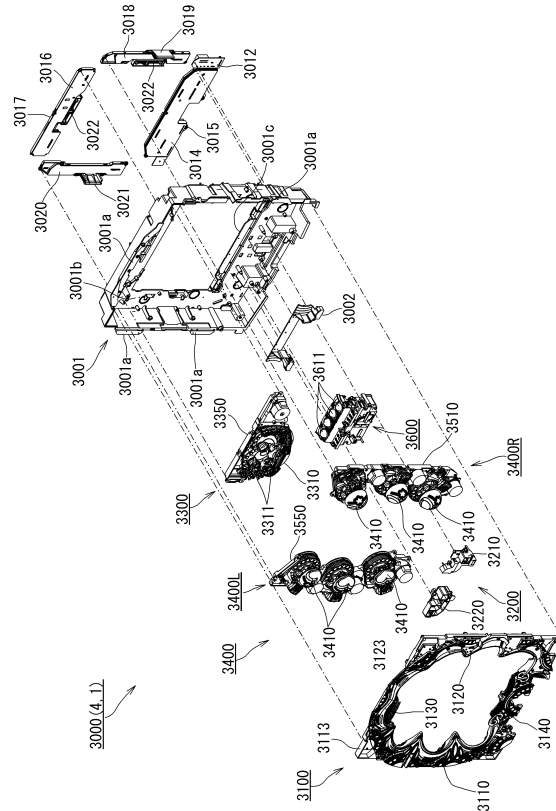
【図 1 2 3】



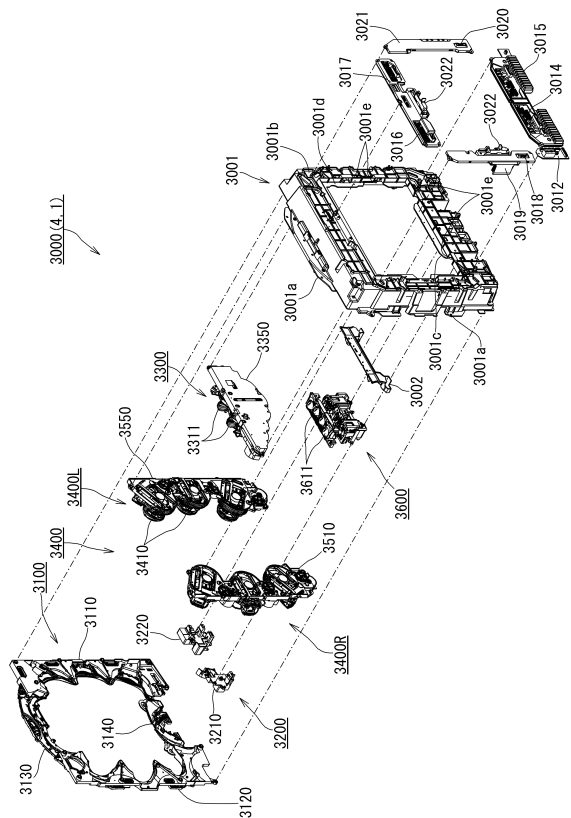
【図 1 2 4】



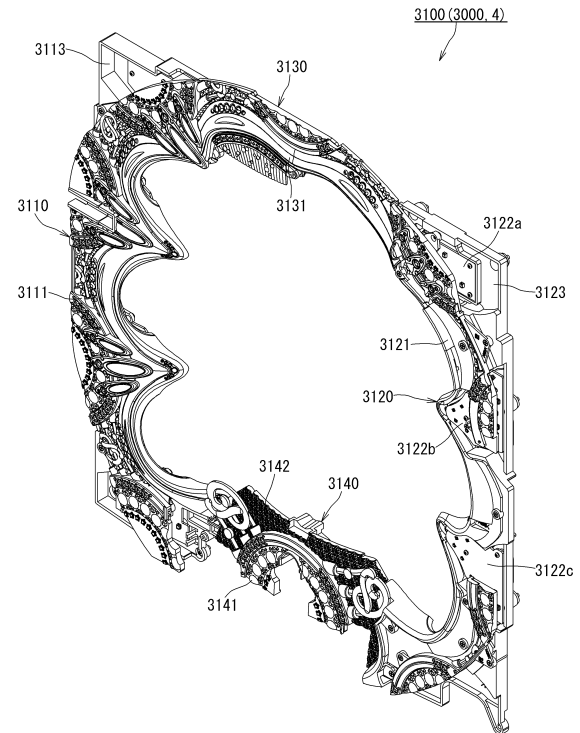
【図 1 2 5】



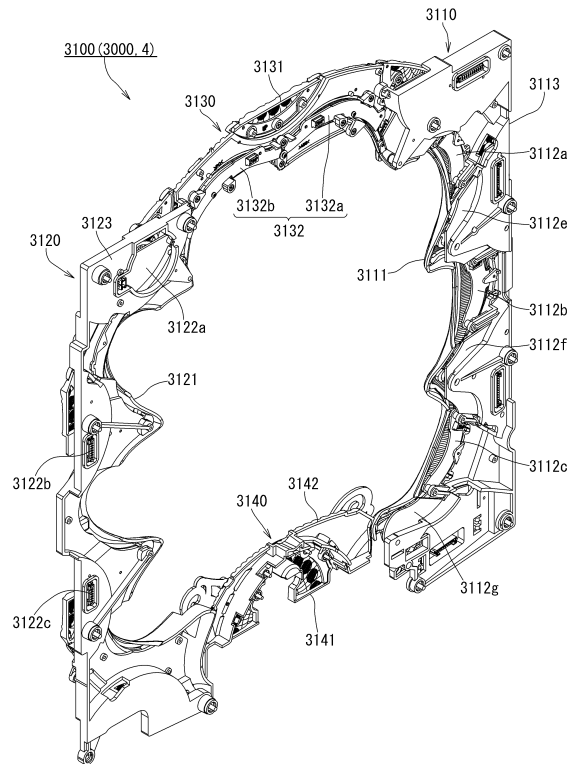
【図 1 2 6】



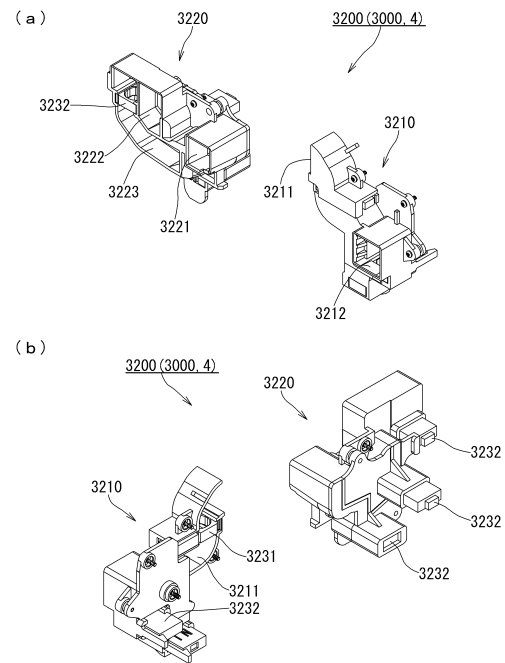
【図 1 2 7】



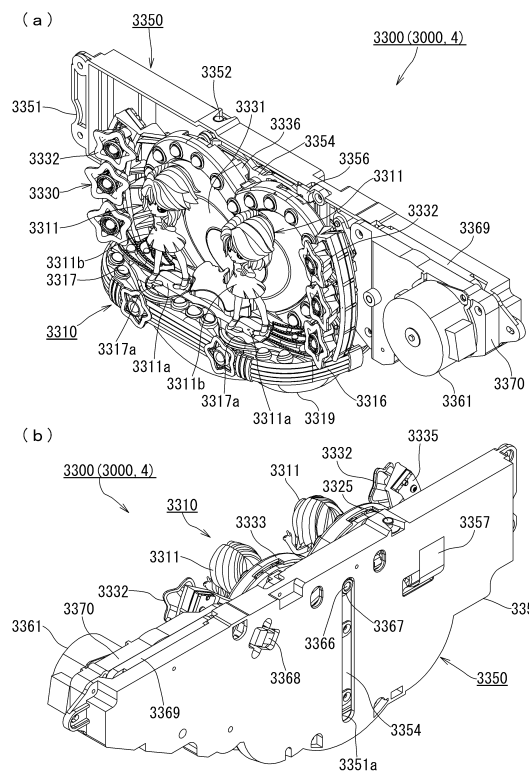
【図 1 2 8】



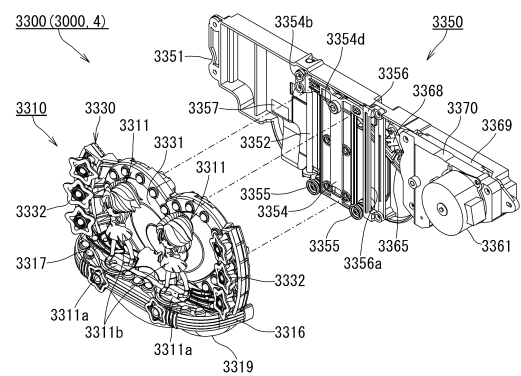
【図 1 2 9】



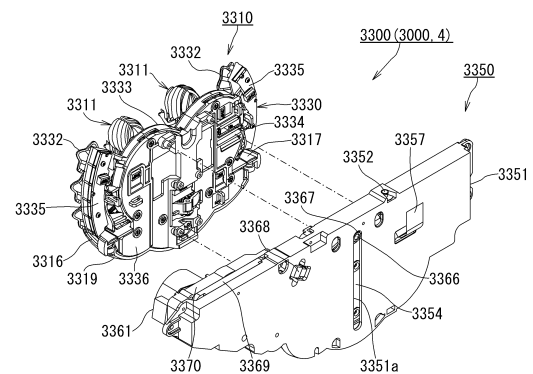
【図 1 3 0】



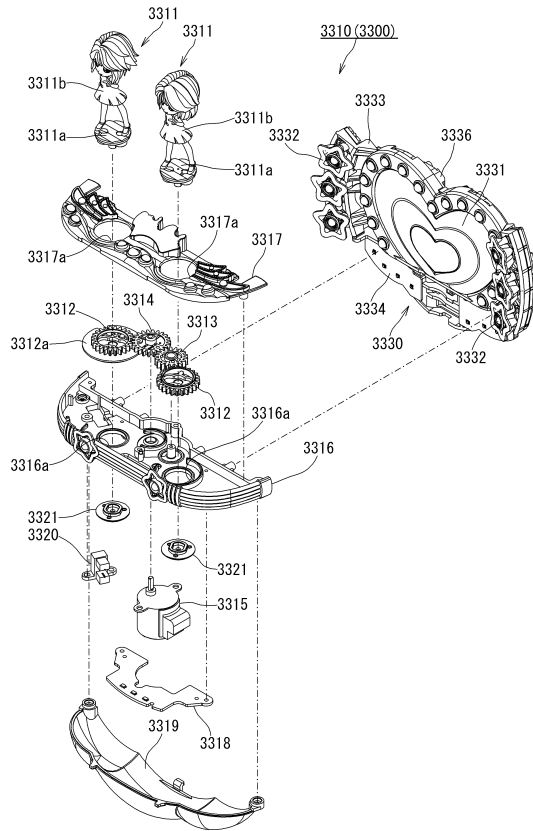
【☒ 1 3 1】



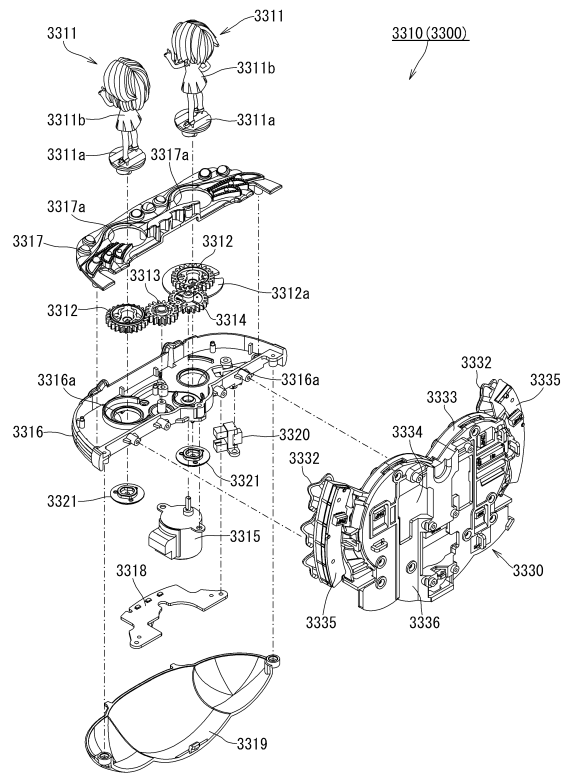
【図 1 3 2】



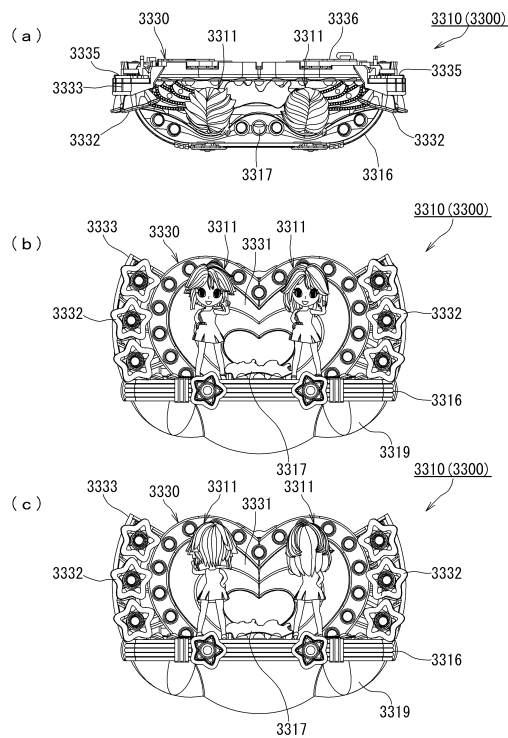
【図 133】



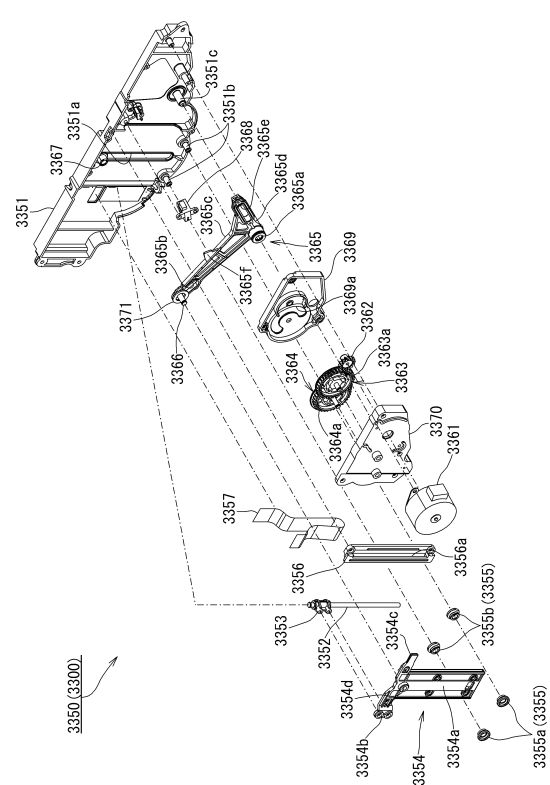
【図 134】



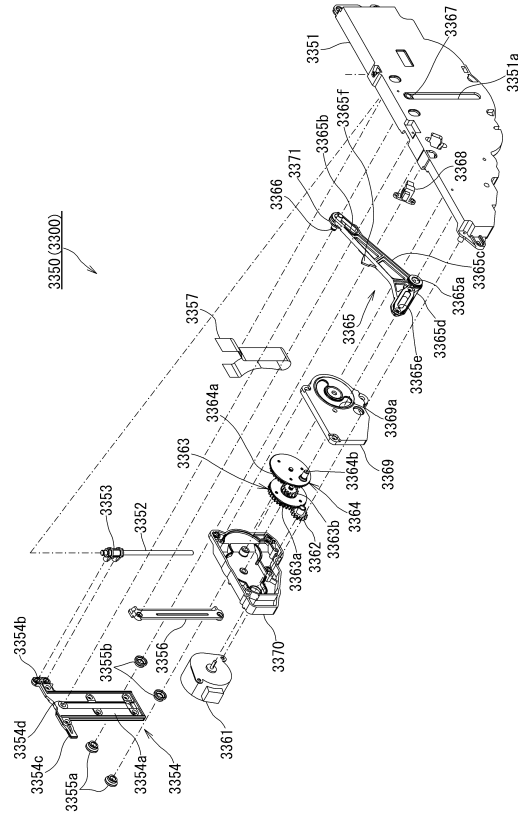
【図 135】



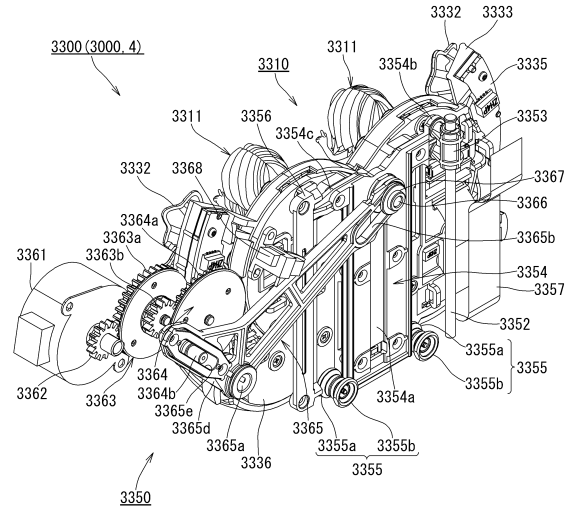
【図 136】



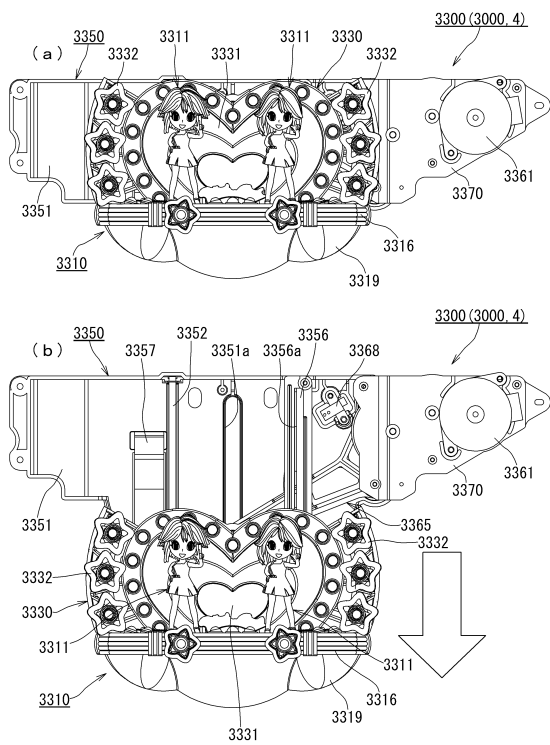
【図 137】



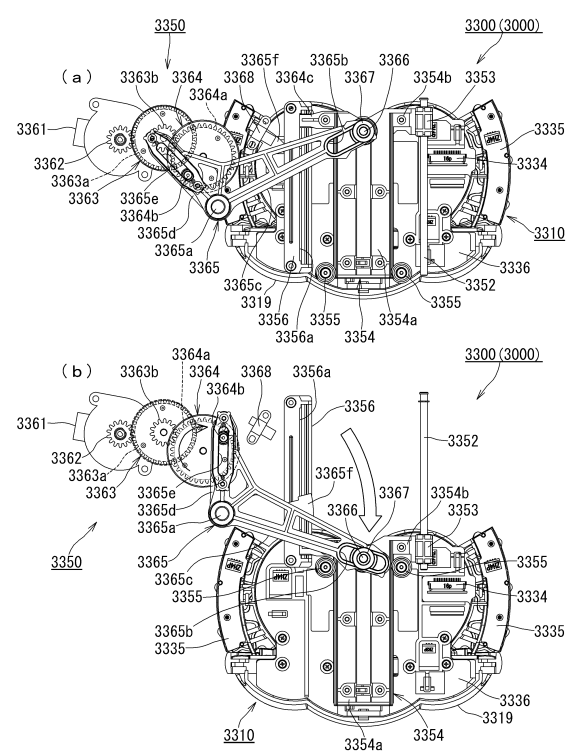
【図 138】



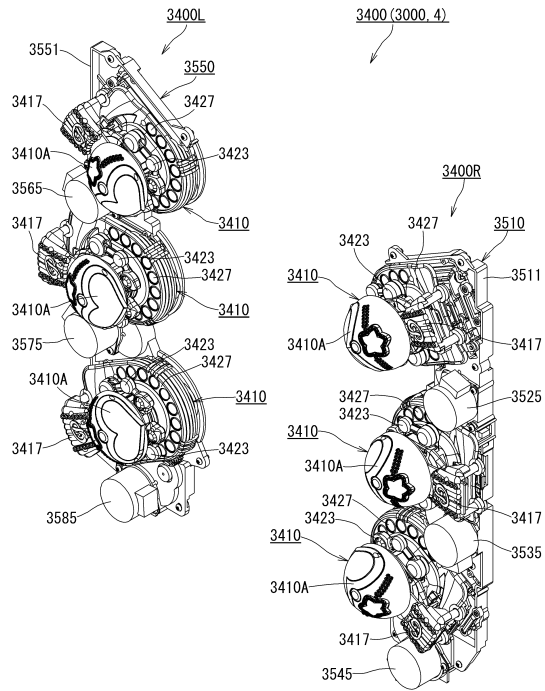
【図 139】



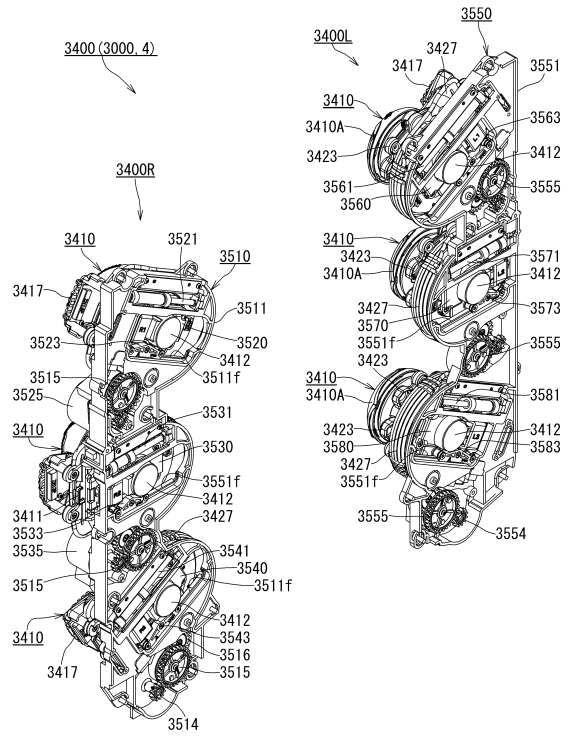
【図 140】



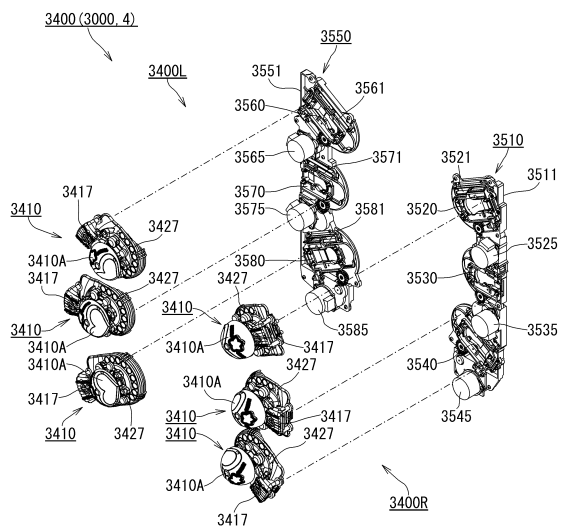
【図 1 4 1】



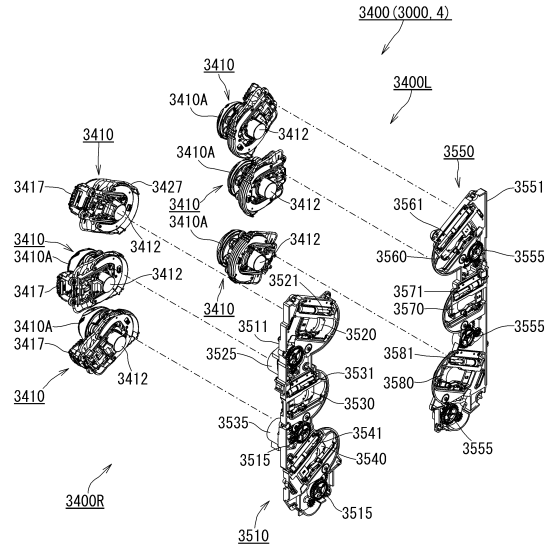
【图 1 4 2】



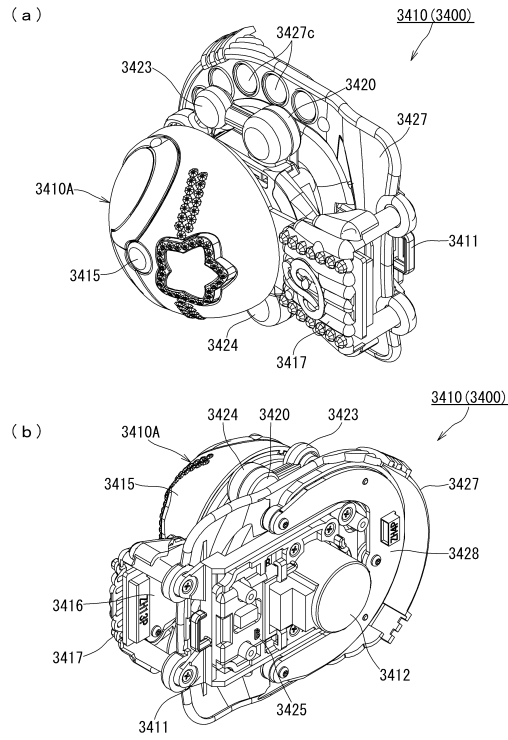
【図 1 4 3】



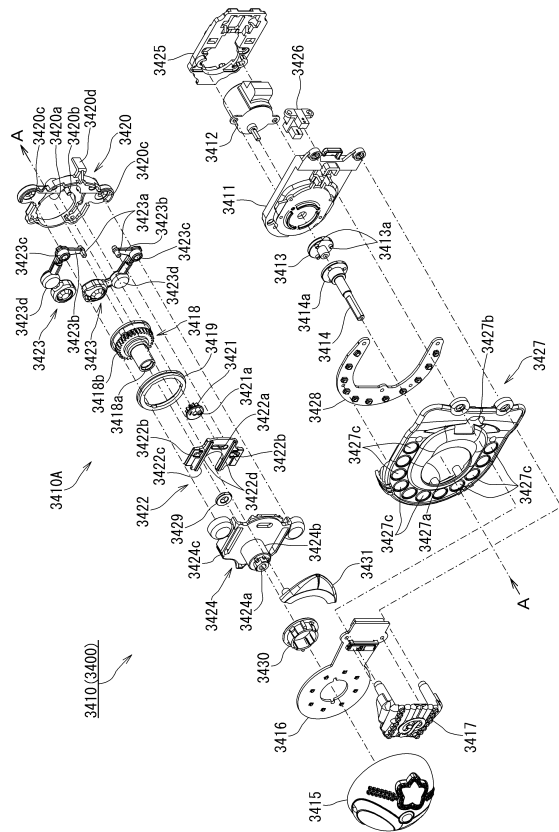
【図 1 4 4】



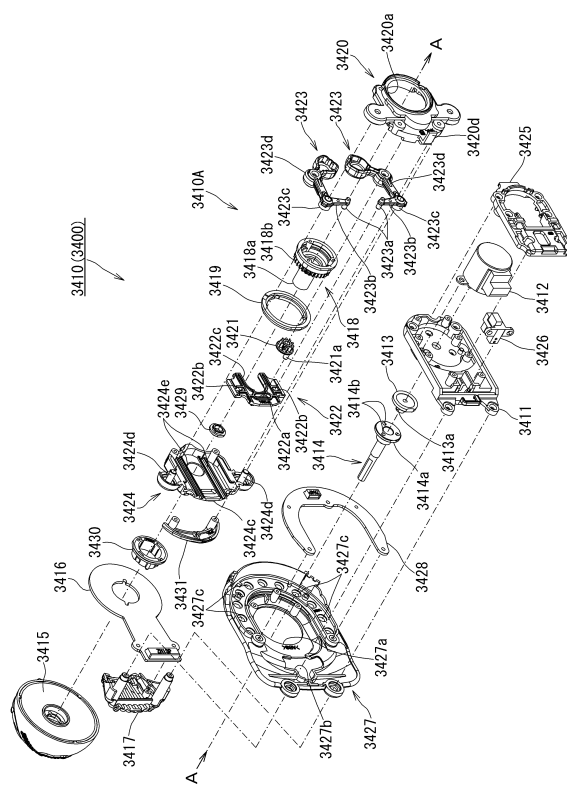
【図 145】



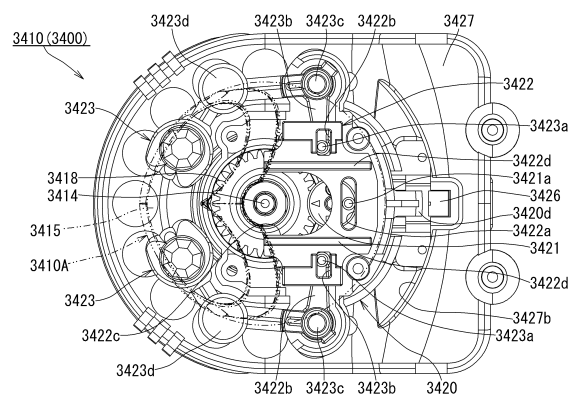
【図 146】



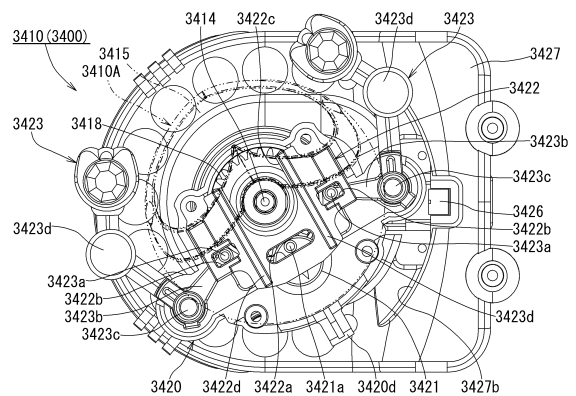
【図 147】



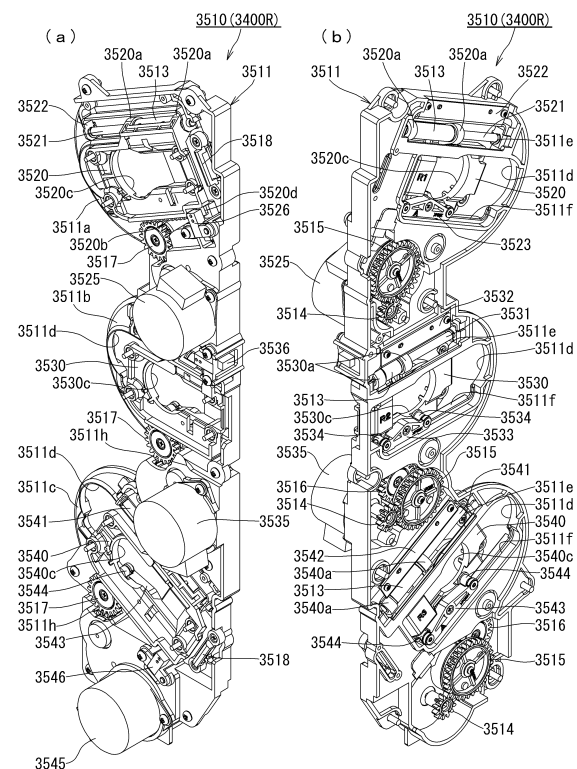
【図 148】



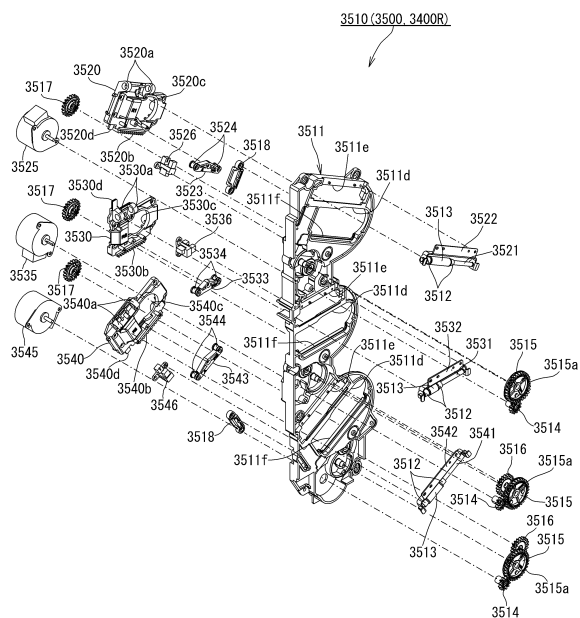
【図 149】



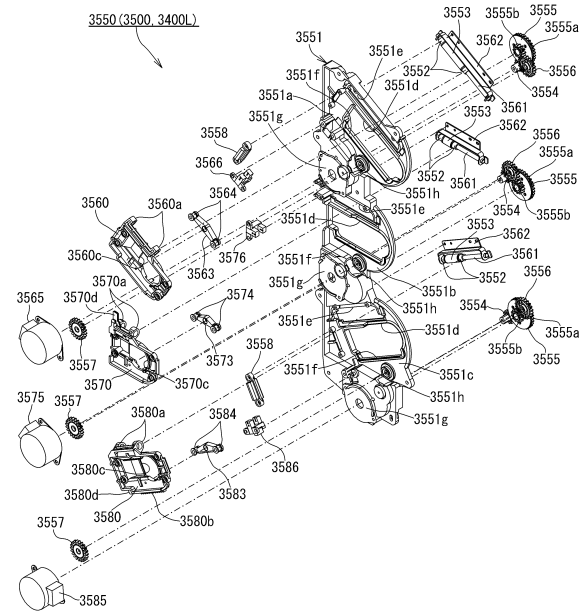
【図 1 5 1】



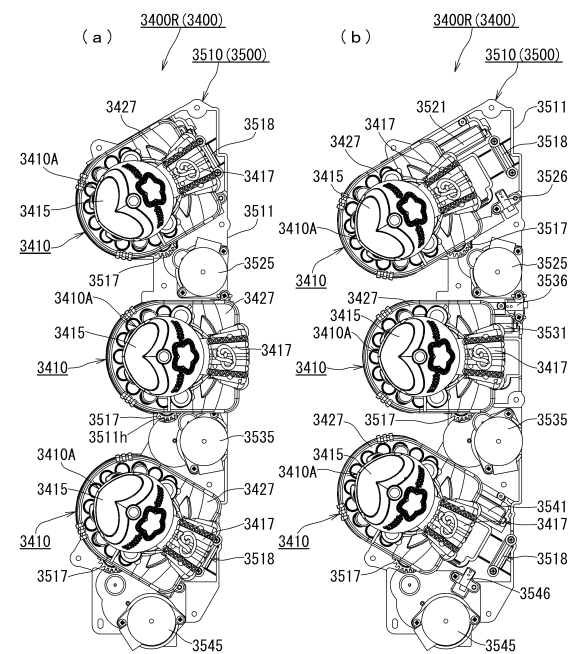
【図 1 5 3】



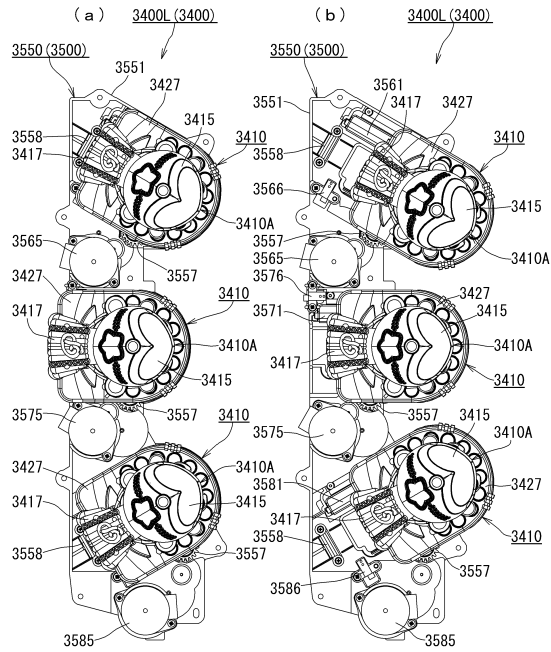
【図 1 5 5】



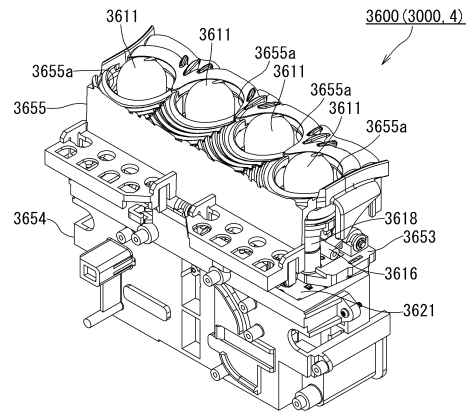
【図 1 5 7】



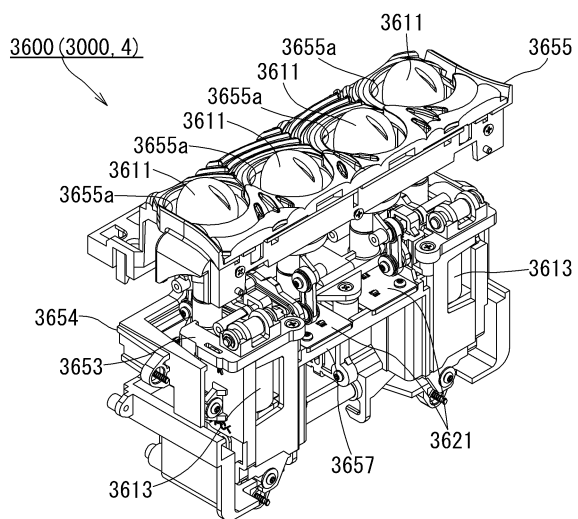
【図 158】



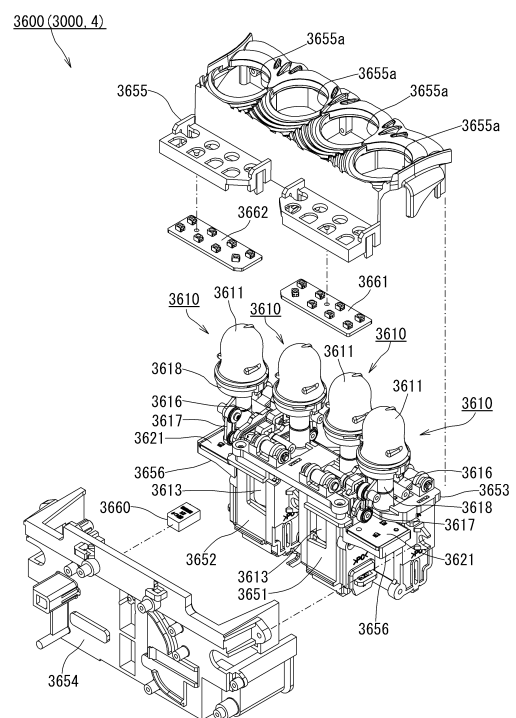
【図 159】



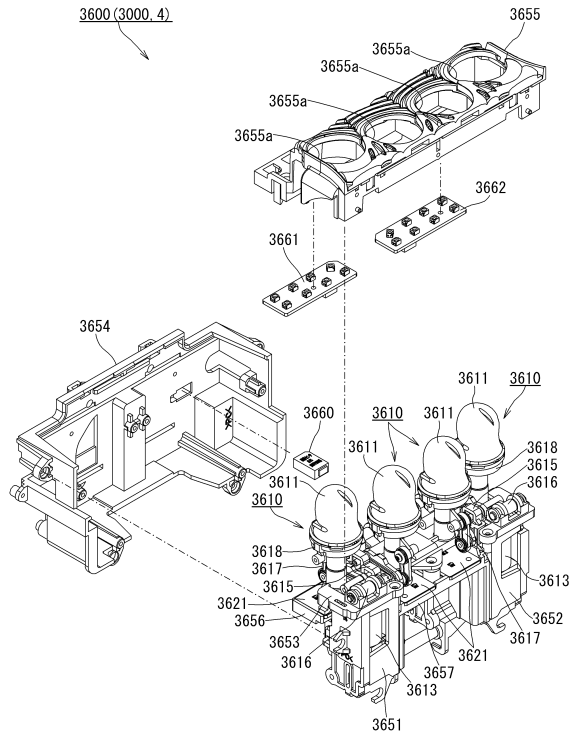
【図 160】



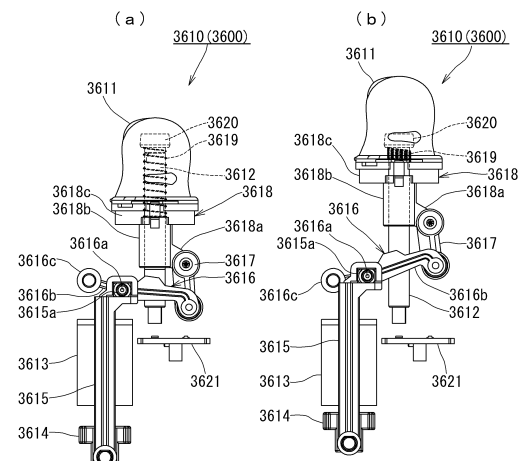
【図 161】



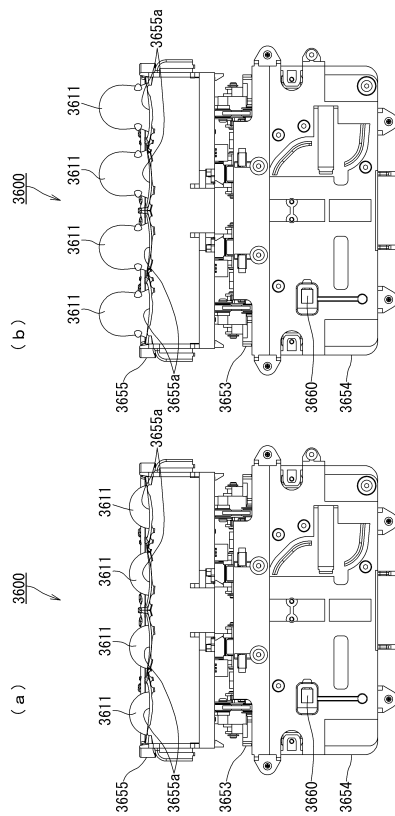
【図 162】



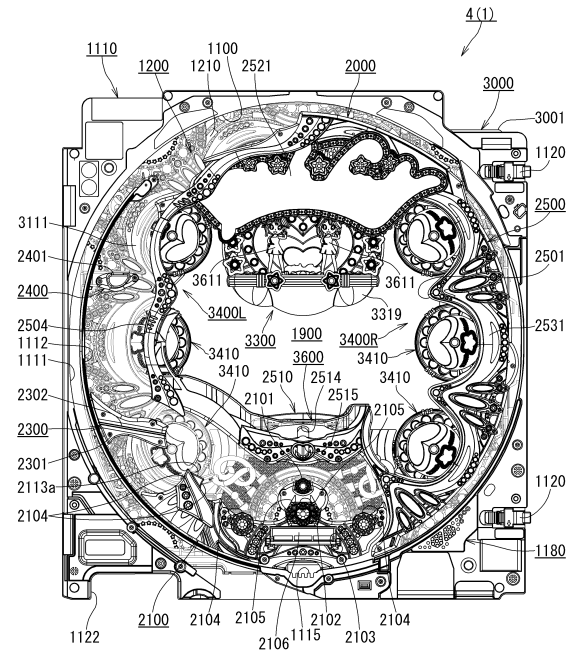
【図 163】



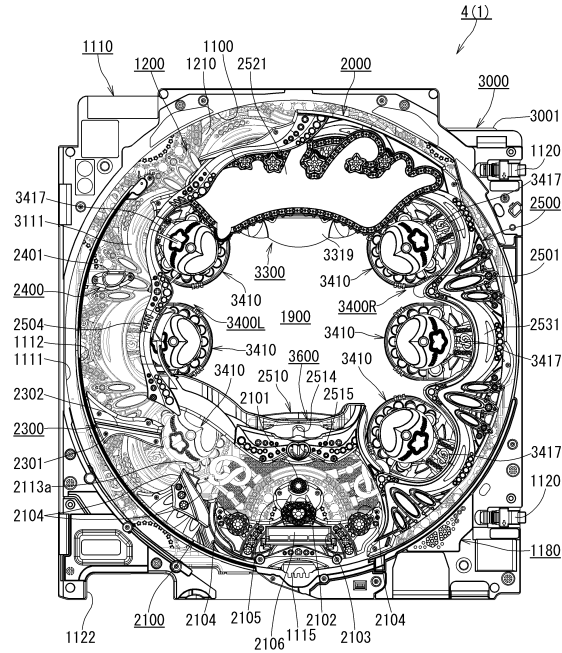
【図 164】



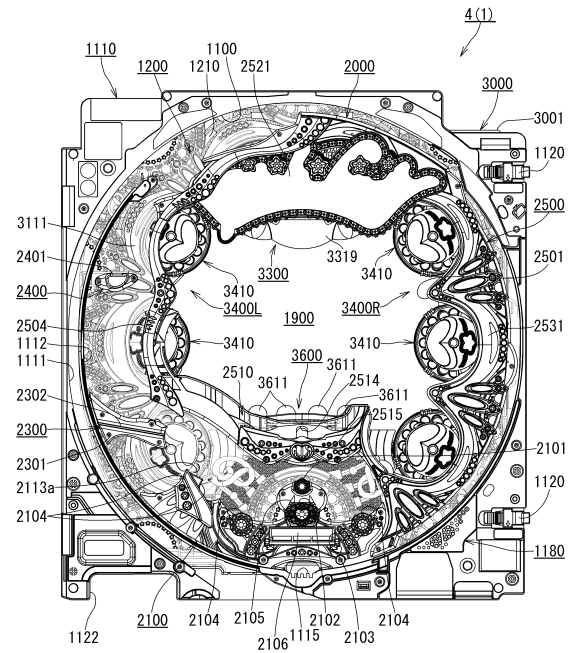
【図 165】



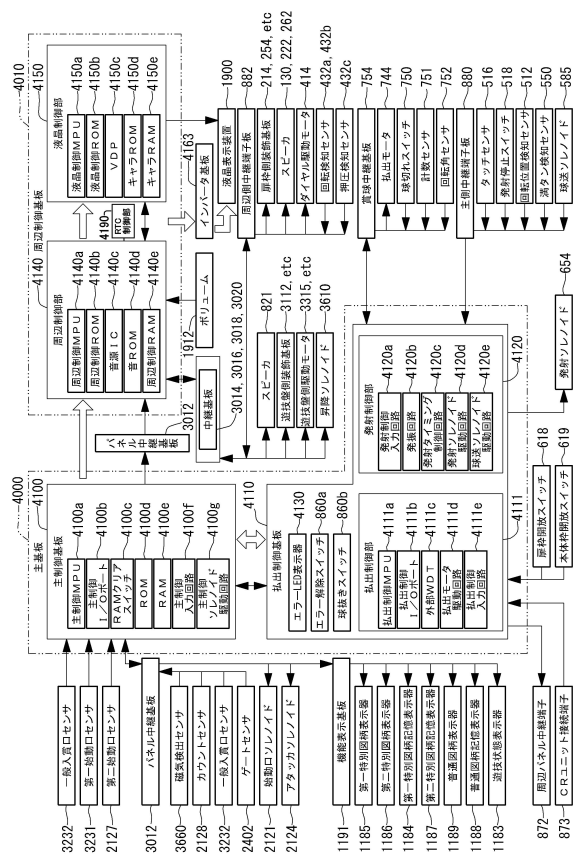
【図 1 6 6】



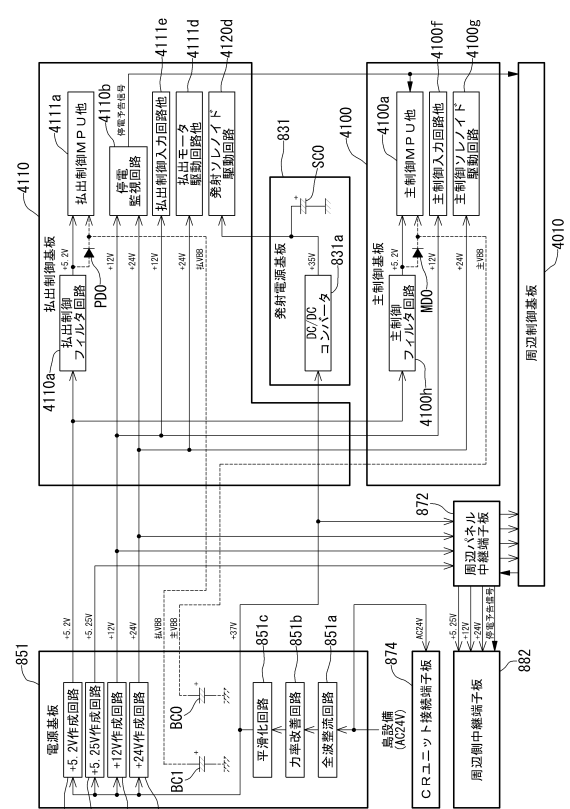
【図 1 6 7】



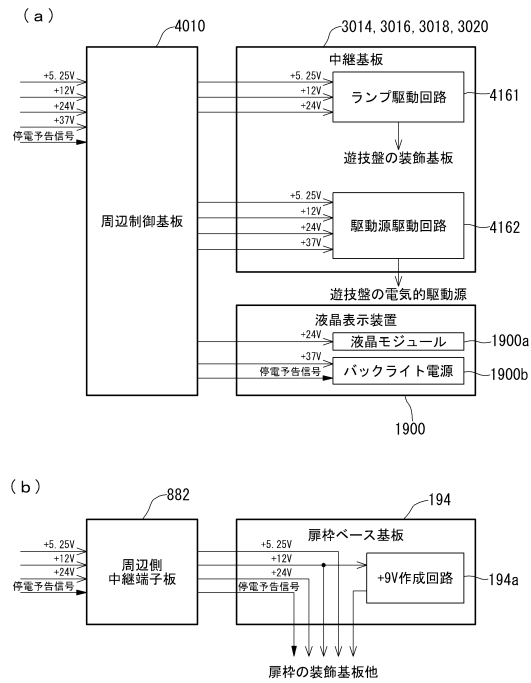
【図 1 6 8】



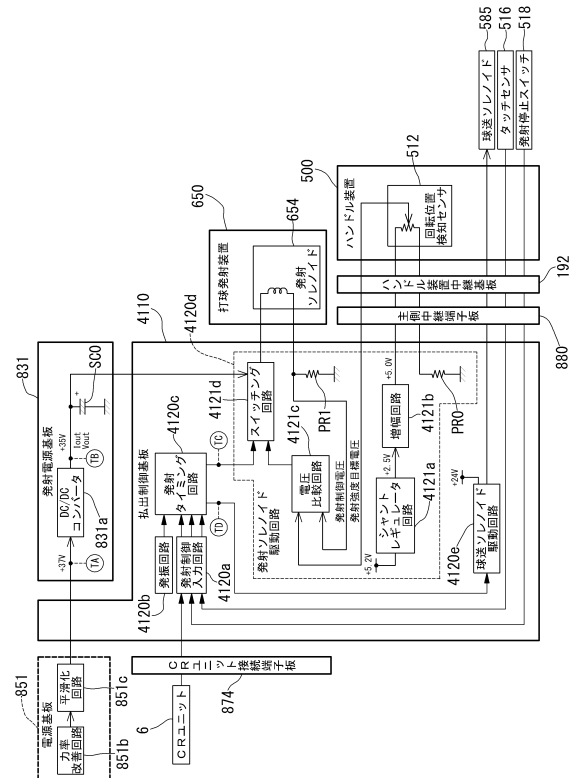
【図 1 6 9】



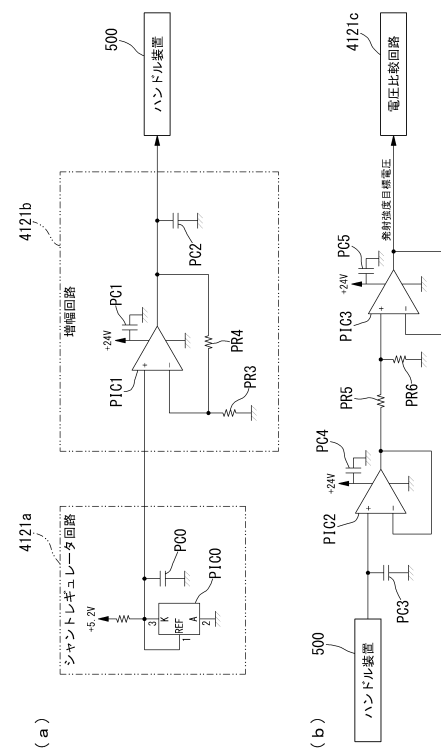
【図170】



【図171】

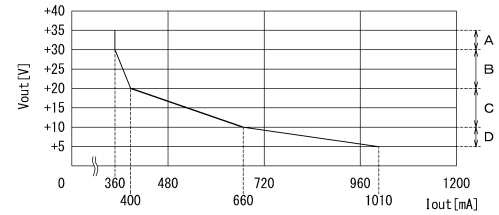


【図172】

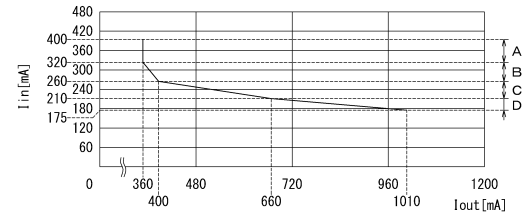


【図173】

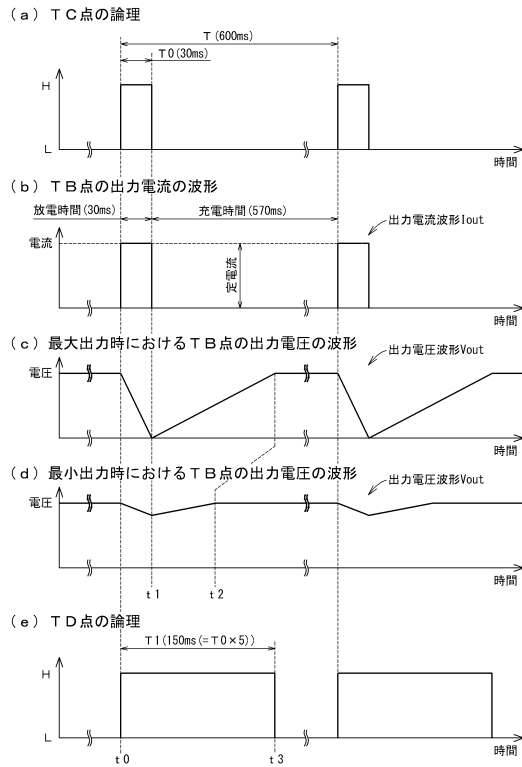
(a) TB点の出力電圧Vout及び出力電流Iout



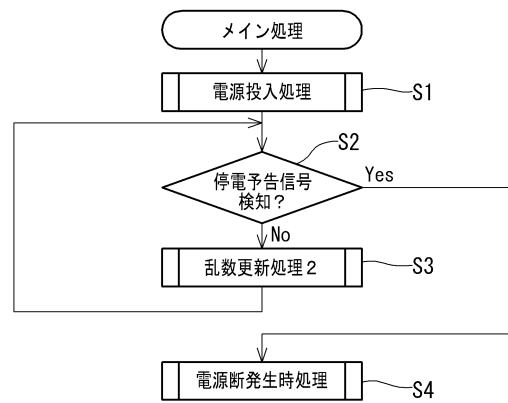
(b) TA点の入力電流Iin及びB点の出力電流Iin



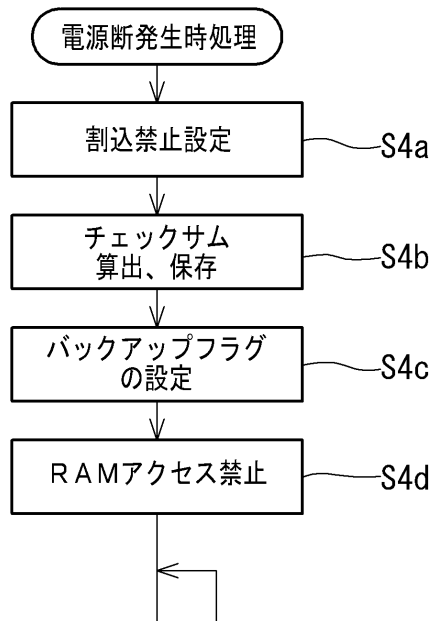
【図 174】



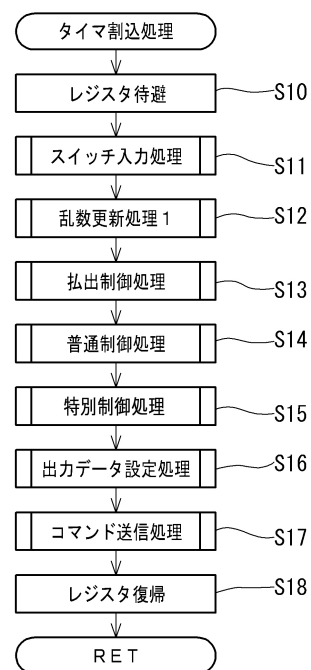
【図 175】



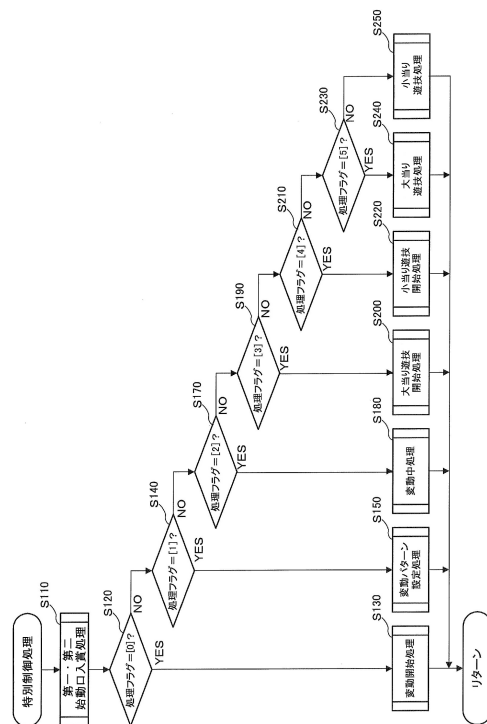
【図 176】



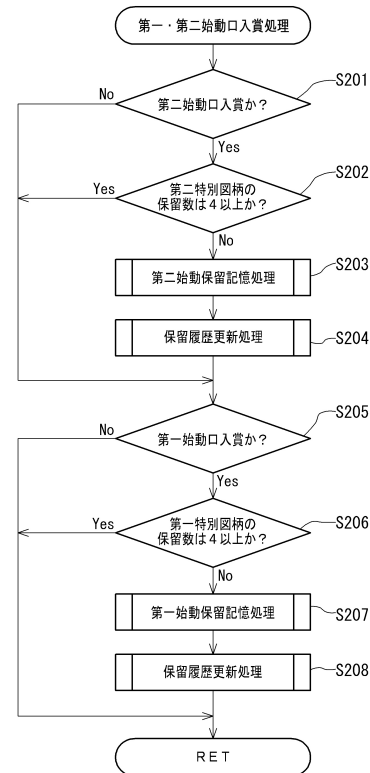
【図 177】



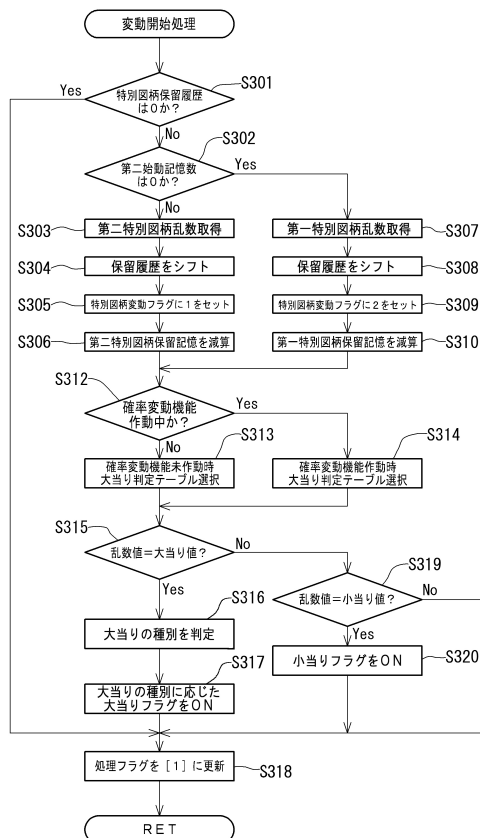
【図 178】



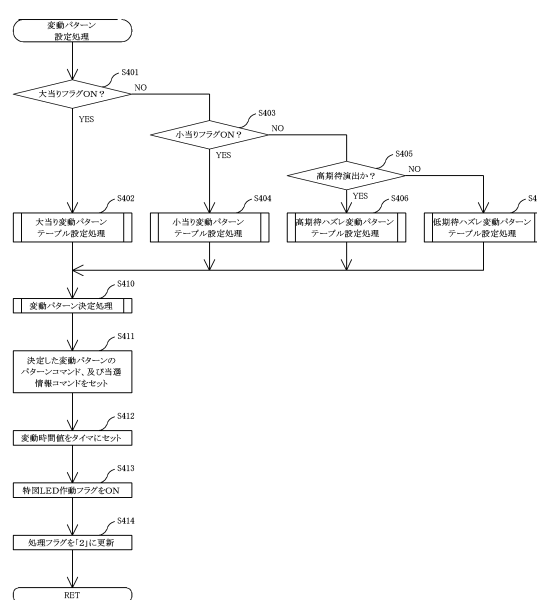
【図 179】



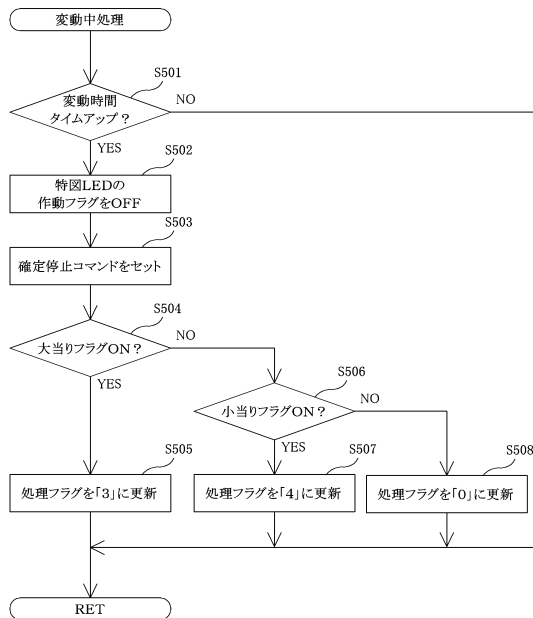
【図 180】



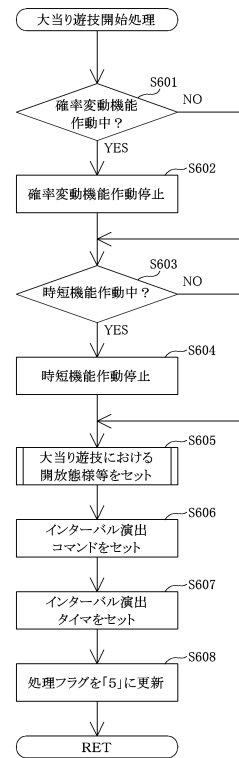
【図 181】



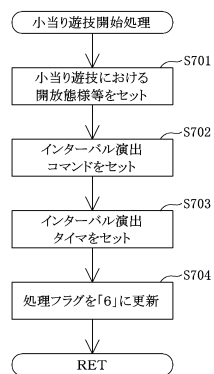
【図 182】



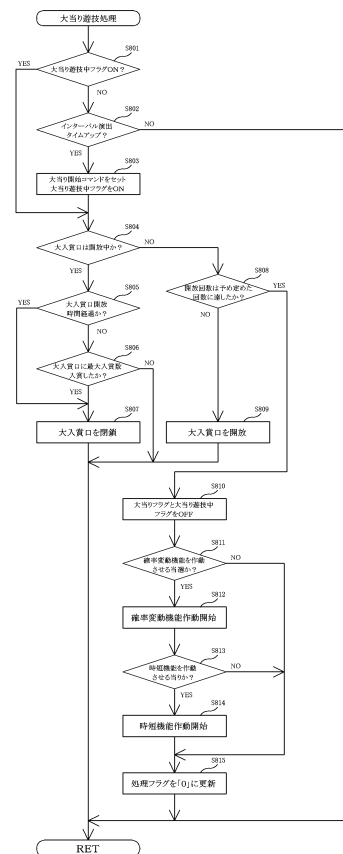
【図 183】



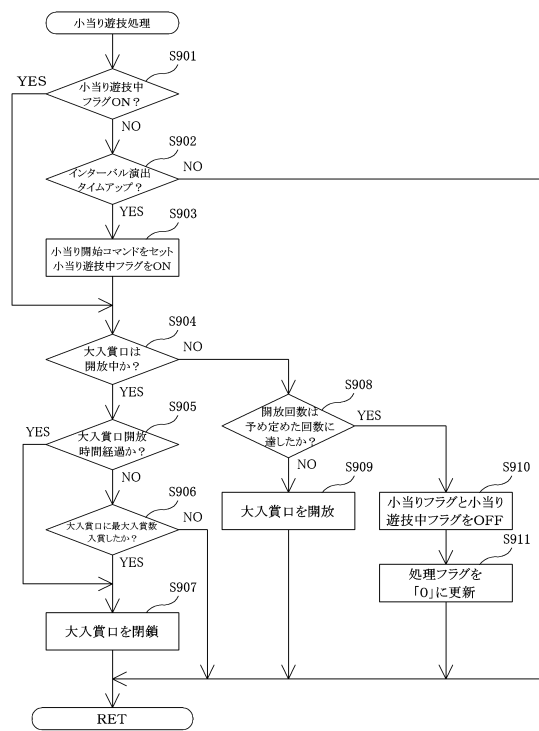
【図 184】



【図 185】

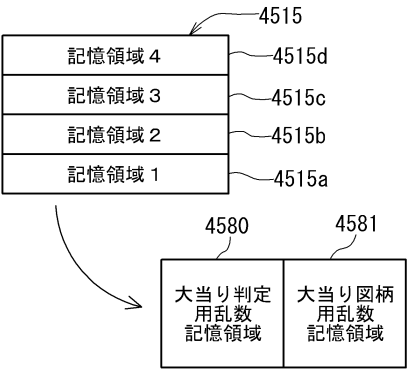


【図 1 8 6】

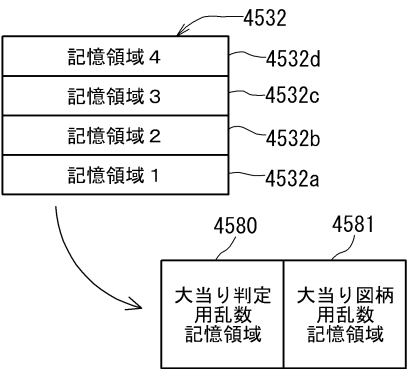


【図 1 8 7】

(a) 第一特別図柄用乱数記憶手段



(b) 第二特別図柄用乱数記憶手段



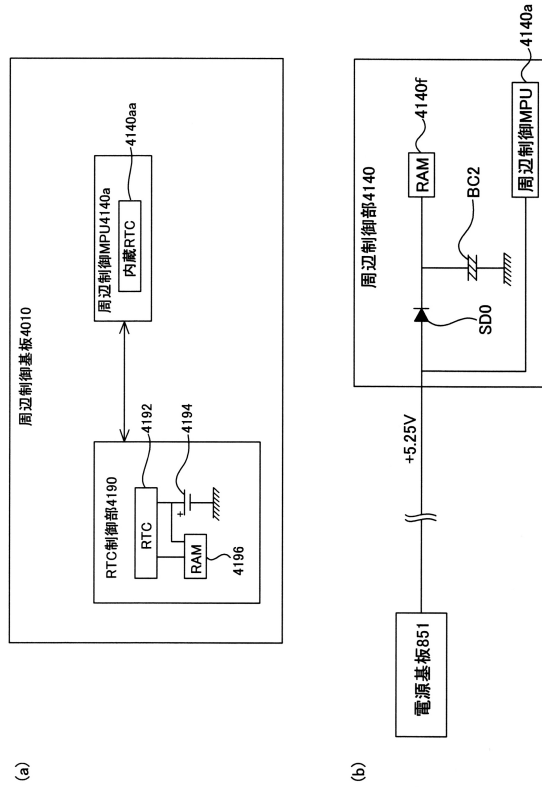
【図 1 8 8】

	出球数	通常 遊技状態	高確 遊技状態	時短 遊技状態	選択率
大当りA	大	確変機能○ 時短機能○	確変機能○ 時短機能○	確変機能○ 時短機能○	53%
大当りB	中	確変機能○ 時短機能○	確変機能○ 時短機能○	確変機能○ 時短機能○	5%
大当りC	中	確変機能○ 時短機能×	確変機能○ 時短機能×	確変機能○ 時短機能×	6%
大当りD	中	確変機能○ 時短機能×	確変機能○ 時短機能×	確変機能○ 時短機能×	18%
大当りE	中	確変機能×	確変機能×	確変機能×	18%
		時短機能×	時短機能×	時短機能×	

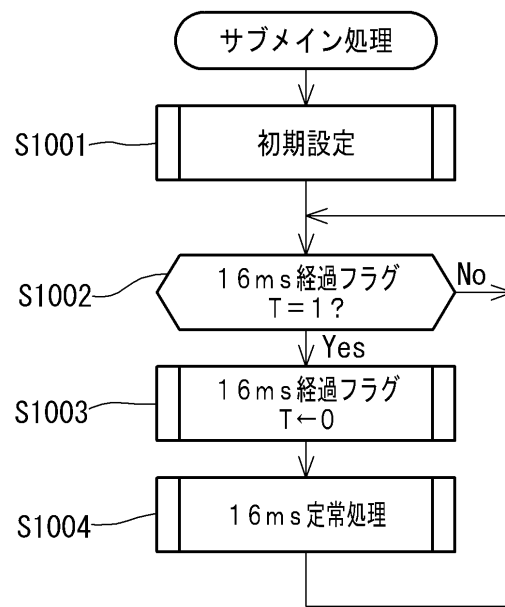
【図 1 8 9】

変動番号	コマンド	変動内容	当落	変動時間	T1	T2	T3
1	01H	表示演出a、a [〃] 大当り	○	Ta1	9		
2	02H	表示演出a、a [〃] 小当り	△	Ta2		35	
3	03H	表示演出a、a [〃] (発展なし)ハズレ	×	Ta3			40
4	04H	表示演出a (発展あり)ハズレ 若しくは、 表示演出c [〃] ハズレ	×	Ta4			17
5	05H	表示演出b、b [〃] 大当り	○	Tb1	20		
6	06H	表示演出b、b [〃] 小当り	△	Tb2		30	
7	07H	表示演出b、b [〃] (発展なし)ハズレ	×	Tb3			25
8	08H	表示演出b (発展あり)ハズレ 若しくは、 表示演出d [〃] ハズレ	×	Tb4			13
9	09H	表示演出c、c [〃] 大当り	○	Tc1	30		
10	10H	表示演出c、c [〃] 小当り	△	Tc2		30	
11	11H	表示演出c、c [〃] ハズレ	×	Tc3			3
12	12H	表示演出d、d [〃] 大当り	○	Td1	40		
13	13H	表示演出d、d [〃] 小当り	△	Td2		5	
14	14H	表示演出d、d [〃] ハズレ	×	Td3			2
15	15H	表示演出e大当り	○	Te	1		
総 数					100	100	100

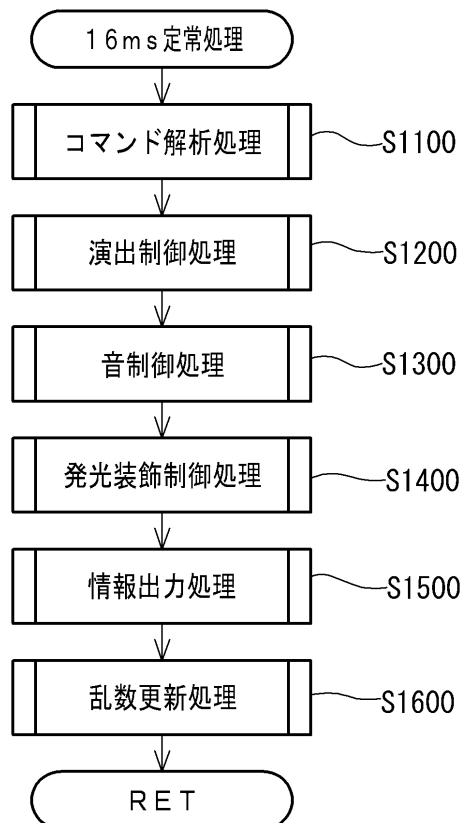
【図 190】



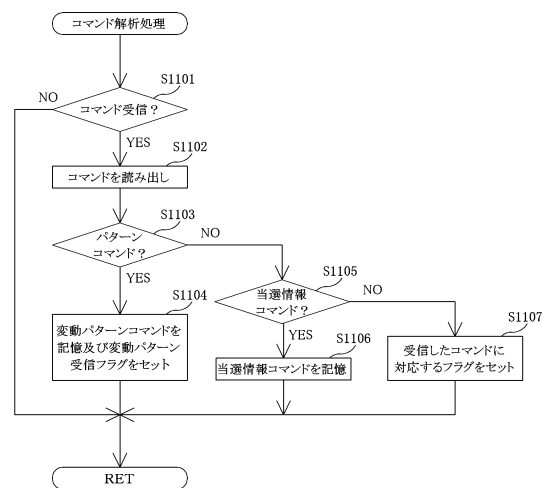
【図 191】



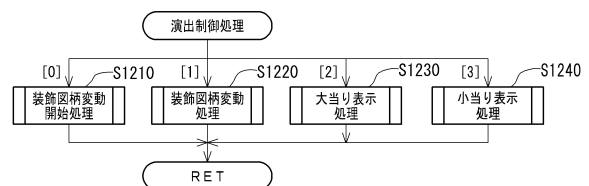
【図 192】



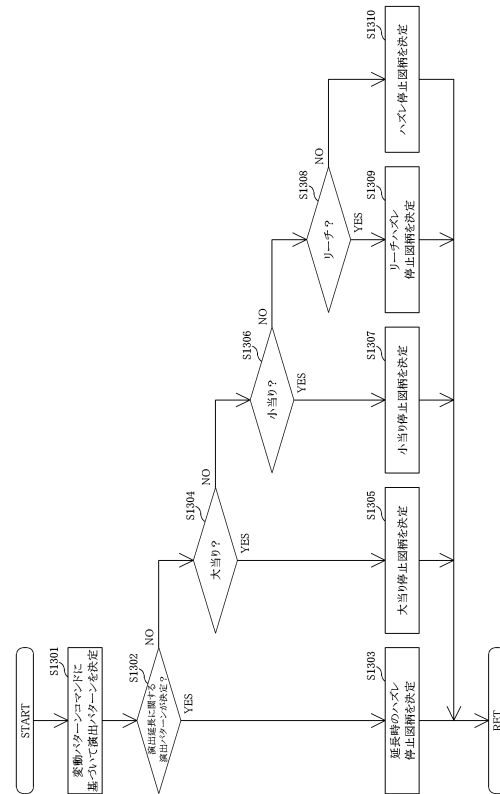
【図 193】



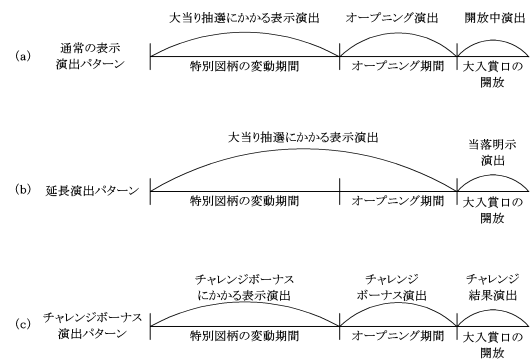
【図 194】



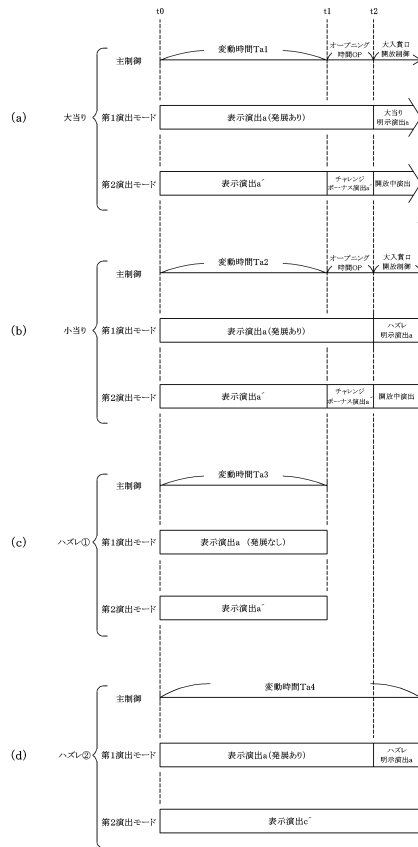
【图 196】



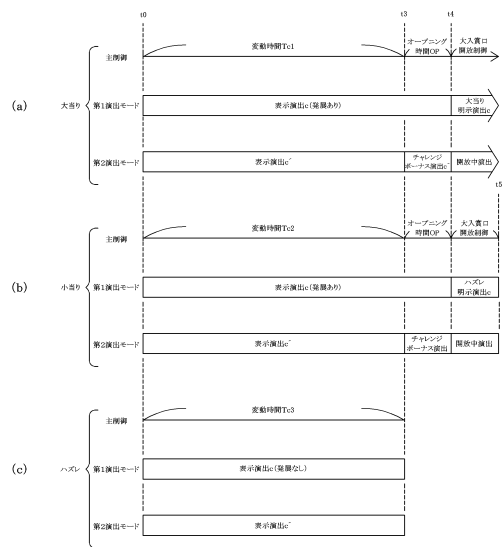
【図 198】



【図 199】



【図 2 0 0】

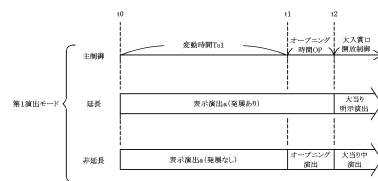


【図 2 0 1】

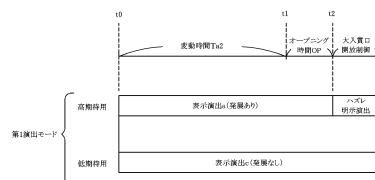
第1の演出モード			第2の演出モード			
	出現確率	当り演出が現れる 期待度	長時間 開閉パターン	中時間 開閉パターン	小時間 開閉パターン	
(a)						
演出内容a	5%	0.5%	4.2%	3.7%	92.1%	
演出内容b	3.4%	1.5%	9.6%	8.5%	81.8%	
演出内容c	0.5%	13.7%	13.3%	11.8%	75.0%	
演出内容d	0.3%	33.1%	38.5%	34.2%	27.3%	

第1の演出モード			第2の演出モード			
	出現確率	当り演出が現れる 期待度	長時間 開閉パターン	中時間 開閉パターン	小時間 開閉パターン	
(b)						
演出内容a [*]	3.6%	7.9%	2.3%	2.3%	92.1%	
演出内容b [*]	2.3%	11.8%	15.4%	14.3%	81.8%	
演出内容c [*]	2.0%	10.0%	10.0%	10.0%	75.0%	
演出内容d [*]	1.4%	10.0%	10.0%	10.0%	27.3%	

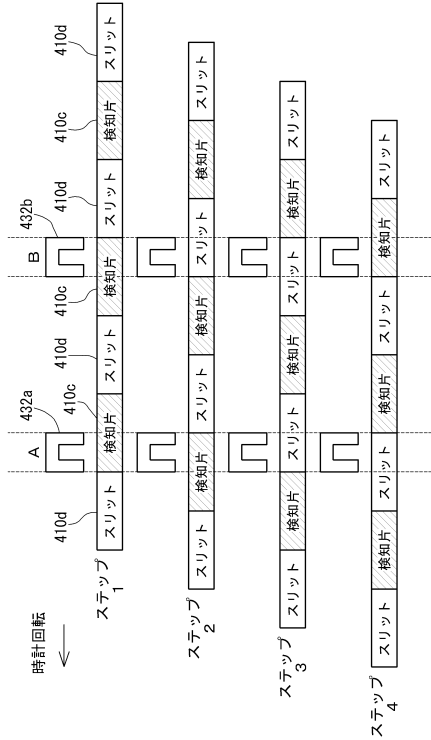
【図 2 0 2】



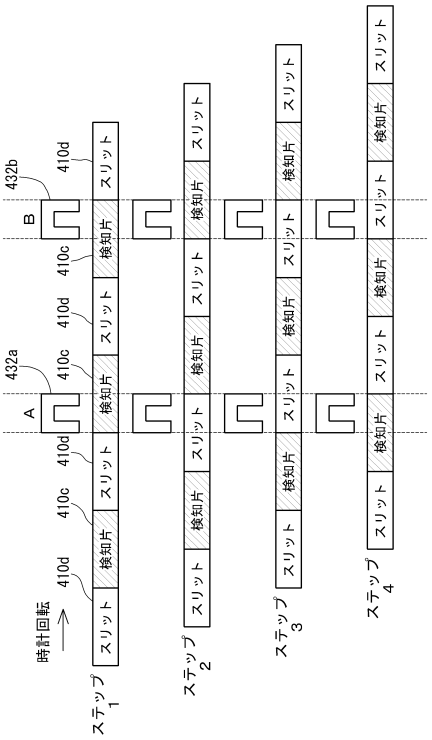
【图 2 0 3】



【図 2 0 4】



【図 2 0 5】



【図 2 0 6】

(A)

時計回転

	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ1
A	1	1	0	0	1
B	1	0	0	1	1

※ ON…「1」 OFF…「0」

(B)

反時計回転

	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ1
A	1	0	0	1	1
B	1	1	0	0	1

※ ON…「1」 OFF…「0」

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2008-142273 (JP, A)
特開2003-210688 (JP, A)
特開平10-277235 (JP, A)
特開2009-172140 (JP, A)
特開2010-069114 (JP, A)
特開2009-195569 (JP, A)
特開2004-313441 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02